

講義内容 2011

専門教育科目

法学部

経営学部

医療健康科学部

グローバル・メディア・
スタディーズ学部

講 義 内 容

法	法 B A
	政
経 営	
医 療	
G M S	

目次案内

専門教育科目

1 法学部

(1)法律学科フレックスA・法律学科フレックスB ……………(2)

(2)政治学科 ……………(6)

2 経営学部 ……………(9)

経営学科・経営学科フレックスA・市場戦略学科

経営学科フレックスB

3 医療健康科学部 ……………(15)

4 グローバル・メディア・スタディーズ学部 ……………(19)

※全学共通科目、「日本語」・「日本事情」科目、随意科目、教職課程・資格講座科目は、別冊
になっています。

1. 法 学 部

(1) 法律学科フレックス A

法律学科フレックス B

科目名	担当者名	履修コード	ページ
英米法	北野 かほる	118401	3
演習 I 演習 II	赤松 晃	125741・125742・ 327301・327302	3
演習 I 演習 II	荒木 正孝	124701・124702	4
演習 I 演習 II	荒木 正孝	327601・327602	4
演習 I 演習 II	井上 健一	123401・123402	4
演習 I 演習 II	王 志安	124801・124802	5
演習 I 演習 II	大塚 桂	133501・133502	5
演習 I 演習 II	大宮 隆	124901・124902・ 327901・327902	5
演習 I 演習 II	大山 礼子	132801・132802	6
演習 I 演習 II	奥村 公輔	125721・125722	6
演習 I 演習 II	金子 昇平	123901・123902・ 327201・327202	7
演習 I 演習 II	北野 かほる	124601・124602	7
演習 I	熊谷 芝青	125751	8
演習 I 演習 II	小堀 訓男	132101・132102	9
演習 I 演習 II	佐藤 多美夫	125001・125002	9
演習 I 演習 II	塩入 みほも	133101・133102	9
演習 I 演習 II	高橋 洋城	124501・124502	10
演習 I 演習 II	田中 優企	125711・125712・ 327701・327702	11
演習 I	田丸 大	132001	12
演習 I 演習 II	鶴井 俊吉	123801・123802	12
演習 I	富樫 景子	125761	13
演習 I 演習 II	中田 英幸	122701・122702・ 326901・326902	13
演習 I	中濱 義章	124401	13
演習 I	早川 純貴	132701	14
演習 I 演習 II	原田 啓一郎	123501・123502	14
演習 I 演習 II	原田 啓一郎	327801・327802	14
演習 I 演習 II	藤本 茂	123601・123602	15
演習 I 演習 II	藤本 茂	327101・327102	16
演習 I 演習 II	松村 格	125031・125032	17
演習 I 演習 II	松村 格	327501・327502	17
演習 I 演習 II	間瀬 清史	124301・124302	18
演習 I 演習 II	三竹 直哉	132401・132402	19
演習 I 演習 II	三船 恵美	133401・133402	19
演習 I 演習 II	柳瀬 昇	131901・131902	20
演習 I 演習 II	吉田 純平	125731・125732	20
演習 II	相田 敏彦	132201	21
演習 II	竹中 智香	124101	21

法律学科フレックス A 法律学科フレックス B

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習Ⅱ	田丸 大	132011	21
演習Ⅱ	中濱 義章	124451	22
演習Ⅱ	早川 純貴	133001	22
演習Ⅱ	向田 正巳	124001・327911	22
会社法	荒木 正孝	115301	23
会社法	荒木 正孝	323501	24
会社法	井上 健一	134411	24
外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）	北野 かほる	120401・120402	25
外書講読Ⅰ（中国書） 外書講読Ⅱ（中国書）	王 志安	120901・120902	25
外書講読Ⅰ（独書） 外書講読Ⅱ（独書）	松村 格	120701・120702	25
外書講読Ⅰ（仏書） 外書講読Ⅱ（仏書）	中野 裕二	120801・120802	26
家族法 相続法	竹中 智香	117001・117002	27
家族法	竹中 智香	326411	28
基礎演習	池田 実	121801	29
基礎演習	今尾 真	122201・122301	29
基礎演習	覚正 豊和	122601	30
基礎演習	富樫 景子	121901	30
基礎演習	富井 幸雄	121701	31
基礎演習	向田 正巳	122001	31
基礎演習	村木 保久	122401・122501	32
基礎演習	和知 恵一	122101	32
行政学	田丸 大	127001	33
行政学	田丸 大	324501	33
行政救済法	赤松 晃	326911	34
行政救済法 行政法各論	金子 昇平	116501・116502	35
行政法 行政法総論	金子 昇平	115401・115402	36
行政法	金子 昇平	323601	37
経済原論	藤原 碩宣	324401	37
経済原論	福田 慎	117501	38
経済政策	森岡 仁	119101	39
経済法	東出 浩一	325201	39
経済法	若林 亜理砂	119701	40
刑事政策	覚正 豊和	118001・323901	41
刑事訴訟法	田中 優企	116201・327001	42
刑法各論	佐藤 多美夫	324701	43
刑法各論	富樫 景子	115801	43
刑法総論	佐藤 多美夫	115101	44
刑法総論	富樫 景子	323301	45
刑法総論	松村 格	115001	46
現代企業論	百田 義治	101202	47
憲法	奥村 公輔	114601・114701・323101	48
公法入門 法学概論B	赤松 晃 富樫 景子	114511・114512	49
国際関係論	三船 恵美	128101	50
国際関係論	三船 恵美	325401	51
国際私法	笠原 俊宏	116401・325901	52
国際紛争解決法	王 志安	116601	53
国際法	王 志安	115501・323401	54
債権各論	熊谷 芝青	118701・324801	55

法律学科フレックス A 法律学科フレックス B

科目名	担当者名	履修コード	ページ
債権総論	中田 英幸	115701・325001	56
財政学	塚本 正文	119001	56
財政学	速水 昇	333301	57
裁判法	間瀬 清史	116001	58
裁判法	吉田 純平	323701	58
実務演習Ⅰ	中野 辰久	121411	59
実務演習Ⅱ	鶴井 俊吉 上野 雅祥 小林 覚 杉山 真一	121511	59
実務演習Ⅲ	木村 美隆	121521	60
私法入門 法学概論B	井上 健一	114531・114532	60
社会政策	原田 啓一郎	119201	60
社会保障法	原田 啓一郎	116301・325301	61
消費者法	向田 正巳	120101	61
商法総則・商行為法	水島 治	117101	62
商法総則・商行為法	水島 治	325501	63
新入生演習	金子 昇平 熊谷 芝青 奥村 公輔 間瀬 清史 井上 健一 荒木 正孝 原田 啓一郎 吉田 純平 大宮 隆 高橋 洋城 竹中 智香 中濱 義章 松村 格 赤松 晃 田中 優企 藤本 茂	121611・121621・ 121631・121641・ 121651・121661・ 121671・121681	64
新入生演習	向田 正巳 佐藤 多美夫 王 志安 富樫 景子 鶴井 俊吉 中田 英幸 北野 かほる	327011・327021・ 327031	65
政治学原論	大塚 桂	117301	66
政治学原論	大塚 桂	324301	67
政治史	村井 良太	117401	68
税法	赤松 晃	118901・325801	69
西洋法制史	北野 かほる	117901・324101	70
担保物権法	鶴井 俊吉	116701	71
担保物権法	山田 創一	326301	72
知的財産権法	角田 政芳	119601・325701	73
地方自治法	富井 幸雄	127501・326001	74
登記法	田沼 浩	118801	74

法律学科フレックス A 法律学科フレックス B

科目名	担当者名	履修コード	ページ
倒産処理法	鈴木 貴博	119501・326801	75
独法	中田 英幸	118501	75
日本法制史	末澤 国彦	117801	76
比較憲法	柳瀬 昇	117701	77
物権法	今尾 真	324601	78
物権法	鶴井 俊吉	115601	78
仏法	上井 長久	118601	79
法学概論 法学概論 A	北野 かほる 高橋 洋城	114411・114412・ 114421・114422・ 323031	80
法思想史	高橋 洋城	117601・324201	81
法社会学	佐藤 憲一	118201	82
法哲学	高橋 洋城	119401	83
法律学特殊講義 [金融商品取引法]	萬澤 陽子	120211	84
法律時事英語	井上 健一	118101	84
保険・海商法	井上 健一	116901・326501	85
民事執行・保全法	吉田 純平	119301・326701	85
民事訴訟法	間瀬 清史	116101・326601	86
民法総則	大宮 隆	323201	86
民法総則	熊谷 芝青	114901	87
民法総則	向田 正巳	114801	87
有価証券法	中濱 義章	115901・324901	88
労働法	藤本 茂	116801	89
労働法	藤本 茂	325101	91
会計学総論	休講	307101	
環境法	休講	120301・325601	
経営学総論	休講	307601	
経済政策	休講	307201	
日本法制史	休講	324001	
簿記論	休講	307901	

(2) 政治学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
アラブ・イスラム政治論	中島 勇	129501	95
英米法	北野 かほる	118401	95
演習Ⅰ 演習Ⅱ	井上 健一	123401・123402	95
演習Ⅰ 演習Ⅱ	内海 麻利	132601・132602	96
演習Ⅰ	浦田 早苗	131701	96
演習Ⅰ 演習Ⅱ	王 志安	124801・124802	96
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大塚 桂	133501・133502	97
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大山 礼子	132801・132802	97
演習Ⅰ 演習Ⅱ	北野 かほる	124601・124602	97
演習Ⅰ 演習Ⅱ	小堀 訓男	132101・132102	98
演習Ⅰ 演習Ⅱ	佐藤 多美夫	125001・125002	98
演習Ⅰ 演習Ⅱ	塩入 みほも	133101・133102	98
演習Ⅰ 演習Ⅱ	高橋 洋城	124501・124502	99
演習Ⅰ	田丸 大	132001	100
演習Ⅰ	富崎 隆	132501	100
演習Ⅰ 演習Ⅱ	中野 裕二	132301・132302	101
演習Ⅰ	早川 純貴	132701	101
演習Ⅰ 演習Ⅱ	原田 啓一郎	123501・123502	101
演習Ⅰ 演習Ⅱ	藤本 茂	123601・123602	102
演習Ⅰ 演習Ⅱ	松村 格	125031・125032	103
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三竹 直哉	132401・132402	103
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三船 恵美	133401・133402	104
演習Ⅰ 演習Ⅱ	村井 良太	131801・131802	104
演習Ⅰ 演習Ⅱ	柳瀬 昇	131901・131902	105
演習Ⅰ 演習Ⅱ	山崎 望	132211・132212	106
演習Ⅱ	相田 敏彦	132201	106
演習Ⅱ	浦田 早苗	132511	107
演習Ⅱ	田丸 大	132011	107
演習Ⅱ	富崎 隆	133051	107
演習Ⅱ	早川 純貴	133001	108
外交史	村井 良太	133601	108
会社法	井上 健一	134411	109
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	相田 敏彦	130701・130702	109
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	大山 礼子	130601・130602	109
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	三竹 直哉	130501・130502	110
外書講読Ⅰ(中国書) 外書講読Ⅱ(中国書)	王 志安	120901・120902	110
外書講読Ⅰ(独書) 外書講読Ⅱ(独書)	松村 格	120701・120702	111
外書講読Ⅰ(仏書) 外書講読Ⅱ(仏書)	中野 裕二	120801・120802	111
環境政策	横田 匡紀	127301	112
基礎演習	相田 敏彦	131401	113
基礎演習	内海 麻利	131201	113
基礎演習	浦田 早苗	131611	113
基礎演習	大山 礼子	131621	114
基礎演習	塩入 みほも	131001	114
基礎演習	田丸 大	131631	114
基礎演習	富崎 隆	131501	115
基礎演習	中野 裕二	131301	115
基礎演習	早川 純貴	130801	116

科目名	担当者名	履修コード	ページ
基礎演習	三竹 直哉	130901	116
基礎演習	三船 恵美	131651	117
基礎演習	村井 良太	131641	117
基礎演習	山崎 望	131601	118
行政学	田丸 大	127001	118
行政法各論	塩人 みほも	127401	119
行政法総論	塩人 みほも	127201	120
経済原論	福田 慎	117501	121
経済政策	森岡 仁	119101	122
経済法	若林 亜理紗	119701	122
刑事政策	覚正 豊和	118001	123
刑法各論	富樫 景子	115801	124
刑法総論	佐藤 多美夫	127901	125
現代企業論	百田 義治	101202	126
現代国家論	大塚 桂	133801	126
現代政治理論	山崎 望	126401	127
憲法	柳瀬 昇	126101	128
工業政策	奥山 雅之	093601	129
交通論	金 兎牽	096401	130
国際関係論	三船 恵美	128101	131
国際経済論	徳永 俊明	091202	132
国際政治学	三船 恵美	126601	133
国際紛争解決法	王 志安	116601	134
国際法	橋本 靖明	128001	135
国家安全保障論	山下 愛仁	133701	135
財政学	塚本 正文	119001	136
時事英語講座	横山 滋	133651	136
実務者講座	田丸 大	133681	137
社会学原理	呉 炳三	133901	137
社会政策	原田 啓一郎	119201	138
社会保障法	原田 啓一郎	116301	138
商業政策	番場 博之	091701	138
数量政治学	富崎 隆	130101	139
政策決定論	井上 拓也	127701	140
政治学概論	浦田 早苗 早川 純貴	125901	140
政治学概論	中野 裕二 三竹 直哉	126011	141
政治学概論	早川 純貴 浦田 早苗	126001	143
政治学原論	大塚 桂	126201	144
政治学特殊講義 (1)	浦田 早苗	134101	145
政治学特殊講義 (2)	山崎 望	134201	145
政治学特殊講義 (3)	早川 純貴	134301	145
政治学特殊講義 (4)	内海 麻利	134401	146
政治過程論	早川 純貴	126801	146
政治経済学	白鳥 浩	130301	147
政治思想史	大塚 桂	127101	148
政治社会学	中野 裕二	129701	149
政治心理学	富崎 隆	129901	150

政治学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
政治制度論	大山 礼子	126501	150
西洋法制史	北野 かほる	117901	151
地域計画論	原 昭夫	038701	152
地方行政	内海 麻利	127601	153
地方自治法	富井 幸雄	127501	153
中国政治論 (1)	三船 恵美	128901	154
中国政治論 (2)	三船 恵美	129001	155
中南米政治論	箕輪 茂	129601	155
東南アジア政治論 (1)	深尾 康夫	128701	156
東南アジア政治論 (2)	深尾 康夫	128801	156
日本政治史	村井 良太	126901	157
日本政治論	大山 礼子	126301	157
日本法制史	末澤 国彦	117801	158
農業政策	溝手 芳計	093501	159
比較憲法	柳瀬 昇	134001	160
比較政治学	三竹 直哉	128201	161
比較都市論	内海 麻利	128401	162
比較メディア論	横山 滋 岩崎 宇雄	130201	163
北米政治論 (1)	三竹 直哉	128501	163
北米政治論 (2)	三竹 直哉	128601	164
マス・コミュニケーション論	相田 敏彦	129801	164
民法 (債権)	上井 長久	143802	165
民法 (総則・物権法)	熊谷 芝青	127801	166
メディア社会論	相田 敏彦	130001	166
ヨーロッパ政治史	浦田 早苗	126701	167
ヨーロッパ政治論 (1)	中野 裕二	129101	168
ヨーロッパ政治論 (2)	中野 裕二	129201	169
ヨーロッパ政治論 (3)	浅見 政江	129301	170
ヨーロッパ政治論 (4)	浅見 政江	129401	170
労働法	藤本 茂	116801	171
地方財政論	休講	094101	

2. 経営学部

経営学科

経営学科フレックスA

市場戦略学科

経営学科フレックスB

科目名	担当者名	履修コード	ページ
アメリカ経営学	宮城 徹	141201・332701	175
e-ビジネス	安岡 寛道	140851	176
イノベーション論	羽田 尚子	143601	176
演習Ⅰ	青木 茂樹	146811	177
演習Ⅰ	阿部 一人	146901	177
演習Ⅰ	飯田 哲夫	146201	177
演習Ⅰ	石名坂 邦昭	146821	178
演習Ⅰ	鹿嶋 秀晃	147001・335301	178
演習Ⅰ	片桐 伸夫	146301	178
演習Ⅰ	兼村 栄哲	146701	179
演習Ⅰ	河合 由佳理	147161	180
演習Ⅰ	菅野 佐織	146831	180
演習Ⅰ	岸田 隆行	145801	181
演習Ⅰ	岸田 隆行	335001	181
演習Ⅰ	高井 徹雄	146501	182
演習Ⅰ	高木 克己	145101	182
演習Ⅰ	滝田 公一	145401	183
演習Ⅰ	長 国強	146871	183
演習Ⅰ	中川 功一	146841	184
演習Ⅰ	中川 淳平	147151	184
演習Ⅰ	中野 香織	146851	184
演習Ⅰ	中村 公一	147101	185
演習Ⅰ	西村 和夫	146801	185
演習Ⅰ	羽鳥 茂	145501	186
演習Ⅰ	藤原 篤志	146601	186
演習Ⅰ	若山 大樹	146861	187
演習Ⅰ	渡辺 伊津子	147141	187
演習Ⅱ	青木 茂樹	149911	188
演習Ⅱ	明石 博行	149201	188
演習Ⅱ	阿部 一人	147201	189
演習Ⅱ	飯田 哲夫	148901	189
演習Ⅱ	石名坂 邦昭	147901	189
演習Ⅱ	小沢 利久	147301	190
演習Ⅱ	鹿嶋 秀晃	147401	190
演習Ⅱ	片桐 伸夫	148601	191
演習Ⅱ	兼村 栄哲	149901	192

経営学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習Ⅱ	河合 由佳理	150041	193
演習Ⅱ	菅野 佐織	149931	193
演習Ⅱ	岸田 隆行	150011	194
演習Ⅱ	猿山 義広	149601	194
演習Ⅱ	高井 徹雄	149921	195
演習Ⅱ	高木 克己	148801	195
演習Ⅱ	高田 光明	148301	196
演習Ⅱ	滝田 公一	148501	196
演習Ⅱ	長 国強	149401	197
演習Ⅱ	中川 功一	149941	197
演習Ⅱ	中川 淳平	149501	197
演習Ⅱ	中野 香織	149951	198
演習Ⅱ	中村 公一	150001	198
演習Ⅱ	西村 和夫	149101	199
演習Ⅱ	羽鳥 茂	148701	199
演習Ⅱ	羽田 尚子	149301	199
演習Ⅱ	藤原 篤志	149801	200
演習Ⅱ	宮城 徹	148401	200
演習Ⅱ	桃塚 薫	147701	201
演習Ⅱ	山田 純平	147501	201
演習Ⅱ	山田 勝	148201	201
演習Ⅱ	若山 大樹	149961	202
演習Ⅱ	渡辺 伊津子	148351	202
演習Ⅲ	青木 茂樹	152411	203
演習Ⅲ	明石 博行	150801	203
演習Ⅲ	阿部 一人	152501	204
演習Ⅲ	飯田 哲夫	151201	204
演習Ⅲ	石名坂 邦昭	151801	204
演習Ⅲ	小沢 利久	150901	204
演習Ⅲ	鹿嶋 秀晃	152301	205
演習Ⅲ	片桐 伸夫	151001	205
演習Ⅲ	兼村 栄哲	150301	206
演習Ⅲ	河合 由佳理	152561	206
演習Ⅲ	菅野 佐織	152421	207
演習Ⅲ	岸田 隆行	150601	207
演習Ⅲ	猿山 義広	152601	207
演習Ⅲ	高井 徹雄	152611	208
演習Ⅲ	高木 克己	152101	208
演習Ⅲ	高田 光明	150101	209
演習Ⅲ	滝田 公一	152001	209
演習Ⅲ	長 国強	152401	210
演習Ⅲ	中川 功一	152431	210
演習Ⅲ	中川 淳平	150201	210
演習Ⅲ	中野 香織	152441	211
演習Ⅲ	中村 公一	151401	211
演習Ⅲ	西村 和夫	152201	212
演習Ⅲ	羽鳥 茂	151901	212
演習Ⅲ	羽田 尚子	150501	212
演習Ⅲ	藤原 篤志	150401	213
演習Ⅲ	前田 和利	150701	213

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習Ⅲ	宮城 徹	151701	213
演習Ⅲ	桃塚 薫	151601	214
演習Ⅲ	山田 純平	151101	214
演習Ⅲ	山田 勝	151501	214
演習Ⅲ	若山 大樹	152451	215
演習Ⅲ	渡辺 伊津子	152551	215
会計学	岩渕 昭子	136201	216
会計学	片桐 伸夫	136101	216
会計学	片桐 伸夫	136211	217
会計監査論	阿部 一人	141801・331801	218
外書講読(英書)	藤原 篤志	334801	219
外書講読(英書Ⅰ)	明石 博行	144121	219
外書講読(英書Ⅰ)	兼村 栄哲	144201	220
外書講読(英書Ⅰ)	河合 由佳理	144111	220
外書講読(英書Ⅰ)	宮城 徹	144101	221
外書講読(英書Ⅱ)	山田 勝	144211	221
外書講読(スペイン書)	上野 勝広	144601	221
外書講読(中国書)	佐藤 普美子	144501	222
外書講読(独書)	薮下 紘一	144301	222
外書講読(仏書)	東 辰之介	144401	222
外書講読(ロシア書)	杉山 秀子	144701	222
確率・統計入門A	小沢 利久	136631	223
確率・統計入門B	小沢 利久	136641	223
環境経営論	川村 雅彦	143501	224
環境経営論	白鳥 和彦	329701	224
管理会計論	猿山 義広	140101	225
銀行経営論	服部 昌久	141501・331901	226
近代経済学	滝田 公一	330901	226
金融論	玉木 伸介	140601・333101	227
グローバル・マーケティング論	白井 哲也	143271	228
経営科学概論	西村 和夫	136501	229
経営科学概論	西村 和夫	136511	230
経営学	中川 功一	136011	231
経営学	中川 淳平	135901・136001	231
経営学	中村 公一	328001	232
経営学史	中川 淳平	139501	232
経営管理論	渡辺 伊津子	139701・330101	233
経営財務論	高田 光明	139901・331101	234
経営史	前田 和利	139601	234
経営史	前田 和利	330601	235
経営情報システムA	高井 徹雄	141011・332511	236
経営情報システムB	高井 徹雄	140121・332521	236
経営数学A	飯田 哲夫	136611	237
経営数学B	飯田 哲夫	136621	237
経営戦略論	中村 公一	143301・330001	238
経営組織論	加藤 寛之	140201	239
経営統計A	長 国強	140711	240
経営統計B	長 国強	140721	240
経営分析論	片桐 伸夫	141301	241
経営労務論	鹿嶋 秀晃	140001	241

経営学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
経営労務論	鹿嶋 秀晃	331001	242
経済学概説	高畑 純一郎	135001	242
経済学概説	羽田 尚子	134901・135011	243
経済原論	明石 博行	136301・330501	244
経済法	若林 重理砂	119701	245
計量経済学	呉 逸良	143701・329901	245
ゲーム理論A	上條 良夫	143721	246
ゲーム理論B	上條 良夫	143731	246
原価計算論	岸田 隆行	139801・330701	247
現代企業論	中川 功一	139411・139421	247
公益企業論	枝松 正行	140801・331401	248
国際会計論	河合 由佳理	142801・334001	249
国際経営論	白井 哲也	142401	250
サービス経営論	高畑 泰	140351	251
財政学	速水 昇	141601・333301	252
財務会計論	大倉 学	142201	253
サプライチェーン・マネジメントA	飯田 哲夫	141181	253
サプライチェーン・マネジメントB	飯田 哲夫	141191	254
産業組織論 近代経済学	滝田 公一	136401・136402	254
市場戦略概説	中野 香織	136251	255
システム論	宇谷 明秀	143001	255
上級簿記	矢島 正	140901	256
商業経営論	石川 和男	140301	257
商業経営論	石川 和男	331601	258
商業史	山田 勝	142301・331501	259
証券市場論	勝田 佳裕	142001・332401	259
消費者行動論	乳井 瑞代	143231	260
商法Ⅰ(総則・会社法)	川口 幸美	138701	260
商法Ⅱ(商行為、手形・小切手法)	中濱 義章	145001	261
情報処理応用A	宇谷 明秀	138901	261
情報処理応用A	長 国強	138801	262
情報処理応用A	桃塚 薫	329401	262
情報処理応用B	宇谷 明秀	139101	262
情報処理応用B	長 国強	139001	263
情報処理応用B	桃塚 薫	329501	263
情報処理基礎A	小沢 利久	137601	263
情報処理基礎A	加藤 武信	137001	264
情報処理基礎A	河内谷 幸子	136701・137101	264
情報処理基礎A	地引 昌弘	136801・136901	265
情報処理基礎A	長 国強	137611	265
情報処理基礎A	中野 秀洋	137631	266
情報処理基礎A	村上 友佳子	137201	267
情報処理基礎A	依田 聖	137301	268
情報処理基礎A	依田 聖	137401	269
情報処理基礎A	若山 大樹	137621	270
情報処理基礎B	小沢 利久	138601	270
情報処理基礎B	加藤 武信	138301	271
情報処理基礎B	河内谷 幸子	137901・138001	271
情報処理基礎B	地引 昌弘	138101・138201	272
情報処理基礎B	長 国強	138611	272

科目名	担当者名	履修コード	ページ
情報処理基礎B	中野 秀洋	138631	273
情報処理基礎B	村上 友佳子	138401	273
情報処理基礎B	依田 聖	137701	274
情報処理基礎B	依田 聖	138501	275
情報処理基礎B	若山 大樹	138621	275
情報セキュリティA	西村 和夫	142511	276
情報セキュリティB	西村 和夫	142521	277
生産管理論	藤原 篤志	142601	278
生産管理論	藤原 篤志	333801	278
製品開発論	宮下 雄治	143221	279
税法	奥村 正郎	143101・334301	279
税務会計論	高木 克己	141901	280
税務会計論	高木 克己	332301	280
ドイツ経営学	高橋 成夫	142701・333901	281
特殊講義Ⅰ〔現代のビジネスモデル〕	猿山 義広	144801	281
特殊講義Ⅱ〔現代の税制と税理士業務〕	百田 義治	101203	282
日本経営史	大島 久幸	142101・333001	282
日本経済史	渡辺 新	139301	283
日本経済史	渡辺 新	330801	284
日本経済論	羽鳥 茂	141401・332901	284
ビジネス英語	秋葉 滋	144901	285
ファイナンス理論	江頭 隆治	143711・331011	285
ベンチャー企業論	崔 銀順	143401	286
ベンチャー企業論	崔 銀順	329601	286
簿記学	岩瀬 昭子	135601	287
簿記学	大野 満奈	135101・135301	287
簿記学	猿山 義広	135201・135811	288
簿記学	竹腰 友美	135701	289
簿記学	水野 恵子	135401・135801	289
簿記学	矢島 正	135501	290
保険経営論	岡田 太	140401	291
保険経営論	岡田 太	332601	291
マーケティング・コミュニケーション論	中野 香織	143241	292
マーケティング・サイエンスA	若山 大樹	141151	292
マーケティング・サイエンスB	若山 大樹	141161	293
マーケティング・チャネル論	青木 茂樹	143251	293
マーケティング・リサーチA	高畑 泰	141131	294
マーケティング・リサーチB	高畑 泰	141141	294
マーケティング史	石川 和男	143281	295
マーケティング論	兼村 栄哲	143201・334401	296
マネジメント・サイエンスA	小沢 利久	141111	297
マネジメント・サイエンスB	小沢 利久	141121	297
民法	織田 晃子	307802	298
民法Ⅰ（総則・物権法）	熊谷 芝青	127802	298
民法Ⅱ（債権法）	上井 長久	143801	299
リスクマネジメント論	石名坂 邦昭	142351・331551	299
流通システム論	青木 茂樹	143211	300
労働法	藤本 茂	098801	301
労働法	藤本 茂	325101	302
イノベーション論	休講	329801	

経営学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習Ⅱ	休講	335721	
会計学	休講	328601	
管理会計論	休講	331201	
経営科学概論	休講	330401	
経営学史	休講	330301	
経営心理学	休講	140051・331851	
経営数学A	休講	328711	
経営数学B	休講	328721	
経営組織論	休講	331301	
経営統計B	休講	332021	
経営分析論	休講	332801	
経営統計A	休講	332011	
経済学概説	休講	328501	
経済政策	休講	119111・334811	
現代企業論	休講	330211	
国際経営論	休講	333401	
国際経済論	休講	141701・332101	
財務会計論	休講	332201	
システム論	休講	334201	
上級簿記	休講	333201	
商法	休講	308802	
情報処理基礎A	休講	328801	
情報処理基礎B	休講	329101	
情報セキュリティA	休講	333611	
情報セキュリティB	休講	333621	
統計原論	休講	139201・333701	
ビジネス英語	休講	334501	
簿記学	休講	328101	
マネジメント・サイエンスA	休講	334411	
マネジメント・サイエンスB	休講	334421	

3. 医療健康科学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
医学英語	吉川 宏起	159201	305
医学概論	吉川 宏起	154901	305
医学特論	山口 晶	164801	305
医用化学実験〔実験〕	原田 和正 秋山 稔 本多 貴之 山岸 賢司 山本 裕右	153701・153801	306
医用画像工学	熊坂 さつき	156301	306
医用検査学	名古 安伸	159501	307
医用物理学実験〔実験〕	佐藤 昌憲 小川 雅生 鳥山 保 羽生 毅 藤森 成一	153501・153601	307
医療画像科学総合研究	野口 勝 飯田 幸雄 熊坂 さつき 近藤 啓介 瀬尾 育武	162401	308
医療画像科学論文講読	熊坂 さつき	164201	308
医療経済学	松元 和敏	164701	309
医療宗教学	吉津 宜英	164601	309
医療統計学	近藤 啓介	164301	310
医療放射線科学総合研究	西尾 誠示 青木 清 小川 雅生 奥山 康男 金子 順一 佐藤 昌憲 嶋田 守男 名古 安伸 原田 和正 山本 裕右 吉川 宏起	162301	310
医療放射線科学論文講読	吉川 宏起	164101	310
応用機器工学	名古 安伸	158601	311
応用計測学	小川 雅生	158701	311
応用数学	野口 勝	153401	312
解剖学	嶋田 守男	153101	312
核医学	奥山 康男	158901	313
核医学検査技術学基礎実習〔実験〕	山本 裕右 奥山 康男 金子 順一 外山 真理 原田 和正	160701・160801	313

医療健康科学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
核医学検査技術学実習〔病院実習〕	吉川 宏起 奥山 康男 原田 和正	163001	314
画像解剖学	嶋田 守男	158301	314
画像検査技術学基礎実習〔実験〕	西尾 誠示 五十嵐 太郎 田仲 隆 谷口 貴久 名古屋 安伸 吉川 達生	156801・156901	315
画像検査技術学実習〔病院実習〕	嶋田 守男 飯田 幸雄 名古屋 安伸 西尾 誠示	160901	315
画像工学Ⅰ	瀬尾 育式	159801	316
画像工学Ⅱ	瀬尾 育式	159901	316
画像工学概論Ⅰ 放射線写真学	飯田 幸雄	153001・153002	317
画像工学概論Ⅱ 画像工学概論	野口 勝	156001・156002	318
画像工学実験〔実験〕	瀬尾 育式 飯田 幸雄 近藤 啓介 野口 勝 古川 克治 俣野 公志	160301・160401	318
画像構築論Ⅰ	近藤 啓介	163501	319
画像処理概論	近藤 啓介	164251・164261	319
画像処理言語論	近藤 啓介	159301	320
画像処理論	近藤 啓介	162101	320
画像診断機器工学	瀬尾 育式	158501	321
画像診断技術学Ⅰ	嶋田 守男	159401	321
画像診断技術学Ⅱ	吉川 宏起	163701	322
画像数学	志村 一男	155501	322
画像伝送論	廣田 尊宣	163601	322
画像と放射線治療	吉川 宏起	164001	323
環境保健医学	黒子 幸一	153201	323
技術英語	高橋 優身	160001	323
救急医療学	奥山 康男	159601	324
計算機言語論	近藤 啓介	164401	324
原子核物理学	永井 喜則	155601	325
最新医療技術	吉川 宏起	165301	325
診療画像技術学	西尾 誠示	156101	326
診療画像技術学概論	西尾 誠示	153301	327
診療画像技術学実験〔実験〕	西尾 誠示 飯田 幸雄 熊坂 さつき 古川 克治	153901	328
診療画像技術学実験〔実験〕	西尾 誠示 熊坂 さつき 古川 克治 飯田 幸雄	154001	329

科目名	担当者名	履修コード	ページ
診療画像情報学Ⅰ	西尾 誠示	158801	330
診療画像情報学Ⅱ	西尾 誠示	163801	330
診療機器システム学	近藤 啓介	165601	331
生化学	原田 和正	155401	331
生理学	樋口 雄三	155301	331
線量計測工学	小川 雅生	162201	332
電気工学	佐藤 昌憲	152801	332
電気電子工学実験〔実験〕	青木 清 金子 順一 川副 護 吉田 正廣	156401・156501	333
電子工学	金子 順一	155801	333
病理学	吉川 宏起	155201	334
放射化学	山本 裕右	155701	334
放射化学特論	原田 和正	165401	335
放射線医学概論	嶋田 守男	158401	335
放射線化学特論	原田 和正	165101	335
放射線学総合演習	金子 順一	162001	336
放射線学特論	熊坂 さつき	165501	336
放射線関係法規	青木 清	158101	337
放射線感光化学	山本 裕右	165001	337
放射線管理学	青木 清	159101	337
放射線管理学実験〔実験〕	青木 清 大西 孝明 金子 順一 高橋 忍 永井 喜則	160501・160601	338
放射線機器概論	名古 安伸	152901	338
放射線機器工学	奥山 康男	155901	339
放射線機器工学実験〔実験〕	奥山 康男 瀬尾 育武 羽生 毅	156601・156701	339
放射線計測学	青木 清	156201	340
放射線検出器工学	鳥山 保	164901	340
放射線腫瘍学	高山 誠	159001	341
放射線生物学	熊坂 さつき	155101	341
放射線治療技術学	高山 誠	163401	342
放射線治療技術学実験〔実験〕	佐藤 昌憲 飯田 幸雄 小川 雅生 高城 保 羽生 毅	160101・160201	342
放射線治療技術学実習〔病院実習〕	吉川 宏起 飯田 幸雄 佐藤 昌憲	163101	342
放射線被曝管理論	羽生 毅	165901	343
放射線物理学	小川 雅生	152701	343
量子論	金子 順一	164501	344
臨床医学概論	嶋田 守男	155001	344
臨床医療人間学Ⅰ	名古 安伸	159701	344

医療健康科学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
臨床医療人間学Ⅱ	奥山 康男	163901	345
医用材料工学	休講	165701	
医療生物学	休講	165201	
画像構築論Ⅱ	休講	165801	

4. グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
Academic Writing	モハメッド、 G. ゴールド、 F. アシュウェル、 T. クオック、 R. Y. F. ダーリン、 M. ブラック、 A. グレコ、 M. A.	409901・410001・ 410101・410201・ 410301・410401・ 410501・410601・ 410701・410801・ 410901・411001・ 411011・411021・ 411031・411041・ 411051・411061	349
E-コマース論	今村 誠	434401	350
イスラムと文化	奥田 敦	434711	351
イノベーション普及論	白水 繁彦	430911	351
異文化間コミュニケーション論	高 媛	432901	352
異文化経営論	リンスキー、 M.	431301	352
インターネットとメディア	吉田 尚史	417001	353
Integrated English I	ダーリン、 M.	441001	354
Integrated English II	ダーリン、 M.	441151	355
Integrated English III	オーラ、 B.	441201	356
Integrated English IV	ギャリソン、 J. G.	441351	358
Integrated English IX	ファーロー、 D.	441801	359
Integrated English X	モハメッド、 G.	441901	360
Integrated English XI	ファーロー、 D.	442001	361
Integrated English XII	モハメッド、 G.	442101	362
Web コンテンツ	南 政樹	434701	363
Web コンテンツデザイン演習	吉田 尚史	436781	364
Web コンテンツデザイン各論	吉田 尚史	436761	365
英語圏文学概論	佐藤 アヤ子	433201	366
映像コミュニケーション実習	金山 智子	433611	367
映像産業論	テツカ ヨシハル	435011	368
エスニシティの文化心理学	白水 繁彦	435611	368
演習 I a	アシュウェル、 T.	419321	369
演習 I a	石川 憲洋	418101	369
演習 I a	石橋 直樹	418801	370
演習 I a	各務 洋子	418301	370
演習 I a	金山 智子	418401	371
演習 I a	絹川 真哉	418901	371
演習 I a	クボタ、 L.	417701	372
演習 I a	芝崎 厚士	419101	373
演習 I a	白水 繁彦	418001	373
演習 I a	杉森 建太郎	419351	374
演習 I a	西岡 洋子	418601	374
演習 I a	福家 秀紀	418201	375
演習 I a	南 政樹	417901	375
演習 I a	山口 浩	418701	376
演習 I a	吉田 尚史	419301	377
演習 I a	リンスキー、 M.	419201	378
演習 I b	アシュウェル、 T.	421121	378
演習 I b	石川 憲洋	419901	379

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習 I b	石橋 直樹	420601	379
演習 I b	各務 洋子	420101	380
演習 I b	金山 智子	420201	380
演習 I b	絹川 真哉	420701	381
演習 I b	クボタ、 L.	419501	382
演習 I b	芝崎 厚士	420901	383
演習 I b	白水 繁彦	419801	383
演習 I b	杉森 建太郎	421151	384
演習 I b	西岡 洋子	420401	384
演習 I b	福家 秀紀	420001	385
演習 I b	南 政樹	419701	385
演習 I b	山口 浩	420501	386
演習 I b	吉田 尚史	421101	387
演習 I b	リンスキー、 M.	421001	388
演習 II a	石川 憲洋	421601	388
演習 II a	石橋 直樹	422301	389
演習 II a	各務 洋子	421801	389
演習 II a	金山 智子	421901	390
演習 II a	絹川 真哉	422401	390
演習 II a	クボタ、 L.	421201	391
演習 II a	五野井 郁夫	422501	391
演習 II a	芝崎 厚士	422601	392
演習 II a	白水 繁彦	421501	392
演習 II a	テヅカ ヨシハル	422001	393
演習 II a	西岡 洋子	422101	393
演習 II a	福家 秀紀	421701	394
演習 II a	南 政樹	421401	394
演習 II a	山口 浩	422201	395
演習 II a	吉田 尚史	422801	396
演習 II a	リンスキー、 M.	422701	397
演習 II a	渡辺 彰規	421301	397
演習 II b	石川 憲洋	423301	398
演習 II b	石橋 直樹	424001	398
演習 II b	各務 洋子	423501	399
演習 II b	金山 智子	423601	399
演習 II b	絹川 真哉	424101	400
演習 II b	クボタ、 L.	422901	401
演習 II b	高 媛	424201	401
演習 II b	芝崎 厚士	424301	402
演習 II b	白水 繁彦	423201	402
演習 II b	テヅカ ヨシハル	423701	403
演習 II b	西岡 洋子	423801	403
演習 II b	福家 秀紀	423401	404
演習 II b	南 政樹	423101	404
演習 II b	山口 浩	423901	405
演習 II b	吉田 尚史	424501	406
演習 II b	リンスキー、 M.	424401	407
演習 II b	渡辺 彰規	423001	407
演習 III a	石川 憲洋	412601	408
演習 III a	石橋 直樹	412701	408

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習Ⅲ a	各務 洋子	412301	409
演習Ⅲ a	金山 智子	413901	409
演習Ⅲ a	絹川 真哉	413701	410
演習Ⅲ a	クボタ、 L.	413001	410
演習Ⅲ a	五野井 郁夫	412801	411
演習Ⅲ a	芝崎 厚士	413501	411
演習Ⅲ a	白水 繁彦	413801	412
演習Ⅲ a	テヅカ ヨシハル	413201	412
演習Ⅲ a	西岡 洋子	413101	412
演習Ⅲ a	福家 秀紀	413601	413
演習Ⅲ a	南 政樹	412501	413
演習Ⅲ a	山口 浩	413301	413
演習Ⅲ a	吉田 尚史	413401	414
演習Ⅲ a	リンスキー、 M.	412901	415
演習Ⅲ a	渡辺 彰規	412401	415
演習Ⅲ b	石川 憲洋	414301	416
演習Ⅲ b	石橋 直樹	414401	416
演習Ⅲ b	各務 洋子	414001	417
演習Ⅲ b	金山 智子	415601	417
演習Ⅲ b	絹川 真哉	415401	418
演習Ⅲ b	クボタ、 L.	414701	418
演習Ⅲ b	高 媛	414501	419
演習Ⅲ b	芝崎 厚士	415201	419
演習Ⅲ b	白水 繁彦	415501	420
演習Ⅲ b	テヅカ ヨシハル	414901	420
演習Ⅲ b	西岡 洋子	414801	420
演習Ⅲ b	福家 秀紀	415301	420
演習Ⅲ b	南 政樹	414201	421
演習Ⅲ b	山口 浩	415001	421
演習Ⅲ b	吉田 尚史	415101	422
演習Ⅲ b	リンスキー、 M.	414601	423
演習Ⅲ b	渡辺 彰規	414101	423
Oral Communication I	エセックス、 J. スミス、 G. A. フアーロー、 D. ブーハー、 U. J. ドイル、 S. エラム、 J. R. ローズ、 S. オーラ、 B. モエ、 R. A.	400101・400201・ 400301・400401・ 400501・400601・ 400701・400801・ 400901・401001・ 401101・401201・ 401211・401221・ 401231・401241	424
Oral Communication II	エセックス、 J. スミス、 G. A. フアーロー、 D. ブーハー、 U. J. ドイル、 S. エラム、 J. R. ローズ、 S. オーラ、 B. モエ、 R. A.	401301・401401・ 401501・401601・ 401701・401801・ 401901・402001・ 402101・402201・ 402301・402401・ 402411・402421・ 402431・402441	425

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
Oral Communication III Public Speaking	エラム、 J. R. グレコ、 M. A. バーンハート、 J. L. スミス、 G. A. モハメッド、 G. クオック、 R. Y. F. スメザム、 M. ダーリン、 M. ゴールド、 F.	408701・408702・ 408801・408802・ 408901・408902・ 409001・409002・ 409101・409102・ 409201・409202・ 409301・409302・ 409401・409402・ 409501・409502・ 409601・409602・ 409701・409702・ 409801・409802・ 409811・409812・ 409821・409822・ 409831・409832・ 409841・409842	426
Oral Communication IV Strategic Presentation	エラム、 J. R. グレコ、 M. A. バーンハート、 J. L. スミス、 G. A. モハメッド、 G. クオック、 R. Y. F. スメザム、 M. ダーリン、 M. ゴールド、 F.	411101・411102・ 411201・411202・ 411301・411302・ 411401・411402・ 411501・411502・ 411601・411602・ 411611・411612・ 411701・411702・ 411801・411802・ 411901・411902・ 412001・412002・ 412101・412102・ 412201・412202・ 412211・412212・ 412221・412222・ 412231・412232	427
Honors English Seminar I	モエ、 R. A.	442201	428
Honors English Seminar II	モエ、 R. A.	442301	428
Honors English Seminar III	アシュウェル、 T.	442401	429
Honors English Seminar IV	アシュウェル、 T.	442501	430
音楽メディア論	増淵 敏之	435201	430
海外演習実践講座 I	杉森 建太郎 各務 洋子 金山 智子	437501	431
海外演習実践講座 II	杉森 建太郎 各務 洋子 金山 智子	437601	432
海外演習実践講座 III	杉森 建太郎 各務 洋子 金山 智子	437701	433
韓国の文化と社会 I	渡辺 吉鎔	434731	434
韓国の文化と社会 II	渡辺 吉鎔	434741	434
企業会計の実務	伊藤 克容	431701	435
教育環境とメディア	南 政樹	434601	436

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
キリスト教文化	豊川 慎	434721	436
クリエイティブビジネス論	クボタ、 L.	415901	437
クリエイティブビジネス論	クボタ、 L.	416001	438
グローバルアート政策論	友岡 邦之	432601	439
グローバル英語概論	町田 尚子	433101	440
グローバル企業行動論	リンスキー、 M.	416501	441
グローバル経営論	各務 洋子	427911	442
グローバル交流論	芝崎 厚士	432801	443
グローバルシティズンシップ	金山 智子	433001	444
グローバル市民社会論	芝崎 厚士	433401	445
グローバル戦略論	各務 洋子	431111	446
グローバル創造都市論	友岡 邦之	432701	447
グローバルネットワーク論	福家 秀紀	435901	447
グローバルビジネス人材マネジメント	リンスキー、 M.	431601	448
グローバル文化論	塩原 良和	417501	448
グローバルマネジメント グローバル経営論 I	各務 洋子	406901・406902	449
グローバルメディア概論	渡辺 彰規	406501	450
グローバルメディアガバナンス論	西岡 洋子	432301	451
グローバルメディアスタディーズ概論	福家 秀紀 クボタ、 L. テヅカ ヨシハル リンスキー、 M. 各務 洋子 絹川 真哉 山口 浩 芝崎 厚士 杉森 建太郎 西岡 洋子 石橋 直樹 石川 憲洋 南 政樹 白水 繁彦	406101	452
国際移動とメディア	白水 繁彦	435511	453
国際関係とメディア	芝崎 厚士	416801	454
国際協力法	山村 恒雄	434761	454
国際標準化論	石川 憲洋	437401	455
国際法	山村 恒雄	434751	455
コミュニケーション社会史	白水 繁彦	431011	456
コンテンツデザイン演習	高橋 克三	433811	457
コンテンツデザイン概論	岡田 智博	434201	457
コンテンツデザイン各論	高橋 克三	433711	458
コンテンツビジネス論	クボタ、 L.	416201	458
コンテンツビジネス論	山口 浩	416101	459
コンピュータワークショップ	明田 守正	428001	460
コンピュータワークショップ	石川 憲洋	428201	461
コンピュータワークショップ	石橋 直樹	428301	462
コンピュータワークショップ	松原 大悟	428101	463
実践メディアビジネス講座 I	各務 洋子 山口 浩	433901	464

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
実践メディアビジネス講座Ⅱ	白水 繁彦 金山 智子 芝崎 厚士	434001	465
実践メディアビジネス講座Ⅲ	石川 憲洋 吉田 尚史 石橋 直樹 南 政樹	436801	466
実践メディアビジネス講座Ⅳ	福家 秀紀 西岡 洋子	436901	467
Journalism I	前田 利継	443001	468
Journalism II	前田 利継	443101	469
社会調査法入門	廣瀬 毅士	434811	470
情報社会論	五野井 郁夫	430801	470
情報保護と社会	石川 憲洋	434301	471
情報メディア産業論Ⅰ	福家 秀紀	432001	471
情報メディア産業論Ⅱ	福家 秀紀	432101	472
情報リテラシー	吉田 尚史 石川 憲洋 石橋 直樹 南 政樹 松原 大悟 明田 守正 廣瀬 毅士	407101・407201・ 407301・407401・ 407501・407601・ 407701・407801・ 407901	473
情報リテラシー実習	吉田 尚史 石川 憲洋 石橋 直樹 南 政樹 松原 大悟 明田 守正 廣瀬 毅士	407901・408001・ 408101・408201・ 408301・408401・ 408501・408601	474
世界政治とメディア	五野井 郁夫	416701	475
知識経営論	リンスキー、 M.	431201	475
知的財産権と経済	絹川 真哉	417301	476
知的財産権と統計	絹川 真哉	417401	476
知的財産法／個人情報保護法	新保 史生	436201	477
著作権の経済分析	絹川 真哉	436001	477
テクノロジーマネジメント	石橋 直樹	437001	478
デジタルコンテンツビジネス論	クボタ、 L.	431511	478
TOEIC(R) prep	杉森 建太郎	442901	479
TOEFL(R) prep	杉森 建太郎	442801	480
統合リスクマネジメント論	山口 浩	435701	481
ドキュメンタリー制作演習	テヅカ ヨシハル	436511	482
ドキュメンタリーの視線と実践	テヅカ ヨシハル	436411	482
都市とメディア	五野井 郁夫	432501	483
特許権の経済分析	絹川 真哉	436101	483
ネットワーク経済論	福家 秀紀	435801	484
ネットワークコミュニケーション論	菅谷 実	432201	485
ネットワーク進化論	南 政樹	437201	486
比較メディア制度論	西岡 洋子	432401	487
表象メディア論	テヅカ ヨシハル	434911	488

科目名	担当者名	履修コード	ページ
ファイナンスと経営学Ⅰ	山口 浩	431811	489
ファイナンスと経営学Ⅱ	山口 浩	431911	489
複合ドキュメント概論	吉田 尚史	434501	490
放送メディア論	増淵 敏之	435101	490
マルチメディアコンテンツデザイン演習	石橋 直樹	436771	491
マルチメディアコンテンツデザイン各論	石橋 直樹	436611	491
マルチメディアビジネス論	クボタ、 L.	431401	492
メディア・コミュニケーション概論	西岡 洋子	427501	493
メディアイベント論	高 媛	435401	493
メディア制度論	西岡 洋子	427811	494
メディアと企業	山口 浩	416301	495
メディアと情報	南 政樹	417201	496
メディアとセキュリティ	石川 憲洋	437301	497
メディアと知識論	南 政樹	437101	498
メディアとデータベース	石橋 直樹	434101	499
メディア文化論	高 媛	417601	499
メディア法	新保 史生	436301	500
メディアリテラシー	金山 智子	406701・406801	500
Listening Skills & Strategies	バーンハート、 J. L. 杉森 建太郎 ブラック、 A. スミス、 G. A. ドイル、 S. ギャリソン、 E. ギャリソン、 J. G. レオーネ、 J. V.	403701・403801・ 403901・404001・ 404101・404201・ 404301・404401・ 404501・404601・ 404701・404801・ 404821・404831・ 404841・404851	501
Written Communication I Critical Reading	エラム、 J. R. 杉森 建太郎 ボシユー、 E. パイプ、 J. レオーネ、 J. V. ローズ、 S. ブーハー、 U. J. オーラ、 B. ファーロー、 D. 町田 高子 ブラック、 A. エセックス、 J.	402501・402502・ 402601・402602・ 402801・402802・ 402901・402902・ 403001・403002・ 403101・403102・ 403201・403202・ 403301・403302・ 403401・403402・ 403501・403502・ 403601・403602・ 403611・403612・ 403631・403632・ 403641・403642・ 403651・403652・ 403661・403662・ 405011・405012・ 405021・405022	502

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
Written Communication II Introduction to Writing	エラム、 J. R.	404901・404902・	504
	杉森 建太郎	405001・405002・	
	バイブ、 J.	405101・405102・	
	ギヤリソン、 E.	405201・405202・	
	ボシュー、 E.	405301・405302・	
	ローズ、 S.	405401・405402・	
	レオーネ、 J. V.	405501・405502・	
	ブーハー、 U. J.	405601・405602・	
	フアーロー、 D.	405701・405702・	
	オーラ、 B.	405801・405802・	
	ブラック、 A.	405901・405902・	
	町田 尚子	406001・406002・	
		406011・406012・	
		406031・406032・	
	406041・406042・		
	406051・406052・		
	406081・406082・		
	406091・406092		
Integrated English V	休講	441401	
Integrated English VI	休講	441501	
Integrated English VII	休講	441601	
Integrated English VIII	休講	441701	
NPO/NGOとメディア	休講	433301	
オルタナティブ・メディア論	休講	433511	
広告文化論	休講	435311	

専 門 教 育 科 目

1. 法 学 部

- (1) 法律学科フレックスA
法律学科フレックスB

履修コード	118401
科目名	英米法
担当者名	北野 ^{きたの} かほる

講義の到達目標(ねらい) 法学部とりわけ法律学科で履修する現在の日本法とはおおきくしくみが異なる英米法について、この差異を感じ取れる感覚を育てることをひとつの目標にしなが、英米法の特徴を理解することを通して、間接的に、現在の日本法の特徴を理解することも目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 第1～5回 第1章 法系 第6～18回 第2章 英米法の特徴
第19～25回 第3章 判例法の理論 第26～30回 第4章 裁判所制度

履修上の留意点 *時間配分は都合により変更することがあります。
英米法の本質を理解するためには、アメリカ法ではなくイギリス法を理解することが重要になります。自習する場合、ビジネスマン向けのアメリカ法解説書は不適切ですので、十分注意してください。この講義は原理を教えることに主眼をおいていますが、最近多く見られる解説書は、原理の理解ではなく、その応用とりわけビジネス現場での対応に力点を置いています。これらの本は、執筆の趣旨が講義とは異なるので、難しくても、講義の原理原則解説を理解するよう努力してください。

講義中の私語・騒音は厳しく規制します。

受講生の人数によっては、抜き打ち的に出席をとることがあります。ただし、毎回の出席点を成績に加味することはしません。毎回出席していないと、抜き打ちの出席チェックにも対応できないことになりますから注意してください。

休んだ時は早めに講義ノートを確保するよう努力してください。出席して自分でノートをとることが、講義内容を記憶にとどめる最良の方法ですから、講義ノートのウェブ公開はしません。

論文式筆記試験(後期試験期間・年1回)

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

特に指定しません。

英米法総論 上(田中英夫、東大出版会)、英米法の歴史家たち(ホルズワース、創文社)

試験準備には講義ノートが最も有効です。各自注意して出席し、ノートをとること。

履修コード	125741・125742・327301・327302
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	赤松 ^{あかまつ} あきら

講義の到達目標(ねらい) 現実のビジネスでは、コストとしての租税負担を考慮して、投資や事業展開に関する経営判断がなされ、契約交渉や会社の設立等を進める。ゼミでは、国際取引に関する租税法の適用である国際課税について勉強する。租税法についての専門的知識が無くとも興味をもって積極的にゼミに参加できるように判決例や新聞等で報道された具体的事例を多く取り上げる。ゼミ生は、事例に関する論点の整理、報告書の作成、討議を通じて、プレゼンテーション技術も学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール 指定のテキストの購読とともに、随時、公開されている税制調査会資料や関連する新聞記事等を配布する。ゼミの進展に応じて、専門誌や新聞に掲載の具体的事例を報告課題として割り当てる。課題報告のゼミ日では、担当ゼミ生による報告と全員による意見交換を行う。

準備学習

・国税庁税務大学校講本『税法入門』第5章国際課税を讀了しておくこと。

履修上の留意点

・講義に先立ち予習項目を指定するので、指定テキストの該当箇所を必ず読み込んで出席すること。

・租税法についての専門的知識が無くとも国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎する。

・「税法」を3年次において履修することが望ましい。

成績評価の方法

ゼミへの積極的参加度、ゼミ報告の内容、課題レポートの充実度により総合判断する。

教科書／テキスト

赤松晃『国際課税の実務と理論 - グローバルエコノミーと租税法』(税務研究会、第2版、2009年) 3400円+税

参 考 書

・赤松晃「国際課税分野での立法 - 日本の経済発展の軌跡を背景として」金子宏編『租税法の発展』(有斐閣、平成22年) 115～138頁

・三本義一・前田謙二『よくわかる国際税務入門』(有斐閣、2008年) 2000円+税

・増井良啓・宮崎裕子『国際租税法』(東京大学出版会、2008年) 3000円+税

・赤松晃「国際課税の基本的な仕組み」金子宏編『租税法の基本問題』(有斐閣、平成19年) 593～628頁

・水野忠恒編著『国際課税の理論と課題』(税務経理協会、2訂版、2005年) 3000円+税

・Michael McIntyre, "International Tax Primer" Springer (2002/10/8)

そ の 他

次の関連リンクを参照のこと

・国税庁HP {<http://www.nta.go.jp/>}

・財務省税制HP 財務省税制HP : {<http://www.mof.go.jp/jouhou/syuzei/siryoku/kokusai.htm>}

・租税に関する法令・通達等 {<http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1>}

関連リンク

<http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1>

履修コード	124701・124702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>あらか ままたか</small> 荒木 正孝

講義の到達目標(ねらい) 会社法や手形・小切手法の講義、またはこれらを理解するのに必要な民法総則、物権法および債権法など各種の講義で聞いた個々の知識や考え方が本当に学生諸君の血となり肉となっているかどうかは、実際に具体的な問題の解決に取り組み、多くの人々が納得する妥当な法的解決を導き出すことができるか否かによって決まる。この演習では、講義で修得した個別の知識を関連付け、総合し、それをより深く理解し、十分に応用できる力をつけることを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール この演習では、基礎的知識を確認する作業を常に心掛けながら、具体的には、会社法に関する裁判例の中から参加者が希望するテーマや課題について発表してもらい、そのレポートを中心に活発な議論を展開するという方法で進めます。

準備学習 参加者は、自分が発表者に指名されていない時でも、積極的に質問したり、問題提起できるように、あらかじめ発表内容について学習しておく必要がある。

履修上の留意点 この演習では、出席の状況と発表の内容や回数などを重視します。夏季と冬季(学年末試験終了後)に合宿を予定しています。必ず参加し、教室においては望めない参加者間の全人格的な触れ合いを実現したいと思っています。

成績評価の方法
参 考 書 出席の状況と平常の発言やゼミの中での活動の積極性を考慮して評価します。
神作・藤田・江頭・岩原編『会社法判例百選』(有斐閣)などを予定していますが、その他の文献や資料については必要に応じて指示します。

履修コード	327601・327602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>あらか ままたか</small> 荒木 正孝

講義の到達目標(ねらい) 会社法を理解するのに必要な民法総則、物権法および債権法などの講義で聞いた個々の知識や考え方が本当に学生諸君の血となり肉となっているかどうかは、実際に具体的な問題の解決に取り組み、多くの人々が納得する妥当な法的解決を導き出すことができるか否かによって決まります。この演習では、講義で修得した個別の知識を確実にし、相互に関連付け、総合し、それをより深く理解し、十分に応用できる力をつけることを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール この演習では、基礎的知識を確認する作業を常に心掛けながら、具体的には、会社法に関する裁判例の中から参加者が希望するテーマや課題について発表してもらい、そのレポートを中心に活発な議論を展開するという方法で進めます。

準備学習 参加者は、自分が発表者に指名されていない時でも、積極的に発言したり問題提起できるように、あらかじめ発表内容について学習しておく必要がある。

履修上の留意点 この演習では、出席の状況と発表の内容や回数を重視します。夏季または冬季(学年末試験終了後)に合宿を予定しています。必ず参加し、教室では望めない参加者間の全人格的な触れ合いを深めたいと思います。

成績評価の方法
参 考 書 出席と平常の発言やゼミでの活動を考慮して評価します。
神作・藤田・江頭・岩原編『会社法批判百選』(有斐閣)などを予定していますが、その他の文献や資料については必要な都度指示します。

履修コード	123401・123402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>いのうえ けんいち</small> 井上 健一

講義の到達目標(ねらい) 条文や判例あるいは学説の理解のみならず、紛争解決のために具体的な事実をどのように法律の議論にあてはめるかという観点から、商法判例のうち、特に実際の取引実態が判決・決定の結論に影響を及ぼしている——言い換えれば事実から離れた法律論だけでは勝負がつかない——ものを選んで報告・議論する。会社法・商行為法・保険法・証券取引法を主として取り上げる。いわゆるビジネスローに興味がある学生諸君の参加を希望する。

講義の内容／
授業スケジュール 配布文献の輪読を行う。基本的には事例・判例を中心に1回1文献を読んでいくことになるが、メンバーの興味に従ってさまざまな変更はあり得る。

履修上の留意点 会社法、商法総則・商行為法、保険・海商法を履修済か、履修中であることが望ましい。最低限、会社法だけは履修済であること。

成績評価の方法 出席、報告、議論への参加・貢献によって評価する。出席点は基本的に減点法(欠席・遅刻の都度、点数をマイナスしていく)による。

教科書／テキスト 必要に応じてコピーを配布する。

参 考 書 適宜紹介する。

そ の 他 アフターゼミは必要に応じて行う。合宿等は予定していない。

関 連 リ ン ク <http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

履修コード	124801・124802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	王 志安 <small>おう しあん</small>

講義の到達目標(ねらい) 国際裁判および国内裁判の判例の分析を通して、現代国際法の適用過程を検証する。具体的に、慣習国際法が裁判においてどのように確認され、適用されるか、また条約がどのように適用されるかを実際の判例において分析する。そして演習を通して国際法に関する知識だけでなく、判例分析や報告書又は小論文の作成に関する知識および能力をも養っていただきたい。

講義の内容／授業スケジュール テーマとして国家の領域紛争、国際法における承認および人権問題にかかわる判例を選定し、判例の読解および関連の参考資料の学習を通して国際法の適用における実情および問題点を明らかにしていく。前期において特定の中心テーマを基準に選定された事例の勉強となるが、後半において参加者の関心を尊重して個別の判例の分析を中心に演習を行っていきたい。また、夏休みでは、原文(英文)の国際判例を読み解くための合宿を行う。

履修上の留意点 出席および配布された資料を事前に読むことを要求する。

成績評価の方法 演習への参加状況および報告に望む態度や積極性を考慮して評価する。

教科書／テキスト 『判例百選国際法』(有斐閣)2001年

その他の参考書 ゼミに関する情報などは、YeStudyから入手できる。

履修コード	133501・133502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	大塚 桂 <small>おおつか かつら</small>

講義の到達目標(ねらい) 政治学における基礎的・原理的研究をおこないます。基礎研究にあたっては、古典の文献の取り組みが不可欠です。政治原理・哲学・国家論に関心のある学生の参加を期待します。

講義の内容／授業スケジュール I政治学の基本文献を輪読する。
II共通テーマを設定し、共同研究をおこなう(例えば、明治の政治家たち、自由主義の系譜)。
IIIゼミ生各自が定めた個人研究の発表とそれに対する指導をおこなう。

履修上の留意点 一定の読書と思索をつみかさねてきた学生の参加を切望します。政治学原論が現代国家論を履修し、私の政治学に対する姿勢を理解してくれる学生さん、いらっしやい!

成績評価の方法 平常点

教科書／テキスト 教員が準備し提供します。

参考書 参考書として、拙著をあげておきます。図書館等で目を通しておいください。大塚『フランスの社会連帯主義』(成文堂)、同『ラスキとホップハウス』(勁草書房)、同『多元的国家論の展開』(法律文化社)、同『多元的国家論の周辺』(信山社)、同『近代日本の政治学者群像』(勁草書房)、同『明治国家と岩倉具視』(信山社)、同『明治維新の思想』(成文堂)、同『ヨーロッパ政治理念の展開』(信山社)、『大東亜戦争期の政治学』(成文堂)。

その他の参考書 4年次生は就職活動を最優先させます。金銭的負担(OB会・合宿等)、規則、束縛は一切ありません。年1〜2回のお食事会を開催しますが、教員がゼミ生をご招待いたします。

履修コード	124901・124902・327901・327902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	大宮 隆 <small>おおみや たかし</small>

講義の到達目標(ねらい) 家族法の研究上、知っておいてほしいと思われる裁判例を取り上げます。

講義の内容／授業スケジュール 教科書に掲載されている判例と、近年、特に平成になってから、相続法分野で重要な判例が出されていますので、それらを中心に行います。

準備学習 判決全文を読んで出席して下さい。

履修上の留意点 予習が必要です。

成績評価の方法 課題への取り組みや出席状況を総合して評価を行います。

教科書／テキスト 泉久雄他編『家族法基本判例32選』(信山社)2,500円
ISBN4-88261-422-7

履修コード	132801・132802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>おれやま れいこ</small> 大山 礼子

講義の到達目標(ねらい) 演習は、学生が主体的にテーマを決めて、政治学の関連分野についての研究を深めていく場です。本の読み方、資料の扱い方など、基本的な技術を身につけ、論文執筆をめざします。

講義の内容／
授業スケジュール (1～15) 全員で政治学関係の本を読み、内容について討論します。
(16～30) 各自のテーマを研究し、演習Ⅰでは3000～5000字程度のレポート、演習Ⅱでは1万～2万字程度の卒業論文を執筆します。

履修上の留意点 なお、夏休みには御岳山での合宿を予定しています。
演習は受講する学生が中心となってつくっていくものです。受動的な態度では出席する意味がありませんので、積極的な参加を求めます。

成績評価の方法 平常点によります。欠席、遅刻の多い者は成績評価の対象としないので注意してください。

教科書／テキスト 全員で読む本や論文は、参加者と話し合って決定します。

参考書 その都度紹介します。

その他 合宿等、ゼミのイベント時は禁煙です。

履修コード	125721・125722
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>おくむら こうすけ</small> 奥村 公輔

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、憲法学上の論点についての検討を通じて、憲法学への理解を深めつつ、憲法学上の問題点を発見する能力を身につけることを目標とする。

講義の内容／
授業スケジュール 初回の授業において、扱うテーマとその報告者を決定する。2回目以降の授業では、報告者がレジюмеを作成し、報告を行う。その報告をもとに、受講者全員で質疑応答・討論を行う。

準備学 習 報告者は、報告の1週間前にレジюмеを提出する。報告者以外の受講者は、事前にレジюмеに目を通し、各自疑問点を用意してくる。

履修上の留意点 通年で5回以上無断欠席すれば単位を認定しない。

成績評価の方法 平常点による。

履修コード	123901・123902・327201・327202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	金子 昇平

講義の到達目標(ねらい)

講義の内容／
授業スケジュール

本演習においては、行政上の諸制度、行政法規の仕組及び複雑多様な法現象を広範囲にとりあげ、現代のあるべき行政法理論について理解を深めていきたい。

ゼミ生の関心のあるテーマについて、判例研究及び、学術論文の書評を行い、参加者全員と共に、議論をつくしたいと思っている。演習の内容については、例えば、環境の問題、教育の問題、公務員の問題、地方自治の問題、租税の問題、医療の問題、高齢者の問題、福祉の問題等である。

①環境の問題

東京大気汚染事件、熊本水俣病事件、田子の浦ヘドロ事件、大阪空港事件、名古屋新幹線事件、横田基地・厚木基地事件、国道43号線事件、武蔵野マンション事件、国立マンション事件

②教育の問題

学問の自由と学生の自活、ポポロ事件、教育を受ける権利と教育権、私立大学における学生の思想、表現の自由、校則の問題、いじめ事件、学生処分と教育的裁量権、学校事件

③公務員の問題

公務員関係の法的性質、公務員における不利益処分と救済、職員の措置要求権、職員の財産上の権利、安全配慮義務、公務傷病等に対する補償を受ける権利、服務・職務命令と服従義務、職務上の秘密の意義、公務員の労働基本権

④地方自治の問題

地方公共団体の情報公開・直接請求、住民投票、青少年保護育成条例、公安条例、要綱による開発負担金、公営住宅の使用関係、議会と政務調査費、議員の研修旅行、教育委員会の公開原則、住民監査請求、住民訴訟、国民健康保険

⑤租税の問題

租税法律主義の意義、サラリーマン税金訴訟、租税回避行為の否認、所得控除の意義、固定資産税訴訟、消費税、輸入禁止措置と検閲、租税訴訟における文書の提出の申立て

⑥医療の問題

診療記録閲覧請求、予防接種事件、ハンセン病事件、健康食品と医薬品の意義

⑦高齢者の問題

高齢者虐待防止法、高齢者の在宅介護、特別養護老人ホーム、老人保健施設

⑧福祉の問題

生存権と生活保護基準、福祉法にかかる問題

年二回、七月、二月にゼミ合宿を行い、研究の成果を発表し、討論を行う。

年二回、公的施設の見学会を行う。

準備学習

履修上の留意点

毎回、事前にテーマに沿った課題を学習しておくこと。

ゼミ生は、あらかじめ該当する判例、法令等を読みこなして欲しい。六法を持参すること。

判例、論文、法律を知ることだけではなく、現実の社会の実態についても、調査し、国・地方公共団体にアウトプットし、担当者と面会し、取材してもらいたい。

成績評価の方法

教科書／テキスト

その他の

出席(ゼミ、見学会、合宿等)により評価する。

適宜指示する。

発表者は、レジュメを作成し、論点及び、自分の意見を発表する。全員が、議論に参加出来ることを望む。

履修コード	124601・124602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	北野 かのる

講義の到達目標(ねらい)

講義の内容／
授業スケジュール

アメリカ法のさまざまな側面についての理解を深めることを目的にします。

出席者の関心によって、呈示したいくつかのテーマからテーマを絞り込み、相談の上テキストを決めて輪読します。演習の進行具合は履修者の人数と意欲と努力にかかっているので、予め一方的に計画を提示することはできません。

準備学習

輪読がはじまったら、担当者は担当箇所の概要を記したレジュメを毎回作成すること。担当者以外の履修者は指定された箇所を予め読んで理解してから出席すること。

履修上の留意点

演習は出席を重視します。やむを得ず欠席するときは必ず、事前に理由を添えて連絡してください。連絡先はゼミ開始時に教えます。

成績評価の方法

教科書／テキスト

参考書

3年生は平常点・4年生は平常点+卒業研究。

履修者全員で協議のうえ決定します。

決定したテーマ・学習進行による関心の発展に応じて、随時、開示します。

履修コード	125751
科目名	演習 I
担当者名	熊谷 芝青

講義の到達目標(ねらい)

民法は生活と密接に関係します。教科書を読んで理解したとしても、実際の適用例である判例を理解することは、意外と難しいものです。法律を解釈するだけではなく、実際にどのように適用したらよいのかを皆さんと一緒に検討してきましょう。そして、未知の判例に対して、独力で一定の法的論理の組み立てができるようになることまで到達することをねらいとしています。

講義の内容／
授業スケジュール

民法財産法の全分野を対象に、その判例を検討していきます。実際に受講生の実力・興味等により、内容の変更を予定しています。第2回以後発表形式です。皆さんは未知との遭遇となりますので、発表の巧拙をあまり問題にしません。問題にするのは、皆さんのヤル気を含めた受講態度です。回数は目安と考えてください。

前期

- 第1回 判例学習の基本と注意事項
- 第2回 民法90条
- 第3回 錯誤
- 第4回 表見代理
- 第5回 無権代理
- 第6回 時効
- 第7回 物権変動
- 第8回 不動産物権変動と登記
- 第9回 民法177条の第三者
- 第10回 民法94条2項の類推適用
- 第11回 占有と時効
- 第12回 債権の効力
- 第13回 債権者代位権
- 第14回 債権者取消権
- 第15回 拾遺

後期

- 第1回 連帯債務と不申請連帯
- 第2回 保証と債務引受
- 第3回 債権譲渡
- 第4回 弁済
- 第5回 相殺
- 第6回 留置権・先取特権
- 第7回 抵当権の効力の及ぶ範囲
- 第8回 抵当権侵害
- 第9回 抵当権の物上代位
- 第10回 共同抵当
- 第12回 契約締結以前の問題
- 第13回 契約解除
- 第14回 不法行為
- 第15回 拾遺

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

当番以外の出席者も、事案の概要と判旨は事前に読んでおくこと。
発表者のレジュメの他に板書があるので、ノートを持参すること。
平常点で採点する。

参 考 書

- 別冊ジュリスト『民法判例百選I』(第6版)
- 別冊ジュリスト『民法判例百選II』(第6版)
- 加藤=細野『要件事実の考え方と実務』(第2版)(民事法研究会)
- 大島貞一『民事裁判実務の基礎』(民事法研究会)
- 大江忠『要件事実民法』(第一法規)

履修コード	132101・132102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	こぼり のりお 小堀 訓男

講義の到達目標(ねらい) 国家の行動基準について研究する。具体的にはナショナリズムと階級がどのような関係を展開してその国家の行動を決定しているのかをいくつかのケーススタディーを通して考察する。

講義の内容／授業スケジュール ①アメリカ地域研究班 ②東南アジア地域研究班 ③中東地域研究班 ④ヨーロッパ地域研究班 ⑤国際協力研究班 ⑥国際政治理論研究班

準備学習 受講生はいづれかの研究班に所属し1年間の研究スケジュールをもとに共同研究をおこなう。研究成果は各研究班に割り当てられた年間5回の発表の場で報告し、全員で討論する。

履修上の留意点 自分の興味ある研究テーマを決めて、単なる事象の研究だけでなくその事象をひき起こす根底にあるナショナリズムや階級について考察するため、民族・階級・政治権力などについての基礎的な予習を必要とする。

成績評価の方法 各研究班は週に1度か2度の勉強会を予定するので参加する必要がある。
3年生は研究成果と発表・討論における論理的思考の程度で評価する。
4年生は主に卒業論文成果と論文作成過程での取り組み方等を指導しながら評価する。

参考書 年度初めに各研究班に資料の収集の仕方や参考文献を紹介する。

履修コード	125001・125002
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	さとう たみお 佐藤 多美夫

講義の到達目標(ねらい) 刑法を知るためには、犯罪について刑法総論及び刑法各論で修得した基礎的知識を具体的事実当てはめてみることに有用である。しかし具体的事実を刑法の立場から眺めてみることは意外と難しいことであるので、ひとつ一つ、理解を深めながら進めることにする。

講義の内容／授業スケジュール 本演習の目標は結局のところ、具体的な事実に刑法を適用して解決することにある。この目標を達成するためには、事実に含まれている刑法上の論点を抽出してその論点について自己の立場から態度決定して結論を提示する必要がある。一般的に結論には多角的・多面的な見方があり得るので相手の立場・考え方にも耳を傾けそれに対して自己の見解を論理的に主張し説得力のある反批判ができることが必要である。これにより自らの結論の妥当性を検証することができる。

成績評価の方法 判例、事例を素材にして罪刑法定主義、因果関係、不作為犯、違法性、正当防衛、緊急避難、過失犯、責任能力、未遂、共犯、傷害罪、窃盗罪、強盗罪、詐欺罪などを扱う。

教科書／テキスト レポート、発言、出席等を総合評価
刑法の基本書・判例集等 演習時間に適宜紹介する。

履修コード	133101・133102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	しおいり みほも 塩入 みほも

講義の到達目標(ねらい) 行政法上の諸問題をとり上げて、演習を行います。他から教授されるだけの受動的な学問ではなく、判例及び学説を自分なりに分析・検討する作業を通じて能動的に研究し、報告し、且つ他の者と法律学的討論を行えるための能力を鍛錬することを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 当演習は、学生の主体性を重視しているため、毎年度、ゼミの運営方針・内容はゼミ生と話し合っで決めています。但し、取り扱うテーマは、基本的には行政法総則一般、行政訴訟法、行政手続法、情報公開法などの各分野からの選択になります。

履修上の留意点 公務員、行政書士等の国家試験受験者には特に有意義であると思われませんが、それ以外の者でも無論履修可能です。

成績評価の方法 平常点(出席・報告・発言等)により成績評価を行います。

教科書／テキスト 未定

参考書 初回授業の際に紹介します。

履修コード	124501・124502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>たかはし ひろき</small> 高橋 洋城

講義の到達目標(ねらい)

この演習は、法律の解釈論や政策論の基礎となる原理的な議論に関心を持つ学生のために「法哲学演習」として開講するものである。「法学の学習の中で培った知見を応用する」と同時に、それを「哲学や社会科学その他を含む広い文脈のなかで捉えなおすこと」、この両方が本演習の目標であるが、さらに社会科学的文章の扱い方に慣れることや、報告や討論の中で問題を掘り下げる能力の養成も本演習の中で心がけたい。

講義の内容／
授業スケジュール

<基本方針> 1年間を通じて扱う統一テーマを設定して演習を進めていく。とりあげる内容は、現代の法的問題をいくつかえらんで検討していく場合と、古典的文献精読を中心に進める場合と、年度ごとに重点の置き方を変えていく。

本年度の具体的なテーマは演習開始時に相談の上決定するので未定であるが、参考までに過去にとりあげた題材やテーマを紹介しておく。

テーマの一例：配分的正義と福祉国家、公正の概念、平等論、格差社会、所有権論、民主主義、私法の意義、自由論、国家論

購読文献の一例：ミル『自由論』、ロック『統治論』、ドゥオーキン『権利論』、ルソー『社会契約論』、ロールズ『万民の法』

履修上の留意点

<年間スケジュール> 前期は、選定した文献についての報告を軸にし、テーマに関する議論を参加者全員が共有することを目指す。後半は、そこから発展したテーマやさらに議論を深めるための文献を割り当て、より各参加者の関心に引きつけた報告を行なってもらう予定。

<運営方法> 毎回の演習は、報告・質疑・討論の形式で運営する。報告者の他、あらかじめコメントーターを指定する。

<ゼミ論(レポート)> ゼミ終了後1月に、全員にゼミ論の提出を求める。

成績評価の方法

常に積極的に発言すること、おそれずに聞くこと、調べる手間を厭わないことを、演習参加者の姿勢として求める。

平常点(出席、報告および討論における発言を勘案して評価)と全日程終了後提出のゼミ論(レポート)により総合評価する。

教科書／テキスト

演習開講時に提示し、参加者と相談の上決定する。

履修コード	125711・125712・327701・327702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	田中 優企

講義の到達目標(ねらい)

演習テーマ：「刑事訴訟法基本判例研究」

実際に裁判で争われた具体的なケースの研究を通じて、我が国の刑事手続を基礎から理解し、刑事手続の在るべき姿を考えること及び判例の分析と授業での報告を通じて「問題解決のプロセス」の一つを学んでもらうことがこの演習のねらいです。

講義の内容／
授業スケジュール

新年度のゼミの準備と顔合わせを兼ねて、前年度3月にプレゼミを行ないます。プレゼミでは、中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』など複数の文献を用いて、判例の読み方や学び方などを学び、4月からのゼミに備えます。

ゼミでは、『刑事訴訟法判例百選（第九版）』（2011年2月刊行予定）に掲載されている基本判例について、最初は3名1組で、その後は1名で、それぞれ報告してもらい、その報告をたたき台にして、ゼミ生全員で討論・検討を行ないます。報告に際しては、『最高裁判所判例集』に掲載されている判例の原文を丁寧に読み、第一審から上告審までの各判断を整理・検討すると共に、『最高裁判所判例解説』を中心とする判例評釈や関連文献を収集・整理・検討し、当該判例や論点の分析を行なうことが求められます。もちろん、報告者以外のゼミ生も十分な予習が必要です。

また、4年生は、普段の報告に加えて、任意のテーマを一つ選択し、教員の指導の下、資料収集・分析などの準備をした上で、年度末のゼミで報告してもらいます。

夏休みにはゼミ合宿（FA・FB合同予定）を行ないます。また、裁判傍聴を行ない、実際の刑事裁判を通して、我が国の刑事訴訟法の法運用を学びます。

準備学習

憲法の他、1年次及び2年次配当の刑事法科目（刑法総論、刑法各論、刑事政策）を履修・学習していると、刑事訴訟法の理解がより一層、深まります。

履修上の留意点

「犯罪」ましてや「刑事手続」など、自分とはかけ離れた所の話であると考えている人がいるかもしれませんが、日々の犯罪報道などを見れば明らかのように、犯罪は自分の身近な所で発生し、身近な人が被害者となりうるものなのです。また、裁判員制度の導入により、刑事手続に対する国民の理解・関心は高まっています。

「犯罪という社会問題をどのように解決すべきか、犯罪を取り扱う刑事手続はどう在るべきなのかを真剣に深く考えてみたい」ということが必要不可欠な履修条件です。

また、普段のゼミやその他のゼミ活動へ主体的かつ積極的に参加してくれる人を希望します。

なお、ゼミ生は、受講者各自の時間割の都合が許す限り、私の「刑事訴訟法」を同時履修することが望まれます。

成績評価の方法

出席状況、報告内容及び討論内容を総合的に考慮して評価します。

教科書／テキスト

指定しません。

参考書

中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）3150円
井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選（第九版）』（有斐閣、2011年2月刊行予定）2520円（予価）

笠井治・前田雅英編『ケースブック刑事訴訟法（第三版）』（弘文堂、2010年）4515円

井上正仁他『ケースブック刑事訴訟法（第三版）』（有斐閣、2009年）6300円

各年度に出版される『ジュリスト臨時増刊・重要判例解説』（有斐閣）、『最高裁判所判例解説』（法曹会）

その他

素朴な疑問が実は重要な問題であったということとはよくあることです。また、この演習は、みなさんの意見と疑問があって初めて成立します。みなさんの主体的な参加を期待しています。

履修コード	132001
科目名	演習 I
担当者名	田丸 大 <small>たまる だい</small>

講義の到達目標(ねらい)

行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、ディベートや研究発表を行ってもらう。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、成人年齢の引き下げの是非、駅前への放置自転車対策などである。とくにディベートはルールに従って、大量の準備を行う必要があり、また自分の希望しないテーマや立場を取らざるを得ないことが頻繁にあるが、そのような時にこそ、全力で準備して、自らの力を高めて欲しい。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

年間の演習を5回ずつ程度に分けて、ディベートや研究発表を繰り返していきたい。例えば、夏休み前にディベートを2回くらい、研究発表1回くらいできれば十分と考えている。

秋に開催される法学部のゼミ対抗のディベート大会に出場してもらう予定です。そのため、8月から10月は、平日の夕方や夜、休日も自主的に集まり準備を行ってまいります。予備校とのダブルスクール、部活動との両立、アルバイト等は、この時期にはかなり難しくなります。また、ディベート大会で他のゼミと対戦すると、テーマを調整する必要があるため、自分たちの希望するテーマにならないことが通常です。その場合でも、真剣に調べて議論を構築しようとする根気が必要とします。実際にディベートがどのようなものであるかを事前に確認するために、是非、ディベート大会またはマスコミ研究所のディベート大会などを見てください（法律学科の学生には強く勧めます）

教員は、ディベートの資料を配りDVDを見せて多少の解説を加えたりするだけで、細かいことに関してほとんど指示を出さずに、「いつまでに何を準備してくれ」程度のことを、たまにしか言いません。

したがって、ディベートやグループ研究を行う中で、グループごとに時間管理を行い、演習以外の時間に自主的に学生が集まって作業をすることが非常に多くなります。そのような時間外の活動についても、できるだけ出席点に反映するようにします。

講義の場合と比べて、教員の指導が少なく物足りないと感じるかもしれませんが、このように自分たちで作業を行いチームで成果を出すことを通じて、結果的に、大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つながりの友人も作り、グループでの作業を通じてチームで物事を達成する充実感を味わってほしいというのが、担当教員の願いです。

コンパ・合宿を考えていますが、正規の授業の理由を除いては、全員参加とします（出席点として考慮します。）

成績評価の方法
教科書／テキスト

OB会の準備などをお願いする予定です。

平常点による。
特に使用しない。

履修コード	123801・123802
科目名	演習 I 演習 II
担当者名	鶴井 俊吉 <small>つるい しゆんきち</small>

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容／
授業スケジュール

本演習は、金融取引において重要な役割を担う担保制度に関する問題を検討する。

本年度は、担保制度を理解するうえで必要な財産法の基礎的な問題を扱う。その方法は具体的な事案を解決するにあたって、今まで学んできた民法の基本的な原理・原則をどのように活用し、法律構成として妥当な結論に導くかという、問題把握の仕方を重視する。単なる知識を詰め込むというゼミではなく、柔軟な物の考え方でできる頭の訓練をしたい。

履修上の留意点

各自がテーマを設定し、個別報告を行い、それに対する質疑という形式で進めるので、積極的に討論に参加できる意欲ある学生を希望する。

成績評価の方法

課題に対する報告内容とゼミでの平常点で総合評価する。

履修コード	125761
科目名	演習 I
担当者名	^{とがし けいこ} 富樫 景子

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、刑法判例の検討を通じて、以下のことを目標とする。 ・刑法のより深い知識を得て、これを自由に使いこなせるようになること。 ・議論やレジュメ作成において、自分の考えを言葉で明確に表現できるようになること。 ・他者と論理的な議論を行えるようになること。
講義の内容／ 授業スケジュール	(～初回まで)：刑法総論あるいは各論上の興味のあるテーマを3つ確定しておく。 初回：演習の方法・進行についての説明と報告の方法・順番などを決定する。 2回目以降：報告者は演習当日の1週間前までにレジュメを作成・配布し、当日はそのレジュメをもとに受講者全員で討論を行う。
準備学習	・刑法総論・各論の基礎知識があることが前提の演習である。ゼミ開始前までに各自、刑法の勉強を行っておくこと。 ・ゼミ初回までに、自分の興味のある刑法総論・各論上のテーマないし判例を3つ確定しておくこと。
履修上の留意点	本年度の報告テーマ・判例を決定していく資料となる。 ◎ゼミに欠席する際には、必ず連絡すること。 ・初回のゼミに無断欠席した者は、その後のゼミへの参加を認めないことがある。 ・2回目以降も、無断欠席があった場合は、単位を認定しないことがある。 ◎刑法総論の基礎学習を一通り終えていることが望ましい。終えていない者は、積極的に学習する意欲がある場合に限って、参加を認める。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	提出されたレジュメ、演習への参加態度、発言内容などを総合的に評価する。 演習時間内に指示する。 演習時間内に指示する。

履修コード	122701・122702・326901・326902
科目名	演習 I 演習 II
担当者名	^{なかた ひでゆき} 中田 英幸

講義の到達目標(ねらい)	本演習の目的は、財産法(民法総則・物権・債権)に関する判例を素材として、民法の解釈を学習することにある。紛争が発生した経緯を理解し、望ましい結論(法的判断)を考えることにより、法の運用を学び、法的思考を養う。
講義の内容／ 授業スケジュール	(3年生)前期は、財産法に関する基本判例を演習の素材とする。演習参加者は、初回到報告する判例を選び、報告前にレジュメの配布・参考文献の指定をする。後期は、最近の判例を演習の素材として前期と同じく報告をする。演習の進め方は前期と同様である。なお、報告者は、演習での質疑応答を踏まえたレポートを作成する。 前期・後期ともに、適宜基礎知識の確認を行う。 (4年生)卒業レポートの作成を目標とする。自ら法的課題を見出し、学説・判例などそれに関する資料を集め、検討を加え、自らの結論を導く。演習において卒業レポートの中間報告を行う。
履修上の留意点	以上の内容は、演習参加者の希望や参加人数によって変更することがある。 民法に興味を持ち、勉強する意欲があることが大前提である。
成績評価の方法	必ず毎回出席し、積極的に発言すること。 報告内容、演習での発言、レポートにより評価する。発言は、結論よりも、結論に至るまでの理由づけや思考過程を重視する。
参 考 書	演習にて適時指示する。

履修コード	124401
科目名	演習 I
担当者名	^{なかほら よしあき} 中濱 義章

講義の到達目標(ねらい)	商法の重要問題を検討することを通じて、法制度の理解を深めると同時に、社会的事実から法的問題を抽出し、法的に分析し論理展開するための基礎的な力を身につけることを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	商法、会社法、手形法・小切手法など広義の商法に関する重要判例研究または事例研究として毎回一つのテーマを取り上げ、報告者による報告の後、全員で討議します。 参加者の希望によっては、前期に基礎的理解のための簡単な問題演習を行います。
履修上の留意点	夏のゼミ合宿やゼミ対抗の討論会など、毎週の授業時間以外を利用した行事も予定しています。 参加者は、自分が発表を担当しないときでも、積極的に発言するようにして下さい。演習では出席を重視します。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席と議論への参加態度、報告の内容で評価します。 必要に応じて資料を配付するほか、適宜指示します。

履修コード	132701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	早川 純貴

講義の到達目標(ねらい) 当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。

講義の内容／授業スケジュール 当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成23年度の前期・統一テーマは「日本の外交問題とその交渉過程」である。ある外交事件（沖縄返還交渉、日米経済摩擦、韓国、中国、ロシアとの領土問題、通貨・為替問題、農産物自由化交渉など）が生じ、それに政治的対応がなされた場合、それはどんな対応だったのか、その対応は妥当であったか、否か。他に選択肢はなかったのか。対応に当たった政治家、行政官僚（主として外務省）は何を考えたのか。あるいは、その外交政策がその後の日本社会や政治、経済にどう影響したのか。こうした問題を解き明かすことで日本の政策決定の本質に迫ることができるであろう。

履修上の留意点 当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。

成績評価の方法 個々人の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。

教科書／テキスト 教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

履修コード	123501・123502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい) 社会保障法の体系的理解を深めるとともに、ゼミでの報告・議論を通じて問題発見能力・法的思考力を養うことを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール 本演習では、施設見学やインタビュー調査などを通じて社会保障の実態を体感しながら、社会保障法の各部門の基本的な体系と現状、法解釈上の論点及び立法論上の課題を法律学の視点から検討する。

履修上の留意点 演習Ⅰ（3年次）では、社会保障法の体系的理解を深めるとともに、1年を通じて検討する社会保障に関する法的問題を設定し、ゼミ全体で取り組む。検討の成果は、ゼミ論文集としてまとめる。次いで、演習Ⅱ（4年次）では、受講生各自の問題関心に沿ってゼミ論文を執筆し、ゼミ論文報告会を行うとともに、ゼミ論文集としてまとめる。

成績評価の方法 「社会保障法」及び「社会政策」を必ず受講すること。

教科書／テキスト 平常点による。

参考文献 労働調査会出版局（編）『社会保障法令便覧 2011』（労働調査会、2011年）

その他の他 適宜紹介する。

ゼミ合宿（夏期・冬期）やコンパ、OB・OG会への参加を通じてゼミ生間の交流を深め、社会保障に大切な支えあいの絆を築いてもらうことも大切にしている。

履修コード	327801・327802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい) 社会保障制度のうち医療・介護制度に関する法的理解を深めるとともに、ゼミでの報告・議論を通じて問題発見能力・法的思考力を養うことを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール 医療関係法（医事法を含む）・介護関係法を中心に、これらの最新重要裁判例及び重要文献を取りあげ、その問題について検討を行う。報告者は分担して裁判例及び文献の報告のためのレジュメを作成し、それをもとに報告する。参加者は報告者の報告をもとに議論をする。

履修上の留意点 報告者以外の参加者にも積極的に議論に参加してもらうため、判例・文献を熟読し、準備をしておくこと。

成績評価の方法 「社会保障法」を必ず受講すること。

教科書／テキスト 平常点による。

参考文献 ・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2008年）

・労働調査会出版局（編）『社会保障法令便覧 2011』（労働調査会、2011年）

適宜紹介する。

履修コード	123601・123602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	ふじもと しげる 藤本 茂

講義の到達目標(ねらい)

わが国雇用社会は、経済構造の変化に伴う雇用システムの変容、少子高齢社会の到来、労働者意識の多様化などにより大きく変わりつつあります。最近の労働基準法改正、労働契約法制定・施行など多くみられるのもその表われです。

演習は、この現代労働法の対象である雇用社会を知り、今までの労働法理の基礎を自ら学びとる場です。

到達目標は、自らの関心事を自ら調べ読み学び理解を深め理解したところを発表し、議論を通じて理解してもらうことです。

講義の内容／
授業スケジュール

本演習では、テーマを各自受講生が関心のあるところから、自ら選択し勉強し、理解を深め、発表し、議論する方法をとっています。特に発表し議論するところに重点を置いています。ということは、その準備に時間をかけなくてはなりません。次の授業時間までにどのくらい時間を割いたかにより成果はまったく違ってきます。

夏季には研究合宿を行ないます。

以下、大まかですが、スケジュールを掲げます。

第1回 ガイダンス 演習の進め方、新聞等による労働問題の現状を知る

第2回 判例を素材にしたテーマ報告の仕方の説明

第3回 グループ編成と各グループのテーマ決定

第4回 4年生による報告の例 報告準備の仕方、レジュメの作成を知る

第5回 第1グループによる報告① 問題意識、素材にした判例の事実の概要と判旨

第6回 第1グループによる報告② 法的論点を中心にした報告、質疑・討論

第7回 第1グループの報告・討論をもとにして準備等の検証

第8回以降、第5回、第6回のような内容で順次、報告・質疑・討論を第15回まで実施

夏季研究合宿 経験的に、合宿テーマの報告準備・グループ内での準備と討論そして合宿での報告、質疑・討論が演習とはどういうものかを各自が理解するいい機会となっているようです。

後期(第16回～第30回) 前期・夏季研究合宿での経験を踏まえて、前期のような報告を実施します。

準備学習

4月授業開始前に、3回ほど課題を提出してもらいます。通常授業時の準備学習は、予めどのようなテーマの報告がなされるかはみんな知っていることなので、ここに書くまでもないことですが、報告者以外の者は、当該テーマの予習を判例百選や教科書を読んで、質問事項を用意しておくことです。報告者が準備をしてもらうことは言うまでもありません。

履修上の留意点

演習のいいところは、大いに勉強し、恥をかくところにあります。出席は大前提。評価はそのあと。ゼミ運営や懇親会にも積極的に関わることが大切だと考えています。

講義科目として、労働法はもとよりのこと、憲法、民法総則、債権総論・各論、社会保障法、社会政策は、ぜひとも、履修してください。

成績評価の方法

出席、積極的発言、ゼミ運営への積極的参加など。平常時の積極的な姿勢で評価します。追試はありません。

教科書／テキスト

授業は調べてきたところを報告するのですから、講義の時のテキストではありません。以下に書いてあるのは、あくまで、自分(たち)が勉強するテーマの周辺・基礎の知識を得るための概説書と心得てください。

金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法[第2版]』(エイデル研究所 2010)

菅野和夫著『労働法』(弘文堂)

労働判例百選

労働法の争点

など

参考書

必要に応じて、〈調べ方〉を教えます。参考書というより法律雑誌の論文等が重要になります。自分で探すことが勉強の第一歩と思っています。

履修コード	327101・327102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	ふじもと しげる 藤本 茂

講義の到達目標(わらい)

わが国雇用社会は、経済構造の変化に伴う雇用システムの変容、少子高齢社会の到来、労働者意識の多様化などにより大きく変わろうとしています。最近の労働基準法改正、労働契約法制定・施行などはその表われです。この現代労働法の対象である雇用社会を知り、今まで形成されてきた労働法理の基礎を自ら学びとる場が演習だと思っています。したがって、その到達目標は、自ら調べ読み理解しまとめてレジメを作り発表し議論をする、これを通して、基礎的知識を身につけるとともに、発表すること理解してもらうことの難しさを学びとり、自らの立ち位置を理解することが目標です。本演習では、テーマを各自受講生が関心のあるところから、自ら選択し勉強し、理解を深めたところで発表し、議論する方法をとっています。特に発表し議論するところに重点を置いています。

講義の内容／
授業スケジュール

夏季には研究合宿を行ないます。

以下、大まかですが、スケジュールを掲げます。

- 第1回 ガイダンス 演習の進め方、新聞等による労働問題の現状を知る
- 第2回 判例を素材にしたテーマ報告の仕方の説明
- 第3回 グループ編成と各グループのテーマ決定
- 第4回 4年生による報告の例 報告準備の仕方、レジメの作成を知る
- 第5回 第1グループによる報告① 問題意識、素材にした判例の事実の概要と判旨
- 第6回 第1グループによる報告② 法的論点を中心にした報告、質疑・討論
- 第7回 第1グループの報告・討論をもとにして準備等の検証
- 第8回以降、第5回、第6回のような内容で順次、報告・質疑・討論を第15回まで実施

夏季研究合宿 経験的に、合宿テーマの報告準備・グループ内での準備と討論そして合宿での報告、質疑・討論が演習とはどういうものかを各自が理解するいい機会となっているようです。

後期(第16回～第30回) 前期・夏季研究合宿での経験を踏まえて、前期のような報告を実施します。

準備学習

4月授業開始前に課題を提出してもらいます。テーマは事前に知らせます。通常授業時の準備学習は、予め報告するテーマが報告者(グループ)より知らされていますので、当該テーマの予習をすることが、報告者(グループ)以外の者に課せられます。そして質問事項を用意しておくことです。

履修上の留意点

演習のいいところは、大いに勉強し、恥をかくところにあります。出席は大前提。評価はそのあと。ゼミ運営に積極的に関わることも大切だと考えています。

成績評価の方法

講義科目として、労働法はもとよりのこと、憲法、民法総則、債権総論・各論、社会保障法、社会政策は、ぜひとも、履修してください。

出席、積極的発言、ゼミ運営への積極的参加など。平常時の積極的な姿勢で評価します。追試はありません。夏季に研究合宿を実施します。

教科書／テキスト

各自が選んだテーマを勉強し報告するうえで、以下の書物は、周辺・基礎的知識を提供してくれます。

金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所2010)。

参 考 書

労働判例百選

労働法の争点

必要に応じて、〈調べ方〉を教えます。参考書というより法律雑誌の論文等が重要になります。自ら探し集め読みまとめることが勉強の第一歩と思っています。

履修コード	125031・125032
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	まつむら いたる 松村 格

講義の到達目標(ねらい)	刑法総論の講義で学習したことを基礎にして、具体的な問題をどのように解決すれば、刑法の使命(法益保護・人権保障・秩序維持)および原理原則(罪刑法定主義・責任主義・謙抑主義)にどうかを考えることを目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	前期の前半に、刑法総論の基本的事項について総復習します。毎回全員に質問することによって、刑法総論の理解度を確認します。前期の後半以降は、各人が最も関心のある問題点ないし争点を選び、それについて研究したことを発表し、各人の質疑応答によって研究を深めていきます。
準備学習	(1)研究発表者のテーマについて、各自が判例・学説を下調べして発表者に対する質問・批判点を考えてくる必要があります。 (2)発表者は、研究テーマについての判例・学説を十分に検討し、自分独自の考えを練り上げてください。 (3)発表者は、自分の研究発表のレジュメと必要な判例要旨や学説のコピーをゼミ生の人数分を用意して配布してください。
履修上の留意点	刑法総論の単位を取得していなければ履修することはできません。毎週、基本書・参考書・判例解説書・六法全書・ノートを携帯して出席してください。参加することが不可欠ですから、理由なき欠席は許しません。毎回必ず何らかの意見を(その是非・妥当性は別として)主張することが重要です。
成績評価の方法	普段の授業における予習・復習の内容、質疑応答回数と内容、研究発表の内容によって評価します。試験はしません。
教科書／テキスト 参考書	別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅰ 総論【第6版】』有斐閣 松村・都築・神田・野崎共著『刑法総論』ミネルヴァ書房(3800円)

履修コード	327501・327502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	まつむら いたる 松村 格

講義の到達目標(ねらい)	刑法総論の講義で学習したことを基礎にして、具体的な問題をどのように解決すれば、刑法の基本原則・原則および刑法の使命にどうかを考えることが目的です。
講義の内容／授業スケジュール	前期の前半で刑法総論の基本的事項について総復習します。毎回全員に質問することによって、刑法総論の理解度を確認します。前期の後半以降は、各人が最も関心のある問題テーマを選び、それについて研究したことを発表し、各人の質疑応答によって研究を進めていきます。
準備学習	(1)研究発表者のテーマについて、各自が判例・学説を下調べして、発表者に対する質問点と批判点を考えてきます。 (2)発表者は、研究テーマについての判例・学説を十分に検討し、自分の主張すべき見解を練り上げます。 (3)発表者は、研究テーマのレジュメと必要資料のコピーをゼミ生の人数分用意して配布してください。
履修上の留意点	刑法総論の単位を取得していなければ履修できません。毎週、基本書・参考書・判例解説書・六法全書・ノートを携帯して出席してください。参加することが前提条件の授業ですから、理由のない欠席は認めません。毎回必ず何らかの意見を主張することが重要です。
成績評価の方法	毎回の授業における予習・復習の有無、質疑応答の回数と内容、研究発表の内容によって評価します。試験はしません。
教科書／テキスト 参考書	自分の基本書と判例解説書(別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅰ 総論【第6版】』) 松村・都築・神田・野崎共著『刑法総論』ミネルヴァ書房

履修コード	124301・124302
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	間瀬 <small>まがせ</small> 清史

講義の到達目標(ねらい)

この演習は、参加者が民事訴訟法の講義で修得した基礎的知識の幅を広げ且つその理解度をより一層深めることを目的とします。民事訴訟理論の緻密さとダイナミックさとを体得してもらいたいと考えています。

講義の内容／
授業スケジュール

民事訴訟法に関する重要判例の中から毎回1～2を選んで、報告者による報告と参加者全員での討論を行います。検討の対象とされる判例は、リーディングケースとなった古典的な判例から新聞報道されたばかりの最新判例にまで及ぶこととなりますが、各報告者の希望を尊重したうえで決定されます。また、法廷見学または各種施設（文化施設を含む）の訪問も予定しています。

授業スケジュールとしては、例えば、第1回 オリエンテーション、第2回 当事者能力に関する判例、第3回 法律上の争訟に関する判例、第4回 当事者の確定に関する判例、第5回 当事者適格に関する判例、第6回 土地管轄と移送に関する判例、第7回 国際裁判管轄に関する判例、第8回 外国判決の承認・執行に関する判例、第9回 重複訴訟の禁止に関する判例、第10回 法廷見学(傍聴)または各種施設(文化施設を含む)の訪問、第11回 確認の訴えの利益に関する判例、第12回 給付の訴えの利益に関する判例、第13回 形成の訴えの利益に関する判例、第14回 処分権主義に関する判例、第15回 境界確定訴訟に関する判例、第16回 主張責任に関する判例、第17回 裁判上の自白に関する判例、第18回 証明責任の分配に関する判例、第19回 文書提出命令に関する判例 金融機関の貸出稟議書、第20回 法廷見学(傍聴)または各種施設(文化施設を含む)の訪問、第21回 無断録音テープの証拠能力に関する判例、第22回 既判力の時的限界に関する判例、第23回 既判力の客観的範囲および争効に関する判例、第24回 既判力の主観的範囲に関する判例、第25回 必要的共同訴訟に関する判例 原告側、第26回 必要的共同訴訟に関する判例 被告側、第27回 参加の利益に関する判例、第28回 訴訟告知の効力に関する判例、第29回 独立当事者参加に関する判例、第30回 上訴に関する判例等が考えられます。(授業回数が30回の場合)

準備学習

取り上げられる判例については、判例集、参考書、雑誌および新聞等で各自事前に準備をしておく必要があります。

履修上の留意点

演習参加者には、毎回予習のうえ出席すること、主体的に演習に参加すること、および積極的に発言することを期待します。

成績評価の方法
教科書／テキスト

演習参加度（出席態度、報告内容、主体性、積極性等）に基づいて行います。
小林秀之編『判例講義 民事訴訟法(第2版)』（悠々社）2010年、3500円（税別）。
名津井吉裕ほか著『民事訴訟法』（法学書院）2007年、3200円（税別）。

参考書

『民事訴訟法の争点』（有斐閣）2009年、2400円＋税。
『民事訴訟法判例百選 [第4版]』（有斐閣）2010年、2800円＋税。
『法学講義 民事訴訟法』（悠々社）2006年、4000円＋税。

その他

判例集、雑誌および新聞等については、その都度指示・紹介します。
この演習を履修する者は、少なくとも民事訴訟法の講義を同時並行的に履修してください。
また、民事実体法、とりわけ民法についてある程度の理解に達していることが履修の前提となります。

履修コード	132401・132402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	三竹 ^{みたけ なおや} 直哉

講義の到達目標(ねらい) 比較政治学分野の専門文献の読解を通じて、比較政治学関連のトピックについて理解を深める演習です。

講義の内容／授業スケジュール 前期後期それぞれに1冊ずつ、比較政治学分野の専門文献を輪読していきます。

準備学習 今年度は、日本の多文化状況についての学習の一環として、新宿大久保地区で活動している団体のフィールドワークに参加する計画です。

履修上の留意点 毎回各自で取り組むべき課題が出ます。

応募する前に《必ず》メールで相談してください。向いていないゼミに応募してしまうと、ゼミを履修するチャンスを失ってしまう可能性があります。

4年次にもしっかり勉強し、専門性を高めたい人のためのゼミです。4年次は出席しなくてもよいなどという方針はとっておりません。その他にも条件がありますので、応募前に相談してください。法律学科から応募する方は特に注意が必要です。必ず応募前に相談してください。

詳しい案内は、YeStudyに掲載してありますので、そちらを参照してください。また、在籍中のゼミ生やゼミ卒業生に直接話しを聞きたいければ紹介します。見学も歓迎します。

成績評価の方法 学期末に行う自己評価プレゼンにより、100満点で自己評価します。

教科書／テキスト たくさんあります。その都度、指示します。(買わなければいけないものは多くありません。)

その他の 他 mitake@komazawa-u.ac.jp

最新の情報はYeStudyで確認してください。

履修コード	133401・133402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	三船 ^{みふね えみ} 恵美

講義の到達目標(ねらい) 現代の国際関係について自分自身の視角を形成し、それを報告しながら討論することを学ぶのが、本ゼミの目的です。複数の学生全員が同じ考え方をすることはあり得ません。異なる考え方の学生が集まり、異なる価値観に対して排他的になることなく、しかも単なる「仲良し関係」では終わらない知的緊張関係の中で、対立するところは対立し、評価できるところは評価しあうことを学びましょう。自分の意見を単純に主張するだけではゼミに参加する意義がありません。議論は言い争うことと本質的に異質なものです。議論することで自分の意見を主張したり異なる意見を受け入れ、自分の考え方を鍛えるためにゼミは存在します。

講義の内容／授業スケジュール 前期の第一日目で前半のスケジュールを、前期最終ゼミで後半のスケジュールを、ゼミ生が作成します。

準備学習 新聞の国際面を毎日読みましょう。

履修上の留意点 講義と異なり、ゼミは学生が主体になって運営します。緊張感を失わないで、でも、楽しい、笑顔の絶えないゼミを目指しましょう。

成績評価の方法 報告・討論・レジュメの質、議論に対する貢献などの総合評価です。

教科書／テキスト なし

参考書 授業中に適宜紹介します。

履修コード	131901・131902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	やなせ のぼる 柳瀬 昇

講義の到達目標(ねらい)

この演習は、日本国憲法の解釈論を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。

憲法は、国家統治の組織・作用の基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。この演習では、日本国憲法の解釈論上の基本概念について、徹底的な理解を図る。そのうえで、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、担当者の指導の下、研究を行う。

憲法は、国や地方公共団体等の公務員試験の受験科目であるので、公務員を志望する学生は、憲法を学習する際のペースメーカーとして、この演習を活用することができるであろう。もちろん、研究機関や民間企業等に就職する学生にとっても、この演習では、憲法の解釈論を通じて、人間や社会についての法学的な分析を行うので、さまざまなことを学び、総合的な人間力を高めることができるだろう。いずれにせよ、意欲的な学生の主体的かつ能動的な参加を期待している。

3年次には、日本国憲法の解釈論について、ソクラテック・メソッドにより、徹底的な理解を求める。

前期には、憲法解釈論上の基本概念について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。夏合宿では、憲法学の現代的課題を1つ取り上げ、議論を行う(全員参加)。後期は、憲法判例を素材として、憲法解釈論上の諸問題について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。

4年次には、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、卒業論文等の制作に取り組むものとする。

前期は、公務員試験の受験、民間企業への就職、法科大学院等への進学など、各自の進路に関する活動に取り組んでもらうが、それと並行して個別指導を行う。7月半ばまでには、卒業研究で取り組むテーマを決め、後期は、論文等の構想を逐次報告する。12月第1週に論文を提出する。

3年次の前期は、あらかじめ示した論点に沿って、後期は、配布された判例を踏まえて、受講者各自による綿密な予習を行ったうえで、演習に臨みたい。4年次は、卒業研究に専心するほか、可能な限り演習に出席されたい。

演習Ⅰと演習Ⅱは継続して履修することを原則とする。

基本的には、毎回、演習に参加を求める。この演習に関する活動(合宿等も含む)を欠席する場合には、正当な理由を示して、担当者に事前に申し出られたい。

演習への参加状況に基づき、総合的に評価する。

特に指定しない。

どの出版社のものでもかまわないので、六法(法令集)は、必ず携行されたい。なお、六法については、第1回の演習で説明する。

担当者が執筆した憲法学に関する概説書として、佐々木幸寿・柳瀬昇『憲法と教育〔第2版〕』(学文社、2009年)などがある。

担当者は、憲法学及び立法政策論を専攻している。公法学及び政治学の領域で昨今きわめて注目されている討議民主主義(deliberative democracy)理論の精緻化と、その実践モデルの諸相について、これまで研究を進めてきた。授業担当者の代表的著作として、柳瀬昇『裁判員制度の立法学——討議民主主義理論に基づく国民の司法参加の意義の再構成』(日本評論社、2009年)がある。関心があれば、参照されたい。

その他、適宜、演習の中で紹介する。

授業担当者は平成22年度に赴任し、このゼミも募集を始めたばかりである。学期はじめや終わりに懇親会を行ったり、夏などに合宿を行うなど、さまざまな行事を予定している。ゼミ生は、自ら積極的にゼミの活動を企画し、参加してほしい。

この演習を通じて、学生には、生涯にわたって付き合えるような仲間づくりをしてほしいと担当者は考えている。

講義の内容/
授業スケジュール

準備学習

履修上の留意点

成績評価の方法
教科書/テキスト

参 考 書

そ の 他

履修コード	125731・125732
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	よしだ じゆんぺい 吉田 純平

講義の到達目標(ねらい)

本演習は、民事訴訟法の重要論点について議論することを通じて、同法への理解を深めるとともに、調査、報告(プレゼンテーション)、討論の能力を高めることを目的とする。

演習の内容は、受講者の関心に従う。

形式は、重要判例・最新判例に関する報告及びそれについての討論を行うものや、原告、被告側に分かれて行うディベート方式を予定している。

民法・民事訴訟法関連授業の履修が望ましい。

議論への参加態度による。

適宜指示する。

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点

成績評価の方法

参 考 書

履修コード	132201
科目名	演習Ⅱ
担当者名	相田 ^{あいだ としひこ} 敏彦

講義の到達目標(ねらい)

一言でいえば、マスコミ、広告・広報、情報化がゼミのテーマである。マスコミは興味深いだけでなく、政治学の根底にかかわる領域である。テレビCMを含め、広告・広報はどんな企業・組織体にとっても重要な問題であり、実社会とつながりの深い実践的テーマである。パソコン・ケータイ・インターネットに象徴される情報化の急速な進行も、身近な生活から企業内までおよんでいる。メディア・広告・情報化の3領域のなかから、各自に、またグループ単位に好きなテーマを選択し、資料調べ・発表・討論などを行ないながらまとめてゆく。合宿やふだんの授業で友人との親しさが増すだけでなく、人前での発言・発表能力、ものを書きまとめる能力を2年次より一層高め(ゆったり・楽しく・着実に)進展・燃焼する場としてのゼミにしたい。当ゼミの特徴を一言でいえば、おもしろさプラス実践性の高い役に立つ知識の習得プラスコミュニケーション能力の向上である。前期：ゼミ論文のテーマを決める(4年生)。後期：ゼミ論文の書き方を学び、執筆・完成して1冊のゼミ論文集を作る(4年生)。平常点。

講義の内容
授業スケジュール
成績評価の方法

履修コード	124101
科目名	演習Ⅱ
担当者名	竹中 ^{たけなか ちか} 智香

講義の到達目標(ねらい)

民法第4編の「親族」と第5編の「相続」は私たちの生活に最も身近な家族生活を規制する法律です。私たちの家庭生活を取り巻く環境は、「家制度」の存在とその解体、高度・低度経済成長期やバブル前後の経済的变化、少子化・超高齢化、女性の社会進出、戦前の家督相続から庶子均分共同相続への変遷、近年増加してきた遺言制度の利用等々に対して、日々刻々と変化しつつあります。このような変化に対して親族法・相続法がどのように対応しているか、どのような限界があり、どのように改善を図るべきなのかについて、判例を題材にして、毎回学生諸君に報告をしてもらい、その報告をもとに参加者全員で検討・考察します。こうした作業を通して報告の仕方、議論の仕方、法的考察力等の取得を目指します。

講義の内容
授業スケジュール

[前期] 親族法における問題点 (15回分)
[後期] 相続法における問題点 (15回分)

履修上の留意点

なお、どの判例を検討するかは、報告する学生諸君各々が選んで決めていきます。講義とは違い、少人数で行う演習は、ゼミ生同士あるいはゼミ生と教員との議論が可能で、こうした議論をより活発に行うために、報告者だけではなくゼミ生全員の十分な準備とともに、毎回の出席することが必要不可欠となります。

成績評価の方法
教科書/テキスト

報告の内容の評価以外に、毎回の出席と、出席時の参加状況等を考慮して、総合的に評価します。『家族法判例百選 [第7版]』(有斐閣)
大村敦志『もうひとつの基本民法I』(有斐閣)
内田 貴『民法IV 親族・相続』(東京大学出版会)

参 考 書

履修コード	132011
科目名	演習Ⅱ
担当者名	田丸 ^{たまる だい} 大

講義の到達目標(ねらい)

行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、各自でテーマを設定し、発表及び短めの論文を作成してもらおう。可能であれば、2年生の基礎演習、3年生の演習との交流の機会ももちたい。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、駅前の放置自転車対策、官僚の天下り、振り込め詐欺などバラエティに富む。前期にテーマの選定と骨子の作成、後期に発表及び論文の作成を行えばと考えている。

講義の内容
授業スケジュール
履修上の留意点

大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つながりの友人も作ってほしいというのが、担当教官の願いです。

成績評価の方法
教科書/テキスト

OB会の準備、2年生や3年生の指導などをお願いする予定です。平常点による。就職活動期間中については、考慮します。特に使用しない。

履修コード	124451
科目名	演習Ⅱ
担当者名	なかほま よしあき 中濱 義章

講義の到達目標(ねらい) 商法の重要問題を検討することを通じて、法制度の理解を深めると同時に、社会的事実から法的问题を抽出し、法的に分析し論理展開するための力を身につけることを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール 商法、会社法、手形法・小切手法など広義の商法に関する重要判例研究または事例研究として毎回一つのテーマを取り上げ、報告者による報告の後、全員で討議します。
最新の裁判例や時事問題など、まだまだ議論されていないような事柄についても、みんなで考える機会を設けたいと思っています。

履修上の留意点 参加者は、自分が発表を担当しないときでも、積極的に発言するようにして下さい。演習では出席を重視します。

成績評価の方法
教科書／テキスト 出席と議論への参加態度、報告の内容で評価します。
必要に応じて資料を配付するほか、適宜指示します。

履修コード	133001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	はやかわ よしき 早川 純貴

講義の到達目標(ねらい) 当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。

講義の内容／
授業スケジュール 当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成23年度の前期・統一テーマは「日本の外交問題とその交渉過程」である。ある外交事件(沖縄返還交渉、日米経済摩擦、韓国、中国、ロシアとの領土問題、通貨・為替問題、農産物自由化交渉など)が生じ、それに政治的対応がなされた場合、それはどんな対応だったのか、その対応は妥当であったか、否か。他に選択肢はなかったのか。対応に当たった政治家、行政官僚(主として外務省)は何を考えたのか。あるいは、その外交政策がその後の日本社会や政治、経済にどう影響したのか。こうした問題を解き明かすことで日本の政策決定の本質に迫ることができるであろう。

履修上の留意点 当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではイベントやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。

成績評価の方法
教科書／テキスト 個々人の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。
教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

履修コード	124001・327911
科目名	演習Ⅱ
担当者名	むかいだ まさみ 向田 正巳

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、判例研究を通じて、民法を基礎から学びます。民法の基本判例を読みながら民法における基本的なものの考え方、法的思考の基本を学び、演習参加者が裁判実務、ビジネス法務実務、行政実務等それぞれの進路においてその知識を活かす術を学ぶことが目標です。

講義の内容／
授業スケジュール まず判例百選等でとりあげられるような基本判例を読みながら民法の基礎的な論点を学習し、それを通して判例の読み方、教科書のまとめ方、論文などの資料調査と研究報告の方法について学びます。次に10月くらいからになりますと思いますが、最高裁判所民事判例集等から最新の判例をゼミのグループ単位で選び、判例のなかから民法解釈論上の論点を抽出し、従来の学説、判例に照らし合わせながら検討するという作業を行います。最後に時間があれば参加者が各自、関心のあるテーマにつき個別に報告、レポートを提出してもらいます。

履修上の留意点 民法の基礎をしっかりと学び、民法の学習を将来の自己の進路希望に役立てることを真剣に考えている学生の演習参加を希望します。
出席、発表、議論参加などから総合的に評価します。無断欠席は厳に慎んでください。
演習の始めに指示します。

成績評価の方法
教科書／テキスト
その他 コンパ、合宿を予定しています。

履修コード	115301
科目名	会社法
担当者名	あらき まさたか 荒木 正孝

講義の到達目標(ねらい)

【注意】この講義を選択できるのは、法律学科の2年生で学生番号LK0001番からLK0200番までの学生と法律学科の3年生以上のすべての学生です。

講義の内容
授業スケジュール

この講義では、会社法(株式会社、持分会社(合名会社、合資会社、合同会社))の基本的かつ重要な事項について解説することを目的とするが、なかでも、現代の経済活動において最も大きな役割を果たしている株式会社の法規制について一年の大半の時間を割いて説明するつもりである。

大企業から零細企業まで多くの企業が株式会社の形態をとり、株式会社が現代の経済活動の主たる担い手として多数の人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的な機能を通して国民の日常生活に大きな影響を与えている。

この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などに関する私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこにおける基本的かつ重要な問題を取り上げて解説し、また判例や実務の対応なども検討し、会社法の基本的な考え方を理解してもらうことを目的とする。

平成18年5月1日に「会社法」が施行された。この会社法は、従来片仮名文語体で表記されていた商法第二編、有限会社法、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律について平仮名口語体化して一つの法典にまとめたものであり、かつ近年、毎年のように行われていた法改正を全体的に調整し、社会情勢の変化に対応するために各種制度の見直しを行うものである。

今年、この新会社法について、株式会社の設立の概要、設立の手続き、発起人の意義、設立中の法律関係、設立の無効、設立の登記、設立関与者の責任などについて説明し、株式制度については、株式の意義、株式の内容・種類、株式の流通、株主の権利、自己株式、株式の併合・分割・無償割当、単元株制度などに触れ、会社の管理・運営については、機関の意義、株主総会、会社役員を選任・解任、取締役、取締役会、代表取締役、監査役・監査役会、委員会設置会社、役員損害賠償責任などについて、時間の許す限り解説する。

準備学習

授業の終了時に次の授業で取り扱う個所を言いますので、その部分をあらかじめ読んでおくと授業がよく理解できるでしょう。

履修上の留意点

会社法で使われる法概念の多くは、民法の財産法のそれを前提としているから、民法総則、物権法、債権法などの知識があると比較的理解が容易である。ただ、これらの知識が不十分でも、講義の内容を理解するために必要な民法の知識や基本概念については、その都度説明するつもりなので、民法=財産法について十分な知識がなくても受講には差し支えない。ただし、教場には、必ず最新の六法を持参し、指示に従って常に参照する必要がある。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

成績は、年度末に行なわれるペーパーテストの点数で評価します。

教科書は、授業の初めに指示します。

江頭・岩原・神作・藤田編『会社法判例百選(別冊ジュリストNO.180)』(有斐閣)

履修コード	323501
科目名	会社法
担当者名	あらき まさたか 荒木 正孝

講義の到達目標(ねらい)

この講義では、会社法(株式会社、持分会社〈合名会社、合資会社、合同会社〉)の基本的かつ重要な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において最も大きな役割を果たしている株式会社の法規制について一年の大半の時間を割くつもりである。

講義の内容/
授業スケジュール

大企業から零細企業まで多くの企業が株式会社の形態をとり、株式会社が現代の経済活動を担い、多数の人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的な機能を通して国民の生活に計り知れない影響を与えている。この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などに関する私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこにおける基本的かつ重要な問題を取り上げて解説し、また実務の対応なども検討して、会社法の基本的な考え方を理解してもらうことを目的とする。

履修上の留意点

平成18年5月1日に「会社法」が施行された。この会社法は、従来片仮名文語体で表記されていた商法第二編、有限会社法、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律について平仮名口語体化してひとつの法典にまとめたものであり、かつ近年、毎年のように行われて来た法改正を全体的に調整し、社会情勢の変化に対応するために各種制度の見直しを行うものである。今年は、新会社法について、株式会社の設立の概要、設立の手続き、発起人の意義、設立中の法律関係、設立の無効、設立の登記、設立関与者の責任などについて説明し、株式制度においては、株式の意義、株式の内容・種類、株式の流通、株主の権利、自己株式、株式の併合・分割・無償割当、単元株制度などに触れ、会社の管理・運営については、機関の意義、株主総会、会社役員を選任・解任、取締役、取締役会、代表取締役、監査役・監査役会、委員会設置会社、役員損害賠償責任などについて解説する。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

会社法は、民法(とくに財産法)を前提とすることから、民法総則、物権法、債権法などの知識があると講義の理解が容易である。ただ、これらの知識がなくても、講義の内容を理解するために必要な民法の知識や基本概念については、その都度必要な説明をするつもりであるから、民法=財産法について十分な知識がなくても受講には差し支えない。ただし、教場には、必ず最新の六法を持参して参照する必要がある。

成績は、年度末に行なわれるペーパーテストの点数で評価します。

教科書は、授業の初めに指示します。

江頭・岩原・神作・藤田編 会社法判例百選(別冊ジュリスト No.180)(有斐閣)

履修コード	134411
科目名	会社法
担当者名	いのうえ けんいち 井上 健一

講義の到達目標(ねらい)

【注意】この講義を選択できるのは、法律学科2年生で学生番号LK0201番以降の学生、法律学科3年生以上の学生、政治学科2年生以上の学生である。

講義の内容/
授業スケジュール

企業活動の内部的な規整である会社組織に関する法規整(いわゆる形式的な意味での会社法)について講義する。単なる制度の紹介にとどまらず、なぜそのような制度が存在するのかという「制度の存在理由」を、近時の敵対的買収と対抗策の問題などに代表されるような現実の会社実務との関係で理解することを心がける。前期は主としてコーポレートガバナンスに関する規整、後期は企業金融および組織再編に関する規整を中心に講義する。商法総則についても適宜会社法との関連部分について触れていく。

- 前期 1 会社法総論：商法の体系および会社法の存在意義
2 会社の機関と法：コーポレートガバナンスに関する法規整(株主総会、取締役会・代表取締役、監査役等)
後期 3 会社の資金調達と法規整(設立時の資金調達、設立後の資金調達：新株発行、社債等)
4 会社の組織再編(M&A等)
5 企業会計

履修上の留意点

少なくとも民法(総則・債権各論)を履修済み、履修中であることが望ましい。日経などの新聞・雑誌の経済記事についてもアンテナを張っておくこと。

成績評価の方法

原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で質疑応答形式によるケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。

教科書/テキスト

平出・山本・田澤編『商法概論Ⅱ』(青林書院)の予定であるが、発売が4月までに間に合わなければ代替措置を考える。

参 考 書

江頭憲治郎『株式会社法』(有斐閣)、神田秀樹『会社法』(弘文堂)。その他、適宜授業内で紹介する。

関 連 リ ン ク

<http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

履修コード	120401・120402
科目名	外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）
担当者名	北野 <small>きたの かほる</small>

講義の到達目標(ねらい) 英語で書かれた英米法文献を用いて、英語文献の内容を理解することを目的とする。文献内容理解のために必要な英語能力の向上が最終目標である。

講義の内容／授業スケジュール 演習形式で行う。履修生は、あらかじめ指定された箇所を全員が読んで訳文案を作成し、毎回あらかじめ指定する担当者の訳を素材に、全員がその内容を検討する。進行度は履修生の英語読解力によって異なるので、年間の細かいスケジュールを立てることはせず、読解力と理解力の深化に応じて、一回ごとに読み進む分量を増やすようにする。

履修上の留意点 十分な準備が必要になる。毎回、自分が報告担当者になるつもりで、十分な準備をすること。

成績評価の方法 毎回の出席および討論参加をもとにした平常点と、11月末に課する共通課題英文の翻訳レポート成績をあわせて判定する。

教科書／テキスト あらかじめ指定することはせず、年度当初に複数呈示する入門書のなかから、履修生の希望によって、用いるテキストおよびその該当箇所を決定する。決定したテキストはコピーで配布するので、履修生が購入する必要はない。

参 考 書 随時指定する。

履修コード	120901・120902
科目名	外書講読Ⅰ（中国書） 外書講読Ⅱ（中国書）
担当者名	王 <small>おう しあん</small> 志安

講義の到達目標(ねらい) 中国法に関連する中国の大学で使われる教科書や裁判判例を利用し、中国語の法文献を読める能力を養う。

講義の内容／授業スケジュール 文章の訳読を中心に授業を進めます。毎回、予習として翻訳された文書を書面で提出していただく。

履修上の留意点 授業にはすべて出席することが前提です。やむを得ない理由（急病、急用、忌引、部活動等）により欠席する場合でも、6回を越えた場合は単位取得はできません。

成績評価の方法 また、これまで中国語を勉強したことのない人は履修できません。

教科書／テキスト 講義への出席を前提に、授業中の平常点で評価します。

参 考 書 選定した中国語の法学関連教科書を開講時に配布します。

履修コード	120701・120702
科目名	外書講読Ⅰ（独書） 外書講読Ⅱ（独書）
担当者名	松村 <small>まつむら いたる</small> 格

講義の到達目標(ねらい) ドイツ語の法学文献を読むことを通して、ドイツ人の法的感覚・法意識・法理論の構成を学習し、日本人のそれらと比較することによって、日本と日本人の法意識についての長短を知ることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール ドイツ語の法学文献を逐条解釈していきます。私が毎週指定した範囲の文章について、受講生が予習してきて全員が順番で翻訳発表することにします。

準 備 学 習 そして、解釈の是非を相互に指摘しながら読み進めます。

履修上の留意点 必ず授業の進度予定分の翻訳予習をすることが必要です。また、関連の日本文献を調べることも必要です。

成績評価の方法 毎週出席して参加することが不可欠です。日本の法学・法哲学・法理論の基本書で教材の関連事項調べて比較検討することも必要です。そうすると、教材の理解がしやすいです。ドイツ語の文法書と独和辞典を常に携帯してください。ノートに原文と訳文を筆記することも良策です。

教科書／テキスト 普段の予習・復習の態度と講読力および出席回数によって評価します。

参 考 書 未定ですので、第1回目の授業に配布します。

参 考 書 必要に応じて指示します。

履修コード	120801・120802
科目名	外書講読Ⅰ（仏書） 外書講読Ⅱ（仏書）
担当者名	^{なかの} 中野 ^{ゆうじ} 裕二

講義の到達目標(ならい)	この授業では、平易なフランス語で書かれたフランスの法律・政治に関する文献を講読し、その内容を理解し、受講生と共に議論していきます。この授業をとおして、フランス語能力の向上を図るとともにフランスの法律・政治に関する理解を深めることを目標とします。
講義の内容 授業スケジュール	毎回、分担箇所を日本語訳していきます。日本語訳が正しいか、文法の理解が正しいかどうかを逐語確認しながら読み進め、正しい日本語訳ができた後でその内容について議論します。授業の最後に、講読した範囲の全訳を提出してもらう予定です。
履修上の留意点	フランス語文法の学習を終えた者を対象とします。フランス語の運用能力を確認するために、第1回授業でフランス語能力の確認テストを行います。運用能力に欠けると判断した場合は、受講を断る場合があります。また、少人数での授業が予想されるので、毎回休まずに出席することが望まれます。
成績評価の方法 教科書/テキスト	毎回の出席と発表内容、講読範囲の全訳提出などを総合して成績評価とする。 教材については、必要に応じてプリントを配布します。

履修コード	117001・117002
科目名	家族法 相続法
担当者名	ひけなか ちか 竹中 智香

講義の到達目標(ねらい)

民法典第五編「相続法」は第4編「親族法」と深く関連していることから、前期に親族法を概説したうえで、後期で相続法の説明に入ります。親族法は、われわれにとって最も身近な家族生活を規制する法律であり、「家制度」の存在とその解体、高度・低度経済成長期やバブル前後の経済的变化、さらには少子化・超高齢化、女性の社会進出といったさまざまな社会の動向に影響を受けています。社会の変化に伴って生じてきた問題に対して、親族法がどのように対応しているかを、具体的な裁判例の紹介も交えながら、検討していきます。一方、後期に取り上げる相続法も、第二次大戦の敗戦後、戦前の家督相続が庶子均分共同相続へと変遷し、さらに近年、遺言制度の利用も増加するなど、著しく変化している分野です。本講義では、こうした変遷の内容とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を目指します。

講義の内容
授業スケジュール

- [前期] 親族法
- (1) ガイダンス
 - (2) 家族法と財産法の相違と家族法の特徴、欧米家族法との比較とわが国の家族法の特徴
 - (3) 氏と戸籍
 - (4) 親族
 - (5) 婚姻：婚姻成立の要件①総説
 - (6) 婚姻：婚姻成立の要件②実質的要件
 - (7) 婚姻：婚姻の効果①総説
 - (8) 婚姻：婚姻の効果②夫婦財産制
 - (9) 婚姻解消：離婚①総説
 - (10) 婚姻解消：離婚②裁判離婚
 - (11) 親子：実親子関係①嫡出子
 - (12) 親子：実親子関係②非嫡出子
 - (13) 親子：養親子関係①総説
 - (14) 親子：養親子関係②葉の上からの養子など
 - (15) 親権、後見・保佐・補助、扶養
- [後期] 相続法
- (1) わが国の相続法の変遷とその背景
 - (2) 相続人
 - (3) 相続の効力：総説
 - (4) 相続の効力：相続財産の範囲①占有権、生命侵害による損害賠償請求権など
 - (5) 相続の効力：相続財産の範囲②生命保険請求権、無権代理など
 - (6) 相続の効力：相続分①総説
 - (7) 相続の効力：相続分②寄与分など
 - (8) 相続の効力：遺産の共有
 - (9) 相続の効力：遺産分割
 - (10) 相続の効力：相続回復請求権
 - (11) 相続の承認・放棄、財産分離
 - (12) 相続人の不存在
 - (13) 遺言①総説
 - (14) 遺言②相続させる旨の遺言など
 - (15) 遺留分

以上は、講義が30回行われた場合の予定である。

履修上の留意点

身近な問題を取り上げる分野とはいえ、難解なテクニカルタームが多用されています。講義を受ける際には、教科書の該当部分を読んだうえで、分からない語句を調べておくことが望まれます。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

学年末の筆記試験の他、出席状況などの平常点も加味します。
川井健『民法概論5 親族・相続』有斐閣 2,800円
六法
久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選 [第7版]』(有斐閣)
『法律学小辞典 [第4版]』(有斐閣)

履修コード	326411
科目名	家族法
担当者名	竹中 ^{たけなか} ^{ちか} 智香

講義の到達目標(ねらい)

民法典のうち、第四編「親族」と第五編「相続」の講義を行います。前期に取り上げる親族法は、われわれにとって最も身近な家族生活を規制する法律であり、「家制度」の存在とその解体、高度・低度経済成長期やバブル前後の経済的変化、さらには少子化・超高齢化、女性の社会進出といったさまざまな社会の動向に影響を受けています。社会の変化に伴って生じてきた問題に対して、親族法がどのように対応しているかを、具体的な裁判例の紹介も交えながら、検討していきます。一方、後期に取り上げる相続法も、第二次大戦の敗戦後、戦前の家督相続が庶子均分共同相続へと変遷し、さらに近年、遺言制度の利用も増加するなど、著しく変化している分野です。本講義では、こうした変遷の内容とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を目指します。

講義の内容/
授業スケジュール

[前期] 親族法

- (1) ガイダンス
- (2) 家族法と財産法の相違と家族法の特徴、欧米家族法との比較とわが国の家族法の特徴
- (3) 氏と戸籍
- (4) 親族
- (5) 婚姻：婚姻成立の要件①総説
- (6) 婚姻：婚姻成立の要件②実質的要件
- (7) 婚姻：婚姻の効果①総説
- (8) 婚姻：婚姻の効果②夫婦財産制
- (9) 婚姻解消：離婚①総説
- (10) 婚姻解消：離婚②裁判離婚
- (11) 親子：実親子関係①嫡出子
- (12) 親子：実親子関係②非嫡出子
- (13) 親子：養親子関係①総説
- (14) 親子：養親子関係②養親の上からの養子など
- (15) 親権、後見・保佐・補助、扶養

[後期] 相続法

- (1) わが国の相続法の変遷とその背景
- (2) 相続人
- (3) 相続の効力：総説
- (4) 相続の効力：相続財産の範囲①占有権、生命侵害による損害賠償請求権など
- (5) 相続の効力：相続財産の範囲②生命保険請求権、無権代理など
- (6) 相続の効力：相続分①総説
- (7) 相続の効力：相続分②寄与分など
- (8) 相続の効力：遺産の共有
- (9) 相続の効力：遺産分割
- (10) 相続の効力：相続回復請求権
- (11) 相続の承認・放棄、財産分離
- (12) 相続人の不存在
- (13) 遺言①総説
- (14) 遺言②相続させる旨の遺言など
- (15) 遺留分

以上は、講義が30回行われた場合の予定である。

履修上の留意点

身近な問題を取り上げる分野とはいえ、難解なテクニカルタームが多用されています。講義を受ける際には、教科書の該当部分を読んだうえで、分からない語句を調べておくことが望まれます。学年末の筆記試験の他、出席状況などの平常点も重視します。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

川井健『民法概論5 親族・相続』有斐閣 2,800円

六法

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選 [第7版]』(有斐閣)

『法律学小辞典 [第4版]』(有斐閣)

履修コード	121801
科目名	基礎演習
担当者名	いけだ みのも 池田 実

講義の到達目標(ねらい)	3年次からのゼミに備え、演習形式での研究発表や討論の方法を習得することを目的としています。憲法に関するさまざまな学説・判例に広く接し、基礎的知識を確認するとともに、担当教員の与える課題や学生から提起された問題について、全員が調べ、まとめ、報告し、討論することを通じて、憲法に対する多角的な視点と広い問題関心を育てていきます。
講義の内容／授業スケジュール	[前期] (1)～(2) 授業案内・入門的講義、(3)～(13) 日本国憲法に関する演習(研究発表および討論) [後期] (14)～(26) 日本国憲法に関する演習(研究発表および討論)
履修上の留意点	演習は、教員と学生が一体となって作りあげる授業ですから、遅刻や無断欠席は厳に慎んでください。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席、研究報告、発言を総合的に評価します。(定期試験は実施しません) 池田実『憲法』(嵯峨野書院、2011年3月刊行予定) *教科書は毎回の授業に必ず持参すること。
参考書 その他の他	授業時に適宜指示します。 法令や判例を緻密にフォローする生真面目さと、若者らしい柔軟かつ大胆な発想で憲法を科学する遊び心とを兼ね備えた、バイタリティあふれる学生諸君の履修を期待します。

履修コード	122201・122301
科目名	基礎演習
担当者名	いまお まこと 今尾 真

講義の到達目標(ねらい)	具体的事例(判例・教室説例)を素材として、民法の知識および経験則を総動員して、紛争を解決する際の法的なものの考え方(法的思考法)を身につけ、その考え方を実際に紛争に当てはめ妥当な結論を導く(法解釈学の技術的訓練)という能力を養成する。
講義の内容／授業スケジュール	本演習は、民法の考え方、文献の読み方、討論の仕方、文章の書き方の訓練を行う。参加者は、教科書の指定されたテーマに関する諸文献を検索・熟読すること(読む)、法的争点を抽出してこれをめぐる判例・学説の解決策の当否を自分の頭で考えること(考える)、自分の考えを明快に展開して他人と討論できること(論ずる)、レポートにまとめること(書く)等が要求される。前期は、(1回)イントロダクション、(2～8回)民法総則の重要判例、(9～14回)物権法の重要判例(part 1)、後期は、(1回～7回)物権法の重要判例(Part 2)、(8～14回)債権総論の重要判例を素材として演習を行う。なお、授業スケジュールについては4月に詳細情報を確認のこと。
履修上の留意点	①ゼミはわたくし今尾とゼミ員との高度な信頼関係のもとに運営されるので、ゼミに休まず出席すること。②サブゼミ(事前学習会)は自覚と責任感をもって行うこと。これができない者は単位認定が困難である。③毎回のゼミで必ず発言することを心がける。④高い理想をもって、日々精進すること。
成績評価の方法	出席点(70%)・演習での発言内容(30%)等を総合評価。特に、判例報告における質の高いプレゼンや予習や普段の勉強に裏打ちされたレベルの高い発言を重視する。なお、レポート課題を課すかどうかについては、初回演習時に話し合いで決める。
教科書／テキスト	中田康裕・潮見義男・道垣内弘人『民法判例百選I [第6版]』(有斐閣(2009年))を基本テキストとして、適宜重要判例を補足する。
参考書	(1)星野英一・平井宜雄・能見善久編『民法判例百選I総則・物権 [第五版]』(有斐閣)別冊ジュリスト159号2001年。(2)内田貴、大村敦志/編『民法の争点I(総則・物権・親族・相続)』(有斐閣)ジュリスト増刊2007年。(3)川井健・鎌田薫・平野裕之編『新判例マニュアル民法I(総則)』(三省堂)2000年。
その他の他	各種国家試験・資格試験等を受験する者には、任意提出によるレポート・答案添削も行う。また、前期・後期の最終授業では、4時限と5時限の合同ゼミ発表会(対抗ゼミ)を行う予定である。とにかく、積極的・主体的にゼミに臨みたいと思う学生は参加されたし。
関連リンク	http://www.geocities.jp/imao_seminar/index.html

履修コード	122601
科目名	基礎演習
担当者名	かくしやう とよかず 覚正 豊和

講義の到達目標(ねらい) この演習は刑事法における基礎的な問題の考察を通じて、法的知識を修得するとともに法的思考を形成することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 犯罪の成立要件である構成要件該当性、違法性、責任についての基本的な問題は勿論、死刑、保安処分、児童虐待、家庭内暴力、ストーカー、少年犯罪や各種犯罪および犯罪被害者補償などについて扱っていきたいと思っている。おおむね以下のような進行予定である。

(1) ガイダンス
(2) 演習の運営について
(3) 刑事法学の研究手法、文献、判例の調べ方
(4) ~ (10) 各自発表テーマの設定と準備の仕方 (レジメの書き方)
・テーマ設定の理由、・テーマの関する争点や問題点、・テーマの関する学説の検討、・テーマの関する判例の検討、・テーマの関する諸外国の実態、・テーマの関する自分の意見
(11) ~ (25) 個別報告
(26) 総括

履修上の留意点 演習は講義科目と異なり、ゼミナリストの主体的、積極的な参加により成り立つものであることを心がけて欲しい。

成績評価の方法 出席状況と平常点で総合評価する。

教科書／テキスト 齋藤・覚正「刑法への招待(総論)」(創成社)800円 ISBN978-4-7944-5015-9
齋藤・覚正「刑法への招待(各論)」(創成社)800円 ISBN978-4-7944-5016-6

参 考 書 参考書は授業時に適宜指示する

そ の 他 時間の許す限りにおいて、刑事裁判の傍聴や刑事施設の見学等を行いたい。

履修コード	121901
科目名	基礎演習
担当者名	とがし けいこ 富樫 景子

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、刑法の基本書を購読することを通して、以下のことを目標とする。

- ・刑法の基礎知識を得ること。
- ・刑法の学習方法を学ぶこと。
- ・他者との議論の仕方を学ぶこと。

講義の内容／授業スケジュール 演習初回：報告の方法・順番等を受講者全員で相談する。
2回目以降：報告者がテキストをもとにレジメを作成し、報告を行う。その報告について、受講者全員で質疑応答・討論を行う。

準備学習 報告者は、報告の1週間前にレジメを提出する。報告者以外の受講者は、テキストの該当ページとレジメを読み込み、疑問点等を考えること。

履修上の留意点 ゼミに欠席する際には、必ず連絡すること。

- ・初回のゼミに無断欠席した者は、その後のゼミへの参加を認めないことがある。
- ・2回目以降も、無断欠席があった場合は、単位を認定しないことがある。

成績評価の方法 提出したレジメの内容、ゼミへの貢献、質疑応答の様子などの総合評価によって決定する。

教科書／テキスト 松宮孝明『刑法総論講義 [第4版]』成文堂、2940円、ISBN 978-4792318208

参 考 書 ゼミの2回目までに、各自、購入しておくこと。
演習時間内に指示する。

履修コード	121701
科目名	基礎演習
担当者名	<small>とみい ゆきお</small> 富井 幸雄

講義の到達目標(ねらい)	憲法の基本事項特に理論を習得するとともに、憲法判例の読み方を会得する。教科書の熟読、判例の熟読、報告と討論を通じて、難解な憲法の理論を自分の肉とするとともに、公務員試験等の憲法の問題を解けるまでの実力を養成することをめざす。
講義の内容／授業スケジュール	教科書等のあらかじめ指定した箇所と判例を熟読した上で、受講生間で順番に報告し、それをもとに討論する。受講生主体で授業は運営され、教員は時々質問をしてささやかに演習に参加する。教科書の理論を受講生同士の討論で確認し、関連する判例を検討して、憲法の理解を深めていく。前期は、憲法の基本原理と統治機構（国会、内閣、裁判所）について勉強する。後期は人権（自由権、社会権、平等権、国務請求権、新しい人権）をカバーする。前後期それぞれ最終授業時に試験を行う。
準備学習	報告を割り当てられた判例について、レジメを作成し受講生に配布する。判例に関連する部分を教科書で十分に学習し、質問事項を考えておく。
履修上の留意点	演習なので出席しなければ意味がない。通年で5回欠席すれば、その時点で単位認定の資格を失うものとする。遅刻の扱いについては開講時に決める。十分な事前の準備と予習をし、演習には積極的に参加する。演習での発言の内容は問わないので臆することなく議論に参加してほしい。ただし、明らかに予習してこなかったと認められるときは減点の対象となる。
成績評価の方法	平常点（出席と演習でのAcademic Performance（演習での積極性））と、前期と後期のテストで評価する。割合は平常点が40%、前期テストが30%、後期テストが30%とする。なお前期試験で15点を取れなかった者や無断で欠席した者は単位認定の資格を失うものとする。
教科書／テキスト	教科書として、芦部信喜・高橋和之補訂『憲法』（岩波書店）と、憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第5版）を使用する。
参考書その他	適宜指示する。 公務員や法科大学院進学希望者を主な対象とするが、そうでなくても憲法に関心がある者も歓迎する。1年間ゼミに参加しつづける強固な意志を持ち続けること。

履修コード	122001
科目名	基礎演習
担当者名	<small>むかいだ まさみ</small> 向田 正巳

講義の到達目標(ねらい)	この基礎演習では、3年次以降に民法や憲法などの専門演習に参加することを希望する学生を念頭において、私の専門である民法を中心に、民法、憲法などの近代法の基礎を学び、さらに近代法成立の基礎となった近代市民社会がいかに成立したかを検討していきます。民法、憲法などの近代法の基礎を学んで3年次以降の専門演習に備えること、さらにそれらの法律が生まれる基礎となった近代市民社会の政治的、経済的、思想的な特質を理解することが目標です。
講義の内容／授業スケジュール	まず演習参加者全員で民法の基礎について書かれた文献などをあらかじめ読み、報告者を決めてその内容について発表をしてもらい、それをもとに全員で議論をします。これらの課程を通じて文献の探し方、レポートの作り方、発表や議論の仕方を学びます。これが基本となりますが、さらに演習中には高校時代に学んだ日本史、世界史などの社会科学の知識を確認したり、大学に入ってから学ぶ経済学や政治学などの法律学以外の社会科学にも言及したりして、法と歴史、法と経済、法と政治などの関係について基礎的な理解を深めたいと思います。これにより大学の法学部における学習の体系化を図り、より実り豊かなものにしていければと思います。
履修上の留意点	民法など法律学の基礎をしっかりと学び、法律学の学習を将来の自己の進路希望に役立てることを真剣に考えている学生の演習参加を希望します。
成績評価の方法	出席、発表、議論参加などから総合的に評価します。無断欠席は厳に慎んでください。
教科書／テキスト	演習の始めに指示します。
その他の	コンパ、合宿を予定しています。

履修コード	122401・122501
科目名	基礎演習
担当者名	^{むらき やすひさ} 村木 保久

講義の到達目標(ねらい)

教えてもらう勉強でなく、自分で学ぶ勉強を目的とします。
刑法総論を中心に法律一般についての基本的な知識を確認し、専門ゼミに備え、基本的な研究方法(文献や判例の調べ方・読み方、レジュメの作成方法)および法的・論理的な思考方法を、研究テーマの報告と議論を通じて学びます。

講義の内容/
授業スケジュール

さらに、適宜、時事問題を法的な視点から分析することも試みます。
刑法総論の基本的な事柄について担当したグループがレジュメを作成し報告します。さらに、その報告について全員で質疑応答を行います。

前期はテーマごとに課題を設定し基礎的な知識を整理して深めることを中心とします。

後期はテーマを含んだ事例問題を分析し試験等での答案作成の要領で報告します。

報告課題の予定:

第1回授業にあたっての注意を述べ、課題の分配などを予定しています。

第2回学派の争い(レジュメおよび報告の例を示しゼミの進め方を学ぶ)

第3回以降のテーマ(予定):因果関係、行為と不作為犯、正当防衛の要件、

緊急避難の法的性格、被害者の承諾、安楽死、結果的加重犯、責任能力、原因において自由な行為、故意の内容、過失の構造、事実の錯誤と法律の錯誤、未遂と中止、共犯の概要、共謀共同正犯

なお、報告内容・質疑の状況によっては複数回にまたがってそのテーマを研究することもあります。また、テーマとは別に時事問題を取り上げ説明することもあります。

準備学習

報告者は報告のために文献等を検討しレジュメを作成し、報告および質疑に耐える勉強をしておくこと。

報告者でないゼミ員も自己の教科書等で基礎的な知識を確認しき報告者の報告を理解できるようにしてゼミに臨むこと。

履修上の留意点

演習なので報告者以外の者も積極的に参加することを期待します。

報告者は報告当日までにレジュメを作成し提出すること。前期と後期でそれぞれ一回、年間2回報告を担当します(予定)。

成績評価の方法

平常点で評価します。

出席および演習への参加の態度-レジュメ、報告内容および講義時間における質疑-などにより評価します。

教科書/テキスト

とくに指定しません。

参考書

講義時間内に必要に応じて指示します。

その他

ゼミ形式で報告担当者が作成したレジュメを配付します。

4限・5限でゼミ員があまりにも偏在する場合には人数調整をする場合があります。

履修コード	122101
科目名	基礎演習
担当者名	^{わか けいいち} 和知 恵一

講義の到達目標(ねらい)

本演習は、三年次以降における民法の専門演習に参加するために必要な基礎知識を整理・確認し、より高度な研究に対する準備を行うことを目的とします。判例や関連文献の収集方法および利用の仕方、レポート・論文の作成方法、報告(プレゼンテーション)・討論の仕方などを修得することに努めてもらいます。コンピュータリテラシーの向上も目的としております。

講義の内容/
授業スケジュール

前期は、最初に民法総則に関する基本的なテーマで、レポートを作成してもらいます。その後数回は、民法の基礎知識の確認を行ないながら、必要な範囲でレクチャーします。確認がすんだ時点で、事例問題を出題します。全員に夏期休暇を利用してレポートを作成してもらい、後期開始時に提出してもらいます。その際、全員をいくつかのグループに割り当てますので、数名のグループごとに報告を行っていただきます。その報告を基に、全員で議論をし、理解を深めます。

履修上の留意点

その後はパソコン室に移動します。毎回各人に課題を与えますので、コンピュータを利用して報告してもらいます。さらに各自が興味・関心を持った具体的問題について、それぞれがレポートし、全員で議論する場を持ちます。最終的には、ゼミ論を提出してもらいます。

全員がレポート作成・発表・討論に参加することが義務付けられます。したがって、自主性・積極性・責任感を持った、意欲有る学生の参加を期待します。又コンピュータを利用して、インターネットにアクセスし、判例や文献の検索を行いますので、多少コンピュータの知識があることを希望します。受講前に必ず学内コンピュータ使用のIDを取得し、パスワードを確認しておいてください。コンピュータが得意でない人も丁寧に指導はいたします。

成績評価の方法

受講態度、提出レポート、報告内容(プレゼンテーションの出来)、ゼミ論などを総合的に評価します。出席することは当たり前のものであり欠席や遅刻は減点とします。適切な理由があるときは、届け出ることで、減点はしません。

教科書/テキスト

法令集(六法)を必ず持参すること。その他については、授業中に適宜指示します。

その他の

理由のない欠席があった場合は退ゼミしていただきます。年に数回のコンパを行う予定です。

履修コード	127001
科目名	行政学
担当者名	田丸 大

講義の到達目標(ねらい)	例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論(考え方・法則)と実際の事例(ニュースなど)との関連に特に注意を払う予定である。
講義の内容／授業スケジュール	行政学とは(1～4)行政・政策を見る視点(5～10)国家観の変遷(11～14)行政国家、福祉国家(15～18)行政改革(19～24)民営化と規制緩和(25～28)地方自治と地方分権改革(29～30)。()内の数字は、講義の大まかな回数です。
準備学習	新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。
履修上の留意点	現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。
成績評価の方法	学年末試験1回と、授業内の複数回の小テスト(小テストの回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時なるべく速やかに具体的に示します。)によります。また、ニュース検定試験2級の合格をもって、出席点を加点することも考える予定です。ニュース検定試験事務局との調整を行い、最初の授業でアナウンスします。
教科書／テキスト	森田朗『現代の行政(改訂版)』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846 半分程度しか使用しない予定である。ですが、教科書に線を引いたり、板書を書き込んだりしてもらうので、用意してください。
参考書	早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論—「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352
その他の	適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見てで構わないと思います。履修者が多く教場に入りきれない場合は、法律学科の学生には、フレックスBの時間帯の行政学を履修してもらうこともあります。

履修コード	324501
科目名	行政学
担当者名	田丸 大

講義の到達目標(ねらい)	例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論(考え方・法則)と実際の事例(ニュースなど)との関連に特に注意を払う予定である。
講義の内容／授業スケジュール	行政学とは(1～4)行政・政策を見る視点(5～10)国家観の変遷(11～14)行政国家、福祉国家(15～18)行政改革(19～24)民営化と規制緩和(25～28)地方自治と地方分権改革(29～30)。()内の数字は、講義の大まかな回数です。
準備学習	新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。
履修上の留意点	現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、各自でも新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。
成績評価の方法	年1回の学年末試験と、授業内の複数回の小テストによる(小テストの回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時に具体的に示します)。もし履修者が50人を切る場合には、学年末テストを行わず、授業内の複数回の小テストによることを考えています。初回の講義に決定して、お知らせします。また、ニュース検定試験2級の合格をもって、出席点を加点することも考える予定です。ニュース検定試験事務局との調整を行い、最初の授業でアナウンスします。
教科書／テキスト	森田朗『現代の行政(改訂版)』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846 半分程度しか使用しない予定である。ですが、教科書に線を引いたり、板書を書き込んだりしてもらうので、用意してください。
参考書	早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論—「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352 科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352 適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見てで構わないと思います。

履修コード	326911
科目名	行政救済法
担当者名	あかまつ あきら 赤松 晃

講義の到達目標(ねらい) 「行政救済法」とは、行政機関による違法又は不当な行政作用により私人の権利権益に対する侵害が現に生じ、又は生じようとしているときに、私人を救済（法律が特に定める場合は自己の権利権益と関与しない紛争の解決としての訴訟を含む）するための法をいう。講義では、社会生活において必要な状況が生じたときに、必要な対応ができるように、「行政救済法」に関する基本的な知識及び考え方を学習する。したがって、講義での到達水準は、公務員採用試験のレベルとなる。

講義の内容／授業スケジュール 講義は、原則として、指定テキストである宇賀克也『行政法概説II 行政救済法』（有斐閣、第2版、2009年）の目次に従って進めていく。

- (1) 序論 行政救済法の体系、序章 行政訴訟法の基礎
- (2) 第1章 行政上の不服申立て総説
- (3) 第2章 不服申立ての種類
- (4) 第3章 不服申立ての要件
- (5) 第4章 不服申立ての審理手続
- (6) 第5章 特殊な不服申立て
- (7) 第6章 行政訴訟総説
- (8) 第7章 行政訴訟の種類と実態
- (9) ~ (10) 第8章 取消訴訟の基本的性格
- (11) 第9章 取消訴訟の訴訟要件
- (12) ~ (13) 第10章 取消訴訟の審理
- (14) 第11章 取消訴訟の終了
- (15) 第12章 取消訴訟における仮の救済（執行停止）
- (16) 第13章 無効等確認訴訟
- (17) 第14章 不作為の違法確認訴訟
- (18) 第15章 義務付け訴訟
- (19) 第16章 差止訴訟
- (20) 第17章 当事者訴訟
- (21) 第18章 民衆訴訟・機関訴訟
- (22) 行政訴訟のまとめ
- (23) 第19章 国家補償法の意義と機能 第20章 国家賠償総説
- (24) 第21章 公権力の行使に関する国家賠償
- (25) 第22章 公の営造物の設置管理の瑕疵に関する国家賠償
- (26) 第23章 国家賠償法のその他の問題
- (27) 第24章 損失補償
- (28) 第25章 国家補償の谷間
- (29) ~ (30) まとめ

準備学習 ・初回講義には、指定テキストである宇賀克也『行政法概説II 行政救済法』（有斐閣、第2版、2009年）を持参すること。

履修上の留意点 ・YeStudyに各回の講義のレジュメを事前に搭載するので、印刷して持参すること。

成績評価の方法 小六法又は六法全書などを持参すること（法令についての[<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>]を参照）

出席状況、講義への積極的参加、夏季課題レポート及び定期テストの成績を総合勘案して行う。夏季課題レポートの提出がない者は、定期試験の評価対象としないので必然的に単位を取得できない。

教科書／テキスト 宇賀克也『行政法概説II－行政救済法』（有斐閣、2版、2009年）3500円+税

参考書 ・宇賀克也編『ブリッジブック行政法』（信山社、2007年）2000円+税

・藤田宙靖『行政法入門』（有斐閣、5版、2006年）1900円+税

・塩野宏『行政法II』（有斐閣、4版、2005年）2300円+税

・塩野宏他編『行政判例百選I・II』第五版（有斐閣）

関連リンク <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>

履修コード	116501・116502
科目名	行政救済法 行政法各論
担当者名	金子 昇平

講義の到達目標(ねらい)

現代の行政法は、従来、対象とされていない、新たな法分野が続出している。例えば、行政手続法、情報公開法等の制定をはじめ、各行政分野ごとの基本法が整備されようとしている。

また現実の行政需要も変化、発達し、その適正化が求められている。

講義は、行政紛争解決の手段として、行政救済法を、主な内容として行う。そこで具体的に、どのような行政上の不服申立て、行政事件、国家賠償事件が存在し、何が法律上の問題となっているのか、また、どのように法的解釈を、すべきかについて解明していきたい。

講義の内容/
授業スケジュール

- 1) 行政救済法の観念 (1)
- 2) 行政争訟法 (2～16)
 - ① 行政過程における行政争訟 (行政上の不服申立て、行政不服審査法、行政審判・苦情処理、オンブズマン)
 - ② 行政事件訴訟法 (行政事件訴訟法の特徴、抗告訴訟、取消訴訟、取消訴訟の審理、取消訴訟の終了、取消訴訟における仮の救済、無効確認訴訟、争点訴訟、当事者訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟、法定外抗告訴訟、民衆訴訟、機関訴訟、司法審査権の限界)
- 3) 国家賠償法 (17～25)

国家賠償 (国家賠償法の位置づけと概要、公権力の行使にかかる賠償責任――国家賠償法一条、営造物の設置管理にかかる賠償責任――国家賠償法二条、賠償責任者、民法の通用)
- 4) 損失補償 (26～30)
 - ① 意義 (損失補償の要否)
 - ② 憲法上の補償請求権の要否 (補償の内容、財産に対する補償、その他の補償項目)
 - ③ 国家補償の谷間 (違法、無過失の場合、設置・管理無瑕疵の場合、正当行為の結果に関する責任、危険状態にかかる責任)

毎回、事前に教科書の該当部分を予め学習しておくこと。
行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を必ず持参すること。
期末試験の成績により評価する。
塩野宏『行政法II』(行政救済法) [第五版] 有斐閣
塩野宏他編『行政判例百選I・II』第五版 (有斐閣)

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
その他

履修コード	115401・115402
科目名	行政法 行政法総論
担当者名	金子 昇平

講義の到達目標(ねらい)

現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が続出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、情報公開法、個人情報保護法、環境アセスメント法等を挙げることが出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。

そこで講義においては、行政法での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に揭示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。

講義の内容／
授業スケジュール

1) 行政法の基礎 (1~5)

①行政と法の一般的関係(行政の概念と分類、行政法の成立、行政法の特徴) ②日本行政法の基本構造(公法・私法二元論とその有用性、行政法学のあり方) ③行政法の法源(成文法源、不文法源、行政法の効力) ④日本行政法の基本原理(法律による行政の原理、法治主義、行政のコントロール・システムの充実、法の一般原理)

2) 行政過程論 (6~15)

①行政の行為形成論(行政立法・法規命令と行政規則) ②行政行為(行政行為の意義、行政行為と法の拘束、行政行為の種類、行政行為と裁量、行政行為の効力、行政行為の瑕疵、行政行為と法律関係、行政行為の附款) ③行政上の契約(問題の所在、行政上の契約の問題点) ④行政指導(意義、行政指導と法の拘束、行政指導と救済制度) ⑤行政計画(意義、計画と法の拘束、計画と救済制度)

3) 行政上の一般的制度 (16~25)

①行政上の義務履行確保(行政上の強制執行、行政代執行、直接強制、執行罰) ②即時強制 ③行政調査(行政調査の意義及び問題点) ④行政手続(行政手続の意義と機能、適正手続の基本的内容、行政手続法の法源、行政手続法、命令・計画策定手続、手続の瑕疵と処分の効力) ⑤行政情報管理(情報公開、情報公開の理念・意義・展開、情報公開法、行政機関個人情報保護、行政スタイルの変革)

4) 行政過程における私人 (26~30)

①行政過程における私人の地位 ②行政過程における私人の行為

毎回、事前に教科書の該当部分を予め学習しておくこと。

行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を持参すること。

期末試験の成績により評価する。

塩野宏『行政法I』(行政法総論)〔第五版〕有斐閣

塩野宏他編『行政判例百選I、II』(第五版)(有斐閣)

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

履修コード	323601
科目名	行政法
担当者名	かねこ しやうへい 金子 昇平

講義の到達目標(ねらい)

現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が続出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、情報公開法、個人情報保護法、環境アセスメント法等を挙げることが出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。

講義の内容／
授業スケジュール

そこで講義においては、行政法での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に掲示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。

1) 行政法の基礎 (1～5)

①行政と法の一般的関係(行政の概念と分類、行政法の成立、行政法の特性) ②日本行政法の基本構造(公法・私法二元論とその有用性、行政法学のあり方) ③行政法の法源(成文法源、不文法源、行政法の効力) ④日本行政法の基本原理(法律による行政の原理、法治主義、行政のコントロール・システムの充実、法の一般原理)

2) 行政過程論 (6～15)

①行政の行為形成論(行政立法・法規命令と行政規則) ②行政行為(行政行為の意義、行政行為と法の拘束、行政行為の種類、行政行為と裁量、行政行為の効力、行政行為の瑕疵、行政行為と法律関係、行政行為の附款) ③行政上の契約(問題の所在、行政上の契約の問題点) ④行政指導(意義、行政指導と法の拘束、行政指導と救済制度) ⑤行政計画(意義、計画と法の拘束、計画と救済制度)

3) 行政上の一般的制度 (16～25)

①行政上の義務履行確保(行政上の強制執行、行政代執行、直接強制、執行罰) ②即時強制 ③行政調査(行政調査の意義及び問題点) ④行政手続(行政手続の意義と機能、適正手続の基本的内容、行政手続法の法源、行政手続法、命令・計画策定手続、手続の瑕疵と処分の効力) ⑤行政情報管理(情報公開、情報公開の理念・意義・展開、情報公開法、行政機関個人情報保護、行政スタイルの変革)

4) 行政過程における私人 (26～30)

①行政過程における私人の地位 ②行政過程における私人の行為

毎回、事前に教科書の該当部分を予め学習しておくこと。

行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を持参すること。

期末試験の成績により評価する。

塩野宏『行政法I』(行政法総論)【第五版】有斐閣

塩野宏他編『行政判例百選I、II』(第五版)(有斐閣)

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

履修コード	324401
科目名	経済原論
担当者名	ふじわら ひろのり 藤原 碩宣

講義の到達目標(ねらい)

経済学の基礎理論および概念の理解

現代日本経済の実状とその背景、および展望の理解

前期：主としてマクロ経済学を中心として行います。

経済学の規範、経済学の流れ－A. スミスとJ. M. ケインズ、国民経済の

循環過程、国民所得決定理論－消費と投資はどのように決まるのか、

後半では、経済政策の体系、目的、手段、主体の話を通じて、わが国の実状の理解を

深めます。

後期：主としてミクロ経済学を中心として行います。

個別経済主体の行動理論－消費者選択、生産者行動、寡占経済理論－屈折需要曲線の

理論、フルコスト原則、参入阻止価格論によって現代社会の実態を理解します。

後半では、財政・金融、社会保障といった日本の実状を理解する事を中心に応用経済学の

お話をします。

授業に出席しノートをよくとって下さい。

定期試験による。前期、後期の範囲から各1問づつ出題、論述式。

レポート等の自助努力の成果物を提出した場合は、それも加点する。

藤原碩宣他著『経済と経済学』実教出版(授業では、テキストに従って説明するのではなく、より詳しく理解してもらうために使用する)

参考資料等は適宜指示する。数回毎に質疑応答の時間を設ける。

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書／テキスト

その他の

履修コード	117501
科目名	経済原論
担当者名	福田 慎 <small>ふくだ しん</small>

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学について扱う。特に、公務員試験の他国家試験に対応できる知識を得ることを目的としている。こうした試験では、それ相応の問題が設定されているため、それに対応できる知識が得られる。また、実際の経済への応用を念頭に置きながら講義を進めていく。

講義の内容／
授業スケジュール

(前期)

1. ガイダンスと成績評価
2. 消費者理論：最適消費点と無差別曲線
3. 消費者理論：代替効果と所得効果
4. 消費者理論：効用関数の計算と需要曲線
5. 消費者理論：需要の価格弾力性
6. 生産者理論：利潤最大化と費用関数
7. 生産者理論：損益分岐点と操業停止点
8. 生産者理論：長期均衡、課税と費用曲線
9. 生産者理論：特定の生産関数の扱い
10. 不完全競争の生産者理論：独占と寡占
11. 不完全競争の生産者理論：独占的競争
12. 余剰分析 (1)
13. 余剰分析 (2)
14. 余剰分析 (3)
15. 前期の復習

(後期)

1. 国民所得の決定 (1)
2. 国民所得の決定 (2)
3. IS-LM分析
4. 為替レート考慮したIS-LM分析
5. 消費関数と投資関数
6. 貨幣理論
7. 乗数理論 (1)
8. 乗数理論 (2)
9. 総需要・総供給分析 (1)
10. 総需要・総供給分析 (2)
11. 総需要・総供給分析 (3)
12. 総需要・総供給分析 (4)
13. 経済成長の理論 (1)
14. 経済成長の理論 (2)
15. 後期の復習

履修上の留意点

ミクロ経済学ではある程度の数学の知識を要しますが、その都度説明していくので、数学初心者でも履修は可能です。

成績評価の方法
教科書／テキスト

試験60%、レポート40%で評価する。

岩田規久男、飯田泰之著、『ゼミナール経済政策入門』（2006）、日本経済新聞社、ISBN: 4-532-13310-6

参 考 書

ミクロ経済学：武隈慎一、(1999)、『ミクロ経済学』、新世社

マクロ経済学：N.グレゴリー・マンキュー、足立ほか訳、(2008)、『マンキューマクロ経済学 I 入門編』、東洋経済新報社

そ の 他

事前に配布する資料と板書による講義形式です。

履修コード	119101
科目名	経済政策
担当者名	もりおか じん 森岡 仁

講義の到達目標(ねらい)

市場を中心とした自由主義経済の中に、国が運営する経済政策を導入するようになってかなりの時間が経過したが、今や国民は経済政策を抜きに安定した経済生活を送ることはできない。本講義では経済政策の基礎を構成する諸概念の理解を深めることによって、日々展開される実践的経済政策を的確に判断する力を高めることを目的としている。

講義の内容／
授業スケジュール

(1～4) 経済政策の概念、経済政策の目標、経済政策の手段、経済政策学、(5～8) 重商主義の経済政策思想、自由主義の経済政策思想、価値判断論争と経済政策学、現代経済政策学の方向、(9～12) 政策課題としての福祉問題、政策課題としての秩序問題、政策課題としての社会問題、現代政策課題の総括、(13～16) 経済成長の意義、古典派の経済成長論、完全雇用と現代の成長政策、経済成長と資本・労働、(17～20) 安定と成長の問題、経済変動とその安定政策、物価変動のメカニズム、現代インフレーションの対策、(21～24) 経済均衡と市場機構、独占と寡占、寡占の本質と作用、産業組織政策の展開、(25～28) 社会的公正と社会均衡化政策、国民所得の分配と再分配、公害問題の発生、福祉国家への道、(28～30) 現代の人口問題、人口政策の課題、経済政策と人口政策。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

経済政策の根底には経済理論があるが、少しでも経済理論に触れておくことが好ましい。
学年末の定期試験。追試験も実施する。
森岡他著『現代経済政策』(千倉書房)1975年 2,520円。4-8051-0842-8
特に指定せず。
授業方法は講義。

履修コード	325201
科目名	経済法
担当者名	ひがしで こういち 東出 浩一

講義の到達目標(ねらい)

経済法の中心をなす独占禁止法について、基本的な事項を理解することを目標とします。
条文の解説にとどまらず、できるだけ具体的な事件の審判決や相談事例を紹介し、実際の事例でどのような事項が論点となったか等を説明することにより、実務的な理解が進むように講義を進める予定です。

講義の内容／
授業スケジュール

おおむね、次の事項について説明する予定です。

1 独占禁止法の概要 2 行為主体 3～6 私的独占・不当な取引制限 7～12 不公正な取引方法等 13～16 企業結合規制 17～22 事件処理手続・排除措置・課徴金 23～24 争訟手続 25～26 適用除外 27 民事訴訟 28 刑事罰・犯則調査手続 29～30 ケーススタディ

準 備 学 習
履修上の留意点

教科書「経済法」(第6版)の該当部分を一読しておいてください。
レジュメを用いて講義を進めますが、講義の際にレジュメを配布することはありません。レジュメは、YeStudy にUPしておきますので、あらかじめ各自用意してください。
期末試験によって成績評価をします。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

「経済法」(第6版・岸井大太郎・向田直範ほか)・有斐閣アルマ
「逐条解説 平成21年改正独占禁止法」(藤井宣明・稲熊克己)・商事法務
YeStudy のコース登録キーは、325201 です。

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	若林 <small>わかばやし</small> 亜理砂 <small>ありさ</small>

講義の到達目標(ねらい)

経済法の中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をになうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。

講義の内容/
授業スケジュール

以下のトピックについて講義を行う予定である。

- 1 独占禁止法の基礎概念
- 2 不当な取引制限
- 3 私的独占
- 4 一般集中規制
- 5 市場集中規制
- 6 不公正な取引方法
- 7 公正取引委員会
- 8 私的エンフォースメント・刑事罰

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

初回の説明を必ず聞いてから履修するようにしてください。

期末試験により評価を行う。

泉水文雄他 リーガルクエスト『経済法』（有斐閣 2010）

別冊ジュリスト（No.199）『経済法判例・審決百選』（有斐閣）

履修コード	118001・323901
科目名	刑事政策
担当者名	覚正 豊和

講義の到達目標(ねらい)

犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解させていきたい。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合目的な手段・方法を探究していくことを目的とする。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずである。講義を通じてそれを概観していきたい。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回 受講のガイダンス
刑事政策の意義と課題 刑事政策、犯罪学と規範学の相違について学ぶ。
- 第2回 犯罪学の歴史と展開 その起源から近代学説までを学ぶ。
- 第3回 現代犯罪学の課題
ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。
- 第4回 犯罪の理念
犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義のものであることを学ぶ。
- 第5回 刑事政策と暗数
犯罪統計と暗数の意味、被害調査、事故報告調査などについて学ぶ。
- 第6回 犯罪の原因(1) 身体的・生理的要因について学ぶ。
- 第7回 犯罪の原因(2) 個人環境的要因について学ぶ。
- 第8回 犯罪の原因(3) 社会環境的要因について学ぶ。
- 第9回 刑罰の意義・機能・沿革
意義機能はもちろん一般予防、特別予防、抑制主義、処罰の種類などについて学ぶ。
- 第10回 死刑 憲法と死刑、存廃論、代替刑について学ぶ。
- 第11回 自由刑
意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑などについて学ぶ。
- 第12回 財産刑 罰金の意義、特質、罰金と科料などについて学ぶ。
- 第13回 保安処分 意義、種類、要件などについて学ぶ。
- 第14回 少年保護手続
家庭裁判所と少年審判、少年法改正問題について学ぶ。
- 第15回 定期試験(予定)
- 第16回 犯罪者の処遇 意義、原則、動向について学ぶ。
- 第17回 犯罪者の刑事司法政策(1) 警察
微罰処分、ダイヴァージョンなどについて学ぶ。
- 第18回 犯罪者の刑事司法政策(2) 検察 起訴猶予などについて学ぶ。
- 第19回 犯罪者の刑事司法政策(3) 裁判
量刑基準、宣告猶予、執行猶予、判決前調査などについて学ぶ。
- 第20回 矯正の意義・目的
矯正処遇の意義、目的、観念、矯正処遇の原則などについて学ぶ。
- 第21回 受刑者の処遇
法的地位、処遇原則、分類処遇、死刑確定者の処遇などについて学ぶ。
- 第22回 犯罪の予防
意義、予防、予防活動、予測、問題点などについて学ぶ。
- 第23回 更生保護 意義、措置、概況などについて学ぶ。
- 第24回 恩赦・資格制度
恩赦の種類、効力、存在理由などについて学ぶ。
- 第25回 被害者補償
意義、歴史、必要性、法的性質などについて学ぶ。
- 第26回 各犯罪と対策 少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。
- 第27回 各種犯罪と対策
組織犯罪、ホワイアカラー犯罪などについて学ぶ。
- 第28回 各種犯罪と対策 薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。
- 第29回 まとめ 討論及び質疑
- 第30回 定期試験

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

初回の授業において指示する。
定期試験および平常点
斉藤・覚正「刑事政策論」(八千代出版) 3,500円 ISBN978-4-8429-1421-3
授業において指示する。

履修コード	116201・327001
科目名	刑事訴訟法
担当者名	田中 優企 <small>たなか ゆうき</small>

講義の到達目標(ねらい)

日々のニュースや新聞等において「犯罪」に関わる報道に接しない日はありません。それだけ犯罪というのは、私たちのすぐそばで起こりうる社会問題であると言えます。そして、この犯罪という社会問題を扱う法領域を「刑事法」と言います。この講義では、刑事法の内、犯罪となる事実を解明し、犯罪を犯した者に刑罰を科す「刑事手続」を規律する法について学びます。

「刑罰」というのは、その対象者から生命・自由・財産を剥奪する処分であり、いわば副作用を伴う劇薬のようなものです。この劇薬を的確かつ適正に取り扱うために、我が国の刑事手続は、いかなる考え方(基本原理)に基づいて規律されているのか、実際にいかなる法運用が行なわれているのか、そこではいかなる問題が生じているのか、その問題はどのように解決されるべきなのかということについて、みなさんと共に考えていきます。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回目は、今年度の講義全般についてガイダンスを行なった後、これから刑事訴訟法を学んでいく際のポイントについてお話します。

第2回目以降は、次の各項目を1回又は複数回に分けて順番にお話していきます。

- ① 我が国の犯罪情勢と刑事手続の概要
- ② 刑事裁判のかたち
- ③ 刑事手続に関与する機関・人とその役割
- ④ 強制捜査と任意捜査
- ⑤ 職務質問、所持品検査、自動車検問
- ⑥ おとり捜査
- ⑦ 逮捕・勾留
- ⑧ 搜索・差押
- ⑨ 強制採尿・採血、写真撮影、通信傍受
- ⑩ 取調べ、弁護権・接見交通権
- ⑪ 公訴手続、訴因制度、起訴状一本主義
- ⑫ 公判前整理手続、証拠開示
- ⑬ 公判手続、裁判員制度
- ⑭ 訴因変更
- ⑮ 証拠法総論
- ⑯ 自白法則、補強法則
- ⑰ 排除法則
- ⑱ 伝聞法則
- ⑲ 裁判とその効力
- ⑳ 上訴、再審

準備学習

憲法はもちろんのこと、1年次及び2年次配当の刑事法科目(刑法総論、刑法各論、刑事政策)を履修・学習していると、刑事訴訟法の理解がより一層、深まります。

講義の中では、ニュースや新聞等で報道されている犯罪を素材にしながらお話することもあるので、日々のニュースや新聞等をチェックしておいてください。

刑事訴訟法を勉強する際には、刑事手続に関与する各種機関(法務省、警察庁・検察庁、日本弁護士連合会、裁判所など)のホームページに掲載されている情報も重要ですので、定期的にチェックすることをおすすめします。

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書に沿って授業を進めますので、六法と共に必ず持参してください。

学年末試験の成績を基に評価します。

ただし、学年末試験の成績が60点未満であった場合には、試験前に提出してもらったレポート(任意)も加味して評価します。レポートの課題や提出方法など詳細については、第1回目の授業の時に話します(後日、YeStudyにも掲載します)。

教科書／テキスト

権橋隆幸編『よくわかる刑事訴訟法』(ミネルヴァ書房、2009年)2600円

井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選(第九版)』(有斐閣、2011年2月刊行予定)2520円(予価)

参考書

渥美東洋『全訂刑事訴訟法(第二版)』(有斐閣、2009年)5300円

権橋隆幸編『プライマリー刑事訴訟法(第二版)』(不磨書房、2008年)2900円

権橋隆幸編『ブリッジブック刑事裁判法』(信山社出版、2007年)2000円

井田良『基礎から学ぶ刑事法(第四版)』(有斐閣、2010年)1890円

その他の

授業に関する質問は、授業終了後はもちろんのこと、研究室でも受け付けますので、遠慮なくどうぞ。

履修コード	324701
科目名	刑法各論
担当者名	佐藤 多美夫

講義の到達目標(ねらい)	刑法各論は犯罪類型の具体的内容を、その個別的な特徴を重視しつつ明らかにすることを旨とする。すなわち刑法各論は主に刑法典の罪第2編を中心に、具体的犯罪類型を説明する。
講義の内容／授業スケジュール	以下の講義内容であるが財産犯の講義に多くを当てたい。 1, 刑法各論の全体像 2, 生命・身体に対する罪 3, 自由に対する罪 4, 名誉・信用に対する罪 5, 財産に対する罪（総説、窃盗罪・強盗罪・詐欺罪・恐喝罪・横領罪・背任罪・盗品等に関する罪・毀棄隠匿の罪） 6, 公衆の安全に対する罪 7, 偽造の罪 8, 風俗秩序に対する罪 9, 国家法益に対する罪 予習及び復習は必要でしょう。
準備学習	刑法に興味をもって、意欲的に継続して学習することを期待する。授業に出席すること。
履修上の留意点	定期試験の成績及び出席状況を含む平常点を総合して評価する。
成績評価の方法	教科書を使用しますので大学の指定書店に照会してください。
教科書／テキスト	最初の講義の時に参考書、判例集、入門書等をお知らせいたします。
参考書	

履修コード	115801
科目名	刑法各論
担当者名	富樫 景子

講義の到達目標(ねらい)	「刑法各論の基本的知識および思考方法の習得」 基本的には刑法総論に準じる。刑法各論の基本的知識を習得し、学んだ知識を活用して、皆さん自身に課題事例の解決を考えてもらうことで、暗記に終わらない主体的な学習を行うことを目標とする。個々の犯罪成立について学ぶ刑法各論は、総論よりも具体的でわかりやすい反面、成立要件の整理や事実の評価およびあてはめなど、より実践的な力が要求される。こうした点に留意して、学習を行ってほしい。
講義の内容／授業スケジュール	【刑法入門】 1. イントロダクション刑法各論・刑法総論の復習 【刑法各論】 2-3. 生命に対する罪 4-5. 身体に対する罪 6-7. 財産罪総論 8-12. 財産に対する罪①（窃盗、強盗、恐喝） 13-16. 財産に対する罪②（詐欺、横領、背任） 17-18. 社会的法益に対する罪①（放火罪） 19-22. 社会的法益に対する罪②（通貨偽造罪、文書偽造罪） 23. 中間のまとめ（小テストの可能性あり） 24-26. 国家作用に対する罪①（公務執行妨害罪、犯人蔵匿名及び証拠隠滅罪） 27. 国家作用に対する罪②（公務員職権濫用罪、賄賂罪） 28. 最終のまとめ 29-予備日程
準備学習	1. 講義で扱うテーマについて、教科書を読んでくること 2. 講義中に指示された課題について、各自で考えてくること (詳しくは第1回目の講義中に指示する)
履修上の留意点	1. 教科書、六法（小型のもので構わない）、配布資料を必ず持参すること 2. 講義に出席すること（出席をとるかわりに、予告なく小テストを実施することがある） 3. 暗記に終わらない主体的な学習を実践するため、自習課題を課す。これについては講義の一環であるから、次の講義までに、教科書等を参考にして、必ず自分で考えてきてほしい。 (詳しくは第1回目の講義で指示する)
成績評価の方法	定期試験(65パーセント)及び講義中に行う小テスト等(35パーセント)の総合評価で行う。
教科書／テキスト	教科書は、一般的な刑法各論の基本書であればどれを購入しても構わないが、1冊は必ず手元においておくこと。購入に迷う受講者には、さしあたって以下を推薦しておく。 ・西田典之『刑法各論（第5版）』弘文堂、4200円、ISBN978-4335304446 ・その他、授業時間内にレジュメを配布する。
参考書	講義中に指示する

履修コード	115101
科目名	刑法総論
担当者名	佐藤 多美夫 <small>さとう たみお</small>

講義の到達目標(ねらい) 本講義では刑法総論の分野を扱います。刑法総論は刑法各論のように殺人罪、窃盗罪といった個々の犯罪を扱うのではなく、それらの犯罪の共通にもっている性格を明らかにいたします。そこで、犯罪の基本的、重要な課題について、その意義と問題点を学説や判例をふまえながらすすめ、体系的に刑法総論を理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

- I 序説
 - 1 はじめに
 - 2 犯罪論の基礎
 - 3 罪刑法定主義と刑法の解釈
- II 構成要件
 - 1 総説
 - 2 結果
 - 3 実行行為
 - 4 因果関係
- III 違法性
 - 1 総説
 - 2 正当業務行為
 - 3 正当防衛
 - 4 緊急避難
- IV 責任
 - 1 総説
 - 2 責任能力
 - 3 故意
 - 4 過失
 - 5 期待可能性
- V 共犯
 - 1 総説
 - 2 共同正犯、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯
 - 3 教唆犯
 - 4 幫助犯
- VI 共犯の諸問題
 - 1 共犯と身分
 - 2 不作為と共犯
 - 3 共犯と錯誤
 - 4 共犯の中止、離脱
- VII 罪数論

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

予習及び復習は必要です。
筆記試験及び平常点（出席等）を総合して評価する。
教科書は使用しますので学内指定書店に照会して下さい。
最初の講義時に入門書・基本書・判例集等についてお知らせいたします。

履修コード	323301
科目名	刑法総論
担当者名	富樫 景子

講義の到達目標(ねらい)

「刑法総論の基本的知識および思考方法の習得」

身近な事件を対象とする刑法は一見なじみやすいように思えるが、これを支える刑法「理論」は、体系的・抽象的で、理解するのに少しの努力と根気強さが必要である。本講義では、「構成要件該当性、違法性、有責性」といった犯罪論体系を総合的に学習することで、体系的な基本的知識の習得を目標とする。さらに、学んだ知識を活用して、受講者に課題事例の解決を考えてもらうことで、暗記に終わらない主体的な学習を行うことを目標とする。

講義の内容
授業スケジュール

【刑法入門】

1. イントロダクション刑法総論
2. 刑法の基本原則（罪刑法定主義、責任主義等）

【構成要件論】

- 3-4. 犯罪の展開（予備／未遂／既遂、実行の着手）
- 5-6. 犯罪行為と因果関係（実行行為概念や因果関係論）
- 7-8. 未遂と不能（未遂犯と不能犯の区別、中止未遂）
- 9-10. 不作為犯論（真正不作為犯、不真正不作為犯について）
11. 構成要件論まとめ（小テストの可能性あり）

【違法性論】

12. 違法性論総論
- 13-15. 正当防衛論
16. 緊急避難論
17. 違法性論まとめ（小テストの可能性あり）

【責任論】

18. 責任論総論
19. 責任能力
20. 故意論と違法性の意識
- 21-23. 錯誤論（客体/因果関係/あてはめの錯誤、事実の錯誤、法律の錯誤）

【正犯・共犯論】

24. 共犯論総論（正犯と共犯、必要的共犯等）
- 25-26. 正犯論（間接正犯、（共謀）共同正犯について）
27. 共犯論（教唆犯と幫助犯）
- 28-29 正犯・共犯論の諸問題（共犯関係からの離脱、共犯と錯誤、不作為と共犯等）

準備学習

*受講生の理解に応じて進度を調整するので、実際の講義はこの通りに進まない場合がある。

1. 講義で扱うテーマについて、教科書を読んでくること
2. 講義中に指示された課題について、各自で考えてくること

(詳しくは第1回目の講義中に指示する)

履修上の留意点

1. 教科書、六法（小型のもので構わない）、配布資料を必ず持参すること
2. 講義に出席すること（出席をとるかわりに、予告なく小テストを実施することがある）
3. 暗記に終わらない主体的な学習を実践するため、自習課題を課す。これについては講義の一環であるから、次の講義までに、教科書等を参考にして、必ず自分で考えてきてほしい。

(詳しくは第1回目の講義で指示する)

成績評価の方法

定期試験(65パーセント)及び講義中に行う小テスト等(35パーセント)の総合評価で行う。

教科書/テキスト

教科書は、一般的な刑法総論の基本書であればどれを購入しても構わないが、1冊は必ず手元においておくこと。購入に迷う受講者には、さしあたって以下を推薦しておく。

・西田典之『刑法総論 第2版(法律学講座双書)』弘文堂、3465円、ISBN 978-4335304439

・その他、授業時間内にレジュメを配布する。

参考書

詳細は授業中に指示するが、さしあたって以下を推薦しておく。

*授業で理解すべき内容の目安となる。1冊購入しておくとも今後も役立つ。

井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』有斐閣アルマ、1890円、ISBN 978-4641124103

*判例学習のために必要な参考書

成瀬幸典=安田拓人編『判例プラクティス刑法I 総論』信山社、4200円、ISBN 978-4797226317

*指定教科書の理解や講義で指示される課題につまづいた時に役立つであろう参考書。

高橋則夫編『ブリッジブック 刑法の考え方』信山社、2310円、ISBN 978-4797223286

井田良=丸山雅夫『ケーススタディ 刑法(第2版)』日本評論社

履修コード	115001
科目名	刑法総論
担当者名	まつむら いちる 松村 格

講義の到達目標(ねらい)

刑法総論は、犯罪論・刑罰論・罪数論から成りますが、時間数の都合上、犯罪論を中心に講義します。刑法ないし刑法学を支えている基本原理(罪刑法定主義・責任主義・謙抑主義)および刑法の使命(人権保障・法益保護・秩序維持)を理解し、その上で、犯罪論(構成要件論・違法性論・責任論・未遂論・共犯論)について、判例・学説の見解を検討しながら、各自がどのような犯罪論を構成すれば納得できるか、その妥当性を考えることを目標とします。

講義の内容／
授業スケジュール

以下の予定で進めます。

- 第01回 受講の心構え・刑法の定義・法と法律・刑法総論と刑法各論
- 第02回 公法/私法/社会法・民法と刑法の関係・刑法の隣接科目・判例と学説
- 第03回 刑法の使命・原理原則
- 第04回 学派の争い・刑罰の本質・犯罪成立要件・犯罪の定義
- 第05回 犯罪の態様と種類
- 第06回 犯罪論体系の概観
- 第07回 構成要件の意義と機能・故意の概念と種類
- 第08回 構成要件の錯誤・過失の本質と種類
- 第09回 不作為犯論
- 第10回 因果関係論
- 第11回 違法性の本質と実質・行為無価値と結果無価値・可罰的違法性
- 第12回 違法性阻却事由・正当防衛・法令行為・正当業務行為
- 第13回 第三者と正当防衛・緊急避難
- 第14回 責任の本質・責任能力・原因において自由な行為
- 第15回 故意と違法性の意識・違法性の錯誤
- 第16回 期待可能性・犯罪成立要件(構成要件該当性/違法性/責任)の復習
- 第17回 未遂犯総論・予備と未遂・実行の着手
- 第18回 中止未遂と諸問題
- 第19回 不能未遂と諸問題
- 第20回 共犯総論・正犯概念と正犯性・正犯と共犯の関係・独立性と従属性
- 第21回 教唆犯・幫助犯・間接正犯
- 第22回 共同正犯の諸問題
- 第23回 共犯の諸問題① 片面的共犯・過失の共犯・承継的共犯・予備と共犯
- 第24回 共犯の諸問題② 共犯からの離脱・共犯と中止犯
- 第25回 共犯の諸問題③ 共犯と錯誤・共犯と身分
- 第26回 罪数論
- 第27回 刑罰論
- 第28回 答案作成方法・答案練習問題
- 第29回 質疑応答
- 第30回 総まとめ・補正補充講義

準備学習

教科書の講義予定に該当する箇所を毎週必ず読んで予習しておくこと。参考書は未だ必要ではありません。教科書を自分の基本書として、徹底的に読みこなす努力が必要です。

履修上の留意点

- (1)①教科書、②六法全書、③ノート、④判例解説書を必ず持参してください。
- (2)刑法は、人の生命・自由などを剥奪する厳しい制裁を伴っていますので、その点で、刑法学は、人間学・哲学でもりますし、納得できる筋道の論証を必要とする論理学でもあります。したがって、自分なりの人間観・生命観・倫理観の確立を目指しながら学習を進めてください。常に、何故「この学説はこう言うのか」何故「判例はこうなるのか」といった疑問思考を心がけてください。論理の一貫性の確保するためにも、自分の基本書を何度も読み直し、講義に欠席することなく論証の努力をしてください。

成績評価の方法

(3)各種の問題点ごとに、刑法の使命・原理原則を念頭に置きながら学習してほしい。
なお、必要に応じて資料を配布することがありますので欠席しないようにしてください。
受講生が多いため、出席はとりませんので、学年末の定期試験の成績で評価します。学年末の試験は論文式です。作文力を必要としますので、日頃から考えていることを日記につけるなどして作文力を養ってください。

教科書/テキスト

場合によっては、途中で小テストをするかもしれませんが、その場合には、小テストと定期試験の両方の採点結果の平均で評価します。どちらも軽視しないでください。

参考書

- ①松村格著『日本刑法総論教科書』(八千代出版)3,500円
- ②曾根/日高編『基本判例5・刑法総論』第2版(法学書院)
- ①松村格著『刑法学への誘い』新訂版(八千代出版)2,520円
- ②松村/都築/神田/野崎共著『刑法総論』(ミネルヴァ書房)
- ③齋藤誠二編『演習ノート刑法総論』(法学書院)
- ④別冊ジュリスト『刑法判例百選I』総論[第6版]

- そ の 他
- (1) 刑法の基本的理解が不足な者には、参考書①を薦めます。
 - (2) 司法試験を目指す者には、参考書②と④を薦めます。
 - (3) 刑法総論の全体を満遍なく平易に理解したい者には、参考書③を薦めます。

なお、受講には、基本書・判例解説・六法全書・ノートは必ず携帯してください。さもないと、講義が理解できなくなります。

履修コード	101202
科目名	現代企業論
担当者名	ひやくた よしはる 百田 義治

講義の到達目標(ねらい) 本科目は東京税理士会の寄附講座として開講されます。東京税理士会所属の14人の現役の税理士の方々(そのほとんどは駒澤大学または駒澤大学大学院の卒業生)が、それぞれの実務経験を踏まえながら、税理士の役割や社会的使命、さまざまな税法の内容や意義、また税理士の実際の姿などについて、わかりやすく講義します。受講生が、本授業を通して、財政や租税に関する実際的な知識を獲得し、できれば税理士や公認会計士などの職業会計人を目指す機会となることを期待しています。

講義の内容/
授業スケジュール

以下のテーマでの授業を予定しています。

- 第1回 わが国の租税制度
- 第2回 グローバル化と証券税制
- 第3回 法人と個人の税金のしくみ
- 第4回 相続税のはなし
- 第5回 贈与税のはなし
- 第6回 所得税のはなし
- 第7回 法人税のはなし
- 第8回 税理士制度の歴史から税理士の仕事の魅力まで
- 第9回 リスク・マネジメントと税務会計
- 第10回 税理士と地方自治体の監査制度
- 第11回 税務調査と税理士
- 第12回 サラリーマンと税金のはなし
- 第13回 消費税のはなし
- 第14回 税制改正のはなし
- 第15回 まとめ

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

定期試験とレポートで評価する。
毎回資料を配布する。

特になし。

この科目は、履修制限(150名~200名)をします。最初の授業で履修制限の説明をします。

本授業はすべて外部講師(税理士)の方々によって進められます。授業における私語および携帯電話の使用は禁止します。また講師講演中の遅刻入場や途中退席も原則として禁止します。

履修コード	114601・114701・323101
科目名	憲法
担当者名	奥村 公輔

講義の到達目標(ねらい) 憲法は、個人の人権を保障し、国の統治機構のあり方を定めている。その憲法の内容を学習しながら、具体的事例の検討を通じて、憲法が我々の生活に密接不可分なものであることを理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 憲法とは何か
2. 憲法の解釈と法令の解釈
3. 人権享有主体
4. 人権保障の限界
5. 私人間効力
6. 違憲審査基準
7. 幸福追求権
8. 平等権
9. 精神的自由 (1) —思想・良心の自由—
10. 精神的自由 (2) —信教の自由—
11. 精神的自由 (3) —学問の自由—
12. 精神的自由 (4) —表現の自由①—
13. 精神的自由 (5) —表現の自由②—
14. 精神的自由 (6) —集会・結社の自由—
15. 経済的自由 (1) —職業選択の自由—
16. 経済的自由 (2) —財産権—
17. 人身の自由
18. 国務請求権
19. 参政権
20. 権力分立原理
21. 議院内閣制
22. 選挙制度
23. 国会と立法
24. 内閣と行政
25. 裁判所と司法
26. 司法権の限界
27. 違憲審査制
28. 財政民主主義
29. 地方自治
30. 平和主義

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

次週の講義内容を告知するので、教科書の該当部分を読んで予習しておくことが望ましい。
毎回レジュメを配布しそれに沿って授業を行うが、教科書も適宜参照するので必ず購入すること。
学年末試験による。
大石眞・大沢秀介編『判例憲法』有斐閣、2,700円+税、ISBN:978-4-641-13049-4

履修コード	114511・114512
科目名	公法入門 法学概論B
担当者名	赤松 ^{あかまつ} 晃 ^{あきら} ・富樫 ^{とがし} 景子 ^{けいこ}

講義の到達目標(ねらい)

かつての通年科目であった「法学概論」を、平成16年度から「法学概論」「公法入門」「私法入門」の3つの半期科目に分割していたが、これを再び「法学概論」に統合したことに伴い、本講義は、「公法入門」の単位を未だ取得していない学生（再履修）のみを対象として開講する科目である。

講義の内容／
授業スケジュール

前半は「刑法」を専門とする教員、後半は「行政法」を専門とする教員が担当する。それぞれ講義を5回行い、第6回目にテストを実施する。

前半：刑法（富樫）

1. 刑事法とは何か
2. 犯罪成立要件と犯罪カタログ
3. 刑事手続きのしくみ
4. 犯罪原因論と犯罪者の処遇
5. 現代社会と刑事法
6. 試験

後半：行政法（赤松）

1. 行政法とは何か
2. 行政法の法源
3. 行政法の領域
4. 法治行政
5. 行政作用と法
6. 試験

履修上の留意点

前半と後半で担当者も講義内容も異なり、それぞれ講義は5回（テストを含め全6回）しかない。いずれかのテストを未受験であるか、または双方のテストの合計点が120点未満（200点満点中）であると、単位取得は不可能となるので、注意すること。

成績評価の方法

既に廃講が決定している科目であるため、今年度を以て本科目の履修を終えることを原則とする。成績は、前半と後半の各試験を合計して評価する。したがって、いずれか一方のテストを受験しなかった場合、必然的に単位を取得できなくなるので、必ず2回とも受験すること。試験は、それぞれの担当者の最終講義時間（第6回目）とする。

教科書／テキスト
参 考 書

前半・後半ともに教科書は使用しない。
参考書は、必要に応じてその都度紹介する。

履修コード	128101
科目名	国際関係論
担当者名	三船 恵美

講義の到達目標(ねらい) 国際関係の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを本講義の目的とします。

講義の内容/
授業スケジュール

- 【前期】
- 第1回：国際関係を学ぶ視座
 - 第2回：国際関係の分析手法
 - 第3回：国益とパワー
 - 第4回：日本の領域と国際関係（1）日本と韓国
 - 第5回：日本の領域と国際関係（2）日本とロシア・中国
 - 第6回：安全保障の概念と類型
 - 第7回：勢力均衡とバンドワゴン
 - 第8回：覇権安定論
 - 第9回：日本人として戦争を考える：「ヒロシマ・ナガサキ」
 - 第10回：リベラリズムの考え方
 - 第11回：ネオ・リベラリズムの考え方
 - 第12回：ゲーム理論と国際関係
 - 第13回：コンストラクティヴィズム
 - 第14回：前期総括
 - 第15回：中間試験と講評

- 【後期】
- 第16回：人間の安全保障
 - 第17回：南北問題と構造的暴力
 - 第18回：人道的介入
 - 第19回：中国の台頭と日米中関係
 - 第20回：インドの台頭と米印中関係
 - 第21回：ASEANと日米中関係
 - 第22回：北朝鮮核問題と日米中関係
 - 第23回：#16～22の復習クイズ
 - 第24回：#16～22の復習クイズ解説
 - 第25回：東アジア共同体の構想とその課題
 - 第26回：難民保護とUNHCR
 - 第27回：環境外交
 - 第28回：地球環境レジーム
 - 第29回：#25～28の復習クイズ
 - 第30回：総括

準備学習
履修上の留意点

教科書を事前に読んでみましょう。新聞の国際面を毎日読みましょう。
テストを欠席した場合にレポートは課しません。就活や部活で欠席した人を特別扱いしません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

試験（前期30%＋後期70%）。
前期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論（新版）』有斐閣、2011年、2100円。
後期：天見慧・三船恵美編『膨張する中国の対外関係』2010年、勁草書房、3000円。
授業中に紹介します。

参 考 書

履修コード	325401
科目名	国際関係論
担当者名	三船 恵美

講義の到達目標(ねらい) 国際関係の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを講義の目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

- 【前期】
- 第1回：国際関係を学ぶ視座
 - 第2回：国際関係の分析手法
 - 第3回：国益とパワー
 - 第4回：日本の領域と国際関係（1）日本と韓国
 - 第5回：日本の領域と国際関係（2）日本とロシア・中国
 - 第6回：安全保障の概念と類型
 - 第7回：勢力均衡とバンドワゴン
 - 第8回：覇権安定論
 - 第9回：日本人として戦争を考える：「ヒロシマ・ナガサキ」
 - 第10回：リベラリズムの考え方
 - 第11回：ネオ・リベラリズムの考え方
 - 第12回：ゲーム理論と国際関係
 - 第13回：コンストラクティヴィズム
 - 第14回：前期総括
 - 第15回：中間試験と講評
- 【後期】
- 第16回：人間の安全保障
 - 第17回：南北問題と構造的暴力
 - 第18回：人道的介入
 - 第19回：中国の台頭と日米中関係
 - 第20回：インドの台頭と米印中関係
 - 第21回：ASEANと日米中関係
 - 第22回：北朝鮮核問題と日米中関係
 - 第23回：#16～22の復習クイズ
 - 第24回：#16～22の復習クイズ解説
 - 第25回：東アジア共同体の構想とその課題
 - 第26回：難民保護とUNHCR
 - 第27回：環境外交
 - 第28回：地球環境レジーム
 - 第29回：#25～28の復習クイズ
 - 第30回：総括

準備学習
履修上の留意点

教科書を事前に読んできましょう。新聞の国際面を毎日読みましょう。
就活や部活で欠席した人を特別扱いしません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。

成績評価の方法
教科書／テキスト

試験（前期30%＋後期70%）。
前期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論〔新版〕』有斐閣、2011年、2100円。
後期：天見慧・三船恵美編『膨張する中国の対外関係』2010年、勁草書房、3000円。
授業中に紹介します。

参考書

履修コード	116401・325901
科目名	国際私法
担当者名	笠原 俊宏 <small>かきほら としひろ</small>

講義の到達目標(ねらい)

法律関係の構成要素に外国に関連する要素が一つでも含まれる場合を、一般に渉外的法律関係と呼ぶ。そして、渉外的法律関係に適用すべき法律を指定する規定を定めているのが国際私法である。国際私法は、渉外的法律関係によって生じる紛争を円滑に解決に導く手段のみならず、予めどの国の法律を適用することとなるのか等の予測可能性を高めてくれることにも役立つ。わが国では「法の適用に関する通則法」という法律を中心に国際私法が形成されている。国際私法は、民法や商法のような実質法のように私法問題の判断基準となる法律とは規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範等と呼ばれることがある。このような他の分野と異なる国際私法的センスを習得できるように講義を進めたいと考えている。国際私法は時として難解な科目であると捉えられがちであるが、国際結婚・離婚、国際養子縁組等に関する身近な問題を具体例として取り上げ、できる限り分かり易いものとなるように工夫を試みたい。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容及びスケジュールについては、以下のように予定している。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際家族法総説
- 第3回 国際私法の構造 (1) 法性決定
- 第4回 国際私法の構造 (2) 連結の態様
- 第5回 国際私法の構造 (3) 連結概念の決定 (国籍)
- 第6回 国際私法の構造 (4) 連結概念の決定 (住所、常居所)
- 第7回 準拠法の指定 (1) 場所的不統一法国法の指定
- 第8回 準拠法の指定 (2) 人的不統一法国法の指定
- 第9回 準拠法の適用 (1) 外国法
- 第10回 準拠法の適用 (2) 公序
- 第11回 準拠法の適用 (3) 先決問題
- 第12回 婚姻の成立 (1)
- 第13回 婚姻の成立 (2)
- 第14回 中間テスト
- 第15回 中間試験の講評
- 第16回 婚姻の効力 (1)
- 第17回 婚姻の効力 (2)
- 第18回 離婚 (1)
- 第19回 離婚 (2)
- 第20回 親子関係 (1)
- 第21回 親子関係 (2)
- 第22回 親子関係 (3)
- 第23回 後見・保佐・補助
- 第24回 扶養
- 第25回 氏名
- 第26回 相続
- 第27回 遺言
- 第28回 不法行為
- 第29回 国際裁判管轄権
- 第30回 1年間のまとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

基礎となる他の科目(特に家族法)について基礎知識を有することが望ましい。

原則として学年末の筆記試験による。場合によっては、中間試験及び平常点も加味する。

笠原俊宏著『国際家族法新論 補訂版』文真堂

いずれかの六法を常に携帯すること。

授業は講義によって進行するが、随時事例問題を設定し、皆で一緒に考えることを予定している。

履修コード	116601
科目名	国際紛争解決法
担当者名	王 ^{おう} 志安 ^{しあん}

講義の到達目標(ねらい) 国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界および適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能および事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決および世界貿易機構(WTO)の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査および調停といった制度の展開および適用、国連における紛争処理の制度的展開および現状、そしてWTOの紛争処理制度の発展、手続きおよび制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判および国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立およびその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。
具体的に以下のような講義要綱を実施する。

前期

- 1 授業ガイダンス
- 2 国際法上の違法行為
- 3 国際紛争と平和的解決
- 4 外交的解決手段
- 5 国連による紛争の平和的解決
- 6 国際紛争と強制的解決
- 7 集団的安全保障
- 8 国連の平和維持
- 9 国連の強制型平和維持活動
- 10 地域的機構による集団的安全保障
- 11 軍縮法と国際平和
- 12 国際人道法の地位
- 13 武力紛争と人道法の適用
- 14 国際刑事裁判所
- 15 前期復習・テスト

後期

- 1 国際裁判
- 2 仲裁裁判
- 3 GATTそしてWTOと国際貿易紛争
- 4 WTOにおける小委員会の紛争解決の手続き
- 5 WTO判例研究
- 6 国際紛争の司法的解決
- 7 国際司法裁判所の管轄権
- 8 国際司法裁判所の裁判手続
- 9 国際司法裁判所の勧告的意見
- 10 国際司法裁判所の裁判基準及び判決の執行
- 11 国際海洋法裁判所
- 12 欧州裁判所
- 13 国際秩序と国際裁判
- 14 まとめ・復習

準備学習

授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を留意すること

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。聴講ノートをしっかりとり取ってもらいたい。

成績評価の方法

Power Pointで講義を進める。簡潔な聴講ノートは、YeStudyから入手できる。
学年末の筆記試験によって評価する。ただし、前期小テストや出席状況も成績を評価する際に考慮される。

教科書／テキスト

家正治など 共著 『国際紛争と国際法』(嵯峨野書院、2008年)

参考書

大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版(下)(東信堂)2002年 2,000円

その他

市販されている国際条約集および国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

授業はPower Pointを使って講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることもある。

履修コード	115501・323401
科目名	国際法
担当者名	王 <small>おう</small> 志安 <small>しあん</small>

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容
授業スケジュール

国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。
国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家および国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。
後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論および外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論および実行、国際地域、国際海域および宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式および効力に関する法規制、外交関係および領事関係における特権および免除などを取り上げる。
具体的に以下のような講義要綱を実施する。

前期

- 1 講義ガイダンス
- 2 国際法の意義
- 3 国際法と国内法との関係
- 4 国際法の法源とその性質構造
- 5 国際法主体としての国家の要件と類型
- 6 承認行為の法的機能
- 7 国家承継
- 8 国家の基本的権利
- 9 国家責任
- 10 国家の管轄権
- 11 国際連合
- 12 国際経済機構
- 13 国家の領域の意義及びその取得
- 14 まとめ・復習

後期

- 1 国際海域
- 2 国際化地域
- 3 宇宙空間・天体
- 4 国際法上の個人
- 5 領域的主権と個人の権利の対峙
- 6 人権の国際的保障
- 7 国際人権保障の実施措置
- 8 国際関係の処理と外交機関
- 9 国際法と環境保護
- 10 国際紛争と平和的解決
- 11 戦争と国際法
- 12 集団的安全保障
- 13 国際裁判
- 14 まとめ・復習

準備学習

授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること

履修上の留意点

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意識をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法	成績は年末の定期試験で決定する。ただし、前期小テストや講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。
教科書/テキスト 参 考 書	王志安・飯田順三『国際法への誘い』（八千代出版）2006年 大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版（上）（東信堂）2002年 2,800円 市販されている国際条約集
そ の 他	授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、Power Pointを利用した講義を行ないます。簡潔な聴講ノートは、YeStudyから入手できる。

履修コード	118701・324801
科目名	債権各論
担当者名	熊谷 芝青

講義の到達目標(ねらい) 債権各論で講義するのは、民法典のうち、第3編「債権」の第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」および第5章「不法行為」である。債権は、契約、不法行為など、さまざまな理由によって発生するが、債権発生原因について考察するのが、債権各論である。実際に法的問題に直面した際、自分なりの法的解決の見通しが立てられるような実力を養成できるように心がけたい。

講義の内容/
授業スケジュール

1. 契約法
 - 1-1 契約法総則
 - 1-1-1 契約の成立(1)
 - 1-1-2 契約の効力(2,3)
 - 1-1-3 契約の解除(4,5)
 - 1-2 贈与(6)
 - 1-3 売買
 - 1-3-1総則(7)
 - 1-3-2効力(8,9)
 - 1-3-3 買戻し(10)
 - 1-4 消費貸借(11)
 - 1-5 使用貸借(12)
 - 1-6 貸貸借
 - 1-6-1総則(12)
 - 1-6-2 効力(13,14,15)
 - 1-6-3 終了(16)
 - 1-6-4 不動産貸貸借(17)
 - 1-7 請負(18)
 - 1-8 委任(19)
 - 1-9 寄託(20)
 - 1-10 組合(20,21)
 - 1-11 和解(22)
2. 事務管理(23)
3. 不当利得(24,25)
4. 不法行為(26~30)

括弧内数字はおおよその講義回数

準 備 学 習
履修上の留意点

指定教科書の該当頁を予習してくることが望ましいが、必要ではない。
法律学の修得で大切なことは、繰り返し返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の実力上昇につながると信じている。
当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。
また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。

成績評価の方法
教科書/テキスト

学年末の定期試験により評価する。
近江幸治『民法講義V 契約法』（第3版）
近江幸治『民法講義VI 事務管理・不当利得・不法行為』（第2版）
を使用する。

参 考 書
そ の 他

我妻栄・有泉亨『コンメンタール民法』（日本評論社）
民法全般に言えることだが、復習に重点を置いて欲しい。

履修コード	115701・325001
科目名	債権総論
担当者名	中田 英幸 <small>むかた ひでゆき</small>

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、債権法の共通規則である債権総論を学習することを目的とする。債権総論とは、具体的には民法第3編債権第1章総則(およびその特別法)を指し、債権に関して共通して妥当する規則をまとめたものである。それゆえ、債権総論は債権法の根幹を成すが、難解な領域でもある。講義は、抽象的な規定の有する実際的な意味を明らかにして、わかり易くする。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 序論(1)
 - (①債権総論とは何か②債権とは何か)
- (2) 債権の「目的」(2-3)
 - (①債権の「目的」の意味②債権の種類)
- (3) 債権の効力(4-13)
 - (①履行の強制②債務不履行③責任財産の保全④第三者による債権侵害⑤債権者遅滞)
- (4) 債権債務の移転(14-18)
 - (①債権譲渡②債務引受)
- (5) 債権の消滅(19-24)
 - (①弁済②供託③代物弁済④相殺⑤更改・免除・混同)
- (6) 多数当事者の債権関係(25-30)
 - (①債権者が多数である関係②分割債務③不可分債務④連帯債務⑤保証債務)

準備学習
履修上の留意点

指定された教科書を事前に読んでおくこと。
債権総論と債権各論が合わさって債権法を構成するので、債権各論も同時に履修することが望ましい。
最新の六法は必ず持参すること。講義の内容などについて良く分からない点や疑問に思うことがあれば、いつでも質問してほしい。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

期末試験により評価する。
野村豊弘ほか著『民法III-債権総論(第3版)』(有斐閣、2005年)
中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選II債権(第6版)』(有斐閣、2009年)
他の文献は講義中に指示する。

履修コード	119001
科目名	財政学
担当者名	塚本 正文 <small>つかもと まさふみ</small>

講義の到達目標(ねらい) 私たちは、様々なサービスなどを国や地方自治体から受け、反対に租税を納めている。これだけ身近な問題でありながら、その仕組みは複雑で専門用語だらけのように見える。そこで、私たちはなぜ租税を納めなければならないのか、納めた租税はどのように用途が決定されるのか、どのような租税があるのか、おさめた租税は何に使われているのかなど生活に密着した話題をテーマに、財政の仕組みや問題点を学び、税や政府について理解を深めることを目的として講義を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

- (第1~2回目) 財政の枠組みとはどういうものなのか、(第3~4回目) 政府のお金の使い道はどの様に決まるのか~予算について~、(第5~7回目) 政府が集めたお金は何に使っているのか~政府支出について~、(第8~11回目) 政府はどの様にお金を集めているのか~租税について~、(第12~14回目) 政府の借金とは何か~公債について~、(第15回目) 前期の総括、(第16~18回目) まちと財政問題~地方財政について~、(第19回目) 財政のもつ機能について、(第20~22回目) 資源配分~財政の機能I~、(第23~25回目) 所得再分配~財政の機能II~、(第26~28回目) 景気政策~財政の機能III~、(第29回目) 地球環境と財政、(第30回目) 後期の総括

履修上の留意点

できるだけ指定した教科書に沿ってすすめるので、当日の講義内容を予め読んでおくこと。また、日頃から新聞の政治および経済欄を読んでおくこと。

成績評価の方法

学期末試験の結果をもとに成績を決定する。ただし、授業時に指示する提出物(レポート)の提出状況も考慮に入れる。

教科書/テキスト

八巻節夫編著(2011)『新財政学』文真堂。を教科書とするが、詳しくは初回授業時に説明することにする。

履修コード	333301
科目名	財政学
担当者名	はやみ のぼる 速水 昇

講義の到達目標(ねらい)

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。例えば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。

さらに最近の景気低迷、国債の累積残高、高齢化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多い。このような問題を納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から考えていくことが必要であるという認識に立って授業を行う。

なお、公務員試験、入社試験において財政学の問題が非常に多く出題されているので、授業で講義した内容に関する問題の小テストを行って、授業の理解度を確認する。

講義の内容
授業スケジュール

<前期>

- 1週 財政とは何か
- 2週 政府の役割
- 3週 公共財
- 4週 外部効果
- 5週 費用逓減産業
- 6週 政府の失敗
- 7週 予算の機能
- 8週 予算原則
- 9週 特別会計
- 10週 予算過程(編成)
- 11週 予算過程(執行・決算)
- 12週 政府の収入
- 13週 租税収入(所得税の確定申告の書き方)
- 14週 租税収入(相続・贈与税の計算)
- 15週 その他の租税収入

<後期>

- 1週 経常的歳出(公債費)
- 2週 国債発行の問題点
- 3週 経常的歳出(地方交付税交付金)
- 4週 社会保障関係費
- 5週 公共事業関係費
- 6週 防衛関係費
- 7週 経済協力費・文教及び科学振興費
- 8週 中小企業関係費・他歳出
- 9週 財政政策(国民所得の三面等価の原則)
- 10週 財政政策(均衡国民所得の図解)
- 11週 財政政策(節約のパラドックス)
- 12週 財政政策(インフレ・デフレギャップの図解)
- 13週 財政政策(閉鎖経済における政府支出乗数・租税乗数)
- 14週 財政政策(開放経済における政府支出乗数・租税乗数)
- 15週 質疑応答

履修上の留意点

学生として当然のことだが、テキスト・ノートは必ず持参すること。小テストは10回程度予定しているので出席に自信のある学生を希望する(小テストを受けていない学生は授業に出席していないとみなし成績評価の対象外としますのでご注意ください)

成績評価の方法
教科書/テキスト

試験(60点)、授業中の小テスト・レポート(40点)
速水 昇・水野恵子・和田尚久著 『公共経済と租税』学文社

履修コード	116001
科目名	裁判法
担当者名	間瀬 清史

講義の到達目標(ねらい)

学生諸君は、民事手続法については3年次以降に本格的に学習することとなりますが、裁判制度ないし司法制度一般に対する基本的理解を欠いたまま、いきなり高度な手続法理論を教授されるならば、手続法アレルギーという宿痾を引き起こすこととなります。そのような仕儀に立ち至らないようにするためには、民事手続法本論を学ぶ前にその周辺領域を中心とした基礎的学習をしておく必要があります。そのため、この講義では、主として民事手続制度全般を概観し、かつその周辺領域について講ずることとします。その意味で民事手続法の入門編を担う科目です。なお、刑事訴訟法および行政事件訴訟法の基礎的部分についても適宜触れたいと考えています。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回 オリエンテーション、第2回 裁判所紹介、第3回 民事裁判の概要、第4回 法律相談、第5回 調停手続・仲裁手続、第6回 少額訴訟・支払督促・非訟事件、第7回 民事保全制度、第8回 仮差押・仮処分、第9回 弁護士への委任、第10回 訴えの提起、第11回 管轄・移送、第12回 攻撃防御の準備、第13回 文書提出命令、第14回 訴えの併合、第15回 共同訴訟、第16回 訴訟参加、第17回 訴訟承継、第18回 争点整理、第19回 司法試験制度・司法修習制度、第20回 弁護士業務、第21回 和解、第22回 証拠収集、第23回 証拠調べ、第24回 裁判官、第25回 裁判、第26回 判決、第27回 上訴、第28回 強制執行、第29回 不動産執行・動産執行・債権執行、第30回 再審、その他(授業回数が30回の場合)

準備学習

あらかじめ配布(またはYeStudy等にアップロード)された授業用のレジュメに対する事前準備等、その都度指示します。

履修上の留意点
成績評価の方法

民事実体法、とりわけ民法を少なくとも同時並行的に履修すること。

日常の授業参加態度、論述式試験の結果及び受講者の提出物の内容等に依拠して評価する予定です。講義に積極的に参加した人が有利になるようにしたいと考えています。

教科書／テキスト

山本和彦『よくわかる民事裁判〔第二版補訂〕』 - 平凡吉訴訟日記(有斐閣選書) 2008年1700円+税

参考書

その都度指示します。

履修コード	323701
科目名	裁判法
担当者名	吉田 純平

講義の到達目標(ねらい)

裁判に関する基礎的知識を取得するとともに、裁判をめぐる現代的な諸問題について考察し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

以下のテーマに沿って、それぞれ6回ずつ講義する。

①裁判の意義、②裁判所制度、③法律家、④いろいろな裁判制度の概要(民事裁判、刑事裁判、行政裁判など)、⑤裁判をめぐる現代的諸問題

成績評価の方法

小テストおよび定期試験による。

参考書

市川正人ほか『現代の裁判(第5版)』(有斐閣)1700円+税
ISBN978-4-641-12363-2

履修コード	121411
科目名	実務演習 I
担当者名	なかの たつひさ 中野 辰久

講義の到達目標(ねらい)

本演習は、従前応用憲法演習として実施されていた経過を踏まえ、憲法を中心に演習を行っていきます。特徴としては、弁護士が担当することで実務における法の適用のされ方を踏まえた、憲法の諸論点の理解並びに法解釈能力を養うことを目的としています。また、法律実務に関する諸問題についても適宜ご紹介していきたいと考えています。

講義の内容／
授業スケジュール

憲法の中でも基本的人権論を中心に取り上げ、それに関連する形で統治機構論・憲法訴訟論を加味していく予定です。基本的には近年問題となった実際の事件・判決を題材にしていきたいと思ひます。

検討テーマは、下記のとおりです。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 基本的人権総論
- 第3回～第4回 基本的人権の限界－公共の福祉論（死刑の合憲性をめぐる問題）
- 第5回～第6回 表現の自由・報道の自由（「あるある大事典」事件）
- 第7回～第9回 表現の自由・検閲の禁止・事前抑制の原則的禁止の法理とプライバシー権（週刊文春事件）
- 第10回～第12回 表現の自由・明確性の基準（青少年保護育成条例事件）
- 第13回～第14回 集会の自由・集団行動の自由（ホテル使用拒否事件）
- 第15回～第17回 職業選択の自由・営業の自由（プロ野球のドラフト制度の是非）
- 第18回～第20回 法の下の平等（議員定数不均衡事件、尊属殺重罰規定違憲判決、国籍法違憲判決）
- 第21回～第22回 生存権（朝日訴訟、生活保護費貯蓄容認判決）
- 第23回～第25回 教育を受ける権利・特別権力関係論・部分社会の法理（校則）
- 第26回～第28回 政教分離原則・信教の自由（内閣総理大臣靖国神社公式参拝事件）
- 第29回～第30回 外国人の人権（外国人の公務就任の可否）

その他、新しい事件・問題が生じた時は、適宜追加していきたいと思ひます。

準備学習

講義の際に次回の予定をお話ししますので、それに該当する箇所について、教科書、レジュメを検討しておかれると良いと思ひます。

履修上の留意点

出席を成績評価の1要素としますので、出席を取ります。また、本演習を受講した後の復習をしていただきたいと思ひます。

成績評価の方法

レポートと出席で評価する予定です。レポートは講義中に課題をお知らせし、後期最終講義終了時に提出してもらう予定です。

教科書／テキスト

芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第四版』（岩波書店）

参考書

高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『別冊ジュリスト 憲法判例百選I・II（第5版）』（有斐閣）

演習の都度、レジュメを配布する予定です。

その他、参考となる書籍として下記の書籍を掲記します。

『立憲主義と日本国憲法（第2版）』高橋和之著（有斐閣）

『憲法I第4版』『憲法II第4版』野中俊彦他共著（有斐閣）

その他

前記のとおり、弁護士の業務内容その他の法律実務の話や日々生起する憲法問題についての紹介等も適宜行っていきたいと思ひます。

履修コード	121511
科目名	実務演習 II
担当者名	つるい しゆんきち うのの まさよし こばやし さとる すぎやま しんいち 鶴井 俊吉・上野 雅祥・小林 寛・杉山 真一

講義の到達目標(ねらい)

本演習は、民法の領域を中心に行います。その特徴は、①法科大学院への準備段階として、専門領域について精通している経験豊かな弁護士を中心に、双方向授業を行うこと、②法曹になるための前提として、大学院試験等を念頭に入れ、単なる知識をつめこむという演習ではなく、柔軟なものの考え方をすることができる頭の訓練をすること、の2点である。

講義の内容／
授業スケジュール

演習内容は、3人の弁護士と相談して決定するが、基礎民法演習で学んできたことを前提として、ケース・スタディーなど実践的な内容の比重が大きくなると思われる。具体的事案の解決にあたって、今まで学んできた民法の基本原則をどのように活用し、法律的に構成して妥当な結論を導くかという、理論的思考を重視した演習になる。そのため、積極的に議論に参加できることを希望する。

検討するテーマは、受講者決定後にプリントにより連絡する予定である。

履修上の留意点

本演習の性質上、民法総則・物権・債権等を履修していることが必要である。なお、受講者が多数の場合には、最初の演習の時間に選択を行う予定であるので、最初の講義時に必ず成績証明書を持参すること。

成績評価の方法

出席状況と平常点によって総合的に評価する。

参考書

演習の都度、適宜指示する。

履修コード	121521
科目名	実務演習Ⅲ
担当者名	木村 美隆

講義の到達目標(ねらい) 刑法の基本的な論点を含む判例を、事実関係から分析検討することを通じ、実務の現場における法適用の一端にふれることを、目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 判例を毎回1件ずつテーマに取り上げます。分野別に分類すると、おおむね次のとおりの予定です。

①総論分野 a構成要件該当性(4件)、b違法性(3件)、c責任(2件)、d未遂(1件)、e共犯(6件)

②各論分野 a財産犯(3件)、bその他(2件)

履修上の留意点 判旨の結論をそのまま記憶しようというのではなく、常に批判的な視点で検討する姿勢を期待したいと思います。

成績評価の方法 学期末に提出するレポートの内容により、評価します。

教科書／テキスト 教科書は特に指定しません。判例を学習するのにふさわしい学生向けの判例集を、学期はじめに紹介します。ただし、一度は判例の原典を読み込んでほしいと考えています。

履修コード	114531・114532
科目名	私法入門 法学概論B
担当者名	井上 健一

講義の到達目標(ねらい) この科目は、法律学科の学生が私法分野の科目を学んでいく上で、必要な基礎知識を身につけていくために設けられている。

本来、「私法」は個人の日常生活に密接に関連した問題を扱い、身近な分野であるはずだが、「公法」に比べると近寄りにくい。その理由は学生の日常生活からかけ離れ、具体的問題としてイメージすることができないことにあると思われる。本講義では現実の社会生活における身近な問題や具体的事実を多く取り上げ、民法や商法などの法の論理を具体的な生活との関係で生きたものとして認識できるようにしたい。

講義の内容／授業スケジュール

1. 私法入門の入門：契約とは何か
2. 不法行為：契約ではない私法上の法律関係
3. 雇用と法：力関係に差がある場合の契約関係
4. 家族関係と法
5. 企業と法
6. 紛争の解決
7. 発展問題

成績評価の方法

学期末に行う試験による評価を中心にする。履修人数によっては、授業内での配布課題に対する質疑と応答による評価を合わせて、もしくは授業内での評価のみで成績評価を行う。

教科書／テキスト
参 考 書

池田・犬伏・野川・大塚・長谷部、法の世界へ(第4版補訂・有斐閣)
適宜、授業内で紹介する。

履修コード	119201
科目名	社会政策
担当者名	原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい) 社会政策という学問領域は、経済学のみならず、社会学、法学、政治学、哲学、歴史学など様々なアプローチによって分析される。学際的な研究領域としての社会政策に対して、法政策(学)の視点からの接近を試みることにより、巷にあふれる政策への根拠なき直感的な批判に惑わされることなく、体系的かつ理論的に社会政策の課題を考察する力を養うことを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール

第1～2回：日本社会の現状、第3～4回：社会政策の考え方、第5～8回：家族政策・子育て支援、第9～12回：医療政策、第13～15回：雇用関係と雇用形態の多様化、第16～17回：労働時間・賃金、第18～19回：労働安全衛生、第20～22回：雇用政策と最低生活保障、第23～24回：住宅政策、第25～27回：公的年金、第28～30回：介護政策

履修上の留意点

社会政策は雇用問題や社会保障・福祉問題と密接な関係があるため、「労働法」、「社会保障法」を履修することにより、社会政策の対象とする問題群に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

学期末試験によるものとする。
教科書は開講時に指定する。
適宜紹介する。

履修コード	116301・325301
科目名	社会保障法
担当者名	ほらだ けいいちろう 原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)	社会保障法の各分野の基本的な体系、法主体間の権利義務関係及び法解釈上の論点を学習することにより、社会保障に関する法制度を正確に理解し、どこに課題があり、どのような解決が望ましいかを考察する力を養うことを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール 履修上の留意点	第1～3回社会保障の法体系・保障方法、第4～20回社会保険法（医療・年金・介護・労災・雇用）、第21～25回社会福祉法、第26～30回公的扶助法 社会保障に関する法政策上の課題については、同担当教員の科目「社会政策」で取り扱うので、同時に履修することが望ましい。「社会保障法」と「社会政策」の両科目を履修することにより、社会保障に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法 教科書／テキスト	学期末試験による。 教科書は開講時に指定する。受講にあたっては、指定教科書のほかに下記の法令集を毎回持参すること。
参 考 書	・労働調査会出版局（編）『社会保障法令便覧 2011』（労働調査会、2011年） ・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2008年） その他の文献は適宜指示する。

履修コード	120101
科目名	消費者法
担当者名	むかいだ まさひろ 向田 正巳

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、民法の特別法としての消費者法についての概説を行います。消費者法という法典があるわけではありませんが、消費者を保護し、その権利を守るための法としてはさまざまなものがあります。私たちは消費者として生活に必要な商品を購入しながら暮らしていく中で、さまざまな法的トラブルに直面します。消費者を保護する法として、どのようなものがあるかを知ることは、健全な社会生活をおくる上で、とても大切なことです。本講義では民法についての基本的な知識を確認しながら、商品を買うときにだまされたとき、欠陥商品を買ってしまったときなど、消費生活上のさまざまな法的トラブルにいかに対処すべきか、事例を用いながら学んでいくことにします。
講義の内容／ 授業スケジュール	本講義では前期に主に製造物責任法を、後期に主に消費者契約法を検討します。基本的な授業の進め方は以下の通りです。 前期：製造物責任法について 1 民法と製造物責任法 2 民法における不法行為責任についての確認 3 製造物責任法についての各論点の検討 後期：消費者契約法について 1 民法と消費者契約法 2 民法における契約責任についての確認 3 消費者契約法についての各論点の検討
履修上の留意点	消費者法は民法の特別法ですから、本講義の履修者には当然のことながら民法の基礎知識が必要となります。履修者は消費者法の各論点を検討する際には、必ず民法の体系を念頭においた考察をするように心がけてください。
成績評価の方法 教科書／テキスト	期末試験と小テストによって評価します。 未定。授業の始めに指示します。

履修コード	117101
科目名	商法総則・商行為法
担当者名	みずしま おきむ 水島 治

講義の到達目標(ねらい)

1. 本講義の概要
本講義の目的は、商法総則（商法1～31条）及び商行為（商法501～683条）に関する基本的な制度概要と解釈論的問題を解説することにあります。

2. 本講義の到達目標

本講義の到達目標は、(1) 商法の基本的な制度の趣旨や内容を理解してもらうこと、(2) 簡単な事例について商法総則又は商行為法の規定を適用して法律関係を説明できるようになること、(3) 基本的な判例や学説を具体的に適用することで法令の適用に必要な解釈論的な処理ができるようになること、の3点にあります。

講義の内容／
授業スケジュール

講義で扱う内容は、商法総則の範囲として①から⑥、商取引法の範囲として⑦から⑬となります(講義の進行上、順序は若干入れ替わる可能性があります)。扱う内容や履修者の理解度等にもよりますが、原則として、各テーマに関して数回に分けて講義を行ない、前期に商法総則の領域、後期に商行為法の領域を主として扱うこととします。

- | | |
|------------|--------------|
| ①商法総則総論 | ②商人・商行為 |
| ③商業登記 | ④商号 |
| ⑤商業帳簿 | ⑥商業使用人・代理商 |
| ⑦商事契約・商事売買 | ⑧交互計算 |
| ⑨匿名組合 | ⑩仲立営業 |
| ⑪間屋営業 | ⑫運送取扱営業・運送営業 |
| ⑬寄託 | |

準備学習

1. 講義の対象となる条文は、事前に六法で確認してきて下さい。
2. 講義の対象となる範囲はテキスト等で該当する部分を読んできて下さい。
3. 民法（財産法）の知識を多用しますので、(履修済であっても)民法に不安のある人は履修前によく復習しておくことを勧めます。

履修上の留意点

1. 履修を必要とする科目
民法の財産法分野（総則、物権、債権）は、必ずすべて履修しておくことが必要です。当該科目を履修していない場合には、本講義の単位取得は相当難しくなると考えられますので、くれぐれも注意して下さい。

2. 講義は、基本的には商法本法の解説が中心となります。
このため、不正競争防止法、商業登記法、国際海上物品運送法のような商法以外の付属法令や関連法令に関しては、本講義では最小限度で扱うものとします。また、保険法、海商法、金融商品取引法に関しては、本講義の対象外となりますので、これらの講義の履修が必要な学生は該当する科目を履修して下さい。

3. 講義の進度
本講義は予習を前提としているので、レジュメに記載がある部分であっても学生自身で対処可能な部分に関しては説明を省略することもあります。また、時間の割に範囲が広いので、相当程度のスピードで講義を薦めることになります。あらかじめ承知の上、履修判断をして下さい。

4. 会社法の取扱い
会社法総則（会社法1～24条）は本講義の範囲と重複する限りにおいて、講義で併せて説明しますが、それ以外の会社法の規定は本講義では扱いません。別途、会社法の講義を履修して下さい。

成績評価の方法

1. 期末試験（筆記試験）の成績
2. 出席は取りません。また、レポートや中間試験等に関しても実施しない予定です。
本講義は、期末試験一本での成績評価ですから、単位認定に関する救済措置はありません。履修に際してはくれぐれも注意して下さい。

教科書／テキスト

1. 六法
小型のものでかまいませんが、必ず最新版（平成23年版）を用意して下さい。また、判例付きの六法は、期末試験等に持ち込むことを禁止しますので、その点を考慮して六法を選択して下さい。

2. レジュメ
本講義は基本的にレジュメで進行しますので、必ず持参して下さい。
3. 教科書
レジュメで講義しますので、教科書を購入して頂く必要はありません。

4. 参考書
参考書に関しては、第1回講義時に文献リストを配布して説明します。

参考書
その他の他

- 第1回講義時に配布する参考文献リストで説明します。
1. 期末試験だけの成績評価ですから、無理に講義に来てもらう必要はありません。
2. 講義中に私語や携帯電話をすること等、他の学生の履修の妨げになることは厳に謹んで下さい。
3. 担当者は非常勤講師ですから、質問等に関しては講義終了時に受けることとなりますので、その点はあらかじめ了解して履修判断をして下さい。

履修コード	325501
科目名	商法総則・商行為法
担当者名	みずしま おさむ 水島 治

講義の到達目標(ねらい)

1. 本講義の目的
本講義の目的は、商法総則（商法1～31条）及び商行為（商法501～683条）に関する基本的な制度概要と解釈論の問題を解説することにあります。

2. 本講義の到達目標
本講義の到達目標は、(1) 商法の基本的な制度の趣旨や内容を理解してもらうこと、(2) 簡単な事例について商法総則又は商行為法の規定を適用して法律関係を説明できるようになること、(3) 基本的な判例や学説を具体的に適用することで法令の適用に必要な解釈論的な処理ができるようになること、の3点にあります。

なお、講義の基本的な水準は、昼間開講の商法総則・商行為法（11710）と基本的に同水準とします。

講義の内容／
授業スケジュール

講義で扱う内容は、商法総則の範囲として①から⑥、商取引法の範囲として⑦から⑬となります（講義の進行上、順序は若干入れ替わる可能性があります。）。扱う内容や履修者の理解度等にもよりますが、原則として、各テーマに関して数回に分けて講義を行ない、前期に商法総則の領域、後期に商行為法の領域を主として扱うこととします。

- | | |
|------------|--------------|
| ①商法総則総論 | ②商人・商行為 |
| ③商業登記 | ④商号 |
| ⑤商業帳簿 | ⑥商業使用人・代理商 |
| ⑦商事契約・商事売買 | ⑧交互計算 |
| ⑨匿名組合 | ⑩仲立営業 |
| ⑪問屋営業 | ⑫運送取扱営業・運送営業 |
| ⑬寄託 | |

準備学習

1. 講義の対象となる条文は、事前に六法で確認してきて下さい。
2. 余力があれば、テキスト等で該当する部分を読んできて下さい。
3. 民法（財産法）の知識を多用しますので、履修済の場合でも不安のある人はよく復習しておくことを勧めます。

履修上の留意点

1. 履修を必要とする科目
民法の財産法分野（総則、物権、債権）は、必ずすべて履修しておくことが必要です。当該科目を履修していない場合には、本講義の単位取得は相当難しくなると考えられますので、くれぐれも注意して下さい。

2. 講義は、基本的には商法本法の解説が中心となります。
このため、不正競争防止法、商業登記法、国際海上物品運送法のような商法以外の付屬法令や関連法令に関しては、本講義では最小限度で扱うものとします。また、保険法、海商法、金融商品取引法に関しては、本講義の対象外となりますので、これらの講義の履修が必要な学生は該当する科目を履修して下さい。

3. 会社法の取扱い
会社法総則（会社法1～24条）は本講義の範囲と重複する限りにおいて、講義で併せて説明しますが、それ以外の会社法の規定は本講義では扱いません。別途、会社法の講義を履修して下さい。

成績評価の方法

1. 期末試験（筆記試験又はレポート試験）の成績
2. 出席は取りませんし、小テストも実施しません。

教科書／テキスト

1. 六法
小型のものでかまいませんが、必ず最新版（平成23年版）を用意して下さい。また、判例付きの六法は、期末試験等に持ち込むことを禁止しますので、その点を考慮して六法を選択して下さい。

2. レジュメ
本講義は基本的にレジュメで進行しますので、必ず持参して下さい。

3. 教科書
レジュメで講義しますので、教科書を購入して頂く必要はありません。

4. 参考書
参考書に関しては、第1回講義時に文献リストを配布して説明します。

参考書
その他

- 第1回講義時に配布する参考文献リストで説明します。
1. 期末試験だけの成績評価ですので、その点十分に了解した上で履修の判断をしてください。
 2. 講義中に私語や携帯電話をすること等、他の学生の履修の妨げになることは厳に謹んで下さい。
 3. 担当者は非常勤講師ですから、質問等に関しては講義終了時に受けることになります。若干不便かもしれませんが、あらかじめ了解した上で履修の判断をして下さい。

履修コード	121611・121621・121631・121641・121651・121661・121671・121681
科目名	新入生演習
担当者名	金子 昇平・熊谷 芝青・奥村 公輔・間瀬 清史・井上 健一・荒木 正孝・原田 啓一郎・吉田 純平・大宮 隆・高橋 洋城・竹中 智香・中濱 義章・松村 格・赤松 晃・田中 優企・藤本 茂

講義の到達目標(ねらい)

この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。

授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。

講義の内容／
授業スケジュール

学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせ、全体としてこれらの基本的なスキルが身についていくものとして、考えられています。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表のし方（1）テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表のし方（2）発表
- 第13回 ゼミなどでの発表のし方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）
または各種施設
- 第15回 まとめ

準備学習
履修上の留意点

その時々々に設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。

成績評価の方法
教科書／テキスト

演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。

参考書

参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	327011・327021・327031
科目名	新入生演習
担当者名	向田 正巳・佐藤 多美夫・王 志安・富樫 景子・鶴井 俊吉・中田 英幸・北野 かほる

講義の到達目標(ねらい)

この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけられるようにとの趣旨で設けられています。法律学科の1年生はもれなくこの科目を履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待されています。

講義の内容
授業スケジュール

授業は、原則として、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も有効・適切な勉学方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。また、実務に関する知見を広めるために、裁判所等の各種施設（文化施設を含む）を訪問することもあります。

学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は概ね以下の通りです（教室での授業が15回の場合）。以下の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせて、全体としてこれらの基本的なスキルが身につけていくものとして、考えられています。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な学習施設（図書館や情報センターの利用方法、文献の探し方・調べ方）
- 第3回 教室での講義の受け方とノートの取り方
- 第4回 基本的な書籍とその利用方法、六法全書の読み方と使い方、
法学用語集や辞書の活用方法
- 第5回 法律学的な文章の読み方とまとめ方
- 第6回 発展的な書籍の活用
- 第7回 法学文献以外の図書、雑誌および新聞等から法についての感覚を学ぶ
- 第8回 注のある文献の読み方と注の使い方
- 第9回 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
- 第10回 レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
- 第11回 ゼミなどでの発表のし方（1）テーマの決定
- 第12回 ゼミなどでの発表のし方（2）発表
- 第13回 ゼミなどでの発表のし方（3）発表
- 第14回 将来設計と学修（卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか）または各種施設（文化施設を含む）の訪問
- 第15回 まとめ

準備学習
履修上の留意点

その時々設定されたテーマごとに、担当教員の指示に従ってください。
授業への毎回出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当教員の指示に従って学習してください。

成績評価の方法
教科書/テキスト

演習への参加態度および課題提出評価点等を総合して成績評価します。
指定教科書はありません。使用する図書、雑誌および新聞等については、担当教員が適宜指示します。

参考書

参考書、課題図書は、担当教員がその都度指示します。

履修コード	117301
科目名	政治学原論
担当者名	おまつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)

I自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならずひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と説明ができるように基礎的的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容/
授業スケジュール

III講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一回テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A政治学の課題と対象、ならびに方法(1)

B政治の原理的究明

(1) 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

(2) 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

(3) イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2～15)

C政治の実体論的究明

(1) 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制(16～22)

(2) 機能論的究明

～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化(23～30)

成績評価の方法

V成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は

中間試験：50%

学年末試験：50%

以上の割合によるものとします。教科書、授業の理解度を重視し採点します。

なお、追試験も実施します。

教科書/テキスト

大塚桂『政治学原論序説』(勁草書房)3,296円

大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社)2,900円

参 考 書

上記教科書の巻末にある参考文献を参照のこと。

そ の 他

学習にあたっては、大塚編『補章オリエンテーション政治学』『政治学へのいざない』(成文堂)、大塚編『日本の政治学』(法律文化社)等を参考にしてください。

履修コード	324301
科目名	政治学原論
担当者名	おおつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容/
授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、および方法(1)

B 政治の原理的究明

(1) 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

(2) 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

(3) イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2~15)

C 政治の思想(史)的究明(16~18)

D 政治の実体論的究明

(1) 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

(2) 機能論的究明

～政党、圧力団体(19~30)

成績評価の方法

試験による単位認定

中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。なお試験は通常の授業時間を利用して実施します。欠試者に対しては、レポートを課します。

※追試験は実施しません。

教科書/テキスト

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂)3,000円

大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社)2,900円

参 考 書

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

履修コード	117401
科目名	政治史
担当者名	村井 ^{むらい} 良太 ^{りょうた}

講義の到達目標(わらい)

政治は広く私達の生活に関係しており、また私達は主に選挙を通じて政治を形作っていく立場にもあります。したがって政治を知ることは社会人の大事なたしなみといえます。本講義は、法律学科の1・2年生を対象としていますので、社会人の素養としての活きた政治史を心がけ、政治上の基本的な知識を修めるとともに、歴史的な分析を通じて現在への政治的理解を深めることを目的としています。

講義の内容／
授業スケジュール

本年度の「政治史」では、現代日本にとって大変重要である日米関係を軸に、戦前、戦後の政治史を俯瞰します。ペリー来航から冷戦後までの日米関係史を中心に、世界が、日本がどのように変化してきたのか。また、変わらない要素は何か、幅広く学びます。

講義内容は、以下を予定しています。スケジュールなど詳細は開講後にお知らせします。

前期：(1) はじめに (2~3) 日米の遭遇と世界史への登場 (4~5) 日露戦争と日米台頭の時代 (6~8) 第一次世界大戦と日米関係の再調整 (9~11) ワシントン体制 (12~14) 日本の戦争と米国の不承認 (15) まとめ

後期：(16~18) 日米戦争と日本占領 (19~21) バクス・アメリカーナの中の戦後日本 (22~24) 日米協調の果実 (25~26) 危機の中の日米関係 (27~28) 新自由主義の時代 (29) 冷戦後、9.11後の日本と米国 (30) おわりに

準備学
履修上の留意点
成績評価の方法

早い時期に一度テキストを終わりまで読み通してください。

履修する学生には、出席はもとより、自学自習に基づく積極的な授業参加を求めます。

成績は、随時おこなう出席調査と、中間試験、学年末試験によって評価します。初回の授業で詳しい説明を受けてください。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

五百旗頭真『日米関係史』有斐閣、2008年、税別2400円、ISBN:9784641183575。

参考図書は、講義のなかで随時紹介していきます。

履修者数が多く、教場に入りきれない場合は受講制限をする場合があります。

履修コード	118901・325801
科目名	税法
担当者名	あかまつ 赤松 晃

講義の到達目標(ねらい)	所得税法、消費税法、相続税法(相続・贈与)及び法人税法を中心に、租税法に関する日本経済新聞等の記事を読み解くことができる水準とする。公務員試験や資格試験に資する。
講義の内容／授業スケジュール	・講義は、原則として、下記の講義予定に係る各テキストの目次に従って進めていく。具体的な学習の内容及び進度に関する詳細は講義において述べる。適宜、関係する新聞記事や論文等を配布する。 第1～第6回 『税法入門』 第7～第12回 『所得税法』 第13～第18回 『消費税法』 第19～第23回 『相続税法(相続税・贈与税)』 第24～第28回 『法人税法』 第29～第30回 まとめ
準備学習	・初回講義には、下記の税務大学校講本のうちから『税法入門』(全91頁)を各自が印刷して持参すること。 ・初回講義はイントロダクションとして『税法入門』の第6章「税務行政の概要」及び第7章「税務行政の組織と権限」を対象とする。 ・講義に先立ち予習項目を指定するので、該当箇所を必ず読み込んで出席すること。
履修上の留意点	・税法が掲載されている小六法又は六法全書などを持参すること(租税に関する法令・通達等 { http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1 }を参照)。
成績評価の方法	成績は、講義への積極的参加状況、夏季課題レポートの内容、秋季課題の達成程度、期末試験の結果を総合して評価する。 夏季課題レポートの提出がない者は、定期試験の評価対象としないので必然的に単位を取得できない。
教科書／テキスト	国税庁税務大学校が、初めて税法に触れる普通科及び専門官基礎研修の研修生のために毎年アップデートしている税務大学校講本のうち、次を各自が{ http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm }からダウンロードして持参すること(頁数は平成22年度版による)。 『税法入門』(全91頁)、『所得税法』(全167頁)、『消費税法』(全99頁)、『相続税法(相続税・贈与税)』(全133頁)、『法人税法』(全150頁)。
参考書	参考書は、図書館の蔵書等を利用。 ・水野忠恒『租税法』(有斐閣、4版、2009年)6200円+税 ・金子宏『租税法』(弘文堂、15版、2009年)5500円+税 ・岡村=渡辺=高橋『ベーシック税法』有斐閣アルマ(有斐閣、4版、2009年)2100円+税 ・金子=清永=宮谷=畠山『税法入門』有斐閣選書(有斐閣、6版、2007年)1000円+税
その他	次の関連リンクを参照のこと ・国税庁税務大学校講本 { http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm } ・国税庁HP { http://www.nta.go.jp/ } ・財務省税制HP { http://www.mof.go.jp/jouhou/syuzei/syuzei.htm } ・租税に関する法令・通達等 { http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1 }
関連リンク	http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm

履修コード	117901・324101
科目名	西洋法制史
担当者名	北野 ^{きたの} かほる

講義の到達目標(ねらい) イングランド(イギリス)の法と社会のかかわりの歴史を素材に、ひとが社会で生きるときに、その社会の法のしくみが生活とどうかかわってくるかを理解すること。

講義の内容／
授業スケジュール 第1～3回 第1部 総論 イングランド法制史理解のための基礎知識 第1章 時間と空間 第2章 時代区分1：ヨーロッパ法史の時間 第3章 時代区分2：イングランド法史の時間 第4～10回 第2部 各論 イングランド法制史 第1章 古代 古代イングランドの社会と法 第11～20回 第2章 中世 中世イングランドの社会と法 第21～30回 第3章 近世 近世イングランドの社会と法 いずれの時代についても、紛争解決方法の種類と特徴を軸に講義します。

準備学習
履修上の留意点

*講義内容・時間配分は必要に応じて変更することがあります。
高等学校で学習した世界史のうち西洋史の部分を復習しておいて下さい。
ある時代の社会で、ひとびとのあいだに不調和が生まれたとき、それを解決するために利用可能なことからの状況は社会によって違います。この違いが、その社会ではどのような紛争解決方法に現実味があったのかを規定することになります。この、社会的リソースとその活用という関係が、法的関係とりわけ日常的な不調和解決の場面でも働いていることを感じ取れる感覚を養うことが目的です。すこし専門的ですが、一種のバーチャル・リアリティの異世界体験だと思って、想像力を活用しながら聴講し、思い出してイメージを鍛えることが大切です。

受講者の人数によっては、抜き打ち的に出席をとることがあります。毎回の出席点を成績に加味することはありません。要するに、毎回出席していない限り、抜き打ちの出席チェックには対応できないということです。

成績評価の方法

休んだ時間の講義ノートは早めに確保するようにしてください。出席して自分でノートを取ることが記憶を鍛える最良の方法ですから、講義ノートのウェブ公開はしません。
原則として学年末試験により行います。試験の評価は、講義内容を十分理解しているかどうかを基準に行います。試験に持ち込み物件は認めません。丸暗記すれば授業内容が身に付くような書籍は出版されていませんので、試験勉強には、講義ノートが一番重要な情報源です。

教科書／テキスト
参 考 書

特に指定するものではありません。
J・ベイカー(小山貞夫訳)『イングランド法制史概説』創文社、9975円 ISBN:978-4423740286
F・W・メイトランド(小山貞夫訳)『イングランド憲法史』創文社、12600円 ISBN:978-4423492130
R・C・ヴァン・カネヘム(小山貞夫訳)『裁判官・立法者・大学教授』ミネルヴァ書房、3780円 ISBN:978-4623020447
田中英夫『英米法総論(上)』東京大学出版会、3675円 ISBN:978-4130350518
勝田有恒・山内進・森征一編『概説西洋法制史』ミネルヴァ書房、3360円 ISBN:978-4623040643

履修コード	116701
科目名	担保物権法
担当者名	鶴井 俊吉 <small>つるい しゆんきち</small>

講義の到達目標(ねらい)

この講義では、民法典の第二編「物権」のうちで、留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等がその対象になる。債権の履行を確保するために認められるこれらの担保物権の基礎を理解できるように講義を進めたい。

講義の内容／
授業スケジュール

私たちが土地を買い、建物を建てる、あるいは自動車を買うという場合に、多くは金融機関から融資を受けることになるが、金融機関では何らかの担保を要求してくる。この場合に、抵当権や質権といった担保物権を金融機関に設定することになる。このように「小」は個人の資金調達のため、あるいは「大」は企業の活動資金獲得のために担保は重要な役割を担っている。担保物権のもつ経済的意義は極めて重要である。

しかし、学生にとって担保物権法は、民法の中で最も難解なところと感じられ、また比較的なじめない領域だと思われる。それは、多数の関係当事者が複雑に絡み合い、また解釈上でも技術的性格が強いことに原因がある。そこで講義では、担保物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例をとりあげ、図解してわかりやすいように心掛ける予定である。

スケジュールは、前期1～3の前半、後期3の後半から6まで

- 1 序論 (①担保物権の役割②種類・概念③効力・性質)
- 2 質権 (①序説②動産質③不動産質④権利質)
- 3 抵当権 (①序説②抵当権の設定③効力の及ぶ範囲④優先的効力⑤侵害に対する効力等⑥共同抵当⑦根抵当⑧抵当権の消滅)
- 4 非典型担保 (①仮登記担保②譲渡担保③所有権留保等)
- 5 留置権 (①序説②成立要件③効力④消滅)
- 6 先取特権 (①序説②種類③効力④消滅)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

授業は、教科書に沿って講義を進めていくので、教科書と六法を持参してください。

年度末の定期試験の結果と講義出席の状況を考慮して総合的に評価する。

プロGRESS民法(担保物権法) 清水元著 成文堂

『民法判例百選I 総則・物権』 有斐閣

履修コード	326301
科目名	担保物権法
担当者名	やまだ そういち 山田 創一

講義の到達目標(ねらい)

担保物権は、債権の履行を確保することを目的として、債権者が債務者または第三者の財産に対して有する一定の支配権の総称である。民法には、留置権・先取特権・質権・抵当権の4種類が規定されており、これらは典型担保と呼ばれる。このほかに、譲渡担保、仮登記担保、所有権留保といった民法に規定のない非典型担保も存在している。

こうした担保物権は、当事者間の約定または法律の定めに従って発生し、債権の履行確保のためその効力として、優先弁済的効力や留置的効力などが認められるが、上記の各担保物権の種類によってその内容や効力は異なる。

本講義では、民法の295条から398条の22までの典型担保の講義を中心にしつつ、非典型担保も可能な範囲でとりあげることにする。

講義の内容/
授業スケジュール

- 1 担保物権法概論
- 2 抵当権総論
- 3 抵当権の目的の範囲
- 4 抵当権侵害
- 5 抵当権の物上代位
- 6 抵当権の処分
- 7 第三取得者との利害調整
- 8 法定地上権
- 9 共同抵当
- 10 根抵当
- 11 留置権
- 12 先取特権
- 13 質権
- 14 譲渡担保
- 15 所有権留保
- 16 仮登記担保

履修上の留意点

六法は教科書とともに持参してください。重要な判例については、判例を事実とあわせて読むことが重要です。読んだほうがよい判例は、講義の際に指定したいと思います。

内容が毎回関連していますので、休まずに出席するようにしてください。

学年末の筆記試験を中心に総合的に評価します。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

清水元『プロGRESSIVE民法[担保物権法]』(成文堂) 2500円

遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』第三版(勁草書房) 2200円

履修コード	119601・325701
科目名	知的財産権法
担当者名	角田 政芳

講義の到達目標(ならい)

現代社会においては、科学技術や芸術のような人類が創造したもの、つまり知的財産がその重要なインフラとなっています。

そのような知的財産には、例えば、テクノロジー、デザイン、ブランド、ノウ・ハウや、iPadやGALAPAGOSのような電子書籍、ミュージック、映画、アニメーション、ゲームソフトなどのアートという、人類の知恵から生み出された広い意味での創造物が含まれます。これらは、特許権、実用新案権、育成者権、意匠権、商標権、著作権などの知的財産権という、他人の無断利用を禁止することのできる権利によって保護されています。

この授業の目標は、このような、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、不正競争防止法上の権利、そして著作権や著作隣接権の基本について、皆さんの身の回りに生起しているニュースや判例を見ながら理解を深めていただきます。

講義の内容
授業スケジュール

- 【第1回】知的財産法総論(知的財産権の種類、法的性質)
 - 【第2回】特許法の目的、発明の意義・種類
 - 【第3回】特許要件(産業上利用性・新規性喪失事由・進歩性・先願範囲の拡大・公序良俗)
 - 【第4回】特許権の主体(発明者・共同発明・職務発明)
 - 【第5回】特許権取得手続(願書・明細書・特許請求の範囲・図面・要旨、審査手続、出願公開)
 - 【第6回】特許権の効力と制限(試験・研究、医薬の調合等、用尽理論、属地主義)
 - 【第7回】特許権の利用(ライセンス・専用実施権と通常実施権、担保権、信託など)
 - 【第8回】特許権の侵害と救済(直接侵害・クレーム解釈・均等論、間接侵害、民事救済、刑罰)
 - 【第9回】実用新案権
 - 【第10回】意匠権(権利の客体・意匠、主体、登録要件、権利取得手続、権利侵害、特殊制度)
 - 【第11回】商標権(1)(権利の客体・商標、主体、登録要件)
 - 【第12回】商標権(2)(権利取得手続、権利の効力と制限、権利侵害、取消審判)
 - 【第13回】不正競争防止法(1)(有名ブランド・ドメインネーム・トレードシークレット)
 - 【第14回】不正競争防止法(2)(不正競争行為への救済・刑罰)
 - 【第15回】国際的側面(属地主義、並行輸入、国際技術移転、強制ライセンス、パリ条約・PCT・マドプロ等)
 - 【第16回】著作権法総論、著作権法の目的、沿革、産業財産権と著作権の相違点、著作権法の現代的課題
 - 【第17回】著作権の客体(1)(著作物の要件)
 - 【第18回】著作権の客体(2)(著作物の種類、二次的著作物)
 - 【第19回】著作者人格権とその制限
 - 【第20回】著作権の効力(複製権、上演・演奏権、上映権、公衆送信権、展示権、口述権、頒布権、譲渡権・貸与権等)
 - 【第21回】著作権の制限(1)(私的複製、図書館の複製、引用・転載)
 - 【第22回】著作権の制限(2)(教育目的の複製、非営利目的の上演・演奏等、)
 - 【第23回】著作権の制限(3)(報道目的の複製、一時的固定、プログラムのインストール等)
 - 【第24回】著作権の利用(権利移転、ライセンス・出版権設定契約・出版契約、担保権、JASRACの信託的譲渡等)
 - 【第25回】著作権の侵害(直接侵害と擬制侵害、間接侵害と代位責任等、Winny事件等)
 - 【第26回】著作隣接権(実演家人格権、実演家・レコード製作者・放送事業者・有線放送事業者の著作隣接権)
 - 【第27回】著作権侵害の救済(差止請求・損害賠償請求・不当利得返還)
 - 【第28回】著作権侵害罪(罰則・コピープロテクション回避禁止等)
 - 【第29回】著作権の国際的側面(複製物の並行輸入、インターネット上の著作権侵害等)
 - 【第30回】著作権関係条約の概要(TRIPs協定、ベルヌ条約、万国著作権条約、WCT、WPPTなど)
- 総合評価(平常点:原則30%;定期試験:原則70%)
 角田政芳他著「アルマ知的財産法<第5版>」有斐閣、2010年
 角田政芳編「知的財産権六法2011」三省堂2011

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

履修コード	127501・326001
科目名	地方自治法
担当者名	富井 幸雄 <small>とみい ゆきお</small>

講義の到達目標(ねらい) 日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートしている。この改革がいかなる意義をもつのかを、新地方自治法の理念や制度を理解するとともに、その課題を議論していく。

講義の内容/授業スケジュール 講義は概ね以下のスケジュールで行う。前期は、地方自治の概念、憲法と地方自治、地方公共団体の概念、地方公共団体の事務、住民自治を順に勉強していく。後期は、地方公共団体の組織、自治立法権、自主財政権、公の施設、国と地方公共団体の関係を順に勉強する。なお、前後期それぞれ最後の授業時に試験を実施する。

準備学習 毎回の授業終了時に次回の講義箇所をアナウンスするので、関係する教科書の部分を熟読する。また関連する地方自治法などの条文に目をとっておく。

履修上の留意点 憲法や行政法、ならびに行政学も同時履修あるいは既修であることがのぞましい。

成績評価の方法 前期試験(40%)と学年末試験(60%)で総合的に評価する。

教科書/テキスト 富井幸雄『地方自治法読本 改訂版』2008年4月(内外出版)

参考書 『地方自治判例百選(第3版)』(別冊ジュリスト)。

その他 講義では頻繁に法律の条文に言及するので、その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

履修コード	118801
科目名	登記法
担当者名	田沼 浩 <small>たぬま ひろし</small>

講義の到達目標(ねらい) 初めて登記法を学ぶ者にも、以前勉強したことのある者にも、民法・会社法・商法の手続法としての「不動産登記法・商業登記法」が現在の取引社会においてどのような役割を担っているのか、両法により深い理解を図ります。また、登記簿等のオンライン閲覧や今後予想されるオンライン登記申請に伴う情報リテラシー(活用)能力を養います。

講義の内容/授業スケジュール (前期)(1・2)登記法概論(3~5)不動産登記法総則・商業登記法総則(6~15)会社法第四章登記、商法第三章商業登記及び会社法にかかる商業登記、(後期)(16~18)会社法にかかる商業登記つづき(19~21)民法典物権編総則にかかる不動産登記(22)所有権にかかる不動産登記(23~26)民法典相続編にかかる不動産登記(27~29)担保物権にかかる不動産登記(30)まとめ

準備学習 民法及び会社法の日頃から関心をもって、書籍や新聞を読みましょう。

履修上の留意点 不動産に関する取引全体の流れに対して、情報として重要な役割を果たす不動産登記を理解することを目指し、会社法と関連させることによって会社の起業や取引先の情報収集に役立つ商業登記法の知識を最低限習得できるように努めます。受講者は民法典第二編物権、第三編債権、第五編相続、会社法の履修を望みます。また、この講義を受講することが望ましい者として、将来、企業の法務部・総務部に配属されることを考えている者、不動産・金融関係の会社に就職を希望する者、起業して自営業を目指す者、そして司法書士試験を受験したいと考えている者など、広く対象とします。

成績評価の方法 学年末試験の結果と提出物(前期レポート)の内容に依拠して行います。問題作成及び成績評価にあたっては、教科書等から問題を作成し、講義に積極的に参加した人が有利になるように成績評価を配慮します。

教科書/テキスト 『定款の実務』日本司法書士会連合会の推奨図書(オンブック 田沼浩著) 3600円。オンブックサイトから直接購入してください。『定款の実務』か、『田沼浩』で検索するか、次をクリック。http://www.onbook.jp/bookd.html?bid=0099j

参考書 『窓口の相談事例にみる事項別不動産登記のQ&A200選』(日本法令 不動産登記研究会編) 2,310円 『有斐閣判例六法Professional』(有斐閣) 5,460円 法務省民事局編『不動産登記実務[五訂版]』(法曹会)

関連リンク http://www.komazawa-u.ac.jp/

履修コード	119501・326801
科目名	倒産処理法
担当者名	鈴木 貴博 <small>すずき たかひろ</small>

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

破産法を中心に倒産処理法制の概要とその基本事項に関する理解を深める。
倒産処理手続は、債務者・債権者・担保権者など多数の利害関係人の利益が錯綜し、債権者の平等な取扱いや、破産者の再起更生、社会経済上の不利益の回避といった要請に応え、実体法の規定に配慮しつつ、手続の基準として多数の利害関係人を納得させるように機能することが期待される。このような様々な実体的法律関係の修正・処理のための法制度の特徴と概要を学んでいく。

1. 倒産法制の概観
2. 破産原因・破産能力
3. 破産手続開始申立てとその効果
4. 別除権・相殺権
5. 破産財団をめぐる法律関係
6. 破産管財人の法的地位
7. 財団債権・取戻権
8. 否認権・配当
9. 免責・破産犯罪
10. 消費者倒産

履修上の留意点

民事法関連科目(民法・商法・民事訴訟法など)を履修済みか履修中であることが望ましい。その他、受講にあたって必要なことは開講時に指示する。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

簡単なレポートと学期末試験により評価される。
徳田和幸『プレップ破産法』(弘文堂、第4版、2008年) ¥1,260 ISBN978-4-335-31309-7
①伊藤眞『破産法・民事再生法』(有斐閣、第2版、2009年) ¥6,615 ISBN 978-4-641-13544-4
②山本和彦・中西正・笠井正俊・沖野眞巳・水元宏典『倒産法概説』(弘文堂、第2版、2010年) ¥4,725 ISBN 978-4-335-35459-5 C3032
③山本和彦『倒産処理法入門』(有斐閣、第3版、2008年) ¥2,205 ISBN 978-4-641-13534-5
④青山善充・伊藤眞・松下淳一『倒産判例百選』(有斐閣、第4版、2006) ¥2,520 ISBN 978-4-641-11484-6

履修コード	118501
科目名	独法
担当者名	中田 英幸 <small>なかた ひでゆき</small>

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、主に近代以降のドイツ法について高度な理解を得ることを目的とする。ドイツ法は、世界各国に影響を及ぼしており、日本も例外ではない。私法・公法ともに日本の法律はドイツ法を参照しており、ドイツ法を学ぶことは日本法の理解にも役立つ。それゆえ、講義では日本との関係をドイツ法検討の中心とする。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1回 独法講義の予定
第2回から5回 ドイツ法の全体構造
第6回から10回 明治期におけるドイツ法の影響
第11回から第18回 ドイツ公法(刑法を除く)
第19回から第24回 ドイツ民法
第25回から第30回 ドイツ刑法

履修上の留意点

ドイツ語の原文を参照することがあるので、ドイツ語の読解ができること。ドイツ語を習得していない者は、単位取得を目的としなければ聴講可能である。

成績評価の方法

10人程度の少人数クラスを念頭におく。出席点、講義での発言点という平常点と、レポートによる。なお、毎回の出席を前提とする。

教科書/テキスト
参 考 書

教科書は指定しない。
初回講義時と講義中に適時紹介する。

履修コード	117801
科目名	日本法制史
担当者名	末澤 国彦

講義の到達目標(ねらい)

この講義は、近代を中心として日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。

現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを知ることによって、法という社会現象についてより深い理解が得られるようになることを目標とする。

講義の内容
授業スケジュール

第1回：日本法制史の基本的な考え方 第2回～第4回：時代区分とそれぞれの法の特徴

第5回：明治初期の国家機構 第6回：明治初期の刑事法と治安法制

第7回：明治初期の民事法 第8回：明治初期の司法制度 第9回：旧刑法の成立と治安法制

第10回：大日本帝国憲法の制定 第11回：内閣と枢密院 第12回：帝国議会

第13回：明治憲法下の司法制度と司法官養成 第14回・第15回：民法典の編纂と法典論争

第16回：商法の成立 第17回：刑事訴訟法の成立 第18回：民事訴訟法の成立

第19回：教育・学校法制 第20回・第21回：条約改正と日本の対外政策

第22回：現行刑法の成立と治安法制 第23回：私人間の国家介入

第24回：刑事訴訟法の改正と陪審制 第25回：普通選挙法と治安維持法の成立

第26回：国家総動員法の成立 第27回：戦時経済統制立法

第28回：占領下の法制 第29回：日本国憲法の制定 第30回：1年間の総括

事前にテキストの該当箇所を一読してから講義に臨んでほしい。

日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。

学年末試験と平常点としての出席状況を総合して評価する。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

山中永之佑 編『新・日本近代法論』法律文化社、3780円、ISBN4-589-02585-X

大久保治男・茂野隆晴『日本法制史史料60選 - 史資料へのいざない -』芦書房、2,300円、ISBN4-7556-1128-8

履修コード	117701
科目名	比較憲法
担当者名	柳瀬 昇 <small>やなせ のぼる</small>

講義の到達目標(ねらい)	この講義は、わが国の憲法との比較において、諸外国の憲法の歴史、制度及び運用を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	主要各国の憲法を比較しながら、立憲主義の普遍性や各国の憲法の固有性を学ぶとともに、わが国の憲法についての理解をより深めてほしい。 諸外国の憲法の成立過程、人権保障規定・統治機構規定の比較分析、著名な判例を通じた憲法運用の検討の順に講義を行う。
準備学習	第1回：比較憲法の意義、第2-11回：近代・現代憲法の成立（英米独仏の憲法史、国際社会と憲法、非西欧諸国の憲法）、第12-14回：諸外国の憲法の人権保障規定の運用の比較検討（1）（信教の自由、表現の自由）、第15回：前期の総括、第16-21回：諸外国の憲法の人権保障規定の運用の比較検討（2）（違憲審査基準論、生存権、新しい人権、平等、憲法の私人間効力）、第22-29回：諸外国の憲法の統治機構規定の比較分析（諸外国の憲法の統治機構規定の総説、選挙制度、議会制度、政府と議会との関係、司法制度、違憲審査制度、その他）、第30回：後期の総括
履修上の留意点	基本的には予習は必要ないが、その代わりに、必ず講義に出席し、復習に努めてほしい。ただし、憲法運用の検討を扱う数回は、配布された資料を読んだうえで講義に臨むことを求める。 原則として、前年度までに「憲法」の講義を履修し、かつ、単位を修得済みの学生を対象とする。講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれたい。講義を受講する意思のない学生に対しては、学期の半ばでも講義の受講を遠慮してもらうことがある。 授業担当者としては、この講義の適正な受講者数は多くとも150人程度であると考えているので、第1回の講義で履修希望者が多数いた場合には、偶数学年の学生を優先しつつ、意欲のある学生についてのみ履修を認める（簡単な筆記試験を実施し、その成績に基づき選抜する）。したがって、履修希望者は必ず第1回の講義に出席されたい（第1回の講義に出席しない学生は、原則として、履修を認めない）。 授業担当者が履修を認めなかった学生は、履修登録し、講義を受講し、試験を受験しても、単位は授与されない。
成績評価の方法	期末に行う筆記試験（前期・後期各1回）や、授業時間中に適宜行う小テスト等に基づき、総合的に判断する（履修者数が少ない場合には、レポートを中心とした成績評価の方法に変更することもある）。
教科書／テキスト	90点以上の者を「S」、80点以上の者を「A」、70点以上の者を「B」、60点以上の者を「C」とし、60点未満の者を「F」と評価する。 特に指定しない。 毎回、授業担当者の作成したレジュメや資料を配布する。受講にあたって必要となる資料は、YeStudy（e-learningシステム）にアップロードしておく。
参考書その他	第1回の講義で説明する。 講義の内容に関する質問や学生生活上の相談については、講義の前またはオフィスアワーにおいて対応する。確実に時間を確保したい場合には、電子メール（noboru@komazawa-u.ac.jp）で事前に連絡をとることをすすめる。

履修コード	324601
科目名	物権法
担当者名	いまお まこと 今尾 真

講義の到達目標(ねらい)

民法総則講義において、民法全般の仕組みと基本的概念や制度を一通り学習した学生を対象に、債権とともに二大財産権の一つである物権(担保物権を除く)について、人と物の関わり・各物権の特質・各制度の特徴・隣接諸制度等を、より深く、より詳細に理解することを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

物権の意義・性質・効力・物権変動のメカニズムといった物権法総論部分の学習をした上で、各種物権(占有権から用益物権まで)を個別に細かく学習する。前期は、(1回)イントロダクション・物権法序論、(2~3回)物権の意義・客体・種類、(4~5回)物権の効力、(6~11回)物権変動、(12~14回)即時取得・物権の消滅。後期は、(1~5回)占有権、(6~10回)所有権、(10~14回)用益物権。上記のスケジュールのもと、特に物権取引の安全と公示・公信の要請という理念を反映する物権変動論につき、これらの理念をどこまで貫徹できるかの観点から各種物権および他の諸制度との関連で検討する。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

授業前に必ず教科書・資料レジュメを熟読して講義に臨むこと。
民法総則は、履修済みまたは最低限同時履修の上、本講義に出席することが望ましい。
前・後期各一回の定期試験の結果(各50%ずつ)を総合判断して評価する。ちなみに、テスト形式は、前期・後期とも、択一式の問題(5択)を3問、論述式の問題を1問という出題形式で行う。

教科書/テキスト
参 考 書

宮本健蔵編『マルシェ物権法・担保物権法〔改訂第2版〕』(嵯峨野書院)2005年
(1)中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I〔第6版〕』有斐閣(2009年)。
(2)星野英一・平井宜雄・能見善久編『民法判例百選I総則・物権〔第五版新法対応補正版〕』(有斐閣)別冊ジュリスト159号、2005年

そ の 他

多人数を想定した講義科目であるが、授業中、随時受講生に質問しながら、大規模なゼミ形式を念頭において講義を行う予定である。積極的に発言することを希望する。

履修コード	115601
科目名	物権法
担当者名	つるい しゆんきち 鶴井 俊吉

講義の到達目標(ねらい)

物権法の分野について基本的な理解ができるように、できるだけ各制度についての具体的事例をあげて解説する。そして個々の制度や条文が、現実社会で起きるどのような場合を想定して設けられたものであるかを理解できるように講義を進めたい。

講義の内容/
授業スケジュール

物権法は、民法典の第二編「物権」のうち、第1章「総則」、第2章「占有権」、第3章「所有権」、第4章「地上権」、第5章「永小作権」、第6章「地役権」までを対象とする。第7章以降は、3年次以降の「担保物権法」の領域である。

講義スケジュールとしては、上記の順序で解説するが、物権法において、重要であって複雑な問題がある。不動産売買をめぐるトラブルなどにみられるように、契約による物権変動において、物権の移転はいつ生じるのか、また物権変動に関して、第三者が生じたとき、どのように解決されているか、理論的にもわかりづらい領域であるため、多くの時間を割くつもりである。

(前期1~3の前半、後期3の後半から6)

- 1 物権法序論
- 2 物権の効力 (①物権の一般的効力②優先的効力③物権的効力)
- 3 物権の変動 (①序説②物権変動を生じる法律行為③不動産物権変動の公示④動産物権変動の公示⑤明認方法⑥物権の消滅)
- 4 占有権 (①意義②占有の成立と態様③占有権の承継④効力⑥消滅)
- 5 所有権 (①意義②相隣関係③所有権の取得④共有)
- 6 地上権・永小作権・入会権等

履修上の留意点

物権法は、解釈学上においても体系的理解が困難な分野であるといわれている。それは立法の沿革に基づいている。現行民法がドイツ民法を継受してできあがっているにもかかわらず、物権法の主要な部分については、フランス民法の影響を強く受けているからである。それゆえに講義に出席しないとなかなか興味を持たないし、理解しづらい分野であるので、毎時限の出席と予習を希望する。授業は、教科書に沿って講義を進めていくので、教科書と六法は持参してください。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

学年末試験の成績による。
プログレッシブ民法(物権法) 清水元著 成文堂
『民法判例百選I 総則・物権』 有斐閣

履修コード	118601
科目名	仏法
担当者名	上井 長久 <small>うえい たけひさ</small>

講義の到達目標(ねらい)

フランス法の根幹をなす諸制度および諸理論と、それらの理解に必要な社会的背景および歴史を講義する。フランス法は、我が国の母法の一つとして重要であるばかりではなく、近代国家として、いち早く成文の憲法、諸実定法を持つ法典国として経験が豊富であり、法の宝庫としても重要である。

本講義は、フランス法の根幹をなす諸問題を対象として、フランス私法・公法の基底を理解することを目的とする。近現代の私法・公法の基本的問題ばかりでなく、古代フランク時代と封建制度下の中世の法とにわけられる古法の時代、および自由と平等を旗印とした大革命に始まる革命期の法すなわち中間法の時代の法をも本講義の課題としている。フランスの近現代法は、19世紀初頭に統一的な成文法により樹立され発展したが、それまでの法を基礎として、或いは統一・整備され、或いは断絶・改良のものである。フランスの近現代の法を深く理解するためには、古法、中間法をも学ぶ必要がある。本講義は、そのようなフランスでいわゆるフランス私法・公法の序論と歴史と称する領域を原典資料（法文、判例、学説、一般論述等）により理解しようとするものである。

講義の内容
授業スケジュール

本講義は、まず、近現代のフランス私法・公法の基礎であるフランス人権宣言と19世紀におけるその開化について、近現代の私法・公法上の個別の問題と関係づけながら考究し、次いで、法典編纂および判例の役割という、伝統敵かつ現代においてもなお重要な私法・公法の基本的問題について、それまでの歴史的経緯を踏まえて、現代的意義を検討する。

第1回：フランス法の概要、近年の法的諸問題、第2回：フランス人権宣言の法的効力、第3回：フランス現行憲法前文の法的効力、結社の自由に関する憲法院判決、憲法院の役割、第4回：革命期の諸人権宣言および諸憲法、第5回：1789年人権宣言の着想の背景・精神、第6回：法の支配、法治国家、第7回：ナシオン主権とプーブル主権、第8回～9回：身体の自由、第10回：個人的所有権の確立、第11回：権力分立、国会優越から大統領優越へ、第12回：1946年憲法前文の社会権－労働の権利義務、第13回：企業の国有化と私有化、第14回：生存権、福祉国家、第15回：第三世代の人権－国際的連帯権ないし協調権、第16回：法の下の平等－男女平等、子の平等、第17回：夫の優越から夫婦平等へ、第18回：法典編纂とその後の私法実定法の変遷、法典化・再法典化・非法典化、第19回：法典編纂の意義・目的、啓蒙期思想家による古き良き法、ナポレオンの5法典と王令・中間法、第20回：フランク王国の法－ゲルマン法とローマ法、世俗法と教会法、属人法、第21回：高期中世（制限王政期）の法、属地法、第22回：絶対君主制（旧体制）の法、第23回：革命期における民法典の制定経緯、第24回：委員会草案とポルタリス起草の序論、第25回：護民院との非公式交渉、第26回：判例の効力－判決の構造と判例、判例観の変遷（古法、中間法）、第27回：判決の既判力、判例の拘束力と創造力、第28回：判例の非拘束性の原則とその修正、司法裁判所・行政裁判所・権限裁判所、第29回：権利濫用論、第30回：法律の解釈と法学の法律学化（注釈学派、科学学派）

準備学習

予定された授業のテーマについて、教科書および参考書を中心にして概要を把握し、質問事項を用意して授業に臨まれると、授業内容をより深く理解してもらえenと思います。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

フランス法とフランス語に興味があれば、楽しく受講してもらえenと思います。

成績評価は、学年末の定期試験で行う。

上井長久著プリント版「Introduction au droit privé」、「Introduction au droit public」及び「Histoire du droit privé」（最初の講義の時に配付する予定）

参考書

ジャン・アンバール著三井哲夫＝菅野一彦訳『フランス法制史』（白水社文庫クセジュ）、山口俊夫『概説フランス法 上』（東大出版会）、滝沢正『フランス法』（三省堂）

履修コード	114411・114412・114421・114422・323031
科目名	法学概論 法学概論A
担当者名	北野 ^{きたの} かほる・高橋 ^{たかはし} ひろき 洋城

講義の到達目標(わらい)

法学部に入っはじめて法学を学ぶひとに、法学科目履修の前提となるような知識を身につけてもらうことが、第1のねらいです。法学学習の上で必要になる、現実をイメージしながらその法的構造を読みとる力の基礎的感覚を開発することが、第2のねらいです。はじめてのことばかりで、最初はとまどうかもしれませんが、休まずに学習するよう心がけてください。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 法のイメージと法学部の講義科目
 - (1) 法とは何か
 - (2) 法学部ではどう学ぶか
2. 法の一般的分類
 - (1) 法の分類
 - (2) 法令の種類
3. 近代日本法とその社会
 - (1) 国家と社会
 - (2) 近代日本が受け継いだ法
 - (3) 近代法の変容
4. 立法の角度からの法
 - (1) 制定法主義とその法源
 - (2) 法の体系性
5. 司法の角度からの法
 - (1) 紛争解決の仕組みと機構
 - (2) 紛争の種類と解決の種類
6. 法令の解釈
 - (1) 事実の法的再構成
 - (2) 事実への法令のあてはめ

履修上の留意点

半期科目で集中的に多くのことを学びます。継続的に出席することが必要です。授業中に小テストを実施することもありますので、休まないようにしてください。

成績評価の方法

主に前期授業最終時間の試験（進度によっては定期試験）によって評価します。出席、小テスト、レポートなどが課される場合は、その評価も加味します。

教科書／テキスト

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書52）有斐閣

参 考 書

竹下・福井編『はじめての法学』成文堂

その他の参考書は随時紹介します。授業中に参考資料を配ることもあります。配付資料は原則として研究室などでの追加請求には応じませんので、必ず出席して受け取るようにしてください。

履修コード	117601・324201
科目名	法思想史
担当者名	たかはし ひろき 高橋 洋城

講義の到達目標(ねらい)

法に関する概念や用語が生まれてきた歴史的、哲学的背景や世界観に遡って検討するのが法思想史の役割である。これには二つの側面がある。一つは、中核的な概念の由来や変遷を知ることにより現代法を形成する要素の理解を深めることである。しかし同時に、様々な思考様式に触れることによって近代的思考を相対化し、実はそれが或る特殊な一様式なのだということを自覚する、ということも重要である。

講義の内容
授業スケジュール

なお題材はヨーロッパの法思想史にはほぼ限定される（東洋および日本固有の法思想を扱うことはできない）。講義の理解のためには、最低限の世界史的知識が必要だが、講義時間内においてはそこに時間をさくことはではないので、そうした点について不安のある受講者は自学自習して講義に臨んでもらわねばならない。また20世紀以降の法理論史については本講義ではとりあげず、むしろ法哲学講義の方で扱うことになるのでそちらを参照されたい。

以下に掲げる時系列に沿った講義を柱とし、その過程でいくつかの重要な法概念については、時代横断的な考察をも交えていく。

第I部 古典的自然法論とその背景の世界像

[1] 講義のねらい、対象、重点、注意事項などについて / プラトンの法思想：『国家』を中心に考察する

[2] アリストテレスの法思想：アリストテレス哲学の基礎理論を考察する

[3] アリストテレスの法思想（続）：正義論、政治体制論を中心に考察する

[4] キリスト教とローマ法：ヨーロッパの法律学・法思想を規定してきたキリスト教およびローマ法に由来する諸概念・思想について概説的な紹介を行なう。

[5] 中世自然法論：トマス・アクィナスの自然法論を中心に論ずる。題材は主として『神学大全』に拠る。

第II部 近代自然法論の思想

[6] 近代的世界像と社会契約説総説

[7] ホブズの法思想：『リヴァイアサン』を中心に考察する

[8] ロックの法思想：『統治論』を中心に考察する。また特に、所有権論史におけるロック所有権論の意義に着目する

[9] ルソンの法思想：『社会契約論』『不平等起源論』を題材に考察する / 近代自然法論まとめ

[10] カントの哲学と法思想 批判哲学の意義とその法理論への展開を考察する。特にカントに於ける「公論」の意義を検討する

第III部 19世紀以降の法思想・法律学の潮流

[11] 近代市民社会の思想：18世紀～19世紀の自然法論の果たした役割、およびヘーゲル法哲学について論ずる

[12] 19世紀の法律学の動向：歴史法学・概念法学についてとりあげる。

[13] 概念法学批判

[14] 法実証主義の諸形態

[15] 現代法理論の動向

履修上の留意点

とりあげる著作の原文抜粋を中心としたプリントに説明を加える形式で講義を進める。受講者はプリントを駒澤大学 e-ラーニングページ YeStudy からダウンロードして持参すること、さらに毎回の該当箇所を事前に読んで上で講義に臨むことが要求される。YeStudy については、下記「関連リンク」を参照のこと。

成績評価の方法

年度末の定期試験と平常点によって評価する。平常点には小テスト、課題レポート等が含まれるが、これらは加算点にのみ用いる（定期試験のみを受験するのでもかまわないということ）。

教科書/テキスト

教科書としては特定の書籍を指定しないが、講義の理解を深めるため、法思想史全般の概観ができる図書を手に置き、予・復習に役立てることを推奨する。次項の参考図書参照。

参考書

法思想史に関する概説書の例として

・三島淑臣『新版・法思想史』（青林書院）4,854円：講義内容をさらに深く掘り下げて勉強したい場合に有益であろう。

・深田三徳、濱真一郎（編）『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房 2,730円）；田中成明他編『法思想史』（有斐閣Sシリーズ 1,800円）：法思想史の流れを大まかにつかみ整理するのに役立つだろう。

関連リンク

上記の他、講義でとり上げる思想家の著作原著については、そのつど指示する。

<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>

履修コード	118201
科目名	法社会学
担当者名	佐藤 憲一

講義の到達目標(わらい)

法を社会現象として把握する法社会学は、法学の世界で中心的な地位を占めている法解釈学(実定法学)とは全く性質の異なる学問である。法解釈学も法社会学も法を対象とした学問であるという点では同一であるが、法解釈学が法システムの内側で展開される学問であるのに対して、法社会学は法システムの外側で展開される学問なのである。例えるならば、法解釈学は、聖書を信じる立場から行われる聖書解釈学に相当し、法社会学は、信仰を前提とせずにキリスト教を様々な観点から考察する宗教学に相当する。

講義の内容
授業スケジュール

前期は、法社会学総論として、我々が自明なものとして受け入れている近代的な法秩序の様態を法社会学的に考察する。後期は、法社会学各論として、今日大きな問題となっている人の死をめぐる法現象について法社会学的に考察する。この授業を通じて、ふだん勉強している法解釈学とは全く違う法社会学の発想やアプローチに触れて頭を柔らかくして欲しい。

授業の進捗その他の状況に応じて変更の可能性があるが、下記の内容を予定している。
第1～3回：法社会学という学問 第4～6回：前近代的法秩序 第7～8回：近代的法秩序の成立 第9～10回：近代的法秩序の構造 第11～12回：近代的法秩序の変容 第13～15回：近代的法秩序の批判 第16～17回：生と死の法社会学 第18～20回：人間と死 第21～22回：法と死 第23～24回：医療と死 第25～28回：安楽死と尊厳死 第29～30回：脳死と臓器移植

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

私語厳禁
筆記試験による予定である。
指定しない。
適宜指示する。

履修コード	119401
科目名	法哲学
担当者名	たかはし ひろき 高橋 洋城

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、近現代法の仕組・思考方法の基礎について検討するために必要な様々な分析枠組、原理や概念等々を学び、批判的思考のツールとして、他の法律学の学習や日常的な法との関わりの中で使えるものにしていくことを第一の目標とする。その過程では、しばしば「当然だと思っていたことがかえってわからなくなる」こともある。しかし「あらためて考え直してみる」という過程で、様々な思想や思考法に触れ理解を深めることは、将来、自らの力であらためて根本的な問題を考えてゆくための手がかり・突破口を得ることにもつながるであろう。

講義の内容／
授業スケジュール

法理論史において繰り返し論じられてきた諸トピックの中からいくつかの論点をとりあげ、それぞれの項目ごとに、理論的分析、思想史的背景、さらに現代の具体的諸問題を念頭に置いた検討を加えていく。項目によって扱い方は異なるが、できるだけ具体的な諸問題と法哲学的問題の関連が理解できるように授業の進行を心がけるつもりである。

授業で扱う具体的なテーマは、おおむね以下を予定しているが、受講者の反応・理解に応じて修正する可能性もある。

1 自然法論と法実証主義

- ・古典的自然法論を中心とした自然法論の基礎的理解
- ・近代自然法論、および18世紀以降の自然法論の展開についての概観
- ・法実証主義の基礎的理解、およびその現代における展開の概観
- ・法と道徳の問題等、自然法論と法実証主義にかかわる諸問題の批判的検討

2 正義論

- ・アリストテレスの正義論を軸に、法と正義の問題の基礎的理解
- ・平等と自由の問題
- ・正義論の現代的展開および、現代の諸問題との関連

3 法解釈と法の客観性

- ・法解釈の性質について
- ・概念法学とそれに対する批判的諸潮流の検討
- ・日本における戦後法解釈学論争の意義
- ・法解釈に関する諸理論の現代的展開

履修上の留意点

講義に際しては、受講者において、少なくとも本講義履修対象年次までの必修科目についてその基本的・原理的部分の理解があることを前提に進める。その点に不安がある場合には、受講にあたって十分な自助努力が必要となることを了解しておいてほしい。

また授業の予習復習範囲の指定など e-learning YeStudy (下記の関連リンクを参照) を利用するので、受講者はYeStudyの本講義ページに登録を行なうこと。

成績評価の方法

年度末の定期試験を主たる評価基準とするが、夏期休暇を利用したレポートないしは夏期休暇後の小テストを副次的に参照する。さらに、受講者の人数によっては出席点を加味する場合もある。以上についての詳細やその他の評価基準・方針は第1回の講義において伝えるので、必ず出席すること。

教科書／テキスト

深田三徳・濱真一郎(編)『よくわかる法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房)、¥2,730 講義の資料としても、また自習・予習の指示のためにも用いるので、必ず授業に持参すること。

参 考 書
関 連 リ ン ク

開講時に紹介する。
<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>

履修コード	120211
科目名	法律学特殊講義 [金融商品取引法]
担当者名	萬澤 ^{まんざわ} 陽子 ^{ようこ}

講義の到達目標(わらい)	有価証券の取引やデリバティブ取引に適用される金融商品取引法(金商法)という、あまり馴染みのない法律を、さまざまな具体的事例を取り上げ、i)法の背景、ii)取引内容、iii)規制対象、iv)エンフォースメントの視点から考えることによって、身近に感じられるようにすること。
講義の内容/ 授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2~5回 法の背景の視点から金商法を考える——資本市場の機能およびそこでの金商法の役割—— 第6~15回 取引内容の視点から金商法を考える——不正取引(インサイダー取引、風説の流布・偽計、相場操縦、損失補てん)、公開買付制度、大量保有報告制度—— 第16~22回 規制対象の視点から金商法を考える——適用対象としての「金融商品」(範囲とその背景の事情)、金融商品取引業者等(業規制・行為規制)、発行者(発行開示・継続開示制度)、ゲートキーパー(公認会計士・監査法人等に課される責任)—— 第23~30回 エンフォースメントの視点から金商法を考える——刑罰によるエンフォースメント、行政によるエンフォースメント(行政処分、課徴金、金融庁・証券取引等監視委員会の関係)、民事(金商法、民法)によるエンフォースメント、自主規制機関(金融商品取引所、金融商品取引業協会)によるエンフォースメント——
履修上の留意点	学期末試験の結果のみならず、平常点も重視することから、講義に主体的に参加しようとする学生の受講を歓迎する。
成績評価の方法	学期末試験50%、平常点(授業における発言・質問に対する応答、授業で行う小テスト)50%で、総合的に判断する。
教科書/テキスト	追って指定する。
参 考 書	追って指定する。

履修コード	118101
科目名	法律時事英語
担当者名	井上 ^{いのうえ} 健一 ^{けんいち}

講義の到達目標(わらい)	法律英語と言った場合、大別して2つの形態のものに習熟する必要があるように思われる。一つは、法律について書かれた論文や記事であり、もう一つは法律そのものや契約書の規定である。日本法を勉強していても実感できると思うが、「議論されること」を前提にして説明しようとする動機に基づいて書かれる前者と、さまざまな事実を大きくくりで抽象化しようとする後者とは相当異なる。本講義は、基本的に前者を素材として扱いつつ、後者についても必要な限り触れようと思う。
講義の内容/ 授業スケジュール	簡単なオリエンテーションの後、配布文献の輪読。まず英文を音読してもらい、その後、翻訳をしてもら。前後期通じて、特に発表者は指定せず、ランダムに授業内で指名した者にその都度、音読・翻訳をしてもらう。よって、参加者は常に準備が必要である。
準 備 学 習	英語の習熟レベルは英検2級以上あることが望ましいが、ただ、熱意でカバーは十分可能である。法的な知識は前提としないが、あるに越したことはない。英語のトレーニングである以上に、「法」を理解することが最大の目的であることをお互い(履修者も私も)忘れないようにしたい。
履修上の留意点	配布教材の翻訳。単語をつなげるのではなく、きちんと文章として理解すること。履修前に高校レベルの英文法の復習をしておくこと。
成績評価の方法	様々な文化のありかたに触れ、深く物事を考えたいという意欲を持つこと。単位合わせのための履修というスタンスでの参加はご遠慮願いたい。
教科書/テキスト	出席と授業での翻訳・議論への貢献による。レポート等は課さない。テストも実施しない。
参 考 書	英字新聞からのコピーを配布する。辞書は英和中辞典レベル以上のものを使用すること。さしあたり、小学館のプログレッシブ英和中辞典を推奨しておく。
関 連 リ ン ク	適宜紹介する。 http://homepage3.nifty.com/inoue-k/

履修コード	116901・326501
科目名	保険・海商法
担当者名	井上 <small>いのうえ</small> 健一 <small>けんいち</small>

講義の到達目標(ねらい) 商法のうち、保険取引および海商を含めた国際取引に関する法規整を概観する。この分野は、商法典の条文、もしくは判例の理解のみならず、約款や条約、あるいは商慣習なども含めた実務慣行に注意を払う必要がある。いわば実務との関係で「生きている法」を扱うという意味で、意欲を持って取り組みれば非常に面白い内容である。前期および後期の半分は保険法を、特に保険契約法を中心に扱い、後期の後半(11月～)は海商法およびそれに関連した国際取引に関する契約に対する法規整を扱う。保険会社や商社などの実務に興味がある者は是非参加してほしい。

講義の内容/
授業スケジュール

- I 保険法
 1. 保険法総論・保険契約法総論 2. 損害保険契約 3. 生命保険契約 4. 傷害保険
 II 海商法・国際取引法
 1. 海商法・国際取引法総論 2. 海上企業者 3. 海上運送契約・国際取引契約
 4. 海上危険・海上保険 5. 国際取引における紛争解決

履修上の留意点
成績評価の方法

民法(総則・債権各論)および商法総則・商行為法を履修済か、履修中であることが望ましい。原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で対話式のケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。

教科書/テキスト
参 考 書
関 連 リ ン ク

山下・竹濱・洲崎・山本「保険法」(第3版)(有斐閣)
 レジュメで随時紹介する
<http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

履修コード	119301・326701
科目名	民事執行・保全法
担当者名	吉田 <small>よしだ</small> 純平 <small>じゆんぺい</small>

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、民事執行法・民事保全法の基礎的知識を取得するとともに、重要な論点について考察することによって、同法への理解を深めることを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

後期前半までに、民事執行法を以下の順序で説明する。
 民事執行法総論として、①民事執行・保全法序論、②執行機関、当事者、③民事執行における不服申立て。強制執行総論として、①債務名義、②執行文、③請求異議の訴え、④責任財産(第三者異議の訴え)、⑤強制執行手続き。強制執行各論として、①不動産執行、②船舶執行、③動産執行、④権利行、⑤物の引渡請求権についての強制執行、作為・不作為についての強制執行。最後に、担保権実行と形式的競売、財産開示制度。

履修上の留意点
成績評価の方法
参 考 書

後期後半に民事保全法について講義を行う。
 民法や民事訴訟法の内容についての学習を前提とした講義になります。
 定期試験および小テストによる。
 上原敏夫ほか『民事執行法・保全法(有斐閣アルマ)(第2版補訂)』1800円+税
 ISBN978-4-641-12323-6

履修コード	116101・326601
科目名	民事訴訟法
担当者名	間瀬 清史

講義の到達目標(ねらい) この講義では、民法など民事実体法についての一応の学習を終えた人を対象として、民事訴訟手続の概説を行います。ここに民事訴訟手続とは、私人間の権利義務ないし法律関係の存否を巡って生じた紛争の解決を目指し、そのための基準を提示する手続(判決手続)のことをいいます。受講者に民事訴訟手続の全体像と民事訴訟理論の基本を修得してもらうのがこの講義の目標です。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回 オリエンテーション、第2回 民事訴訟手続概観、第3回 民事訴訟法の基礎理論、第4回 民事訴訟法の基本原則、第5回 裁判所、第6回 管轄、第7回 当事者能力、第8回 選定当事者・訴訟担当、第9回 確認の訴えの利益、第10回 給付の訴えの利益、第11回 形成の訴えの利益、第12回 当事者適格、第13回 訴訟物、第14回 一部請求、第15回 消極的確認訴訟、第16回 弁論主義 第一命題、第17回 弁論主義 第二命題、第18回 証拠収集手続、第19回 文書提出命令、第20回 証明責任、第21回 既判力の時的限界、第22回 既判力の客観的範囲、第23回 既判力の主観的範囲、第24回 複数請求訴訟、第25回 共同訴訟、第26回 補助参加、第27回 訴訟告知、第28回 独立当事者参加、第29回 上訴、第30回 再審・その他(授業回数が30回の場合)

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

YeStudy等にアップロードされた授業用のレジュメ等について事前に準備する必要があります。民事実体法の基本的な事項について一応の理解を有することが履修の前提となります。日常の授業参加態度、論述式試験の結果及び受講者の提出物の内容等に依拠して行うつもりです。問題作成および成績評価にあたっては、講義に積極的に参加した人が有利になるよう配慮する予定です。

教科書／テキスト

名津井吉裕ほか著『民事訴訟法』(法学書院)2007年、3200円(税別)。
小林秀之編『判例講義 民事訴訟法(第2版)』(悠々社)2010年、3500円(税別)。
小林秀之編『法学講義 民事訴訟法』(悠々社)2006年、4000円+税。
『民事訴訟法の争点』(有斐閣)2009年、2400円+税。
『民事訴訟法判例百選 [第4版]』(有斐閣)2010年、2800円+税。

参考文献

履修コード	323201
科目名	民法総則
担当者名	大宮 隆

講義の到達目標(ねらい) 民法は、個人相互間の私的生活関係の基本法として、財産(物の所有や契約など)と家族(夫婦・親子や相続など)に関する事項を規律する法律である。日本の民法典は、総則・物権・債権・親族・相続の配列で、五編より構成されているが、本講義の対象は、総則編である。総則には、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定が集められている。民法の学習にあたっては、条文数が多いことや、内容が複雑で技術的な構成をとっているため、親しみ難い面があるので、実際の社会生活から遊離することのないように、例示をできるだけ多くして説明することを心がけている。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 民法典の沿革・構成 (1回)
- (2) 権利の主体 (2回—10回)
自然人・法人
- (3) 権利の客体 (11—12回)
物
- (4) 権利の変動原因 (13回—)
法律行為・意思表示・代理・無効及び取消・条件及び期限・時効

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

予習が必要である。
教科書と条文を熟読すること。
数回的小テストを予定している。
その結果と、学期末試験の成績を総合して、評価を行う。
田山輝明著『民法総則 第3版』成文堂 3000円
ISBN978-4-7923-2566-4

教科書／テキスト

履修コード	114901
科目名	民法総則
担当者名	熊谷 芝青

講義の到達目標(ねらい)

市民生活と密接な民法全体の総論的講義を行う。民法の基本的な原理や原則を基礎にした体系的知識が得られることを目的とする。民法典の条文を中心とした規範が実際の事案に適用されることを念頭に置きながら講義を進めていく。学修後、判例でどのように実際の法条文が適用されているかを理解し、発展的学習のための基礎固めができるようにしたい。併せて民法総則を学ぶことで、法律学の考え方を習得することを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1: 民法学の基礎
法的三段論法と民法の適用・法律解釈の種類
- 2: 私的自治の原則
私的自治の原則・意思能力・無効
- 3: 行為能力制度
制限行為能力者・制限能力者の行為・取消
- 4: 法律行為
成立要件・有効要件（公序良俗違反・強行法規違反）
- 5: 意思の不存在
心裡留保・虚偽表示・錯誤
- 6: 意思の瑕疵
詐欺・強迫・消費者契約法
- 7: 代理と代理権濫用
- 8: 表見代理
110条の表見代理・109条の表見代理・112条の表見代理・表見代理の重疊適用
- 9: 無権代理
無権代理と相続・利益相反行為
- 10: 時効総則
時効の援用・時効の利益の放棄・時効の中断
- 11: 取得時効
- 12: 消滅時効

準備学習
履修上の留意点

指定教科書の該当頁を予習しておくことが望ましいが、必要ではない。
法律学の修得で大切なことは、繰り返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の実力上昇につながると信じている。
当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。
また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

学年末の定期試験により評価する。
近江幸治『民法講義I総則(第6版)』（成文堂、2008）
尾崎哲夫『はじめての民法総則』（自由国民社）
柴田孝之『S式択一文問題集 民法』（自由国民社）
我妻榮・有泉亨『民法1』（勁草書房）

そ の 他

民法全般に言えることだが、復習に重点を置いて欲しい。

履修コード	114801
科目名	民法総則
担当者名	向田 正巳

講義の到達目標(ねらい)

本講義では民法典第1編総則編についての解説を行います。民法とはいかなる法律か、その概要を述べた後、総則に関わる制定法と判例について具体的に検討を行います。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義ではまず私法の体系のなかで、民法の占める位置について検討します。次に民法の体系について検討し、近代市民社会における商品交換法としての民法の性質について考えます。これらの基礎的作業を経た後、総則の各条文と関連する制定法、判例について検討するということにします。検討の中心となるのは第5章の法律行為の規定と、第2章、第3章の人、法人についての規定です。民法総則は必修科目とされており、法学部で開設されている科目のなかでも特に重要な科目です。授業の無断欠席や私語などは厳に慎み、これからの4年間の法律学習の基礎を作ってください。

履修上の留意点

小テスト、期末テストにより評価します。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

我妻榮ほか『民法1 総則・物権法（第2版）』勁草書房
『民法判例百選I 総則・物権 第5版新法対応補正版』有斐閣

履修コード	115901・324901
科目名	有価証券法
担当者名	なかほま よしあき 中濱 義章

講義の到達目標(ねらい) 手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。

講義の内容/授業スケジュール 講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。

- 1 手形・小切手の意義(約束手形・為替手形・小切手の異同)
- 2 手形法・小切手の経済的機能
- 3 手形行為の意義・性質
- 4 手形行為の成立時期(手形理論)
- 5 手形行為と法律行為に関する一般原則
- 6 代理人・代表者による手形行為
- 7 無権代理と偽造、変造
- 8 手形行為と実質関係

- 9 手形の振出
- 10 白地手形
- 11 手形の裏書
- 12 善意取得の制度
- 13 手形抗弁、人的抗弁切断(制限)の制度
- 14 支払、支払拒絶など
- 15 為替手形・小切手に特有の法制度

履修上の留意点 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題
六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。

成績評価の方法 夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。
教科書/テキスト 大塚龍児ほか『商法Ⅲ－手形・小切手(第3版)』(有斐閣Sシリーズ)

参考文献 落合誠一＝神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選(第6版)』(有斐閣)
詳細については、開講時に指示します。
山下友信＝神田秀樹編『商法判例集(第4版)』(有斐閣)

履修コード	116801
科目名	労働法
担当者名	みじもと ^{しげる} 藤本 茂

講義の到達目標(ねらい)

今日、労働法の対象である雇用社会は、リストラ、解雇や能力主義人事管理の導入などが行われ、日本型雇用システムの見直しが行なわれています。

労働法は、雇用社会において生じる紛争(労働問題)を解決する法分野です。今日の雇用社会の変化に無関係ではられません。

この変化は労働法の法制定・改正に大きく関わってきます。特に、労働時間法、労働契約法、雇用平等法などです。

講義では、雇用関係法領域を中心に、雇用社会の変化を頭の隅に置きつつ、これまで形成定着した労働法理の基礎を学びます。また、変化する法制度を学びます。こうして、主に雇用関係法領域を概観し現代的課題に対して自ら考える視座を身につけてもらうことをねらいとしています。

下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。

1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。

以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子によって変えることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。

- 第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野
- 第2回 労働法の基礎的考え方
- 第3回 日本型雇用システムの変化と労働法
- 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合
- 第5回 労働契約と労働契約法
- 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保
- 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味
- 第8回 調整
- 第9回 雇用における平等① 労基法3条
- 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止
- 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法
- 第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則
- 第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則の法的性質
- 第14回 労働条件の集団的決定③ 就業規則による労働条件変更
- 第15回 調整
- 第16回 雇用の入口① 採用
- 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度
- 第18回 人事異動 配転
- 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了
- 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制
- 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用
- 第22回 調整
- 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など
- 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金
- 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制
- 第26回 労働時間② 変形制度など
- 第27回 労働時間③ 労働時間の例外
- 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質
- 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更, 計画年休
- 第30回 調整

講義の内容/
授業スケジュール

準備学習

教科書を読むこと(少なくとも授業の進捗に応じて、行われている単元箇所はあらかじめ読んで授業に臨んでください)。新聞を読むこと。雇用問題に関する新書などを読むこと。

履修上の留意点

出席は義務。欠席はO U T。途中退席は不可で欠席扱い。非常の場合は申し出ること。携帯電話はO F F。私語は厳禁。つまりは授業のマナーを厳守。

授業は、主に、配布するレジュメと資料を使って行います。レジュメには取り上げる項目を挙げた詳細目次です。内容は授業で埋められていきます。ノートをとることが必要です。ノートをとること=板書を写すことと思っている人がいますが、少なくとも本講義ではそうではありません。講義で大事なところを自分の理解したところから従って要約して記すことと心得てください。教科書は予習復習には欠かせません。

また、憲法、民法総則、債権総論、債権各論、社会保障法、社会政策といった近接した専門科目も履修すること(あるいは履修済みであること)が望ましいと考えています。

成績評価の方法

学年末試験（論述式）がメインで、受験をしていないと評価は出しません。気をつけてください。また、レポート、中間試験や出欠も評価対象です。これらを総合的に評価して、成績を決めます。追試験は実施します。

教科書／テキスト

教科書は、六法とやらんで学修上の必要アイテムです。受講生各自の熱意に相応するものを選んでください。

よくわからないという方には、ひとまず、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法 I [第2版]』（エイデル研究所 2010）を掲げておきます。物足りなさを感じる受講生は、相談して下さい。第1回ガイダンスで配るプリントにもいくつか紹介するつもりです。

参 考 書

参考書は、労働判例百選第8版（別冊ジュリスト）など。

六法は用意してください。六法は、法改正がありますから、最新のものを用意すること。また、労基法施行規則の載っているものがが必要です。詳しくは、第1回目の授業で紹介します。

そ の 他

各項目についてイメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。

履修コード	325101
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂 <small>ふじもと しげる</small>

講義の到達目標(ねらい)

今日、わが国の労働関係(雇用社会)は、少子高齢社会・人口減社会やグローバル化によるものなど、リストラ、成果主義人事管理の導入・見直しなどがなされるなど大きく変貌しています。

労働法は、労働問題を平和的に(つまりは法的に)解決する妥当な考え方を学ぶ法領域です。雇用社会の変動に無関係ではられません。

この時期、労働者に降りかかるさまざまな事象は、労働基準法改正、労働契約法や男女雇用平等などの雇用関係法領域において、顕著です。

本講義ではこの雇用関係法領域を中心に授業を進め、その基礎的知識を身につけることを目標とします。到達目標は、基礎的知識の習得とリーガルマインドを身につけることです。

下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。

1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。

以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心としたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子によって変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。

- 第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野
- 第2回 労働法の基礎的考え方
- 第3回 日本型雇用システムの変化と労働法
- 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合
- 第5回 労働契約と労働契約法
- 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保
- 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味
- 第8回 調整
- 第9回 雇用における平等① 労基法3条
- 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止
- 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法
- 第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則
- 第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則の法的性質
- 第14回 労働条件の集団的決定③ 就業規則による労働条件変更
- 第15回 調整
- 第16回 雇用の入口① 採用
- 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度
- 第18回 人事異動 配転
- 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了
- 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制
- 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用
- 第22回 調整
- 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など
- 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金
- 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制
- 第26回 労働時間② 変形制度など
- 第27回 労働時間③ 労働時間の例外
- 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質
- 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休
- 第30回 調整

準備学習

準備学習といえは、以下のことをお願いするだけです。教科書を読んで授業に臨むということですから。

履修上の留意点

出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo、そして無断で席を立つことはNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。

適宜、項目を列挙したレジュメや資料を配りますが、それでは十分ではありません。教科書を使って有意義な勉強を心がけてください。

成績評価の方法

憲法、民法、社会保障法、社会政策は、近接科目であるので、ぜひ履修してください。

成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価はつきません。前期試験、レポートや出席を含めて、総合的に評価します。

追試験は実施します。

教科書/テキスト

金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所2010)。これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書

第1回目の授業で、プリントで紹介します。

六法は、最新のもの(法律改正や制定があるので特に)。そして労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、これも1回目の授業で話します。

皆さんが各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めます。

專 門 教 育 科 目

(2) 政 治 学 科

履修コード	129501
科目名	アラブ・イスラム政治論
担当者名	なかしま いさむ 中島 勇

講義の到達目標(ねらい)

現代中東の政治問題を中心に扱う。開講中に発生する事件や紛争も扱い背景にある民族問題、宗教問題を説明する。中心的テーマは、アラブ・イスラエル紛争やイスラム系組織のテロ問題となる。また中東・アラブの文化的、宗教的な背景にもふれる。

講義の内容／
授業スケジュール

1回-7回は、中東の基礎を扱う。地理、気候、言語、宗教、歴史などを整理する。8回-15回は、第一次世界大戦ころから現在までの時間枠で、政治的な流れを整理する。大枠では、オスマン・トルコ帝国の解体後におきた政治的な変化を中心に、2009年までの動きにふれる。

履修上の留意点
成績評価の方法
その他の

講義期間中に発生するニュースを扱うので、国際報道に関心があることが望ましい。

評価は、レポートの提出で行う。

講義では、映像資料（ニュース、記録映像、映画）などを多様する。中東に関する映画も紹介したい。

履修コード	118401
科目名	英米法
担当者名	きたの かほる 北野 かほる

講義の到達目標(ねらい)

法学部とりわけ法律学科で履修する現在の日本法とはおおきくくみ異なる英米法について、この差異を感じ取れる感覚を育てることをひとつの目標にしながら、英米法の特徴を理解することを通して、間接的に、現在の日本法の特徴を理解することも目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

第1～5回 第1章 法系 第6～18回 第2章 英米法の特徴
第19～25回 第3章 判例法の理論 第26～30回 第4章 裁判所制度

履修上の留意点

*時間配分は都合により変更することがあります。

英米法の本質を理解するためには、アメリカ法ではなくイギリス法を理解することが重要になります。自習する場合、ビジネスマン向けのアメリカ法解説書は不適切ですので、十分注意してください。この講義は原理を教えることに主眼をおいていますが、最近多く見られる解説書は、原理の理解ではなく、その応用とりわけビジネス現場での対応に力点を置いています。これらの本は、執筆の趣旨が講義とは異なるので、難しくても、講義の原理原則解説を理解するよう努力してください。

講義中の私語・騒音は厳しく規制します。

受講生の人数によっては、抜き打ち的に出席をとることがあります。ただし、毎回の出席点を成績に加味することはしません。毎回出席していないと、抜き打ちの出席チェックにも対応できないことになりますから注意してください。

休んだ時は早めに講義ノートを確認するよう努力してください。出席して自分でノートをとることが、講義内容を記憶にとどめる最良の方法ですから、講義ノートのウェブ公開はしません。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書
その他の

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

特に指定しません。

英米法総論 上（田中英夫、東大出版会）、英米法の歴史家たち（ホウルズワース、創文社）

試験準備には講義ノートが最も有効です。各自注意して出席し、ノートをとること。

履修コード	123401・123402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	いのうえ けんいち 井上 健一

講義の到達目標(ねらい)

条文や判例あるいは学説の理解のみならず、紛争解決のために具体的な事実をどのように法律の議論にあてはめるかという観点から、商法判例のうち、特に実際の取引実態が判決・決定の結論に影響を及ぼしている——言い換えれば事実から離れた法律論だけでは勝負がつかない——ものを選んで報告・議論する。会社法・商行為法・保険法・証券取引法を主として取り上げる。いわゆるビジネスローに興味がある学生諸君の参加を希望する。

講義の内容／
授業スケジュール

配布文献の輪読を行う。基本的には事例・判例を中心に1回1文献を読んでいくことになるが、メンバーの興味に従ってさまざまな変更はあり得る。

履修上の留意点

会社法、商法総則・商行為法、保険・海商法を履修済か、履修中であることが望ましい。最低限、会社法だけは履修済であること。

成績評価の方法

出席、報告、議論への参加・貢献によって評価する。出席点は基本的に減点法（欠席・遅刻の都度、点数をマイナスしていく）による。

教科書／テキスト

必要に応じてコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

その他の

アフターゼミは必要に応じて行う。合宿等は予定していない。

関連リンク

<http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

履修コード	132601・132602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	内海 ^{うちうみ} 麻利 ^{まり}

講義の到達目標(ねらい)	本演習は、社会情勢が変化し、その改革が求められている都市政策や地方行政を中心に柔軟な発想から問題意識を持ち、実践的かつ創造的な新たな知見を自ら探求するとともに、その解決策を提起できる能力を引き出しのばすことを主な目的としている。
講義の内容／ 授業スケジュール	研究期間内に行う研究スケジュールやプログラム（問題意識の明確化、研究テーマ及び目的、視点、方法の設定、関連文献の収集および実施調査、考察及び取りまとめ）を自ら考案・実施し、問題意識に対する新たな知見や解決策を自主的に進める。主にゼミでは、調査内容発表、議論を中心に研究内容を深めていく。
履修上の留意点 成績評価の方法	ゼミ運営自体も学生の主体性を重視するため、積極的なゼミ活動への参加が望まれる。出席状況、各自の報告及び発表の充実度、ゼミに対する意欲などを総合的に評価する。
教科書／テキスト 参 考 書	授業中に適宜紹介する。 授業中に適宜紹介する。

履修コード	131701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	浦田 ^{うらた} 早苗 ^{まなえ}

講義の到達目標(ねらい)	これまでわれわれが直面してきた、そしてこれからも直面し続ける様々な政治・社会現象について、純粹かつ鋭い視点から問題を喚起し、幅広い柔軟な発想をもって解決策を導きだせる人材を育成することに主眼をおいている。
講義の内容／ 授業スケジュール	2011年度は共通テーマとして「混乱の世界と日本」とし、内外の重要課題について個人研究及びグループ研究が行う。
履修上の留意点	オリジナリティ溢れる問題解決策・プランニングの作成にはかなりの時間を費やさなければならない。
成績評価の方法 そ の 他	発表内容と各自の持つ勉学意欲（発表に対する質問・意見等）によって評価する。 学内のディベート戦に積極的に参加すること、及び年2回の合宿とゼミ論集の刊行を励行している。

履修コード	124801・124802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	王 ^{おう} 志安 ^{しかん}

講義の到達目標(ねらい)	国際裁判および国内裁判の判例の分析を通して、現代国際法の適用過程を検証する。具体的に、慣習国際法が裁判においてどのように確認され、適用されるか、また条約がどのように適用されるかを実際の判例において分析する。そして演習を通して国際法に関する知識だけでなく、判例分析や報告書又は小論文の作成に関する知識および能力をも養っていただきたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	テーマとして国家の領域紛争、国際法における承認および人権問題にかかわる判例を選定し、判例の読解および関連の参考資料の学習を通して国際法の適用における実情および問題点を明らかにしていく。前期において特定の中心テーマを基準に選定された事例の勉強となるが、後半において参加者の関心を尊重して個別の判例の分析を中心に演習を行っていききたい。また、夏休みでは、原文(英文)の国際判例を読み解くための合宿を行う。
履修上の留意点 成績評価の方法	出席および配布された資料を事前に読むことを要求する。 演習への参加状況および報告に望む態度や積極性を考慮して評価する。
教科書／テキスト そ の 他	『判例百選国際法』（有斐閣）2001年 ゼミに関する情報などは、YeStudyから入手できる。

履修コード	133501・133502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	おおつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)	政治学における基礎的・原理的研究をおこないます。基礎研究にあたっては、古典的文献の取り組みが不可欠です。政治原理・哲学・国家論に関心のある学生の参加を期待します。
講義の内容／ 授業スケジュール	I政治学の基本文献を輪読する。 II共通テーマを設定し、共同研究をおこなう(例えば、明治の政治家たち、自由主義の系譜)。 IIIゼミ生各自が定めた個人研究の発表とそれに対する指導をおこなう。
履修上の留意点	一定の読書と思索をつみかさねてきた学生の参加を切望します。政治学原論か現代国家論を履修し、私の政治学に対する姿勢を理解してくれる学生さん、いらっしゃい!
成績評価の方法	平常点
教科書／テキスト	教員が準備し提供します。
参考書	参考書として、拙著をあげておきます。図書館等で目を通しておいてください。大塚『フランスの社会連帯主義』(成文堂)、同『ラスキとホップハウス』(勁草書房)、同『多元的国家論の展開』(法律文化社)、同『多元的国家論の周辺』(信山社)、同『近代日本の政治学者群像』(勁草書房)、同『明治国家と岩倉具視』(信山社)、同『明治維新の思想』(成文堂)、同『ヨーロッパ政治理念の展開』(信山社)、『大東亜戦争期の政治学』(成文堂)。
その他	4年次生は就職活動を最優先させます。金銭的負担(OB会・合宿等)、規則、束縛は一切ありません。年1～2回のお食事会を開催しますが、教員がゼミ生をご招待いたします。

履修コード	132801・132802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	おおやま れいこ 大山 礼子

講義の到達目標(ねらい)	演習は、学生が主体的にテーマを決めて、政治学の関連分野についての研究を深めていく場です。本の読み方、資料の扱い方など、基本的な技術を身につけ、論文執筆をめざします。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1～15) 全員で政治学関係の本を読み、内容について討論します。 (16～30) 各自のテーマを研究し、演習Ⅰでは3000～5000字程度のレポート、演習Ⅱでは1万～2万字程度の卒業論文を執筆します。
履修上の留意点	なお、夏休みには御岳山での合宿を予定しています。 演習は受講する学生が中心となってつくっていくものです。受動的な態度では出席する意味がありませんので、積極的な参加を求めます。
成績評価の方法	平常点によります。欠席、遅刻の多い者は成績評価の対象としないので注意してください。
教科書／テキスト	全員で読む本や論文は、参加者と話し合って決定します。
参考書	その都度紹介します。
その他	合宿等、ゼミのイベント時は禁煙です。

履修コード	124601・124602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	きたの かほる 北野 かほる

講義の到達目標(ねらい)	アメリカ法のさまざまな側面についての理解を深めることを目的にします。
講義の内容／ 授業スケジュール	出席者の関心によって、呈示したいいくつかのテーマからテーマを絞り込み、相談の上テキストを決めて輪読します。演習の進行具合は履修者の人数と意欲と努力にかかっているため、予め一方的に計画を提示することはできません。
準備学習	輪読がはじまったら、担当者は担当箇所概要を記したレジюмеを毎回作成すること。担当者以外の履修者は指定された箇所を予め読んで理解してから出席すること。
履修上の留意点	演習は出席を重視します。やむを得ず欠席するときは必ず、事前に理由を添えて連絡してください。連絡先はゼミ開始時に教えます。
成績評価の方法	3年生は平常点・4年生は平常点+卒業研究。
教科書／テキスト	履修者全員で協議のうえ決定します。
参考書	決定したテーマ・学習進行による関心の発展に応じて、随時、開示します。

履修コード	132101・132102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	こぼり のかお 小堀 訓男
講義の到達目標(ねらい)	国家の行動基準について研究する。具体的にはナショナリズムと階級がどのような関係を展開してその国家の行動を決定しているのかをいくつかのケーススタディーを通して考察する。
講義の内容／ 授業スケジュール	①アメリカ地域研究班 ②東南アジア地域研究班 ③中東地域研究班 ④ヨーロッパ地域研究班 ⑤国際協力研究班 ⑥国際政治理論研究班
準備学習	受講生はいつれかの研究班に所属し1年間の研究スケジュールをもとに共同研究をおこなう。研究成果は各研究班に割り当てられた年間5回の発表の場で報告し、全員で討論する。
履修上の留意点 成績評価の方法	自分の興味ある研究テーマを決めて、単なる事象の研究だけでなくその事象をひき起こす根底にあるナショナリズムや階級について考察するため、民族・階級・政治権力などについての基礎的な予習を必要とする。
参 考 書	各研究班は週に1度か2度の勉強会を予定するので参加する必要がある。 3年生は研究成果と発表・討論における論理的思考の程度で評価する。 4年生は主に卒業論文成果と論文作成過程での取り組み方等を指導しながら評価する。 年度初めに各研究班に資料の収集の仕方や参考文献を紹介する。

履修コード	125001・125002
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	まとう たみお 佐藤 多美夫
講義の到達目標(ねらい)	刑法を知るためには、犯罪について刑法総論及び刑法各論で修得した基礎的知識を具体的事実に当てはめてみるのが有用である。しかし具体的事実を刑法の立場から眺めてみることは意外と難しいことであるので、ひとつ一つ、理解を深めながら進めることにする。
講義の内容／ 授業スケジュール 成績評価の方法 教科書／テキスト	本演習の目標は結局のところ、具体的な事実を刑法を適用して解決することにある。この目標を達成するためには、事実に含まれている刑法上の論点を抽出してその論点について自己の立場から態度決定して結論を提示する必要がある。一般的に結論には多角的・多面的な見方があり得るので相手の立場・考え方にも耳を傾けそれに対して自己の見解を論理的に主張し説得力のある反批判ができることが必要である。これにより自らの結論の妥当性を検証することができる。 判例、事例を素材にして罪刑法定主義、因果関係、不作為犯、違法性、正当防衛、緊急避難、過失犯、責任能力、未遂、共犯、傷害罪、窃盗罪、強盗罪、詐欺罪などを扱う。 レポート、発言、出席等を総合評価 刑法の基本書・判例集等 演習時間に適宜紹介する。

履修コード	133101・133102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	しおいら みほも 塩入 みほも
講義の到達目標(ねらい)	行政法上の諸問題をとり上げて、演習を行います。他から教授されるだけの受動的な学問ではなく、判例及び学説を自分なりに分析・検討する作業を通じて能動的に研究し、報告し、且つ他の者と法律学的討論を行えるための能力を鍛錬することを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	当演習は、学生の主体性を重視しているため、毎年度、ゼミの運営方針・内容はゼミ生と話し合っ て決めています。但し、取り扱うテーマは、基本的には行政法総則一般、行政訴訟法、行政手続法、 情報公開法などの各分野からの選択になります。
履修上の留意点	公務員、行政書士等の国家試験受験者には特に有意義であると思われませんが、それ以外の者でも無 論履修可能です。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	平常点(出席・報告・発言等)により成績評価を行います。 未定 初回授業の際に紹介します。

履修コード	124501・124502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	^{たかはし} 高橋 ^{ひろき} 洋城

講義の到達目標(ねらい)

この演習は、法律の解釈論や政策論の基礎となる原理的な議論に関心を持つ学生のために「法哲学演習」として開講するものである。「法学の学習の中で培った知見を応用する」と同時に、それを「哲学や社会科学その他を含む広い文脈のなかで捉えなおすこと」、この両方が本演習の目標であるが、さらに社会科学的文章の扱い方に慣れることや、報告や討論の中で問題を掘り下げる能力の養成も本演習の中で心がけたい。

講義の内容／
授業スケジュール

<基本方針> 1年間を通じて扱う統一テーマを設定して演習を進めていく。とりあげる内容は、現代の法的問題のをいくつかえらんで検討していく場合と、古典的文献精読を中心に進める場合と、年度ごとに重点の置き方を変えていく。

本年度の具体的なテーマは演習開始時に相談の上決定するので未定であるが、参考までに過去にとりあげた題材やテーマを紹介しておく。

テーマの一例：配分的正義と福祉国家、公正の概念、平等論、格差社会、所有権論、民主主義、私法の意義、自由論、国家論

購読文献の一例：ミル『自由論』、ロック『統治論』、ドゥオーキン『権利論』、ルソー『社会契約論』、ロールズ『万民の法』

<年間スケジュール> 前期は、選定した文献についての報告を軸にし、テーマに関する議論を参加者全員が共有することを目指す。後半は、そこから発展したテーマやさらに議論を深めるための文献を割り当て、より各参加者の関心に引きつけた報告を行なってもらう予定。

<運営方法> 毎回の演習は、報告・質疑・討論の形式で運営する。報告者の他、あらかじめコメントーターを指定する。

履修上の留意点

<ゼミ論(レポート)> ゼミ終了後1月に、全員にゼミ論の提出を求める。

常に積極的に発言すること、おそれずに聞くこと、調べる手間を厭わないことを、演習参加者の姿勢として求める。

成績評価の方法

平常点(出席、報告および討論における発言を勘案して評価)と全日程終了後提出のゼミ論(レポート)により総合評価する。

教科書／テキスト

演習開講時に提示し、参加者と相談の上決定する。

履修コード	132001
科目名	演習Ⅰ
担当者名	たまら だい 大田丸

講義の到達目標(ねらい)

行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、ディベートや研究発表を行ってもらおう。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、成人年齢の引き下げの是非、駅前の放置自転車対策などである。とくにディベートはルールに従って、大量の準備を行う必要があり、また自分の希望しないテーマや立場を取らざるを得ないことが頻繁にあるが、そのような時にこそ、全力で準備して、自らの力を高めて欲しい。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

年間の演習を5回ずつ程度に分けて、ディベートや研究発表を繰り返していききたい。例えば、夏休み前にディベートを2回くらい、研究発表1回くらいできれば十分と考えている。

秋に開催される法学部のゼミ対抗のディベート大会に出場してもらおう予定です。そのため、8月から10月は、平日の夕方や夜、休日でも自主的に集まり準備を行ってもらいます。予備校とのダブルスクール、部活動との両立、アルバイト等は、この時期にはかなり難しくなります。また、ディベート大会で他のゼミと対戦するとすると、テーマを調整する必要があるため、自分たちの希望するテーマにならないことが通常です。その場合でも、真剣に調べて議論を構築しようとする根気を必要とします。実際にディベートがどのようなものであるかを事前に確認するために、是非、ディベート大会またはマスコミ研究所のディベート大会などを見てください。(法律学科の学生には強く勧めます)

教員は、ディベートの資料を配りDVDを見せて多少の解説を加えたりするだけで、細かいことに関してはほとんど指示を出さずに、「いつまでに何を準備してくれ」程度のことを、たまにしか言いません。

したがって、ディベートやグループ研究を行う中で、グループごとに時間管理を行い、演習以外の時間に自主的に学生が集まって作業をすることが非常に多くなります。そのような時間外の活動についても、できるだけ出席点に反映するようにします。

講義の場合と比べて、教員の指導が少なく物足りないと感じるかもしれませんが、このように自分たちで作業を行いチームで成果を出すことを通じて、結果的に、大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つなりの友人も作り、グループでの作業を通じてチームで物事を達成する充実感を味わってほしいというのが、担当教員の願いです。

コンパ・合宿を考えていますが、正規の授業の理由を除いては、全員参加とします(出席点として考慮します)。

OB会の準備などをお願いする予定です。

成績評価の方法
教科書／テキスト

平常点による。

特に使用しない。

履修コード	132501
科目名	演習Ⅰ
担当者名	とみさき なかし 富崎 隆

講義の到達目標(ねらい)

全体としては、現代政治学の理論的・実証研究(特に数量的研究)を「体験すること」を演習の主たる目的としていきたいと思えます。演習の雰囲気自体は、学生諸君と「創りあげていく」ものだとも思えます。そして、共同(及び個々に)で研究活動やその他の活動に参加していく中で、「現代政治をみる視点」を養って欲しいと思えます。

講義の内容／
授業スケジュール

演習の第1の活動は、3年次における共同研究、4年次における卒業論文の作成です。ここでいう「研究」とは、本を読んでまとめることとは基本的に異なります。それは単なる「お勉強」です。本研究会における研究とは、従来世界中で誰も「知らなかった」「そうであるといえなかった」政治現象を「そうである」と確認・発見する作業です。もちろん、そのためには多くの努力と創造性が必要です。

第2に、具体的な、みなさんの毎週の研究会での中心活動は、当面ディベート(模擬討論)になると思えます。毎週のディベートを通じて、政治学における基本問題に対する理解と問題発見をしてもらいます。研究会でのディベート実施の目的は、政治学の従来議論の意義と問題点を探ることにあります。しかし、同時にディベートを通じ諸君の論理・実証・思考・討論能力を向上させてもらいたいと思えます。なお、日本の公共政策の在り方を議論することから、ネット資料や、新聞・雑誌の広範な活用が必要となります。

第3に、研究会としてインターカレッジ・セミナーに参加していきたいと思えます。他の参加ゼミとしては、明治大学・小西ゼミ、慶応義塾大学・河野ゼミ、拓殖大学・大谷ゼミなど(予定)があります。このセミナーでは、年1回の共同合宿や講演会、大学対抗のディベート大会などを行なっていく予定です。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

積極的・主体的参加を期待します

受講生と相談の上、総合的に評価します

特に定めません

特に定めません

履修コード	132301・132302
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>なかの ゆうじ</small> 中野 裕二

講義の到達目標(ねらい)

自分で研究テーマを決め、年度末にゼミ論文として提出することを目標とします。研究テーマは、受講生の問題関心に即して決定します。「自分はどのようにこの事に関心を抱いているのか？」を自問することも大切なことだと考えます。

講義の内容／
授業スケジュール

毎回の演習の時間は、ゼミ論文の中間報告、または、論文作成のために必要な文献の内容紹介にあてます。毎回1人または2人の報告を行い、内容の発表と質疑応答を通して論文作成上の問題点を洗い直し、または自分の問題関心の再確認を行います。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

4月の授業開始までに、研究してみたいテーマについて考えておいてください。
自発的に研究し、論文をまとめる意志のある学生のみ受講してください。
出席、ゼミ論文の提出、報告内容・質疑応答の内容などを総合的に判断し、成績評価とします。

履修コード	132701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	<small>はやかわ よしき</small> 早川 純貴

講義の到達目標(ねらい)

当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。

講義の内容／
授業スケジュール

当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成23年度の前期・統一テーマは「日本の外交問題とその交渉過程」である。ある外交事件（沖縄返還交渉、日米経済摩擦、韓国、中国、ロシアとの領土問題、通貨・為替問題、農産物自由化交渉など）が生じ、それに政治的対応がなされた場合、それはどんな対応だったのか、その対応は妥当であったか、否か。他に選択肢はなかったのか。対応に当たった政治家、行政官僚（主として外務省）は何を考えたのか。あるいは、その外交政策がその後の日本社会や政治、経済にどう影響したのか。こうした問題を解き明かすことで日本の政策決定の本質に迫ることができるであろう。

履修上の留意点

当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。

成績評価の方法
教科書／テキスト

個人々の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。
教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

履修コード	123501・123502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>はらだ けいいちろう</small> 原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)

社会保障法の体系的理解を深めるとともに、ゼミでの報告・議論を通じて問題発見能力・法的思考力を養うことを目標とする。

講義の内容／
授業スケジュール

本演習では、施設見学やインタビュー調査などを通じて社会保障の実態を体感しながら、社会保障法の各部門の基本的な体系と現状、法解釈上の論点及び立法論上の課題を法律学の視点から検討する。

履修上の留意点

演習Ⅰ（3年次）では、社会保障法の体系的理解を深めるとともに、1年を通じて検討する社会保障に関する法的問題を設定し、ゼミ全体で取り組む。検討の成果は、ゼミ論文集としてまとめる。次いで、演習Ⅱ（4年次）では、受講生各自の問題関心に沿ってゼミ論文を執筆し、ゼミ論文報告会を行うとともに、ゼミ論文集としてまとめる。

履修上の留意点
成績評価の方法

「社会保障法」及び「社会政策」を必ず受講すること。

教科書／テキスト

平常点による。
労働調査会出版局（編）『社会保障法令便覧 2011』（労働調査会、2011年）

参 考 書
そ の 他

適宜紹介する。
ゼミ合宿（夏期・冬期）やコンパ、OB・OG会への参加を通じてゼミ生間の交流を深め、社会保障に大切な支えあいの絆を築いてもらうことも大切にしている。

履修コード	123601・123602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	ふじもと しげる 藤本 茂

講義の到達目標(わらい)

わが国雇用社会は、経済構造の変化に伴う雇用システムの変容、少子高齢社会の到来、労働者意識の多様化などにより大きく変わりつつあります。最近の労働基準法改正、労働契約法制定・施行など多くみられるのもその表われです。

演習は、この現代労働法の対象である雇用社会を知り、今までの労働法理の基礎を自ら学びとる場です。

到達目標は、自らの関心事を自ら調べ読み学び理解を深め理解したところを発表し、議論を通じて理解してもらうことです。

講義の内容／
授業スケジュール

本演習では、テーマを各自受講生が関心のあるところから、自ら選択し勉強し、理解を深め、発表し、議論をする方法をとっています。特に発表し議論するところに重点を置いています。ということは、その準備に時間をかけなくてはなりません。次の授業時間までにどのくらい時間を割いたかにより成果はまったく違ってきます。

夏季には研究合宿を行ないます。

以下、大まかですが、スケジュールを掲げます。

第1回 ガイダンス 演習の進め方、新聞等による労働問題の現状を知る

第2回 判例を素材にしたテーマ報告の仕方の説明

第3回 グループ編成と各グループのテーマ決定

第4回 4年生による報告の例 報告準備の仕方、レジュメの作成を知る

第5回 第1グループによる報告① 問題意識、素材にした判例の事実の概要と判旨

第6回 第1グループによる報告② 法的論点を中心にした報告、質疑・討論

第7回 第1グループの報告・討論をもとにして準備等の検証

第8回以降、第5回、第6回のような内容で順次、報告・質疑・討論を第15回まで実施

夏季研究合宿 経験的に、合宿テーマの報告準備・グループ内での準備と討論そして合宿での報告、質疑・討論が演習とはどういうものかを各自が理解するいい機会となっているようです。

準備・学 習

後期(第16回～第30回) 前期・夏季研究合宿での経験を踏まえて、前期のような報告を実施します。

4月授業開始前に、3回ほど課題を提出してもらいます。通常授業時の準備学習は、予めどのようなテーマの報告がなされるかはみんな知っていることなので、ここに書くまでもないことですが、報告者以外の者は、当該テーマの予習を判例百選や教科書を読んで、質問事項を用意しておくことです。報告者が準備をしてくることは言うまでもありません。

履修上の留意点

演習のいいところは、大いに勉強し、恥をかくところにあります。出席は大前提。評価はそのあと。ゼミ運営や懇親会にも積極的に関わることが大切だと考えています。

講義科目として、労働法はもとよりのこと、憲法、民法総則、債権総論・各論、社会保障法、社会政策は、ぜひとも、履修してください。

成績評価の方法

出席、積極的発言、ゼミ運営への積極的参加など。平常時の積極的な姿勢で評価します。追試はありません。

教科書／テキスト

授業は調べてきたところを報告するのですから、講義の時のテキストではありません。以下に書いてあるのは、あくまで、自分(たち)が勉強するテーマの周辺・基礎の知識を得るための概説書と心得てください。

金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法[第2版]』(エイデル研究所 2010)

菅野和夫著『労働法』(弘文堂)

労働判例百選

労働法の争点

など

参 考 書

必要に応じて、〈調べ方〉を教えます。参考書というより法律雑誌の論文等が重要になります。自分で探すことが勉強の第一歩と思っています。

履修コード	125031・125032
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	まつむら いなる 松村 格

講義の到達目標(ねらい)	刑法総論の講義で学習したことを基礎にして、具体的な問題をどのように解決すれば、刑法の使命(法益保護・人権保障・秩序維持)および原理原則(罪刑法定主義・責任主義・謙抑主義)に適うかを考えることを目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	前期の前半に、刑法総論の基本的事項について総復習します。毎回全員に質問することによって、刑法総論の理解度を確認します。前期の後半以降は、各人が最も関心のある問題点ないし争点を選び、それについて研究したことを発表し、各人の質疑応答によって研究を深めていきます。
準備学習	(1)研究発表者のテーマについて、各自が判例・学説を下調べして発表者に対する質問・批判点を考えてくる必要があります。 (2)発表者は、研究テーマについての判例・学説を十分に検討し、自分独自の考えを練り上げてください。 (3)発表者は、自分の研究発表のレジュメと必要な判例要旨や学説のコピーをゼミ生の人数分を用意して配布してください。
履修上の留意点	刑法総論の単位を取得していなければ履修することはできません。毎週、基本書・参考書・判例解説書・六法全書・ノートを携帯して出席してください。参加することが不可欠ですから、理由なき欠席は許しません。毎回必ず何らかの意見を(その是非・妥当性は別として)主張することが重要です。
成績評価の方法	普段の授業における予習・復習の内容、質疑応答回数と内容、研究発表の内容によって評価します。試験はしません。
教科書／テキスト 参 考 書	別冊ジュリスト『刑法判例百選I 総論【第6版】』有斐閣 松村・都築・神田・野崎共著『刑法総論』ミネルヴァ書房(3800円)

履修コード	132401・132402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	みたけ なおや 三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)	比較政治学分野の専門文献の読解を通じて、比較政治学関連のトピックについて理解を深める演習です。
講義の内容／授業スケジュール	前期後期それぞれに1冊ずつ、比較政治学分野の専門文献を輪読していきます。
準備学習	今年度は、日本の多文化状況についての学習の一環として、新宿大久保地区で活動している団体のフィールドワークに参加する計画です。
履修上の留意点	毎回各自で取り組むべき課題が出ます。 応募する前に《必ず》メールで相談してください。向いていないゼミに応募してしまうと、ゼミを履修するチャンスを失ってしまう可能性があります。
成績評価の方法	4年次にもしっかりと勉強し、専門性を高めたい人のためのゼミです。4年次は出席しなくてもよいなどという方針はとっておりません。その他にも条件がありますので、応募前に相談してください。法律学科から応募する方は特に注意が必要です。必ず応募前に相談してください。
教科書／テキスト そ の 他	詳しい案内は、YeStudyに掲載してありますので、そちらを参照してください。また、在籍中のゼミ生やゼミ卒業生に直接話を聞きたければ紹介します。見学も歓迎します。 学期末に行う自己評価プレゼンにより、100満点で自己評価します。 たくさんあります。その都度、指示します。(買わなければいけないものは多くありません。) mitake@komazawa-u.ac.jp 最新の情報はYeStudyで確認してください。

履修コード	133401・133402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	三船 ^{みふね} 恵美 ^{えみ}

講義の到達目標(ねらい)	現代の国際関係について自分自身の視角を形成し、それを報告しながら討論することを学ぶのが、本ゼミの目的です。複数の学生全員が同じ考え方をすることはあり得ません。異なる考え方の学生が集まり、異なる価値観に対して排他的になることなく、しかも単なる「仲良し関係」では終わらない知的緊張関係の中で、対立するところは対立し、評価できるところは評価しあうことを学びましょう。自分の意見を単純に主張するだけではゼミに参加する意義がありません。議論は言い争うことと本質的に異なるものです。議論することで自分の意見を主張したり異なる意見を受け入れ、自分の考え方を鍛えるためにゼミは存在します。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期の第一日目で前半のスケジュールを、前期最終ゼミで後半のスケジュールを、ゼミ生が作成します。
準備学習	新聞の国際面を毎日読みましょう。
履修上の留意点	講義と異なり、ゼミは学生が主体になって運営します。緊張感を失わないで、でも、楽しい、笑顔の絶えないゼミを目指しましょう。
成績評価の方法	報告・討論・レジュメの質、議論に対する貢献などの総合評価です。
教科書／テキスト	なし
参考図書	授業中に適宜紹介します。

履修コード	131801・131802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	村井 ^{むらい} 良太 ^{りょうた}

講義の到達目標(ねらい)	この講義は、良書を輪読し、議論することを通じて政治への理解を深めることをねらいとしています。そこでは、「世界のなかの日本」という大きな視点に立って、学び、考えてほしいと思います。加えて、読む・書く・話すという基本的な技術を身につけてもらいたいと思います。
講義の内容／ 授業スケジュール	テキストは、論文を用いたり、本を指定したり、受講生とも話し合いながら決めていきます。テーマは日本政治史を軸に、おおむね政治・外交・国際関係などに関するものを考えています。はじめは論文など簡単なものを使い、次第に内容の濃いものを読んでいきます。また、前期に宿題と課題レポート、後期に各自の報告とゼミ論文を予定しています。また受講生の意欲によってディベートにも挑戦したいと考えています。
履修上の留意点	演習は、他の講義以上に、教員、学生が一緒になって創りあげていくものです。積極的な参加を求めます。
成績評価の方法	成績は、授業への積極性、出席、報告、発言、レポートなどから総合的に判断されます。
教科書／テキスト	テキストは話し合いながら決めていきます。
その他の留意点	授業の方法は、基本的には、毎回、テキストを指定して、それを輪読しながら議論することになります。報告者はレジュメをつくって報告します。報告者以外の学生も、毎回少なくとも一分間程度の発言を求められます。レポートも書き、時にはディベートも行います。

履修コード	131901・131902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	柳瀬 ^{やなせ} 昇 ^{のぼる}

講義の到達目標(ねらい)

この演習は、日本国憲法の解釈論を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。

憲法は、国家統治の組織・作用の基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。この演習では、日本国憲法の解釈論上の基本概念について、徹底的な理解を図る。そのうえで、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、担当者の指導の下、研究を行う。

憲法は、国や地方公共団体等の公務員試験の受験科目であるので、公務員を志望する学生は、憲法を学習する際のペースメーカーとして、この演習を活用することができるであろう。もちろん、研究機関や民間企業等に就職する学生にとっても、この演習では、憲法の解釈論を通じて、人間や社会についての法学的な分析を行うので、さまざまなことを学び、総合的な人間力を高めることができるだろう。いずれにせよ、意欲的な学生の主体的かつ能動的な参加を期待している。

3年次には、日本国憲法の解釈論について、ソクラティック・メソッドにより、徹底的な理解を求める。

前期には、憲法解釈論上の基本概念について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。夏合宿では、憲法学の現代的課題を1つ取り上げ、議論を行う(全員参加)。後期は、憲法判例を素材として、憲法解釈論上の諸問題について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。

4年次には、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、卒業論文等の制作に取り組むものとする。

前期は、公務員試験の受験、民間企業への就職、法科大学院等への進学など、各自の進路に関する活動に取り組んでもらうが、それと並行して個別指導を行う。7月半ばまでには、卒業研究で取り組むテーマを決め、後期は、論文等の構想を逐次報告する。12月第1週に論文を提出する。

3年次の前期は、あらかじめ示した論点に沿って、後期は、配布された判例を踏まえて、受講者各自による綿密な予習を行ったうえで、演習に臨みたい。4年次は、卒業研究に専心するほか、可能な限り演習に出席されたい。

準備学習

履修上の留意点

演習Ⅰと演習Ⅱは継続して履修することを原則とする。

基本的には、毎回、演習に参加を求める。この演習に関する活動(合宿等も含む)を欠席する場合には、正当な理由を示して、担当者に事前に申し出られたい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

演習への参加状況に基づき、総合的に評価する。

特に指定しない。

どの出版社のものでもかまわないので、六法(法令集)は、必ず携行されたい。なお、六法については、第1回の演習で説明する。

参考書

担当者が執筆した憲法学に関する概説書として、佐々木幸寿・柳瀬昇『憲法と教育〔第2版〕』(学文社、2009年)などがある。

担当者は、憲法学及び立法政策論を専攻している。公法学及び政治学の領域で昨今きわめて注目されている討議民主主義(deliberative democracy)理論の精緻化と、その実践モデルの諸相について、これまで研究を進めてきた。授業担当者の代表的著作として、柳瀬昇『裁判員制度の立法学——討議民主主義理論に基づく国民の司法参加の意義の再構成』(日本評論社、2009年)がある。関心があれば、参照されたい。

その他の

その他、適宜、演習の中で紹介する。

授業担当者は平成22年度に赴任し、このゼミも募集を始めたばかりである。学期はじめや終わりに懇親会を行ったり、夏などに合宿を行うなど、さまざまな行事を予定している。ゼミ生は、自ら積極的にゼミの活動を企画し、参加してほしい。

この演習を通じて、学生には、生涯にわたって付き合えるような仲間づくりをしてほしいと担当者は考えている。

履修コード	132211・132212
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	やまざき のぞむ 山崎 望

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、国民国家から成り立つ現代世界の変容を多様な観点から分析します。その上で、世界秩序の変容が生み出す問題にどのように対応するのか、考えていきます。演習を通じて「あたり前」と思っている事が「あたり前」ではなく、テロ、ナショナリズム、多文化主義、グローバル経済、格差社会といった「大きな問題」が「他人事」ではなく「自分の問題」である事について学んでもらうことが目的です。

講義の内容／授業スケジュール

現代世界の変容を多角的に分析し、世界秩序の変容が生み出す問題にどのように対応するのか、考えていきます。国内政治／国際政治、公／私の区別など既存の区別が揺らぐ中で噴出している多様な問題について考えます。

- (1) イントロダクション
- (2～8) 国内／国際的な格差社会論、貧困問題、社会の分断
- (9～13) 福祉国家の再編、ベーシックインカム、共産主義再考、NPO論、シェアハウジング論
- (14・15) グループ対抗ディベート
- (16～20) 「9. 11」対米同時多発テロ、アメリカ極秩序の動揺と世界秩序の多極化
「新しい戦争」、人道的介入とグローバル・テロリズム
ネオ・ナショナリズムと多文化主義
- (21～27) 多文化主義論、フェミニズム、地域主義 (EU・アジア共同体構想など)
市民社会論、新しい民主主義と国境を越える民主主義
- (28～30) 研究報告

履修上の留意点

毎回、課題とされた文献をしっかりと読んでからゼミに臨んでください。報告者は課題文献の要約レジュメと私見を事前に作成してください(担当者が指導します) 討論においては積極的に発言してください。正当な理由なく無断欠席をする方、指導をしても積極的に議論をしない方には単位を与えませんので、留意してがんばってください。
班分けの作業などを行うので、ゼミの第一回目には必ず出席して下さい。
(演習の進め方の詳細もゼミの一回目に説明します)

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

平常点 (出席・報告・討論への貢献など総合的に評価)。
報告者・参加者と議論の上、適宜指定します。
他の文献については、ゼミの進行に応じて適宜指定します。
ゼミ形式。毎回報告者を指名するので、報告者は課題文献を要約し、レジュメを作成し、それを報告し、かつ新聞や課題文献以外の資料、本を用いて私見を作成することが求められます。その後、集団で討論を行います。希望があれば個人研究報告やグループ対抗のディベートも行います。参加者の問題関心に応じて、弾力的にゼミを進めます。

履修コード	132201
科目名	演習Ⅱ
担当者名	あいだ としひこ 相田 敏彦

講義の到達目標(ねらい)

一言でいえば、マスコミ、広告・広報、情報化がゼミのテーマである。
マスコミは興味深いだけでなく、政治学の根底にかかわる領域である。
テレビCMを含め、広告・広報はどんな企業・組織体にとっても重要な問題であり、実社会とつながりの深い実践的テーマである。
パソコン・ケータイ・インターネットに象徴される情報化の急速な進行も、身近な生活から企業内にまでおよんでいる。

メディア・広告・情報化の3領域のなかから、各自に、またグループ単位に好きなテーマを選択し、資料調べ・発表・討論などを行ないながらまとめてゆく。

合宿やふだんの授業で友人との親しさが増すだけでなく、人前での発言・発表能力、ものを書きまとめる能力を2年次より一層高め(ゆったり・楽しく・着実に)進展・燃焼する場としてのゼミにしたい。

当ゼミの特徴を一言でいえば、おもしろさプラス実践性の高い役に立つ知識の習得プラスコミュニケーション能力の向上である。

前期:ゼミ論文のテーマを決める(4年生)。後期:ゼミ論文の書き方を学び、執筆・完成して1冊のゼミ論文集を作る(4年生)。

講義の内容／授業スケジュール
成績評価の方法

平常点。

履修コード	132511
科目名	演習Ⅱ
担当者名	浦田 早苗

講義の到達目標(ねらい)	これまでわれわれが直面してきた、そしてこれからも直面し続ける様々な政治・社会現象について、純粋かつ鋭い視点から問題を喚起し、幅広い柔軟な発想をもって解決策を導きだせる人材を育成することに主眼をおいている。
講義の内容／ 授業スケジュール 履修上の留意点	2011年度は共通テーマとして「混沌の世界と日本」とし、内外の重要課題について個人研究及びグループ研究が行う。 オリジナリティ溢れる問題解決策・プランニングの作成にはかなりの時間を費やさなければならない。
成績評価の方法 その他	発表内容と各自の持つ勉学意欲（発表に対する質問・意見等）によって評価する。 学内のディベート戦に積極的に参加すること、及び年2回の合宿とゼミ論集の刊行を励行している。

履修コード	132011
科目名	演習Ⅱ
担当者名	田丸 大

講義の到達目標(ねらい)	行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、各自でテーマを設定し、発表及び短めの論文を作成してもらう。可能であれば、2年生の基礎演習、3年生の演習との交流の機会も持ちたい。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、駅前の放置自転車対策、官僚の天下り、振り込め詐欺などバラエティに富む。
講義の内容／ 授業スケジュール 履修上の留意点	前期にテーマの選定と骨子の作成、後期に発表及び論文の作成を行えばと考えている。 大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つなかりの友人も作ってほしいというのが、担当教官の願いです。
成績評価の方法 教科書／テキスト	OB会の準備、2年生や3年生の指導などをお願いする予定です。 平常点による。就職活動期間中については、考慮します。 特に使用しない。

履修コード	133051
科目名	演習Ⅱ
担当者名	富崎 隆

講義の到達目標(ねらい)	全体としては、現代政治学の理論的・実証研究（特に数量的研究）を「体験すること」を演習の主たる目的としていきたいと思っております。演習の雰囲気自体は、学生諸君と「創りあげていく」ものだとも思います。そして、共同（及び個々に）で研究活動やその他の活動に参加していく中で、「現代政治をみる視点」を養って欲しいと思っております。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習の第1の活動は、3年次における共同研究、4年次における卒業論文の作成です。ここでいう「研究」とは、本を読んでまとめることとは基本的に異なります。それは単なる「お勉強」です。本研究会における研究とは、従来世界中で誰も「知らなかった」「そうであるといえなかった」政治現象を「そうである」と確認・発見する作業です。もちろん、そのためには多くの努力と創造性が必要です。 第2に、具体的な、みなさんの毎週の研究会での中心活動は、当面ディベート（模擬討論）になると思います。毎週のディベートを通じて、政治学における基本問題に対する理解と問題発見してもらいます。研究会でのディベート実施の目的は、政治学の従来の議論の意義と問題点を探ることにあります。しかし、同時にディベートを通じて諸君の論理・実証・思考・討論能力を向上させてもらいたいと思っております。なお、日本の公共政策の在り方を議論することから、ネット資料や、新聞・雑誌の広範な活用が必要となります。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	第3に、研究会としてインターカレッジ・セミナーに参加していきたいと思っております。他の参加ゼミとしては、明治大学・小西ゼミ、慶応義塾大学・河野ゼミ、拓殖大学・大谷ゼミなど（予定）があります。このセミナーでは、年1回の共同合宿や講演会、大学対抗のディベート大会などを行なっていく予定です。 積極的・主体的参加を期待します 受講生と相談の上、総合的に評価します 特に定めません 特に定めません

履修コード	133001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	早川 <small>はやかわ</small> 純貴 <small>よしか</small>

講義の到達目標(ねらい)

当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。

講義の内容／授業スケジュール

当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成23年度の前期・統一テーマは「日本の外交問題とその交渉過程」である。ある外交事件（沖縄返還交渉、日米経済摩擦、韓国、中国、ロシアとの領土問題、通貨・為替問題、農産物自由化交渉など）が生じ、それに政治的対応がなされた場合、それはどんな対応だったのか、その対応は妥当であったか、否か。他に選択肢はなかったのか。対応に当たった政治家、行政官僚（主として外務省）は何を考えたのか。あるいは、その外交政策がその後の日本社会や政治、経済にどう影響したのか。こうした問題を解き明かすことで日本の政策決定の本質に迫ることができるであろう。

履修上の留意点

当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。

成績評価の方法
教科書／テキスト

個々人の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

履修コード	133601
科目名	外交史
担当者名	村井 <small>むらい</small> 良太 <small>りょうた</small>

講義の到達目標(ねらい)

現在の国際政治は混迷と模索の中にあります。そのような中で、過去の経験から学び、未来への糧としようとするのが外交史です。日本のような民主主義国家では、外交は国民と離れては成り立ちません。また、相互依存の時代にあって、外交は生活の中にまで深い影響を及ぼしています。本講義を通じて、社会人の一素養としての外交理解を身につけて欲しいと思います。

本年度の「外交史」では、戦前・戦中の遺産を踏まえた上で、第二次世界大戦後の日本外交史を中心に講義します。

講義の内容／授業スケジュール

講義内容は、以下を予定しています。スケジュールなど詳細は開講後にお知らせします。

前期：(1) はじめに (2~4) 冷戦後の日本外交 (5~6) 敗戦と占領 (7~8) 占領改革 (9~11) 吉田政権と講和 (12~14) 鳩山政権と55年体制の成立 (15) 前期のまとめ

後期：(16~19) 岸政権と日米安保条約の改定 (20~22) 池田政権と高度経済成長 (23~25) 佐藤政権と沖縄返還 (26~27) 危機の70年代 (28~29) 80年代の日本 (30) まとめ

早い時期に一度テキストを終わりで読み通してください。

準備学習

履修する学生には、出席はもとより、自学自習に基づく積極的な授業参加を求めます。

履修上の留意点

成績は、随時おこなう出席調査と、中間試験、学年末試験によって評価します。初回の授業で詳しい説明を受けてください。

成績評価の方法

五百頭旗真編『戦後日本外交史〔第3版〕』有斐閣、税別2000円、ISBN:9784641124073。

教科書／テキスト
参 考 書

参考図書は、講義の中で随時紹介していきます。

履修コード	134411
科目名	会社法
担当者名	井上 健一 <small>いのうえ けんいち</small>

講義の到達目標(ねらい) 【注意】この講義を選択できるのは、法律学科2年生で学生番号LK0201番以降の学生、法律学科3年生以上の学生、政治学科2年生以上の学生である。

企業活動の内部的な規整である会社組織に関する法規整（いわゆる形式的な意味での会社法）について講義する。単なる制度の紹介にとどまらず、なぜそのような制度が存在するのかという「制度の存在理由」を、近時の敵対的買収と対抗策の問題などに代表されるような現実の会社実務との関係で理解することを心がける。前期は主としてコーポレートガバナンスに関する規整、後期は企業金融および組織再編に関する規整を中心に講義する。商法総則についても適宜会社法との関連部分について触れていく。

講義の内容／
授業スケジュール

- 前期 1 会社法総論：商法の体系および会社法の存在意義
2 会社の機関と法：コーポレートガバナンスに関する法規整（株主総会、取締役会・代表取締役、監査役等）
- 後期 3 会社の資金調達と法規整（設立時の資金調達、設立後の資金調達：新株発行、社債等）
4 会社の組織再編（M&A等）
5 企業会計

履修上の留意点

少なくとも民法（総則・債権各論）を履修済か、履修中であることが望ましい。日経などの新聞・雑誌の経済記事についてもアンテナを張っておくこと。

成績評価の方法

原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で質疑応答形式によるケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。

教科書／テキスト

平出・山本・田澤編『商法概論Ⅱ』（青林書院）の予定であるが、発売が4月までに間に合わなければ代替措置を考える。

参 考 書

江頭憲治郎『株式会社法』（有斐閣）、神田秀樹『会社法』（弘文堂）。その他、適宜授業内で紹介する。

関 連 リンク

<http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

履修コード	130701・130702
科目名	外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）
担当者名	相田 敏彦 <small>あいだ としのこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

メディア研究関連の英文読解。

講義の内容／
授業スケジュール

資料（McQuail's Mass Communication Theory）はコピー配付する。

履修上の留意点

英語が得意科目であることが望ましい。

成績評価の方法

平常点。

履修コード	130601・130602
科目名	外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）
担当者名	大山 礼子 <small>おおやま れいこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

英語文献を原語で読むことによって、日本語訳を読んでいるだけでは読み流してしまいがちな論理の流れをきちんと把握し、内容のより深い理解をめざします。

講義の内容／
授業スケジュール

1年を通じて、ある程度まとまった量の英語文献を読むことを目標にします。

準備学習

どのような本を読みたいのか、事前に考えておいてください。

履修上の留意点

少人数のゼミ形式になるはずなので、予習を欠かさず、積極的に授業に参加することが必要です。

成績評価の方法

平常点によります（試験がないというのは、それだけ日常の努力が問われるということです）。

教科書／テキスト

M.J.Sandel, Justice: What's the right things to do?など、比較的平易な文献を読む予定ですが、履修者と相談のうえ確定します。

参 考 書

適宜指示します。

履修コード	130501・130502
科目名	外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）
担当者名	三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)	英語で政治学を勉強します。また、興味がある内容を通じて、中学校以来せっかくやってきた英語を鍛えます。
講義の内容／ 授業スケジュール	参加者の希望や人数によって、内容もやり方も変わってきます。 扱う文献は参加する人の関心や希望に応じて決めますが、比較政治学に関連した内容を原則とします。比較政治学の授業内容をよく確認して参考にしてください。 2010年度は、日本語訳がある英語文献を毎週少しずつ各自で読み進め、授業でわからないところや重要なポイントを討論するかたちで授業を行いました。 扱った文献は、Paul CollierのWars, Guns, and Votes: Democracy in Dangerous Placesという本です。
準備学習	スケジュールは下記の通りです。 第1週から第3週 英文記事などを使った速読練習 第4週以降 上記文献についての討論 毎回一定程度の英文を予習する必要があります。日本語訳があるものを使う予定ですので、読解より内容を理解したうえでたくさん音読をすることをすすめます。また、予習範囲の単語は指示した形式でノートを作り、覚えてくる必要があります。
履修上の留意点	自分の将来のために真剣に勉強する人向けの授業です。 英語学習上のコツなどは授業を通じてたくさんお教えしますので、英語力向上に大いに役に立つことと思います。
成績評価の方法	ただし、あくまでも政治学科の専門科目です。「英語の授業」ではありません。政治学科の3年次もしくは4年次生として、当然持っているべき知識は前提として授業を進めます。 授業に関連する新聞記事などを課題として指定することがあります。授業で扱った事柄について自ら調べたり勉強したりする課題も出る可能性があります。
教科書／テキスト	原則として、単語や基礎知識を中心とした小テストの平均点によります。小テストの成績が不十分な場合、欠席が多くなった場合、学期末にテストを受ける必要があります。 買わなければならないものを指定する予定はありませんが、場合によっては邦訳を買ったほうが勉強がしやすいかもしれません。
参考書 その他	毎回辞書を持参してください。学習用英英辞典の“Cobuild English Dictionary”はおすすめですが、最新の情報はYeStudyで確認してください。

履修コード	120901・120902
科目名	外書講読Ⅰ（中国書） 外書講読Ⅱ（中国書）
担当者名	王 志安

講義の到達目標(ねらい)	中国法に関連する中国の大学で使われる教科書や裁判判例を利用し、中国語の法文献を読める能力を養う。
講義の内容／ 授業スケジュール	文章の訳読を中心に授業を進めます。毎回、予習として翻訳された文書を書面で提出していただく。
履修上の留意点	授業にはすべて出席することが前提です。やむを得ない理由（急病、急用、忌引、部活動等）により欠席する場合でも、6回を越えた場合は単位取得はできません。 また、これまで中国語を勉強したことのない人は履修できません。
成績評価の方法	講義への出席を前提に、授業中の平常点で評価します。
教科書／テキスト	選定した中国語の法学関連教科書を開講時に配布します。

履修コード	120701・120702
科目名	外書講読Ⅰ（独書） 外書講読Ⅱ（独書）
担当者名	まつ村 いたる 松村 格

講義の到達目標(ねらい)	ドイツ語の法学文献を読むことを通して、ドイツ人の法的感覚・法意識・法理論の構成を学習し、日本人のそれらと比較することによって、日本と日本人の法意識についての長短を知ることが目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	ドイツ語の法学文献を逐条解釈していきます。私が毎週指定した範囲の文章について、受講生が予習してきて全員が順番で翻訳発表することになります。
準備学習	そして、解釈の是非を相互に指摘しながら読み進めます。
履修上の留意点	必ず授業の進度予定分の翻訳予習をすることが必要です。また、関連の日本文献を調べることも必要です。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	毎週出席して参加することが不可欠です。日本の法学・法哲学・法理論の基本書で教材の関連事項調べて比較検討することも必要です。そうすると、教材の理解がしやすいです。ドイツ語の文法書と独和辞典を常に携帯してください。ノートに原文と訳文を筆記することも良策です。 普段の予習・復習の態度と講読力および出席回数によって評価します。 未定ですので、第1回目の授業に配布します。 必要に応じて指示します。

履修コード	120801・120802
科目名	外書講読Ⅰ（仏書） 外書講読Ⅱ（仏書）
担当者名	なかの ゆうじ 中野 裕二

講義の到達目標(ねらい)	この授業では、平易なフランス語で書かれたフランスの法律・政治に関する文献を講読し、その内容を理解し、受講生と共に議論していきます。この授業をとおして、フランス語能力の向上を図るとともにフランスの法律・政治に関する理解を深めることを目標とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	毎回、分担箇所を日本語訳していきます。日本語訳が正しいか、文法の理解が正しいかどうかを逐語確認しながら読み進め、正しい日本語訳ができた後でその内容について議論します。
履修上の留意点	授業の最後に、講読した範囲の全訳を提出してもらおう予定です。
成績評価の方法 教科書／テキスト	フランス語文法の学習を終えた者を対象とします。フランス語の運用能力を確認するために、第1回授業でフランス語能力の確認テストを行います。運用能力に欠けると判断した場合は、受講を断る場合があります。また、少人数での授業が予想されるので、毎回休まずに出席することが望まれます。 毎回の出席と発表内容、講読範囲の全訳提出などを総合して成績評価とする。 教材については、必要に応じてプリントを配布します。

履修コード	127301
科目名	環境政策
担当者名	よこた まさとし 横田 匡紀

講義の到達目標(ねらい)

環境問題は現代世界の将来にかかわります。従って環境政策は将来の世代の生活にかかわる選択をする営みといえましょう。この講義では、多様化、複雑化、グローバル化している環境問題の状況を踏まえて、環境政策のメカニズムを理解していきます。日本、世界各国、国際社会における環境政策の具体例に言及しながら、行政の視点、企業の視点、市民の視点が交錯する諸相を明らかにします。公務員志望者、マスコミや民間企業志望者あるいは環境問題関連の資格試験なども念頭に置き、有益な情報の提供をこころがけたい。また現代社会の一市民として環境政策をみる視座、問題解決への視座を育成することが期待されます。

講義の内容／
授業スケジュール

*前期は「グローバル化と環境問題への対応」と題して、環境政策がグローバルな性質を持つことを理解します。後期は「持続可能な社会のガバナンス」と題して環境問題に対応する社会のあり方を考えます。

前期テーマ「グローバル化と環境問題への対応」

序—将来の世代のための選択：政策科学の視点(2-4)

・環境政策の射程と担い手—ローカルからグローバルへ

・環境政策のキーワード

持続可能な発展 予防原則 共通だが差異のある責任原則 等

1. ストックホルムからヨハネスブルクへ(5-9)

—持続可能な発展をめぐるガバナンスの軌跡

・環境のグローバル化

・国連人間環境会議と地球サミット

・ヨハネスブルク・サミットと制度改革

2. 新しい政策課題(10-15)

・「人間の安全保障」と環境問題

・淡水資源のガバナンス

・ジェンダー／人権と環境問題

・反グローバル化と環境問題

後期テーマ「持続可能な社会のガバナンス」

序—持続可能な社会のキーワード(16-18)

ガバナンス コモンズ 社会関係資本と環境 政策手法の変質 等

1. 持続可能な社会の政策課題(19-22)

オゾン層保護

再生可能エネルギー 等

2. 政策統合の諸相(23-26)

環境経営

貿易と環境

エコツーリズム

持続可能な交通政策 等

3. ポスト京都議定書と日本の課題(27-30)

地球温暖化のメカニズム

ポスト京都議定書の国際制度

京都メカニズム

環境政策の展望

*受講生の関心や授業の進行度に応じて優先順位を変更したり、トピックを選別することがある。

*時事問題を随時とりあげる予定である。

*新聞記事やビデオなどを多用し、理解の深化に努める予定である。

講義中は私語厳禁とする。

出席点はないが、出席しないことで生じる不利益は各自の責任となることに注意してください。

試験の点数(80%)を基本とし任意のレポートや小テスト、平常点など(20%)も考慮します。

宮脇・庄司編『グローバル公共政策』(晃洋書房)(改訂版)

横田匡紀『地球環境政策過程』(ミネルヴァ書房)(第2刷)

環境問題に少しでも関心を持つ学生の履修を歓迎します。

履修上の留意点

成績評価の方法

参考書

その他

履修コード	131401
科目名	基礎演習
担当者名	あいだ としひこ 相田 敏彦

講義の到達目標(ねらい)

マスコミ、広告、パソコン・インターネット普及などの情報化をめぐる広い領域から各自好きな内容を選んでテーマとする。どの領域も研究の蓄積がなされていると同時に、広告・広報や情報化は、非常に多くの仕事・企業とかかわりをもつ意味で、実践性・実用性が一層顕著になりつつある。テーマの実践性に加え、卒業後も射程に入れて、人前での発言・発表力、報告書・レポートを書く力などの基礎体力のABCからはじめる。討論、ディベート、合宿などゼミ生同士の交流も深め、大学生活の真の燃焼の場として(ゆったり・楽しく・着実に)活動する出発拠点としたい。

講義の内容/
授業スケジュール

1. テレビニュース・ドキュメンタリー、2. テレビドラマ、3. ケータイ・パソコン、4. 広告・広報、5. メディアと政治、6. その他、の中から、各自が一番興味を持てるテーマを選び、卒業後の進路も一部考慮に入れながら、自主的に(個々に、あるいはグループで)勉強を進めよう。資料としては、図書、雑誌のほかに、テレビ、ラジオ、映画、ビデオ・DVD・ネット資料等々を駆使して、アピール力のある発表(プレゼンテーション)をめざそう。

興味を持って調べたことを人前で発表し、かつ、議論することに徐々になれよう(その力をやがて就活にも生かせるよう指導もしたい)。

調整がつけば、ドラマ撮影の見学、プロデューサー・アナウンサー(経験者)(できれば駒大出身の)との接触もはかりたい。前期:上記の基礎体力のABCを中心とする。後期:討論(ディベート)にもウェイト。

履修上の留意点

ゼミの主役はゼミ生自身であり、運営も大幅に任される。

成績評価の方法

平常点。

履修コード	131201
科目名	基礎演習
担当者名	うちうみ まり 内海 麻利

講義の到達目標(ねらい)

本基礎演習は、都市政策、地方行政、まちづくりに関する基礎的な知識を養い、受講者が持つ問題意識を議論により引き出すとともに、調査手法や分析力、理論を構築し発表する基礎的能力を身につけることを目的としている。

講義の内容/
授業スケジュール

前期は、各人の問題意識に応じて情報収集を行うとともに、基礎的な知見を学び、各人あるいは各グループが独自のテーマ設定を行う。後期は、各自の研究テーマについて調査と発表を繰り返し、その内容について全員で議論する。議論することによって、研究発表の方法や研究内容・問題点の所在を明らかにし、3年次からの本格的な演習を受講する能力を身につけたい。

履修上の留意点

ゼミの運営自体も学生の主体性を重視するため、積極的なゼミ活動への参加が望まれる。

成績評価の方法

出席状況、各自の報告及び発表の充実度、ゼミに対する意欲などを総合的に評価する。

教科書/テキスト

授業中に適宜紹介する。

参 考 書

授業中に適宜紹介する。

履修コード	131611
科目名	基礎演習
担当者名	うらた きなほ 浦田 早苗

講義の到達目標(ねらい)

これまでわれわれが直面してきた、そしてこれからも直面し続ける様々な政治・社会現象について、純粹かつ鋭い視点から問題を喚起し、幅広い柔軟な発想をもって解決策を導きだせる人材を育成することに主眼をおいている。

講義の内容/
授業スケジュール

2011年度は共通テーマとして「混乱の世界と日本」とし、内外の重要課題について個人研究及びグループ研究を行う。

履修上の留意点

オリジナリティ溢れる問題解決策・プランニングの作成にはかなりの時間を費やさなければならぬ。

成績評価の方法

発表内容及各自の持つ勉学意欲(発表に対する質問・意見等)によって評価する。

そ の 他

研究発表では、学生諸君各自が興味あるテーマを自由に選択することができる。年3~4回のコンパと夏合宿が7月にある。

履修コード	131621
科目名	基礎演習
担当者名	おおやま れいこ 大山 礼子

講義の到達目標(ねらい)	基礎演習の目的は、政治学を学び、政治への理解を深めるうえでの基礎的な技術を身につけることにあります。自分で問題を発見し、それについて調べ、文章にまとめ、ほかの人にわかってもらえるように発表する、という一連の過程を経験し、スキルアップをめざしてください。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1～15) 毎週新聞切り抜きを作り、それを素材に要約の仕方、関連項目の調べ方などを学習します。また、記事の内容について、討論します。図書館ツアーを実施し、多くの資料の使いこなし方も学びます。
履修上の留意点	(16～30) 政治学関係の本を全員で読みながら、各自のテーマを決めてレポートをまとめます。演習は受講する学生が中心となってつくっていくものです。受動的な態度では出席する意味がありませんので、積極的な参加を求めます。
成績評価の方法	平常点によります。欠席、遅刻の多い者は成績評価の対象としないので注意してください。
教科書／テキスト	全員で読む本や論文は、参加者と話し合って決定します。
参考書	その都度紹介します。

履修コード	131001
科目名	基礎演習
担当者名	しおいり みほも 塩入 みほも

講義の到達目標(ねらい)	三、四年次においていずれかのゼミに所属を希望する者の為に、演習を行える基礎的能力を修得させることを狙いとします。
講義の内容／ 授業スケジュール	毎回各自に特定のテーマについて研究・報告をしてもらい、報告後には全員でディスカッションを行います。後期は、ディベートや模擬裁判の方式を取り入れていきます。テーマは、主として行政法(国家と国民の関係を規制する法)に関する問題を取り上げます。具体的テーマの割り当ては、学生各自の希望を踏まえて決定する予定です。
履修上の留意点	公務員、行政書士等の国家試験の受験を考えている学生には、特に有意義であると思われま
成績評価の方法	成績評価は、平常点(出席・報告・発言回数等)により行います。
参考書	適宜必要により指示します。
その他の	授業はゼミナール形式で行います。研究・調査方法、報告の仕方、レジュメの書き方等のノウハウは、初回に指導すると共に、その都度必要に応じて教示します。

履修コード	131631
科目名	基礎演習
担当者名	たまる だい 田丸 大

講義の到達目標(ねらい)	行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、ディベートや研究発表を行ってもらおう。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、駅前の放置自転車対策、成人年齢の引き下げなどである。自分たちの興味を持った事柄を自主的に調べ、それをもとに議論を深めて欲しい。
講義の内容／ 授業スケジュール	年間の演習を5回ずつ程度に分けて、ディベートや研究発表を繰り返していきたい。例えば、夏休み前にディベートを2回くらい、2学期には、ディベート1回と研究発表1回くらいできればと考えている。
履修上の留意点	教員は、ディベートの資料を配りDVDを見せて多少の解説を加えたりするだけで、細かいことに関してはほとんど指示を出さずに、「いつまでに何を準備してくれ」程度しか言いません。したがって、ディベートやグループ研究を行う中で、グループごとに時間管理を行い、基礎演習以外の時間に自主的に学生が集まって作業することが非常に多くなります。そのような時間外の活動についても、できるだけ出席点に反映するようにします。
成績評価の方法	講義の場合と比べて、教員の指導が少なく物足りないと感じるかもしれませんが、このように自分たちで作業を行いチームで成果を出すことを通じて、結果的に、大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つながりの友人も作り、グループでの作業を通じてチームで物事を達成する充実感を味わってほしいというのが、担当教官の願いです。
教科書／テキスト	また、未成年が大半であるため、コンパは行いません。合宿は未定ですが、行う場合には、正規の授業の理由を除いては、全員参加とします。
	平常点による。
	特に使用しない。

履修コード	131501
科目名	基礎演習
担当者名	とみき たかし 富崎 隆

講義の到達目標(ねらい)

3年次からの演習に向け、様々な政治課題に関する問題意識、政治学的分析をおこなうための資料収集能力、論理構築能力、プレゼンテーション能力等を養うことを目的とします。

講義の内容/
授業スケジュール

具体的には、前期にグループ対抗のディベートを中心におこない、後期に班毎の共同研究リサーチとプレゼンテーションを中心におこなっていきたいと思います

日本および世界で議論されている具体的政策課題をディベートのテーマとして取り上げます。ディベートとは、ある問題を取り上げ、是非の2チームに分かれ一定の形式に沿って、一種のゲームのように(勝敗を決める形で)討論をおこなうものです。基礎演習での、ディベート実施の目的は、具体的政策課題を採りあげることで、広く政治問題への問題意識をもつと同時に、ディベートを通じ諸君の論理・実証・思考・討論能力を向上させてもらいたいと思います。

前期議論した政策課題を中心に統一テーマを決め、後期に班毎にリサーチを行い、プレゼンテーションをおこなってももらいます。さらに、全体で論集をつくることを目標としたいと思います。

なお、日本の公共政策の在り方を議論することから、ネット資料や、新聞・雑誌の広範な活用が必要となります。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

受講生の希望や場合によっては、3・4年の演習にも参加してもらいたいと思います。

積極的・主体的参加を期待したいと思います。

受講生と相談の上、総合的に評価します。

特に定めません

特に定めません

履修コード	131301
科目名	基礎演習
担当者名	なかの ゆうじ 中野 裕二

講義の到達目標(ねらい)

本基礎演習の目標は次の3点です。

- ・本を読むことに慣れる
- ・自らの主張を説得的に述べる方法を身につける
- ・報告の仕方、討論の仕方を身につける

本基礎演習では、政治学またはひろく社会科学に関連する本を読みます。事前に分担を決め、報告者は、担当章を自分なりに要約・再構成し、発表します。発表とその後の質疑応答を通して、その部分を読んでいない人にも内容の要点が理解できるようにすることが報告者の目標となります。

具体的には、日本の政治や社会問題を扱った本を読みます。日本の政治や社会において、今日、何が中心的に議論されているのか、その論点は何か、などを議論します。日本の政治に詳しくなるだけでなく、筆者が自分の主張をより説得的に表現する手法として、どのような「道具立て」をしているのかを読み取ることを、さらなる目標としたいと思います。

講義の内容/
授業スケジュール

参考のために、昨年度に読んだ本を下に紹介します。新しく出版される本もあるでしょうから、実際に何を読むかは受講生との相談により決めます。

新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』(岩波ジュニア新書)

砂田一郎『オバマは何を変えるか』(岩波新書)

湯浅誠『反貧困---「すべり台社会」からの脱出』(岩波新書)

宇野重規『<私>時代のデモクラシー』(岩波新書)

山口二郎『政治のしくみがわかる本』(岩波ジュニア新書)

履修上の留意点

本を読むゼミです。グループ研究やディベートはやりません。

読書に関して、私と同じ考えを持つ人の言葉を書いておきます。この考えに賛同する人の受講を期待します。

「インターネットなどによる情報収集と読書とはまるで性格の違うことなのである。私たちは偉大な作家や思想家の書いた一冊の本を読み通すことによって、深く感じることを学ぶのであって、情報を収集しているだけではないのだ」(木田元『猿飛佐助からハイデガーへ』岩波書店、2003年、「はじめに」より)

成績評価の方法

毎回の出席、報告内容、発言回数・内容などを総合的に判断し、評価します。

履修コード	130801
科目名	基礎演習
担当者名	早川 <small>はやかわ よしよ</small> 純貴

講義の到達目標(ねらい)	基礎演習は3年次からの演習に向け、政治学の基礎的知識を養い、多面的な観察力と深い分析力、さらには資料収集方法を身につけることを目的としている。とりわけ当演習ではこうした能力を、グループ対抗のディベートおよび班毎のリサーチ(フィールドワークを含む)を通して涵養していきたい。
講義の内容/ 授業スケジュール	ディベートで扱うテーマは日本の政治・社会・経済の諸問題(特に賛否両論が際立つ問題)に限定し、それぞれのテーマについて二つのグループが是側・非側の立場からアプローチしていく。ディベートは勉強の目標であり総括でもある。リサーチは地方政治が抱えるさまざまな課題について、それぞれ担当の班がフィールドワークを行い、その成果を発表する。また担当したリサーチについてはレポートを提出してもらおう。ディベートは前・後期それぞれ2回ずつ行う。
履修上の留意点	当基礎演習で鍛えて欲しいのは、自分の考えをきちんと言葉で表現できる力、あるいは自分たちの主張を効果的に相手(聞き手)に伝え、十分に納得させる力である。そのためには学生諸君の議論とフィールドワークへの積極的参加を求めたい。
成績評価の方法 教科書/テキスト	議論や調査への参加度、発表の充実度、レポートの内容などを総合して評価する。 教科書は用いない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

履修コード	130901
科目名	基礎演習
担当者名	<small>みんげ なかや</small> 三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)	やる気がある参加者で、政治学科らしい大学レベルの勉強をするための授業です。
講義の内容/ 授業スケジュール	基礎演習は毎年顔ぶれによってやるのが全然違います。参加者のニーズに合わせた指導をします。その際、将来のための目標設定や自己分析、スケジュール管理、勉強の仕方、整理の仕方などについて、細かいアドバイスをします。
準備学習 履修上の留意点	扱う内容も参加者の関心に応じますが、政治学概論や比較政治学の内容を深めるものが主になります。ふだんから新聞の国際面を読んで興味をもてる人、世界史が面白いと思えた人など、外国のことにも興味関心がある人のほうがこの基礎演習には向いていると思います。 今年度は、日本の多文化状況についての学習の一環として、新宿大久保地区で活動している団体のフィールドワークに参加する計画です。 毎回各自で取り組み課題を出します。 YeStudy内にある基礎演習と演習の説明も〈必ず〉よく読んでください。
成績評価の方法 教科書/テキスト その他の	三竹担当の基礎演習に入った人は、二年次に必ず比較政治学を履修登録する必要があります。比較政治学のところにある説明も読んでおいたほうがよいでしょう。 応募前にメールで相談することをすすめます。 基礎学力が足りない傾向にはとても懸念をいただいていますので、下記のことは強調します。 ・言われなくても新聞を読む。 ・中学校社会科程度の学力は確実に身につけておく。 学期末に行う自己評価プレゼンにより、100満点で自己評価します。 その都度指示します。一冊から二冊は買うものがあります。 mitake@komazawa-u.ac.jp 最新の情報はYeStudyで確認してください。

履修コード	131651
科目名	基礎演習
担当者名	三船 恵美

講義の到達目標(ねらい)	現代の国際関係について自分自身の視角を形成し、それを報告しながら討論することを学ぶのが、本ゼミの目的です。複数の学生全員が同じ考え方をすることはあり得ません。異なる考え方の学生が集まり、異なる価値観に対して排他的になることなく、しかも単なる「仲良し関係」では終わらない知的緊張関係の中で、対立するところ是对立し、評価できるところは評価しあうことを学びましょう。自分の意見を単純に主張するだけではゼミに参加する意義がありません。議論は言い争うことと本質的に異質なものです。議論することで自分の意見を主張したり異なる意見を受け入れ、自分の考え方を鍛えるためにゼミは存在します。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期：第一回目のゼミで、ゼミ生自身がスケジュールをつくりあげることからはじめましょう。最初の一ヶ月くらいは、大学でのレポートの書き方、ゼミの進め方、司会や報告の方法などについて、担当教授が作成するオリジナル教材を使いながら講義します。その後は、ゼミ生が中心となってゼミを作り上げていきます。
準備学習 履修上の留意点	後期：専門ゼミへ向かって、各自の研究関心に基つき研究成果を報告してもらいます。 新聞の国際面を毎日読みましょう。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	国際関係論ゼミの受講生には、基本的な概念を取得してほしいので、「国際関係論」の履修を勧めます。講義と異なり、ゼミは学生が主体になって運営します。緊張感を失わないで、でも、楽しい、笑顔の絶えないゼミを目指しましょう。 出席や発言などの総合評価です。 共通の教科書を使うかどうかは、授業開始後、受講生と相談して決めます。 適宜紹介します。

履修コード	131641
科目名	基礎演習
担当者名	村井 良太

講義の到達目標(ねらい)	この講義は、政治学を学び、政治への理解を深める上での基礎的な技術を身につけることをねらいとしています。教材を読み、レジュメをまとめ、報告し、議論し、レポートを書くなど一通りのことをします。教材には、日本政治史を始め、現代政治、さらに、アメリカやアジアなど他の国々のものも使って、「世界のなかの日本」という広い視座を身につけてもらいたいと思います。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は、図書館ツアーや、簡単な論文や新書などを使って教材の読み方やレジュメのまとめ方、報告やコメントの仕方、レポートの書き方などを広範に学びます。後期は、輪読とともにレポート発表などを行い、最後に簡単なゼミ・レポートを提出してもらいます。なお受講生と相談しながら、合宿やディベートなど様々なことに挑戦していきたいと思います。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト そ の 他	積極的な参加を求めます。 成績は、授業への積極性、出席、報告、発言、レポートなどから総合的に判断します。 テキストはこちらから指定するものもありますが、おおむね話し合いながら決めていきます。 授業の方法は、基本的には、毎回、テキストを指定して、輪読しながら議論することになります。報告者はレジュメをつくって報告します。それ以外の学生も、毎回、少なくとも一分間程度の発言を求められます。他にもいろいろと取り入れていきたいと思いますので、一緒にゼミを創りあげていきましょう。

履修コード	131601
科目名	基礎演習
担当者名	やまざき のぞみ 山崎 望

講義の到達目標(ねらい)

三年次からの演習に向けて、基礎的な知識の習得・問題意識の形成と同時に、文献や資料の収集・分析方法、報告（プレゼンテーション）の技術、レジュメ（要約）の作り方など実践的なスキルの習得を目指します。

講義の内容／授業スケジュール

現代世界の変容を多角的に分析し、世界秩序の変容が生み出す問題にどのように対応するのか、考えていきます。国内政治／国際政治、公／私との区別など既存の区別が揺らぐ中で噴出している多様な問題について考えます。

履修上の留意点

具体的には前期は国内／国際的な格差、フリーター、貧困、福祉、新自由主義的グローバル化をめぐる問題と代替的な社会構想の模索（ベーシックインカム論、NPO論、共産主義再考など）を、後期はナショナリズム、多文化主義、グローバルテロリズムをめぐる問題、および民主主義や市民社会をめぐる問題を中心に扱います。課題文献の報告・発表と討論、加えて履修者の問題意識に照らして、グループを作り、年に数回のグループ討論を行いたいと思います。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

文献や資料が指定された場合は、課題文献・資料を読んでからゼミに臨んでください。報告者は課題文献の要約レジュメと私見を事前に作成してください（担当者が指導します）

討論においては積極的に発言してください。詳細は初回に説明するので、履修希望者は必ず出席してください。「現代政治理論」を履修していることが望ましいです。

基本的には平常点で評価します。（出席・報告・討論への貢献など総合的に評価）。

特に指定しませんが、文献については、履修者と相談の上指定します。

特に無し。

新書や論文の輪読と議論という、ゼミ形式を予定しています。毎回報告者を指名するので、報告者は自分の関心のあるテーマに即した課題文献（こちらからも提示します）を要約・報告し、自分で調べたことを付け加え、私見を述べ論点を提起してください。その後参加者グループ単位で討論します。希望があれば、特定のテーマについてグループ研究やグループ対抗のディベートも行います。

履修コード	127001
科目名	行政学
担当者名	たまる だい 田丸 大

講義の到達目標(ねらい)

例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論（考え方・法則）と実際の事例（ニュースなど）との関連に特に注意を払う予定である。

講義の内容／授業スケジュール

行政学とは（1～4）行政・政策を見る視点（5～10）国家観の変遷（11～14）行政国家、福祉国家（15～18）行政改革（19～24）民営化と規制緩和（25～28）地方自治と地方分権改革（29～30）。（）内の数字は、講義の大まかな回数です。

準備学習

新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。

履修上の留意点

現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。

成績評価の方法

学年末試験1回と、授業内の複数回の小テスト（小テストの回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時なるべく速やかに具体的に示します。）によります。

教科書／テキスト

また、ニュース検定試験2級の合格をもって、出席点を加点することも考える予定です。ニュース検定試験事務局との調整を行い、最初の授業でアナウンスします。

参 考 書

森田朗『現代の行政（改訂版）』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846
半分程度しか使用しない予定である。ですが、教科書に線を引いたり、板書を書き込んだりしてもらっているので、用意してください。

そ の 他

早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論—「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352

適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見て構わないと思います。履修者が多く教場に入りきれない場合は、法律学科の学生には、フレックスBの時間帯の行政学を履修してもらうこともあります。

履修コード	127401
科目名	行政法各論
担当者名	しらいち みほも 塩入 みほも

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容
授業スケジュール

行政活動に対する国民の権利救済に関する法制度 (=行政救済法) について講義します。

- (1) 行政救済法総説
- (2)～(4) 損失補償制度
- (5)～(9) 国家賠償制度
- (10)～(12) 行政不服申立制度：意義と特徴、不服申立手続の種類・具体的要件・原理等、「公権力の行使」と「処分」の概念
- (13)～(14) 行政事件訴訟法総説：意義と特徴、行政事件と民事事件の区別基準、司法審査の要件と限界（法律上の争訟・紛争成熟性・統治行為論）等
- (15)～(19) 抗告訴訟論：処分及び裁決の取消訴訟・不作為の違法確認訴訟・無効等確認訴訟・義務付け訴訟・差止訴訟
- (20)～(26) 取消訴訟の訴訟要件論：処分性、原告適格、狭義の訴えの利益、被告適格、裁判管轄、出訴期間、不服申立前置主義、その他の形式要件
- (27) 取消訴訟の本案審理：訴訟物と本案要件、違法判断の基準時、違法の主張制限、実質的証拠法則等
- (28) 取消判決の効力
- (29)～(30) 仮の権利保護制度

履修上の留意点

行政法の基礎知識を前提とするので、原則として「行政法総論」を履修済みであることが要求されます。努力次第では、総論との並行又は単独での履修も可能ですが、予備校や独学により行政法総論の知識をある程度習得している者でない限り、相当の努力が必要となります。

成績評価の方法

なお、行政法は公務員、行政書士等の各種国家試験の必須科目となっているので、これら国家試験の受験を志している学生のために、出題頻度の高い問題、論点については講義内でその都度指摘します。定期試験は年度末一回であるが、前期も授業内テストを行う予定である。また、授業の進行状況や履修態度の如何によっては、レポートを課すこともある。

教科書／テキスト
参 考 書

成績は、定期試験、小テスト、(レポート)、不定期に確認する出欠、の総合判断により評価する。特定の教科書は使用しません。初回講義時の際に紹介します。

履修コード	127201
科目名	行政法総論
担当者名	塩入 ^{しおいり} みほ ^{みほ}

講義の到達目標(ねらい)

存在する法の約8～9割は行政法です。この講義では、その行政法の基本的な仕組みと理論一般について学びます。行政法は、民法や刑法、憲法等の他の法分野とは異なって、学生レベルではあまり日常生活に直接関連がないと感じられがちですが、例えば交通取締・治安等に関わる警察権行使の適法・違法や国家賠償請求の可否など、実は知っておくと便利なおことがたくさんあります。また、政治を学ぶ上では、やはり行政法の知識を備え、日本の統治構造を支えている法実態を知ることが重要でしょう。それを学ぶのが当講義の狙いです。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1)～(2)行政法とは何か：行政法の成立、行政の定義、行政法の領域
- (3)～(5)行政法の基本構造：現代日本行政法の特徴、法治行政の原理
- (6)～(8)行政法の法源：成文法源、不文法源
- (9)～(11)行政作用の様々な分類論
- (12)行政立法
- (13)行政計画
- (14)行政指導
- (15)行政契約
- (16)～(20)行政行為論：特徴、成立と消滅、効力、行為類型論
- (21)～(22)行政裁量論
- (23)～(24)行政行為の瑕疵
- (25)～(26)職権取消しと撤回
- (27)～(29)行政上の強制制度
- (30)まとめ

履修上の留意点

行政法を初めて学習する者でもその基礎知識を一年間で習得できるよう、判例・通説を引用しながら、出来るだけ解り易く且つ簡潔に説明していくつもりです。特に公務員や行政書士等の国家試験を目指している学生のために、出題頻度の高い問題は都度指摘します。

成績評価の方法

定期試験は学年末試験のみだが、前期も授業内テストを実施する。また、授業の進行状況や履修態度の如何によっては、レポート課題を出す。成績評価は、定期試験、小テスト(及びレポート)、平常点(不定期に確認する出欠)の総合判断により行う。

教科書／テキスト
参 考 書

特定の教科書は使用しません。但し、オリジナルノートが作れるように毎回丁寧に板書します。最初の講義の際に紹介します。

履修コード	117501
科目名	経済原論
担当者名	福田 慎 <small>よくだ しん</small>

講義の到達目標(わらい)

本講義では、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学について扱う。特に、公務員試験の他国家試験に対応できる知識を得ることを目的としている。こうした試験では、それ相応の問題が設定されているため、それに対応できる知識が得られる。また、実際の経済への応用を念頭に置きながら講義を進めていく。

講義の内容
授業スケジュール

(前期)

1. ガイダンスと成績評価
2. 消費者理論：最適消費点と無差別曲線
3. 消費者理論：代替効果と所得効果
4. 消費者理論：効用関数の計算と需要曲線
5. 消費者理論：需要の価格弾力性
6. 生産者理論：利潤最大化と費用関数
7. 生産者理論：損益分岐点と操業停止点
8. 生産者理論：長期均衡、課税と費用曲線
9. 生産者理論：特定の生産関数の扱い
10. 不完全競争の生産者理論：独占と寡占
11. 不完全競争の生産者理論：独占的競争
12. 余剰分析 (1)
13. 余剰分析 (2)
14. 余剰分析 (3)
15. 前期の復習

(後期)

1. 国民所得の決定 (1)
2. 国民所得の決定 (2)
3. IS-LM分析
4. 為替レート考慮したIS-LM分析
5. 消費関数と投資関数
6. 貨幣理論
7. 乗数理論 (1)
8. 乗数理論 (2)
9. 総需要・総供給分析 (1)
10. 総需要・総供給分析 (2)
11. 総需要・総供給分析 (3)
12. 総需要・総供給分析 (4)
13. 経済成長の理論 (1)
14. 経済成長の理論 (2)
15. 後期の復習

履修上の留意点

ミクロ経済学ではある程度の数学の知識を要しますが、その都度説明していくので、数学初心者でも履修は可能です。

成績評価の方法
教科書/テキスト

試験60%、レポート40%で評価する。

岩田規久男、飯田泰之著、『ゼミナール経済政策入門』(2006)、日本経済新聞社、ISBN: 4-532-13310-6

参 考 書

ミクロ経済学：武隈慎一、(1999)、『ミクロ経済学』、新世社

マクロ経済学：N. グレゴリー・マンキュー、足立ほか訳、(2008)、『マンキューマクロ経済学 I 入門編』、東洋経済新報社

そ の 他

事前に配布する資料と板書による講義形式です。

履修コード	119101
科目名	経済政策
担当者名	<small>もりおか じん</small> 森岡 仁

講義の到達目標(ねらい) 市場を中心とした自由主義経済の中に、国が運営する経済政策を導入するようになってかなりの時間が経過したが、今や国民は経済政策を抜きに安定した経済生活を送ることはできない。本講義では経済政策の基礎を構成する諸概念の理解を深めることによって、日々展開される実践的経済政策を的確に判断する力を高めることを目的としている。

講義の内容／
授業スケジュール (1～4) 経済政策の概念、経済政策の目標、経済政策の手段、経済政策学、(5～8) 重商主義の経済政策思想、自由主義の経済政策思想、価値判断論争と経済政策学、現代経済政策学の方角、(9～12) 政策課題としての福祉問題、政策課題としての秩序問題、政策課題としての社会問題、現代政策課題の総括、(13～16) 経済成長の意義、古典派の経済成長論、完全雇用と現代の成長政策、経済成長と資本・労働、(17～20) 安定と成長の問題、経済変動とその安定政策、物価変動のメカニズム、現代インフレーションの対策、(21～24) 経済均衡と市場機構、独占と寡占、寡占の本質と作用、産業組織政策の展開、(25～28) 社会的公正と社会均衡化政策、国民所得の分配と再分配、公害問題の発生、福祉国家への道、(28～30) 現代の人口問題、人口政策の課題、経済政策と人口政策。

履修上の留意点 経済政策の根底には経済理論があるが、少しでも経済理論に触れておくことが好ましい。

成績評価の方法 学年末の定期試験。追試験も実施する。

教科書／テキスト 森岡他著『現代経済政策』(千倉書房)1975年 2,520円。4-8051-0842-8

参考書 特に指定せず。

その他の他 授業方法は講義。

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	<small>わかばやし ありさ</small> 若林 亜理砂

講義の到達目標(ねらい) 経済法の中心をなす独占禁止法を理解をすることを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をになうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。

講義の内容／
授業スケジュール 以下のトピックについて講義を行う予定である。

- 1 独占禁止法の基礎概念
- 2 不当な取引制限
- 3 私的独占
- 4 一般集中規制
- 5 市場集中規制
- 6 不公正な取引方法
- 7 公正取引委員会
- 8 私的エンフォースメント・刑事罰

履修上の留意点 初回の説明を必ず聞いてから履修するようにしてください。

成績評価の方法 期末試験により評価を行う。

教科書／テキスト 泉水文雄他 リーガルクエスト『経済法』(有斐閣 2010)

参考書 別冊ジュリスト (No.199)『経済法判例・審決百選』(有斐閣)

履修コード	118001
科目名	刑事政策
担当者名	かくしろう とよかず 覚正 豊和

講義の到達目標(ねらい)

犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解させていきたい。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合目的な手段・方法を探究していくことを目的とする。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずである。講義を通じてそれを概観していきたい。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回 受講のガイダンス

刑事政策の意義と課題 刑事政策、犯罪学と規範学の相違について学ぶ。

第2回 犯罪学の歴史と展開 その起源から近代学説までを学ぶ。

第3回 現代犯罪学の課題

ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。

第4回 犯罪の理念

犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものであることを学ぶ。

第5回 刑事政策と暗数

犯罪統計と暗数の意味、被害調査、事故報告調査などについて学ぶ。

第6回 犯罪の原因(1) 身体的・生理的要因について学ぶ。

第7回 犯罪の原因(2) 個人環境的要因について学ぶ。

第8回 犯罪の原因(3) 社会環境的要因について学ぶ。

第9回 刑罰の意義・機能・沿革

意義機能はもちろん一般予防、特別予防、抑制主義、処罰の種類などについて学ぶ。

第10回 死刑 憲法と死刑、存廃論、代替刑について学ぶ。

第11回 自由刑

意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑などについて学ぶ。

第12回 財産刑 罰金の意義、特質、罰金と科料などについて学ぶ。

第13回 保安処分 意義、種類、要件などについて学ぶ。

第14回 少年保護手続

家庭裁判所と少年審判、少年法改正問題について学ぶ。

第15回 定期試験(予定)

第16回 犯罪者の処遇 意義、原則、動向について学ぶ。

第17回 犯罪者の刑事司法政策(1) 警察

微罰処分、ダイヴァージョンなどについて学ぶ。

第18回 犯罪者の刑事司法政策(2) 検察 起訴猶予などについて学ぶ。

第19回 犯罪者の刑事司法政策(3) 裁判

量刑基準、宣告猶予、執行猶予、判決前調査などについて学ぶ。

第20回 矯正の意義・目的

矯正処遇の意義、目的、観念、矯正処遇の原則などについて学ぶ。

第21回 受刑者の処遇

法的地位、処遇原則、分類処遇、死刑確定者の処遇などについて学ぶ。

第22回 犯罪の予防

意義、予防、予防活動、予測、問題点などについて学ぶ。

第23回 更生保護 意義、措置、概況などについて学ぶ。

第24回 恩赦・資格制度

恩赦の種類、効力、存在理由などについて学ぶ。

第25回 被害者補償

意義、歴史、必要性、法的性質などについて学ぶ。

第26回 各犯罪と対策 少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。

第27回 各種犯罪と対策

組織犯罪、ホワイトカラー犯罪などについて学ぶ。

第28回 各種犯罪と対策 薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。

第29回 まとめ 討論及び質疑

第30回 定期試験

初回の授業において指示する。

定期試験および平常点

斉藤・覚正「刑事政策論」(八千代出版)3,500円 ISBN978-4-8429-1421-3

授業において指示する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

履修コード	115801
科目名	刑法各論
担当者名	富樫 景子

講義の到達目標(ねらい)

「刑法各論の基本的知識および思考方法の習得」

基本的には刑法総論に準じる。刑法各論の基本的知識を習得し、学んだ知識を活用して、皆さん自身に課題事例の解決を考えてもらうことで、暗記に終わらない主体的な学習を行うことを目標とする。個々の犯罪成立について学ぶ刑法各論は、総論よりも具体的でわかりやすい反面、成立要件の整理や事実の評価およびあてはめなど、より実践的な力が要求される。こうした点に留意して、学習を行ってほしい。

講義の内容／
授業スケジュール

【刑法入門】

1. イントロダクション刑法各論・刑法総論の復習

【刑法各論】

2-3. 生命に対する罪

4-5. 身体に対する罪

6-7. 財産罪総論

8-12. 財産に対する罪①(窃盗、強盗、恐喝)

13-16. 財産に対する罪②(詐欺、横領、背任)

17-18. 社会的法益に対する罪①(放火罪)

19-22. 社会的法益に対する罪②(通貨偽造罪、文書偽造罪)

23. 中間のまとめ(小テストの可能性あり)

24-26. 国家作用に対する罪①(公務執行妨害罪、犯人蔵匿名及び証拠隠滅罪)

27. 国家作用に対する罪②(公務員職権濫用罪、賄賂罪)

28. 最終のまとめ

29-予備日程

準備学習

1. 講義で扱うテーマについて、教科書を読んてくること
2. 講義中に指示された課題について、各自で考えてくること
(詳しくは第1回目の講義中に指示する)

履修上の留意点

1. 教科書、六法(小型のもので構わない)、配布資料を必ず持参すること
2. 講義に出席すること(出席をとるかわりに、予告なく小テストを実施することがある)
3. 暗記に終わらない主体的な学習を実践するため、自習課題を課す。これについては講義の一環であるから、次の講義までに、教科書等を参考にして、必ず自分で考えてきてほしい。
(詳しくは第1回目の講義で指示する)

成績評価の方法
教科書/テキスト

定期試験(65パーセント)及び講義中に行う小テスト等(35パーセント)の総合評価で行う。教科書は、一般的な刑法各論の基本書であればどれを購入しても構わないが、1冊は必ず手元においておくこと。購入に迷う受講者には、さしあたって以下を推薦しておく。

・西田典之『刑法各論(第5版)』弘文堂、4200円、ISBN978-4335304446

・その他、授業時間内にレジュメを配布する。

参 考 書

講義中に指示する

履修コード	127901
科目名	刑法総論
担当者名	佐藤 ^{さとう} 多美夫 ^{たみお}

講義の到達目標(ねらい)

本講義では刑法総論の分野を扱います。刑法総論は刑法各論のように殺人罪、窃盗罪といった個々の犯罪を扱うのではなく、それらの犯罪の共通にもっている性格を明らかにいたします。そこで、犯罪の基本的、重要な課題について、その意義と問題点を学説や判例をふまえながらすすめ、体系的に刑法総論を理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

以下の講義内容であるが時間の都合で省略する箇所があり得るかもしれません。

I 序説

- 1 はじめに
- 2 刑法とはなにか
- 3 犯罪論の基礎
- 4 罪刑法定主義と刑法の解釈

II 構成要件

- 1 総説
- 2 結果
- 3 実行行為
- 4 因果関係

III 違法性

- 1 総説
- 2 正当業務行為
- 3 正当防衛
- 4 緊急避難

IV 責任

- 1 総説
- 2 責任能力
- 3 故意
- 4 過失
- 5 期待可能性

V 共犯

- 1 総説
- 2 共同正犯、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯
- 3 教唆犯
- 4 幫助犯

VI 共犯の諸問題

- 1 共犯と身分
- 2 不作為と共犯
- 3 共犯と錯誤
- 4 共犯の中止、離脱

VII 罪数論

予習及び復習は必要です。

筆記試験及び平常点（出席など）を総合して評価する。

教科書は使用しますので学内指定書店に照会して下さい。

最初の講義時に入門書・基本書・判例集等についてお知らせいたします。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

履修コード	101202
科目名	現代企業論
担当者名	ひやくた よしはる 百田 義治

講義の到達目標(ねらい)

本科目は東京税理士会の寄附講座として開講されます。東京税理士会所属の14人の現役の税理士の方々(そのほとんどは駒澤大学または駒澤大学大学院の卒業生)が、それぞれの実務経験を踏まえながら、税理士の役割や社会的使命、さまざまな税法の内容や意義、また税理士の実際の姿などについて、わかりやすく講義します。受講生が、本授業を通して、財政や租税に関する実際的な知識を獲得し、できれば税理士や公認会計士などの職業会計人を目指す機会となることを期待しています。

講義の内容/
授業スケジュール

以下のテーマでの授業を予定しています。

- 第1回 わが国の租税制度
- 第2回 グローバル化と証券税制
- 第3回 法人と個人の税金のしくみ
- 第4回 相続税のはなし
- 第5回 贈与税のはなし
- 第6回 所得税のはなし
- 第7回 法人税のはなし
- 第8回 税理士制度の歴史から税理士の仕事の魅力まで
- 第9回 リスク・マネジメントと税務会計
- 第10回 税理士と地方自治体の監査制度
- 第11回 税務調査と税理士
- 第12回 サラリーマンと税金のはなし
- 第13回 消費税のはなし
- 第14回 税制改正のはなし
- 第15回 まとめ

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

定期試験とレポートで評価する。

毎回資料を配布する。

特になし。

この科目は、履修制限(150名~200名)をします。最初の授業で履修制限の説明をします。

本授業はすべて外部講師(税理士)の方々によって進められます。授業における私語および携帯電話の使用は禁止します。また講師講演中の遅刻入場や途中退席も原則として禁止します。

履修コード	133801
科目名	現代国家論
担当者名	おおつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)

本講義は近代における日本国家の解明を主たる目的に定めます。具体的には下記の諸課題を検討していきます。第一に近代日本国家の形成過程=明治国家の構造(前期)であり、第二に日本人の政治的行動様式・観念形態を規定するもの=政治文化の問題(後期)をとりあげます。

講義の内容/
授業スケジュール

I前期 (1)幕末維新の政治過程 (2)内閣官制 (3)大日本帝国憲法 (4)統帥権 (5)帝国議会 (6)自由民権運動 (7)地方官官制 (8)財政 (9)国家神道 (10)教育勅語 (11)社会主義 (12)大正デモクラシー (13)天皇制ファシズム (14)統制経済 (15)中間試験

II後期 (16)日本の宗教①~⑤ (17)日本人の死生観 (18)タテ社会の原理 (19)和の精神 (20)ムラ・イエの原理 (21)ホンネとタテマエ (22)集団指導体制 (23)意志決定 (24)被害者意識 (25)期末試験

成績評価の方法
教科書/テキスト

授業内における中間試験(50%)と期末試験(50%)により評価します。

大塚桂『明治国家の基本構造』(法律文化社)3200円

大塚桂『日本の政治文化』(勁草書房)2800円

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

参 考 書
そ の 他

私の研究室は、第二研究館八階(2835)です。電話は、3418-9377(直)です。

履修コード	126401
科目名	現代政治理論
担当者名	やまぎき のぞむ 山崎 望

講義の到達目標(ねらい)

わたしたちが生きている現代社会がはらむ様々な問題について、現代政治理論の観点から把握し、どのようにそれらの問題に対峙していくのか、それを考える習慣を身につけることが目的です。

講義の内容／
授業スケジュール

概ね、以下の論点について順次、講義をしていきます

- (1～6回) 現代世界の変容1・2、政治、権力
フェミニズム1(男女の平等)・2(家族の変容)
- (7～10回) 格差社会論、経済のグローバル化、
世界経済危機(リーマンショックを含む)
自由主義1・2(福祉国家の変容)
- (11～12回) マルクス主義の再検討(自由主義の限界?)
- (13～15回) 国民国家、同化主義、ナショナリズム
- (16～17回) 多文化主義、移民
- (18～25回) グローバル政治論、「9.11」対米同時多発テロ以後のアメリカ
世界秩序の多極化、「イスラーム原理主義」
人道的介入、グローバル・テロリズム
地域主義1・2(EUとアジア共同体など)
- (26～30回) 自由民主主義の揺らぎ、新しい民主主義論1・2
市民社会論、国境を越える民主主義論

履修上の留意点

自分が生きてく上で直面せざるを得ないであろう問題について、考える習慣を身につけることが目的なので、毎回出席して下さい。新聞や本を読み、インターネットなどで情報を集め、問題意識をもって出席してください。とくに基礎知識を得るためにも、新聞を毎日読む習慣を身につけてください。学年末の試験(ただし、病欠や公欠席などの正当な理由なくしてレスポンスカードの提出率が5割を切る場合、試験を受けても単位の取得は認めない)

成績評価の方法

教科書／テキスト

参 考 書

杉田敦・川崎修編2006『現代政治理論』有斐閣アルマ ISBN 4-641-12269-5
有賀誠・伊藤恭彦・松井暁編2007『ポストリベラリズムの対抗軸』ナカニシヤ出版
ISBN978-4-7795-0195-1

そ の 他

講義形式。講義時に簡易なレジュメを配布する予定。
講義の後半10分にレスポンスカードを配るので、質問や感想を書いてください。
翌週の冒頭に簡易な応答を行います。

履修コード	126101
科目名	憲法
担当者名	柳瀬 昇 <small>やなせ のぼる</small>

講義の到達目標(ねらい)

この講義は、日本国憲法の解釈論を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。

憲法は、国家統治の組織・作用の基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。この講義では、日本国憲法の標準的な解釈論の基礎を、概括的に、かつ、平明に講述する。

日本国憲法に定める人権保障と国家統治の仕組みについて、この講義において、しっかりと理解してほしい。

講義の内容／
授業スケジュール

憲法総論、人権論、統治機構論の順に講義を行う。

第1回：憲法を学ぶ意義、第2回：立憲主義の基本原則 (1)、第3-4回：憲法と人権の限界、第5回：幸福追求権、第6回：法の下での平等、第7回：内心の自由、第8-9回：表現の自由、第10-11回：経済的自由、第12回：身体の自由、第13回：国家による自由、第14回：国家への自由、第15回：前期の総括、第16回：立憲主義の基本原則 (2)、第17-18回：国会と立法権、第19回：内閣と行政権、第20-22回：裁判所と司法権・違憲審査権、第23-24回：財政・地方からみる民主主義、第25回：天皇、第26回：安全保障、第27-29回：日本国憲法の生成と展開、第30回：後期の総括

準備学習

基本的には予習は必要ないが、その代わりに、必ず講義に出席し、復習に努めてほしい。ただし、人権論を扱う前半のうち数回は、教科書の指定されたページを読んだうえで講義に臨むことを求める。

履修上の留意点

講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれない。講義を受講する意思のない学生に対しては、学期の半ばでも講義の受講を遠慮してもらうことがある。

成績評価の方法

期末に行う筆記試験や、授業時間中に適宜行う小テスト等に基づき、総合的に判断する。

90点以上の者を「S」、80点以上の者を「A」、70点以上の者を「B」、60点以上の者を「C」とし、60点未満の者を「F」と評価する。

教科書／テキスト

教科書として、川崎政司・小山剛編『判例から学ぶ憲法・行政法〔第3版〕』（法学書院、2011年）を使用する。そのほかに、毎回、授業担当者の作成したレジュメや資料を配布する。YeStudy (e-learningシステム) から、レジュメをダウンロードして講義に臨まれない。

どの出版社のものでもかまわないので、六法（法令集）は、必ず携行されたい。なお、六法については、第1回の講義で説明する。

参考書
その他

第1回の講義で説明する。

講義の内容に関する質問や学生生活上の相談については、講義の前後またはオフィスアワーにおいて対応する。確実に時間を確保したい場合には、電子メール (noboru@komazawa-u.ac.jp) で事前に連絡をとることをすすめる。

履修コード	093601
科目名	工業政策
担当者名	おくやま まさゆき 奥山 雅之

講義の到達目標(ねらい)

わが国の工業（「ものづくり」産業）は、その技術力を背景に高い国際競争力を有しており、産業全体を支える重要な存在です。

この講義では、数多くの企業事例を取り上げ、ものづくり産業の特徴を確認しながら、産業の「過去」「現在」そして「将来」を考察します。また、ものづくり産業に対する国や地方公共団体の政策の課題と方向性についても検討を加えていきます。

前期では、ものづくり産業の現状をさまざまな角度から分析し、その課題と今後の方向性を明らかにします。後期では、産学連携、知的財産、環境問題、CSR（企業の社会的責任）など、ものづくり産業をめぐる今日的な題材に検討を加えます。

1年間を通じて、ものづくり産業に関する政策的な課題設定力と、自分なりの解決策を提案する力を持つことを到達目標としています。

講義の内容／
授業スケジュール

前期（1～3）工業の意義と役割

（4～6）工業の発展と工業政策の歩み

（7～9）産業構造とものづくり産業

（10～13）工業の立地問題

（14～15）ものづくり中小企業と政策

後期（16～19）ものづくり産業の業種別動向（自動車産業、繊維産業ほか）

（20～21）「ソフトなものづくり」産業（映画産業、アニメーション産業ほか）

（22～23）ものづくりを支える人材の確保・育成

（24～25）イノベーションと産学連携

（26）知的財産の創造・保護・活用

（27）創業・ベンチャー支援策

（28～29）工業振興と環境問題

（30）工業振興とCSR（企業の社会的責任）

準 備 学 習

事前学習としては、日ごろから新聞の経済・産業関連記事に接しておくことを望みます。事後学習としては、配布した資料とノートを再確認し、各週のテーマに対する自分なりの考え方をまとめておくことが重要です。

履修上の留意点
成績評価の方法

日頃からものづくり産業や企業に関心を持つことを望みます。

成績は学年末試験とレポートで評価します。試験が8割、レポートが2割のウェイトで評価します。試験およびレポートの内容については、講義に積極的に参加していた人が有利になるように配慮します。追試は行いません。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

特に指定しません。配布する資料によって講義を実施します。

加藤秀雄『地域中小企業と産業集積』（新評論）

なし

履修コード	096401
科目名	交通論
担当者名	金 兌奎 ^{きん ていけい}

講義の到達目標(わらい) 交通サービス及び交通産業の概念・特徴・分析アプローチなどについて具体的かつ体系的に理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

- ①交通論の概略：交通論を学ぶ目的、交通論の対象
- ②交通サービスの需要と供給の特性（2回）
- ③交通サービスへの規制（2回）
- ④運賃理論（2回）
- ⑤運賃政策（3回）
- ⑥交通投資の特徴（2回）
- ⑦前期のまとめ
- ⑧鉄道政策及び鉄道輸送事業の特徴（2回）
- ⑨国鉄の分割民営化、JR・民鉄の現状（2回）
- ⑩航空政策及び航空輸送事業の特徴（2回）
- ⑪航空輸送事業における規制緩和及びローコストキャリアの新規参入（2回）
- ⑫空港整備制度
- ⑬道路政策及び道路整備制度（2回）
- ⑭高速道路公団の民営化及び高速道路の無料化
- ⑮後期のまとめ

履修上の留意点

交通の様々な側面を正確に理解するためには、ミクロ経済の知識を必要とする。受講者は基礎的なミクロ経済学を理解していることが望まれる。

成績評価の方法

平常点（出席、レポートなど）と試験の成績による総合評価

教科書／テキスト

なし

参 考 書

藤井彌太郎・中条潮編『現代交通政策』東京大学出版会、1992年

山内弘隆・竹内健蔵『交通経済学』有斐閣アルマ、2002年

杉山雅洋他編著『明日の都市交通政策』成文堂、2003年

そ の 他

授業は、パワーポイントを使って進めるが、補助のプリントを配布する予定である。

履修コード	128101
科目名	国際関係論
担当者名	^{みよね} 三船 ^{えみ} 恵美

講義の到達目標(ねらい) 国際関係の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを本講義の目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

【前期】

- 第1回：国際関係を学ぶ視座
- 第2回：国際関係の分析手法
- 第3回：国益とパワー
- 第4回：日本の領域と国際関係（1）日本と韓国
- 第5回：日本の領域と国際関係（2）日本とロシア・中国
- 第6回：安全保障の概念と類型
- 第7回：勢力均衡とバンドワゴン
- 第8回：覇権安定論
- 第9回：日本人として戦争を考える：「ヒロシマ・ナガサキ」
- 第10回：リベラリズムの考え方
- 第11回：ネオ・リベラリズムの考え方
- 第12回：ゲーム理論と国際関係
- 第13回：コンストラクティヴィズム
- 第14回：前期総括
- 第15回：中間試験と講評

【後期】

- 第16回：人間の安全保障
- 第17回：南北問題と構造的暴力
- 第18回：人道的介入
- 第19回：中国の台頭と日米中関係
- 第20回：インドの台頭と米印中関係
- 第21回：A S E A Nと日米中関係
- 第22回：北朝鮮核問題と日米中関係
- 第23回：#16～22の復習クイズ
- 第24回：#16～22の復習クイズ解説
- 第25回：東アジア共同体の構想とその課題
- 第26回：難民保護とUNHCR
- 第27回：環境外交
- 第28回：地球環境レジーム
- 第29回：#25～28の復習クイズ
- 第30回：総括

準備学習
履修上の留意点

教科書を事前に読んできましょう。新聞の国際面を毎日読みましょう。
テストを欠席した場合にレポートは課しません。就活や部活で欠席した人を特別扱いません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。

成績評価の方法
教科書／テキスト

試験（前期30%＋後期70%）。
前期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論〔新版〕』有斐閣、2011年、2100円。
後期：天児慧・三船恵美編『膨張する中国の対外関係』2010年、勁草書房、3000円。

参 考 書

授業中に紹介します。

履修コード	091202
科目名	国際経済論
担当者名	とくなが としあき 徳永 俊明

講義の到達目標(ねらい)	世界経済は、今日、世界社会・日本社会のあり方の<土台>をなしているものです。世界の姿・日本の姿を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の<基本構造>の解明をめざします。
講義の内容／ 授業スケジュール	[前期] (1・2) 講義のテーマ・趣旨の説明、(3・4) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制、(5・6) 産業革命と自由貿易植民地体制、(7) 小括、(8・9) 帝国主義植民地体制、(10・11) 第1次世界大戦と世界経済、(12・13) 戦間期の世界経済、(14) 小括、(15) 予備日 [後期] (1・2) 第2次世界大戦と世界経済、(3・4) 「アメリカ中心体制」、(5) 貿易：GATT/WTO、(6) 国際通貨制度：IMF、(7・8) 「援助」、(9・10) 多国籍企業、(11) 小括、(12・13) <南北問題>、(14) 新国際経済秩序、(15) 小括
成績評価の方法	ミニ・レポート(2回予定、各20点)と学年末レポート(60点)で評価します。世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度を重視します。(追試験は行いません)
教科書／テキスト	とくにありません。

履修コード	126601
科目名	国際政治学
担当者名	三船 ^{みつね} 恵美 ^{みづみ}

講義の到達目標(ねらい) 本講義の履修対象者が1学年以上であることから、国際政治学の「基本的な概念」の修得を前期の到達目標とします。後期は具体的な事例研究で現代国際政治を分析する力を養いましょう。

講義の内容/
授業スケジュール

【前期】

- 第1回：国際政治学を学ぶ
- 第2回：国際政治のあゆみ（1）主権国家の誕生～ナショナリズムと帝国主義の時代
- 第3回：国際政治のあゆみ（2）WWⅠ～WWⅡ
- 第4回：国際政治のあゆみ（3）冷戦～ポスト冷戦
- 第5回：国際政治の見方（1）パワーと国益、対立と協調
- 第6回：国際政治の見方（2）支配と従属、規範と制度
- 第7回：国際政治の見方（3）安全保障
- 第8回：国際政治の見方（4）国際政治経済、国際政治における文化
- 第9回：国際政治のしくみ（1）政治体制
- 第10回：国際政治のしくみ（2）対外政策決定過程
- 第11回：国際政治のしくみ（3）外交交渉
- 第12回：国際政治のしくみ（4）国連の役割
- 第13回：国際政治のしくみ（5）地域主義
- 第14回：国際政治のしくみ（6）脱国家的主体
- 第15回：前期総括

【後期】

- 第1回：核
- 第2回：新しい戦争
- 第3回：人権と民主主義
- 第4回：国連PKO、人道的介入、平和構築
- 第5回：グローバリゼーション
- 第6回：開発援助
- 第7回：地球環境問題
- 第8回：日米同盟の国際政治
- 第9回：日米中の国際政治
- 第10回：インドと日米中
- 第11回：南アジアの国際政治
- 第12回：ASEANと日米中
- 第13回：朝鮮半島と六者協議
- 第14回：朝鮮半島の国際政治
- 第15回：総括

準備学習
履修上の留意点

毎日、新聞の国際面を読みましょう。

テストを欠席した場合にレポートは課しません。就活や部活で欠席した人を特別扱いしません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

定期試験（100%）

【前期】村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009年、2310円

【後期】天兒慧・三船恵美編『膨張する中国の対外関係』2010年、勁草書房、3000円。

参考書

授業中に紹介します。

履修コード	116601
科目名	国際紛争解決法
担当者名	王 志安 <small>おう しあん</small>

講義の到達目標(ねらい)

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界および適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能および事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決および世界貿易機構(WTO)の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査および調停といった制度の展開および適用、国連における紛争処理の制度的展開および現状、そしてWTOの紛争処理制度の発展、手続きおよび制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判および国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立およびその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

具体的に以下のような講義要綱を実施する。

前期

- 1 授業ガイダンス
- 2 国際法上の違法行為
- 3 国際紛争と平和的解決
- 4 外交的解決手段
- 5 国連による紛争の平和的解決
- 6 国際紛争と強制的解決
- 7 集団的安全保障
- 8 国連の平和維持
- 9 国連の強制型平和維持活動
- 10 地域的機構による集団的安全保障
- 11 軍縮法と国際平和
- 12 国際人道法の地位
- 13 武力紛争と人道法の適用
- 14 国際刑事裁判所
- 15 前期復習・テスト

後期

- 1 国際裁判
- 2 仲裁裁判
- 3 GATTそしてWTOと国際貿易紛争
- 4 WTOにおける小委員会の紛争解決の手続き
- 5 WTO判例研究
- 6 国際紛争の司法的解決
- 7 国際司法裁判所の管轄権
- 8 国際司法裁判所の裁判手続
- 9 国際司法裁判所の勧告的意見
- 10 国際司法裁判所の裁判基準及び判決の執行
- 11 国際海洋法裁判所
- 12 欧州裁判所
- 13 国際秩序と国際裁判
- 14 まとめ・復習

準備学習

授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。聴講ノートをしっかりとして取ってもらいたい。

成績評価の方法

power pointで講義を進める。簡潔な聴講ノートは、YeStudyから入手できる。

学年末の筆記試験によって評価する。ただし、前期小テストや出席状況も成績を評価する際に考慮される。

教科書／テキスト

家正治など 共著 『国際紛争と国際法』(嵯峨野書院、2008年)

参 考 書

大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版(下)(東信堂)2002年 2,000円

そ の 他

市販されている国際条約集および国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。授業はPower Pointを使って講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることもある。

履修コード	128001
科目名	国際法
担当者名	橋本 靖明 <small>はしもと やすあき</small>

講義の到達目標(ねらい)

私達は今、国際社会の中で生きています。国際社会の動きとその行動を規律する法体系である国際法を無視しては、世界のさまざまな構成員間の関係を良好に保ち、維持することができません。本講義では、国際社会の現状と展望を概観しつつ、その社会を規律している国際法とは何なのか、皆さんと共に学んでゆきます。

講義の内容／授業スケジュール

大きく、以下の三つのパートに分けて進めてゆきます。

- ①国際法の全体像をを概観する。(2～5)
- ②領域(陸域、海洋、空域、宇宙空間、サイバー空間)に関する国際法を考える。(6～25)
- ③領域を越えるさまざまな今日の問題(人権、環境、テロ、安全保障等)に関する国際法を考える。(26～30)

準備学習

新聞、テレビ、雑誌、インターネット等で報道される国際情勢に留意し、その法的背景を意識的に探ってみてください。

履修上の留意点

特別な予習を必要としませんが、その分、授業への出席を求めます。出席を取ることがあり、成績評価に反映されます。

成績評価の方法

受講生の出席状況と、最終講義において実施する筆記試験の回答内容から総合的に成績評価を行います。

教科書／テキスト

編者：松井 芳郎(編集代表)
書名：『ベーシック条約集』2011年版
出版社：東信堂
価格：2730円(税込み：2010年版参考)
ISBN：978-4-88713-975-6(2010年版参考)

参考書

特に指定しません。

履修コード	133701
科目名	国家安全保障論
担当者名	山下 愛仁 <small>やました あいのと</small>

講義の到達目標(ねらい)

「国家安全保障」については、「国家は生存し続けなければならない」という価値判断を自明なものとして論じられる傾向がある。しかしながら、かかる価値判断を自明なものとして捉えてよいのであろうか。例えばアナーキズムのような政治思想と国家安全保障なる観念は両立し得るのか、という疑問も生じ得るのである。

本講は、このような問題意識の下、「国家の存在(実在)」を自明なものとし、国家とは如何なる存在であるのか(国家の存在論)、不可視な存在である国家は如何にして認識し得るのか(国家の認識論)、という国家をめぐる課題の解明を重視し、検討を進める。

「国家をめぐる課題の解明」を軸に、「国家安全保障の論理構造」を理解することが、講義のねらいである。

講義の内容／授業スケジュール

第1回 講義の全般説明
第2回 国家安全保障の概念
第3回 国家安全保障に関する諸見解と問題の所在
第4～5回 国家安全保障論の性格(方法論の観点から)
第6～10回 国家の存在論と認識論(国民、民族等の概念、国家と憲法の間を中心とした国家学説の検討等)
第11～13回 国家構造の日米比較
第14～15回 国際政治の基調と国家安全保障の理念
第16～20回 国家安全保障の手段(戦略理論にも言及予定)
第21～25回 国家安全保障をめぐる各国の状況(機構及び政策等)
第26～28回 国家安全保障をめぐる日本の状況(機構及び政策等)
第29回 国家安全保障の課題
第30回 まとめ

準備学習

講義の性格上、認識と価値判断(評価)の区別に留意する必要があるため、さしあたり、マックス・ウェーバー『職業としての学問』(岩波文庫)を読んでおくこと。

履修上の留意点

指示された文献を読破する意欲、毎回丁寧にノートを取ることが求められる。

成績評価の方法

平常点、レポート、定期試験をもって総合的に評価する。

教科書／テキスト

指定しない。

参考書

講義中、適宜指示する。

履修コード	119001
科目名	財政学
担当者名	<small>つからと まさふみ</small> 塚本 正文

講義の到達目標(ねらい)	私たちは、様々なサービスなどを国や地方自治体から受け、反対に租税を納めている。これだけ身近な問題でありながら、その仕組みは複雑で専門用語だらけのように見える。そこで、私たちはなぜ租税を納めなければならないのか、納めた租税はどのように用途が決定されるのか、どのような租税があるのか、おさめた租税は何に使われているのかなど生活に密着した話題をテーマに、財政の仕組みや問題点を学び、税や政府について理解を深めることを目的として講義を行う。
講義の内容／授業スケジュール	(第1～2回目) 財政の枠組みとはどういうものなのか、(第3～4回目) 政府のお金の使い道はどの様に決まるのか～予算について～、(第5～7回目) 政府が集めたお金は何に使っているのか～政府支出について～、(第8～11回目) 政府はどの様にお金を集めているのか～租税について～、(第12～14回目) 政府の借金とは何か～公債について～、(第15回目) 前期の総括、(第16～18回目) まちと財政問題～地方財政について～、(第19回目) 財政のもつ機能について、(第20～22回目) 資源配分～財政の機能I～、(第23～25回目) 所得再分配～財政の機能II～、(第26～28回目) 景気政策～財政の機能III～、(第29回目) 地球環境と財政、(第30回目) 後期の総括
履修上の留意点	できるだけ指定した教科書に沿ってすすめるので、当日の講義内容を予め読んでおくこと。また、日頃から新聞の政治および経済欄を読んでおくこと。
成績評価の方法	学期末試験の結果をもとに成績を決定する。ただし、授業時に指示する提出物(レポート)の提出状況も考慮に入れる。
教科書／テキスト	八巻節夫編著(2011)『新財政学』文真堂.を教科書とするが、詳しくは初回授業時に説明することにする。

履修コード	133651
科目名	時事英語講座
担当者名	<small>よこやま しげる</small> 横山 滋

講義の到達目標(ねらい)	英語の新聞に親しみ、英語で書かれた時事問題の記述を読み解くための基礎的な知識と技能の習得を目指します。
講義の内容／授業スケジュール	読売新聞社発行の英字新聞、The Daily Yomiuriに掲載された各種の記事を読みながら、新聞記事における見出し、リード、本文などの構造とそれらについての約束ごとなどを、具体的に学んでゆきます。
履修上の留意点	原則として、予め定められた記事について予習をしてもらい、次の授業で発表された解釈に検討を加えながら勉強をしてゆきます。語学は意欲を持って自分から取り組まなければ、身につきません。やる気とねばり強さを持った諸君の参加を期待します。
成績評価の方法	主として学期末に行う試験によりますが、日常の活動状況も考慮に入れます。
教科書／テキスト	上記のThe Daily Yomiuri紙を用います。
その他の	この科目は、読売新聞社の寄付講座であるため、受講には、教材のThe Daily Yomiuri紙を3ヶ月間、特別割引価格で定期購読することが求められています。

履修コード	133681
科目名	実務者講座
担当者名	田丸 大 <small>たまる だい</small>

講義の到達目標(ねらい)

政治学科あるいは法学部で扱う内容に関連した仕事をしている外部の実務者をゲストに招き講義をしてもらい、実務についての理解を深めてもらうことがねらいである。講義や演習などで触れる「政治」や「法律」が現実の世の中とどのように関わっているのか、どのように動いているのかといった点について、現場に携わっている実務者の話を伺うことは、大学での自らの学びを総括し、また将来の進路や、自身と社会との接点を考える上で有意義と考える。

ゲストに招く実務者は、公務員、地方議員、シンクタンク職員、民間企業の方などを予定しているが、担当教官の専門(行政学)からして、行政や政策に関連したゲストが多くなる点を了解してもらいたい。

駒澤の政治学科出身のゲストも招きたいと思う。自分たちの先輩の姿をとおして、実務をより一層リアルに感じる機会となることを願っている。

仕事は夢や希望にあふれたものではあるが、他方で、社会人になると職場では、必ずしも自分の思うようには物事が進まなかつたり我慢しなければならぬことも増えて来るが、そのような点についても意識を高めて欲しいと思う。

講義の内容/
授業スケジュール

ガイダンス・履修にあたっての注意事項(1)、担当教員による若干の講義(2~3)、実務者による講義(4~15)。その間に、複数回の授業内でのレポート作成を予定している。ゲストに招く具体的な実務者については、開講時に示す予定であるが、現在のところ、例えば、区議会議員、地方公務員(都庁職員、県庁職員、市役所職員など)、国家公務員、法曹関係者、NPO関係者、民間企業などを考えている。

履修上の留意点

双方向の議論となって招いた実務者の方々も楽しむことができるよう、授業中の質問や感想・意見などの発言を歓迎します。それをきっかけとして、思いがけなく興味深い話が聞けることもあると思うので。

成績評価の方法

平常点および授業内さらに授業時間外で作成するレポートによる。学年末試験は行わない。履修者の人数にもよるので、初回講義で、詳細を決めます。

教科書/テキスト
その他の

特に使用しない。
①スケジュール調整の都合上、割り当てられた曜日・時間帯以外に行われる可能性もあること、②仕事の都合による突然のキャンセルもありうることを了解してください。①の場合にはプラスアルファの出席点を、②の場合には視聴覚教材などを用いての講義を考えている。

履修コード	133901
科目名	社会学原理
担当者名	呉 炳三 <small>お びょうさん</small>

講義の到達目標(ねらい)

社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす社会問題を分析する手法として、社会学の基礎的な概念や理論の使い方を学ぶこと。またはその身近な社会問題を認識、理解することを通じて、現代社会を展望する視点を養ってもらうことを本講義の目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

前期は以下の内容について、社会学の方法や理論を中心に講義を行う。
(1)はじめに、(2)社会学とは、(3~4)個人と社会(社会的行為、社会化と人間形成、パーソナリティ・社会的自我)、(5~6)現代家族論(配偶者選択、結婚、家族の構造と機能、家族の現代的課題)、(7~8)組織論、官僚制(専門職)、(9~10)職業、労働(職場や人間関係、就職・転職・リストラ、フリーター・ニート)、(11~12)若者の犯罪(ラベリング理論、加害者と被害者の関係、犯罪の原因)、(13~14)自殺と社会(自殺の歴史、自殺の背景、自殺の最近の情報)、(15)社会階層など

後期は、受講生の関心テーマについての発表や班ごとにディベートを行う。前年度や前々年度のディベートや発表の主な内容は以下である。

(1)教員免許更新制度、(2)若者文化、(3)少年法改正、(4)出会系サイト、(5)自殺といじめ、(6)家族の変容、(7)高齢者や児童虐待、(8)格差社会、ワーキングプア、(9)草食男子・肉食女子、(10)婚活・恋活、(11)新聞や書籍の電子化、(12)代理出産、(13)小学生や中学生の携帯電話に於いてのインターネット利用、(14)児童手当など

成績評価の方法

以上、講義を予定しているが、受講生の人数などによって、講義内容を変更することがある。出席状況(遅刻厳禁)、発表やディベートの内容と授業態度、簡単なレポートなどを総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。

教科書/テキスト
参 考 書

特に指定しない。
講義中に、その都度紹介する。

履修コード	119201
科目名	社会政策
担当者名	原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)	社会政策という学問領域は、経済学のみならず、社会学、法学、政治学、哲学、歴史学など様々なアプローチによって分析される。学際的な研究領域としての社会政策に対して、法政策(学)の視点からの接近を試みるにより、巷にあふれる政策への根拠なき直感的な批判に惑わされることなく、体系的かつ理論的に社会政策の課題を考察する力を養うことを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1～2回：日本社会の現状、第3～4回：社会政策の考え方、第5～8回：家族政策・子育て支援、第9～12回：医療政策、第13～15回：雇用関係と雇用形態の多様化、第16～17回：労働時間・賃金、第18～19回：労働安全衛生、第20～22回：雇用政策と最低生活保障、第23～24回：住宅政策、第25～27回：公的年金、第28～30回：介護政策
履修上の留意点	社会政策は雇用問題や社会保障・福祉問題と密接な関係があるため、「労働法」、「社会保障法」を履修することにより、社会政策の対象とする問題群に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	学期末試験によるものとする。 教科書は開講時に指定する。 適宜紹介する。

履修コード	116301
科目名	社会保障法
担当者名	原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)	社会保障法の各分野の基本的な体系、法主体間の権利義務関係及び法解釈上の論点を学習することにより、社会保障に関する法制度を正確に理解し、どこに課題があり、どのような解決が望ましいかを考察する力を養うことを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール 履修上の留意点	第1～3回社会保障の法体系・保障方法、第4～20回社会保険法(医療・年金・介護・労災・雇用)、第21～25回社会福祉法、第26～30回公的扶助法 社会保障に関する法政策上の課題については、同担当教員の科目「社会政策」で取り扱うので、同時に履修することが望ましい。「社会保障法」と「社会政策」の両科目を履修することにより、社会保障に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	学期末試験による。 教科書は開講時に指定する。受講にあたっては、指定教科書のほかに下記の法令集を毎回持参すること。 ・労働調査会出版局(編)『社会保障法令便覧 2011』(労働調査会、2011年) ・西村健一郎・岩村正彦(編)『社会保障判例百選〔第4版〕』(有斐閣、2008年) その他の文献は適宜指示する。

履修コード	091701
科目名	商業政策
担当者名	番場 博之

講義の到達目標(ねらい)	経済活動としての流通活動は、単なる競争ではなくルールにもとづく競争である。そして、このような流通や商業に関わる方針やルール(公共政策)のことを流通政策・商業政策という。本講義では、流通および商業に関わるルールが必要とされた流通問題・商業問題に言及しながら、流通・商業政策の必要性や体系およびその運用について講義する。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) 流通・商業問題と流通・商業政策の考え方 (2～5) 流通・商業の基礎知識 (6～9) 流通・商業政策の枠組み (10～15) 競争政策 (16～21) 振興政策と調整政策 (22～27) まちづくり政策 (28～30) 海外における商業に関わる政策
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	詳細かつ正確なシラバスは開講時に配布する 定期試験によって評価する。ただし、若干の平常点等を加味することもある。 加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸編『現代流通入門』有斐閣 978-4-641-18351-3 渡辺達朗『流通政策入門 第2版』中央経済社、2007年。 岩下弘『イギリスと日本の流通政策』大月書店、2007年。 番場博之『零細小売業の存立構造研究』白桃書房、2003年。

履修コード	130101
科目名	数量政治学
担当者名	とみき たかし 富崎 隆

講義の到達目標(ねらい)

「数字」と聞くだけで怖がる学生諸君も多いかもしれませんが、数量的手法は今日の政治学において大変重要かつ不可欠の分析ツールとなっています。本講義では、数量的政治的分析が政治学全般にその適用範囲を広げてきたことに注目し、それを「マクロ政治学」「ミクロ政治学」「国際政治学」に分けて議論し、それが政治的現実をどのように明らかにしたか、またその可能性をもつかについて検討します。本講義を受講する際、特別な数学素養は必要ありません。政治現象を論理一貫した形で「説明」し、政治現象が「そうである」ことを実証することの面白さと難しさを追体験し、理解することによって、受講生自らが政治を分析し、理解することへ進む足がかりを提供することが本講義の主要な目的です。

講義の内容／
授業スケジュール

(1～4) 講義のねらいと数量的政治分析の基礎
 (5～15) 「マクロ政治学(国家と自由民主主義体制のマクロ動態解明)」における数量分析
 政治・権力・国家の意味
 政治思想と数理政治学
 近現代国家システムの展開
 自由民主主義体制の意味と民主化の展開
 自由民主主義体制比較の枠組み
 政治と経済のマクロ的連動関係
 (16～26) 「ミクロ政治学(自由民主主義体制の作動メカニズム解明)」における数量分析
 執政部と政権形成
 政党と政党制
 有権者の投票行動と選挙
 議会立法過程
 官僚制と政策決定
 利益集団
 マスメディアと政治意識
 中央地方関係
 民主制メカニズムと数理・計量分析
 (27～30) 「国際政治学」における数量分析
 国際政治の意味
 国際政治の主要理論潮流
 戦争・紛争・テロリズムの数量分析

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

テスト及びレポート・出席などを総合的に評価
特に指定しない

河野勝『制度』東京大学出版会 2940円 ISBN-10: 4130341421
 D.ウィットマン『デモクラシーの経済学』東洋経済新報社 3465円 ISBN-10: 4492313133
 小林良彰編『叢書・社会科学の理論とモデル(全II巻)』東京大学出版会
 増山幹高他『計量政治分析入門』東京大学出版会 2520円 ISBN-10: 4130322095
 河野勝他『社会科学の実験アプローチ』勁草書房 3150円 ISBN-10: 4326502924

履修コード	127701
科目名	政策決定論
担当者名	<small>いのうえ たくや</small> 井上 拓也

講義の到達目標(わらい)

政策科学は、公共政策を対象とする学際的な学問分野であり、社会科学の様々な分野から成り立っている。そこでこの講義では、公共政策と政策決定の問題を、政治学、中でもとくに政治制度論、政治過程論、行政学の知識を応用しながら検討していく。

講義の内容としては、まず「公共政策と政策決定」で、公共政策の意味や類型を確認した後に、政策過程における決定の在り方を検討する。「政策決定の制度」では、政治体制、議会、執政部、裁判所における政策決定に関する側面を概観する。「政策決定の主体」では、政治家、官僚制、政党、利益団体の政策決定に関する側面を概観する。「地方政府の政策決定」では、地方制度を概観した後に、条例・規則や総合計画について検討する。「行政・政策・ガバナンス」では、ガバメント(統治)からガバナンス(協治)への変化を背景に、行政理論と新公共経営論(NPM)の流れを概観する。「ガバナンスと法人制度」では、ガバナンスの主体としての各種の法人、および現在の公益法人制度改革について概観する。

講義の内容／授業スケジュール

(1) 前期序論 (2~5) 公共政策と政策決定①②③④ (6~9) 政策決定の機構①②③④ (10~13) 政策決定の主体①②③④ (14) 前期結論 (15) 前期試験 (16) 後期序論 (17~20) 地方政府の政策決定①②③④ (21~24) ガバナンスと法人制度①②③④

(25~28) 政策決定のモデル①②③④ (29) 後期結論 (30) 後期試験

準備学習履修上の留意点

政治制度論、政治過程論、行政学の基礎知識を学習済みであることが望ましい。

あらゆる社会科学の対象と同様に、公共政策や政策決定も多面的な視点から検討することが重要である。したがって受講者には、教員による説明以外にどのような説明が成立しうるかを意識しながら講義に臨んでほしい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書
その他の

前期試験50% + 後期試験50% = 100%。

とくに指定しない。レジュメを配布する。

とくに指定しない。

必要に応じてパワーポイントを利用する。

履修コード	125901
科目名	政治学概論
担当者名	<small>うらた さなえ ほのかわ よしき</small> 浦田 早苗・早川 純貴

講義の到達目標(わらい)

本講義は3コース(=専門課程)に向けて最初のステップとして、各コースの基本的知識を習得し、各自の政治に対する問題関心を養っていくために設けられている。専門用語や理論の講義に際しては、できるだけ具体的事例に即して説明していきたい。

講義の内容／授業スケジュール

【前期】(早川)

①行動論政治学とDNモデル(2回)

②権力と影響力(4回)

③権力多元論とエリート論(4回)

④福祉国家論(4回)

【後期】(浦田)

①日本の政治システム(3回)

②政治と経済(3回)

③日本社会の特異性(2回)

④自由・権利・公共(2回)

⑤第二次大戦後の国際政治(2回)

⑥西欧の政治制度(2回)

履修上の留意点

政治学は権力の形成・行使・監視にかかわる事象を扱う科学であり、権力は悪魔的魅力を有する存在でもある。権力への評価は常に価値の対立を内在する。つまり政治学とはさまざまな価値が交錯する学問であり、薄っぺらな理想論者ではなく、冷徹な現実主義者が学ぶ学問でもある。

成績評価の方法
教科書／テキスト

前後期に試験(各50点)を実施する。その合計点で成績評価を行う。

前期は、早川、他『政策過程論』2004年(学陽書房)、2,600円。

後期は使用しない。

参考書

参考文献については講義の中で随時紹介する。

履修コード	126011
科目名	政治学概論
担当者名	中野 ^{なかの} 裕二・三竹 ^{みだけ} 直哉 ^{なおや}

講義の到達目標(ねらい)

本講義は3コース(=専門課程)に向けて最初のステップとして、各コースの基本的知識を習得し、各自の政治に対する問題関心を養っていくために設けられている。専門用語や理論の講義に際しては、できるだけ具体的事例に即して説明していきたい。

講義の内容/
授業スケジュール

【前期】

YeStudyの利用を前提とします。

政治学科での勉強に興味や問題意識をもつきっかけを提供します。視野を広げるために、特に海外に関連する事柄を多く取りあげます。

政治学科の学生として必要になる新聞を読む習慣を作ります。コミュニケーション能力を高めるため、グループ活動等を多く行います。映像教材を多く使用する予定です。ただし、教場の条件、参加者の人数や「やる気」などによって、授業のやり方は変わってきます。

授業内容や予定は日本の政治状況や世界情勢の変化を反映させますし、参加学生の状況によっても臨機応変に対応しますので、下記は2010年度の授業実施状況にもとづいた、あくまで参考のスケジュールです。2011年度は新聞を読む習慣を作りをより徹底して行う予定です。第2回から第4回までの授業で不十分と判断すれば、「新聞を読みましょう」の内容でその後も授業を続けていくこととなり、他のトピックは取りあげないこととなります。

- 第1回 授業案内
 - 第2回 新聞を読みましょう その1: オリジナルなスクラップを作ってみよう
 - 第3回 新聞を読みましょう その2: 日本の政治について読みましょう
 - 第4回 新聞を読みましょう その3: 国際面を読みましょう
 - 第5回 世の中をよくするには その1: 社会的起業
 - 第6回 世の中をよくするには その2: 自由貿易とフェアトレード
 - 第7回 自由、平等、民主主義のために闘うこと: 南アフリカ ネルソン・マンデラ
 - 第8回 自由、平等、民主主義のために闘うこと その2: ビルマ (ミャンマー)
 - 第9回 世界に目を向ける その1 経済格差を縮める方法
 - 第10回 日本の近隣諸国との関係について学ぶ
 - 第11回 沖縄とアイヌ民族
 - 第12回 期末試験対策: あなたが作る期末試験
 - 第13回 国を開く その1: グローバル化の意味
 - 第14回 国を開く その2: 多文化共生の教育
 - 第15回 境界線の政治学 開かれていることと境界線で区切られていること
- 前期末テスト

【後期】

指定したテキストの内容にそって、政治学の全体を概観する。以下のスケジュールはあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて予定は変更されることもあります。

- 第1回 後期授業案内
- 第2回 序 政治学を勉強してみませんか (政治の定義、政治を科学するとは)
- 第3回 1. えっ!! 投票するの? 誰に投票するの? (投票行動論)
- 第4回 1. の補論 (日本の選挙制度)
- 第5回 2. テレビが政治をつくる? (マスメディアと政治意識)
- 第6回 3. 政治家ってどんな人? (政治活動、政治家の資質)
- 第7回 4. 思想と理念の絡み合い (55年体制、政党構造)
- 第8回 5. 官僚ってどんな人? (官僚制)
- 第9回 6. 変わる「コネ」社会 日本 (利益団体)
- 第10回 7. 政策のつくられ方 (政策過程)
- 第11回 8. 目立たない最高権力者 (首相のリーダーシップ)
- 第12回 9. 自立の気概 (地方自治)
- 第13回 10. 世界はどこへ行く? (国際政治)
- 第14回 11. グローバリゼーションと地域主義 (国際政治経済学)
- 第15回 12. 21世紀の試練 (政治改革、構造改革)

準備学習

【前期】

一週間の新聞を読んだうえで授業にのぞむこと。経済ニュースや海外についてのニュースに積極的に触れること。中学校社会科の内容について、各自で計画的に復習・学習すること。

【後期】

指定された教科書の各章を事前に読み、理解できない語句や内容をメモしておくこと。

履修上の留意点

- ・前後期を通じてきちんと出席すること。
- ・出された課題は必ずやること。
- ・新聞を読むこと。

成績評価の方法

前期は、課題をやらずに教室に来た場合、グループ活動に参加できません。また、平常点も取ることができません。必ずやったうえで教室に来ること。また、YeStudyを必ず使う必要があります。授業の最新情報はYeStudyで確認してください。

前期と後期の得点を、前期50%後期50%の割合で合計して素点とします。

【前期】

前期末に授業時間内に行う期末テストよりも。期末テストの出題範囲には、授業内容の他に、新聞を読んでいれば身につく常識、中学校社会科程度の常識が含まれます。授業準備や課題をきちんとやり、グループ活動をはじめとする授業内活動に積極的に取り組み、提出物を出すことなどで、平常点を取ることができます。ただし、平常点は一定の条件を満たす場合にのみ素点にカウントします。

【後期】

後期についての学生に期待される到達レベルは以下の通りです。

- ①日本の政治の制度について概要が説明できること。
- ②政治学の主要な概念や理論を教科書の説明に即して説明できること。
- ③政治に対する自分なりの意見を説得的に述べるができること。

以上の到達レベルに達しているかどうかを、定期試験期間中の試験、授業時間中に実施するミニテスト、小テストなどを通して判断します。授業時間中の発言、意見質問用紙の提出も評価します。

教科書／テキスト

【前期】

中学校の社会科教科書（公民、歴史、地理）、および、新聞。中学校教科書はどこのものでもよい。中学校教科書は期末テストまでに自ら復習しておくこと。新聞はいわゆる五大紙と東京新聞のいずれかひとつの朝刊を毎回必ず持参。

【後期】

教科書を使用する。伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め（第3版）』（有斐閣）2009年。

履修コード	126001
科目名	政治学概論
担当者名	早川 純貴・浦田 早苗

講義の到達目標(ねらい)

本講義は3コース(=専門課程)に向けて最初のステップとして、各コースの基本的知識を習得し、各自の政治に対する問題関心を養っていくために設けられている。専門用語や理論の講義に際しては、できるだけ具体的事例に即して説明していきたい。

講義の内容/
授業スケジュール

- 【前期】(浦田)
- ①日本の政治システム(3回)
 - ②政治と経済(3回)
 - ③日本社会の特異性(2回)
 - ④自由・権利・公共(2回)
 - ⑤第二次大戦後の国際政治(2回)
 - ⑥西欧の政治制度(2回)

- 【後期】(早川)
- ①行動論政治学とDNモデル(2回)
 - ②権力と影響力(3回)
 - ③権力多元論とエリート論(3回)
 - ④福祉国家論(6回)

準備学習

少なくとも常日頃新聞(政治・経済面)を読んでおくこと。授業の後は必ず自分がとったノートを読み返し、疑問点は自分で調べるなり、次の授業時に質問すること。

履修上の留意点

政治学は権力の形成・行使・監視にかかわる事象を扱う科学であり、権力は悪魔的魅力を有する存在でもある。権力への評価は常に価値の対立を内在する。つまり政治学とはさまざまな価値が交錯する学問であり、薄っぺらな理想論者ではなく、冷徹な現実主義者が学ぶ学問でもある。

成績評価の方法
教科書/テキスト

前後期に試験(各50点)を実施する。その合計点で成績評価を行う。
前期は使用しない。

参 考 書

後期は、早川、他『政策過程論』2004年(学陽書房)、2,600円。
参考文献については講義の中で随時紹介する。

履修コード	126201
科目名	政治学原論
担当者名	おほつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)

I自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

III講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A政治学の課題と対象、ならびに方法(1)

B政治の原理的究明

(1) 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

(2) 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

(3) イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2～15)

C政治の実体論的究明

(1) 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制(16～22)

(2) 機能論的究明

～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化(23～30)

成績評価の方法

V成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は、

中間試験：50%

学年末試験：50%

以上の割合によるものとします。教科書、授業の理解度を重視し採点します。

なお、追試験も実施します。

教科書/テキスト

大塚桂『政治学原論序説』(勁草書房)3,296円

大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社)2,900円

参 考 書

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

そ の 他

学習にあたっては、大塚編「補章オリエンテーション政治学」『政治学へのいざない』(成文堂)、大塚編『日本の政治学』(法律文化社)等を参考にしてください。

履修コード	134101
科目名	政治学特殊講義（1）
担当者名	浦田 早苗

講義の到達目標(ねらい)	これからの日本の政治、経済、社会を考える上で重要と思われる論点を取り上げ、討議することによって各自の問題意識を高めていきたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	日本の政治システム 日本経済の今後 結果の平等・機会の平等 民主主義の限界 日米外交 アジア外交 日本の安全保障 格差社会 行政改革 危機管理 地域の再生 犯罪被害等に関する記事、小論を毎時間2～3取り上げ議論を行う。
準備学習	週間ニュース(その週で興味を持ったニュース)を毎時間A4用紙2枚にまとめて提出すること。
履修上の留意点	毎回出される課題について調べ、自分の意見をまとめ、発言することが求められる。
成績評価の方法	授業での発言内容を評価する。

履修コード	134201
科目名	政治学特殊講義（2）
担当者名	山崎 望

講義の到達目標(ねらい)	近代以降の政治は、主に主権国家の間の秩序が問題となる「国際政治」と、主権国家内部の秩序が問題となる「国内政治」とに分かれて論じられてきました。しかし国境を越えて人、モノ、資本、情報、文化など展開するグローバル化により、国内政治と国際政治の境界線は以前ほど明確なものではなくなりつつあります。一方ではEUやイスラム圏などの巨大な地域主義が台頭し、世界レベルでも安全保障や貧困、環境への取り組み仕組みも作られるなど、国境を越えた緊密なネットワークが張り巡らされ、国境を越えた協力と衝突が起きています。テロをめぐる問題やリーマンショックは国境の向こうの「他人事」ではありません。逆に国内では格差などの分裂が、国境よりも高い壁となって立ちだかっています。
講義の内容／ 授業スケジュール	「国内政治／国際政治」といった境界線が融解することによって、いかなるリスクと可能性が出てきたのか、そしていかにそれらに対処していか、を受講者と共に考えます。最終的には講義の終りまで本講義のテーマに関連する問題意識をもってもらい、小論文の作成をしてもらいます。 (第1回) 国民国家論 (第2・3回) 同化主義1・2 (第4・5回) 多文化主義1・2 (第6・7回) 地域主義論 (EUとアジア共同体構想) (第7・8回) グローバル・ガバナンス論1・2 (第9・10回) 人道的介入とグローバル・テロリズム (第11回) 暴力に抗して (第12回) 論文の書き方 (第13・14・15回) 個人研究報告
履修上の留意点	極めて専門性の高い、いわば「現代政治理論の最前線」ともいうべき講義となりますので、当該問題に強い関心を持ち、難解な専門書を読み(場合によっては英語を含む)、頻繁にレポートの提出や研究報告をする意思と高度な能力を持っていることが求められます。担当者(山崎)の「現代政治理論」の単位を取得済みである事が強く望まれます。また担当者による「演習」との関連が強いテーマなので、当該科目の受講生は単位登録することを強く勧めます。
成績評価の方法	レポート・小論文提出と平常点(議論への参加など)。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	講義の進行に応じて、適宜指定します。
その他	少人数の受講生によるハイレベルな講義を想定しています。講義のテーマと関連した個人研究報告の機会なども設ける予定です。

履修コード	134301
科目名	政治学特殊講義（3）
担当者名	早川 純貴

講義の到達目標(ねらい)	本講義では日本の労働政治の変遷を辿り、労働勢力の政治的役割、とりわけ「公労協」運動が日本労働運動史に残した意義と限界について論じていきたい。さらに、労働者を守る立場の労組の力が、他の先進諸国と比べ、日本が著しく弱い原因をも考えてみたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	①利益団体の概念、および戦後労働運動の概要——権力資源論の視点から(3回)、②公労協の特色と社会党(2回)、③75年スト権ストをめぐる公労協と自民党(3回)、④国労の分裂(2回)、⑤全通の路線転換(2回)、⑥総評の崩壊と連合への合流——労働戦線統一に向けて(2回)
準備学習	日常的に新聞の政治・経済面をよく読んでおくこと。また授業後は必ずノートを読み返し、疑問点は自分で調べるなり、次の授業時に質問すること。
履修上の留意点	講義では労働組合運動の解説のみならず、自民党や(旧)社会党にも言及する。日本の現代政治を労働勢力と政府・自民党との対立と妥協の視点から論じることになるが、労働政治に関心のある学生の聴講を歓迎する。
成績評価の方法	定期試験により評価する。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	講義の中で随時紹介する。

履修コード	134401
科目名	政治学特殊講義（4）
担当者名	内海 麻利 <small>うちうみ まり</small>

講義の到達目標(ねらい)	近年、社会情勢の変化のなかで、住民参加や市民活動が注目されている。特に前者は政策形成プロセスにおける参加を意味することが多く、これは、行政機関が執行する「公共性」と市民が望む「公共性」の乖離を埋めるものであると考えられる。他方、後者はNPO等による公益活動の展開により地域社会が担う「新しい公共」として顕在化してきている。本講義では、住民参加や市民活動を、都市政策やまちづくりの事例を通じて「公共性」の観点から実践に即した手法を用いて（ワークショップ手法等を用いて）議論、考察、発表することで、実践的かつ理論的に探究する。
講義の内容／授業スケジュール	講義では、住民参加や市民活動に関する既存の理論を踏まえた上で、事例を取り上げワークショップによる議論を重ね、各人の考えを発表する機会を設ける。なお、詳しい授業スケジュールは、第1回ガイダンスで提示する。 ・ガイダンス(1) ・市民と公共性(2) ・政策形成プロセスにおける住民参加(3) ・合意形成とその手法(4) ・事例に基づくワークショップ(5-12) ・事例の考察を発表(13-15)
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト	住民参加、市民活動に興味のある人が望まれる。 授業への出席、発表の充実度などを中心に評価する。 内海麻利『まちづくり条例の実態と理論』第一法規株式会社、2010年、2,700円＋税、ISBN978-4474024991
参 考 書	その都度紹介します。

履修コード	126801
科目名	政治過程論
担当者名	早川 純貴 <small>はやかわ じゆんき</small>

講義の到達目標(ねらい)	本年度の政治過程論は、前決定過程から決定過程までを検討する。講義では、サンプルとしていくつかの政策決定過程を織り交ぜながら、決定に関する理論研究とその応用について論じていきたい。
講義の内容／授業スケジュール	前期 《決定モデルと事例研究》(14回) アクターとアリーナ概念について(2回) 合理モデルについて(2回) アリソンの3モデルと日本の防衛政策(4回) 増分主義モデルと日本の予算編成過程(4回) 心理モデル—グループ・ダイナミックスなど(2回) 後期 《前決定モデルと事例研究》(14回) Cobb&Elder Model—豊島事件と三番瀬保存運動(3回) Garbage Can Model—1984年健康保険法改正(3回) Kingdon Model—国鉄の分割・民営化(3回) 2-level Games Model—日米コメ交渉(3回) レポートのためのビデオ鑑賞と資料の説明(2回)
準 備 学 習	理論的内容が多いので、授業の後は必ずノートを読み返し、分からないところや疑問に思ったことは自分で調べるなり、次の授業時に質問して、理解を深めるようにすること。
履修上の留意点	講義では理論の解説に多くの時間をかける。理論の話は継続して聞かないと理解できない。きちんと出席することが肝要である。分からないときは遠慮せず質問すること。質問は学生の権利であり、教員はそれに答える義務がある。
成績評価の方法	中間試験と定期試験、および後期レポート、さらに数回実施する小テストの合計点数により評価する。
教科書／テキスト	早川純貴、他『政策過程論』2004年(学陽書房)2,600円
参 考 書	講義の中で随時紹介する。

履修コード	130301
科目名	政治経済学
担当者名	白鳥 ^{しらとり} 浩 ^{ひろし}

講義の到達目標(おらい)

政治と経済は、現代においては社会の両輪にも例えられています。また、積極政治の進展とともに、政治と経済をマクロに理解する視座の重要性が叫ばれています。本講義においては、政治経済学の全体像を学んでもらいます。特に、先進国におけるデモクテシーのあり方は、政治と経済に関する政策的なスタンスの違いに起因することを検討することを目的とします。最終的には、国民国家の発展の到達点といわれる福祉国家を理解することにつなげていきたいと考えています。

講義の内容／
授業スケジュール

以下の内容を初めてのひとにもわかるように講義します。

1. 政治と経済 (1～4)
2. 戦後政治経済 (5～8)
3. システム論とレジーム論 (9～12)
4. コーポラティズム (13～15)
5. 福祉国家論「白鳥・ローズの混合福祉論」(16～18)
6. 福祉国家論「福祉国家の三つの世界論」(19～22)
7. 経済と文化の間の政治「ヨーロッパの福祉国家」(23～25)
8. 北欧の福祉国家の変容 (26～27)
9. 福祉国家としての日本 (28～29)
10. 脱工業化社会に向かうのか? (30)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

関心を持って、講義に出席してください。
試験を中心とするが、総合的に判断する。
新川・井戸・宮元・真柄『比較政治経済学』(有斐閣) 2004年
井戸『経済危機の比較政治学』(新評論) 1998年
真柄『体制移行の政治学』(早稲田大学出版部) 1998年
白鳥編『福祉国家の再検討』(新評論) 2000年
授業内で適宜、指示します。

履修コード	127101
科目名	政治思想史
担当者名	おまつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)

古代から現代にいたるヨーロッパ政治思想を通観する。国民主権原理や基本的人権主義がどのようにして形成されたのかを、政治思想史研究を通して解明するのを目標とする。
なお、本講義は清滝教授の代講として、平成23・24年度にわたり担当する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 政治思想史の課題と方法
2. ポリスの政治思想
3. ローマ帝国の政治思想
4. キリスト教共同体の政治思想
5. 宗教改革の政治思想
6. モナルコマキ
7. 絶対主義
8. ユートピア思想
9. 契約思想
10. 市民革命の政治思想
11. フランス啓蒙思想
12. スコットランド啓蒙思想
13. フランス革命期の政治思想
14. 保守主義と急進主義
15. ロマン主義
16. ドイツ観念論
17. フランス実証主義
18. アメリカ共和主義
19. 功利主義
20. アナーキズム
21. マルクス主義
22. 新自由主義
23. 理想主義
24. 一般国家学
25. 社会連帯主義
26. 政治的多元主義
27. ヨーロッパ政治思想と日本の近代化
28. ヨーロッパ政治思想と日本の政治学
29. ヨーロッパ政治思想と私(大塚)
30. まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法

第一に、講義に出席すること。第二に、教科書を精読すること。そして、第三に原典にふれること。前・後期試験とレポートにより評価します。難解な科目であることから、ゆるやかに採点、評価し、単位を認定していきます。

教科書／テキスト
参 考 書

大塚桂「ヨーロッパ政治理念の展開(SBC法科大学院シリーズ)」(信山社・星雲者) 価格未定
上記教科書巻末<参考文献>を参照のこと。

履修コード	129701
科目名	政治社会学
担当者名	なかの ゆうじ 中野 裕二

講義の到達目標(わらい)

本年度の「政治社会学」の長期的目標は次の二点にあります。第1に、現代社会を分析し、理解し、説明する力を身につけること、第2に、現代社会の諸問題を解決する理論を模索することです。

しかし、直ちに現代社会の現状分析を行うことは不可能です。それは、分析道具である概念や理論を持たないからです。そこで、この講義では、19世紀の社会学者たちが、19世紀社会をいかに分析し、理解し、説明したか、また、彼らが19世紀社会の諸問題をいかに理論的に解決し、乗り越えようとしたのかを学びます。

それでは、なぜ19世紀なのか。理由は2つあります。第1に、19世紀社会は、産業革命と市民革命を経た大変動期であり、われわれの現代社会が抱える問題が初期形態として登場した時代であるので、問題を把握することが比較的容易であるからです。第2に、19世紀の社会学者たちの理論的営みは、現代政治学の基礎になっているからです。彼らを抜きにして現代政治学を理解することはできません。

以下に示すスケジュールは、あくまでも予定です。受講生の理解度に応じて予定が変更されることもあります。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回 イントロダクション (授業概要、成績評価など)
- 第2回 序 政治社会学について (その1) (政治学の歴史)
- 第3回 序 政治社会学について (その2) (現代政治学の構造)
- 第4回 序 政治社会学について (その3) (政治社会学とは)
- 第5回 第1回 小テスト
- 第6回 第1章 トクヴィル (その1) (デモクラシーとアリストクラシー)
- 第7回 第1章 トクヴィル (その2) (政治的無関心、多数者の専制)
- 第8回 第1章 トクヴィル (その3) (相対的剥奪)
- 第9回 第1章 トクヴィル (その4) (政治的結社、地方自治)
- 第10回 第2章 マルクス (その1) (産業革命)
- 第11回 第2章 マルクス (その2) (初期社会主義批判)
- 第12回 第2章 マルクス (その3) (人間疎外)
- 第13回 第2章 マルクス (その4) (科学的社会主義)
- 第14回 第3章 コント (その1) (人間精神の進化論)
- 第15回 第3章 コント (その2) (実証主義)
- 第16回 第2回小テスト
- 第17回 第4章 デュルケム (その1) (社会的病理)
- 第18回 第4章 デュルケム (その2) (実証主義的方法の規準)
- 第19回 第4章 デュルケム (その3) (自殺の社会学的研究)
- 第20回 第4章 デュルケム (その4) (自殺の四類型)
- 第21回 第3回小テスト
- 第22回 第5章 ヴェーバー (その1) (神なき時代の社会科学)
- 第23回 第5章 ヴェーバー (その2) (社会的行為)
- 第24回 第5章 ヴェーバー (その3) (理解社会学)
- 第25回 第5章 ヴェーバー (その4) (価値自由)
- 第26回 第6章 20世紀の政治社会学 (その1) (政治学のルネサンス)
- 第27回 第6章 20世紀の政治社会学 (その2) (政治過程論の誕生)
- 第28回 第6章 20世紀の政治社会学 (その3) (行動論政治学)
- 第29回 第4回小テスト
- 第30回 授業の総括

準備学習
履修上の留意点

各章の最初に参考文献を紹介するので、自主的に読むことが望ましい。

上記のように、社会学者ごとに項目を設けて講義を進めます。しかし、この講義は「学説史」に重点を置くものではありません。それぞれの社会学者たちが、自分の生きた時代の何を問題視し、それをいかに理論的に乗り越えようとしたのか、という知的営みに焦点を当てます。受講生はつねに、現代社会への応用を念頭に置いて、「今日の社会問題との相違点は何か」「現代に応用できる理論は何か」という関心をもって望んで欲しいと思います。

成績評価の方法

学生に期待される到達レベルは以下の通りです。

- ①政治学理論発展のプロセスを理解している。
- ②19世紀の社会学者たち各々の問題関心と、彼らの学問的貢献を関連づけて説明できる。
- ③政治科学の初期理論を理解できている。
- ④授業で学んだ理論を応用できる。

以上の到達レベルに達しているかどうかを、期末試験と授業時間中の小テストなどをもって総合的に判断します。なお、授業中の意見・質問などの授業への積極的参加は、補助的に評価します。

教科書／テキスト

教科書は使用しません。毎回プリントを配布し、その内容にそって授業を進める予定です。参考文献は適宜紹介します。

政

履修コード	129901
科目名	政治心理学
担当者名	富崎 <small>とみさき たかし</small> 隆

講義の到達目標(ねらい)

民主政治において、国民がどのように政治に参加するかは決定的に重要です。そして、政治心理学は、政治に参加・関与する人々の心理と行動様式を、個々の市民（や政治家）のミクロ的視点から体系的にとらえようとする研究アプローチです。本講義では、政治心理学の中でも、特に投票行動に関する理論と実証を中心に検討します。有権者の投票行動や政治意識を検討していくことを通じ、現代における政治・社会変動を視野にいれつつ、自由民主主義体制の作動メカニズムの重要な側面を明らかにしていくことを目指したいと思います。

講義の内容／授業スケジュール

(1～2) 講義のねらいと政治心理学・投票行動
 (3～15) 投票行動の理論モデルと研究の展開
 投票行動理論の全体像
 社会的属性
 政党帰属意識
 争点態度
 イデオロギー
 政府業績評価
 党首評価
 個人投票
 政治参加
 (16～25) 現代日本における選挙と投票行動・政治意識の実証分析
 (26～30) 政治心理学の諸アプローチの理論と実証

成績評価の方法

テスト及びレポート・出席などを総合的に評価

教科書／テキスト

小林良彰『選挙・投票行動』東京大学出版会 2625円 ISBN-10: 4130341316

参 考 書

蒲島郁夫『戦後政治の軌跡』岩波書店 3990円 ISBN-10: 400023644X

加藤秀治郎他編『政治社会学』一藝社 2415円 ISBN-10: 490125345X

オフエル・フェルドマン『政治心理学』ミネルヴァ書房 3360円 ISBN-10: 4623044998

履修コード	126501
科目名	政治制度論
担当者名	大山 <small>おおやま れいこ</small> 礼子

講義の到達目標(ねらい)

民主主義国家において、政治制度の究極の目的は、どうやって国民の民意を正確に反映する政治を実現するかにあるといつてよいでしょう。この講義では、さまざまな制度がもつ現代的な意義を検討し、新しい角度から政治を考えていきます。

講義の内容／授業スケジュール

(1) 政治制度とは、(2～3) デモクラシーとは何か、(4) 議院内閣制と大統領制、(5～7) 議院内閣制の成立：イギリス、(8～9) 政党、(10～11) 大統領制の誕生：アメリカ、(12～13) 議院内閣制の発展：フランス、(14～15) 議院内閣制の受容：ドイツ・日本、(16) 制度をどう見るか、(17～22) 選挙制度、(23) 政治資金、(24～25) 議会と政策決定過程、(26) 二院制、(27～28) 中央地方関係、(29) 司法審査制、(30) 総括

準 備 学 習

ただし、時事問題の解説などを適宜取り入れるため、予定を変更する場合があります。高校までの公民分野の知識が曖昧な人は復習しておいてください。また、日頃から海外のニュースなどにも幅広く関心をもつようにすると、授業内容をより深く理解できます。

履修上の留意点

YeStudyに毎回、その週の講義の概要、参考資料、関連リンクなどを掲載するほか、課題の提出にも利用するので、必ずアクセスしてください。私語などで周りの学生に迷惑をかける者には退場を求めることがあります。

成績評価の方法

授業中に実施する小テスト、夏休みの課題等の評点を持ち点とし、学年末定期試験の評点に加算して評価します。

教科書／テキスト

教科書は指定しません。

参 考 書

その都度紹介します。

そ の 他

授業開始時にYeStudyの利用方法について案内します。

履修コード	117901
科目名	西洋法制史
担当者名	北野 <small>きたの</small> かほる

講義の到達目標(ねらい)

イングランド（イギリス）の法と社会のかかわりの歴史を素材に、ひとが社会で生きるときに、その社会の法のしくみが生活とどうかかわってくるかを理解すること。

講義の内容／
授業スケジュール

第1～3回 第1部 総論 イングランド法制史理解のための基礎知識 第1章 時間と空間 第2章 時代区分1：ヨーロッパ法史の時間 第3章 時代区分2：イングランド法史の時間 第4～10回 第2部 各論 イングランド法制史 第1章 古代 古代イングランドの社会と法 第11～20回 第2章 中世 中世イングランドの社会と法 第21～30回 第3章 近世 近世イングランドの社会と法 いずれの時代についても、紛争解決方法の種類と特徴を軸に講義します。

準備学習
履修上の留意点

*講義内容・時間配分は必要に応じて変更することがあります。

高等学校で学習した世界史のうち西洋史の部分の復習しておいて下さい。

ある時代の社会で、ひとびとのあいだに不調和が生まれたとき、それを解決するために利用可能なことからの状況は社会によって異なります。この違いが、その社会ではどのような紛争解決方法に現実味があったのかを規定することになります。この、社会的リソースとその活用という関係が、法的関係とりわけ日常的な不調和解決の場面でも働いていることを感じ取れる感覚を養うことが目的です。すこし専門的ですが、一種のバーチャル・リアリティの異世界体験だと思って、想像力を活用しながら聴講し、思い出してイメージを鍛えることが大切です。

受講者の人数によっては、抜き打ち的に出席をとることがあります。毎回の出席点を成績に加味することはしません。要するに、毎回出席していない限り、抜き打ちの出席チェックには対応できないということです。

成績評価の方法

休んだ時間の講義ノートは早めに確保するようにしてください。出席して自分でノートを取ることが記憶を鍛える最良の方法ですから、講義ノートのウェブ公開はしません。

原則として学年末試験により行います。試験の評価は、講義内容を十分理解しているかどうかを基準に行います。試験に持ち込み物件は認めません。丸暗記すれば授業内容が身に付くような書籍は出版されていませんので、試験勉強には、講義ノートが一番重要な情報源です。

教科書／テキスト
参 考 書

特に指定するものではありません。

J・ベイカー（小山貞夫訳）『イングランド法制史概説』創文社、9975円 ISBN:978-4423740286

F・W・メイトランド（小山貞夫訳）『イングランド憲法史』創文社、12600円 ISBN:978-4423492130

R・C・ヴァン・カネヘム（小山貞夫訳）『裁判官・立法者・大学教授』ミネルヴァ書房、3780円 ISBN:978-4623020447

田中英夫『英米法総論（上）』東京大学出版会、3675円 ISBN:978-4130350518

勝田有恒・山内進・森征一編『概説西洋法制史』ミネルヴァ書房、3360円 ISBN:978-4623040643

履修コード	038701
科目名	地域計画論
担当者名	原 昭夫

講義の到達目標(ねらい)	人々の暮らしの場、労働の場、憩いの場などである「地域」はどのような要素から成り、それらがどのように関係づけられているのか、それを誰がどのような手法や技術でつくり、維持・保全しているのか、それをどのように計画していったらよいのか、そこでの市民の役割は何なのか、などを考える眼と力を養う。
講義の内容／ 授業スケジュール	全体を次のような4つのステージに分け、「地域」を「知る」ことから「計画」することへ向かう。 (Ⅳ. の「計画」の段階では、受講者の参加状況(人数、定刻出席等)および興味の度合等を勘案して共同作業(ワークショップ、演習形式)で行う場合もある。)
	<p>I. 地域を知る／4月～5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の構成要素、量、規模、配置、分布など地域の現状を把握する。 ・地域の特性や差異が何によって現れるか、また地域の成立経過を知る。 <p>II. 地域の課題を見つける／6月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にはどのような課題や可能性が顕在・潜在しているのかを見つける。 ・それらの課題はどのような原因や背景によってもたらされているのかを考える。 <p>III. 課題の解決策を考える／9月～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の課題を解決・改善していくには、どのような方策があるのかを考える。 ・課題解決の手法・技術・プログラムをどう組み立てるかを考える。 <p>IV. 解決策を計画・政策として提案する／11月～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記Ⅰ～Ⅲのステージをふまえて地域の改善策・将来構想を考える。 ・それを現実的・具体的な計画・政策としてまとめ、提案する。
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画、まちづくり、都市政策に単一の正解はない。さまざまな代替案の中から現状での最適解が求められる。そのためにまず自らのまちをしっかりと歩き、しっかりと見ること。現地・現場を見る眼を鍛えておいてほしい。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の事情、日本の社会状況、自らの地域の現状をしっかりと把握しておくこと。 ・何故自分はこの大学を選択し、この学科を学び、何を得て、何になろうとしているのか、改めて自らに問うて欲しい。(それをしっかりとやれば遅刻、私語、携帯の授業中使用、睡眠などは出来ない筈だが、いかがか。)
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「試験」はやらない。上記各ステージでレポートを数回提出(知識より自分の頭で考えたもの)および出席により評価する。
教科書／テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『自治体まちづくり』(原 昭夫/学芸出版社)をテキストとしてタテ糸的に用いながら論を進める。 ・毎回関連する参考書や文献を提示する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・上記履修(前)留意点参照。「地域」に関心を持つ諸兄の参加を期待。 ・自学科・他学科の計画系科目、フィールドワーク、地域分析手法、地域形成史などは再習しておくとうい。

履修コード	127601
科目名	地方行政
担当者名	内海 麻利 <small>うちうみ まり</small>

講義の到達目標(ねらい)	私たちにとって身近な自治体における行政の仕組みや課題について、そのあり方を住民の視点から解説・検討することで「地方行政」における知識を定着させ、理解を深めることを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	授業では、地方自治及び自治体の政策・政策形成を制度面から解説した上で、その運用を具体的な事例を参照しながら検討していく。詳細な授業スケジュールは第一回ガイダンスで提示する。 〔前期〕 ・ガイダンス (1) ・地方自治制度の移り変わりとその特徴 (2・3) ・地方分権と地方自治の仕組み (4-8) ・住民の権利と住民意思の反映 (9-11) ・住民参加と市民主体のまちづくり (12-15) 〔後期〕 ・地方自治体と政策形成 (16-19) ・政策過程と政策実現手法 (20-24) ・分野別の政策過程 (25-30) 都市政策・環境政策、少子高齢化政策など
履修上の留意点	日頃から、「地方行政」に関する情報・報道等に触れること、住んでいる自治体の行政に関心を持つことを心がけること。
成績評価の方法 教科書／テキスト	学期末に行う筆記試験 (60%)、授業内に実施するレポート・小テスト (40%) で評価する。 早川純貴・内海麻利・大山令子・田丸大『政策過程論—「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,600円＋税、ISBN 978-4313320352
参 考 書	内海麻利『まちづくり条例の実態と理論』第一法規株式会社、2010年、2,700円＋税、ISBN978-4474024991、磯崎初仁・金井利之・伊藤正次著『ホーンブック 地方自治』北樹出版、2007年、2,800円＋税、ISBN 978-4-7793-0047-9、その他、毎回の授業でレジュメを配布するとともに、関連する文献を紹介する。

履修コード	127501
科目名	地方自治法
担当者名	富井 幸雄 <small>とみい ゆきお</small>

講義の到達目標(ねらい)	日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをかみしめながら、新地方自治法の理念や制度を理解するとともに、その課題を議論する。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義は概ね以下のスケジュールで行う。前期は、地方自治の概念、憲法と地方自治、地方公共団体の概念、地方公共団体の事務、住民自治を順に勉強していく。後期は、地方公共団体の組織、自治立法権、自主財政権、公の施設、国と地方公共団体の関係を順に勉強する。なお、前後期それぞれ最後の授業時に試験を実施する。
準 備 学 習	毎回の授業終了時に次回の講義箇所を指定するので、該当する教科書の部分を熟読しておく。また関連する条文に目をおしておく。
履修上の留意点	憲法や行政法、ならびに行政学も同時履修もしくは既修であることがのぞましい。
成績評価の方法 教科書／テキスト	前期試験 (40%) と学年末試験 (60%) で総合的に評価する。 富井幸雄『地方自治法読本 改訂版』2008年4月 (内外出版) 『地方自治判例百選 (第3版)』(別冊ジュリスト)。
参 考 書 そ の 他	講義では頻繁に法律の条文に言及するので、その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

履修コード	128901
科目名	中国政治論（1）
担当者名	三船 ^{みふね} 恵美 ^{えみ}

講義の到達目標(ねらい)

本講義の目的は、現代中国の政治と外交の基本的な知識を学ぶことです。

地域研究を学ぶ意義は、単に1地域の情勢について詳しくなることだけではありません。トックヴィルが「1つの国のことしか知らない人は、実はその国についても知らない」と言ったように、他国との比較なしには1国についても知り得ません。また同時に、国際関係や外交政策を検討する場合、その国の政策決定者ならびに政策決定者に影響を与えるであろう人々のイメージを検討しなければいけません。イメージ・ギャップは、文化的距離、環境や支配目標の差異などによって生じます。現代の国際社会が極めて異質な成員の集合体であることから、国際関係の研究と地域研究は切り離せません。ここに地域研究を学ぶ意義があります。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：現代中国政治を視る眼

第2回：中国略史（1）黄河文明～「西洋の衝撃」

第3回：中国略史（2）中華人民共和国の成立～毛沢東時代の中国政治

第4回：現代中国の政治体制と政治変容：党・国家・軍

第5回：鄧小平時代以降の改革開放

第6回：江沢民時代の中国政治

第7回：胡錦濤時代の中国政治

第8回：中国の対周辺戦略

第9回：中国と南アジア

第10回：中国とASEAN

第11回：中国と朝鮮半島

第12回：中国と台湾

第13回：中国とアメリカ

第14回：中国と日本

第15回：総括

準備学習

時事的な話題も取り上げるつもりですので、受講期間中は、新聞に掲載された国際面の中国関連記事にざっと目を通して下さい。

履修上の留意点

就職活動や部活で欠席した人を特別扱いしません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。

成績評価の方法

試験（100％）

教科書／テキスト

天見慧・三船恵美編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010年

参考書

天見慧『巨龍の胎動』講談社、2004年。

天見慧・浅野亮編『中国・台湾』ミネルヴァ書房、2008年。

履修コード	129001
科目名	中国政治論（2）
担当者名	三船 恵美

講義の到達目標(ねらい)

本講義の目的は、現代中国の政治や外交の基本的な知識を学ぶことです。中国政治は複雑かつ極めて不透明なものです。それについて学び、分析し、理解することは難しいことですが、現在の中国の台頭を考えると、とても重要なことです。

地域研究を学ぶ意義は、単に1地域の情勢について詳しくなることだけではありません。トックヴィルが「1つの国のことしか知らない人は、実はその国についても知らない」と言ったように、他国との比較なしには1国についても知り得ません。また同時に、国際関係や外交政策を検討する場合、その国の政策決定者ならびに政策決定者に影響を与えるであろう人々のイメージを検討しなければいけません。イメージ・ギャップは、文化的距離、環境や支配目標の差異などによって生じます。現代の国際社会が極めて異質な成員の集合体であることから、国際関係の研究と地域研究は切り離せません。ここに地域研究を学ぶ意義があります。

講義の内容／授業スケジュール

- 第1回：中国の政治と外交を視る眼
- 第2回：中国の近代化と日中関係
- 第3回：江沢民～胡錦濤時代の日中関係
- 第4回：日中関係のメカニズム
- 第5回：中国の周辺外交
- 第6回：中国外交と中国の中央・地方関係
- 第7回：中国の外交と世論
- 第8回：中国とインド
- 第9回：中国と中東（イランとGCCを中心に）
- 第10回：中国とアメリカ
- 第11回：中国とロシア・中央アジア
- 第12回：中国と東アジア
- 第13回：中国とEU
- 第14回：中国と国連
- 第15回：ポスト胡錦濤時代へ向かう中国

準備学習

時事的な話題も取り上げるつもりですので、受講期間中は、新聞に掲載された国際面の中国関連記事にざっと目を通しておいて下さい。

履修上の留意点

就職活動や部活で欠席した人を特別扱いません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。中国政治論（1）の受講を勧めます。

成績評価の方法

試験（100%）

教科書／テキスト

中国政治論（1）の講義中に2011年刊行の新刊書を提示します。

参考書

- 天児慧『巨龍の胎動』講談社、2004年。
- 霞山会『中国総覧』ぎょうせい、2008年。
- 平和安全保障研究所『アジアの安全保障』朝雲新聞社、各年。

履修コード	129601
科目名	中南米政治論
担当者名	箕輪 茂

講義の到達目標(ねらい)

現代ラテンアメリカ諸国において生起する政治的現象の理解を目標として講義を進める。

講義の内容／授業スケジュール

ラテンアメリカ社会を形作る歴史的背景、政治文化、さらに政治体制の一般概念について概説した後、政治的アクターの役割に焦点を当て、中南米政治の特徴や独自性について次のスケジュールで解説していく予定。第1回：ガイダンス、第2回：イントロダクション、第3～5回：歴史的背景、第6回：政治文化、第7～8回：政治体制、第9～12回：政治的アクター、第13～14回：非民主主義体制とその民主化、第15回：まとめ。

履修上の留意点

講義は概説的なものになるため、関心を持った分野については教科書や参考文献、さらにニュースやドキュメンタリー番組などを通じて、より幅広い知識を習得することを期待する。

成績評価の方法

筆記試験（学期末）による。

教科書／テキスト

松下洋・乗浩子編『ラテンアメリカ 政治と社会 [全面改訂版]』（新評論）3,200円、ISBN4-7948-0631-0

参考書

授業開始時に紹介する。また、学生の関心に応じて専門文献なども適宜紹介する。

履修コード	128701
科目名	東南アジア政治論 (1)
担当者名	深尾 康夫

講義の到達目標(ねらい) 東南アジアの特徴として域内各国における民族、宗教、言語、文化などの多様性が指摘されます。本講義では、このような多様性が東南アジア諸国の政治にどのように影響しているのかという側面を学びます。

講義の内容／
授業スケジュール 第1回：ガイダンス、第2回：東南アジアの概要（自然、民族、言語）、第3～4回：交易時代の東南アジア（ヒンドゥー、仏教、イスラム、キリスト教）、第5～6回：欧米植民地下の東南アジア、第7回：独立後東南アジアにおける政治制度選択とその背景、第8回：欧米型民主主義の失敗と権威主義政治体制の登場、第9回：開発指向型権威主義政治体制の確立、第10回：経済開発と民主主義の抑制、第11～12回：開発における負の側面（人権侵害、環境破壊、ファミリービジネス蔓延）、第13回：アジア通貨危機波及と権威主義政治体制の崩壊、第14～15回：民主化と政治制度変革、全体まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
日常的に東南アジア関連報道に注意したうえで授業に出席してください。
頻繁にプリント資料を配付しますので、取り忘れることの無いよう注意してください。
期末試験ないし最終レポート60%、クイズ他30%、出欠10%に基づいて評価します。
教科書は特に指定しません。
毎回授業時に参考文献リストを配布します。

履修コード	128801
科目名	東南アジア政治論 (2)
担当者名	深尾 康夫

講義の到達目標(ねらい) 東南アジアは古来文化的・民族的に多様な社会を発展させてきました。第2次大戦後独立を果たし、国造りを始めた大部分の国にとって、国内の多様性を尊重しながらいかに統一国家を維持するかという問題は、今日に至るまで大きな政治的課題です。本講義では海域部の大国インドネシアを中心に、中央・地方関係の視点からこの課題への対応を探ります。

講義の内容／
授業スケジュール 第1回：ガイダンス、第2回：開発途上国における中央／地方関係と分権化の意味、第3回：東南アジア海域部の社会的多様性と政治へのインパクト、第4～7回：スハルト政権と中央集権（権威主義政治体制下の中央／地方関係、地域開発と中央エリート、地方首長選挙の混乱、分権化への試みと失敗）、第8～10回：ポスト・スハルト時代の分権化（民主化インパクトと制度改革、地方自治体分立問題、第3の道）、第11回：全体まとめ及び試験問題解説、第12～14回：国家統一の維持と地域紛争（東ティモール、アチェ、パプア）、第15回：近隣諸国との比較検討

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
日常的に東南アジア（特にインドネシア、マレーシア、フィリピンなど海域部）に関する報道に注意したうえで授業に出席してください。
頻繁にプリントを配布します。定期試験ないしレポート作成において、これらプリント資料は欠かせないので取り忘れることの無いよう注意してください。
期末試験ないし最終レポート70%、出欠他30%に基づいて評価します。
教科書は特に指定しません。
毎回授業時に参考文献リストを配布します。

履修コード	126901
科目名	日本政治史
担当者名	村井 良太

講義の到達目標(ねらい)

政治を理解するには、思想分析、比較、一般化など様々な方法がありますが、歴史という経験に学ぶのが政治史です。本講義の目的は、日本政治史を学ぶことを通じて、日本の置かれてきた立場、選択とその結果について基本的な理解と知識を得ることです。さらに、歴史を学ぶことを通じて、政治を知り、現代を相対化してみる視点を養ってもらいたいと思います。

本年度の「日本政治史」では現代日本に息づいている民主政治の政治的伝統を、明治維新时期から第二次世界大戦後の1955年頃までの政治的経験に求め、なかでも1920年代の政党政治を中心に論じます。

講義の内容／
授業スケジュール

講義内容は、以下を予定しています。スケジュールなど詳細は開講後にお知らせします。

前期：(1) はじめに (2~4) 開国と維新 (5~7) 日清・日露戦争 (8~10) 相次ぐ動乱と日本 (11~12) 原内閣と憲政会 (13~14) 原以後の試行錯誤 (15) 前期のまとめ

後期：(16~17) 1924年憲政危機と西園寺 (18~19) 憲政会の体制内化 (20~21) 政党内閣制の成立 (22~24) 政党内閣制の展開 (25~27) 危機と戦争の時代の憲政 (28~29) 戦後政党政治の出發 (30)おわりに

履修上の留意点
成績評価の方法

履修する学生には、出席はもとより、自学自習に基づく積極的な授業参加を求めます。

成績は、随時おこなう出席調査と、中間試験、学年末試験によって評価します。初回の講義で詳しい説明を受けてください。

教科書／テキスト

村井良太『政党内閣制の成立』有斐閣、税別6000円、ISBN:464107688X。教科書の利用については、必ず初回の授業で説明を受けてください。なお試験は持ち込み不可を予定しています。

参 考 書

参考図書は、講義の中で随時紹介していきます。

履修コード	126301
科目名	日本政治論
担当者名	大山 礼子

講義の到達目標(ねらい)

政権交代が実現して日本の政治への関心が高まっている現在、改めて日本政治の何が問題であり、どのように変えていけばよいのかを考えることがこの講義の目的です。日本の政治はどのような歴史的経緯を経て現在の姿になったのか、他国と比較したときにどのような特徴があるのかといった観点から、より客観的に日本政治を分析していきます。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 日本政治の特質、(2~8) 日本政治史概観(明治維新から敗戦まで)、(9~12) 日本国憲法と戦後政治、(13~15) 政党史(自民党の盛衰)、(16~17) 政策過程概観(55年体制下の政策過程)、(18~19) 国会のしくみ、(20~21) 選挙制度、(22~23) 政治主導と官僚制、(24~26) 地方政治、(27~28) 公共事業、(29~30) 日本政治の将来

準 備 学 習

ただし、時事問題の解説などを適宜取り入れるため、予定を変更する場合があります。

日本の政治を論じる講義なので、今、どのようなことが起こり、何が問題になっているのか、少なくとも社会常識程度の心得がないと話についていけないし、興味ももてないままに終わってしまいます。まずは新聞の政治面に目を通す習慣をつけましょう。

履修上の留意点

YeStudyに毎回、その週の講義の概要、参考資料、関連リンクなどを掲載するほか、課題の提出にも利用するので、必ずアクセスしてください。私語などで周りの学生に迷惑をかける者には退場を求めることがあります。

成績評価の方法

授業中に実施する小テスト、夏休みの課題等の評点を持ち点とし、学年末定期試験の評点に加算して評価します。

教科書／テキスト

教科書は指定しません。

参 考 書

その都度紹介します。

そ の 他

授業開始時にYeStudyの利用方法について案内します。

履修コード	117801
科目名	日本法制史
担当者名	すえさわ くによこ 末澤 国彦

講義の到達目標(ねらい)	この講義は、近代を中心として日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。 現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを知ることによって、法という社会現象についてより深い理解が得られるようになることを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：日本法制史の基本的な考え方 第2回～第4回：時代区分とそれぞれの法の特徴 第5回：明治初期の国家機構 第6回：明治初期の刑事法と治安法制 第7回：明治初期の民事法 第8回：明治初期の司法制度 第9回：旧刑法の成立と治安法制 第10回：大日本帝国憲法の制定 第11回：内閣と枢密院 第12回：帝国議会 第13回：明治憲法下の司法制度と司法官養成 第14回・第15回：民法典の編纂と法典論争 第16回：商法の成立 第17回：刑事訴訟法の成立 第18回：民事訴訟法の成立 第19回：教育・学校法制 第20回・第21回：条約改正と日本の対外政策 第22回：現行刑法の成立と治安法制 第23回：私人間の国家介入 第24回：刑事訴訟法の改正と陪審制 第25回：普通選挙法と治安維持法の成立 第26回：国家総動員法の成立 第27回：戦時経済統制立法 第28回：占領下の法制 第29回：日本国憲法の制定 第30回：1年間の総括
準備学習 履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	事前にテキストの該当箇所を一読してから講義に臨んでほしい。 日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。 学年末試験と平常点としての出席状況を総合して評価する。 山中永之佑 編『新・日本近代法論』法律文化社、3780円、ISBN4-589-02585-X 大久保治男・茂野隆晴『日本法制史史料60選 - 史資料へのいざない - 』芦書房、2,300円、ISBN4-7556-1128-8

履修コード	093501
科目名	農業政策
担当者名	みぞて よしかず 溝手 芳計

講義の到達目標(ねらい)

「現代農業と食料・農業政策の展開」を基本テーマとする。

①農業の産業的特質と現下の農業の急激な変化を理解する。②WTO農業協定における世界的な農業政策ルールの変化の特徴と意義を知る。③市場経済における価格メカニズムの機能との関連で、価格政策の縮小=直接支払いへの移行という政策ツールの変化について考察する。④これらを念頭に置きつつ、日本の農業問題の特質と食料・農業・農村政策の歩み・現状について考察する。⑤あわせて、日本及び世界の食料問題と対策について検討する。以上5項目について、基礎的な知識を伝授することを目標とする。

講義の内容
授業スケジュール

第1回：農業政策とは？

第2回：食料問題と食料政策(1)食料問題とは何か(需要・供給・分配)

第3回：食料問題と食料政策(2)食料自給率低下と需要サイドの要因(需要の所得弾力性、食生活の近代化)

第4回：食料問題と食料政策(3)食料自給率低下と供給サイドの要因(市場開放、外国為替レート)

第5回：食料問題と食料政策(4)市場経済下における食の外部化・サービス化とフードシステム

第6回：食料問題と食料政策(5)フードシステムの発展とアグリビジネスの影響力拡大

第7回：食料問題と食料政策(6)グローバル化と食料・食品安全問題

第8回：農業の特質と現代農業(1)農業の産業的特質(生物資源培養産業、環境関連産業)

第9回：農業の特質と現代農業(2)農業の産業的特質(土地利用産業)

第10回：農業の特質と現代農業(3)現代農業革命と農業・食の工業化

第11回：農業の特質と現代農業(4)農業・食の工業化とアグリビジネスの浸透(契約生産を中心に)

第12回：日本の農業問題と農業政策(1)日本の農業政策を見る目(零細農耕、資本蓄積、農村振興)

第13回：日本の農業問題と農業政策(2)零細農耕の形成と温存(自然的要因、地租改正・農地改革)

第14回：日本の農業問題と農業政策(3)高度成長と農業基本法(構造改善、選択的拡大、所得均衡)

第15回：日本の農業問題と農業政策(4)低成長への移行と地域農政(財政危機、米過剰、地域農政)

第16回：日本の農業問題と農業政策(5)プラザ合意=円高、日米経済摩擦=市場開放と日本農業

第17回：日本の農業問題と農業政策(6)WTO農業協定と日本の農政改革

第18回：日本の農業問題と農業政策(7)食料・農業・農村基本法

第19回：日本の農業問題と農業政策(8)政権交代と農業政策

第20回：農産物価格と価格・所得政策(1)市場経済における価格の役割と農産物価格問題

第21回：農産物価格と価格・所得政策(2)農産物価格形成の特殊性(土地利用産業と差額地代)

第22回：農産物価格と価格・所得政策(3)農産物価格形成の特殊性(家族経営、寡占と不等価交換)

第23回：農産物価格と価格・所得政策(4)農産物価格政策の2類型(価格支持と不足払い)

第24回：農産物価格と価格・所得政策(5)戦後日本の価格政策(米価政策を中心に)

第25回：農産物価格と価格・所得政策(6)価格政策から直接支払いへ(市場を経由しない農家支援へ)

第26回：世界の農業・農業政策(1)アメリカの農産物貿易と世界市場戦略

第27回：世界の農業・農業政策(2)EUにおける農業・食品関連産業の動向と共通農業政策改革

第28回：世界の農業・農業政策(3)グローバル化と新興農業国チリの農業

第29回：世界の農業・農業政策(4)グローバル化で苦しむ後発途上国農業

第30回：新しい食料・農業・農村政策をめざして(農業・食料における市場の意義と限界)教科書を予習して授業を受けるよう、希望します。

準備学習
履修上の留意点

充実した授業は、教員の努力だけでできるものではありません。授業中に「コミュニケーション・カード」を配布しますので、授業の感想や質問、意見を書いてください。授業改善の参考にします。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験を基本としますが、授業中の小テストの結果を加味します(総点の20%以下)。追試験有り。

教科書/テキスト

田代洋一『新版農業問題入門』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14046-6

中野一新・岡田知弘編『グローバル化と世界の農業』、大月書店、3150円、

ISBN978-4-272-14055-8

※ どちらも、授業中には使いませんが、予復習してください。

履修コード	134001
科目名	比較憲法
担当者名	柳瀬 昇 <small>やなせ のぼる</small>

講義の到達目標(ねらい)	この講義は、わが国の憲法との比較において、諸外国の憲法の歴史、制度及び運用を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>主要各国の憲法を比較しながら、立憲主義の普遍性や各国の憲法の固有性を学ぶとともに、わが国の憲法についての理解をより深めてほしい。</p> <p>諸外国の憲法の成立過程、人権保障規定・統治機構規定の比較分析、著名な判例を通じた憲法運用の検討の順に講義を行う。</p> <p>第1回：比較憲法の意義、第2-11回：近代・現代憲法の成立（英米独仏の憲法史、国際社会と憲法、非西欧諸国の憲法）、第12-14回：諸外国の憲法の人権保障規定の運用の比較検討（1）（信教の自由、表現の自由）、第15回：前期の総括、第16-21回：諸外国の憲法の人権保障規定の運用の比較検討（2）（違憲審査基準論、生存権、新しい人権、平等、憲法の私人間効力）、第22-29回：諸外国の憲法の統治機構規定の比較分析（諸外国の憲法の統治機構規定の総説、選挙制度、議会制度、政府と議会との関係、司法制度、違憲審査制度、その他）、第30回：後期の総括</p>
準備学習	基本的には予習は必要ないが、その代わりに、必ず講義に出席し、復習に努めてほしい。ただし、憲法運用の検討を扱う数回は、配布された資料を読んだうえで講義に臨むことを求める。
履修上の留意点	原則として、前年度までに「憲法」の講義を履修し、かつ、単位を修得済みの学生を対象とする。講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれない。講義を受講する意思のない学生に対しては、学期の半ばでも講義の受講を遠慮してもらうことがある。
成績評価の方法	<p>授業担当者としては、この講義の適正な受講者数は多くとも150人程度であると考えているので、第1回の講義で履修希望者が多数いた場合には、偶数学年の学生を優先しつつ、意欲のある学生についてのみ履修を認める（簡単な筆記試験を実施し、その成績に基づき選抜する）。したがって、履修希望者は必ず第1回の講義に出席されたい（第1回の講義に出席しない学生は、原則として、履修を認めない）。</p> <p>授業担当者が履修を認めなかった学生は、履修登録し、講義を受講し、試験を受験しても、単位は授与されない。</p> <p>期末に行う筆記試験（前期・後期各1回）や、授業時間中に適宜行う小テスト等に基づき、総合的に判断する（履修者数が少ない場合には、レポートを中心とした成績評価の方法に変更することもある）。</p> <p>90点以上の者を「S」、80点以上の者を「A」、70点以上の者を「B」、60点以上の者を「C」とし、60点未満の者を「F」と評価する。</p>
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考文献 その他	<p>毎回、授業担当者の作成したレジュメや資料を配布する。受講にあたって必要となる資料は、YeStudy（e-learningシステム）にアップロードしておく。</p> <p>第1回の講義で説明する。</p> <p>講義の内容に関する質問や学生生活上の相談については、講義の前後またはオフィスアワーにおいて対応する。確実に時間を確保したい場合には、電子メール（noboru@komazawa-u.ac.jp）で事前に連絡をとることをすすめる。</p>

履修コード	128201
科目名	比較政治学
担当者名	みたけ なおや 三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)

政治学科の専門科目として本格的な大学の授業を経験する場を提供します。昨年度までの履修者のメッセージをYeStudyに掲載してありますので、参考にすると何が得られる授業かわかります。

比較政治学は、いろいろな国や地域の事例を比較して、政治現象の因果関係の解明を目指す分野です。この授業では、その一端をご紹介しますとともに、みなさん自身が比較研究をするのに役に立つ手法を練習します。また、政治にまつわる多くのことがらに対する問題意識を養い、政治学を専攻している大学生であるみなさんが、人間についてより深く考える人になることも目標としています。

「比較」という手法は、あらゆる分野に使える方法ですので、まじめに勉強すると卒業後も役に立つことが多いと思います。

この授業を最後までやり通すことで、少しずつ計画的に学習する習慣が身につきます。さらに、グループ活動が多いので、自己表現やプレゼンのスキルも身につきます。ノートの作り方等も習得します。

講義の内容/
授業スケジュール

この文章は2010年12月の時点で書いています。この授業には世界や日本で今現在起きている出来事を反映させる必要があります。また、よいドキュメンタリー番組などが放映されれば、積極的に使っていきたいと考えています。参加する学生さんの関心や熱意、人数によって、授業内容も変えていきます。したがって、2010年12月の時点で詳細な授業スケジュールを確定させることはできません。基本的には2011年度も2010年度同様、民主化、民族問題、移民政策といったテーマを取りあげ、比較研究の方法論の勉強をします。以下はあくまで参考です。

前期

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民主化を考える (ビルマ)
- 第3回 民主化を考える (フィリピン)
- 第4回 民主化を考える (ビルマとフィリピンの比較)
- 第5回 民主化を考える (ブータン)
- 第6回 民主化を考える (南アフリカ)
- 第7回 民族問題を考える (ベルギー)
- 第8回 民族問題を考える (スリランカ)
- 第9回 民族問題を考える (カナダ)
- 第10回 比較方法の基礎
- 第11回 質的比較方法練習 (1) ブール代数の基礎練習 (グループ活動)
- 第12回 質的比較方法練習 (2) 西ヨーロッパの少数言語運動の比較
- 第13回 質的比較方法練習 (3) ブール代数の応用練習 その1 真理表作成 (グループ活動)
- 第14回 質的比較方法練習 (4) ブール代数の応用練習 その2 仮説検証 (グループ活動)
- 第15回 質的比較方法練習 (5) ブール代数の応用練習 その3 分析 (グループ活動)

後期

- 第16回 質的比較方法の復習：真理表作成
- 第17回 質的比較方法の復習：仮説検証
- 第18回 質的比較方法の復習：分析
- 第19回 日本の民族問題を考える：アイヌ民族 その1 歴史
- 第20回 日本の民族問題を考える：アイヌ民族 その2 現在
- 第21回 日本の民族問題を考える：沖縄
- 第22回 質的比較分析を実際にやってみる：仮説を考える
- 第23回 質的比較方法を実際にやってみる：操作化
- 第24回 移民政策を考える その1 人はなぜ移動するのか
- 第25回 移民政策を考える その2 日本のイスラム教徒
- 第26回 移民政策を考える その3 教育
- 第27回 移民政策を考える その4 ヨーロッパ・アメリカ
- 第28回 難民政策を考える その1 世界
- 第29回 難民政策を考える その2 日本
- 第30回 まとめ 対立を超えて

準備学習

毎回事前にやってくる課題が出ますが、毎週こつこつやっついていくと興味深く感じるが増えていきますので、苦にならなくなっていくと思います。毎週1時間半程度は予習に使うことを想定しておく必要があります。新聞の国際面や国際ニュースに日常的に目を通すことも必要です。

履修上の留意点

この授業は、自分で事前に勉強してきたことを「使って」、教室で様々な活動を行う授業です。「講義」形式の授業はほとんど行いません。知識のインプットなどは授業前にすませ、教室ではグループで作業をして教え合ったり討論したりプレゼンをしたりといったアウトプットを行います。そのため、ほぼ毎週文献を読んで来る等の課題が出ます。教室には《必ず》課題をやってくるのが条件です。こうすることで、やる気がある人だけでレベルが高いグループ活動や討論ができるようになります。

他の授業とやり方が違いますので、一回目のガイダンス授業には必ず出席してください。一回目の授業に参加していない場合、減点が生じる可能性があります。

中学校の社会科レベルの内容が身につけていること、新聞（特に国際面）をふだんから読んでいること、高校の社会科レベルの内容で授業に関連することは自分で学習すること、が条件です。

欠席したときの授業内容は必ず各自の責任で補ってください。就職活動であろうが部活動であろうが、欠席した人を特別扱いすることはありません。（病気による長期欠席の場合は早めに相談してください）

成績評価の方法

平常点と定期試験によります。参加人数が少なくなった場合、出席を取る可能性があります。一回目の授業に参加していない場合、減点が生じる可能性があります。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

指定する可能性はありますが、現時点で未定です。

その都度紹介します。

この文章は2010年12月時点に書いています。変更もあり得ます。最新の情報はYeStudyで確認してください。YeStudyに、前年度に履修した学生さんの感想やアドバイス、授業評価結果を載せますので、参考にしてください。

履修コード	128401
科目名	比較都市論
担当者名	内海 ^{うちうみ} 麻利 ^{まり}

講義の到達目標(ねらい)

経済成長を主目的に都市開発を進めた時代から、地域管理や経営という視点を含む持続的発展を目指した都市づくりが要請される時代へと移行しつつある。このような変化に対し今日の都市づくりは、経済のグローバル化に伴い国内外にわたる地域間競争にさらされ、持続可能性をもって地域ポテンシャルを高めることが期待されている。一方、地方分権改革により各都市独自の政策に基づき、固有の環境や景観、歴史や文化・産業などの資源を活かした個性豊かな都市のあり方が問われている。本講義では持続可能で個性豊かな都市づくりという観点から、諸外国と日本、日本における各都市について比較し、また、先進的な事例をとおして今後の都市政策における学生諸君の専門知識と理解を深めることを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

授業では、各回、今日的なテーマを設定し、様々な都市のデータ及び都市づくりに関する計画や政策、実践的な取り組み等を提示しながら下記のテーマを中心に講義を行う。詳しい授業スケジュールは、第1回目のガイダンスで提示する。

〔前期〕

- ・ガイダンス (1)
- ・景観・風景町並み (2-4)
- ・環境と共生した都市づくり (5-10)
- ・中心市街地の活性化と都市再生 (11-15)

〔後期〕

- ・都市づくりの仕組みと都市計画制度 (16-23)
- ・都市づくりと政策課題 (24-27)
- ・協働によるまちづくり (27-30)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

教科書や授業時に紹介する参考書を読み理解を深めるよう努力を払ってほしい。

授業への出席及びレポート、学期末試験の成績を中心に評価する。

内海麻利『まちづくり条例の実態と理論』第一法規株式会社、2010年、2,700円＋税、ISBN978-4474024991

参 考 書

各回の授業でレジュメを配布するとともに、関連する文献を紹介する。

履修コード	130201
科目名	比較メディア論
担当者名	横山 滋・岩崎 宇雄

講義の到達目標(ねらい)	(前期) (1) 印刷メディア、放送メディア、インターネット、それぞれのメディアの特性を理解し、それらを最も有効に利用するにはどうしたらいいか、 (2) それらのメディアを利用することが利用者の人格形成にどのような影響を与えているかを知ること (後期) 新聞業界の現況、多種多様なメディアが抱える諸問題、職業としての新聞記者のあり方、特に海外特派員の仕事ぶりなどを、実体験したエピソードをまじえつつ紹介する。 (前期) 1.オリエンテーション 2.
講義の内容／ 授業スケジュール 準備学習	言語の発生と口承文化 3.文字と印刷メディア ——グーテンベルク革命の意味 4.写真と映画 ——動き出す静止画像 5.ラジオ ——距離を超える音声 6.テレビの誕生と普及 ——動画・音声の同時送信時代へ 7.インターネット時代 8.メディアの諸特性とその表現形式(中間的まとめ) 9.マクルーハン再考 10.民主主義社会とメディア ——メディアは誰のものか 11.メディア規制とメディア・リテラシー 12.私たちとメディア (各回の講義内容は進度に応じて変わることがある。 (後期) (1-2) 新聞の歴史と将来 (3-4) ニュースの定義・分類 (5-7) 記者の資質・職業倫理・心得 (8) 記事の発掘・取材から紙面掲載まで (9) 誤報とスクープ (10) 国際報道と国際記者の哀歓 (11) 新聞ジャーナリズムへの批判 (12) 活字メディアと映像メディア (13) 戦争報道などを予定している。
準備学習 履修上の留意点	(前期) 日ごろ、自分がメディアとどう付きあっているのかを冷静に観察してもらいたい。 (前期) 間違えてもいいから、自分で考え判断することが大切であると思う。 (後期) 日ごろ、一定の時間を新聞熟読にあてること。一つのテーマを連続してしつこく追いかける姿勢が必要。
成績評価の方法	(前期) レポート(随時)と学期末の筆記テストで評価する。 (後期) 毎週のミニテストと学年末の筆記テストで評価する。
教科書／テキスト その他の	(前・後期) 教科書は使わない。毎回プリント・資料を配布する。 (後期) 毎回出席を取る。出席回数が3分の2未満だと成績評価の対象にならないので要注意。

履修コード	128501
科目名	北米政治論(1)
担当者名	三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)	主にアメリカの政治や社会についての理解を深めます。 授業内容ややり方は、受講者の人数や関心に応じて調整します。なるべく討論形式の授業にすることを目指します。 急に担当することになりましたので詳細は未定です。詳しい最新の内容はYeStudyで確認してください。
講義の内容／ 授業スケジュール 準備学習	アメリカ政治についての本や論文などを読み進めていきます。
履修上の留意点	ほぼ全ての回で授業までにすませる課題が出ます。準備をしたうえで授業にのぞむ必要があります。
成績評価の方法	詳しい内容はYeStudyを参照してください。 原則として定期試験、もしくは小論文によります。少人数の場合は出席と平常点によることもあります。
教科書／テキスト 参考書	未定。 その都度紹介します。

履修コード	128601
科目名	北米政治論 (2)
担当者名	三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)	アメリカやカナダの民族問題、移民政策や先住民政策を主に取りあげます。 授業内容ややり方は、受講者の人数や関心に応じて調整します。なるべく討論形式の授業にすることを目指します。 急に担当することになりましたので詳細は未定です。詳しい最新の内容はYeStudyで確認してください。
講義の内容／ 授業スケジュール 準備学習	アメリカやカナダの民族問題、移民政策や先住民政策についての本や論文などを読み進めていきます。 ほぼ全ての回で授業までにすませてくる課題が出ます。準備をしたうえで授業にのぞむ必要があります。
履修上の留意点 成績評価の方法	詳しい内容はYeStudyを参照してください。 原則として定期試験、もしくは小論文によります。少人数の場合は出席と平常点によることもあります。
教科書／テキスト 参考書	未定。 その都度紹介します。

履修コード	129801
科目名	マス・コミュニケーション論
担当者名	相田 敏彦

講義の到達目標(ねらい)	マス・メディア、とりわけテレビは、いわば空気のように、身近で、かつ、なくてはならないものというのが、私達大部分の実感といってよいと思います。しかしその身近さやおもしろさ、有用性などによって、メディアは実は気づかれぬ形で私達のものの方や考え方を、さらには感じ方までも形づくる大きな力の一つになっています。 この問題を掘り下げて考えていきます。 マスコミの二大分野、報道と娯楽を中心に検討します。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期：「カメラはウソをつかない」か。 新聞記者の「ペンがウソをつき得る」が、報道のカメラは事実をありのままに伝えてくれるのかどうか。 (1～7) ケーススタディ：大衆的なタブロイド紙の報道写真・記事・見出しに実際に当たってみよう。一見、中立的な写真を含む紙面全体によるある方向づけとは？<冗長度><エントロピー>とは？ (8～15) 写真を丁寧に読み解いてみよう。'平和行進'の場合、'パリ市庁舎前のキス'の場合、その他。 要するに、写真は記録？それとも解釈？
成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	後期：テレビドラマについて。 テレビドラマが持つ気づかれにくい深い影響力、ドラマによってつくられるイメージ、ドラマがわかるとは？ (16～22) 「意識培養分析」：ドラマによって、いつの間にか形成されるものの見方、感じ方。 (23～30) ソープオペラ（連続ホームドラマ）に見る女性イメージ、ジャンル理論、ドラマの'迫真性'について。<主体位置>とよばれる重要概念について：まず、名画を見ながら理解しよう。ついで、ドラマについてのこの概念の検討。 前期、後期とも、適宜、映像を見る時間をさしはさむ予定です。 レポートと学年末試験の成績を中心に評価します。 『構築主義メディア理論への招待』（八千代出版）（主として後半を使用） U. エーコ『記号論』I、II（岩波書店） 児島和人『マス・コミュニケーション受容理論の展開』（東京大学出版会）

履修コード	143802
科目名	民法（債権）
担当者名	上井 長久 うえい ながひさ

講義の到達目標(わらい)

本講義は、他人に対して、或る物を交付させること、または、或ることを為すことを要求する権利、すなわち債権についての実体的権利関係を総合的に考察するが、それを通して、債権をめぐる問題に対して精通するとともに、柔軟に解決できるように導くことを目標とする。そのように人が人に対して或る事柄を要求することを正当と認め、その請求の実現が当事者間ではかることが出来ない場合に、当事者の一方の訴えに基づき他方の責任を追求するために裁判所が力を貸す関係が債権関係である。そのような人と人の関係は、封建的な身分関係から生じるのではなく、周知のように近現代では多くは契約関係から生じる。その他に、契約関係がなくとも相互扶助、公平、損害補填等の要請に基づく事務管理、不当利得、不法行為などからも債権関係が生じる。

債権法は、その全てについて言えることではないが、合意優先ないし契約自由の原則の及ぶ領域においては、その規定が任意法規性のゆえに日常の経済生活では往々にして、合意により債権法規と異なる生活規範が設定され、また、それが許される法の範疇である。この範疇においては、日常生活の一定の基準たる債権法規の解釈と、その法規を排除した、より有益な準則を設定した生活関係の両方を理解することが必要である。

講義の内容 / 授業スケジュール

この講義は、債権総論と債権各論を講義の対象とする。まず債権法全体の仕組み、内容をひととおり説明したうえで、債権一般の通則たる債権総論、次いで債権発生の原因にあたる債権各論について逐条的かつ重点的に解明する。

第1回～第3回：債権の意義・性質・社会的機能、債権法の法源、債権法の特質・体系、第4回：債権の目的・内容、第5回：債権の効力——債務と責任、履行強制、第6回～7回：債務不履行責任、第8回：債権の対外的効力——債権者代位権、第9回：債権者取消権、第10回：多数当事者の債権関係——債権の共有・合有・総有、分割・不可分債権、第11回～12回：連帯債務、第13回～14回：保証債務、第15～16回：債権の譲渡、債務の引受、第17回：債権の消滅、第18回：契約総則——債権発生原因、契約自由の原則、契約の種類、第19回：契約の成立、第20回：契約の効力——同時履行の抗弁権、第21回：危険負担、第22回～23回：第三者のためにする契約、契約の解除、第24回：贈与、売買、交換、第25回：消費貸借、使用貸借、賃貸借、第26回：雇傭、請負、委任等の契約、第27回：事務管理、不当利得、第28回～30回：不法行為

準備学習 / 履修上の留意点

各回のテーマに関連する内容について条文および教科書を一読した上で講義に臨むこと。

債権法は、民法学の一分野であるから、必然的に民法の他の分野にも関連する。とくに債権を担保するための担保物権や民法全体の基本原則である民法総則などを扱う「民法I」も併せて履修することが望ましい。

成績評価の方法 / 教科書 / テキスト / 参考書

学年末の定期試験で行う。

我妻栄・有泉亨・川井健著『民法2 債権法（第三版）』（勁草書房）

川井健『民法概論3 債権総論』、『民法概論4 債権各論』（有斐閣）

内田貴『民法Ⅲ 債権総論・担保物権』、『民法Ⅱ 債権各論』（東京大学出版会）

稲本洋之助・上井他共著『民法講義5 契約』（有斐閣大学双書）

履修コード	127801
科目名	民法（総則・物権法）
担当者名	くまがい しせい 熊谷 芝青

講義の到達目標(わらい)

我々の日常生活は民法に支配されている。したがって、この社会で活動するには民法についてひととおりの知識がなければならない。市民の社会生活には財貨の生産、交換、消費、配分などを目的とする経済生活の面（これを規律する法が財産法）と種族保存を目的とする家族生活の面（これを規律する法が家族法）とがある。この財産法の領域の法が物権法と債権法である。これらの通則として総則がおかれている。本講義では民法第一編総則と第二編物権法について、基本となる知識を持てるようにしたい。その結果、資格試験等の基礎力が養成されることを願っている。

講義の内容／
授業スケジュール

前期（民法総則）

①民法とは何か、民法の歴史 ②民法の基本原則 ③権利の主体（自然人） ④法人（社団法人、財団法人） ⑤権利の客体（物とは） ⑥法律行為（意思の欠缺、瑕疵ある意思表示） ⑦無効と取消 ⑧条件および期限・期間 ⑩時効（取得時効、消滅時効）

後期（物権法）

①物権の意義、種類 ②物権の効力 ③物権の変動 ④占有権 ⑤所有権 ⑥用益物権 ⑦担保物権（法定担保物権） ⑧約定担保物権 ⑨非典型担保（譲渡担保、仮登記担保）

準備学習
履修上の留意点

指定教科書の該当頁を予習してくることが望ましいが、必要ではない。法律学の修得で大切なことは、繰り返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の実力上昇につながると信じている。

当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。

また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

学年末の定期試験により評価する。

我妻栄・有泉亨・川井健『民法』第三版①総則・物権（勁草書房）2200円

尾崎哲夫『はじめての民法総則』『はじめての物権法』『はじめての担保物権』（自由国民社）

履修コード	130001
科目名	メディア社会論
担当者名	あいだ としひこ 相田 敏彦

講義の到達目標(わらい)

メディアを構築主義理論によって掘り下げてとらえます。構築主義とは難しいことではなく、惰性化したものの見方に疑問符を突きつけることです。メディアはいくつかの意味で惰性化を生み出し、また、惰性化の上ののっているものといえます。メディアのなかのメディア、つまり根本的メディアは言語であることも重要です。

講義の内容／
授業スケジュール

(1～7) 構築主義とは何か

(8～15) 表象理論：反映的アプローチ、意向的アプローチ、構築主義的アプローチ、言語論的転回、記号論的視座、言説的視座、メディア分析1

(16～23) メディア分析2、権力、＜自然化＞

(24～30) 差異、ステレオタイプ、アイデンティティ

メディア関連の映像を見る時間を若干入れる予定です。

成績評価の方法
教科書／テキスト

課題レポートと学年末試験の予定だが、受講者の人数により、最終的に決定したい。

参考書

『構築主義メディア理論への招待』（八千代出版）（主として前半を使用）

竹内郁郎、他（編著）『新版メディア・コミュニケーション論』（北樹出版）

ラッシュ『情報批判論』（NTT出版）

その他、授業中に指示する。

履修コード	126701
科目名	ヨーロッパ政治史
担当者名	浦田 ^{うらた} 早苗 ^{さなえ}

講義の到達目標(おらい)

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること、及び現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

講義の内容/
授業スケジュール

①古代ギリシャ、ローマの政治社会 ②キリスト教と十字軍 ③宗教改革とルネサンス ④英仏百年戦争 ⑤アン・ブーリンとエリザベス ⑥英国革命とジャコバイト ⑦アメリカ独立戦争 ⑧フランス革命とナポレオン ⑨2月革命とナポレオン3世 ⑩第一次大戦 ⑪第二次大戦 ⑫統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

年2～3回とる出席点は学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した2題を出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書/テキスト

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

履修コード	129101
科目名	ヨーロッパ政治論(1)
担当者名	^{みかの} 中野 ^{ゆうじ} 裕二

講義の到達目標(ねらい)

本年度の「ヨーロッパ政治論(1)」は「フランスにおける移民・外国人問題」と題して講義します。基礎となる学問的傾向は政治社会学です。フランスは人種、文化、宗教の面で多様な人々をどのような理念・制度に基づいて社会に統合し、彼らと共存しようとしているのか。実際に移民・外国人の抱える困難は何か。政府や政治勢力は移民・外国人問題にどのように対応しているのか。こうした点の検討をとおして「国民とは何か」「多様な人々との共存はどのように可能か」を考えます。

講義の内容／
授業スケジュール

以下のスケジュールはあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて予定は変更されることもあります。

- 第1回 イントロダクション(授業概要、成績評価)
- 第2回 第1章 社会編成原理としてのフランス共和国(その1)(文化的多様性と共和国原理)
- 第3回 第1章 社会編成原理としてのフランス共和国(その2)(フランス的統合)
- 第4回 第2章 外国人労働者・移民問題の局面変化(その1)(高度経済成長期)
- 第5回 第2章 外国人労働者・移民問題の局面変化(その2)(オイルショック以降)
- 第6回 第2章 外国人労働者・移民問題の局面変化(その3)(「新しい移民」)
- 第7回 第3章 移民政策の変遷--1945年から1974年まで
- 第8回 第1回小テスト
- 第9回 第4章 2000年代以降の移民政策--「選別移民法」
- 第10回 第5章 移民の居住問題
- 第11回 第6章 雇用と失業から見る社会統合の現状
- 第12回 第7章 ムスリム系移民とスカーフ問題
- 第13回 第8章 「積極的差別政策」におけるフランス的モデル
- 第14回 第2回小テスト
- 第15回 第9章 平等・社会的統合を問い直す

準備学習
履修上の留意点

教科書と参考文献を事前に読んでおくこと。

「政治制度論」を受講済みであることを前提に授業を進めます。フランスを直接の対象としますが、「日本の移民・外国人問題は何か」「日本の共存理念は何か」という問題関心をつねに持って受講してください。

成績評価の方法

学生に期待される到達レベルは以下の通りです。

- ①フランスの移民・外国人問題および移民政策に関する歴史的経緯を説明できる。
- ②フランスの移民・外国人の抱える社会統合上の困難を説明できる。
- ③フランス共和国の原理と移民・外国人問題との関係を説明できる。

教科書／テキスト

以上の到達レベルに達しているかどうかを、期末試験と授業時間中の小テストなどを通して判断します。なお、授業中の意見・質問などの授業への積極的参加は、補助的に評価します。

参考書

宮島喬編『移民の社会的統合と排除：問われるフランス的平等』東京大学出版会、2009年、ISBN978-4-13-050174-3、3800円
 フランソワ・エラン『移民の時代』明石書店、2008年
 宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店、2006年
 宮島喬・若松邦弘・小森宏美編『地域のヨーロッパ』人文書院、2007年
 大山礼子『フランスの政治制度』東信堂、2006年
 田口富久治・中谷義和編『新版 比較政治制度』法律文化社、1999年
 中野裕二『フランス国家とマイノリティ』国際書院、1996年

履修コード	129201
科目名	ヨーロッパ政治論（２）
担当者名	なかの ゆうじ 中野 裕二

講義の到達目標(ねらい)

本年度の「ヨーロッパ政治論（２）」は「地域のヨーロッパ」と題して講義します。基礎となる学問的傾向は政治社会学です。

この講義は、先進諸国に今日生じている社会変化の特徴を、国際化を含む多層化、そして分権化あるいは地域化を基調とする再編成にもとめ、これをヨーロッパの事例に即して検証することを目的とします。この講義のキーワードは、民主主義、参加、自治、ガバナンス、トランスナショナル化、文化、言語、マイノリティ、排除、再開発などです。

従来、社会的組織化の基盤として絶対的であった国民国家の地位が揺らぎ、一方では国際制度などの超国家空間、他方では地域・地方空間の意味が増大しています。この講義では、後者の側面、つまり領域的には国民国家より下位レベルの空間に焦点をあて、地域・地方空間を準拠枠として生じている社会の再編を検討します。

講義の内容／
授業スケジュール

具体的には、上記の問題関心に基づき書かれたテキストに沿って進みます。以下のスケジュールはあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて予定が変更されることもあります。

- 第1回 イントロダクション（授業概要、成績評価）
- 第2回 1. グローバル化する社会における主体としての「地域」（その1）（グローバル化の中の地域）
- 第3回 1. グローバル化する社会における主体としての「地域」（その2）（地域概念の多様性）
- 第4回 2. 「領域性」概念の再検討（その1）（領域性とは）
- 第5回 2. 「領域性」概念の再検討（その2）（領域性の再編：イタリア）
- 第6回 3. 自治州国家スペインにおける「歴史的諸法」（その1）（自治州国家スペイン）
- 第7回 3. 自治州国家スペインにおける「歴史的諸法」（その2）（歴史的諸法から見るスペインの現在と将来）
- 第8回 4. 橋はまた架かるか（その1）（ボスニア紛争）
- 第9回 4. 橋はまた架かるか（その2）（共同体原理の相対化）
- 第10回 5. 新しい場所と土地の記憶（その1）（イングランドの国内移住）
- 第11回 5. 新しい場所と土地の記憶（その2）（アイデンティティ獲得と集団の形成）
- 第12回 6. シティズンシップとマイノリティ（その1）（エストニアにおけるロシア語系住民の地位）
- 第13回 6. シティズンシップとマイノリティ（その2）（多層的シティズンシップ）
- 第14回 7. 北アイルランドにおけるコミュニティの重層化と多様化（その1）（北アイルランド紛争）
- 第15回 7. 北アイルランドにおけるコミュニティの重層化と多様化（その2）（アイデンティティの多様性）

準 備 学 習
履修上の留意点

指定されたテキストの各論文を事前に熟読しておくこと。

この講義では各国・各地域を専門に研究している人々の論文を素材とするので、講義内容はヨーロッパ政治の「入門」ではないことに留意してください。ヨーロッパもしくは先進社会の変化に高い関心をもって授業に臨んでもらいたいと考えています。

成績評価の方法

学生に期待される到達レベルは以下の通りです。

- ①テキストで用いられる「地域」「領域性」概念を理解している。
- ②ヨーロッパ各国における「地域」の諸相を理解している。
- ③各論文の説明枠組みもしくは筆者の説明の仕方を把握している。

以上の到達レベルに達しているかどうかを、期末試験と授業時間中の小テストなどを通して判断します。なお、授業中の意見・質問などの授業への積極的参加は、補助的に評価します。

教科書／テキスト

宮島喬・若松邦弘・小森宏美編『地域のヨーロッパ』人文書院、2007年
(2200円、ISBN978-4-409-23044-2)

履修コード	129301
科目名	ヨーロッパ政治論 (3)
担当者名	<small>あせみ まさえ</small> 浅見 政江

講義の到達目標(ねらい)

27構成国からなる欧州連合(EU:European Union)では、2009年12月に新基本条約であるリスボン条約が発効しました。この条約により、EUには「大統領」が誕生する、「外務大臣」が誕生するなど報道されています。しかし、考えてみると、そもそも国家でもないEUに、大統領や外務大臣ポストが必要なのでしょうか？ いやそれ以前に、リスボン条約が規定している「大統領」や「外相」とは、そもそもどのような職責が与えられているのでしょうか？ 本講義では、このような素朴な疑問から出発して、新条約に基づくEUのガヴァナンスの実相を明らかにしていきたいと思えます。

国家ではないものの、国家に相当するほどの権限をもつEUのガヴァナンスは複雑怪奇です。かつ、EUのガヴァナンスは27構成国の領域、すなわち、ほぼ欧州全域をカバーするに至り、現代欧州の政治を理解するためには、このEUに対する深い理解が不可欠です。

さらに、なぜEUが今日のようなガヴァナンスを提供するようになったのか、という歴史的背景を理解することもまた非常に重要です。

以上のような観点から、本講義では、現在のEUに関する理解を深めるとともに、EUが誕生した歴史的背景に関する知識の習得を目指すこととします。

そのためには、政治学、国際政治学をはじめ、第二次世界大戦後の欧州地域の国際関係史、場合によっては経済学といった諸学問領域に関する基礎知識が必要になります。講義では、これら基礎知識の確認も行いつつ、専門的な「EU論」を展開したいと考えています。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1クール ガイダンス(1回)
- 第2クール EUの構成国(1回)
- 第3クール EUのガヴァナンス(4回)
- 第4クール EUの歴史(4回)
- 第5クール 総括：21世紀のEU(1回)

成績評価の方法
教科書／テキスト

定期試験(最終講義日に実施)と平常点(出席点と課題)
特定のテキストは使用しませんが、毎回レジュメを用意します。
参考文献は講義中、適宜紹介します。

履修コード	129401
科目名	ヨーロッパ政治論 (4)
担当者名	<small>あせみ まさえ</small> 浅見 政江

講義の到達目標(ねらい)

1989年11月9日、冷戦の象徴だったベルリンの壁は崩壊し、翌1990年10月3日にドイツは再統一を果たしました。この再統一から数えてすでに20年以上の歳月が流れました。

今期は、ドイツ再統一を歴史的に再評価してみたいと思えます。ドイツの再統一によって、欧州における冷戦はまさに終焉し、ドイツも欧州も新時代へと歩みを進めたわけですが、その新時代には多くの矛盾、課題、難問が立ちはだかっています。新時代の先駆けとなったドイツ再統一プロセスを検証し、その功罪を、現代的視点から捉え直し、多角的視点で再評価することが本講義の目的です。

再統一プロセスを再検証するに際しては、数多く残された映像資料を利用しつつ、臨場感を味わいながら、当時の状況を把握してもらいます。

ドイツの再統一は、事実上、西ドイツによる東ドイツの吸収合併でしたので、現在のドイツの政治制度は、改編は加えられたものの、基本的には西ドイツの政治制度が援用されています。ドイツ政治制度に関する理解を深めることも、ドイツ再統一を再評価するためには必要不可欠ですので、ドイツの政治制度に関する説明から講義を開始します。

その上で、ドイツ史を紐解き、第二次世界大戦後のドイツの歩みを検証し、再統一プロセス、その後20年のドイツに関して講義していきます。同時にドイツに関する興味関心も喚起したいと思えますので、ドイツの文化、芸術、スポーツといったソフトな話題も提供していく予定です。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1クール ガイダンス(1回)
- 第2クール ドイツの政治制度(5回)
- 第3クール ドイツの歴史(3回)
- 第4クール ドイツ再統一の光と影(2回)

履修上の留意点

ドイツを対象に講義を行います。特段ドイツ語の知識は必要ありません。ただ、講義内容を正確に理解し、理解を深めるためには講義中提示した参考文献の手助けが必要です。講義に欠かさず出席することはもちろんのこと、講義を発展的に活用する意気込みのある人の履修を期待します。

成績評価の方法
教科書／テキスト

定期試験(講義最終日に実施)と平常点(出席点と課題)で評価します。
特定のテキストは使用せず、講義内容に関連するレジュメを配布する予定です。参考文献は、講義中、適宜紹介します。

履修コード	116801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂 <small>ふじもと しげる</small>

講義の到達目標(ねらい)

今日、労働法の対象である雇用社会は、リストラ、解雇や能力主義人事管理の導入などが行われ、日本型雇用システムの見直しがなされています。

労働法は、雇用社会において生じる紛争(労働問題)を解決する法分野です。今日の雇用社会の変化に無関係ではられません。

この変化は労働法の法制定・改正に大きく関わってきます。特に、労働時間法、労働契約法、雇用平等法などです。

講義では、雇用関係法領域を中心に、雇用社会の変化を頭の隅に置きつつ、これまで形成定着した労働法理の基礎を学びます。また、変化する法制度を学びます。こうして、主に雇用関係法領域を概観し現代的課題に対して自ら考える視座を身につけてもらうことをねらいとしています。

下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。

1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。

以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急ぎよ変更することもあります。また、授業中の理解の様子によって変えることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。

- 第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野
- 第2回 労働法の基礎的考え方
- 第3回 日本型雇用システムの変化と労働法
- 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合
- 第5回 労働契約と労働契約法
- 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保
- 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味
- 第8回 調整
- 第9回 雇用における平等① 労基法3条
- 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止
- 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法
- 第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則
- 第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則の法的性質
- 第14回 労働条件の集団的決定③ 就業規則による労働条件変更
- 第15回 調整
- 第16回 雇用の入口① 採用
- 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度
- 第18回 人事異動 配転
- 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了
- 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制
- 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用
- 第22回 調整
- 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など
- 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金
- 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制
- 第26回 労働時間② 変形制度など
- 第27回 労働時間③ 労働時間の例外
- 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質
- 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休
- 第30回 調整

準備学習

教科書を読むこと(少なくとも授業の進捗に応じて、行われている単元箇所はあらかじめ読んで授業に臨んでください)。新聞を読むこと。雇用問題に関する新書などを読むこと。

履修上の留意点

出席は義務。欠席はOUT。途中退席は不可で欠席扱い。非常の場合は申し出ること。携帯電話はOFF。私語は厳禁。つまりは授業のマナーを厳守。

授業は、主に、配布するレジュメと資料を使って行います。レジュメには取り上げる項目を挙げた詳細目次です。内容は授業で埋められていきます。ノートをとることが必要です。ノートをとること＝板書を写すことと思っている人がいますが、少なくとも本講義ではそうではありません。講義で大事なところを自分の理解したところに従って要約して記すことと心得てください。教科書は予習復習には欠かせません。

また、憲法、民法総則、債権総論、債権各論、社会保障法、社会政策といった近接した専門科目も履修すること(あるいは履修済みであること)が望ましいと考えています。

成績評価の方法

学年末試験(論述式)がメインで、受験をしていないと評価は出しません。気をつけてください。また、レポート、中間試験や出欠も評価対象です。これらを総合的に評価して、成績を決めます。追試験は実施します。

教科書/テキスト

教科書は、六法とやらんで学修上の必要アイテムです。受講生各自の熱意に相応するものを選んでください。

よくわからないという方には、ひとまず、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ[第2版]』（エイデル研究所 2010）を掲げておきます。物足りなさを感じる受講生は、相談して下さい。第1回ガイダンスで配るプリントにもいくつか紹介するつもりです。

参 考 書

参考書は、労働判例百選第8版（別冊ジュリスト）など。

六法は用意して下さい。六法は、法改正がありますから、最新のものを用意すること。また、労基法施行規則の載っているものがが必要です。詳しくは、第1回目の授業で紹介します。

そ の 他

各項目についてイメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。

専 門 教 育 科 目

2. 経 営 学 部

経営学科

経営学科フレックスA

市場戦略学科

経営学科フレックスB

履修コード	141201・332701
科目名	アメリカ経営学
担当者名	みやぎ 徹

講義の到達目標(ならい)

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必修科目である「経営学」の授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の9つの要目について検討する。その際、日本の企業との関連についても検討を加える。

講義の内容
授業スケジュール

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数(ただし、期末試験日を入れて)から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数(合計29回)で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

(2011年度『アメリカ経営学』授業計画)

- I 1年間の授業の概要 (1)
- II 経営学の対象と方法 (2)
- III 意思決定と権力(パワー:マハト)(2)
- IV 戦略(特に提携、グループ、ファミリー)(2)
- V 取引コスト理論(6)
- VI プロパティ・ライツ理論(4)
- VII プリンシパル-エージェント理論(5)
- VIII 契約の理論(3)
- IX 企業のモジュラー化(4)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

参 考 書

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』(税務経理協会)1983:1999年
- 2 宮城徹『企業制度とプロパティ・ライツ理論』『商学研究科紀要』(早大、第20号)1985年
- 3 宮城徹『情報と企業経営の理論的諸問題』日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』(千倉書房)1987年
- 4 宮城徹『経営者論』鈴木英寿編『経営学総論』(第2版)(成文堂)1989:1999年
- 5 宮城徹『経営学の歴史』藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』(学文社)1983:1993年
- 6 宮城徹『組織の経済理論の基礎構造』日本経営学会編『現代経営学の課題』(千倉書房)1997年
- 7 宮城徹『企業統治の研究の統合の一試論』『駒大経営研究』第31巻 第1・2号、2000年
- 8 宮城徹(単独訳書)『情報時代の企業管理の教科書—組織の経済理論の応用—』(税務経理協会)2000:2009年(A.Picot u. a., Die grenzenlose Unternehmung, Gabler, 1998)
- 9 宮城徹(共訳書)『新制度派経済学による組織入門』(白桃書房)1999:2007年(A.Picot u. a., Organisation. Eine ökonomische Perspektive, Schaffer-Poeschel, 1997)
- 10 宮城徹『企業文化と組織の経済理論』遠山正朗編著『ケースに学ぶ企業の文化』(敬愛大学学術叢書)(白桃書房)2003年
- 11 宮城徹(訳稿)「民主的な経済政策と社会政策の理論的基礎—O. ウィリアムソンの貢献*—」

*Ingo Pies: Theoretische Grundlagen demokratischer Wirtschafts- und Gesellschaftspolitik—Der Beitrag Oliver Williamsons, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S. 1-27. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年)

12 宮城徹(訳稿)「取引対相互作用、特異性対拡散効果および結束した行為者のレーゾンデートル—組織の経済学の構想の新しい志向を求めて*—」

*Ingo Pies: Transaktion versus Interaktion, Spezifität versus Brisanz und die raison d'être korporativer Akteure—Zur konzeptionellen Neuausrichtung der Organisationsökonomik, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S. 95-119. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年)

ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文・訳書だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介してゆく。

履修コード	140851
科目名	e-ビジネス
担当者名	やすおか ひろみち 安岡 寛道

講義の到達目標(ねらい)	日々進化するe-ビジネスを概観し、経営学の一つとして体系立てて理解することを目的とする。また、社会人になる、さらにはいつの日か起業する際の基礎知識として準備することも目的としたい。
講義の内容/ 授業スケジュール	下記のステップでe-ビジネスの講義を行う。 <前期> e-ビジネスの講義概要の紹介、e-ビジネスの定義と状況、BtoCビジネス、e-マーケティング(広告等)、BtoBビジネス、EC(電子商取引)のプロセス(物流・決済) <後期> BtoBtoCビジネス、媒体等のビジネス事例(ポータルサイト、ネット広告、オンラインゲーム等)、電子マネーと周辺ビジネス、技術動向、ビジネスモデル特許、イノベーションの視点 e-ビジネス関連(電子マネー含む)の書籍を少しでも読んでおいてもらいたい。 e-ビジネスの授業であるため、日ごろからインターネットを中心に、PC・ケータイ、および雑誌・新聞・TVのニュースなどを見て、自分なりの考えを持ち、電子マネー・おサイフケータイ、EC(電子商取引)などにも馴染んでもらいたい。
準備学習 履修上の留意点	夏休み明け(授業内に回収)と年度末の2つのレポートで基本的に評価する。なお、毎回の出席状況もできるだけ考慮する。
成績評価の方法	
教科書/テキスト	・e-ビジネスの教科書[第三版]創成社、2100円、 ISBN-13: 978-4794423313
参考書	・野村総合研究所『企業通貨マーケティング』東洋経済新報社、1700円、 ISBN978-4-492-55603-0 C3034 ・野村総合研究所『2015年のIDビジネス』東洋経済新報社、2000円、 ISBN978-4-492-55642-9 C3034 ・野村総合研究所『電子決済ビジネス』日経BP社、1890円、 ISBN-13: 978-4822248154 ・中村忠之『e-ビジネス教室』、中央経済社、2310円、 ISBN-13: 978-4502397905
その他の	授業の合間で、e-ビジネスの立上げの経験論なども交えて講義する。
関連リンク	講師発表の電子マネー関連の資料は以下のURL http://www.fsa.go.jp/frtc/kenkyu/event/20090331/11-2.pdf http://www.nri.co.jp/publicity/mediaforum/2010/pdf/forum137.pdf

履修コード	143601
科目名	イノベーション論
担当者名	はわたし ようこ 羽田 尚子

講義の到達目標(ねらい)	経済システムにおいて、イノベーションの役割と影響は非常に大きい。イノベーションは生産性の向上をもたらし、企業や経済の成長や浮沈を左右し、社会や生活のあり様をも変えてしまう。本講義の目的は、イノベーションに関する経済学の基本を理解し、イノベーションの創出、活用および促進に取り組むための基礎的知識を、体系的に学ぶことである。
講義の内容/ 授業スケジュール	イノベーションは「新しいものを変える、既存のものを変える」といった幅広い概念で用いられているが、本講義では、新製品、新サービス開発および改良といった経済システムにおけるイノベーションを対象とする。経済学の立場から、イノベーションに関わる企業や産業、知的財産権制度や技術政策などについて考察していく。
履修上の留意点	【前期】イノベーションに関する経済学の基本、イノベーションプロセス、公的研究モデルと市場モデル、イノベーションにおける大学・政府の役割、産学連携、商業化する大学、知的財産権とイノベーション、パテントプール 【後期】経済成長への影響、ベンチャーキャピタル、バイオベンチャー、企業におけるイノベーションの役割、製品アーキテクチャと組織、技術戦略、組織のイノベーション、イノベティブな組織、研究開発プロジェクトの評価
成績評価の方法	初歩的数学を使うことがある(解説はその都度加える)。 経済学の基本的な知識があると望ましい。 年度末の筆記試験(1回)と小レポート(講義内容を理解する為に、講義時間内に複数回実施)を実施する。定期試験70%、小レポート30%で総合的に評価する。なお、講義への参加態度も成績評価に加味する。
教科書/テキスト	一橋大学イノベーション研究センター編「イノベーション・マネジメント入門」(日本経済新聞社)2800円
参考書	延岡健太郎「MOT技術経営入門」(日本経済新聞社)3000円 小田切宏之「企業経済学」(東洋経済新報社)3800円 小田切宏之「バイオテクノロジーの経済学」(東洋経済新報社)3200円

履修コード	146811
科目名	演習Ⅰ
担当者名	青木 <small>あおき</small> 茂樹 <small>しげき</small>

講義の到達目標(ねらい)

この演習の目的は、マーケティングや流通に関するフィールドワークやケーススタディをグループで行いながら、現場での課題を発見し、実際の社会に対して新たな切り口で企画・提案していくことである。今日、様々な情報が渦巻く社会では、本質的な課題を発見し仮説を創造する力や、これを検証する様々な情報収集の仕方、これを論理的に説明していく力が必要である。こうした姿勢や作法を学生時代に体得しているか否かは、社会の舞台にたったときのスタート時から大きな差となるであろう。

講義の内容／
授業スケジュール

こうしたゼミ活動を通じて、今日、社会人基礎力といわれる12の力、①Action（主体性、働きかけ力、実行力）、②Thinking（課題発見力、計画力、創造力）、③Teamwork（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）を養う。事前・中間・事後で、個々人のこれらの到達度を測り、将来の職業適性などに応じた指導も合わせて行う。

1. 前期 プロジェクト・マネジメントの手法、フィールドワークの手法、企画書の書き方をまずは学ぶ。課題となるテーマや対象を設定し、グループにて議論を進める。
2. 夏休み 夏合宿（9月）&OB・OG会 合宿では、前期のグループ研究の発表を行う。そのために自主的な研究会を開く場合もあろう。
3. 後期 グループ研究を深める者と、個人研究を深める者に分かれる。ゼミ時間外に研究活動を進めながら、ゼミでは経過報告とアドバイスを貰う機会とする。基本は自分達が一番やりたい研究を行うことである。
4. 冬休み 完全休み
5. 春休み OB・OG会。

履修上の留意点

学生の主体的な研究意欲や向上心によってゼミは牽引されるものであり、教員はアドバイザーやサポーターに徹する。もちろん無断欠席はありえない。

成績評価の方法

ゼミ活動全般を通じて、総合的に評価する。すべてにパーフェクトな人間はいない。むしろ個々人の関心や持ち味を生かしてゼミ運営に参加・貢献していることを高く評価する。

教科書／テキスト

皆さんの研究や将来の職種の興味を伺いながら、演習時にテキストを決めていく。

履修コード	146901
科目名	演習Ⅰ
担当者名	阿部 <small>あべ</small> かずひと

講義の到達目標(ねらい)

会計監査論は会計学の領域の一部であるが、簿記・会計学を学習した後でないといふと会計監査論を体系的に理解することは難しいかもしれない。

そこで本演習では、会計学の基本的文献をとりあげ、輪読する。財務諸表論をとり上げる。

講義の内容／
授業スケジュール

成績評価は、出席状況、報告発表、レポート等により総合的に判定する。

成績評価の方法

開講後、指示する。

教科書／テキスト

授業中において適宜指示する。

参 考 書

履修コード	146201
科目名	演習Ⅰ
担当者名	飯田 <small>いいた</small> 哲夫 <small>てつお</small>

講義の到達目標(ねらい)

この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに裏づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。問題に応じて、様々なモデルがありますが、この演習では、それらの中の基礎的なものを中心に学習していきます。

また、数理モデルを用いた分析には、コンピュータの利用を前提とするものが多くあり、それらの分析を行うためのコンピュータの利用技術についても基礎的なところから学習していきます。

講義の内容／
授業スケジュール

基礎的な数理モデルの知識および、コンピュータの利用に関する知識の習得のために、ゼミのメンバーによる輪読およびコンピュータ演習を行います。

履修上の留意点

このゼミは学生の主体的・積極的な参加を前提としています。また、数理モデル分析やコンピュータの高度な利用方法を学ぶため、ある程度は数学的知識やコンピュータに慣れていることが望まれます。具体的には、「経営数学」「情報処理基礎」を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

平常点（出席とゼミへの積極性）、課題のレポートと発表により総合的に評価します。

教科書／テキスト

用いる教科書や参考書については最初のゼミのときに紹介します。

履修コード	146821
科目名	演習Ⅰ
担当者名	石名坂 邦昭 <small>いしながさか くにあき</small>

講義の到達目標(ねらい) 経営学部の学生として必要な基本的知識を身につけてもらう。

講義の内容／
授業スケジュール 前期において、経営学の基本的知識を習得するための授業を行う。後期は、それぞれのテーマについてレポートを書いてもらい、それをもとに発表し討議を行う。

履修上の留意点 授業には毎回出席のこと。

成績評価の方法 平常の授業への取り組みと、レポートにて採点する。

教科書／テキスト 必要なときに指示する。

履修コード	147001・335301
科目名	演習Ⅰ
担当者名	鹿嶋 秀晃 <small>かしま ひであき</small>

講義の到達目標(ねらい) 研究テーマは現代日本企業の人事労務管理。大学生活の中で、ゼミは最も勉強に打ち込み、一番思い出になるところだと考えます。よって、積極的に勉強し、行事を企画し、みんなで楽しくゼミを過ごしたいという学生を採用します。

講義の内容／
授業スケジュール 現代の日本企業とそこに働くサラリーマンが抱える問題に関して、入門書と専門書を読んでいきます。企業と労働、社会について幅広い関心を持ち、科学的に考える力を養います。サブテーマは「終身雇用」「年功賃金と能力主義」「日本の経営」「女性労働」「日本の労使関係」「会社人間」「過労死」ほか。2か月に1冊のペースで本を読みます。受講者全員があらかじめテキストを熟読し、中から報告者(レジュメを作成)、コメンテータを決め、その2人を中心に議論をしていきます。最近の新聞から企業経営や労務に関するものを切り抜き、コメントを加えてプレゼンテーションすることもやっています。4年次は卒論作成中心。

準備学習
履修上の留意点 日常的に新書や経済新聞等にも目を通して、関心を広げておくこと。
カリキュラムの特性上、本演習は経営学科生対象。無断欠席は単位認定なし。行事もゼミの一環なので必ず出席のこと。

成績評価の方法
教科書／テキスト 出席点、講義中の発表・発言、レポートを総合して判定。
適宜指示。過去のテキスト例。熊沢誠『働きすぎに斃れて』、大内伸哉『雇用はなぜ壊れたのか』、濱口桂一郎『新しい労働社会』、佐藤博樹編著『人事マネジメント』、G.オルコット『外資が変える日本の経営』など。

参 考 書
そ の 他 演習時に適宜紹介。
鹿嶋ゼミの特徴は、2～4年のゼミ生間に交流があることです。履修希望者は、必ず経営労務論を履修のこと。他のゼミ活動には、ゼミ書評、全国コンテスト参加などがあります。詳しくはWEBページ参照のこと。

関 連 リ ン ク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/>

履修コード	146301
科目名	演習Ⅰ
担当者名	片桐 伸夫 <small>かたどり のぶお</small>

講義の到達目標(ねらい) このゼミは3・4年次(演習Ⅱ・Ⅲ)で「就職希望会社の経営分析」を行うことを目的とします。(経営分析の内容については、演習Ⅱの講義のねらいをごらんください。)

講義の内容／
授業スケジュール 2年次(演習Ⅰ)では、その準備として、日商簿記検定2級にチャレンジしてもらいます。
2級商業簿記：春休み3月にプレゼミ4回(8コマ)と(1-10)、2級工業簿記(11-20)、受験対策、(21-30)。以上は大まかなスケジュールですが、日商簿記検定は6月、11月、2月にあるため、個人々に合わせ、再受験対策もします。

履修上の留意点 このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心とします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向きのゼミです。(なお、日商簿記検定2級取得者で1級にチャレンジする人は、独学or経理研究所or専門学校1級コースで一通りを学習していることを前提に受験対策のみ指導します。1級は2級の4倍程度の学習範囲があり、演習Ⅰでは対応できないためです。)

成績評価の方法
教科書／テキスト 成績評価の方法は平常点100%です。
私が作成したものを差し上げます。

参 考 書
そ の 他 問題集等、随時、紹介します。
プレゼミも行います。
ゼミ入室の決定方法は面接(志望理由書(500字程度)事前提出)とテスト(演習Ⅰは1年次学習中の簿記)によります。
なお、いうまでもなく無断欠席と遅刻は厳禁です。以上の方針に見合う、学習意欲十分な学生諸君の参加を希望します。

履修コード	146701
科目名	演習 I
担当者名	かわむら ^{えいてつ} 兼村 栄哲

講義の到達目標(ねらい)

社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、①主体的懸隔、②量と組み合わせに関する懸隔、③情報の懸隔、④空間的懸隔、⑤時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換（の連鎖）を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング（「流通」とほぼ同義）と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング（いわゆる「マーケティング」）に大別される。

マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。

本演習のねらいは、履修者の一人ひとりが、こうしたマーケティングにかかわる諸現象を体感し、当該現象について自分なりに論理的に説明できるようになることにある。

演習は、講義科目とはまったくその性格が異なっている。最低限、予・復習することはもちろんのこと、授業時間内においても積極的に参加することが要求される。このことは、「たんに出席し、ノートをとる」ことを意味するのではない。以下の5つが、私が皆さんに最低限要求する内容である。

1. 通常の演習においては、まず経営学に関する小テストをおこなう。次に、マーケティングに関する基本的なテキスト（下記に示す『マーケティング入門』）を全員で輪読し、基礎的な概念や理論を学ぶ。
2. 年に1・2回、4～5人のグループで、マーケティング（論）にかかわるいくつかのテーマについて調べて、その内容を発表する。
3. 4～5人のグループで業界研究をし、A4サイズで100枚以上のレポートにまとめる。そして、その概略を冬（ないし春）合宿で発表する。
4. 夏休みの工場見学に参加する。その前提として、各工場について、それぞれのグループで20以上の質問を考える。
5. 東京都が主催する「学生起業家選手権」および日刊工業新聞主催の「キャンパスベンチャーグランプリ」に参加する。

下記に示す『テキスト経営学』および『マーケティング入門』の指定箇所を理解する。

1. 通常の演習のみならず、合宿その他の課外活動にも参加すること。同時に、たんに出席するのではなく、自発的に自分なりの疑問や意見を示すなど、積極的に参加すること。
2. お互いの親睦を図ること。
3. 授業開始後、諸般の事情で履修を取りやめる場合には、必ず事前にその旨を申し出ること。

準備学習
履修上の留意点成績評価の方法
教科書/テキスト

小テスト、出席状況、授業態度、発表内容、レポート内容等による総合的な評価
井原久光（著）『テキスト経営学－基礎から最新の理論まで－』（第3版）ミネルヴァ書房、2008年、3,360円。

（ISBN：978-4-623-05129-8）

小川孔輔（著）『マーケティング入門』日本経済新聞出版社、2009年、3,990円。

（ISBN：978-4-532-13369-6）

宮澤永光（監修）『基本流通用語辞典』（改訂版）（白桃書房）2007年、2,625円。

（ISBN：978-4-561-75169-4）

宮澤永光・亀井昭宏（監修）『マーケティング辞典』（改訂版）（同文館）2003年、2,940円。（ISBN：4-495-63492-5）

その他については、適宜紹介する。

参 考 書

履修コード	147161
科目名	演習 I
担当者名	河合 <small>かわい</small> 由佳理 <small>ゆかり</small>

講義の到達目標(ねらい)	本講義は、国際会計を学ぶための基礎学習を目的としています。会計は企業活動を数値で記録・報告するビジネスの言語としての役割を担い、ビジネスの世界では欠かすことができません。そこで、前期の6月頃までは、簿記の演習(日商簿記検定3級レベル)を行い、その後、会計学の親しみやすい文献を輪読することによって、会計理論に関する基本的な知識を身につけるようにします。また、授業の中ではテーマに関連した企業の実例を題材に、皆で意見交換をしながらさらに理解を深めることも目指します。
講義の内容／授業スケジュール	前期(6月の簿記検定まで): 簿記の学習 簿記の学習後: テキストを用いて、ゼミ生による報告をしてもらいます。報告者以外は、毎回、必ず質問するように心がけること。
準備学習	本講義は、週ごとに報告の担当を決めるため、報告資料の作成、財務データの収集等、事前準備が不可欠です。
履修上の留意点	授業は、受講生の報告・討論をベースに進める予定のため、無断欠席・遅刻は認めません。また、日商簿記検定3級から2級程度の知識を有するか、今後、検定を受験する意欲をもっている人の受講を希望します。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席状況と授業への取り組みを総合して評価します。 授業中に指示します。

履修コード	146831
科目名	演習 I
担当者名	菅野 <small>かんの</small> 佐織 <small>さおり</small>

講義の到達目標(ねらい)	演習Iの目的は、マーケティングの基礎研究を通じて「マーケティングの基礎知識」と「問題発見能力」を養うことです。このゼミでは、マーケティングのテキストを輪読し、基礎知識を学ぶとともに、ゼミ生同士で議論することで、研究すべき問題の発見を行います。また、グループ毎に研究テーマを設定し、二次データの分析から仮説の導出、一次データの収集およびデータ分析による仮説の検証といった一連のプロセスを通して、研究の進め方についての理解を深めます。最終的な結果は、論文または報告資料としてまとめていきます。
講義の内容／授業スケジュール	・テキストの輪読 ・グループ毎でのテーマ研究 ・研究発表会 ・論文執筆
準備学習	ゼミ以外の時間にも自主的に勉強をする必要があります。マーケティングの本や論文だけでなく、心理学、社会学、社会心理学、文化人類学等の本や論文、さらには英語の論文も進んで読むようにしてください。
履修上の留意点	このゼミでは、次のような人が向いています。 ・マーケティング、消費者心理の問題や、消費者調査などのマーケティング・リサーチに興味がある。 ・ゼミの勉強を優先する。 ・自ら問題を設定し、責任を持って最後まで取り組むことができる。 ・時間をまもることができ、且つ他者とのコミュニケーションを大切にしながら課題を遂行できる。 ・他大学の学生と勉強することで自分を高めたい。(詳しくはネットで「関東10ゼミ討論会」を検索してみてください。)
成績評価の方法	ゼミへの貢献度、出席の状況、毎回の課題への取り組み度合いを総合的に判断して評価します。なお、自己評価および他のゼミ生からの他者評価によっても評価をします。
教科書／テキスト 参考書 その他	授業で適宜お知らせします。 継続力と強い精神力、礼儀を持つ人を歓迎します。遅刻、欠席が多い人、やる気の低い人には、ゼミの途中で辞めてもらうことがあります。また、何かを楽しむためには、ある一定以上の知識が必要となるので、ゼミ以外の時間にも進んで勉強するようにしてください。

履修コード	145801
科目名	演習 I
担当者名	岸田 ^{きした たかゆき} 隆行

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、原価計算について計算の理論的背景を探り、原価計算で行われているような計算方法がなぜ必要なのかを探求していく。また、原価計算が経営管理において、どのような機能を持ちうるのかを管理会計的な側面から追求していく。

講義の内容／授業スケジュール 原価計算に関する知識の習得を目的として、原価計算に関するテキストを読み進めていく。受講者の報告および報告内容についての討論を中心として、原価計算の理論に対する理解を深めていく。また、練習問題を解いていくことによって、計算力も高めていく。

準備学習 担当箇所での報告では、指定されたテキストだけでなく、様々な文献を読んだ上で報告を行ってほしい。また、報告者以外の受講生も事前にテキストを熟読し、質問を考えた上で参加してほしい。

履修上の留意点 積極的にゼミ活動に参加してほしい。

成績評価の方法 報告の内容、ゼミへの参加程度により総合的に評価する。

教科書／テキスト 開講時に指示する。

参考書 適宜紹介する。

履修コード	335001
科目名	演習 I
担当者名	岸田 ^{きした たかゆき} 隆行

講義の到達目標(ねらい) 原価を知ることはマネジメント・コントロールの基礎であり、原価を知ることなくして、経営を理解することは困難である。近年は経営環境の変化が著しく、原価計算・管理会計も経営環境の変化に対応すべく、様々な技法が編み出されている。しかし、それらの新技法が実際に有効であるのか、またあらゆる企業に適合するのかが明らかではない。本演習では現代的な経営環境の中で、原価計算がマネジメント・コントロールにおいてどのような役割を果たすかについて理解を深めていく。

講義の内容／授業スケジュール それぞれのテーマについて担当者を割り当て、担当箇所についてレジュメを作成し、報告してもらい、報告内容について受講者全員でディベートを行う。

準備学習 担当箇所での報告では、指定されたテキストだけでなく、様々な文献を読んだ上で報告を行ってほしい。また、報告者以外の受講生も事前にテキストを熟読した上で、議論に参加することが望ましい。

履修上の留意点 積極的にゼミ活動に参加してほしい。

成績評価の方法 報告の内容、ゼミへの参加程度により総合的に評価する。

教科書／テキスト 開講時に指示する。

参考書 適宜紹介する。

履修コード	146501
科目名	演習 I
担当者名	高井 徹雄 <small>たかい てつお</small>

講義の到達目標(ねらい)	<p>ブロードバンドで繋がったインターネットを基盤とするIT(情報技術)は、今日の企業経営また社会・経済システムを捉えるうえでも最も重要なキーワードとなっています。皆さんは、真の意味で、情報が価値を持ち、情報が価値を生み出す時代に生きています。このような時代、企業や官庁のスタッフとして、また将来はエグゼクティブとして、「情報エリート」を目指すならば、少なくとも以下の能力が要求されると考えます。</p> <p>(1) 発見力：与えられるのを待つのではなく、自分で問題を見つける能力。 (2) 洞察力：問題に関係する必要な情報を選別する能力。情報を分析し問題の本質を洞察する能力。 (3) 表現力：分析結果を集約し、解り易くプレゼンテーションする能力。 (4) 解決力：他者と協力しあって、具体的な問題解決を図る能力。</p> <p>皆さんに、こうした素地を養って頂くことを狙いとして、各週の演習、および年2回の合宿(1回は勉強、もう1回は親睦を主目的とする)における題材と環境を用意します。主体的にゼミに参加されることを願っています。およそのスケジュールは以下のとおり。受講生とコミュニケーションをとりながら、理解度や興味の方角を見極めながら進めて行きます。</p> <p>4-7月：情報リテラシ・・・文書作成、HTML作成、スプレッドシート基礎・応用 6月：ソフトシステム方法論・・・演習IIと合同ゼミ合宿、SSMで社会的問題を扱う 9-12月：計算機言語・・・スプレッドシートマクロ、Delphiプログラミング 毎回出席して、適宜出される課題・レポート等に応えられるよう、課外学習の時間を確保してください。</p> <p>毎回、コンピュータールームにおいて実習形式で授業を行います。 実習形式の授業は、全体が同じペースで学習を進めていく必要がありますので、極力欠席しないようお願いいたします。</p> <p>毎回出席をとります。また、前期・後期各1件程度、学習内容に応じてHTML作成やプログラミングなどの課題を出します。これら平常点により評価を行いますので、筆記試験は行いません。 輪読を行う場合は、皆さんと相談のうえ、適切な教科書を指定します。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	
準備学習	
履修上の留意点	
成績評価の方法	
教科書／テキスト	

履修コード	145101
科目名	演習 I
担当者名	高木 克己 <small>たかき かつみ</small>

講義の到達目標(ねらい)	<p>本ゼミナールでは、3年間を通じて、法人税の対象となる企業の課税所得の算定過程を明らかにすることを中心に研究を行います。</p> <p>なお、毎回報告者の発表に対し討論を行うという形式で進めていくので、その中で十分に自分の意見が主張できるようになって欲しいと考えています。</p> <p>2年次では、企業の税金の問題を扱う前提として、簿記、会計理論の基礎的な知識を習得します。本年度は会計学の基礎を中心に勉強をします。ただし、最低限、6月の日商検定試験3、2級に向けて3カ月間だけ簿記検定の勉強をします。(すでに3級を取得している者は2級に向けて、初めての人は3級の合格を目的にします。)</p> <p>なお、合宿は11月全学年合同で行っています。その内容は、ディベートが中心になります。その他、年2回程度、全学年で集まる機会を持っています。</p> <p>明るくて、好奇心が強く、夢をたくさん持っている人が志望してくれたいなと思っています。ゼミ運営の基本的な考え方として、目標を持って頑張っている人や一生懸命勉強をしている人が居心地が悪くなるような雰囲気は絶対つくりません。</p> <p>4月から、6月までは、日商簿記検定受験に向けて、個別問題や模擬試験問題等を使用して各自の実力に合わせて勉強していきます。</p> <p>その後は、12月まで、会計の基礎を学びます。ローテーションを決めて報告してもらい、解説していきます。</p> <p>出席及び報告により評価します。 最初の授業で紹介します。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	
成績評価の方法	
参 考 書	

履修コード	145401
科目名	演習 I
担当者名	滝田 <small>たきた こういち</small> 公一

講義の到達目標(ねらい)

本年度は次の文献を利用して演習を行う予定です。

[1] 東北大学経営学グループ著、『ケースに学ぶ経営学』(有斐閣ブックス) 1998 (2,500円)

文献[1]は、「企業とは何か?それはどのように経営されているのか?」と言う問題を幾つかの現実の事例(例えば、スカイマークエアライン社の設立、マクドナルドとモスバーガーの競争戦略など)をとうして考察したものです。此の教科書を題材として、学生諸君には、課題報告(例えば、1970年代から80年代に架けて、日本の自動車企業は、アメリカの自動車企業に追いつき追い越していきますが、なぜそのようなことが起こったのか、環境と戦略について調べましょう、など)をしてもらう予定です。このような課題報告を通じて、レポートの書き方と文献・資料の探し方に習熟していただくことも演習Iの狙いの一つです。

また、文献[1]とあわせて、代表的な表計算ソフトであるExcelを使った経済データの情報処理をも勉強する予定です。簡単な計算によるデータの変換、グラフの作成、最小二乗推定、確率分布、線形計画法、簡単な経済理論のシュミレーション、などが取り扱われる予定です。特別な予備知識は必要ありませんが、「情報処理基礎」を前もって、または、同時に履修されると理解が一層深まるのではないかと思います。

講義の内容/
授業スケジュール

前期は、エクセルを用いて、表やグラフの作成法を学び、つぎにその知識を生かして、初歩の確率・統計を学びます。これらの知識を基にして、単回帰の考え方を学びます。後期は、重回帰と仮説の検定を学びます。また、前期の初めに、レポートの書き方を勉強し、それを基にして、プレゼンテーション用の原稿を作り、3週に1度程度、学生諸君に企業のケーススタディに基づく課題の報告をしてもらいます。

履修上の留意点

どうしても必要というわけではありませんが、関連科目として、情報処理基礎、統計学、経済学概説などを履修なさると有益です。

成績評価の方法

成績評価は、課題報告(30%)と、学年末のレポート(通常、computer assignment、70%)によって行います。

履修コード	146871
科目名	演習 I
担当者名	なが <small>なが こきよう</small> 長 国強

講義の到達目標(ねらい)

現代は情報化社会と言われ、新聞・雑誌・インターネットを開いてもそこに大量の経済・経営データが見られる。ところで、経済・経営などのデータをそのまま見れば、単なる数字の山にすぎず、大切なことはそこから正しい見通しを得ることであろう。実際のデータから経済・経営など社会的な動きをどのように読みとるのかといった能力を養成できるようにすることを目的として、本演習はコンピュータを使ってのデータ解析の基本技術を学習する。

講義の内容/
授業スケジュール

演習 I (2年生): 決算書…見方・読み方

決算とは、一定期間の収入・支出を計算し、利益又は損失(損益)を算出することである。企業だけでなく国・地方公共団体においても決算を行うことが、法律で定められている。本演習では、インターネットや参考書・討論などを多用して、決算書などの数字を読めるように実習していく。数字に強くなると、会社の安全性、収益性、営業力そして将来性まで、面白いように見えてくる。

成績評価の方法

平常点:出席(50点)・レポート(50点)の成績などで総合的に評価する。

教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

特に使用しません、プリントは随時配布する予定。

日本経済新聞。

演習 I は毎回の実習アイテに連続性があり、1回欠席すると、次回の実習についていけなくなることも考えられる。したがって、理由なく年間8回以上欠席した場合、自動的に除名されることにする。

履修コード	146841
科目名	演習 I
担当者名	なかがわ こういち 中川 功一

講義の到達目標(ねらい) 演習のねらい：問題解決力の育成
 社会では、形の決まった問題は起らず、常にその時その時に固有の状況の中で判断を迫られることになる。そのときに必要となるのは、ものごとを論理的に考え、自分なりの答えを見つけ出す、問題解決能力である。
 経営戦略論とは、特にビジネスの現場における問題解決力を養うために準備された学問である。本ゼミでは、経営戦略論の学習を通じて、さまざまなビジネスシーンにおける問題解決の能力の育成を目指す。

講義の内容／授業スケジュール 文献購読、ケーススタディ、フィールドワークの3本柱による。

履修上の留意点 原則として毎回の出席と発言を求める。なお教科書はゼミで購入するので個別に買わなくてもよい。

成績評価の方法 ゼミ論の提出、出席、報告による。

教科書／テキスト 問題解決法および経営戦略論の基本的テキスト。教員から配布する。

履修コード	147151
科目名	演習 I
担当者名	なかがわ じゆんべい 中川 淳平

講義の到達目標(ねらい) この演習では、企業、そして企業をめぐる社会・経済現象について参加者が多角的な理解が得られるようにしたいと考える。併せて、報告の仕方、文章のまとめ方について習得する。

講義の内容／授業スケジュール 経営学・経済学の基本的な文献を読み、討論してゆく。文献は開講時にこちらで指定する文献のなかから参加者に選択してもらい、その概要を発表してもらい、さらに、一年間の学習のまとめとして、レポート(小論文)を作成する。

履修上の留意点 多量の文献を読む予定なので、積極的に勉強する、意欲ある学生の参加を望みます。

成績評価の方法 平常点100%(発表や討論の内容、レポート、学習態度による)

教科書／テキスト 開講時に指示します。

履修コード	146851
科目名	演習 I
担当者名	なかの かほり 中野 香織

講義の到達目標(ねらい) マーケティング・コミュニケーションおよび広告について、実務と理論の両方の面から考察することを目的とする。理論を学ぶことに加え、それを実際の戦略に応用できるような思考も身につける必要がある。また、さまざまな課題に取り組むことを通じて、テーマに関連した資料収集の方法、問題を発見する視点、それを解決するための方法、考えたことを人に伝えるためのプレゼンテーション方法などを学んでほしい。

講義の内容／授業スケジュール 前半はマーケティング・コミュニケーションおよび広告に関する基礎的な知識をメンバー全員で共有するため、教科書を輪読し、内容について議論する。
 後半はグループ研究を基本とし、以下の課題等に取り組む。
 ・ある商品についてのマーケティング・コミュニケーション戦略を企画し、実務家へプレゼンテーションするケース研究

履修上の留意点 ・4大学で内容を競い合う研究発表大会(MRGP)への参加
 ゼミの時間には積極的な発言が、ゼミの時間外には自主的な課題への取り組みが求められる。特にグループ研究ではメンバーと共同で多くの課題をこなし、活発な議論を行う。そのため、マーケティング・コミュニケーションに関心が高く、ゼミ中心の学生生活を過ごしたいと思うような意欲のかつ協調性のある人に参加してほしい。

成績評価の方法 授業態度(出席状況、積極的な参加)、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

教科書／テキスト 参考書のなかから、数冊を教科書として利用する。詳しくは開講時に指示する。

参 考 書 亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』2009年(日本経済新聞出版社)2,310円
 石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年(八千代出版)2,835円
 嶋村和恵監修『新しい広告』2006年(電通)2,100円
 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年(有斐閣)2,205円

履修コード	147101
科目名	演習Ⅰ
担当者名	なかむら こういち 中村 公一

講義の到達目標(ねらい) 本ゼミでは現代企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を紐解いていき、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を身に付けるために、文献購読・資料調査・ケーススタディ・ビジネスプランニングなど多彩な課題に取り組みます。

ゼミは、単位を採るだけのものではなく、個人の「知的トレーニングの場」であり、他のゼミ生達と切磋琢磨する場であると考えて下さい。私の役割は、ゼミ生がゼミでの勉強をきっかけにして、豊かな学生時代を築こうとする時のお手伝いをするだけに過ぎません。運営の主体は君達にあります。

(1) 文献購読やケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する専門知識の習得、分析力、洞察力の強化を図ります。

(2) レポート作成を通してのアウトプット能力、論述能力、論理構成力の強化を図ります。

(3) 毎週の報告や議論などを通じてプレゼンテーション能力やディスカッション能力の強化を図ります。

(4) 実際にビジネスプランの策定を通して、事業戦略を構築する企画力と構想力の強化を図ります。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅰ(2年生)

前期(1～15回)；経営戦略論に関する入門書の購読＋資料などの調査方法、企業研究・分析レポートの作成

後期(16～30回)；現在の経営環境の読解作業、競争企業分析の実践(グループ調査)、報告書『経営戦略事例集』の作成

準備学習

経営学・経営戦略論を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的です。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、学習意欲の向上につながるでしょう。

履修上の留意点

ゼミの理念は「知的トレーニング」にあるので、毎週レポートを宿題として課し、相当の勉強時間の確保が必要になります。また、ゼミでは議論が中心になるために、事前の準備も必要となります。(夏に合宿を行います)

成績評価の方法

遅刻の常連、無断欠席、各種課題や提出物の期限の遅れ、不十分な内容のレポートを提出した場合は、厳しくチェックします。成績は、出席数、提出課題の内容、議論への貢献度などの平常点によって判断します。なお、4年次にはゼミ論文があります。

教科書／テキスト

授業時に発表する

履修コード	146801
科目名	演習Ⅰ
担当者名	にしむら かずお 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい) 【テーマ：情報セキュリティ】 文書(英論文など)の読みかた、書きかた、発表のしかた、コンピュータの利用のしかたを体得し、論理的な思考力を養う。

講義の内容／
授業スケジュール

次の事項を順に演習する。

- ・タッチタイピング
- ・HTMLによるWebページの記述、CSS
- ・文章の書き方：頭括法、ビジネス文書の書き方、レポートの書き方、公用文の書き方
- ・書誌情報の検索のしかたと検索練習⇒レポートや論文の作成に役立つ。
- ・コンピュータの基礎知識
- ・問題の発見と解決：問題とは何か、解決の諸方法
- ・コンピュータによる問題解決：アルゴリズムと計算量
- ・論文の読み方と発表のしかた

その他

◆情報処理技術者試験のための学習

◆研究発表会(年1度)・イベント(年1・2度)

履修上の留意点

テーマは“情報セキュリティ”であって、コンピュータの操作方法ではない、コンピュータの知識がある人ではなく、やる気と実行力のある人を求む。

出席のほかに、タッチタイピングの基準達成、検索課題、レポート。

成績評価の方法

教材のページ：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/seminar/materials.html>

教科書／テキスト

入ゼミ手続き(1年次)：面接と文章完成法テストによって選考する。説明会に出席しないと、面接が受けられない。原則として“情報処理基礎”をすでに履修していること。

その他の

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/>

関連リンク

履修コード	145501
科目名	演習 I
担当者名	羽鳥 茂

講義の到達目標(ねらい)	日本企業のコーポレート・ガバナンスや情報効率性、システム特性などを研究するための基礎を確かなものにするのが目的です。
講義の内容／ 授業スケジュール	上記の目標を達成するために1年を3期に分けて、1期(4月～6月)においては、何が問題であり、これまでにどのようにアプローチされ、どのような結果が得られたかを理解します。2期(7月、9月～10月)では、必要な分析ツールとしてナッシュ交渉解、提携形ゲームのさまざまな解その他を学習します。3期(11月～12月)になって、前2期の研究成果を踏まえて当初の目的に立ち返り、各人が自分の答えを出せるように指導したいと考えています。
履修上の留意点	1人1人がゼミのリーダーとなるよう積極的に報告、発言してください。
成績評価の方法	出席状況、課題の提出内容、理解度、意欲を総合的に判断し評価します。
教科書／テキスト	私のノートを含めプリントを配布します。
参 考 書	ゼミの進み具合に応じて適宜紹介します。

履修コード	146601
科目名	演習 I
担当者名	藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)	本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。ゼミ生各人がこのテーマ・領域に関連して自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することはもちろん、ゼミ生各人が物事に対して疑問や意見をもち、それらを論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することを目指している。
講義の内容／ 授業スケジュール	2年生(演習I)では、まずは基礎固めとして経営学全般の基本的な内容を学習することを目的としている。ゼミ生各人にはこちらから勉強テーマが与えられるので、それについてゼミの中でプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答、議論・討論を行う。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく(全30回の授業全て同様)。また上記のように授業自体はプレゼンテーション、質疑応答、議論・討論が中心となるので、ゼミ内に全員が積極的に発言できる雰囲気を作りたい。そのため、授業時間以外のイベント(工場見学、合宿、コンパなど)には全員が参加することが原則である。
履修上の留意点	以上のような内容なので、中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。勉強にしろその他のイベントにしろ、自分から常に積極的に参加・参画する姿勢が求められる。本ゼミでは何よりもやる気のある学生を歓迎する。
成績評価の方法	出席とゼミでの報告を重視。出欠については、規定の欠席回数に達したものは即除籍にする。その他、ゼミでの討論時の発言内容や参加態度も成績評価に入る。
教科書／テキスト	特定のテキストはなく、講読する文献はゼミ生の学習・研究分野に応じて自主的に選定してもらうか、基本的文献は教員から指示する。また企業での実例に関する資料は、日本経済新聞や日経産業新聞を活用し、ゼミ生自身の研究テーマに関わる記事を適宜こちらから提示する。

履修コード	146861
科目名	演習 I
担当者名	わかやま だいすけ 若山 大樹

講義の内容／
授業スケジュール 演習 I では、市場（消費者行動）を理解するための方法論や理論について学ぶ。具体的には、マーケティングデータの理解を深めるために消費者行動の観察方法、調査方法、実験手法、マーケティングデータ解析法、そして市場理解において重要な社会心理学の理論、公的機関のマーケティングについても学ぶ。また、この分野で最も利用されている統計処理ソフト（SPSS）を使うための基礎について学び、レポートのまとめ方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。

講義のスケジュールは以下のとおり。

(1)～(6) マーケティングの基礎を学ぶためのテキストの輪読・発表、(7)～(14) 論文の輪読・発表・質疑応答・ディスカッション、(15) 前半まとめ、(16)～(22) 統計処理、(23)～(30) データ分析課題

日頃より問題意識を持って新聞記事に目を通し、授業中のディスカッションに備えること。

学習効果が高まると考えられることは積極的に取り入れる。各自、意欲を持って積極的に取り組むこと。マーケティング関連科目を履修していること。

一人3～4回の発表。出席とディスカッション（質問、コメント等）への参加、データ解析課題提出状況を総合的に評価する。無断欠席は履修放棄とみなします。成績は出席80%、発表+ディスカッションへの参加状況等（20%）により総合的に評価します。

演習配属説明会で指示した教材（2冊）は4月中に各自用意しておくこと。その他、必要に応じて指示あるいは配布する。

必要に応じて配布あるいは指示する。

準備学習
履修上の留意点

成績評価の方法

教科書／テキスト

参 考 書

履修コード	147141
科目名	演習 I
担当者名	わたなべ いづこ 渡辺 伊津子

講義の到達目標(わらい) 本ゼミでは「経営管理」の基本的な概念および理論について理解を深めることを目的とする。前期では、まず経営学を学習していくうえで必要となるスキル（たとえば文献・資料の探し方など）について学習し、そのうえで経営管理論の基本的な概念および理論について理解を深める。後期では、輪読を行いながら、専門レベルの「問い」を立てる訓練を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) オリエンテーション

(2～5) 必要なスキルを学ぶ（文献・資料の探し方や読み方、討論の仕方、レジュメおよび研究レポートの作成の仕方、報告およびプレゼンテーションの仕方など）

(4～15) 経営管理論の基礎を学ぶ Part 1～10

(16～29) 日常レベルの「問い立て」から専門レベルの「問い立て」へ

(30) 総括

履修上の留意点

ゼミでのイベントやその他の活動などについて、実行してみたい企画などがあれば積極的に提案してください。1つの企画について草案から実行の一連のプロセスを責任を持って担当した学生については、これを高く評価します。

成績評価の方法

平常点60%（出席、積極的な参加、レジュメ作成、報告内容）

課題レポート40%

教科書／テキスト

参 考 書

開講時に指示する。

田中共子編（2003）『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房。

履修コード	149911
科目名	演習Ⅱ
担当者名	青木 茂樹 <small>あおき しげき</small>

講義の到達目標(ねらい) この演習の目的は、マーケティングや流通に関する知識を主体的に獲得していく姿勢や作法を身につけることである。今日、様々な情報が渦巻く社会では、本質的課題を発見し仮説を創造する力や、これを検証する様々な情報収集の仕方、これを論理的に説明していく力が必要である。こうした姿勢や作法を学生時代に体得しているか否かは、社会の舞台にたったときのスタート時から大きな差となるであろう。

こうしたゼミ活動を通じて、今日、社会人基礎力といわれる12の力、①Action (主体性、働きかけ力、実行力)、②Thinking (課題発見力、計画力、創造力)、③Teamwork (発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)を養う。事前・中間・事後で、個々人のこれらの到達度を測り、将来の職業適性などに応じた指導も合わせて行う。

講義の内容／授業スケジュール

1. 前期 マーケティング・流通に関する重要な論文を輪読しながら、それらのアイデアが生まれてきた背景や今後の発展的展開を考える。フィールドワークや企業訪問、ゲスト・スピーカーの招聘なども適宜行う。
2. 夏休み 夏合宿(9月)&OB・OG会 合宿では、グループ研究の中間発表を行う。そのために自主的な研究会を開く場合もある。
3. 後期 前期同様に論文の輪読と批判的検討を行う。これに加え、グループ発表へ向けて、グループ論文の作成に取り掛かってもらう。これは、外部機関の学生懸賞論文などとテーマを兼ねることも考えられる。基本は自分達が一番やりたい研究を行うことであろう。
4. 冬休み 完全休み
5. 春休み OB・OG会。

履修上の留意点

学生の主体的な研究意欲や向上心によってゼミは牽引されるものであり、教員はアドバイザーやサポーターに徹する。もちろん無断欠席はありえない。

成績評価の方法

ゼミ活動全般を通じて、総合的に評価する。すべてにパーフェクトな人間はいない。むしろ個人の人関心や持ち味を生かしてゼミ運営に参加・貢献していることを高く評価する。

教科書／テキスト

皆さんの研究や将来の職種の興味を伺いながら、演習時にテキストを決めていく。

履修コード	149201
科目名	演習Ⅱ
担当者名	明石 博行 <small>あかし ひろゆき</small>

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、パソコンの操作能力等の基礎力の育成を図るとともに、経済社会学の応用領域の学習に取り組みます。研究テーマと課題図書についてはゼミ参加者と相談して決めますが、最近では、現代の多国籍企業と国際経営に関する研究を基本課題としています。また、卒業論文の作成に向けての準備活動も、本演習の重要な課題です。

講義の内容／授業スケジュール

演習は前期と後期に分けて行います。前期には、パソコン教場において、エクセル(およびパワーポイント)の操作能力を育成しつつ、マクロ経済データの処理と分析の基本を学びます。後期には、通常の演習教場において、課題図書を中心とする学習と討論に取り組みます。

準備学習

本演習では、サブゼミと合宿も大切な取り組みとなります。サブゼミでは、3から4人のチームをつくり、それぞれのチームごとに研究テーマを設定し、資料やデータの収集の仕方や分析の仕方を学んでゆきます。合宿では、ビデオ学習なども含め、通常のゼミの取り組みの補足や新たな準備となる学習・研究に取り組みます。

履修上の留意点

高校の政治経済で学ぶ経済領域の知識の習得は、ゼミ学習の前提となるものとして、ゼミの参加者全員に取り組んでもらいます。

定められた時間帯の演習、および補習、合宿、相談会を通じて、サブゼミにおけるテーマ別の学習と演習参加者全員による学習・研究とを組み合わせることでゆきます。演習は参加者の自主的な取り組みなしには成立しません。受け身の姿勢ではなく、能動的・積極的な姿勢で演習に参加することが求められます。

成績評価の方法

出席、演習課題への取り組みを総合的に判断し、評価をします。

教科書／テキスト

前期には、『Excel2007 [総合版]』(毎日コミュニケーションズ、1780+税)および『PowerPoint2007 [総合版]』(毎日コミュニケーションズ、1800+税)を使用します。後期に使用するテキストについては、参加者との相談のうえ、選定し確定します。

参考書その他

『最新政治・経済資料集2011』(第一学習社)を使用します。ゼミの内部で使用関係資料を、必要に応じて配布します。

履修コード	147201
科目名	演習Ⅱ
担当者名	阿部 一人 <small>あべ かずひと</small>

講義の到達目標(ねらい) 会計監査の基礎理論を体系的に考察する。
 講義の内容／授業スケジュール 会計監査の基本的役割、機能そして監査基準をとり上げる。
 成績評価の方法 成績評価は、出席状況、報告発表、レポート等により総合的に判定する。
 教科書／テキスト 開講後指示する。
 参考書 授業中において適宜指示する。

履修コード	148901
科目名	演習Ⅱ
担当者名	飯田 哲夫 <small>いいた てつお</small>

講義の到達目標(ねらい) この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに裏づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。このアプローチの対象範囲は幅広いですが、とりわけサプライチェーン・マネジメント(SCM)の分野が顕著です。
 講義の内容／授業スケジュール 履修上の留意点 ここでは、SCMについての知識を習得するとともに、演習Iでの学習を発展させ、SCMにおけるモデル分析の手法についてより深く学習していきます。
 履修上の留意点 サプライチェーン・マネジメントやモデルによる意思決定・分析に関する文献の輪読を行います。
 成績評価の方法 教科書／テキスト このゼミでは、学生の主体的・積極的な参加を前提としています。「経営数学」を受講した程度の数学的知識を持っていることが望ましい。その数学的知識を応用してみたいと思っている意欲のある学生の参加を希望します。
 教科書／テキスト 平常点(出席とゼミへの積極性)、課題のレポートと発表により総合的に評価します。最初の授業のときに紹介します。

履修コード	147901
科目名	演習Ⅱ
担当者名	石名坂 邦昭 <small>いしなざか くにあき</small>

講義の到達目標(ねらい) 企業の安定経営をはかる上でリスク・マネジメントは欠かすことのできない理論となっている。今日の複雑多岐にわたるビジネス・リスクにどのように対処すべきかは企業経営者の一番の関心事と言える。本演習においては、ビジネス・リスクへの対処を理論的・技術的に考察していきたい。
 講義の内容／授業スケジュール リスク・マネジメントを学ぶ上で、必要不可欠となる保険について、各課題ごとに毎週レポートを提出してもらい、数名の受講生に報告をしてもらい、そのことにつき討論を行う。また、リスク・マネジメントの基本的なことにつき講義も行う。
 履修上の留意点 毎週、定められたテーマについて全員が参加してディスカッションを行うため無断欠席はしないでもらいたい。
 成績評価の方法 教科書／テキスト 出席およびレポートによる総合評価を行う。
 参考書 講義に必要な資料等はコピーして配布する。
 参考書 授業中に適宜紹介する。

履修コード	147301
科目名	演習Ⅱ
担当者名	小沢 利久 <small>おざわ としひさ</small>

講義の到達目標(ねらい)

マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、コンピューターを使って定量的に分析する点に特徴があります。また、マネジメント・サイエンスの応用範囲は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へと広がりつつあります。この演習ではそのようなマネジメント・サイエンスの各種手法とコンピューターリテラシについて学ぶとともに、資料作成とプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力の育成を図ります。

講義の内容/
授業スケジュール

今年度はマーケティング分野及び金融工学分野で利用されている分析手法を取り上げて、データ集めから分析・発表までを以下の内容で行います。マーケティング分野で利用されている分析手法については教科書を使って基本から学ぶ予定です。

・マーケティング分野：

手法は回帰分析と因子分析について学びます。応用では、知覚マップと選好回帰分析、コンジョイント分析を題材に、自分たちでアンケートを作成し、それを分析、結果を発表してもらいます。

・金融工学分野：

簡単なプログラミングを学んでから、コンピューター・シミュレーションを用いてストックオプションの価格評価を行い、結果を発表してもらいます。株価のデータはネットから集めたものを使います。

準備学習
履修上の留意点

必要に応じて授業の中で示します。

パソコンを使った授業が主になります。演習Ⅱについては、演習Ⅲ（４年生）を継続して受講することを前提としています。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書
関連リンク

課題提出物、発表内容、出席状況により評価します。

必要に応じて指定します。

必要に応じて示します。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/>

履修コード	147401
科目名	演習Ⅱ
担当者名	鹿嶋 秀晃 <small>かしま ひであき</small>

講義の到達目標(ねらい)

研究テーマは現代日本企業の人事労務管理。大学生活の中で、ゼミは最も勉強に打ち込み、一番思い出になるところだと考えます。よって、積極的に勉強し、行事を企画し、みんなで楽しくゼミを過ごしたいという学生を採用します。

講義の内容/
授業スケジュール

現代の日本企業とそこに働くサラリーマンが抱える問題に関して、入門書と専門書を読んでいきます。企業と労働、社会について幅広い関心を持ち、科学的に考える力を養います。サブテーマは「終身雇用」「年功賃金と能力主義」「日本の経営」「女性労働」「日本の労使関係」「会社人間」「過労死」ほか。2か月に1冊のペースで本を読みます。受講者全員があらかじめテキストを熟読し、中から報告者（レジュメを作成）、コメントを決め、その2人を中心に議論をしていきます。最近の新聞から企業経営や労務に関するものを切り抜き、コメントを加えてプレゼンテーションすることもやっています。4年次は卒論作成中心。

準備学習
履修上の留意点

日常的に新書や経済新聞等にも目を通して、関心を広げておくこと。

カリキュラムの特性上、本演習は経営学科生対象。無断欠席は単位認定なし。行事もゼミの一環なので必ず出席のこと。

成績評価の方法
教科書/テキスト

出席点、講義中の発表・発言、レポートを総合して判定。

適宜指示。過去のテキスト例。熊沢誠『働きすぎに斃れて』、大内伸哉『雇用はなぜ壊れたのか』、濱口桂一郎『新しい労働社会』、佐藤博樹編著『人事マネジメント』、G.オルコット『外資が変える日本の経営』など。

参考書
その他の

演習時に適宜紹介。

鹿嶋ゼミの特徴は、2~4年のゼミ生間に交流があることです。履修希望者は、必ず経営労務論を履修のこと。他のゼミ活動には、ゼミ書評、全国コンテスト参加などがあります。詳しくはWEBページ参照のこと。

関連リンク

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/>

履修コード	148601
科目名	演習Ⅱ
担当者名	かたきり のみお 片桐 伸夫

講義の到達目標(ねらい)

このゼミは3・4年次(演習Ⅱ・Ⅲ)で「就職希望会社の経営分析」を行うことを目的とします。経営分析とは、文字通り「企業の経営を分析すること」であり、きわめて範囲の広いものです。具体的には、皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか(安定性分析)、
- 2 「儲け」はどうだろうか(収益性分析)、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか(生産性分析)、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか(成長性分析)、

といった内容です。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) 経営分析について、(2-6) 経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12) 収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15) 貸借対照表・損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20) 生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26) キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、正味現在価値法と設備投資

履修上の留意点

このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心とします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向きのゼミです。

成績評価の方法

3年次(演習Ⅱ)では、各自が決めたテーマに取り組み、4年次のゼミ論作成に向け少しずつ仕上げていきます。各自、月に1回程度のレポートであり、確実に提出すること、成績評価の方法は、毎月のレポート提出による平常点100%です。

教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

開講時、指示します。

随時、紹介します。

ゼミ入室の決定方法は面接〔志望理由書(500字程度)事前提出〕とテスト(演習Ⅱは1年次学習中の簿記、演習Ⅲは日商簿記検定2級程度)によります。

なお、いうまでもなく無断欠勤と遅刻は厳禁です。以上の方針に見合う、学習意欲十分な学生諸君の参加を希望します。

経営

履修コード	149901
科目名	演習Ⅱ
担当者名	かねむら ^{えいてつ} 兼村 栄哲

講義の到達目標(ねらい)

社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、①主体的懸隔、②量と組み合わせに関する懸隔、③情報的懸隔、④空間的懸隔、⑤時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換（の連鎖）を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品を消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング（「流通」とほぼ同義）と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング（いわゆる「マーケティング」）に大別される。

マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。

本演習のねらいは、履修者の一人ひとりが、こうしたマーケティングにかかわる諸現象を体感し、当該現象について自分なりに論理的に説明できるようになることにある。

演習は、講義科目とはまったくその性格が異なっている。最低限、予・復習することはもちろんのこと、授業時間内においても積極的に参加することが要求される。このことは、「たんに出席し、ノートをとる」ことを意味するのではない。以下の4つが、私が皆さんに最低限要求する内容である。

1. 通常の演習においては、まず経営学に関する小テストをおこなう。次に、マーケティングに関するテキスト（下記に示す『マーケティング』）を全員で輪読し、基礎的な概念や理論を学ぶ。
2. 年に2回、各自で業界研究をし、それぞれについて、A4サイズで100枚以上のレポートにまとめる。そして、その概略を冬（ないし春）合宿で発表する。
3. 夏休みの工場見学に参加する。その前提として、各工場について、各自で20以上の質問を考える。
4. 東京都が主催する「学生起業家選手権」および日刊工業新聞主催の「キャンパスベンチャーグランプリ」に参加する。

準備学習
履修上の留意点

下記に示す『テキスト経営学』および『マーケティング』の指定箇所を理解する。

1. 通常の演習のみならず、合宿その他の課外活動にも参加すること。同時に、たんに出席するのではなく、自発的に自分なりの疑問や意見を示すなど、積極的に参加すること。
2. お互いの親睦を図ること。
3. 授業開始後、諸般の事情で履修を取りやめる場合には、必ず事前にその旨を申し出ること。

成績評価の方法
教科書／テキスト

小テスト、出席状況、授業態度、発表内容、レポート内容等による総合的な評価
井原久光（著）『テキスト経営学－基礎から最新の理論まで－』〔第3版〕ミネルヴァ書房、2008年、3,360円。

（ISBN：978-4-623-05129-8）

池尾恭一他3名（著）『マーケティング』有斐閣、2010年、3,885円。

（ISBN：978-4-641-05373-1）

参 考 書

宮澤永光（監修）『基本流通用語辞典』〔改訂版〕（白桃書房）2007年、2,625円。

（ISBN：978-4-561-75169-4）

宮澤永光・亀井昭宏（監修）『マーケティング辞典』〔改訂版〕（同文館）2003年、2,940円。（ISBN：4-495-63492-5）

その他については、適宜紹介する。

履修コード	150041
科目名	演習Ⅱ
担当者名	河合 ^{かわい} ゆかり 由佳理

講義の到達目標(ねらい)	近年、ビジネスのグローバル化に伴い会計の分野についても国際会計基準審議会の活動を中心とした会計基準の国際化が著しくみられます。そこで、本講義では日本の財務会計を学ぶと同時に、国際財務報告基準（IFRS）についても適宜取り上げ、IFRSの基本的な考え方を理解し、日本の会計基準との異同点を学びます。そして報告・討論の中で会計の国際化がもたらす問題点、今後の課題について考察します。
講義の内容／ 授業スケジュール	また、各自で興味のあるテーマを探し、卒業論文作成を意識した学習・準備を進めます。 前期：指定テキストを用いて、ゼミ生による報告をしてもらいます。報告者以外は、毎回、必ず質問するように心がけること。
準備学習	後期：卒業論文作成のために各自で選んだテーマの学習・報告を行います。 本講義は、週ごとに報告の担当を決めるため、報告資料の作成、財務データの収集等、事前準備が不可欠です。
履修上の留意点	授業は、受講生の報告・討論をベースに進める予定のため、無断欠席・遅刻は認めません。また、日商簿記検定3級から2級程度の知識を有することを望みます。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席状況と授業への取り組みを総合して評価します。 授業中に指示します。

履修コード	149931
科目名	演習Ⅱ
担当者名	菅野 ^{かんの} さおり 佐織

講義の到達目標(ねらい)	演習Ⅱの目的は、マーケティングに関連する研究を通じて「論理的思考力」を養うことです。このゼミでは、グループ毎にテーマ課題を設定し、問題の発見から仮説の導出、データ分析による仮説の検証といった一連のプロセスを通して、論理的思考を養います。研究Ⅱでは、グループ研究を主に行い、その結果は、10ゼミ討論会またはスチューデント・カレッジといった他大学との討論会で発表することを目標にします。最終的な研究成果は、論文にまとめていきます。このような一連の作業は、他大学の学生との勉強会、討論会を進めながら行っていく予定です。
講義の内容／ 授業スケジュール	・グループ毎でのテーマ研究 ・他大学との研究発表会への参加（12月 関東10ゼミ討論会） ・ゼミ内での研究発表会 ・論文執筆
準備学習	ゼミ以外の時間にも自主的に勉強をする必要があります。マーケティングの本や論文だけでなく、心理学、社会学、社会心理学、文化人類学等の本や論文、さらには英語の論文も進んで読むようにしてください。
履修上の留意点	このゼミでは、次のような人が向いています。 ・マーケティング、消費者心理の問題や、消費者調査などのマーケティング・リサーチに興味がある。 ・ゼミの勉強を優先する。 ・自ら問題を設定し、責任を持って最後まで取り組むことができる。 ・時間をまもることができ、且つ他者とのコミュニケーションを大切にしながら課題を遂行できる。 ・他大学の学生と勉強することで自分を高めたい。（詳しくはネットで「関東10ゼミ討論会」を検索してみてください）
成績評価の方法	ゼミへの貢献度、出席の状況、毎回の課題への取り組み度合いを総合的に判断して評価します。なお、自己評価および他のゼミ生からの他者評価によっても評価をします。
教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	授業で適宜お知らせします。 授業で適宜お知らせします。 継続力と強い精神力、礼儀を持つ人を歓迎します。遅刻、欠席が多い人、やる気の低い人には、ゼミの途中でも辞めてもらうことがあります。また、何かを楽しむためには、ある一定以上の知識が必要となるので、ゼミ以外の時間にも進んで勉強するようにしてください。

履修コード	150011
科目名	演習Ⅱ
担当者名	岸田 隆行 <small>きただ たかゆき</small>

講義の到達目標(ねらい) 原価を知ることにはマネジメント・コントロールの基礎であり、原価を知ることなくして、経営を理解することは困難である。近年は経営環境の変化が著しく、原価計算・管理会計も経営環境の変化に対応すべく、様々な技法が編み出されている。しかし、それらの新技法が実際に有効であるのか、またあらゆる企業に適合するのかは明らかではない。本演習では現代的な経営環境の中で、原価計算がマネジメント・コントロールにおいてどのような役割を果たすかについて理解を深めていく。

講義の内容／授業スケジュール それぞれのテーマについて担当者を割り当て、担当箇所についてレジュメを作成し、報告してもらい、報告内容について受講者全員でディベートを行う。

準備学習 担当箇所の報告では、指定されたテキストだけでなく、様々な文献を読んだ上で報告を行ってほしい。また、報告者以外の受講生も事前にテキストを熟読した上で、議論に参加することが望ましい。

履修上の留意点 積極的にゼミ活動に参加してほしい。

成績評価の方法 報告の内容、ゼミへの参加程度により総合的に評価する。

教科書／テキスト 開講時に指示する。

参考書 適宜紹介する。

履修コード	149601
科目名	演習Ⅱ
担当者名	猿山 義広 <small>さるやま よしひろ</small>

講義の到達目標(ねらい) この講義では、管理会計の基礎となる諸概念について財務会計分野の知識も含めて学ぶことを目的としている。会計計算はたんなる四則演算ではなく、目的に適った政策的計算であること、また会計計算の裏側には明瞭な意図をもつ会計制度と会計理論が存在していることをつねに念頭に置いて勉強を進めていってほしい。

講義の内容／授業スケジュール 第1回 管理会計の基礎(1)—管理会計とは何か、第2回 管理会計の基礎(2)—会計情報システム、第3回 管理会計の基礎(3)—財務諸表、第4回 管理会計の基礎(4)—株式会社会計、第5回 管理会計の諸概念(1)—原価概念、第6回 管理会計の諸概念(2)—利益概念、第7回 管理会計の諸概念(3)—キャッシュフロー、第8回 管理会計の諸概念(4)—資本コスト、第9回 管理会計と原価計算(1)—原価計算の基礎、第10回 管理会計と原価計算(2)—間接費管理、第11回 管理会計と原価計算(3)—標準原価計算、第12回 管理会計と原価計算(4)—直接原価計算、第13回 第1回から第12回のおまとめ、第14回 利益計画(1)—CVP分析、第15回 利益計画(2)—価格を考慮した利益計画、第16回 利益計画(3)—プロモーションを考慮した利益計画、第17回 利益計画(4)—セールスマックス、第18回 原価管理(1)—ABC、第19回 原価管理(2)—原価企画、第20回 原価管理(3)—営業費管理、第21回 原価管理(4)—研究開発費管理、第22回 意思決定会計の基礎(1)—差額原価収益分析、第23回 意思決定会計の基礎(2)—期待値による意思決定、第24回 意思決定会計の基礎(3)—割引価値による意思決定、第25回 意思決定会計の基礎(4)—最適値による意思決定、第26回 第14回から第25回のおまとめ、第27回 管理会計の文献研究(1)、第28回 管理会計の文献研究(2)、第29回 管理会計の文献研究(3)、第30回 現代管理会計の特質

履修上の留意点 演習では学生による発言が中心となる。発言にあたっては、他の参加者がより深く理解できるように資料を作成してもらう場合もあるが、その際は、文章だけでなく図表を盛り込んだ資料をつくること。

成績評価の方法 授業中の発言および課題の出来、出席状況、年2回課すレポートの内容に基づいて総合的に評価する。

教科書／テキスト 参考資料を授業中に配布する。

参考書 櫻井通晴『管理会計〔第四版〕』同文館出版。

その他の 1回の授業につきかならず、何か1つは新しい知識や疑問点を見つけれられるよう集中して授業に臨んでもらいたい。

履修コード	149921
科目名	演習Ⅱ
担当者名	高井 徹雄 <small>たかい てつお</small>

講義の到達目標(ねらい)

ブロードバンドで繋がったインターネットを基盤とするIT(情報技術)は、今日の企業経営また社会・経済システムを捉えるうえでも最も重要なキーワードとなっています。皆さんは、真の意味で、情報が価値を持ち、情報が価値を生み出す時代に生きています。このような時代、企業や官庁のスタッフとして、また将来はエグゼクティブとして、「情報エリート」を目指すならば、少なくとも以下の能力が要求されると考えます。

- (1) 発見力：与えられるのを待つのではなく、自分で問題を見つける能力。
- (2) 洞察力：問題に関係する必要な情報を選別する能力。情報を分析し問題の本質を洞察する能力。
- (3) 表現力：分析結果を集約し、解り易くプレゼンテーションする能力。
- (4) 解決力：他者と協力しあって、具体的な問題解決を図る能力。

皆さんに、こうした素地を養って頂くことを狙いとして、各週の演習、および年2回の合宿(1回は勉強、もう1回は親睦を主目的とする)における題材と環境を用意します。主体的にゼミに参加されることを願っています。およそのスケジュールは以下のとおり。受講生とコミュニケーションをとりながら、理解度や興味の方角を見極めながら進めて行きます。

講義の内容／
授業スケジュール

4-10月：輪読・・・ゼミメンバーの希望に沿って適切な文献を決め、全員参加の輪読会を実施

6月：ソフトシステム方法論・・・演習Iと合同ゼミ合宿、SSMで社会的問題を扱う

11-12月：ゼミ論テーマの作成

準備学習

毎回出席して、適宜出される課題・レポート等に応えられるよう、課外学習の時間を確保してください。

履修上の留意点

毎回、コンピュータールームにおいて実習形式で授業を行います。

実習形式の授業は、全体が同じベースで学習を進めていく必要がありますので、極力欠席しないようお願いいたします。

成績評価の方法

毎回出席をとります。また、前期・後期各1件程度、学習内容に応じてHTML作成やプログラミングなどの課題を出します。これら平常点により評価を行いますので、筆記試験は行いません。

教科書／テキスト

輪読を行う場合、皆さんと相談のうえ、適切な教科書を指定します。

履修コード	148801
科目名	演習Ⅱ
担当者名	高木 克己 <small>たかき かつみ</small>

講義の到達目標(ねらい)

3年次では、前期において卒業論文作成に向けてのテーマ決定するために、法人税関連のテキストを読みます。なお、「税務会計論」も必ず並行して、受講してください。

3年次後期から4年次終了時までの予定としては、各自選定したテーマを数回に分けて報告することになります。例えば、制度の意義、概要、沿革、ケース・スタディ、問題点の整理、その解決策あるいは方向性、などです。

3年次終了時には、各自選択したテーマで進級論文(10枚以上、400字)の作成を行います。特に3年次では、各自のテーマの沿革、制度導入の背景等、現行の制度の内容、諸外国の制度との比較等に重点を置いて、作成することになります。

なお、合宿等の行事は、2年次と同じく例年通りです。

講義の内容／
授業スケジュール

前期は、卒業論文のテーマを決めるために、法人税法に関する文献を1冊採り上げ、報告してもらいます。

後期は、各自選択したテーマにそって、沿革、現行制度の内容等を検討していきます。

成績評価の方法
参 考 書

出席及び報告により評価します。

最初の授業で紹介します。

履修コード	148301
科目名	演習Ⅱ
担当者名	高田 光明 <small>たかだ かつあき</small>

講義の到達目標(ねらい)	この演習は、企業が行う財務活動に関して、資本調達面から重点的に研究する。今日、企業の財務という場合、企業による資本の調達と運用を指す。企業は、その活動を営むに際し、原材料、機械といった財貨を取得しなければならないし、労働力も確保しなければならない。そのために元手となる資本を企業は必要とする。資本の調達とは、この元手としての資本を集めることをいう。そして調達した資本で、企業は、上で述べた原材料などの生産要素を取得して、製品を生産し販売するという営業活動を遂行する。こうした活動により、資本を増殖させようとする行為を、資本の運用といっている。
講義の内容／授業スケジュール	<p>企業が必要とする資本を調達するには、株式や社債の発行とか、銀行からの借入など様々な方法がある。これらの資本調達方法は、特徴がそれぞれ異なる。したがってこうした資本調達方法を使い分けて、生産要素の取得を賄うための資本をどのように調達するかは、企業が営業活動を実施して、調達資本をいかに効率的に運用できるかに大きな影響を与える。当演習では、資本の運用面に配慮しつつ、企業は、資本の調達活動をどのように行うべきかについて考察する。</p> <p>基礎的知識の体系的理解を図ることをまず目的として授業を進める。</p> <p>(1) 演習という形式の授業のオリエンテーション (2～15) 高田光明稿、「経営財務論序説」(駒大経営研究26巻3号, 1995年2月)を中心に研究 (16～30) ウェストン・ブリッグラム共著, 諸井勝之助訳, 経営財務I(東京大学出版会, 1968年)を中心に研究</p>
履修上の留意点	企業が実施する財務活動に伴う資本の増減・変化は、企業の会計システムによって記録・測定される。したがって企業の財務活動に関する情報を理解し、企業の財務を研究するために、企業会計に関する初歩的知識は必要である。
成績評価の方法	適宜提出を求める課題レポートにより評価する。

履修コード	148501
科目名	演習Ⅱ
担当者名	滝田 公一 <small>たきた こういち</small>

講義の到達目標(ねらい)	本年度は、文献[1]のほかに、ダミー変数を含んだ回帰分析、時系列データやパネルデータを取り扱った回帰分析などを学び、演習Ⅰで学んだ回帰分析の知識を深めます。また、RATS、TSPといった計量経済学用のソフトの使い方も学びます。それらのソフトを使って、capital asset pricing modelや、生産費用の測定、製品の品質の変化の測定、賃金差別の問題などについても学習する予定です。さらに、エクセルのデータ分析以外の機能についても学びます。すなわち、エクセルのソルバー機能を使って、線形計画の解き方を学びます。また、エクセルのシミュレーション機能を利用して、簡単な定差方程式の解法を学び、その応用問題として、ローン返済の問題を考えてみます。
講義の内容／授業スケジュール	回帰分析のより進んだ分析を学ぶ予定です。それらは、ダミー変数を伴う回帰分析や、非線形モデルの回帰分析、不均一分散の問題、自己相関、連立方程式体系の推計、分布ラグのモデル、時系列分析、パネルデータの分析、などです。また、3週に1度程度、学生諸君に企業のケーススタディに基づく課題の報告をしてもらいます。
成績評価の方法	成績評価は、課題報告(30%)と学年末のレポート(通常、computer assignment、70%)によって行います。

履修コード	149401
科目名	演習Ⅱ
担当者名	ながこきょう 長 国強

講義の到達目標(ねらい)

現代は情報化社会といわれ、新聞・雑誌・インターネットを開いてもそこに大量の経済・経営データが見られる。ところで、経済・経営などのデータをそのまま見れば、単なる数字の山にすぎず、大切なことはそこから正しい見通しを得ることであろう。実際のデータから経済・経営など社会的な動きをどのように読みとるのかといった能力を養成できるようにすることを目的として、本演習はコンピュータを使つてのデータ解析の基本技術を学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅱ(3年生)：EXCELと情報収集…コンピュータ上の情報収集とデータ解析

EXCELなどの入門が既に果たされ、これからコンピュータのことを、情報収集やデータ解析などの実践を通じてもっと知りたいという学生のための演習です。近い将来学生諸君に直面されるだろう市場調査・予測、品質・生産管理、国際経済・株式投資などの課題をコンピュータ上、データ解析手法を使い、企業現場の具体例を交えて細かく実習していく。

成績評価の方法

平常点：出席(50点)・レポート(50点)の成績などで総合的に評価する。

教科書／テキスト

特に使用しません。プリントは随時配布する予定。

参 考 書

日本経済新聞。

そ の 他

演習Ⅱは毎回の実習アイテんに連続性があり、1回欠席すると、次回の実習についていけなくなることも考えられる。したがって、理由なく年間8回以上欠席した場合、自動的に除名されることにする。

履修コード	149941
科目名	演習Ⅱ
担当者名	なかがわ こういち 中川 功一

講義の到達目標(ねらい)

演習のねらい：問題解決力の育成

社会では、形の決まった問題は起こらず、常にその時その時に固有の状況の中で判断を迫られることになる。そのときに必要となるのは、ものごとを論理的に考え、自分なりの答えを見つけ出す、問題解決能力である。

講義の内容／
授業スケジュール

経営戦略論とは、特にビジネスの現場における問題解決力を養うために準備された学問である。本ゼミでは、経営戦略論の学習を通じて、さまざまなビジネスシーンにおける問題解決の能力の育成を目指す。

履修上の留意点

原則として毎回出席、毎回発言を求める。なお、教科書はゼミとして購入するので個別に購入する必要はない。

成績評価の方法

ゼミ論の提出と、出席、報告。

履修コード	149501
科目名	演習Ⅱ
担当者名	なかがわ じゆんべい 中川 淳平

講義の到達目標(ねらい)

この演習では、経営学説について考察する(したがって、演習での研究テーマとしては、経営学説のなかから1つないし複数の学説から選択することとなる)。併せて、文献・資料の調査の仕方、報告のあり方、文章のまとめ方について習得する。

講義の内容／
授業スケジュール

経営学説の基本文献についての輪読。応用的な文献についての報告と討論。毎回担当者を決め、報告をする。報告後、参加者で討論を行なう。※経営学史についての文献(前期)、経営学分野について、ゼミ生が選択した文献(後期)。

準 備 学 習

毎回の該当箇所について報告者がレジュメを作成するだけでなく、他の参加者も討論に参加できるよう十分に予習しておくこと。

履修上の留意点

予習・復習、あるいは論文作成のために多くの時間を割く必要がある。積極的に勉強する、意欲ある学生の参加を望みます。

成績評価の方法

平常点100%(発表や討論の内容、論文、学習態度など)

教科書／テキスト

開講時に指示する。

参 考 書

参加者が選択したテーマに応じ、適宜指示する。

履修コード	149951
科目名	演習Ⅱ
担当者名	なかの 香織

講義の到達目標(ねらい) マーケティング・コミュニケーションおよび広告について、実務と理論の両方の面から考察することを目的とする。理論を学ぶことに加え、それを実際の戦略に応用できるような思考も身につける必要がある。また、さまざまな課題に取り組むことを通じて、テーマに関連した資料収集の方法、問題を発見する視点、それを解決するための方法、考えたことを人に伝えるためのプレゼンテーション方法などを学んでほしい。

講義の内容／授業スケジュール 前半はマーケティング・コミュニケーションおよび広告に関する基礎的な知識をメンバー全員で共有するため、教科書を輪読し、内容について議論する。
後半はグループ研究を基本とし、以下の課題等に取り組む。
・グループでの論文執筆（他大学との合同論文発表会への参加）
・ある商品についてのマーケティング・コミュニケーション戦略を企画し、実務家へプレゼンテーションするケース研究

履修上の留意点 ・6大学合同で大学生1000人に調査・分析し、記者発表するプロジェクト（FUTURE）への参加
ゼミの時間には積極的な発言が、ゼミの時間外には自主的な課題への取り組みが求められる。特にグループ研究ではメンバーと共同で多くの課題をこなし、活発な議論を行う。そのため、マーケティング・コミュニケーションに関心が高く、ゼミ中心の学生生活を過ごしたいと思うような意欲的かつ協調性のある人に参加してほしい。

成績評価の方法 授業態度（出席状況、積極的な参加）、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。
教科書／テキスト 参考書のなかから、数冊を教科書として利用する。詳しくは開講時に指示する。
参 考 書 亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』2009年（日本経済新聞出版社）2,310円
石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年（八千代出版）2,835円
嶋村和恵監修『新しい広告』2006年（電通）2,100円
岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年（有斐閣）2,205円

履修コード	150001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	なかむら こういち

講義の到達目標(ねらい) 本ゼミでは現代企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を紐解いていき、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を身に付けるために、文献購読・資料調査・ケーススタディ・ビジネスプランニングなど多彩な課題に取り組めます。

ゼミは、単位を採るだけのものではなく、個人の「知的トレーニングの場」であり、他のゼミ生達と切磋琢磨する場であると考えて下さい。私の役割は、ゼミ生がゼミでの勉強をきっかけにして豊かな学生時代を築こうとする時のお手伝いをするだけに過ぎません。運営の主体は君達にあります。

(1) 文献購読やケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する専門知識の習得、分析力、洞察力の強化を図ります。
(2) レポート作成を通してのアウトプット能力、論述能力、論理構成力の強化を図ります。
(3) 毎週の報告や議論などを通してプレゼンテーション能力やディスカッション能力の強化を図ります。
(4) 実際にビジネスプランの策定を通して、事業戦略を構築する企画力と構想力の強化を図ります。

演習Ⅱ（3年生）
前期（1～15回）：競合企業の比較分析、ビジネスプラン対抗戦
後期（16～30回）：ケース・ディスカッション

準備学習 経営学・経営戦略論を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的です。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、経営学への学習意欲の向上につながるでしょう。

履修上の留意点 ゼミの理念は「知的トレーニング」にあるので、毎週レポートを宿題として課し、相当の勉強時間の確保が必要になります。また、ゼミでは議論が中心になるために、事前の準備も必要となります。（夏に合宿を行います）

成績評価の方法 遅刻の常連、無断欠席、各種課題や提出物の期限の遅れ、不十分な内容のレポートを提出した場合は、厳しくチェックします。成績は、出席数、提出課題の内容、議論への貢献度などの平常点によって判断します。なお、4年次にはゼミ論文があります。

教科書／テキスト 授業時に発表する。

履修コード	149101
科目名	演習Ⅱ
担当者名	にしから かずお 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい)	【テーマ：情報セキュリティ】 文書(英論文など)の読みかた、書きかた、発表のしかた、コンピュータの利用のしかたを体得し、論理的な思考力を養う。
講義の内容／授業スケジュール	次の事項をおりませで行う。 ・コンピュータによる情報セキュリティについての演習。 ・テーマの発見と発表(3回)。 ・BPMNによるビジネスプロセス図の作成、UML。 ・ゼミ論文のテーマの決定、ゼミ論文中間報告書の提出。 その他 ◆就職活動についてのアドバイス、面接の実習、ビジネス文書の書きかた。 ◆情報処理技術者試験のための学習。 ◆イベント(年1・2度)。
履修上の留意点	テーマは“情報セキュリティ”であって、コンピュータの操作方法ではない。コンピュータの知識がある人ではなく、やる気と実行力のある人を求む。入ゼミ者は、2年次までに“情報処理基礎”を必ず履修すること。
成績評価の方法	出席のほか、発表(3回)、ゼミ論文テーマの発表、ゼミ論文中間報告書。
教科書／テキスト	教材のページ： http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/seminar/materials.html
参 考 書	吉田幸生『仕事の文章が面白いほど書ける本』(中経出版)1992年
そ の 他	入ゼミ手続き(2年次)：面接と文章完成法テストによって選考する。説明会に出席しないと、面接が受けられない。“情報処理基礎”をすでに履修していること。
関 連 リ ン ク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/

履修コード	148701
科目名	演習Ⅱ
担当者名	ほとり しげる 羽鳥 茂

講義の到達目標(ねらい)	演習Ⅱでは、日本企業のコーポレート・ガバナンス、情報効率性、システム特性などのより進んだ研究を目指して、上級レベルのテキストと専門的な基本文献を理解し、知識の拡充とゼミ生各自のレベル・アップを目標にします。
講義の内容／授業スケジュール	前期では、下記の参考書、教科書を中心に学習し、研究テーマの方向が決まるようにゼミを進めていきます。後期では、ゼミ生の研究テーマを報告してもらい、ディスカッションとプレゼンテーションを繰り返すことによって研究を確かなものにしていきたいと考えています。なお、研究の中間報告を年末に提出してください。
成績評価の方法	ゼミでの報告とその内容によって評価します。
教科書／テキスト	青木昌彦『比較制度分析に向けて』NTT出版、瀧澤弘和・谷口和弘訳3900円(新装版)
参 考 書	岡田章『ゲーム理論』有斐閣、4600円 青木昌彦・奥野正寛・岡崎哲二編著『市場の役割・国家の役割』東洋経済新報社、2500円

履修コード	149301
科目名	演習Ⅱ
担当者名	はねだ しょうこ 羽田 尚子

講義の到達目標(ねらい)	自分が関心のある企業について、企業経済学の理論や考察がどのように応用できるか、調査・分析する能力の習得を目的としている。
講義の内容／授業スケジュール	テキストの輪読とグループディスカッションにより、企業経済学の考え方を習得する。発表担当者はテキストを読解し、他の学生にわかりやすいような工夫ある報告を行う。報告に対する質疑応答・討論を、グループごとに行う。また、学生各自が興味・関心を寄せる企業を1社選び、テキストで紹介されている経済理論や現実企業の記述・分析を、選択した企業にどのように応用できるか調査・分析・報告を行う。
履修上の留意点	演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと継続して受講することを前提としている。 欠席は絶対にしてはならない。履修学生は、自発的に課題にとりくみ、積極的に発言をし、よりよい討論を目指してほしい。
成績評価の方法	出席状況、課題やグループワークへの取り組み、発表や討論の内容により総合的に評価。
教科書／テキスト	小田切宏之「企業経済学」東洋経済新報社 浅羽茂「経営戦略の経済学」日本評論者 船川淳志「思考力が高まるプロの口ぐせ」PHP研究所

履修コード	149801
科目名	演習Ⅱ
担当者名	ふじわら あつし 藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)

本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。ゼミ生各人がこのテーマ・領域に関連して自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することはもちろん、ゼミ生各人が物事に対して疑問や意見をもち、それらを論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することを目指している。

講義の内容／授業スケジュール

3年次・4年次では、先述のように各人がゼミ論文のテーマを設定し、論文作成のための研究を進めていく。また授業自体は、ゼミ生各人による自分の論文についてのプレゼンテーション(発表・報告)、質疑応答、議論・討論を中心に行われる(全30回の授業全て)。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく。このような研究報告や議論・討論を活発に効果的に進めるために、ゼミ内に全員が積極的に発言できるような雰囲気を作りたい。それゆえ授業以外のイベント(工場見学、合宿、コンパなど)には全員が参加することが原則である。

履修上の留意点

以上のような内容なので、中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。2年という時間の中で、一定水準以上の論文を完成させるのは、継続的な努力と意欲が必要になるからである。勉強にしろその他のイベントにしろ、自分から常に積極的に参加・参画する姿勢が求められる。

成績評価の方法

出席とゼミでの報告を重視。出欠については、規定の欠席回数に達したものは即除籍にする。その他、ゼミでの討論時の発言内容や参加態度も成績評価に入る。

教科書／テキスト

特定のテキストはなく、講読する文献はゼミ生の学習・研究分野に応じて自主的に選定してもらうか、基本的文献は教員から指示する。また企業での事例に関する資料は、日本経済新聞や日経産業新聞を活用し、ゼミ生自身の研究テーマに関わる記事を適宜こちらから提示する。

履修コード	148401
科目名	演習Ⅱ
担当者名	みやぎ てつ 宮城 徹

講義の到達目標(ねらい)

演習Ⅱ(3年)

3年次ゼミ生は、英語圏とドイツ語圏(邦訳書)と日本の代表的な「新しい制度学派」の文献を素材として、企業について一層突っ込んだ研究を行う。

講義の内容／授業スケジュール

こうして、ゼミ生は、「組織理論」(特に意思決定理論とコンティンジェンシー理論=状況的アプローチ)と「新しい制度学派」の双方の組織(=企業)についての理解の共通性や相違点などを少しでも見分けることができるようになれば、それに越したことはない。それはともあれ、3年次ゼミ生は各自、同ゼミの最後の段までに、「ゼミ論文」のテーマを設定し、私に提出しなければならない。

成績評価の方法

※ ゼミは、毎回1人あるいは複数のリポーターが与えられた範囲をレジюмеに基づいて報告し、その他のゼミ生はそれを中心にして活発にディベートするように進める。

※ ゼミの中心的素材はゼミの開始時に指示する。

※ 齊藤 孝著『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部)平成9年、を入手のこと。

平常点評価。その際、(a)出席を重視する。(b)自分の思うところを述べ、他人の意見に注意深く耳を傾ける能力があるかどうかを重視する。

履修コード	147701
科目名	演習Ⅱ
担当者名	ももづか かおる 桃塚 薫

講義の到達目標(ねらい)

このゼミでは組織が直面するさまざまな問題を取り上げ、多角的に分析する。組織論の問題を中心に取り上げ、組織論のものの見方を身につけることを目的とするが、経営学全般についての理解が深まるように、配慮する。

演習Ⅱでは、自分の関心のあるテーマを明確にし、組織論の見地から論じられるようになることを目的とする。文献の輪読によって、分析のための概念を得るとともに、関心の所在について報告してもらう。

文献輪読とディスカッションによって経営組織論の内容を学ぶ

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

ディスカッションに参加するためには、レポーター以外の学生も予習は必須であるし、自分の考えをまとめるために、小レポート（原稿用紙2枚以下）を頻繁に課す。

出席とゼミへの積極性、レポート内容による。

開講時に指示する。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

岩内、村田、高橋、青木、『ポストモダン組織論』。大月、藤田、奥村、『組織のイメージと理論』。有斐閣の『経済辞典』は、何かと重宝する。田尾雅夫・若林直樹『組織調査ガイドブック』はゼミ論のテーマを明確にするのに役立つ。

そ の 他

学生、教員ともに中だるみしないで意欲的にやりましょう。

履修コード	147501
科目名	演習Ⅱ
担当者名	やまだ じゆんべい 山田 純平

講義の到達目標(ねらい)

日本の会計基準は、国際的な調和化を理由に、ここ10年でかなりの変貌をとげてきたといわれます。しかし、国際的な調和化といっても、そもそも世界的に会計基準がどのような方向に向かいつつあるのか、その背景となる考え方はどのようなものか、といったことは十分に検討されているとはいえません。そこで、本演習では、企業会計に関する基礎的な知識を身につけるとともに、国際基準の動向とその基礎概念を考察します。

また、会計基準は実際に運用されてこそ意味があるのだから、現実の財務諸表を分析することを通じて、会計基準の実態面についても合わせて検討します。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

財務諸表の読み方に関するテキストを読むとともに、卒業論文に向けて中間報告をしてもらう予定です。

原則として毎回出席してください。また、ゼミの行事にはできるだけ参加すること。

議論への参加度、報告の出来、出席率で評価します。

授業中に参加者と相談のうえ、決定します。

履修コード	148201
科目名	演習Ⅱ
担当者名	やまだ まさる 山田 勝

講義の到達目標(ねらい)

ボーダレス時代にビジネスパーソンとして活躍するためのセンスを磨くこと。

講義の内容／
授業スケジュール

英文経営雑誌Business WeekのCover Storyを素材に(コピーを配布)、その内容についてディスカッションする。共通語は英語。英語を学ぶのではなく、英語が含んでいる国際的経営センスを得ることが目的。

準 備 学 習

授業の対象となる記事内容に関する事柄を積極的に調べておくことが大切です。

履修上の留意点

各自で英語力の向上に努めること。

成績評価の方法

平常点評価。毎時間出席し、積極的にディスカッションに加わるのが評価の対象となる。

そ の 他

「日本経済新聞」を毎日丹念に読むことを必須とします。

履修コード	149961
科目名	演習Ⅱ
担当者名	わかやま だいき 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい)	演習Ⅱの目的は、市場（消費者行動）を理解するための理論や方法論、および統計処理ソフトウェアSPSSの使い方について学ぶことにある。
講義の内容／ 授業スケジュール	マーケティングデータの理解を深めるために消費者行動の観察法・調査法・実験法を学び、この分野で最も利用されている統計処理ソフトウェアSPSSの使い方を学び、マーケティングデータ解析の理解を深める。さらに市場理解に重要な社会心理学の諸理論について学ぶ。また、後半より卒業研究の準備を行う。 (1)～(6)テキストの輪読、(7)～(14)論文の輪読、(15)前半まとめ、(16)～(22)統計処理ソフトウェアSPSSを用いた演習、(23)～(30)マーケティングデータ分析課題とプレゼンテーション
準備学習 履修上の留意点	日頃より問題意識を持って新聞記事に目を通し、授業中のディスカッションに備えること。 グループワークをはじめ、学習効果が高まると考えられることは積極的に取り入れる。各自、意欲を持って積極的に取り組むこと。統計処理ソフトウェアを用いた演習では、統計学を学んだことがなくても基礎からわかりやすく解説する。休まずに出席すれば理解できるようになる。もしも欠席するときは事前に申し出るようにしてください。マーケティング・サイエンスA、Bを履修済、あるいは履修していることが望ましい。
成績評価の方法	成績は、一人3～4回の発表、出席、ディスカッション（質問、コメント等）への参加、データ解析課題提出状況を総合的に評価する。無断欠席が何度か続いた場合は履修放棄とみなします。
教科書／テキスト 参 考 書	テキストや論文は必要に応じて配布する。 必要に応じて配布あるいは指示する。

履修コード	148351
科目名	演習Ⅱ
担当者名	わたなべ いつこ 渡辺 伊津子

講義の到達目標(ねらい)	本ゼミでは、経営管理の観点から問題を掘り下げ、思考することができる力を磨くことをねらいとする。前期では、経営管理の課題について数人のグループによるグループ研究を行う。また、発表大会に向けてパフォーマンス能力を高める。後期では、各自が卒業研究に向けてテーマの設定および先行研究のレビューを行い、研究計画書を作成する。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) オリエンテーション (2～14) グループ研究、テーマに関する発表と討論 (15) 発表大会 (16～20) 卒論のテーマ選定 (21～25) 先行研究のレビュー (26～30) 研究計画書の作成
成績評価の方法	平常点60%（出席、積極的な参加、レジュメ作成、発表内容） 中間テストおよび最終発表の内容40%
教科書／テキスト 参 考 書	開講時に指示する。 荻谷剛彦著（2002）『知的複眼思考法』講談社＋α。

履修コード	152411
科目名	演習Ⅲ
担当者名	あわき しげき 青木 茂樹

講義の到達目標(ねらい)	この演習の目的は、マーケティングや流通に関する知識を主体的に獲得していく姿勢や作法を身につけることである。今日、様々な情報が渦巻く社会では、本質的課題を発見し仮説を創造する力や、これを検証する様々な情報収集の仕方、これを論理的に説明していく力が必要である。こうした姿勢や作法を学生時代に体得しているか否かは、社会の舞台にたったときのスタート時から大きな差となるであろう。
講義の内容／授業スケジュール	こうしたゼミ活動を通じて、今日、社会人基礎力といわれる12の力、①Action（主体性、働きかけ力、実行力）、②Thinking（課題発見力、計画力、創造力）、③Teamwork（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）を養う。事前・中間・事後で、個々人のこれらの到達度を測り、将来の職業適性などに応じた指導も合わせて行う。 1. 前期 マーケティング・流通に関する重要な論文を輪読しながら、それらのアイデアが生まれてきた背景や今後の発展的展開を考える。フィールドワークや企業訪問、ゲスト・スピーカーの招聘なども適宜行う。 2. 夏休み 夏合宿（9月）&OB・OG会 合宿では、グループ研究の中間発表を行う。そのために自主的な研究会を開く場合もあろう。 3. 後期 前期同様に論文の輪読と批判的検討を行う。これに加え、グループ発表へ向けて、グループ論文の作成に取り掛かってもらう。これは、外部機関の学生懸賞論文などとテーマを兼ねることも考えられる。基本は自分達が一番やりたい研究を行うことであろう。 4. 冬休み 完全休み 5. 春休み OB・OG会。
履修上の留意点	学生の主体的な研究意欲や向上心によってゼミは牽引されるものであり、教員はアドバイザーやサポーターに徹する。もちろん無断欠席はありえない。
成績評価の方法	ゼミ活動全般を通じて、総合的に評価する。すべてにパーフェクトな人間はいない。むしろ個々人の関心や持ち味を生かしてゼミ運営に参加・貢献していることを高く評価する。
教科書／テキスト	皆さんの研究や将来の職種の興味を伺いながら、演習時にテキストを決めていく。

履修コード	150801
科目名	演習Ⅲ
担当者名	あかし ひろゆき 明石 博行

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、パソコンの操作能力等の基礎力のさらなる育成を図るとともに、引き続き経済社会学の応用領域の学習に取り組みます。今年度の研究テーマは、3年次からの継続的課題である、現代の多国籍企業と国際経営に関する研究です。また、活動の全体を通して、卒業論文の作成に取り組んでゆきます。
講義の内容／授業スケジュール	演習は前期と後期に分けて行います。前期には、パソコン教場において、パワーポイント（およびエクセル）の操作能力とプレゼンテーション能力の育成を図ります。後期には、通常の演習教場において、主要テキスト『新グローバル経営』を中心とする学習と討論に取り組みます。後期にはまた、卒業論文についての報告と討論をしつつ、卒業論文を完成させます。こうした取り組みと関連するかたちで、情報収集能力と情報の整理能力のさらなる向上を図り、秋にパワーポイントを用いたプレゼンテーションと卒業論文の中間報告・検討のための合宿を行います。
準備学習	報告と討論のための事前の準備をしっかりと行うよう心がけてください。とくに、テキストをよく読み、わからないことなどを調べるよう努めてください。
履修上の留意点	4年次には、卒業論文のテーマに即して班を再編します。また、卒論の作成に際しては、班別あるいは個人別に、通常の演習時間外にも補足的な相談会を行います。
成績評価の方法	成績は、通常の演習および相談会などへの参加状況を基本としつつ、卒業論文の取り組みに関する判断を加えて評価をします。
教科書／テキスト	前期には、『PowerPoint2007 [総合版]』（毎日コミュニケーションズ、1800+税）および『Excel2007 [総合版]』（毎日コミュニケーションズ、1780+税）を使用します。後期には、引き続き、安室憲一編著『新グローバル経営』（白桃書房、3500円+税）を使用します。なお、卒業論文の作成に必要なすべての文献が、教科書・参考書となります。
参考書	『最新政治・経済資料集2011』（第一学習社）を使用します。また、個々の領域の学習に必要な参考書についても、適時、紹介します。
その他	ゼミの内部で使用する関係資料を、必要に応じて配布します。

履修コード	152501
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>あべ かずひと</small> 阿部 一人

講義の到達目標(ねらい) 前年度に続いて会計監査の問題をとり上げ、ゼミ論文の作成を期する。
 講義の内容／各自の選択したテーマにそって、卒業論文の作成とその検討を行う。
 授業スケジュール
 成績評価の方法 成績評価は、報告発表、レポート、出席状況により総合的に判定する。
 教科書／テキスト 授業中において適宜指示する。

履修コード	151201
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>いいた てつお</small> 飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい) この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに裏づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。この演習では、ゼミ論文の作成を通して、問題を定量的に自ら分析できるようになることを目指します。

講義の内容／各自が、モデルによる意思決定・分析に関するテーマを決め、そのテーマに沿ってゼミ論文を作成します。
 授業スケジュール
 履修上の留意点 自ら問題意識を持ち、積極的にテーマに沿った調査・研究を行うことが求められます。
 成績評価の方法 ゼミ論文の内容とそのプレゼンテーション、および出席・受講態度を考慮して総合的に評価します。

履修コード	151801
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>いしなま くにあき</small> 石名坂 邦昭

講義の内容／各自のテーマについて論文を作成し、全体の論文集を作成する。
 授業スケジュール
 成績評価の方法 論文をもって評価する。
 参 考 書 論題に必要な資料を紹介する。

履修コード	150901
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>おざわ としひさ</small> 小沢 利久

講義の到達目標(ねらい) マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、コンピューターを使って定量的に分析する点に特徴があります。また、マネジメント・サイエンスの応用範囲は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へと広がりつつあります。この演習ではそのようなマネジメント・サイエンスの各種手法とコンピューターリテラシについて学ぶとともに、資料作成とプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力の育成を図ります。

講義の内容／ゼミ論文を作成します。そのために、前期は経営・経済関連の雑誌記事を読みながら興味のある対象を選び、テーマを決めていきます。後期は、前期に決めたテーマについて調査・分析し、それを論文にまとめます。最後に、論文発表を行います。
 授業スケジュール
 準備学習
 履修上の留意点 必要に応じて授業の中で示します。
 成績評価の方法 論文作成ではオリジナリティを重視します。単なる調査ではなく、自分自身の見解を持つことが求められます。
 教科書／テキスト 提出論文、発表内容、出席状況により評価します。
 参 考 書 使用しません。
 そ の 他 必要に応じて示します。
 関 連 リ ン ク 特にありません。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/>

履修コード	152301
科目名	演習Ⅲ
担当者名	鹿嶋 ^{かしま} 秀晃 ^{ひであき}

講義の到達目標(ねらい)	研究テーマは現代日本企業の人事労務管理。大学生活の中で、ゼミは最も勉強に打ち込み、一番思い出になるところだと考えます。よって、積極的に勉強し、行事を企画し、みんなで楽しくゼミを過ごしたいという学生を採用します。
講義の内容／ 授業スケジュール	現代の日本企業とそこに働くサラリーマンが抱える問題に関して、入門書と専門書を読んでいきます。企業と労働、社会について幅広い関心を持ち、科学的に考える力を養います。サブテーマは「終身雇用」「年功賃金と能力主義」「日本的経営」「女性労働」「日本的労使関係」「会社人間」「過労死」ほか。2ヵ月に1冊のペースで本を読みます。受講者全員があらかじめテキストを熟読し、中から報告者（レジュメを作成）、コメンテータを決め、その2人を中心に議論をしていきます。最近の新聞から企業経営や労務に関するものを切り抜き、コメントを加えてプレゼンテーションすることもやっています。4年次は卒論作成中心。
準備学習 履修上の留意点	日常的に新書や経済新聞等にも目を通して、関心を広げておくこと。 カリキュラムの特性上、本演習は経営学科生対象。無断欠席は単位認定なし。行事もゼミの一環なので必ず出席のこと。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席点、講義中の発表・発言、レポートを総合して判定。 適宜指示。過去のテキスト例。熊沢誠『働きすぎに斃れて』、大内伸哉『雇用はなぜ壊れたのか』、濱口桂一郎『新しい労働社会』、佐藤博樹編著『人事マネジメント』、G.オルコット『外資が変える日本的経営』など。
参 考 書 そ の 他	演習時に適宜紹介。 鹿嶋ゼミの特徴は、2～4年のゼミ生間に交流があることです。履修希望者は、必ず経営労務論を履修のこと。他のゼミ活動には、ゼミ書評、全国コンテスト参加などがあります。詳しくはWEBページ参照のこと。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/

履修コード	151001
科目名	演習Ⅲ
担当者名	片桐 ^{かたぎり} 伸夫 ^{のぶお}

講義の到達目標(ねらい)	このゼミは3・4年次(演習Ⅱ・Ⅲ)で「就職希望会社の経営分析」を行うことを目的とします。(経営分析の内容については、演習Ⅱの講義のねらいをごらんください。)
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)経営分析について、(2-6)経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12)収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15)貸借対照表、損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20)生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26)キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30)税効果会計、正味現在価値法と設備投資
履修上の留意点	このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心とします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向きのゼミです。
成績評価の方法	成績評価の方法は平常点100%です。 4年次(演習Ⅲ)では、2年間の成果をゼミ論としてまとめます。
教科書／テキスト	開講時、指示します。
参 考 書	随時、紹介します。

履修コード	150301
科目名	演習Ⅲ
担当者名	兼村 ^{あむむら} 栄哲 ^{えいてつ}

講義の到達目標(ねらい) 社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、①主体的懸隔、②量と組み合わせに関する懸隔、③情報の懸隔、④空間的懸隔、⑤時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換（の連鎖）を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品を消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング（「流通」とほぼ同義）と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング（いわゆる「マーケティング」）に大別される。

講義の内容／
授業スケジュール

マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。
本演習のねらいは、履修者の一人ひとりが、こうしたマーケティングにかかわる諸現象を体感し、当該現象について自分なりに論理的に説明できるようになることにある。

演習は、講義科目とはまったくその性格が異なっている。授業時間内においても積極的に参加することが要求される。以下の2つが、私が皆さんに最低限要求する内容である。

1. 学業面における大学生活の集大成として、各自の問題意識にしたがい卒業論文を作成する。当論文は、A4サイズ1頁あたり1,200字（40字×30行）で25枚以上とする。（ワープロ原稿）。
2. 夏休みの工場見学に参加する。その前提として、各工場について、各自が30以上の質問を考える。

履修上の留意点

1. 通常の演習のみならず、合宿その他の課外活動にも参加すること。同時に、たんに出席するのではなく、自発的に自分なりの疑問や意見を示すなど、積極的に参加すること。
2. お互いの親睦を図ること。
3. 無断で欠席や遅刻を繰り返したり、病気・就職活動などを理由に欠席や遅刻をしたにもかかわらず、その証明書を持参しない履修者については、卒業論文の最低枚数が増加することもあるので注意すること。
4. 授業開始後、諸般の事情で履修を取りやめる場合には、必ず事前にその旨を申し出ること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

出席状況、授業態度、発表内容、卒業論文の内容等による総合的な評価
なし
適宜紹介する。

履修コード	152561
科目名	演習Ⅲ
担当者名	河合 ^{かわい} 由佳理 ^{ゆかり}

講義の到達目標(ねらい) 演習Ⅱにおいて、決定した各自のテーマについて卒業論文を作成し、ゼミ内で討論することによって、より完成度の高い論文にすることを目的としています。

講義の内容／
授業スケジュール

前期：各自のテーマに沿った論文の執筆（状況に応じて報告を求めます）

後期：ある程度出来上がった論文に対する手直しの作業（ゼミ内で意見を言い合う形で改善していきます）

履修上の留意点

授業は、受講生の報告・討論をベースに進める予定のため、欠席は基本的に認めません。

また、自分の卒業論文だけでなく、他のゼミ生の論文に対しても意見・質問が言えるように努力すること。

成績評価の方法

出席状況と卒業論文の内容を総合して評価します。

履修コード	152421
科目名	演習Ⅲ
担当者名	菅野 ^{かんの} 佐織 ^{さおり}

講義の到達目標(ねらい)	演習Ⅲの目的は、マーケティングに関連する研究を通じて「論理的思考力」及び「分析力」をさらに磨くことです。卒業論文の作成を行っていきます。最終的には論文集にまとめていく予定です。また、後輩の指導も積極的にさせていただきます。教えることによって、学びをさらに深めることができます。
講義の内容／ 授業スケジュール	・後輩の指導 ・卒業論文作成
履修上の留意点	とくになし。
成績評価の方法	ゼミへの貢献度、後輩への指導、出席の状況、毎回の課題への取り組み度合いを総合的に判断して評価します。自己評価・他者評価によっても評価します。
教科書／テキスト	授業で適宜お知らせします。
参 考 書	授業で適宜お知らせします。
そ の 他	就職活動を理由に勉強をおろそかにせず、高い目標を持って卒業論文を仕上げるように。

履修コード	150601
科目名	演習Ⅲ
担当者名	岸田 ^{きしだ} 隆行 ^{たかゆき}

講義の到達目標(ねらい)	これまでに習得した原価計算・管理会計の知識をもとに、卒業論文を作成する。 論文作成の各段階ごとに報告を行い、内容についてゼミ員同士で討論することによってよりよい論文を作成できるようにする。
講義の内容／ 授業スケジュール	一年を通して論文を完成させる。 前期は各自で設定したテーマについての論文を渉猟し、いくつかの論文を報告していく。 後期は各自の論文の進捗状況を報告し、最終的に完成した論文を提出してもらう。
準 備 学 習	他人が報告する内容であっても、事前に内容を読み、質問を考慮しておくこと。
履修上の留意点	ゼミには積極的に参加してもらいたい。 また、他人の卒業論文の報告であっても、自分は関係ないという態度ではなく、積極的に批判や質問をすることによって、切磋琢磨し、それぞれがよりよい論文が書けるよう努力してもらいたい。
成績評価の方法	出席、報告の内容、論文によって総合的に評価する。
参 考 書	それぞれのテーマに沿った文献を適宜紹介する。

履修コード	152601
科目名	演習Ⅲ
担当者名	猿山 ^{さるやま} 義広 ^{よしひろ}

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、現代における管理会計または企業経営に関するテーマで調査・研究を行う際に必要となるノウハウを身につけることを目的としている。演習では、知識の習得以上に専門知識をベースにした知的表現技法の習得に重きが置かれるので、受講者は自らの報告にあたってテーマについての自分の立場と意見をはっきりと示せるよう事前準備に努めてほしい。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1～5回 調査・研究にあたってのテーマ設定と構成の指導 第6～10回 参考文献の見つけ方と引用に関する指導 第11～15回 事例研究の進め方に関する指導 第16～20回 調査・研究報告書や論文の文章および注記の指導 第21～25回 各自作成する調査・研究報告書や論文の中間報告 第26～30回 各自作成した調査・研究報告書や論文の最終報告と評価
履修上の留意点	演習は学生による報告が中心となる。報告にあたっては、聴講者がより深く理解できるように資料を作成してもらうことになるが、文章だけでなく図表を盛り込んだ資料をつくること。
成績評価の方法	割り当てられた報告の内容、授業中の発言、出席状況、年2回課すレポートの内容に基づいて総合的に評価する。
教科書／テキスト	なし。
参 考 書	必要に応じて指示する。
そ の 他	卒業後、胸を張って「私は学生時代、管理会計論の演習を受講しました」といえるだけの成果が上げられるよう、限られた時間の中で一生懸命に勉強してもらいたい。

履修コード	152611
科目名	演習Ⅲ
担当者名	高井 ^{たかい} 徹雄 ^{てつお}

講義の到達目標(わらい)

ブロードバンドで繋がったインターネットを基盤とするIT(情報技術)は、今日の企業経営また社会・経済システムを捉えるうえでも最も重要なキーワードとなっています。皆さんは、真の意味で、情報が価値を持ち、情報が価値を生み出す時代に生きています。このような時代、企業や官庁のスタッフとして、また将来はエグゼクティブとして、「情報エリート」を目指すならば、少なくとも以下の能力が要求されると考えます。

- (1) 発見力：与えられるのを待つのではなく、自分で問題を見つける能力。
- (2) 洞察力：問題に関係する必要な情報を選別する能力。情報を分析し問題の本質を洞察する能力。
- (3) 表現力：分析結果を集約し、解り易くプレゼンテーションする能力。
- (4) 解決力：他者と協力しあって、具体的な問題解決を図る能力。

皆さんに、こうした素地を養って頂くことを狙いとして、各週の演習、および年2回の合宿(1回は勉強、もう1回は親睦を主目的とする)における題材と環境を用意します。主体的にゼミに参加されることを願っています。およそのスケジュールは以下のとおり。受講生とコミュニケーションをとりながら、理解度や興味の方角を見極めながら進めて行きます。

4-12月：ゼミ論各テーマ別個人指導

1月：ゼミ論最終発表と提出

ゼミ論文の作成は、実質的には課外時間に多くの時間を割いていただくこととなります。ゼミ出席時には、各自ゼミ論の進捗状況について報告を求め、ディスカッションを行います。

毎回、コンピュータルームにおいて実習形式で授業を行います。

実習形式の授業は、全体が同じペースで学習を進めていく必要がありますので、極力欠席しないようお願いいたします。

毎回出席をとります。4年時は、ゼミ論文を作成していただき、年度末に論文提出・発表会を実施し、その結果をもって成績評価を行います。筆記試験は行いません。

講義の内容/
授業スケジュール

準備学習

履修上の留意点

成績評価の方法

履修コード	152101
科目名	演習Ⅲ
担当者名	高木 ^{たかき} 克己 ^{かつみ}

講義の到達目標(わらい)

4年次では、5月半ばから7月にかけて、3年次に作成した進級論文を教材にして論文の書き方、文章の構成、専門用語の使い方等、2、3人の少人数で個別指導を行います。そして後期には、各自選択したテーマの問題点の整理、今後の方向性(解決策等)を中心に報告を行い、4年次終了時には、卒業論文(30枚以上、400字)の作成します。

なお、合宿等の行事は、2年次と同じく例年通りです。

前期は、進級論文として、3年次末に提出された課題を題材にして、個別指導を中心に勉強していきます。

後期は、最後の仕上げとして、問題点、今後の課題等について勉強していき、卒業論文を完成させます。

出席及び報告により評価します。

各自選択したテーマにより紹介します。

講義の内容/
授業スケジュール

成績評価の方法

参 考 書

履修コード	150101
科目名	演習Ⅲ
担当者名	たかだ みつあき 高田 光明

講義の到達目標(ねらい) 3年次からの演習に参加している間に、自分なりに持った問題意識のもとで、どのようなゼミ論文のテーマを選ぶかという作業は、自発的な姿勢で取り組むことを要求される。テーマ探しの過程でいろいろと文献を探して読むという経験を積むことは、大学卒業後に、仕事の必要に応じて、また自らの関心・興味にしたがい、自分で主体的に学べる能力である自己学習能力を身に付けるために有効である。そして論文の執筆過程で、考えながら書き、書きながら考えを深めてまとめていくことは、論理的に思考する能力を培うのに役立つ最も主体的な行為である。したがって、自己学習能力と論理的思考能力の養成という大学教育の根本的目的の達成を図る上で、ゼミ論文作成は、きわめて重要な位置を占めている。

講義の内容／
授業スケジュール 演習Ⅲでは、リスク・リターン関係や資本のコストといった概念をキーワードにして、企業の資本調達問題についてさらに議論を深める。そしてこのようなテーマで演習を進めていく間に、各自が持った問題意識のもとで選んだ個別テーマにより、ゼミ論文を作成する。

(1～15) 砂川伸幸著、コーポレート・ファイナンス入門(日経文庫, 2004年)を中心に研究

(16～30) ゼミ論文の作成指導

履修上の留意点 ゼミ論文の出来・不出来は、テーマをいかに絞り込むかにかかっている。扱うテーマが広いとどうしても掘り下げ不足となり、論文が、概説書の抄録のようなものになってしまうがちである。テーマについては、できるだけ絞る必要がある。したがって、自分が関心を持って扱おうとする領域に関して理解を深め、テーマを絞り込める眼を育てることが肝要である。

成績評価の方法 ゼミ論文の評価を基本とし、適宜提出を求める課題レポートも加味する。

履修コード	152001
科目名	演習Ⅲ
担当者名	たまた こういち 滝田 公一

講義の到達目標(ねらい) 演習I, IIで習得した、資料の分析的読み、批判的読み、データの情報処理技術などを活用して、ゼミ卒業論文を作成していただきます。ゼミ卒業論文の作成を義務づける理由は、次のようであります。

すなわち、
(ア) どのようなトピックをゼミ卒業論文のテーマとしたらよいか、すなわち、論題の切り出し方を学ぶ、

(イ) 自分の考えを論理的に明確にし、読者に理解しやすいように、幹線のわかる構造を持った論文の書き方を学ぶ、
と言った、知的作業については、その重要性にもかかわらず、これまで、日本の学校教育では、その教育が十分になされてこなかったように思われるからであります。最後に比較的入手が容易であろうと思われる参考文献をあげておきます。

講義の内容／
授業スケジュール 演習I, IIで学んだことを利用して、卒業論文を書いてもらいます。前期の授業で、論文の書き方、すなわち、問題の切り出し方、論文のアウトラインの作り方、研究資料の探し方、その分析、などを学びます。その後は、個々の論文の作成の指導を致します。

成績評価の方法 成績評価は、提出していただいたゼミ論文によって行います。

参考文献
澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫) 昭和52年
澤田昭夫『論文のレトリック』(講談社学術文庫) 昭和58年
梅棹忠夫『知的生産の技術』(岩波新書) 昭和50年
川喜田二郎『発想法』(中公新書) 昭和51年
中野不二男『メモの技術—パソコンで知的生産—』(新潮選書) 平成9年

履修コード	152401
科目名	演習Ⅲ
担当者名	なが <small>こきよう</small> 長 国強

講義の到達目標(ねらい) 現代は情報化社会といわれ、新聞・雑誌・インターネットを開いてもそこに大量の経済・経営データが見られる。ところで、経済・経営などのデータをそのまま見れば、単なる数字の山にすぎず、大切なことはそこから正しい見通しを得ることであろう。実際のデータから経済・経営など社会的な動きをどのように読みとるのかといった能力を養成できるようにすることを目的として、本演習はコンピュータを使つてのデータ解析の基本技術を学習する。

講義の内容／
授業スケジュール 演習Ⅲ(4年生)：総決算…卒業論文作成に挑戦
研究テーマを自主的に選び、演習Iと演習IIの2年間で学んだコンピュータやデータ解析の基本知識や手法などを自ら実践し、卒業論文作成に取り込む。卒業論文については、11月の中間報告、12月の卒論発表会を経て、最終的に提出してもらう。

成績評価の方法
教科書／テキスト 平常点：出席(30点)・卒業論文(70点)の成績などで総合的に評価する。
参 考 書 特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
そ の 他 日本経済新聞。
継続性ということから、演習Ⅲの新規募集はいたしません。

履修コード	152431
科目名	演習Ⅲ
担当者名	なかがわ <small>こういち</small> 中川 功一

講義の到達目標(ねらい) 経営戦略論を使いこなせるようになるよう、更なる訓練を積んでいく。同時に、その訓練の中で、問題解決のための思考能力を養っていく。

講義の内容／
授業スケジュール 文献購読、ケーススタディ、フィールドワークの3本柱による。

履修上の留意点 教科書はゼミとして購入するので、個別に購入する必要はない。

成績評価の方法 ゼミ論の提出。

履修コード	150201
科目名	演習Ⅲ
担当者名	なかがわ <small>じゆんぺい</small> 中川 淳平

講義の到達目標(ねらい) この演習では、経営学説について考察する(したがって、演習での研究テーマとしては、経営学説のなかから1つないし複数の学説から選択することとなる)。併せて、文献・資料の調査の仕方、報告のあり方、文章のまとめ方について習得する。

講義の内容／
授業スケジュール 演習論文についてのテーマ決定と参考文献の選定(前期)
章立ての決定と作成の指導(後期)

履修上の留意点 論文作成のために多くの時間を割く必要があるため、積極的に勉学する、意欲ある学生の参加を望みます。

成績評価の方法 提出論文100%。

履修コード	152441
科目名	演習Ⅲ
担当者名	なかの かのり 中野 香織

講義の到達目標(ねらい)	マーケティング・コミュニケーションおよび広告について、実務と理論の両方の面から考察することを目的とする。理論を学ぶことに加え、それを実際の戦略に応用できるような思考も身につける必要がある。また、さまざまな課題に取り組むことを通じて、テーマに関連した資料収集の方法、問題を発見する視点、それを解決するための方法、考えたことを人に伝えるためのプレゼンテーション方法などを学んでほしい。
講義の内容／ 授業スケジュール	本演習における中心的課題は卒業論文である。各自で研究テーマを設定することから始め、途中段階の内容をゼミで発表し、全員で議論する。論文をまとめるにあたって、希望者には、グループでの論文執筆(『インナー大会』への応募)や、4大学で内容を競い合う研究発表大会(MRGP)への参加も予定している。
履修上の留意点	ゼミの時間には積極的な発言が、ゼミの時間外には自主的な課題への取り組みが求められる。特にグループ研究ではメンバーと共同で多くの課題をこなし、活発な議論を行う。そのため、マーケティング・コミュニケーションに関心が高く、ゼミ中心の学生生活を過ごしたいと思うような意欲のかつ協調性のある人に参加してほしい。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	卒業論文に加え、授業態度(出席状況、積極的な参加)と発表内容を考慮して評価する。 参考書のなかから、数冊を教科書として利用する。詳しくは開講時に指示する。 亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』2009年(日本経済新聞出版社)2,310円 石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年(八千代出版)2,835円 嶋村和恵監修『新しい広告』2006年(電通)2,100円 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年(有斐閣)2,205円

履修コード	151401
科目名	演習Ⅲ
担当者名	なかむら こういち 中村 公一

講義の到達目標(ねらい)	本ゼミでは現代企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を紐解いていき、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を身に付けるために、文献購読・資料調査・ケーススタディ・ビジネスプランニングなど多彩な課題に取り組みます。 ゼミは、単位を採るだけのものではなく、個人の「知的トレーニングの場」であり、他のゼミ生達と切磋琢磨する場であると考えて下さい。私の役割は、ゼミ生がゼミでの勉強をきっかけにして、豊かな学生時代を築こうとする時のお手伝いをするだけに過ぎません。運営の主体は君達にあります。 (1) 文献購読やケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する専門知識の習得、分析力、洞察力の強化を図ります。 (2) レポート作成を通してのアウトプット能力、論述能力、論理構成力の強化を図ります。 (3) 毎週の報告や議論などを通じてプレゼンテーション能力やディスカッション能力の強化を図ります。 (4) 実際にビジネスプランの策定を通して、事業戦略を構築する企画力と構想力の強化を図ります。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習Ⅲ(4年生) 前期;過去のゼミ論文優秀作の輪読(論文執筆方法の学習) 後期;ゼミ論文の作成(各自の論文テーマの報告)
準 備 学 習	経営学・経営戦略論を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的です。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、経営学への学習意欲の向上につながるでしょう。
履修上の留意点	ゼミの理念は「知的トレーニング」にあるので、相当の勉強時間の確保が必要になります。また、ゼミでは議論が中心になるために、事前の準備も必要となります。(夏に合宿を行います)
成績評価の方法	遅刻の常連、無断欠席、各種課題や提出物の期限の遅れ、不十分な内容のレポートを提出した場合は、厳しくチェックします。成績は、出席数、提出課題の内容、議論への貢献度などの平常点によって判断します。なお、4年次にはゼミ論文があります。
教科書／テキスト	過去のゼミ論集を読みます。

履修コード	152201
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>にしむら かずお</small> 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい) 資料(論文など)を探して、読み、論文を書く。成果の発表をする。これらを通して、論理的な思考力を養う。

講義の内容／授業スケジュール 論文の書きかたを習得する。
 ・資料の調査
 ・中間発表とレポート提出
 ・論文の作成と発表
 ・論文提出
 ・発表会
 その他
 ◆情報処理技術者試験のための学習
 ◆ゼミ論文発表会(2度)・イベント(1・2度)

履修上の留意点 就職活動に左右されず、計画的にゼミ論文を作成すること。
 成績評価の方法 出席のほかに、ゼミ論文。
 教科書／テキスト 教材のページ：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/seminar/materials.html>
 関連リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/>

履修コード	151901
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>はとり しげる</small> 羽鳥 茂

講義の到達目標(ねらい) 最終学年の演習Ⅲでは、これまでの学習成果をまとめることが目標です。3年次で提出した研究テーマの中間報告に基づいて完成品に仕上げられるように指導したいと考えています。

講義の内容／授業スケジュール 1年を通して、ゼミ生の報告に基づく研究会のような形式で進めます。ゼミ生には研究報告のための十分な時間が与えられるので、活用してください。

成績評価の方法 研究報告とその内容によって評価します。

教科書／テキスト 特にありませんが、ゼミの中で必要に応じて適宜に紹介とアドバイスはもちろん行います。

参 考 書 特にありませんが、ゼミの中で必要に応じて適宜に紹介とアドバイスはもちろん行います。

履修コード	150501
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>はねだ しようこ</small> 羽田 尚子

講義の到達目標(ねらい) 各自の分析テーマを、演習ⅠおよびⅡで習得した技能で検証し、卒業論文を作成する。

講義の内容／授業スケジュール 前期は分析テーマの参考となる文献調査、データ収集、進捗状況の報告が中心となる。後期は発生した問題点や改善点の修正をし、分析の質を高める。論文の書き方については、適宜指導する。

成績評価の方法 受講態度、ゼミへの貢献、報告および論文の内容により総合的に評価。

履修コード	150401
科目名	演習Ⅲ
担当者名	よじわら かつし 藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)

本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。ゼミ生各人がこのテーマ・領域に関連して自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することはもちろん、ゼミ生各人が物事に対して疑問や意見をもち、それらを論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することを目指している。

講義の内容／
授業スケジュール

4年次でも3年次に引き続き、先述のように各人が論文作成のための研究を進めていく。ただ場合によっては必ずしも論文という形にはこだわらず、一つのテーマ(指定もしくは任意のテーマ)についてのレポート作成を目標にすることもある。授業自体はゼミ生各人によるプレゼンテーション(発表・報告)、質疑応答、議論・討論を中心に行われる(全30回の授業全て)。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく。このような研究報告や議論・討論を活発に効果的に進めるために、ゼミ内に全員が積極的に発言できるような雰囲気を作りたい。それゆえ授業以外のイベント(工場見学、合宿、コンパなど)には全員が参加することが原則である。その他、一層の学習および親睦を深めるためのサブゼミの開講も予定している。

履修上の留意点

中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。本ゼミでは何よりもやる気のある学生を歓迎する。

成績評価の方法

出席とゼミでの報告を重視。出欠については、規定の欠席回数に達したものは即除籍にする。その他、ゼミでの討論時の発言内容や参加態度も成績評価に入る。

教科書／テキスト

特定のテキストはなく、講読する文献はゼミ生の学習・研究分野に応じて自主的に選定してもらうか、基本的文献は教員から指示する。また企業での実例に関する資料は、日本経済新聞や日経産業新聞を活用し、ゼミ生自身の研究テーマに関わる記事を適宜こちらから提示する。

履修コード	150701
科目名	演習Ⅲ
担当者名	まへだ かずとし 前田 和利

講義の到達目標(ねらい)

演習IIのテーマ(日本における企業経営の進化・発展モデルの研究)を継続して検討するが、論文作成のスキルの養成を主眼とする。

講義の内容／
授業スケジュール

- ①日本型企業経営の転換について考える。
- ②個人ないしグループによる研究成果の報告を行ない、論文(ワープロ、12000字以上)を作成する。

準備学習

報告者は論文の進行度に応じて事前に報告要旨・資料を作成しておくこと。

成績評価の方法

平常点(20%)および論文評価(80%)による。

参考書

論文の進行速度に応じて適宜指示する。

履修コード	151701
科目名	演習Ⅲ
担当者名	みやぎ てつ 宮城 徹

講義の到達目標(ねらい)

演習III(4年)

4年次ゼミ生は、400字詰原稿用紙30~50枚程度のゼミ論文の作成にとりかかる。

講義の内容／
授業スケジュール

そのさい、テーマに密接に関連のある邦訳書・邦語の文献を適宜指示するが、英語圏あるいはドイツ語圏の論文をゼミ論文の素材にしたいというゼミ生に対しては、然るべき論文を1本割り当てるので、それを翻訳してゼミ論文に加味してもよい。また、論文を仕上げるまでの日程等についてもアドバイスする。

※ゼミは、毎回1人あるいは複数のリポーターが与えられた範囲をレジュメに基づいて報告し、その他のゼミ生はそれを中心にして活発にディベートするように進める。

※ゼミの中心的素材はゼミの開始時に指示する。

※齊藤 孝著『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部)平成9年、を入手のこと。

成績評価の方法

平常点評価。その際、(a)出席を重視する。(b)自分の思うところを述べ、他人の意見に注意深く耳を傾ける能力があるかどうかを重視する。

履修コード	151601
科目名	演習Ⅲ
担当者名	ももづか かおる 桃塚 薫

講義の到達目標(ねらい) このゼミでは組織が直面するさまざまな問題を取り上げ、多角的に分析する。組織論の問題を中心に取り上げていくが、経営学全般について理解できるように配慮する。
演習Ⅲでは、演習Ⅱでの学習を発展させ、2万字程度のゼミ論文を完成させる。テーマは演習Ⅱと同じであることが望ましいが、就職活動等を通じて、問題意識が変わることもあり得るので変更も認める。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

ゼミも各自の研究テーマの発表を中心に進める。
普段のゼミで経過発表をした上で、ゼミ論文を提出する。
ゼミ論文の提出には合計3回の中間報告が必須。
良い論文を書くゼミ生は、他のゼミ生の論文の長所・短所をよく見ている。兄が怒られている(ほめられている)のを見る次男坊の気持ちでディスカッションに参加すること。
提出された論文による。自他の中間発表に参加しなかった場合は提出を認めない。
開講時に指示する。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

岩内、村田、高橋、青木、『ポストモダン組織論』。大月、藤田、奥村、『組織のイメージと理論』。

履修コード	151101
科目名	演習Ⅲ
担当者名	やまだ じゅんぺい 山田 純平

講義の到達目標(ねらい) 日本の会計基準は、国際的な調和化を理由に、ここ10年でかなりの変貌をとげてきたといわれます。しかし、国際的な調和化といっても、そもそも世界的に会計基準がどのような方向に向かいつつあるのか、その背景となる考え方はどのようなものか、といったことは十分に検討されているとはいえません。そこで、本演習では、企業会計に関する基礎的な知識を身につけるとともに、国際基準の動向とその基礎概念を考察します。

また、会計基準は実際に運用されてこそ意味があるのだから、現実の財務諸表を分析することを通じて、会計基準の実態面についても合わせて検討します。

卒業論文の構想やその周辺分野について報告をしてもらおう予定です。

授業中に中間報告をしてもらうことと卒業論文を提出することが、単位の最低要件です。また、ゼミの行事にはできるだけ参加すること。

卒業論文の出来、議論への参加度、報告の出来、出席率で評価します。

授業中に参加者と相談のうえ、決定します。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

成績評価の方法
教科書／テキスト

履修コード	151501
科目名	演習Ⅲ
担当者名	やまだ まさる 山田 勝

講義の到達目標(ねらい) ボーダレス時代にビジネスパーソンとして活躍するためのセンスを磨くこと。

月1度の割で、各自が毎日読む『日本経済新聞』の記事の中から、テーマを定めて日本語(1000字程度)と英文のレポートをメールで提出。更にそれを演習時間に発表し、その内容をめぐってディスカッションする。共通語は英語。

平常点評価。毎時間出席し、積極的にディスカッションに加わるのが評価の対象となる。

講義の内容／
授業スケジュール

成績評価の方法

履修コード	152451
科目名	演習Ⅲ
担当者名	わかやま だいき 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい)	演習Ⅲでは、3年生までに身に付けたマーケティング諸活動に関する知識や諸理論および、統計的な考え方をもとに、各自の研究テーマで専門性を高め、その成果を卒業論文にまとめる。
講義の内容／ 授業スケジュール	各自のテーマごとに、 (演習Ⅱのつづき) (1) 初回に卒業研究準備状況報告 (前年度最終回から3ヶ月間分の進捗状況) (2～5) 文献研究やデータの収集 (6～12) 必要に応じて調査実験を実施 (13～20) データ解析 (21～28) 論文作成 を行う。 (研究テーマや内容・進捗状況により、夏休みや冬休み、春休みにも、行うことがある。)
準備学習	日頃より問題意識を持って新聞記事に目を通し、授業中のディスカッションに備えること。各自のテーマにより個性が高いので、各自が積極的に意欲を持って授業に臨んでください。
履修上の留意点	卒業研究のテーマは各自の関心に応じて選ぶ。もちろん興味を持って楽しんで取り組めるものが望ましいが、楽しんで取り組めるように努力する姿勢(工夫)も大切である。また、マーケティング・サイエンスA、Bは履修済であることが望ましい。
成績評価の方法	最終的には提出された卒業論文(50点)、および最終発表会での発表により評価するが、論文を作成するプロセス(50点)も重要視する。従って、初回報告、ゼミでの進捗状況報告(4回)と中間発表(8月～10月、ゼミ合宿1回、10月中旬1回)、最終発表(12月第一週)、提出(12月第三週)、およびディスカッションへの参加状況も含めて総合的に判断する。無断欠席は履修放棄とみなします。
教科書／テキスト 参 考 書	必要に応じて配布あるいは、指示する。 必要に応じて配布あるいは、指示する。

履修コード	152551
科目名	演習Ⅲ
担当者名	わたなべ いづこ 渡辺 伊津子

講義の到達目標(ねらい)	本ゼミでは、演習Ⅰおよび演習Ⅱで学習した知識や各自の問題意識に基づいて、卒業論文の作成を行う。卒業論文に取り組むにあたって、ゼミという場は多様な視点や考え方を取り入れる最高の機会である。積極的な討論を期待する。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1～14) 卒業研究に関する報告Ⅰ (15) 卒論中間発表 (15～29) 卒業研究に関する報告Ⅱ (30) 卒論最終発表
成績評価の方法	平常点50% (出席、積極的な参加、レジュメの作成、発表内容) 卒業論文のできればえ50%
教科書／テキスト 参 考 書	開講時に指示する。 卒業研究のテーマに応じて適宜指示する。

履修コード	136201
科目名	会計学
担当者名	岩淵 昭子

講義の到達目標(ねらい)	本講義は、今日の制度会計を中心に会計の理論的なフレームワークを学習します。会計の目的は、一般的に複式簿記の手法等によって、組織（主に企業）の経営成績および財政状態を明らかにして、企業を取り巻く利害関係者に会計情報を提供することにあります。本講義のねらいは、社会人として必要な会計の基礎知識を学ぶことによって、企業等の経営活動を貨幣額で表したデータの意味を理解できるようになることにあります。
講義の内容／ 授業スケジュール	1回 ガイダンス、総論 2回 会計の仕組み 3回 企業会計の理論的特徴（会計公準・会計原則） 4～5回 企業会計制度 6～14回 資産会計 15回 まとめ・中間試験 16～19回 負債会計 20～22回 資本会計 23～25回 損益会計 26～27回 財務諸表の作成 28～29回 連結財務諸表 30回 まとめ・後期末試験
準備学習 履修上の留意点	前回学習した内容について、テキストを読み、復習を心がけてください。 毎回、レジュメを配布します。当日配布するレジュメの冒頭には、前回学習したことの振り返りをして記入する箇所があります。必ず、前回のレジュメを持参してください。
成績評価の方法	出席（30％）と前期と後期の期末に実施する試験（各30％）、その他受講態度等（10％）として総合的に評価します。
教科書／テキスト 参 考 書	新井清光著・川村義則補訂、『現代会計学 [第12版]』、中央経済社、2,600円＋税 必要に応じて、指示します。

履修コード	136101
科目名	会計学
担当者名	片桐 伸夫

講義の到達目標(ねらい)	企業会計の目的は、複式簿記により経営活動を記録・計算し、経営成績と財政状態を企業の利害関係者に報告することです。企業を取り巻く利害関係者には、経営者、従業員、債権者、投資家、国・地方公共団体、さらには就活をする学生等まで入ります。 このため、財務会計論、税務会計論、国際会計論、監査論、管理会計論、原価計算論、経営分析論などの専門分野に分かれます。 本講義のねらいは、2年次からの会計専門科目に入りやすいよう、その予備知識を提供することにあります。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) 会計学について、(2-7) 簿記一巡の取引と貸借対照表・損益計算書の作成、(8-10) 会計基準 会計公準 会計制度 財務諸表の種類、(11-15) 株式会社の貸借対照表・損益計算書の読み方、(16-20) 原価計算 製造業-製造原価報告書 CVP (21-26) キャッシュフロー計算書、本支店会計、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、経営分析簿記学の記帳練習を充分行うこと。
履修上の留意点 成績評価の方法	成績評価は授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。 評価基準 前期テスト 数回行い50％ 後期テスト 数回行い50％
教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	～質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。 財務諸表の見方（第10版）日本経済新聞社（日経文庫） ¥872 随時、紹介します。 毎回、プリントを配付します。簿記の論点については、YeStudyに登録しますので、欠席時はダウンロードすること。

履修コード	136211
科目名	会計学
担当者名	かたぎり のぶお 片桐 伸夫

講義の到達目標(ねらい)

企業会計の目的は、複式簿記により経営活動を記録・計算し、経営成績と財政状態を企業の利害関係者に報告することです。企業を取り巻く利害関係者には、経営者、従業員、債権者、投資家、国・地方公共団体、さらには就活をする学生等まで入ります。

このため、財務会計論、税務会計論、国際会計論、監査論、管理会計論、原価計算論、経営分析論などの専門分野に分かれます。

本講義のねらいは、2年次からの会計専門科目に入りやすいよう、その予備知識を提供することにあります。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 会計学について、(2-7) 簿記一巡の取引と貸借対照表・損益計算書の作成、(8-10) 会計基準 会計公準 会計制度 財務諸表の種類、(11-15) 株式会社の貸借対照表・損益計算書の読み方、(16-20) 原価計算 製造業-製造原価報告書 CVP

(21-26) キャッシュフロー計算書、本支店会計、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、経営分析簿記学を履修することが望ましい。

履修上の留意点
成績評価の方法

成績評価は授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。

評価基準 前期テスト 数回行い50%
後期テスト 数回行い50%

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

～質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

財務諸表の見方〈第10版〉日本経済新聞社(日経文庫) ¥872

随時、紹介します。

毎回、プリントを配付します。簿記の論点については、YeStudyに登録しますので、欠席時はダウンロードすること。

経営

履修コード	141801・331801
科目名	会計監査論
担当者名	あべ かずひと 阿部 一人

経営

講義の到達目標(ねらい)

“監査論を無味乾燥であるとエスケープしないでくれたまえ”
もともと監査論は、その言葉自体がもつ語感からして、堅苦しく・手続的で暗いイメージを与えがちである。

監査論は他人の不実行為を暴くこと自体を目的とするものではないので、仮にその結果、内容のどこにも非のうちどころがなく全く適切で妥当なことが明らかになったとしても、それはむしろ当然の事柄であって、その人が負っている責任を免れることにもなるのである。

監査は、優れて社会的・人間的な用具として生みだされたものであるが、しかしそれを悪用したり骨抜きにしたりする者も現実には存在することは、過去の事例からも明らかなことであるけれども、そのような者が多ければなおのこと監査に対する社会的な要望も多岐に存在している。

まさに、監査がどれだけ社会一般に受け入れられているのかということこそ、文明社会を映し出す尺度であると言えまいか！

監査論は、財務諸表監査として特徴づけられている。

これは、企業をめぐる多数の利害関係者を保護するため、企業の発表する財務諸表が企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、職業的監査人が公正な立場から批判的意見を表明する社会制度であり、他のあらゆる監査の標準をなすものである。

本講義では、財務諸表監査を中心として概説する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 会計監査の意義と目的 (総論) (1)

- ①監査の必要 ②監査の意義
- ③監査の対象

2. 会計監査の意義と目的 (総論) (2)

- ①監査の目的 ②監査思想の変遷
- ③監査の効用

3. 金融商品取引法監査

4. 会社法監査

5. 監査基準

6. 内部統制

7. 監査計画

8. 監査手続

9. 監査意見と監査報告書

10. 中間監査

11. 現代監査論の動向

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

「簿記学」「会計学」の科目を履修済みであることが望ましい。

学期末試験とレポートにより総合的に評価する。

開講後指示する。

田島四郎『最新監査論』(税務経理協会) 2,900円

高田正淳『最新監査論』(中央経済社) 2,800円

鳥羽至英『監査基準の基礎』(白桃書房) 3,900円

三澤 一『会計監査の理論』(中央経済社) 2,800円

山樹忠恕・松田信男『監査基準精鋭精説』(税務経理協会) 3,500円

脇田良一『財務諸表監査の構造と制度』(中央経済社) 3,800円

履修コード	334801
科目名	外書講読 (英書)
担当者名	^{みじわら あつし} 藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)	本講義では経営学に関する英語文献を講読していく。文献の講読により、英語での専門用語の学習や英語の専門書を読みこなす力の向上はもちろんのこと、文章や文献の内容を把握し理解することを目的としている。よって単なる英語の学習ではなく、英語を通じた経営学の学習を目指す。
講義の内容/ 授業スケジュール	前期と後期にそれぞれ違う文献を講読する。講読に先立って、講読文献の理解の一助にするために、受講者に当該分野の基本的な内容のプレゼンテーションをしてもらった上で (日本語で)、文献の講読に入りたい。講読する文献は、経営管理、国際経営、人的資源管理の分野から、受講者の興味と英語力に合わせて決定する。
準備学習	授業スケジュールは以下の通り。第1回 イントロダクション。第2～3回 講読分野に関するプレゼンテーション。第4～14回 文献Aの講読。第15回 小テスト。第16～17回 講読分野に関するプレゼンテーション。第18～29回 文献Bの講読。第30回 小テスト。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書/テキスト	毎回の読み進む部分の事前学習は必須である。講読する文献の分野に関する基本的な知識・用語を知っておくことが望ましい。 講義の性格上、毎回の出席と毎回の予習が求められる。 授業中の翻訳・発表 (80%)、小テスト (20%) で評価する。 講読する文献は既述の分野から受講者の興味・英語力に合わせて選定する。

経営

履修コード	144121
科目名	外書講読 (英書 I)
担当者名	^{あかし ひろゆき} 明石 博行

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、専門用語を含む英文の読解力を伸ばすとともに、経済社会に関する基本的な認識を深めることを基本目的として、経済社会学に関係の深い、経営学、会計学、社会学、経済学、経済人類学などの古典あるいは代表的文献からの (英訳を含む) 抜粋を読みます。
講義の内容/ 授業スケジュール	主たる文献としては、経営学の領域ではMichael E. Porter, Competitive Advantage, 1985.、会計学の領域ではA. C. Littleton, Accounting Evolution to 1900, 2nd ed. 1966.、社会学・社会経済史の領域ではMax Weber (Mariane Weber ed.), Economy and Society, 1922.、経済学の領域ではJohn M. Keynes, The General Theory of Employment, Interest and Money, 1936.、経済人類学・経済社会学の領域ではKarl Polanyi, The Great Transformation, 1944.、政治経済学・経済社会学の領域ではKarl Marx, A Contribution to the Critic of Political Economy, 1859. と Karl Marx, The Capital, vol. I, 4th ed. 1890.、を使用します。 抜粋の配列は、以下の通りです。
履修上の留意点	一回の授業ごとに複数の担当者を割り当て、輪読形式によって、編集したテキストを読んでゆきます。事前の準備と担当部分のレポートを確実にやるよう、心がけてください。
成績評価の方法 教科書/テキスト	講義への出席と発表への取り組み、中間試験、年度末のレポートにより、総合的に判断します。市販のテキストは使用しません。抜粋をコピーして配布します。

- Chapter 1 Michael E. Porter
 1. Competitive Strategy
 2. The Value Chain
 3. Competitive Advantage
- Chapter 2 A. C. Littleton
 1. Proprietorship Theory in Accounting
 2. The Entity Theory in Accounting
- Chapter 3 Max Weber
 1. The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism
 2. An Outline of Interpretive Sociology
- Chapter 4 John M. Keynes
 1. The General Theory
 2. The Long-term Expectation
 3. The General Theory of the Rate of Interest
- Chapter 5 Karl Polanyi
 1. Societies and Economic Systems
 2. Dahomey and the Slave Trade
- Chapter 6 Karl Marx
 1. The Materialist Conception of History
 2. The Possibility of Crisis
 3. Basic Characters of Capitalist Mode of Production

履修コード	144201
科目名	外書講読（英書Ⅰ）
担当者名	^{かねむら} 兼村 ^{えいてつ} 栄哲

講義の到達目標(ねらい)	本講義のねらいは、各履修者が、経営（学）、マーケティング（論）、経済（学）などにかかわる英文を正確にかつ速く把握することができるようになることにある。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回～9回：経営（学）にかかわる英語文献 第10回：第1回目のテスト 第11～19回：マーケティング（論）にかかわる英語文献 第20回：第2回目のテスト 第21～29回：経済（学）にかかわる英語文献 第30回：第3回目のテスト
準備学習 履修上の留意点	事前に配布された印刷物の指定箇所を、文法や構文に留意しながら全訳すること。 1. 講義中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該講義時間内にしか配布しない。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回講義までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。 2. 携帯電話や私語など、講義の妨げになるような行為は絶対にしないこと。 3. 進捗状況が芳しくない場合には、補講期間中に補講をおこなう。履修登録する際には、この点を踏まえて登録すること。
成績評価の方法	3回のテスト－60点 出席状況および理解度－40点
教科書／テキスト 参 考 書	なし（配布する印刷物に基づいて、授業を進めていく）。 石黒昭博（監修）『総合英語 フォレスト』（第6版）桐原書店、2009年、1,575円。 （ISBN：978-4-342-01040-8）
そ の 他	その他については、適宜紹介する。 必ず英和辞書を持参すること。

履修コード	144111
科目名	外書講読（英書Ⅰ）
担当者名	^{かわい} 河合 ^{ゆかり} 由佳理

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、会計学に関する英語文献を正しく読む能力を身につけ、文献を訳読することによってビジネスの世界に必要な不可欠とされる会計学の基礎を英語で理解することを目標とします。英語文献を使用するため、通常よりゆっくりした進度で授業を行い、確実に内容把握ができるようにします。
講義の内容／ 授業スケジュール	下記に示した参考書のうち、貸借対照表（Balance Sheet）、損益計算書（Income Statement）、キャッシュ・フロー計算書（Statement of Cash Flows）に関連する章を訳読して会計学の基礎を英語で学びます。
準備学習	また、必要に応じて、英字新聞の訳読も行う予定です。 本講義は、受講生が発表を行い、適宜解説を加えながら授業を進めます。そのため予習を行うことが前提となります。
成績評価の方法	中間試験（3割）、学期末試験（3割）、授業中の発表（2割）、出席状況（2割）を基本に評価します。
教科書／テキスト 参 考 書	授業中に適宜プリントを配布します。 Robert N. Anthony and Leslie K. Breitner 『Essentials of Accounting -Ninth Edition-』

履修コード	144101
科目名	外書講読（英書Ⅰ）
担当者名	宮城 徹 <small>みやぎ てつ</small>

講義の到達目標(ねらい) 経営学を学ぶ際、特に、英語圏とドイツ語圏の経営学を原書で読む能力が重要である。ここでは英語圏だけを取り上げる。

その際、実践的問題解決は、理論研究の必要性を前提し、それを裏づける理論なしにはすまされえない、という基礎前提の上に立ってはじめて認められる、という点を見落してはならない。

だからこそ、原書を正しく読む能力が不可欠である。ここに原書講読の意義がある。

講義の内容／
授業スケジュール

この講義の内容は、2009年ノーベル経済学賞を受賞したアメリカのO. ウィリアムソン (Oliver Williamson)、ドイツ経営学界の代表者の一人であるミュンヘン大学のA. ピコー (Arnold Picot)、フランスにおける取引コスト理論の代表者であるパリ大学のC. メナード (Claude Ménard)、その他の世界的な権威者たちの企業論に関する最新の論文集である。

受講生が、(1) 専門用語の正確な訳語を理解し、(2) 文章全体を正しく翻訳し、(3) その理論の内容を正しく理解できるように説明し、(4) 同時に翻訳のコツを指導する。

毎回、受講生各自に翻訳させ、誤りを正してゆく。

十分な予習・復習を要する。

出席と翻訳力による平常点評価。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

Edited by Ulrich Bindseil, Justus Haucap, Christian Wey, "Institutions in Perspective", Mohr Siebeck, 2006

履修コード	144211
科目名	外書講読（英書Ⅱ）
担当者名	山田 勝 <small>やまだ まさる</small>

講義の到達目標(ねらい) アメリカにおける消費社会の特徴を学ぶことで、現代の社会と消費の関係を考える。単に英語を和訳するのではなく、書かれている内容を把握し、受講者間で討論しながら自分の考えをまとめていく方法を学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

毎回、1週間前に配布される相応のプリント（平均してテキスト数頁を予定しています）を予習してきてもらい、内容に関して発表してもらう。

準備学習

毎時間、内容についてのディスカッションに参加することが求められるので、必ず予習をして出席すること。

履修上の留意点

【毎回出席し、発表することが望まれます。】

①最初の授業で、授業の進め方や注意事項を詳しく説明するので、必ず出席すること。

②予習と出席は必須です。毎時間、発表を求めます。

③内容にかかわる経済・経営の事項について理解を進めるために、随時レポートの提出を求めることがあります。

成績評価の方法

毎時間の発表とレポートの内容によって評価します。相当の理由と認められない欠席で、出席日数が全授業時間の9割に満たない場合は成績評価の対象外としますので、欠席しないように心がけてください。

教科書／テキスト
参 考 書

L.B. Glickman ed., Consumer Society in American History, Cornell Univ. Press, 1999

適宜紹介する。

履修コード	144601
科目名	外書講読（スペイン書）
担当者名	上野 勝広 <small>うえの かつひろ</small>

講義の到達目標(ねらい) 専門書をひとりで読みこなすことができるよう、1年次、2年次で学んだスペイン語の基礎の上に、読解力を養う訓練をします。

講義の内容／
授業スケジュール

スペイン語圏および日本の社会と文化に関するテキストを読みます。同時に必要な文法事項を以下の予定で確認します。

前期 (1) オリエンテーション (2~5) 自動詞・再帰動詞・他動詞の構文、など (6~10) 連結動詞の構文、など (11~15) 関係節、など

後期 (16~20) 副詞節、など (21~25) 受動構文、など (26~30) 比較構文、など

履修上の留意点

スペイン語の基礎文法をしっかり復習しておくこと。現代のスペイン語文に親しんでもらうため、できるだけ多量のテキストを読んでもらいます。予習復習は欠かせません。また個々の受講者の興味、関心、専攻と結びつけてテキストに関してのコメントを求めます。動機を明確にしておきましょう。スペイン語圏に真面目に関心のある学生の受講を期待します。

成績評価の方法

毎回の授業参加と、各回の達成度チェックによります。試験やレポートは課さず、平常点で評価します。

教科書／テキスト

プリント使用。

履修コード	144501
科目名	外書講読 (中国書)
担当者名	佐藤 普美子

講義の到達目標(ねらい) 近年の中国社会の世相を反映する「流行語」や「文化キーワード」に関する解説文(主として、新聞・雑誌記事)を読み、生活に根付く伝統と急速な変化の両面から同時代中国への理解を深める。

講義の内容／授業スケジュール 第1回:導論。第2~5回:映画・ドラマに関するトピック(以下同様)。第6~9回:教育。第10~13回:文学・芸術。第14~17回:衣食住(1)。第18~21回:時事・政治。第22~25回:旅行・健康。第26~29回:衣食住(2)。第30回:学期末試験。

準備学習 予習は不可欠です。

成績評価の方法 出席・予習の有無等の平常点(6割)と学期末試験(4割)を基本にして総合的に評価します。

教科書／テキスト 開講時に教材プリントを配布します。

参考書 辞書は必携です。購入に際しては下記URLを参考にしてください。

関連リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gakujoho/zhojisho>
<http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gaikoku2/>

履修コード	144301
科目名	外書講読 (独書)
担当者名	数下 紘一

講義の到達目標(ねらい) 中級程度のドイツ語を辞書を使って読めるようになる事

講義の内容／授業スケジュール 第1、2回、誕生、第3、4回学校、第5、6回社会の青少年、第7、8回青少年と余暇、第9、10回祝日と休暇、第11、12回卒業と職業教育、第13、14回職業、第15、16回ドイツの大学、第17、18回若い人と住まい、第19、20回結婚、第21、22回家族、第23、24回家政、第25、26回職場、第27、28回社会生活の諸相、第29、30回人生のたそがれ

履修上の留意点 家で必ず予習しておいて下さい。どしどしあてて、読んで訳して貰います。お客さんにならないように。

成績評価の方法 平常点=50点、前期と後期の試験各25点で、合計100点満点となります。

教科書／テキスト Deutschland im Laufe des Lebens(ドイツ人の一生)、A. Raab, T. Ishii, 朝日出版、ISBN4-255-25233-5 c1084,1900円と税。

履修コード	144401
科目名	外書講読 (仏書)
担当者名	東 辰之介

講義の到達目標(ねらい) フランス語の基礎を習得した学生を対象に、フランス語で書かれた経済・経営に関する文献をテキストとして講読することによって、フランス語の読解力を養うとともに、経済・経営に関する知識を深めることを目標とします。テキストは、フランス語で書かれた経営学の入門書を選択肢の一つとして用意しておきますが、履修者の関心に沿った形で決定することとします。

講義の内容／授業スケジュール (1)受講上の諸注意／テキストの選定① (2)~(15)初級文法の確認と、テキストの訳読 (16)テキストの選定② (17)~(30)中級文法の学習と、テキストの訳読

準備学習 授業時に説明しますが、予習が不可欠です。

履修上の留意点 授業にきちんと出席することが何より重要です。授業には必ず仏和辞典を持参してください。

成績評価の方法 前期末授業内試験(50%)と学年末試験(50%)を基本に、出席状況・授業態度等を勘案し、総合的に評価します。

教科書／テキスト 授業開始時に、受講者と相談のうえ決定。プリント配布を基本とします。

参考書 仏和辞典が必要です。

履修コード	144701
科目名	外書講読 (ロシア書)
担当者名	杉山 秀子

講義の到達目標(ねらい) ビデオ、DVDを見て最低限のロシア事情についての知識を得るとともに、最低限のロシア語学習をしてもらいます。それができない人は最初から履修を断わる場合があります。

講義の内容／授業スケジュール 4~9月 ロシアを紹介したビデオ、DVDをみる。真似てみたい表現をパソコンでうってみる。10月~12月 インターネットでリアルタイムのニュースをみて、カッコいい殺し文句を覚えてみよう。

履修上の留意点 パソコンルームでパソコンを動かすので、できるだけ早くパソコン操作になれて貰いたい。

成績評価の方法 定期試験はおこなわないが、毎回小テストをする。また出席は重視するので単位取得のみを目的の人は最初から履修しないこと。

教科書／テキスト 教室でプリント配布

履修コード	136631
科目名	確率・統計入門A
担当者名	おざわ としひさ 小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	データには必ず誤差が含まれており、データの利用にあたっては誤差を考慮した分析が必要となります。確率・統計入門では、そのような分析のための基礎理論である統計的推定と検定の理解を最終的な目標とします。そのために、この確率・統計入門Aでは統計的推定と検定の理解に必要な確率論の基礎とデータ処理について学び、後期に配当された確率・統計入門Bで統計的推定と検定を学びます。この科目は2年次以降に配当された専門教育科目を受講する上で必要となる確率・統計の基礎を学ぶ科目です。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：誤差を考慮した分析の必要性、第2回：事象と確率、第3回：条件付き確率とベイズの定理、第4回：確率変数と分布関数、第5回：平均と分散、第6～9回：いろいろな確率分布（二項分布、ポアソン分布、幾何分布、指数分布、一様分布、正規分布）、第10～11回：多変量確率変数（同時分布、独立性、共分散と相関係数）、第12～13回：標本抽出と標本平均・標本分散、第14回：データの処理、第15回：全体のまとめ
準備学習	予習として教科書を読む、復習として教科書の例題を自分で解いてみることを心がけて下さい。数学的な内容の理解には、問題を解いてみるのがもっとも効果的です。
履修上の留意点	後期継続して確率・統計入門Bを受講して下さい。理解度確認のために宿題を出します。授業の前提とする内容は特にありませんが、数学的な理解を助けるために経営数学Aを同時に履修することを勧めます。
成績評価の方法 教科書／テキスト	定期試験の結果を主とし（基本的に10割）、それに提出された宿題の点を加算して評価します。 稲垣宣生・吉田光雄・山根芳知・地道正行、『統計学講義』、裳華房、本体2,100円、ISBN978-4-7853-1545-0
参考書 その他 関連リンク	必要に応じて示します。 特にありません。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	136641
科目名	確率・統計入門B
担当者名	おざわ としひさ 小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	この確率・統計入門Bでは、確率・統計入門Aで学んだことを前提として統計的推定と検定について学びます。この科目は2年次以降に配当された専門教育科目を受講する上で必要となる確率・統計の基礎を学ぶ科目です。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：推定・検定とは、標本抽出の復習、第2回：標本平均と標本分散、確率変数・分布・平均と分散の復習、第3～4回：大数の法則と中心極限定理、正規分布の復習、第5回：推定と推定量、第6～8回：母平均・母分散・母比率の区間推定、カイ2乗分布とテーパー分布、第9回：仮説検定の考え方、第10～12回：母平均・母分散・母比率の検定、第13～14回：平均の差と分散比の区間推定と検定、エフ分布、第15回：全体のまとめ
準備学習	予習として教科書を読む、復習として教科書の例題を自分で解いてみることを心がけて下さい。数学的な内容の理解には、問題を解いてみるのがもっとも効果的です。
履修上の留意点	確率・統計入門Aの内容を前提とします。理解度確認のために宿題を出します。数学的な理解を助けるために経営数学Bを同時に履修することを勧めます。
成績評価の方法 教科書／テキスト	定期試験の結果を主とし（基本的に10割）、それに提出された宿題の点を加算して評価します。 稲垣宣生・吉田光雄・山根芳知・地道正行、『統計学講義』、裳華房、本体2,100円、ISBN978-4-7853-1545-0
参考書 その他 関連リンク	必要に応じて示します。 特にありません。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	143501
科目名	環境経営論
担当者名	かわむら まよひこ 川村 雅彦

講義の到達目標(わらい)	①地球環境問題の基礎知識を習得し、新しい視点から企業の環境問題への取組を理解する。 ②地球環境問題と企業経営の関係について、「自分の考え方」を確立する。 ③持続可能性の概念に基づき、「知識」よりも「考え方」を問う。
講義の内容／ 授業スケジュール	(前期：理論編) ①②環境経営の基本的な考え方、③④日本における環境経営の変遷、⑤⑥環境経営の手段と目的、⑦⑧市場のグリーン化と環境ビジネス、⑨⑩企業経営の環境リスクとリスク対応力、⑪⑫環境経営の評価指標(環境会計、環境効率)、⑬⑭環境経営のパウンダリー問題、⑮前期の総括(後期：実践編) ①②企業の環境問題への取組(全体像)、③④⑤⑥環境問題への取組の実際(業種別)、⑦⑧環境マネジメントシステム、⑨⑩京都議定書と温室効果ガスの排出量取引、⑪⑫環境経営格付と環境コミュニケーション、⑬⑭環境文明論、CSR(企業の社会的責任)、⑮後期の総括
準備学習	①日頃から、新聞、テレビ、インターネットなどで地球温暖化(気候変動)や生物多様性(生態系の保全)などの地球環境問題を意識的に見る。②関心のある企業の「環境報告書」(最近ではCSR報告書としての発行が多い)を見る(ホームページで閲覧可能)。
履修上の留意点	毎回レジュメを配布するが、講師の多様な経験も交えて話をするので、出席を重視し、規定回数以上の出席を原則とする(出席は毎回とるが、事情がある場合には事前相談に応ずる)。
成績評価の方法	①出席(50点) + 試験(50点) = 満点100点(合格は60点以上)。 ②前期・後期各2/3以上の出席を合格条件とする(欠居などは認める)。 ③前期と後期の期末試験の受験を合格条件とする(資料持ち込み可)。
教科書／テキスト 参考書 その他	教科書は特に指定しない(毎回レジュメ配布)。 参考書は授業で随時推薦する。 特になし。

履修コード	329701
科目名	環境経営論
担当者名	しらとり かずひこ 白鳥 和彦

講義の到達目標(わらい)	地球環境問題は全人類の課題であると共に、企業経営においても重要な課題である。我が国では公害問題以降、環境問題への対応は進み、企業活動における環境への対応は今や必須であるが、これまでは環境対応は負担と考えられてきた。しかし環境問題を企業の成長の糧、競争優位の条件として捉えた「環境経営」の取り組みが進められている。 持続可能な成長のために企業が行う環境経営とは如何なるものか。企業の社会的責任(CSR)の遂行のためにどう取り組んでいるか。企業経営における環境課題の取り組みについて理解を深めてもらいたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	環境経営の考え方と課題、およびその取り組みについて小テーマに分けて講義を行う。また産業界に籍を置く講師の知見を活かし、具体的な事例を多く取り上げていく。 <講義予定> 1. 地球環境問題(前期の講義) 今起こっている地球環境問題、地球環境問題への対応とその変遷等 2. 企業の環境経営の取り組み(前期を中心に講義) 環境に配慮した製品開発、温暖化防止・省エネルギー、省資源・廃棄物削減・資源循環、化学物質管理、環境マネジメントシステム(ISO14001)、環境教育、環境コミュニケーション等 3. 環境経営の理論、課題、企業の取り組み事例(後期を中心に講義) 環境経営の意義、環境経営の指標、環境経営の課題、企業の取り組み事例等 途中数回小レポートを課することがある。
履修上の留意点	講義への出席状況および前期・後期各期末試験により評価する。
成績評価の方法	配分：出席点50、前後期試験50 単位取得条件：前後期通じて三分の二以上の出席があること 前後期とも期末試験を受験のこと
教科書／テキスト	白鳥和彦『環境企業家と環境経営の新展開』税務経理協会、¥2400(税別)、ISBN 978-4-419-05328-4
参考書 その他	参考書は適宜紹介する。 単に知識を積み上げるのではなく、企業の具体的な事象に触れ、自らの価値観、考え方を持つ場として貰いたい。

履修コード	140101
科目名	管理会計論
担当者名	猿山 ^{さるやま} 義広 ^{よしのひろ}

講義の到達目標(ねらい)	この講義の目的は、日商簿記検定試験や公認会計士試験に出題される形式の計算問題を解きながら、管理会計の考え方や技法を理解してもらうことにある。管理会計は財務会計と並ぶ会計学の柱であり、会計学系列の演習を受講する学生はできるだけ履修してほしい。また、管理会計は経営学とも深く関わっているため、経営学系の演習を受講する学生も積極的に履修してほしい。
講義の内容 授業スケジュール	第1回 管理会計の基本概念、第2回 管理会計と原価計算1 —— 原価の意義と分類、第3回 管理会計と原価計算2 —— 原価計算の手続、第4回 管理会計と原価計算3 —— 直接原価計算、第5回 第1回小テスト、第6回 短期利益計画におけるCVP分析1 —— 損益分岐点分析、第7回 短期利益計画におけるCVP分析2 —— 目標利益の達成計画、第8回 短期利益計画におけるCVP分析3 —— プロモーション効果、第9回 第2回小テスト、第10回 原価予測、第11回 最適セールス・ミックスの決定、第12回 経済的発注量 (EOQ) の決定、第13回 第3回小テスト、第14回 標準原価計算による原価管理1 —— 原価統制の基礎、第15回 標準原価計算による原価管理2 —— 製造間接費の原価差異分析、第16回 標準原価計算による原価管理3 —— 標準直接原価計算、第17回 予算実績差異分析、第18回 第4回小テスト、第19回 活動基準原価計算 (ABC)、第20回 原価企画、第21回 バランス・スコアカード (BSC)、第22回 事業部制の管理会計、第23回 第5回小テスト、第24回 意思決定会計1 —— 業務的意思決定、第25回 意思決定会計2 —— 不確実性下の意思決定、第26回 意思決定会計3 —— 設備投資の意思決定、第27回 第6回小テスト、第28回 マーケティング会計1 —— 営業費管理会計、第29回 マーケティング会計2 —— ブランド管理会計、第30回 まとめ
履修上の留意点	講義の重点は計算問題の解法に置かれるので、かならず電卓を持参すること。周知のように、管理会計における計算問題の多くは、日商簿記1級原価計算や公認会計士試験原価計算の特殊原価調査の分野で出題されるような問題と重なっているため、学習効果を高めるためにも、できるだけ「原価計算論」と併せて履修してほしい。
成績評価の方法	年間で6回行う授業中の小テストを20%、本試験を80%のウエートで評価を行う。本試験は電卓以外の参照は一切不可なので、注意してほしい。
教科書/テキスト	とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記2級工業簿記や日商簿記1級原価計算の過去問題を参考にしてほしい。また、例題や解法のポイントについてのプリントを毎回配布するので、それを保存するようにしてほしい。
参 考 書	管理会計の最新理論については次の本に詳しく述べられている。 櫻井通晴『管理会計〔第四版〕』同文館出版。
そ の 他	少しでも疑問な点があれば、授業中でも授業終了後でもかまわないので、積極的に質問すること。プリントは大切に保存してほしいが、もし紛失してしまったときは遠慮なく申し出ること。最後まであきらめることなく、粘り強く勉強してほしい。

履修コード	141501・331901
科目名	銀行経営論
担当者名	服部 昌久

講義の到達目標(ねらい)	金融制度は一国の歴史的発展の産物であり、その国の繁栄を築くための社会的インフラである。社会が今日のように大きな変革期にあるときには、長期的な展望に立って変化を先取りして新たな制度を構築しなければならない。経営環境が大きく変化した中で、銀行は新たな道を求めて模索しているが、本講義においては、戦後のわが国の金融システムの変遷を振り返るとともに、欧米主要銀行の動きにも注目しながら、利用者のニーズに応える銀行のあるべき姿を探りつつ、時事問題も含め、銀行経営にかかわる諸問題を、わかりやすく解説する。
講義の内容／授業スケジュール	講義はおおよそ次のような内容を予定している。 (1) オリエンテーション「銀行経営論をはじめのあたって」(2) 日本経済をめぐる環境(3) 戦後経済の変遷(4) わが国の金融制度の沿革と特徴(5) 銀行とは何か(6～8) 銀行の基本的機能—金融仲介機能、決済機能、信用創造機能(9～11) 銀行の業務範囲、銀行の貸出業務、銀行の預金業務(12) 銀行持株会社制度(13～14) わが国の銀行の収益状況、米銀の収益状況(15) 中間整理(16～17) 金利と利鞘、マネーサプライの変化と銀行(18～19) 銀行の国際業務、為替相場と銀行(20) 銀行のマネーローミング対策(21～24) バブル経済の発生・崩壊と銀行の責任、不良債権問題と銀行破綻、銀行の再編、預金保険制度(25～27) 銀行経営とリスク管理—リスクとは何か、リスクとリターン、自己資本比率規制(28) リレーションシップバンキングの本質(29) 新しい銀行像(30) 期末試験
準備学習	格別の事前準備は必要ないが、日頃から新聞・雑誌に目を通すなどして、金融・経済問題に広く関心を持っておくことが望ましい。
履修上の留意点	講義は基本的な事柄を取り上げ、わかりやすく解説するよう心がけるが、それでも不明な点があれば、質問を歓迎する。
成績評価の方法	学年末の定期試験(参照物の持込不可)(50%)、レポート(45%)、授業への出席(5%)を総合して評価する。
教科書／テキスト 参考図書	レポートの課題は開講時に指示する。 指定しない。 ・鹿野嘉昭『日本の金融制度(第2版)』(東洋経済新報社) 3,800円 ISBN4-492-65379-1 ・星岳雄・A.カシャップ『日本金融システム進化論』(日本経済新聞社) 2,800円 ISBN4-532-13317-3 ・小野有人『新時代の中小企業金融』(東洋経済新報社) 2,200円 ISBN978-4-492-65400-2 ・白川方明『現代の金融政策』(日本経済新聞社) 6,000円 ISBN978-4-532-13344-3 ・鹿野嘉昭『日本の中小企業』(東洋経済新報社) 3,200円 ISBN978-4-492-65413-2
その他の 関連リンク	なし http://www.fsa.go.jp/

履修コード	330901
科目名	近代経済学
担当者名	滝田 公一

講義の到達目標(ねらい)	産業組織論の入門的講義を行います。産業組織論は、企業や産業についての経済学的分析を取り扱います。
講義の内容／授業スケジュール	第1回 産業組織論とは?、第2～3回 企業の理論、第4回 産業の分類と集中度、第5～6回 完全競争と厚生経済学、第7回 独占、第8回 支配企業の理論、第9回 価格差別、第10～11回 ゲームの理論I、第12～14回 寡占理論、第15～16回 ゲームの理論II、第17回 寡占の動学理論、第18回 企業の戦略的行動、第19回 参入障壁の理論、第20～21回 製品差別化、第22～23回 垂直的統合と垂直的制約、第24回 水平合併、第25回 研究開発投資、第26回 耐久消費財、第27回 産業規制の経済理論、第28回 自然独占、第29回 国際貿易と産業構造
準備学習	予習は、特に必要ではありませんが、講義後、ノートに書かれている内容がよく理解できているかどうか、確認してください。
履修上の留意点	経済学概説の知識、特に、ミクロ経済学の知識があると役に立ちます。
成績評価の方法	学年度末のレポート試験で評価します。
教科書／テキスト 参考図書	特に、指定しません。 Church and Ware, Industrial Organization, McGraw-Hill, 2000. Carlton and Perloff, Modern Industrial Organization, HarperCollins, 1994. Waldman and Jensen, Industrial Organization, Addison-Wesley 1998 ロジャー・クラーク『現代産業組織論』(多賀出版) 1989年 新庄浩二ほか『産業組織論』(有斐閣ブックス) 1995年

履修コード	140601・333101
科目名	金融論
担当者名	たまきのぶすけ 玉木 伸介

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、金融に関心のある学生、将来金融界での勤務を希望する学生を対象にしています。

本講義の狙いは、金融の基本的な機能と市場経済における役割を理解するとともに、特に我が国の金融の制度や金融業の仕組みの大枠を把握し、最終的にはここ数年の金融危機の背景に関する理解を深めること、にあります。より具体的には、教科書を通じて取得した基礎知識を土台に、金融危機後の我が国及び世界各国の金融・経済の動きに関するやや専門的な新聞・雑誌の記事を読み、自分なりの興味・関心を発展させるために必要な知識や考え方を得ることを目指します。

そのため、講義においては、担当教員の日本銀行、預金保険機構及び年金積立金管理運用独立行政法人における金融実務経験を活かしつつ、教科書によって一般的な知識を習得したうえで、現実の動きを報道や各種機関による公表資料を用いて追っていきます。

また、金融はグローバルなものであるため、なるべく海外の現実の動きをフォローするようにします。その際には、若干の英語の資料を使って、金融に関する英語に多少なりとも慣れることも、狙いの一つです。

講義の内容／ 授業スケジュール

授業は、以下のスケジュールで行います。前期は教科書を中心にした基本的な知識の習得に、後期は現実の動きを理解することに、それぞれウェイトを置きます。

前期

- 第1回：金融の基本的な機能
- 第2回：家計の貯蓄と資金余剰
- 第3回：金融資産選択
- 第4回：企業の投資と資金調達
- 第5回：企業の投資と企業財務
- 第6回：我が国の金融機関
- 第7回：金融市場の役割
- 第8回：金融システムの機能
- 第9回：金融システムの健全性を守ることの重要性
- 第10回：金融システムの健全性を守るための仕組み（プルーデンス政策）
- 第11回：金融政策の目的と手段
- 第12回：金融政策の目的と手段を巡る議論の変遷
- 第13回：預金・貸出市場と信用創造
- 第14回：債券市場の機能と我が国における発展
- 第15回：利回り曲線の考え方

後期

- 第16回：株式市場の機能と我が国における発展
- 第17回：我が国におけるバブル経済
- 第18回：我が国におけるバブルの崩壊と不良債権の発生
- 第19回：我が国における不良債権問題への対処
- 第20回：セキュリタイゼーションの仕組み
- 第21回：住宅金融とセキュリタイゼーション
- 第22回：米国におけるバブルの膨張とS&L危機
- 第23回：米国におけるバブルの膨張とサブプライム危機
- 第24回：プルーデンス政策の成功と失敗
- 第25回：サブプライム危機に対する各国の対応（1）
- 第26回：サブプライム危機に対する各国の対応（2）
- 第27回：金融危機と実体経済の関係
- 第28回：アジア諸国の高度成長と金融システムの安定性
- 第29回：今後のプルーデンス政策
- 第30回：今後の金融政策

準備学習

マクロ経済学およびミクロ経済学になるべく親しんでおいてください（本講義においても必要な範囲の説明はします）。

履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書

前期の基礎知識の習得の間も、新聞等でなるべく金融関係の記事を読むように心がけてください。期末テストによって評価します。

黒田晃生、『入門金融（第4版）』、東洋経済新報社、¥2,300、2006年

必要に応じ、公的機関の公表資料や、企業・金融機関の情報開示資料を用います。一部は英語ですが、あくまで金融に関する英語に多少なりとも慣れることを目的とするものです。

そ の 他 YeStudyに教材のPDFをアップすることがあります。
 毎回、講義の後、質疑応答の時間を設けます。

経営

履修コード	143271
科目名	グローバル・マーケティング論
担当者名	臼井 哲也

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的は、企業のマーケティング活動が国境を越えて展開される際の固有の問題について理解し、その解決策として期待される諸理論について学習することにある。とく多国籍企業のマーケティング活動に焦点をあてる。

講義の内容／授業スケジュール 以下は授業スケジュールである（進行状況に応じて変更あり）。

前期

- ①ガイダンス
- ②マーケティングの基礎
- ③マーケティングが国境を越える意味
- ④⑤⑥海外市場参入行動
- ⑦国際市場の多様性
- ⑧⑨⑩国際マーケティング標準化-適応化
- ⑪⑫国際マーケティング・リサーチ
- ⑬国際市場細分化
- ⑭⑮グループ演習

後期

- ①ガイダンスと前期復習
- ②原産国効果
- ③広告表現の国際比較
- ④グローバル・マーケティングの基礎
- ⑤⑥標準化-適応化同時達成論
- ⑦⑧⑨グローバル・マス・カスタマイゼーション
- ⑩グローバル・ブランド管理
- ⑪新興市場の開発1-中国市場-
- ⑫新興市場の開発2-BOP市場-
- ⑬⑭個人演習
- ⑮後期まとめ

履修上の留意点

- ・第1回のガイダンスに出席できない学生は、受講資格を失う。
 (特別な理由により第1回に出席できない学生は、必ず事前にメールにて教員へ相談すること：
 tee1usui@gmail.com)
- ・学生参加型の講義であるため、単に課題を提出し、期末試験を受ければ単位が出るわけではないので注意すること。
- ・原則として、教員は事前相談には応じるが、特別な事由を除いて事後的な相談には一切応じない。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（遅刻、私語など）は厳しく取り締まる。ルールを無視するものは直ちにFとする。
- ・配布資料なし。自著ノート作成。
- ・国際経営論と併せて受講することを推奨する。

成績評価の方法

学期末試験と課題（グループ演習、個人演習、レポートなど）を基本に総合的に評価する。詳しくは第1回のガイダンスにて説明するので必ず出席すること。

教科書／テキスト

特に指定しない

参 考 書

臼井哲也『戦略的マス・カスタマイゼーション研究-国際市場戦略の新視角』2006年刊（文眞堂）2,800円

履修コード	136501
科目名	経営科学概論
担当者名	にしむら かずお 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい)

生産活動には、本来の物作りの技術のほかに、高能率、高品質、低コスト、短納期を達成するための効率的な生産システムの設計・改善および維持管理の技術が必要である。わが国の産業界は、いち早くIE（経営工学）、OR（オペレーションズリサーチ）、QC（品質管理）をはじめとする経営管理技術を導入することによって生産、品質、コスト面で飛躍的發展を成しとげた。

この講義ではIE、OR、QCを中心に、経営管理技術の基本的な理論と各種の手法を概説する。また、今後本学科において経営科学系の科目を受講する上での基礎を学んでいく。

講義の内容／
授業スケジュール

必修科目にはなっていないが、経営学科の学生は卒業するまでにぜひ履修してほしい科目である。全体を大きく三つの部分に分けて講義を行う。1ではこの講義で扱う学問領域（一般に経営工学と呼ばれている）を概観し、経営工学の歴史と現在の変化を説明する。2では経営工学が対象とする経営管理の諸分野を取りあげる。3では経営管理の中で用いられている技術的な各種手法について解説していく。ただし、2と3は相互に関連するものであり、必要に応じて順番を入れ替え、両者の関連が分かるように講義を進めていく。

実際の講義スケジュールについては、授業用Webページ [1] を参照のこと。

1. 経営工学の概略と歴史

- * 経営科学・経営工学の定義
- * 歴史（産業革命から簡単に）
- * パラダイムシフト（儲け至上 → 品質の向上、環境保護、社会的責任、労働の質）
- * 企業に対する社会的な要求（ISO 9000, ISO 14000, ISO 26000, PDCA）

2. 経営工学が対象とする管理分野

- * 経営計画： 経営計画の策定、経営情報のシステム化
- * 販売管理： マーケティング、販売計画
- * 生産管理： 日程計画、設備配置計画、ラインバランスング
- * 在庫管理： 発注方式
- * 品質管理： 統計的品質管理、総合的品質管理

3. 経営管理技術の各種手法

- * 問題の発見と解決： ブレインストーミング、KJ法、デルファイ法
- * 狭義のIE： 動作研究と作業測定
- * 経済性工学： 損益分岐点、埋没費用、現在価値（DCF）による投資案比較法
- * QC七つ道具： パレート図（ABC分析）、特性要因図など
- * その他の道具： ガントチャート、PERT/CPM
- * 最適化： 線形計画法（定式化）、定量発注方式、最経済発注量、定期発注方式
- * データ解析： 時系列データの予測（指数平滑法、対移動平均比率法）、単回帰分析
- * 統計学的推定： 正規分布、管理図、抜取り検査、検定
- * 性能評価： ポアソン分布、待ち行列理論、シミュレーション、信頼性解析

準備学習
履修上の留意点

授業用 Web ページ [1] を読んでおいてほしい。

履修に際して予備的な知識は必要としない。

教科書は講義内容の一部の項目で用いるだけなので、毎回出席してノートをとること。

各種手法についての理解を深めるために、適宜演習を行う。

成績評価の方法
教科書／テキスト

試験（前期末、後期末）と、4回の授業中の演習課題の提出とによって、総合評価する。

参考図書

[1] 授業用 Web ページ： {<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/intro/>}

[2] 必要に応じて、教材プリントを配布する。

[3] 秋庭雅夫他著『経営工学概論』（朝倉書店）¥3,800円。

[4] 佃純誠他著『新しい経営工学』（中央経済社）¥3,780円。

[5] YeStudy（<http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/2010/course/view.php?id=369>）

その他の

関連科目： 経営統計、生産管理論、経営情報システム；(市) マネジメント・サイエンス
(↓オンライン講義内容)

関連リンク

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/intro/syllabus-prec.html>

履修コード	136511
科目名	経営科学概論
担当者名	にしむら かつお 西村 和夫

経営

講義の到達目標(ねらい)

生産活動には、本来の物作りの技術のほかに、高効率、高品質、低コスト、短納期を達成するための効率的な生産システムの設計・改善および維持管理の技術が必要である。わが国の産業界は、いち早くIE（経営工学）、OR（オペレーションズリサーチ）、QC（品質管理）をはじめとする経営管理技術を導入することによって生産、品質、コスト面で飛躍的發展を成しとげた。

講義の内容／
授業スケジュール

この講義ではIE、OR、QCを中心に、経営管理技術の基本的な理論と各種の手法を概説する。また、今後本学科において経営科学系の科目を受講する上での基礎を学んでいく。

全体を大きく三つの部分に分けて講義を行う。1ではこの講義で扱う学問領域（一般に経営工学と呼ばれている）を概観し、経営工学の歴史と現在の変化を説明する。2では経営工学が対象とする経営管理の諸分野を取りあげる。3では経営管理の中で用いられている技術的な各種手法について解説していく。ただし、2と3は相互に関連するものであり、必要に応じて順番を入れ替え、両者の関連が分かるように講義を進めていく。

実際の講義スケジュールについては、授業用Webページ [1] を参照のこと。

1. 経営工学の概略と歴史

- * 経営科学・経営工学の定義
- * 歴史（産業革命から簡単に）
- * パラダイムシフト（儲け至上 → 品質の向上、環境保護、社会的責任、労働の質）
- * 企業に対する社会的な要求（ISO 9000, ISO 14000, ISO 26000, PDCA）

2. 経営工学が対象とする管理分野

- * 経営計画： 経営計画の策定、経営情報のシステム化
- * 販売管理： マーケティング、販売計画
- * 生産管理： 日程計画、設備配置計画、ラインバランス
- * 在庫管理： 発注方式
- * 品質管理： 統計的品質管理、総合的品質管理

3. 経営管理技術の各種手法

- * 問題の発見と解決：ブレインストーミング、KJ法、デルファイ法
- * 狭義のIE：動作研究と作業測定
- * 経済性工学：損益分岐点、埋没費用、現在価値（DCF）による投資案比較法
- * QC七つ道具：パレート図（ABC分析）、特性要因図など
- * その他の道具：ガントチャート、PERT/CPM
- * 最適化：線形計画法（定式化）、定量発注方式、最経済発注量、定期発注方式
- * データ解析：時系列データの予測（指数平滑法、対移動平均比率法）、単回帰分析
- * 統計学的推定：正規分布、管理図、抜取り検査、検定
- * 性能評価：ポアソン分布、待ち行列理論、シミュレーション、信頼性解析

準備学習
履修上の留意点

授業用 Web ページ [1] を読んでおいてほしい。
経営数学と確率・統計入門を履修済みか、同時に履修することが望ましい。
教科書は講義内容の一部の項目で用いるだけなので、毎回出席してノートをとること。
各種手法についての理解を深めるために、適宜演習を行う。

成績評価の方法
教科書／テキスト

試験（前期末、後期末）と、4回の授業中の演習課題の提出とによって、総合評価する。
[1] 授業用 Web ページ： <http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/intro/>
[2] 必要に応じて、教材プリントを配布する。

参 考 書

- [3] 秋庭雅夫他著『経営工学概論』（朝倉書店）¥3,800円。
- [4] 佃純誠他著『新しい経営工学』（中央経済社）¥3,780円。

そ の 他

[5] YeStudy (<http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/2010/course/view.php?id=369>)
関連科目：経営統計、生産管理論、経営情報システム：マネジメント・サイエンス
（↓オンライン講義内容）

関 連 リ ン ク

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/intro/syllabus-prec.html>

履修コード	136011
科目名	経営学
担当者名	なかがわ こういち 中川 功一

講義の到達目標(ねらい) 経営学とは、夢をかなえるための学問である。現代に生きる人間は、ほぼ間違いなく何らかの組織、しかも複数の組織に属することになる(会社、大学、友人、家族など)。人間は人生において、所属する組織を選び、その中で自己実現をはかり、自己と組織の目標を達成していかなければならない。経営学は、組織内部での活動をより望ましいものにし、あなたの夢の実現を助ける。本講義は、経営学の各種領域の基礎を学ぶことで、1) 経営という活動について広範な基礎的素養を得ることと、2) 個別領域へと更に勉強を進めるときのための導入口を作ることを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

前期
第1～3回：経営学とは何か
第4～7回：ミクロ組織論
第8～12回：マクロ組織論
第13～15回：組織間関係論

履修上の留意点

後期
第16～21回：事業戦略論
第22～24回：全社戦略論
第25～30回：新しい経営学の潮流
経営学部として最重要科目であるから、公欠を除いて基本的に欠席を認めない。講義中には何度か小テストを実施するが、欠席の場合の追試等はない。また、講義の妨げになるような行為も決して認めない。講義中はノートをとること。資料は一切配布しない。

成績評価の方法

講義中に実施する小テストが6～7回程度あり、合計で30点、最終テストが70点で、合計100点満点で評価する。

教科書/テキスト

なし

参 考 書

伊丹敬之・加護野忠男『経営学入門』

履修コード	135901・136001
科目名	経営学
担当者名	なかがわ じゆんぺい 中川 淳平

講義の到達目標(ねらい) 経営学全般を学ぶうえで、必須となる基礎概念の理解に努める。前期は現代社会におけるさまざまな組織体のうち企業、なかでも株式会社の仕組みと行動についての考察が中心とする予定である。後期は、国際化・情報化・経済の成熟化といった、企業を取りまく経済社会の状況の変化に応じて、企業経営はこれまでどのように対処してきたのか、また今後どのように進化していくのか、検討していきたい。そして1年間の講義を通じ、企業には多様な参加者が関わっており、企業が維持・成長していくためには問題解決法として経営学が必要であることを理解してもらいたい。

講義の内容/
授業スケジュール

1. 企業とは何か
2. 株式会社の仕組みと特徴
3. コーポレート・ガバナンス(日米独の比較)
4. 経営とは何か
5. 社会科学における経営学の位置づけ
6. 生産管理とイノベーション
7. 経営戦略
8. 組織のメカニズム
9. 日本の経営の特徴
10. 現代社会と企業経営

準 備 学 習

日頃からニュース(時事問題)をチェックし、ビジネス分野ばかりでなく、広く社会現象全般に関心を持ってほしい。

履修上の留意点

講義後または宿題として感想を書いてもらうこともある(良いものは評定に加える)ので、毎回の講義に際しては、目的意識をもって取り組んでほしい。

成績評価の方法

夏期レポート(20%)、学年末の定期試験(80%)

教科書/テキスト

特に指定はしない。代表的な教科書については初回講義にて紹介する予定である。

参 考 書

講義において項目ごとに代表的な文献を紹介する予定である。

夏期レポートの文献については、前期終了前に告知する。

履修コード	328001
科目名	経営学
担当者名	なかむら こういち 中村 公一

講義の到達目標(ねらい) 我々が日常生活をしていく上で、企業は必要不可欠な存在になっている。例えば、洋服を買う場合を考えてみたい。洋服をデザインし、生地から商品を作り、在庫として管理し、各店舗に必要なものを運搬し、販売する。そして、我々の手に届くのである。この一連の流れの中心には、企業が関わっており、より良い商品や、販売までの仕組みを作ることを課題としている。さらに、卒業後には、企業に就職を希望する人たちが大半であろう。経営学は、そのような企業の分析を中心に展開されてきた。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義では、今まで培われてきた豊富な経営学の理論と、できる限り身近な企業の実例を用いながら、理論と事例の融合を図り、経営学とは一体何を勉強する学問なのかということを常に問い続けたい。1回の講義で1つの重要テーマに関する内容を扱い、さらなる専門科目の学習への基盤になるような知識と考え方の取得を目指していく。

第1部 経営学の基本課題(前期)

- 1、経営学を学ぶ意義(1回)
 - 2、経営学の対象(経営とは何か、経営の概念)(2~4回)
 - 3、経営学の展開(経営学の過去と現在)(5~6回)
 - 4、企業・組織とは何か(企業をつくる、企業の仕組み)(7~9回)
 - 5、経営者とは何か(10回)
 - 6、企業を取り巻く諸問題(現代の経営環境の特徴)(11~13回)
 - 7、まとめ、試験(14~15回)
- ・前期では、経営学に関する基礎知識の習得を目的に学習していく。

第2部 経営学の諸課題(後期)

- 1、組織とヒト(労務に関わる問題)(16回)
- 2、組織とモノ(生産、販売に関わる問題)(17~19回)
- 3、組織とカネ(財務に関わる問題)(20回)
- 4、組織をつくる(組織に関わる問題)(21~22回)
- 5、組織を管理する(管理に関わる問題)(23~24回)
- 6、組織を成長させる(戦略に関わる問題)(25~26回)
- 7、組織を革新させる(イノベーションに関わる問題)(27回)
- 8、まとめ、試験(28~30回)

・後期では、経営学の各論部分を学習していく。多くの専門科目につながっていく内容である。

準備学習

経営学を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的である。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、経営学への学習意欲の向上につながるだろう。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

本講義は専門科目の基礎として位置付けられるので、講義には極力出席することが必要である。
学年末の定期試験(50%)、毎週の宿題(50%)
周佐他『専門基礎ライブラリー 経営学1-企業の本質-』実教出版、2008年、1,575円
特に指定しないが、講義において適宜、参考書を紹介する。

履修コード	139501
科目名	経営学史
担当者名	なかがわ じゆんぺい 中川 淳平

講義の到達目標(ねらい) この講義では、100年あまりにわたる経営学の歴史上、重要なものと位置づけられる学説を、その問題意識に着目し、現代企業経営の諸問題を解決するための技法として解説を加えていく。

講義の内容／
授業スケジュール

1. コーポレートガバナンスのための問題解決技法(制度学派など、1-7)
2. リストラクチャリングへの問題解決技法(経営戦略論など、8-15)
3. イノベーションへの問題解決技法(生産管理論など、16-20)
4. コミュニケーションへの問題解決技法(人間関係論など、21-23)
5. セクショナリズムへの問題解決技法(経営組織論など、24-30)

次回講義までに該当箇所について教科書を読んでおくこと。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

講義中の私語は慎んで下さい。
定期試験100%。但し夏季休業中もしくは冬季休業中にレポート(任意)の提出を求めることがあり、内容いかんによってこれを評定に加えることがある。

教科書／テキスト
参考書
その他

中川淳平『問題解決のための経営学』泉文堂、2007年。
授業毎に配布するプリントに適宜指示する。

関連リンク

経営学、経営学史に関して『週刊 ダイアモンド』にて、私が以前選定した書籍については、下記リンク(読もうよビジネス書)に記載されている。
<http://www.4mo4.com/biz/2005/08/200816329.php>

履修コード	139701・330101
科目名	経営管理論
担当者名	わたなべ いつこ 渡辺 伊津子

講義の到達目標(ねらい) 本講義のねらいは、経営学説をてがかりにして、現代の企業が直面する経営管理の課題を理解し、

講義の内容／
授業スケジュール

経営管理の観点から企業の活動を思考する力を養うことである。

- 第1回 経営管理の全体像をつかむ
- 第2回 「管理」という問題の発生と経営「管理論」発展の概説
- 第3回 経営「管理論」のパイオニア(1)
- 第4回 経営「管理論」のパイオニア(2)
- 第5回 経営「管理論」のパイオニア(3)
- 第6回 人間性の発見(1)
- 第7回 人間性の発見(2)
- 第8回 人間性の発見(3)
- 第9回 人間性の発見(4)
- 第10回 組織の仕組みを管理する(1)
- 第11回 組織の仕組みを管理する(2)
- 第12回 組織の仕組みを管理する(3)
- 第13回 組織の仕組みを管理する(4)
- 第14回 総括
- 第15回 中間テスト
- 第16回 後期授業内容の全体像をつかむ
- 第17回 管理者の職務(1)
- 第18回 管理者の職務(2)
- 第19回 管理者の職務(3)
- 第20回 組織の硬直化と学習(1)
- 第21回 組織の硬直化と学習(2)
- 第22回 組織の硬直化と学習(3)
- 第23回 組織の硬直化と学習(4)
- 第24回 戦略形成プロセスを管理する(1)
- 第25回 戦略形成プロセスを管理する(2)
- 第26回 戦略形成プロセスを管理する(3)
- 第27回 キャリア形成と経営管理(1)
- 第28回 キャリア形成と経営管理(2)
- 第29回 キャリア形成と経営管理(3)
- 第30回 総括

履修上の留意点

- (1) 講義内容はテキストを中心にを行う。テキストを購入すること。
- (2) パワーポイントを用いて講義を行う。
- (3) 積極的にノートを取ることを。

成績評価の方法

- (1) 前期の最終講義日に行う中間試験(50%)、学期末の定期試験(50%)
- (2) 出席はとらない。

教科書／テキスト

- (1) 岸田民樹・田中正光著(2009)『経営学説史』有斐閣アルマ
- (2) 毎回、プリントを配布する。

履修コード	139901・331101
科目名	経営財務論
担当者名	高田 光明 <small>たかだ みつあき</small>

講義の到達目標(ねらい)	経営財務論は、企業という組織体の財務活動を研究対象とする学問分野である。今日、企業の財務という場合、企業による資本の調達と運用をいっている。企業は、その活動を営むに際し、原材料・機械などの財貨や労働力といった生産要素を確保しなければならない。そのために元手となる資本を必要とする。資本の調達とは、この元手となる資本を集めることをいう。そして調達した資本で、企業は、原材料などの生産要素を取得して、製品を生産し販売するという営業活動を遂行する。こうした活動により、資本を増殖させようとする行為を、資本の運用といっている。 資本の源泉は、それぞれ異なる特徴を持っている。したがって、生産要素の取得を賄うために必要とする資本を、どの源泉からどのくらいずつ調達するかは、企業が営業活動を実施して、調達資本をいかに効率的に運用できるかに大きな影響を与える。この授業では、以上の問題意識のもとに、次のスケジュールにしたがって講義を進め、経営財務に関する基礎的知識・基本的考え方を身に付けることを主要目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	(1) 経営財務の領域、(2) 資本と資産、(3～4) 資本の分類、(5～6) 資本の運用形態、(7～8) 資金調達方法の特徴、(9～10) 資金調達の基本原則、(11～12) 流動・固定分類法の重要性、(13～14) 資金概念、(15～16) 企業利益の概念、(17～18) 減価償却費の性格、(19～20) キャッシュ・フロー、(21～22) リスクとリターン、(23～24) レバレッジ、(25～26) 資本のコスト、(27～28) 続・資金調達の基本原則、(29～30) 資金調達の手順
履修上の留意点	企業による財務活動に関する情報は、企業の会計システムから得られる。したがって履修にあたっては、企業会計の初歩的知識があることが望ましい。
成績評価の方法	定期試験による評価を原則とし、出席点を5点を限度に加味する。

履修コード	139601
科目名	経営史
担当者名	前田 和利 <small>まえだ かずとし</small>

講義の到達目標(ねらい)	経営史を学ぶことによって企業経営における進化・発展のプロセスを理解することが可能となる。本講義では、方法論を検討したうえで、できるだけ産業の発展と個別企業の歴史をふまえ、国際比較の視点をとりにいれ、各段階における典型国をとりあげながら経営発達史を論じる。日本の企業経営の特質を理解するためにも、講義において提示する企業経営一般の進化・発展モデルを理解すること。
講義の内容／授業スケジュール	I. 経営史の学び方 (1回) II. 経営史研究の課題と方法 (4回) 伝統的経営史、企業者史、組織総合理論、新動向 III. 企業経営発達史 1. 企業経営の生成 (4回) 商人資本の経営、マニファクチュア経営 2. 企業経営の確立 (3回) 産業革命、工場制度 3. 確立期企業経営の諸様相 (5回) 企業経営者と行動原理、企業形態と企業金融、労務管理、流通・販売組織 4. 企業経営の発展 (7回) 市場と技術、大量生産システム、大企業の形成と戦略・組織、巨大企業の成立と管理機構 5. 企業経営の変容 (3回) 大企業体制の発展・動揺・変容 (管理組織の進化モデルを中心として) 6. 日本における企業経営の進化 (3回) 進化の特質、日本型企業経営は残存するか シラバスに掲載してある参考書および事前に配布する講義用プリントを読んでおくこと。 教科書は使用しないので、配布する講義用プリントおよび下記の参考書を参照し、必ずノートを整理しておくこと。年に5回程度簡単な問題等を提示して回答してもらう予定である。
準備学履修上の留意点	学年末試験による評価を90%、出席時に提出した回答を10%とする。
成績評価の方法	使用しない。
教科書／テキスト	参考書
参 考 書	榎本悟『アメリカ経営史学の研究』新版(同文館)、大河内暁男『経営史講義』(第2版)(東京大学出版会)、米倉誠一郎『経営革命の構造』(岩波新書)、安部悦生『経営史』(日経文庫)、鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史』(有斐閣)、経営史学会編『外国経営史の基礎知識』(有斐閣)、J.ミクルスウェイト、A.ウールドリッジ(鈴木泰雄訳)『株式会社』(ランダムハウス講談社)、橋川武郎ほか編『進化の経営史』(有斐閣)。その他随時紹介する。

履修コード	330601
科目名	経営史
担当者名	前田 <small>まだ かずとし</small> 和利

講義の到達目標(ねらい)

経営史を学ぶことによって企業経営における進化・発展のプロセスを理解することが可能となる。本講義では、方法論を検討したうえで、できるだけ産業の発展と個別企業の歴史をふまえ、国際比較の視点をとりにいれ、各段階における典型国をとりあげながら経営発達史を論じる。日本の企業経営の特質を理解するためにも、講義において提示する企業経営一般の進化・発展モデルを理解すること。

講義の内容／
授業スケジュール

- I. 経営史の学び方 (1回)
- II. 経営史研究の課題と方法 (4回)
 - 伝統的経営史、企業者史、組織総合理論、新動向
- III. 企業経営発達史
 1. 企業経営の生成 (4回)
 - 商人資本の経営、マニファクチュア経営
 2. 企業経営の確立 (3回)
 - 産業革命、工場制度
 3. 確立期企業経営の諸様相 (5回)
 - 企業経営者と行動原理、企業形態と企業金融、労務管理、流通・販売組織
 4. 企業経営の発展 (7回)
 - 市場と技術、大量生産システム、大企業の形成と戦略・組織、巨大企業の成立と管理機構
 5. 企業経営の変容 (3回)
 - 大企業体制の発展・動揺・変容 (管理組織の発展類型を中心として)
 6. 日本における企業経営の進化 (3回)
 - 進化の特質、日本型企業経営は残存するか

準備学習
履修上の留意点

シラバスに掲載してある参考書および事前に配布する講義用プリントを読んでおくこと。教科書は使用しないので、配布する講義用プリントおよび下記の参考書を参照し、必ずノートを整理しておくこと。年に5回程度簡単な問題等を提示して回答してもらう予定である。レポート(前・後期各1回)を80%、出席時に提出した回答を20%として評価する。使用しない。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

榎本悟『アメリカ経営史学の研究』新版(同文館)、大河内暁男『経営史講義』(第2版)(東京大学出版会)、米倉誠一郎『経営革命の構造』(岩波新書)、安部悦生『経営史』(日経文庫)、鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史』(有斐閣)、経営史学会編『外国経営史の基礎知識』(有斐閣)、J.ミクルスウェイト、A.ウールドリッジ(鈴木泰雄訳)『株式会社』(ランダムハウス講談社)、橘川武郎ほか編『進化の経営史』(有斐閣)。その他随時紹介する。

履修コード	141011・332511
科目名	経営情報システムA
担当者名	高井 徹雄

講義の到達目標(ねらい)	経営スタッフの役割は意思決定の支援、すなわち、意思決定者が適切な決定を行えるよう判断の指針となる情報を提供すること。本講義では、企業や官庁における経営スタッフを目指す皆さんのために、情報処理に関するシステムの観点と、IT（情報技術）の基礎について解説する。
講義の内容／授業スケジュール	(1) イントロダクション (2-3) 科学とシステム思考 科学的方法の特徴とは何か、システムの観点とはどのようなものか。情報学のバックグラウンドにある基本的なものの見方と、それに基づく問題へのアプローチ方法について解説する。 (4-6) 情報科学の成立と発展 20世紀半ば世界初のノイマン型コンピュータEDSACが誕生した。これに前後して、コンピュータ科学・情報理論・通信工学などを含む「情報科学」が成立し、急速な発展を遂げた。ここでは、その恩恵に与る現代人として知っておくべき基礎知識について整理する。 (7-9) ITとインターネット IT(情報技術)に関する基礎的事項に理解を深める。コンピュータによる情報の取り扱い、インターネットなど情報ネットワーク技術に関する基礎的事項について解説します。 (10-15)：情報環境の発展と経営における利用 経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観し、インターネットによる情報インフラが十二分に整った今日的な環境下において、市場戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。 予習は必要ありませんが、毎回出席して、その日のノートの整理など復習は欠かさないようお願いいたします。
準備学習	極力、後期の経営情報システムBとあわせて履修してください。A：基礎とB：応用と内容を色分けしています。
履修上の留意点	毎回出席を取ります。その上で、最終授業時に筆記試験を実施して成績評価を行います。
成績評価の方法 教科書／テキスト	高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円 ※ このテキストは、主として後期Bで用います。前期Aでは、数学的準備の参考書としてのみの利用ですが、A・B連続履修の方は必ず用意しておいてください。そのほか、適宜プリントを配布します。
参考書	個別テーマによって、必要なものがあれば適宜紹介します。

履修コード	140121・332521
科目名	経営情報システムB
担当者名	高井 徹雄

講義の到達目標(ねらい)	経営計画・市場戦略立案などに際して適用が期待されるIT（情報技術）の活用方法について学びます。
講義の内容／授業スケジュール	(1) イントロダクション (2-3) データとは何か データには測る尺度によって定量的なものと定性的なものが存在する。意思決定の手掛かりとなる情報へ加工するためには、データの種類に応じた取扱いが必要である。 (4-8) データ解析とは、データの意味を読むこと 調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、主に定量的データを解析する手法と、コンピュータ上での取扱いについて学ぶ。 (9-12) シミュレーション技法とその応用 複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法にシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法や離散系シミュレーションなど基礎的な方法に触れた後、様々な分野で用いられる多様なシミュレーション技法について概観する。 (13-15) 人工知能の経営への応用 人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）などの概要について学ぶ。 予習は必要ありませんが、毎回出席して、その日のノートの整理など復習は欠かさないようお願いいたします。
準備学習	前期の経営情報システムAとあわせて履修してください。受講生数により異なりますが、必要に応じて数回程度、情報教育センターの計算機実習室を利用した体験的な実習形式の授業を行う予定です。
履修上の留意点	適宜出席を取ります。不定期に授業時小テストを行います。期末試験時に筆記試験を実施して成績評価を行います。
成績評価の方法 教科書／テキスト	高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円 適宜プリントを配布します。
参考書	

履修コード	136611
科目名	経営数学A
担当者名	飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい)	企業経営上の問題を扱う際に用いられる、定量的な分析や合理的な意思決定のための数理的方法論を理解する上で、ある程度の数学的知識を持っていることが望まれます。経営数学Aでは、定量的な分析や合理的な意思決定の方法論を扱う経営科学関連の専門科目に関係する数学的知識について、高校で習った数学の復習を含めて、基本的な内容を主に学びます。
講義の内容／ 授業スケジュール	授業内容は、基本的な関数、数列、極限、級数、ベクトル、行列などです。授業は講義形式で行います。授業では、数学がどのように用いられるのかを理解するために、適宜、応用例を紹介します。授業スケジュールは、以下のとおりです。(1)イントロダクション、(2-5)数と関数、(6-7)数列、(8-9)極限、(10)級数、(11-13)ベクトルと行列、(14-15)逆行列とその応用。
履修上の留意点	講義では理解を助けるために例を用いて説明を行うけれども、数学を学ぶ上では、抽象的な概念に慣れることが必要であり、かつ、講義の積み重ねを経ないと理解できないことも多いため、毎回出席すること。
成績評価の方法 教科書／テキスト	定期試験の成績で評価します。 適宜、プリントを配布します。

履修コード	136621
科目名	経営数学B
担当者名	飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい)	経営数学Bでは、経営数学Aに引き続き、定量的な分析や合理的な意思決定の方法論を扱う経営科学関連の専門科目に関係する数学的知識を、高校で習った数学の復習を含めて、さらに学びます。
講義の内容／ 授業スケジュール	授業内容は、利益の最大化や費用の最小化を行う際に用いられる微分法とその応用(微分係数、導関数、微分の方法、高次導関数、極値など)を中心とします。授業は講義形式で行います。授業では、数学がどのように用いられるのかを理解するために、適宜、応用例を紹介します。授業スケジュールは、以下のとおりです。(1)イントロダクション、(2-5)集合と確率、(6-9)微分法、(10-12)微分法の応用、(13-15)多変数関数の微分と応用。
履修上の留意点	講義では理解を助けるために例を用いて説明を行うけれども、数学を学ぶ上では、抽象的な概念に慣れることが必要であり、かつ、講義の積み重ねを経ないと理解できないことも多いため、毎回出席すること。
成績評価の方法 教科書／テキスト	定期試験の成績で評価します。 適宜、プリントを配布します。

履修コード	143301・330001
科目名	経営戦略論
担当者名	なかむら こういち 中村 公一

経営

講義の到達目標(ねらい)

経営戦略論は、現実の企業経営と密接に関連している実践的要素の強い科目である。受講生が企業に就職した時に、その企業が属する業界がどのように動いており、それに対応して企業が採っている戦略を理解することは、自分達の仕事の意義を考える上でも有効なことである。さらに、就職活動の時にも、希望する企業の動向を把握することは重要な選択要因の1つとなるだろう。

本講義では、さまざまな企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を理解し、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を提供することを目標に進めていく。そこで、新聞やビジネス誌などをもとに、実際の経営戦略をケースとしてできるだけ取り上げるようにする。

そして、なぜこの企業はこの戦略を採るのか、その戦略によってどのような効果が期待されるのか、ということに関して、古典から最先端の理論を使って解釈することを焦点に講義を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 経営戦略論の基礎概念 (1~5)
2. 成長戦略論：事業領域、多角化戦略など (6~9)
3. 競争戦略論：ポーターモデル、コア・コンピタンス、ビジネスモデルなど (10~14)
4. 前期のまとめ (15)
5. 組織間戦略論：M&A、グループ戦略、グローバル戦略 (16~21)
6. 経営戦略と経営組織：専門組織、ナレッジマネジメントなど (22~25)
7. 最新の戦略課題：研究開発戦略、ライセンス戦略、企業集積の戦略など (26~29)
8. 年間講義のまとめ (30)

準備学習

経営戦略論は、実際の企業活動と密接に関連しているために、日頃から新聞や雑誌などで関連する記事にはできる限り目を通すことが望まれる。

履修上の留意点

注意点としては、講義に対する妨害行為(私語、携帯電話など)には厳しく対処する。1人(数名)の愚かな行為により、他の真面目な学生に迷惑をかけ、講義自体の雰囲気が悪くなるために、教場を友人との話す場として考えている者は出席しないこと。

成績評価の方法
教科書／テキスト

年度末の定期試験(70%)、リアクションペーパー(宿題として課す：30%)
授業中にレジュメを配布して、それに基づいて講義を進める。1回の講義で1つの重要テーマに関する内容を学習する。基本図書や参考文献などは授業中にその都度指摘する。

参考書

中村公一『M&Aマネジメントと競争優位』白桃書房、2003年、3,570円

履修コード	140201
科目名	経営組織論
担当者名	加藤 寛之 <small>かとう ひろゆき</small>

講義の到達目標(ねらい)

組織論のフレームワークによって、企業をはじめとする組織を分析できるようになることを目的とします。具体的には、組織論で用いられる基本概念と代表的学説について解説します。経営組織論は大別すると、マクロ組織論とミクロ組織論から成ります。マクロ組織論は組織の外部環境への適応を扱います。ミクロ組織論は組織を構成する集団・個人を扱います。本講義では、前期では主にマクロ組織論について、後期では主にミクロ組織論について解説します。

講義の内容／
授業スケジュール

講義内容と回数は以下の通りです。

前期：主にマクロ組織論
マクロ組織論についてのガイダンス(1回)
組織と環境(2回)
技術・規模と組織構造(3回)
課業環境と組織課程(2回)
組織デザインと経営組織の発展段階モデル(2回)
状況適合理論(2回)
組織文化(1回)
まとめ(1回)
中間テスト(1回)

後期：主にミクロ組織論
組織とパワー(1回)
組織間関係論(2回)
ミクロ組織論についてのガイダンス(1回)
モチベーション(5回)
リーダーシップ(4回)
まとめ(1回)
期末テスト(1回)

履修上の留意点

なお、各回の内容やスケジュールを記した詳細なシラバスは前期と後期の開講時にそれぞれ配布します。毎回ノート代わりのプリントを配布します。プリントには、講義を聴いて空欄を補充する部分と、要点を自分でまとめるためのスペースを設けてあります。当日のプリントは講義開始時にしか配布しませんので、遅刻すると受講時の学習効率が大きく損なわれることになります。この点ご注意ください。

成績評価の方法

前期の最終授業日に中間テストを行います。このテストのウエイトを40%程度とします。学年末の定期試験のウエイトを60%程度とします。中間試験を欠席するのは即不可ではないものの非常にリスクな行為です。このほかに抜き打ちで小テストを数回行います。

教科書／テキスト

教科書は特に指定しません。毎回講義の際にプリントを配布します。項目ごとに参照すべき文献については配布プリントに記します。

参 考 書

日野健太『リーダーシップとフォロワー・アプローチ』(文真堂) 金井壽宏『経営組織』(日経文庫)、岸田民樹『経営組織と環境適応』(白桃書房)、高橋伸夫『組織力』(ちくま新書)、沼上幹『組織デザイン』(日経文庫)、沼上幹『組織戦略の考え方』等。配布プリントで適宜参考文献を紹介します。

履修コード	140711
科目名	経営統計A
担当者名	なが こきよう 長 国強

講義の到達目標(ねらい)	経営統計は分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造について予測し、いろいろな意思決定をサポートすることである。経営的意思決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は重要な役割を果たされるはずである。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：経営統計について；第2回：統計的基礎概念I；第3回：統計的基礎概念II；第4回：データの収集と整理I；第5回：データの収集と整理II；第6回：データの収集と整理III；第7回：パソコン実習I；第8回：統計特性値I；第9回：統計特性値II；第10回：パソコン実習II；第11回：相関分析；第12回：パソコン実習III；第13回：正規分布とその応用I；第14回：正規分布とその応用II；第15回：全体のまとめ。
履修上の留意点	後期の『経営統計B』も履修してください。
成績評価の方法	総合評価(100)=出席(30)+提出課題(30)+期末試験(40)。
教科書／テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
参考書	西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館)； 守口栄一・竹田仁共著『経営数学: 経営統計とその応用』(日本理工出版社)。
その他	特にありません。

履修コード	140721
科目名	経営統計B
担当者名	なが こきよう 長 国強

講義の到達目標(ねらい)	経営統計は分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造について予測し、いろいろな意思決定をサポートすることである。経営的意思決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は重要な役割を果たされるはずである。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：推定予測モデル(回帰モデル)I；第2回：推定予測モデル(回帰モデル)II；第3回：パソコン実習I；第4回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)I；第5回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)II；第6回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)III；第7回：パソコン実習II；第8回：分散分析(一元配置分散分析)I；第9回：分散分析(一元配置分散分析)II；第10回：パソコン実習III；第11回：統計的意思決定理論I；第12回：統計的意思決定理論II；第13回：経営指数(物価指数、数量指数)I；第14回：経営指数(物価指数、数量指数)II；第15回：全体のまとめ。
履修上の留意点	『経営統計A』を受講してから履修されたほうが望ましい。
成績評価の方法	総合評価(100)=出席(30)+提出課題(30)+期末試験(40)。
教科書／テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
参考書	西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館)； 守口栄一・竹田仁共著『経営数学: 経営統計とその応用』(日本理工出版社)。
その他	特にありません。

履修コード	141301
科目名	経営分析論
担当者名	かたぎり のぶお 片桐 伸夫

講義の到達目標(ねらい)	経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。 皆さんが将来を託そうとする会社は、 1 財政的に安定しているだろうか(安定性分析)、 2 「儲け」はどうだろうか(収益性分析)、 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか(生産性分析)、 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか(成長性分析)、また、 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか(社会性分析)、といった内容です。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) 経営分析について、(2-6) 経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12) 収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15) 貸借対照表・損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20) 生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26) キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、正味現在価値法と設備投資
履修上の留意点	この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。
成績評価の方法	成績評価はレポートと授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。 評価基準 前期レポート40%、前期小テスト10%、 後期レポート40%、後期小テスト10%、 ～質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。
教科書／テキスト 参 考 書	開講時、指示します。 随時、紹介します。

履修コード	140001
科目名	経営労務論
担当者名	かしま ひであき 鹿嶋 秀晃

講義の到達目標(ねらい)	現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。経営労務論を受講することで企業と労働、社会に幅広い問題関心を持ってもらいたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義は1コマ1テーマの原則。各回毎に「日本は終身雇用なのか?」といったテーマを掲げ、その解説をおこなう。また、最近の新聞記事から重要な経営労務問題をピックアップして紹介する。スケジュールは大まかに次の予定。(1) ガイダンス、(2) ～ (4) 経営労務論と日本の経営論、(5) ～ (10) 正規、非正規の雇用管理、出向・転籍・早期退職など、(11) ～ (16) 賃金論入門、年功賃金の歴史、職能資格制度、人事考課、昇進・昇格など、(17) ～ (22) 労使関係の歴史、構造、労働組合など、(23) ～ (30) 各論(労働時間、福利厚生、賃金格差問題、教育訓練など)とまとめ、質問受付、試験。
準備学習 履修上の留意点	経済新聞や新書に日頃から日を通して、関心の幅を広げておくこと。 詳細は最初の講義で説明。(1)出席点は無し。(2)私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるので厳禁。(3)携帯電話は消音。ひどいときには退室させ、単位認定をしない。
成績評価の方法	7月と12月に実施予定の小テスト、並びに、レポート課題の合計点で評価する予定。ただし、受講者数が著しく多い、あるいは、少ない場合は、変更することがあるので、授業内に発表する情報に十分注意しておくこと。5月に評価方法を確定する。
教科書／テキスト 参 考 書	特に指定しない。 津田真澄『人事労務管理』(ミネルヴァ書房)1993(定価3,000円程度)、経営労務をより体系的に深く学習するのによい白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』(東洋経済新報社)1992(定価3,500円程度)をあげておく。他にも適宜講義中に紹介していく。
そ の 他	WEBページ(Eラーニングページと個人ページ)でも授業に関する情報を提供。https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/ http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/
関連リンク	

履修コード	331001
科目名	経営労務論
担当者名	かしま ひであき 鹿嶋 秀晃

講義の到達目標(ねらい)	本年度は受講者数が少ないことが予想されるので、ゼミナール形式で実施する。テーマとしては、現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。企業と労働、社会に幅広い問題関心を持ってもらいたい。
講義の内容／授業スケジュール	スケジュールは大まかに次の予定。(1) ガイダンス、(2)～(4) 経営労務論と日本の経営論、(5)～(10) 正規、非正規の雇用管理、出向・転籍・早期退職など、(11)～(16) 賃金論入門、年功賃金の歴史、職能資格制度、人事考課、昇進・昇格など、(17)～(22) 労使関係の歴史、構造、労働組合など、(23)～(30) 各論(労働時間、福利厚生、賃金格差問題、教育訓練など)とまとめ。ただし、選択したテキストによっては、変更もあり得る。
準備学習 履修上の留意点	経済新聞や新書に日頃から目を通して、関心の幅を広げておくこと。 詳細は最初の講義で説明。(1)出席点は無し。(2)私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるので厳禁。(3)携帯電話は消音。ひどいときには退室させ、単位認定をしない。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 文 献	毎回の出席による発言、レポート提出、下調べにより評価する。無断欠席は単位認定なし。 受講者と相談の上、決定する。2ヶ月に1冊のペースで進める予定。 津田真澄『人事労務管理』(ミネルヴァ書房)1993(定価3,000円程度)、経営労務をより体系的に深く学習するのによい白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』(東洋経済新報社)1992(定価3,500円程度)をあげておく。他にも適宜講義中に紹介していく。
そ の 他 関 連 リ ン ク	WEBページ(Eラーニングページとゼミページ)でも授業に関する情報を提供。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/

履修コード	135001
科目名	経済学概説
担当者名	たかはた じゆんいちろう 高畑 純一郎

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、経済学の基礎的な概念や考え方を学び、それらを使って現実の経済問題を理解する力を養う事を目的としています。前期はミクロ的な視点から、後期はマクロ的な視点から経済の動きについて学びます。
講義の内容／授業スケジュール	前期のミクロ経済学では、各消費者や生産者の経済行動を分析し、それをもとにして市場の機能を説明するものです。 (前期) 1. 経済学とは何か?、2～4. 市場機能の動き (1) 需要曲線と供給曲線, (2) 市場の均衡, (3) 価格の変化, 5～7. 消費者の行動理論 (1) 予算制約式と無差別曲線, (2) 効用最大化問題, (3) 需要曲線の導出, 8. 中間試験, 9～11. 生産者の行動理論 (1) 生産関数と費用関数, (2) 利潤最大化問題, (3) 供給曲線の導出, 12～13. 一般均衡と資源配分, 14. 独占の理論, 15. 期末試験 後期のマクロ経済では個人々の行動ではなく、特に市場全体の動きに注目して経済の動向を分析します。 (後期) 1. マクロ経済学とは?、2～4. GDPの概念, 5～6. GDPの決定: 財市場分析, 7. 中間試験, 8～9. 金融市場分析 (1) 貨幣需要, (2) マネーサプライ, 10～11. GDPの決定: IS-LM分析, 12. 財政・金融政策の効果, 13. 総需用と総供給, 14. インフレーション・デフレーション, 15. 期末試験
履修上の留意点	授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 文 献	成績は中間試験と期末試験によって評価します。 ステイグリッツ著、藪下史郎他訳『ミクロ経済学』(東洋経済新報社) 伊藤元重著『マクロ経済学』(日本評論社) 授業内で適宜指示します。

履修コード	134901・135011
科目名	経済学概説
担当者名	はねだ しょうこ 羽田 尚子

講義の到達目標(ねらい) 経済学の基本原理を学ぶ。2年次以降の専門科目を、より深く且つ広い視点で考察するための知識の習得が、本講義の目的である。

講義の内容／
授業スケジュール

前期は主にミクロ経済学、後期はマクロ経済学を学ぶ。学生自らが日常目にする事例を経済学の視点でとらえることができるように、講義では身近な事例・映像・新聞記事などを併用する。また経済学の考え方を習得するには講義を聴くだけでは不十分であり、学生に適度な摩擦を継続して与えるべきだと感じている。このため講義トピックに関する課題を不定期に実施したり、学生を指名して答えてもらうなど、学生が自発的に考える機会を設けることにしている。

講義の概要は以下である。なお講義の順番は入れ替わることがある。

前期：ミクロ経済学の基礎

1. イントロダクション～経済学の十大原理
2. イントロダクション～経済学の方法論
3. 市場における需要と供給の作用
4. 需要、供給、政府の政策
5. 消費者、生産者、市場の効率性
6. 外部性

後期：マクロ経済学の基礎

1. 国民所得の測定
2. 生産と成長
3. 貯蓄と投資
4. 総需要と総供給
5. 経済政策
6. 日本の財政

準備学習
履修上の留意点

教科書に沿って進めるので、関連箇所の予習をしておくこと。

1. 講義に出席しノートをとること。
2. 携帯電話の呼出音、私語などの他人に迷惑になる行為は絶対にやってはならない。守れない学生は、即退出いただく。
3. 教員も講義の参加メンバーの1人であることを忘れないでほしい。

成績評価の方法

不定期に行う小テスト(複数回)、学年度末に筆記試験を実施する。

小テスト30%、試験70%により評価する。

教科書／テキスト
参 考 書

N・グレゴリー・マンキュー「マンキュー入門経済学」(東洋経済新報社) 3200円

N・グレゴリー・マンキュー「マンキュー経済学Ⅰミクロ編」「マンキュー経済学Ⅱマクロ編」(東洋経済新報社) 各4000円

伊藤元重「入門経済学」(日本評論社) 3000円

履修コード	136301・330501
科目名	経済原論
担当者名	あかし ひろゆき 明石 博行

経営

講義の到達目標(ねらい)

資本制市民社会の経済的基礎に関する概括的理解とその変化に関する基礎的知識を得られるよう、入門的な講義を行います。

資本制社会は、近代から現代にかけて生まれ、発展し、変化してきた、現代世界における支配的な経済社会です。資本制社会の発展は、市民社会を拡大し、資本制市民社会を確立させます。本講義では、この資本制市民社会について、そこにはどのような経済的な仕組みと法則があるのか、資本制社会の思想・法律・政策などは経済の仕組みや法則によってどのように影響され制度化されるのか、社会的に埋め込まれた諸制度によって資本制経済はどのような変容を受けるのか、について説明します。本講義ではまた、欧米とアジアの市民社会の相違についても言及し、資本制市民社会がどのような方向に変化しようとしているかについても説明します。

資本制経済の仕組みや法則および資本制市民社会の特質を概括的に理解し、それらの変化に関する基礎的な認識を得られるよう援助することが、この講義の基本的な課題です。

講義の内容／
授業スケジュール

序論的な解説を行う序章のち、(1) 市場、(2) 貨幣の資本への発展、(3) 労働と資本、(4) 資本の蓄積と再生産、(5) 資本の流通、(6) 資本と利潤、(7) 資本の諸姿態、(8) 資本制社会とその変容、という8つの章からなる本論について、その第1章から4章までに重点をおいて講義をします。主な内容は、以下の通りです。

第1回 講義紹介

序章 経済社会学と経済原論

- 第2回 経済社会学の伝統とその復興 (1)：ミレニアム転換仮説と経済社会学
- 第3回 経済社会学の伝統とその復興 (2)：近代経済学と経済社会学
- 第4回 经济社会把握の基礎 (1)：マルクスの知的遺産
- 第5回 经济社会把握の基礎 (2)：マルクス経済学と経済社会学
- 第6回 经济社会把握の基礎 (3)：经济社会の基本構成とその変化
- 第7回 经济社会把握の基礎 (4)：単純な複合的發展モデルによる資本制理解
- 第8回 経済理解の基礎 (1)：伝統的な経済観と経済学
- 第9回 経済理解の基礎 (2)：経済観の拡張と展開
- 第10回 経済理解の基礎 (3)：資本制経済

第1章 市場

- 第11回 商品 (1)：商品の二面的性格
- 第12回 商品 (2)：商品の価値
- 第13回 商品 (3)：価値の形態
- 第14回 商品 (4)：商品の物神的性格
- 第15回 交換過程と貨幣の生成
- 第16回 貨幣 (1)：貨幣の諸機能
- 第17回 貨幣 (2)：貨幣制度
- 第18回 貨幣 (3)：インフレとデフレの基礎理論

第2章 貨幣の資本への発展

- 第19回 市場型生産様式と市民社会の形成
- 第20回 資本の一般的定式とその矛盾
- 第21回 消費手段と生産手段の購買と消費
- 第22回 労働力の購買と消費

第3章 労働と資本

- 第23回 資本制生産と労資型生産様式
- 第24回 剰余価値を増大させる諸方法
- 第25回 賃金制度

第4章 資本の蓄積と再生産

- 第26回 資本の蓄積と再生産
- 第27回 雇用と失業
- 第28回 身分階層型生産様式と階層分化

補章 資本の諸姿態と資本制市民社会の変容

- 第29回 資本の流通と資本の諸姿態
- 第30回 資本制市民社会とその変容

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

事前に配布するプリントを読み、参考書の関係箇所を読んでください。

講義に出席してノートを取り、よく復習してください。

出席、レポート、年度末の定期試験の結果を総合的に判断し、評価をします。

教科書は使用しません。講義時に毎回プリントを配布し、講義を理解できるよう援助します。

大谷禎之介『図解・社会経済学』(桜井書店、3000円+税)

一井昭『ポリティカル・エコノミー』(桜井書店、2400円+税)

その他の他 毎時間プリントを配布します。プリントは翌週の講義時までには配りますが、それ以降は配布しませんので、期間内にプリントを受け取ってください。また、YeStudyも活用します。

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	若林 亜理砂 <small>わかばやし ありさ</small>

経営

講義の到達目標(ねらい) 経済法の中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をになうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。

講義の内容／授業スケジュール 以下のトピックについて講義を行う予定である。

- 1 独占禁止法の基礎概念
- 2 不当な取引制限
- 3 私的独占
- 4 一般集中規制
- 5 市場集中規制
- 6 不公正な取引方法
- 7 公正取引委員会
- 8 私的エンフォースメント・刑事罰

履修上の留意点 初回の説明を必ず聞いてから履修するようにしてください。

成績評価の方法 期末試験により評価を行う。

教科書／テキスト 泉水文雄他 リーガルクエスト『経済法』(有斐閣 2010)
参 考 書 別冊ジュリスト (No.199)『経済法判例・審決百選』(有斐閣)

履修コード	143701・329901
科目名	計量経済学
担当者名	呉 逸良 <small>こいつりょう</small>

講義の到達目標(ねらい) 現実の経済データを用いた例題を実際に解くことを通じて、計量経済学を学ぶ。パソコンを利用して演習を行うことにより、抽象的になりがちな計量経済学を分かりやすく理解し、実際のデータ分析の能力を身につける。

講義の内容／授業スケジュール Excelを利用して例題を解きながら、以下の内容を講義する。

- (1・2) 統計学の基礎知識 (I)
- (3) 統計学の基礎知識 (II)
- (4～8) 単純回帰モデル
- (9～11) 重回帰モデル
- (12・13) 回帰モデルの仮説検定 (I)

TSPを利用して前期の例題を再計算することを通じて、TSPの扱いをマスターする。その上で、以下の内容を講義し、TSPを用いて演習を行う。

- (14) 回帰モデルの仮説検定 (II)
- (15・16) TSPの基礎および練習
- (17・18) Chow Testと予測
- (19・20) ダミー変数
- (21～23) 系列相関
- (24～) 復習・授業中試験

履修上の留意点 経済理論をある程度勉強していることと、統計原理と経営数学を履修すること。

成績評価の方法 日頃の宿題、レポートと学期末試験の結果により総合的に判断する。期末試験は授業中に行い、試験での持ち込みは自由。

教科書／テキスト 白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学』(日本評論社) 2003年 2,800円(税別)

参 考 書 山本拓『計量経済学』(新世社)
養谷千風彦『計量経済学』(東洋経済新報社)
G.S. マダラ著・和合肇訳『計量経済分析の方法』(シーエーピー出版)
唯是康彦『Excelで学ぶ計量経済学入門』(東洋経済新報社)
縄田和満『Excelによる回帰分析入門』(朝倉書店)
養谷千風彦等『パソコンによる数量分析・ExcelとTSP入門』(多賀出版)
縄田和満『TSPによる計量経済分析入門』(朝倉書店)
和合肇、伴金美『TSPによる経済データの分析』(東京大学出版会)

履修コード	143721
科目名	ゲーム理論A
担当者名	かみじょう よしお 上條 良夫

講義の到達目標(ねらい) 本講義ではゲーム理論の基礎を解説します。ゲーム理論は、利害対立関係にある複数の人々がお互いの意思決定を考慮に入れて行動をした際に起こる結果について分析するための理論です。経済学や経営学、心理学、生物学などの様々な分野において、ゲーム理論は有用な分析手法として用いられており、学際的な総合的理論の1つと見なされています。ゲーム理論を学ぶことは、他者がどのように考え、それが自分にどのような影響をもたらすかについて考える訓練にもなります。

講義の内容／授業スケジュール
第1回 ゲーム理論とはどのような学問か？
第2回 ゲームの記述、
第3～7回 標準型ゲーム、
第8回 中間試験、
第9～14回 展開型ゲーム、
第15回 期末試験、

履修上の留意点 授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。

成績評価の方法 成績は中間試験と期末試験によって評価します。

教科書／テキスト 岡田章 著『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ
参 考 書 ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社

履修コード	143731
科目名	ゲーム理論B
担当者名	かみじょう よしお 上條 良夫

講義の到達目標(ねらい) 本講義では「ゲーム理論A」を既に受講したものとして、より発展的なトピックについての解説を行います。ゲーム理論Aよりも理論の応用方面にスポットを当てていく予定です。経済学や経営学、心理学、生物学などの様々な分野において、ゲーム理論は有用な分析手法として用いられており、学際的な総合的理論の1つと見なされています。ゲーム理論の応用を通じて戦略的思考方法を身につける事を目標としています。

講義の内容／授業スケジュール
第1回 ゲーム理論の応用と社会的役割、
第2回 標準型ゲームの復習
第3～6回 繰り返しゲーム
(1) 囚人のジレンマ
(2) 有限回繰り返しゲーム
(3) 無限回繰り返しゲーム
第7回 中間試験
第8～11回 交渉ゲーム
(1) 最後通牒ゲーム
(2) 交互提案応答ゲーム
(3) ナッシュ解
第12～14回 マッチング理論
(1) 結婚ゲーム
(2) ゲーム＝シャーププレイのアルゴリズム
第15回 期末試験

履修上の留意点 授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。

成績評価の方法 成績は中間試験と期末試験によって評価します。

教科書／テキスト 岡田章 著『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ
参 考 書 ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社

履修コード	139801・330701
科目名	原価計算論
担当者名	岸田 隆行

講義の到達目標(ねらい)

原価計算は特に製造業において必須の技術である。原価計算は一方で財務会計を支え、一方で管理会計を支えており、会計を学ぶものにとっては必ず習得しておかなければならない知識である。

原価計算の計算理論はすべて企業の製造プロセスの実態を数字として表すにはどのようにすべきであるのかを理論化したものである。理論の背景には企業の製造プロセスや環境変化がある。単に公式を覚えて、計算ができるようになるだけでなく、実態を正確に表すためにはどのような計算方法をとるべきなのか、また、計算された数字がどういう意味を持つのか、自ら考えられるようになってもらいたい。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：原価計算とはなにか、第2回：原価計算の機能と原価概念、第3回：工業簿記、第4～8回：費目別原価計算、第9～14回：製造間接費計算・部門別原価計算、第15回：中間試験、第16～18回：個別原価計算、第19～23回：総合原価計算、第24～26回：標準原価計算、第27～29回：直接原価計算、第30回：原価計算の近年の動向

準備学習

1年次履修科目の会計学および簿記学についての基礎的な知識を有していることを前提に講義を行う。特に仕訳から総勘定元帳への転記について理解した上で履修してもらいたい。

また、原価計算は費目別原価計算から製品別原価計算までが一連のプロセスとして行われる。そのため、前の方で学習した内容が理解できていないと、後で学習する内容が理解できない。練習問題を解くなど、復習を欠かさないようにしてもらいたい。

履修上の留意点

原価計算を習得するためには自ら計算を行うことが必要である。講義では、例題を解いていくが、解答を丸写しするのではなく、自ら電卓をたたき、実際に計算をしてみる。また、随時小テストを行い、知識の定着をはかる。したがって、受講するにあたっては、必ず、電卓を持参すること。

成績評価の方法

前期末に行う中間試験30点、年度末の定期試験70点に、講義中に随時行う小テストの結果を加味して評価する。

教科書／テキスト
参考図書

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

講義の進行にしたがって、下記のテキストを自ら進めていくことが望ましい。

木島淑孝・高橋史安・吉川武男『コスト・アカウンティング・セミナー』（税務経理協会）

履修コード	139411・139421
科目名	現代企業論
担当者名	中川 功一

講義の到達目標(ねらい)

現代に生きる我々にとって、企業とはあまりに当たり前のものである。多くの人間は、企業に所属して働き、企業から給料をもらって人生を歩む。また、我々が日常的に消費する様々な財やサービスは、企業に対価を支払って入手している。このように、我々はごく当たり前のように企業という仕組みを利用しているが、ひとたび考えてみると、企業とは具体的にどのようなものであり、そしてまた、なぜ社会に企業が存在しているのかは、必ずしも明らかではない。そこで、本講義では、「企業」とは何なのかを、多面的に分析し、その現代社会における役割や実態を理解することを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

第1章：企業活動の実態（第2回～第5回）

第2章：株式会社論（第6回～第11回）

第3章：社会・経済・個人にとっての企業の役割（第12回～第17回）

第4章：日本における企業のあり方（第18回～第22回）

第5章：ベンチャー企業論（第23回～第25回）

第6章：現代企業に関わる諸トピック（第26回～第30回）

成績評価の方法

講義中に実施する小テストやレポート課題を30点分、期末試験70点分で評価を行う。

参考図書

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論』2006年〔新版補訂版〕、有斐閣アルマ、2000円。

必ずしも購入しなくてもよいが、講義の内容をより正確に、かつ深く理解するためには、購入を奨励する。

履修コード	140801・331401
科目名	公益企業論
担当者名	えだまつ まさゆき 枝松 正行

講義の到達目標(わらい)

(1) 公益企業とは何か、概念として一般的に理解するだけでなく、100年に一度といわれる世界金融危機とグローバル化のなかで公益企業の歴史的發展を踏まえつつ、公益企業の現状と課題、21世紀公益企業の在り方と国際公益について展望する。

(2) 深刻な就職氷河期のなか、バックキャストとマネジメントの基本的な考え方を学生諸君各人がマスターし、理想の人生設計に向けて実践できるように指導する。

講義の内容／授業スケジュール

公益企業論は、経済学や政治学、政策科学、法律学、財政学、行政学等々の学際研究を不可欠としているが、何よりも経営学の部門科学である。そこで、講義は、ガイダンスに続く導入として、バックキャストとマネジメントについての考え方と基本ツールを概説し、これを各人がマスターするための必修レポートの作成指導から始める。

講義内容の展開は、まず公益と私益と共益、営利と非営利、ネットワークと独占等々の基本概念を再検討し、企業形態や政府の規制政策の在り方とも関連させて、公益企業概念規定を提示する。ついで、わが国公益企業の歴史を国際基軸通貨の200年史のなかに大きく位置づけて、市場と政府の役割をめぐる経済政策の転換によって公益企業改革の全体像を把握し、さらに各事業種ごとに日本の公益企業の現状と課題について考察する。

わが国公益事業の成立・発展・変容を画する時期区分としては、1868年の明治維新以前とそれ以後、1945年の第二次大戦後のいわゆるマッカーサー革命以後、1971年のニクソン・ショック以後とりわけ1982年の中曽根政権以後、2001年の小泉政権以後、2009年の鳩山政権以後、2010年菅政権以後に大別される。この講義では、公益企業の特別な位置と社会的使命を確認するとともに、戦後とくに1980年代以後のわが国公益企業改革30年史の解明を主題とする。すなわち、アメリカからの市場開放要求に対応した規制改革と競争政策の具体化としての公営公益企業の分割・民営化と民間公益企業への規制緩和政策の分析を軸として考察するが、とりわけバブル経済化とバブル崩壊以後の不良債権処理・グローバル化のための税制・会計制度・金融証券システム・独占禁止法・外為法・会社法の大改正や企業合併・買収と世界金融危機という激動的变化のなか、新設されたNPO法人・中間法人制度やこれらも包括する新たな非営利公益法人制度の発足等、広範囲にまたがる公益事業の改革・見直し論議も視野に入れつつ、2009年の政権交代以後には「事業仕分け」の対象としても議論されているわが国公益事業の全体像と課題および21世紀公益企業のマネジメントや国際公益について展望する。

- (1) ガイダンス
- (2~3) バックキャストとマネジメントの考え方(必修レポートの作成指導)
- (4~5) 公益企業とはどういう企業か(身近な事例による一般的な概念規定と包括範囲)
- (6~8) 100年に一度の世界金融危機とはどういうことか(国際基軸通貨の200年史)
- (9~10) わが国公益企業論の座標軸をなす国際基軸通貨の変遷史と日本経済論
- (11~12) 中曽根「行革」の国鉄・電電公社・専売公社の分割民営化とバブル経済
- (13~14) バブル崩壊後の小泉「構造改革」の道路公団・郵政公社の分割民営化
- (15) 中間試験
- (16~17) 民間鉄道事業の公益性と収益性および企業合併・買収
- (18~19) 放送・情報通信事業の公益性と企業合併・買収
- (20~21) 郵政公社の公益性と分割民営化見直し政策の動向および企業合併・買収
- (22~23) 道路公団分割民営化の功罪と高速道路無償化政策の動向および公益性
- (24~25) 水道・水力発電事業の公益性とダム建設差止め政策の公益性
- (26~27) JAL再建問題・羽田空港国際化・日米オープンスカイ協定と国際公益
- (28~29) スマートグリッドの電力自由化・太陽光発電・原子力発電と地球環境公益
- (30) 期末試験

準備学習

参考図書を各自読み進め、公益企業を含む現実企業社会の動向について常日頃からメディア報道に留意し、毎回講義ノートを読み直して自分自身の疑問点や意見や考えをまとめ、次回授業までに質問・意見・要望等を準備しておくこと。

履修上の留意点

毎回出席を取る。質問や意見・要望は、所定カードでか授業終了後に積極的に提出すること。次回授業の冒頭に匿名で紹介・応答し、可能な限り講義内容にも反映させていく。必ずノートを取り、復習を欠かさないこと。私の担当する「社会科学論」の履修も勧める。

成績評価の方法

必修レポートの提出を前提として、出席平常点(20%)と前・後期末(計2回)の試験(80%)により総合的に評価する。

教科書／テキスト

とくに指定しない。

参 考 書

1. 本山美彦著『金融危機後の世界経済を見通すための経済学』作品社、2009年
2. 間瀬啓允編『公益学を学ぶ人のために』世界思想社、2008年
3. 東谷暁著『増補民営化という虚妄』ちくま文庫、2008年
4. 上田慧・桜井徹編著『競争と規制の経営学』ミネルヴァ書房、2006年
5. 関岡英之著『奪われる日本』講談社現代新書、2006年
6. 公益事業学会編『日本の公益事業』白桃書房、2005年
7. 直江重彦著『ネットワーク産業論(改訂版)』放送大学、2004年
8. 関岡英之著『拒否できない日本』文春新書、2004年
9. OECD編・山本哲三訳『構造分離 公益事業の制度改革』日本経済評論社、2002年
10. 小松隆二・公益学研究会編『市民社会と公益学』不磨書房、2002年
11. 石井晴夫編著『現代の公益事業 規制緩和時代の課題と展望』NTT出版、1996年
12. 林敏彦編『公益事業と規制緩和』東洋経済新報社、1990年
13. 一瀬智司・大島国雄・肥後和夫編『公共企業論(新版)』有斐閣双書、1987年
14. 佐々木弘著『現代公益企業論』白桃書房、1981年
15. 竹中龍雄著『公益企業環境論』白桃書房、1978年
16. 同 著『公営公益企業論』千倉書房、1977年
17. 北久一著『公益企業論(全訂新版)』東洋経済新報社、1974年

履修コード	142801・334001
科目名	国際会計論
担当者名	河合 ^{かわい} 由佳理 ^{ゆかり}

講義の到達目標(ねらい)	従来、各国の会計制度はそれぞれの環境要因の制約を受け発展したため、会計に求められる役割・機能は異なっていました。しかし、経済活動の国際化を背景に近年、会計の分野でも国際的な統一にむけた動向が世界的に注目されています。 そこで、本講義では①会計基準の国際化の背景の確認、②会計基準のコンバージェンス(収斂)及びアドプション(採用)に対する各国の対応の把握、③具体的な会計基準の検討を行うことにより、国際会計を巡る現状と課題を考察します。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：国際会計とは、第2回：会計制度の類型、第3～5回：国際会計を取り巻く環境、第6～11回：国際財務報告基準に対する各国の対応(EU、アメリカ、日、中・韓)、第12～13回：概念フレームワーク、第14回：前半部分の総括、第15回：中間試験、第16～28回：国際財務報告基準の個別論点、第29回：会計基準の国際化を巡る課題、第30回：全体の総括
準備学習	状況の変化が激しい分野なので常に新聞等で最新の情報を確認する習慣をつけるようにしてください。
履修上の留意点	基本的な簿記・財務会計の知識を有するとともに、財務会計論を同時に履修又は既に履修していることが望ましい。
成績評価の方法	中間試験(3割)、学期末試験(5割)と出席状況等(2割)を基本に評価します。
教科書／テキスト	授業にて指示します。
参 考 書	杉本徳栄『国際会計[改訂版]』同文館出版、2,000円、978-4-495-18572-5 橋本尚・山田善隆著『IFRS会計学基本テキスト[第2版]』中央経済社、3,400円、978-4-502-23510-8

履修コード	142401
科目名	国際経営論
担当者名	白井 哲也

経営

講義の到達目標(ねらい)	本講義の目的は、企業の国際化、多国籍化の動因および国際経営上の諸問題を理解するためのツールとなる諸理論、パースペクティブを学習することにある。多国籍企業における経営戦略上の課題、解決策について検討する。
講義の内容/ 授業スケジュール	<p>以下は授業スケジュールである（進行状況にあわせて変更あり）。</p> <p>前期</p> <p>①ガイダンス（必ず出席すること）</p> <p>②国際経営の現代的課題</p> <p>③国際経営の対象としての多国籍企業</p> <p>④ハイマーの優位性概念とFDI</p> <p>⑤OLIパラダイム</p> <p>⑥内部化理論と取引コスト</p> <p>⑦多様性の中での国際経営</p> <p>⑧⑨⑩グローバル戦略経営</p> <p>⑪⑫グローバル経営組織</p> <p>⑬⑭グループ演習</p> <p>⑮前期まとめ</p> <p>後期</p> <p>①ガイダンスと前期復習</p> <p>②③グローバルR&D戦略</p> <p>④⑤グローバル生産戦略</p> <p>⑥グローバル・ソーシング戦略</p> <p>⑦現地化とグローバルHRM</p> <p>⑧本社一子会社間マネジメント1－子会社のイニシアティブ</p> <p>⑨本社一子会社間マネジメント2－公正手続き</p> <p>⑩⑪国際提携とM&A戦略</p> <p>⑫⑬個人演習</p> <p>⑭地域経済統合と国際経営</p> <p>⑮後期まとめ</p>
履修上の留意点	<p>・第1回のガイダンスに出席できない学生は、受講資格を失う。</p> <p>（特別な理由により第1回に出席できない学生は、必ず事前にメールにて教員へ相談すること： teelusui@gmail.com）</p> <p>・学生参加型の講義であるため、単に課題を提出し、期末試験を受ければ単位が出るわけではないので注意すること。</p> <p>・原則として、教員は事前相談には応じるが、特別な事由を除いて事後的な相談は一切応じない。</p> <p>・他の受講生の迷惑になる行為（遅刻、私語など）は厳しく取り締まる。ルールを無視するものは直ちにFとする。</p> <p>・配布資料なし。自著ノート作成。</p> <p>・グローバル・マーケティング論と併せて受講することを推奨する。</p>
成績評価の方法	<p>学期末試験と課題（グループ演習、個人演習、レポートなど）を基本に総合的に評価する。詳しくは第1回のガイダンスにて説明するので必ず出席すること。第1回のガイダンスに出席できない学生は、受講資格を失う。特別な理由で出席できない学生は事前に相談すること。</p>
教科書/テキスト 参 考 書	<p>とくに指定しない</p> <p>白井哲也『戦略的マス・カスタマイゼーション研究－国際市場戦略の新視角』2006年刊（文眞堂）2,800円</p>

履修コード	140351
科目名	サービス経営論
担当者名	<small>たかはた 泰</small> 高畑 泰

講義の到達目標(ねらい)

サービス産業は特に先進国において非常に重要な地位を占めている。しかしながら、一般的なビジネス研究は製造業が中心であるため、サービスを中心に据えた本講義は大きな意味を持つ。本講義では、そもそもサービスとは何かを理解した上で、通常のビジネスとサービスを提供するビジネスとの差異は何か、を理解することを目標とする。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回:サービスを学ぶ意義、第2～3回:サービス・プロセスの理解、第4～5回:顧客コンタクト、第6～7回:顧客から見たサービス、第8～9回:生産性とクオリティ、第10～11回:顧客ロイヤルティの構築、第12回～13回:サービス・リカバリー、第14～15回:サービスのデザイン、第16～17回:補足的サービス要素、第18～19回:サービス・デリバリー、第20～21回:サービスの価格、第22回～23回:顧客エデュケーション、第24～25回:需要と供給のマネジメント、第26～27回:行列と予約、第28～29回:サービス従業員の管理、第30回:総括

準備学習

サービスの視点からビジネス関連の記事を読むようにして下さい。また、アルバイトでサービスに従事している人が多いと思いますので、自分のアルバイトの仕事内容について常に検討することが一番有用でしょう。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

ネット上のニュース・サイトなどで、常に最新のビジネス・シーンに触れるようにしましょう。

学期末試験により評価します。

C. ラブロック、L. ライト『サービス・マーケティング原理』白桃書房、3,900円、ISBN978-4-561-65127-7

履修コード	141601・333301
科目名	財政学
担当者名	はやみ のぼる 速水 昇

経
時

講義の到達目標(わらい)

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。例えば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。

さらに最近の景気低迷、国債の累積残高、高齢化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多い。このような問題を納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から考えていくことが必要であるという認識に立って授業を行う。

なお、公務員試験、入社試験において財政学の問題が多く出題されているので、授業で講義した内容に関する問題の小テストを行って、授業の理解度を確認する。

講義の内容／
授業スケジュール

<前期>

- 1週 財政とは何か
- 2週 政府の役割
- 3週 公共財
- 4週 外部効果
- 5週 費用逓減産業
- 6週 政府の失敗
- 7週 予算の機能
- 8週 予算原則
- 9週 特別会計
- 10週 予算過程(編成)
- 11週 予算過程(執行・決算)
- 12週 政府の収入
- 13週 租税収入(所得税・確定申告の書き方)
- 14週 租税収入(相続・贈与税の計算)
- 15週 その他の租税収入

<後期>

- 1週 経常的歳出(公債費)
- 2週 国債発行の問題点
- 3週 経常的歳出(地方交付税交付金)
- 4週 社会保障関係費
- 5週 公共事業関係費
- 6週 防衛関係費
- 7週 経済協力費・文教及び科学振興費
- 8週 中小企業関係費・他歳出
- 9週 財政政策(国民所得の三面等価の原則)
- 10週 財政政策(均衡国民所得の図解)
- 11週 財政政策(節約のパラドックス)
- 12週 財政政策(インフレ・デフレギャップの図解)
- 13週 財政政策(閉鎖経済における政府支出乗数・租税乗数)
- 14週 財政政策(開放経済における政府支出乗数・租税乗数)
- 15週 質疑応答

履修上の留意点

学生として当然のことだが、テキスト・ノートは必ず持参すること。小テストは10回程度予定しているので出席に自信のある学生を希望する(小テストを受けていない学生は授業に出席していないとみなし、成績評価の対象外としますのでご注意ください)

成績評価の方法
教科書/テキスト

試験(60点)、授業中の小テスト・レポート(40点)
速水 昇・水野恵子・和田尚久著 『公共経済と租税』学文社

履修コード	142201
科目名	財務会計論
担当者名	わおくら まなが 大倉 学

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、企業がどのようなルールに従って決算書を作成し、外部の利害関係者に開示しているかについて解説します。

詳細な会計ルールをおぼえることよりも、会計ルールがどのような考え方に基づいているか、なぜそのような考え方をとるのかといった点について重点的に説明するつもりです。

ここで解説する会計ルールの特徴を把握することを通じて、企業の取引が決算書にどのような影響をおよぼすのか、各企業の決算書をどこをみて分析したらいいのかといったことについて理解が深められることでしょう。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：会計の目的
- 第3回：会計基準と会計制度、
- 第4～5回：会計基準の国際的な動向
- 第6～7回：収支の期間配分
- 第8回：小テスト①、
- 第9～10回：利益の認識と測定
- 第10回：複式簿記、
- 第11～12回：資産・負債の認識・測定
- 第13～14回：金融商品の会計、リース会計、
- 第15回：小テスト②
- 第16回：前期の復習
- 第17～18回：資本金会計、
- 第18～20回：決算書の分析
- 第21回：小テスト③、
- 第22～23回：会計単位（連結会計、セグメントの会計）
- 第24回：会計情報の役立ち、
- 第25～26回：監査と粉飾
- 第27～28回：費用配分のバリエーション、退職給付会計、ポイント引当金、
- 第29回：小テスト④
- 第30回：総復習

履修上の留意点

簿記学と会計学を履修していることが望ましいです。

授業では教科書 + a の解説をするので、教科書を購入しておいてください。余裕があれば事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

期末試験65%、小テスト25%、出席10%
川本淳他『はじめて出会う会計学』有斐閣
桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣

履修コード	141181
科目名	サプライチェーン・マネジメントA
担当者名	いいた てつお 飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい)

我々が手にする製品の多くは、製品開発・原材料の調達・生産・物流・販売などの一連の諸活動を経て供給されています。そして、近年の競争環境により、企業は、消費者の望む高品質な製品を、適切な場所・時間に効率的に提供することを、ますます求められています。そのために、一連の供給プロセスの効率化や取り巻く環境の不確実性への適切な対応などが必要であり、様々な管理技術が発達しています。同時に、近年の情報技術の発展・普及により、それらの活用範囲は、より一層広がってきています。サプライチェーン・マネジメントAでは、それらの管理技術に関する理論と方法について学びます。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

(1-4) サプライチェーン・マネジメントの基本的な概念、戦略的視点および課題 (5-7) 需要予測 (8-10) 需給管理 (11-14) 在庫管理 (15) まとめ
経営科学概論、マネジメント・サイエンスA・Bを履修済み、または同時に履修することが望ましい。また、Excelを用いたレポート課題を出します。

成績評価の方法
教科書/テキスト

数回出す予定のレポート課題および定期試験をもとに、授業への参加状況を加味して評価します。適宜、プリントを配布します。

履修コード	141191
科目名	サプライチェーン・マネジメントB
担当者名	飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい) サプライチェーン・マネジメントBでは、サプライチェーン・マネジメントAに引き続き、サプライチェーン分析や計画立案を行うための理論と方法論についてさらに学びます。

講義の内容／授業スケジュール (1-3) 情報共有と戦略的提携 (4-6) 調達管理 (7-11) ロジスティクス管理 (12-13) マス・カスタマイゼーション (14) 最近の話題 (15) まとめ

履修上の留意点 サプライチェーン・マネジメントAの履修を前提とします。経営科学概論、マネジメント・サイエンスA・Bを履修済み、または同時に履修することが望ましい。また、Excelを用いたレポート課題を出します。

成績評価の方法 数回出す予定のレポート課題および定期試験をもとに、授業への参加状況を加味して評価します。

教科書／テキスト 適宜、プリントを配布します。

履修コード	136401・136402
科目名	産業組織論 近代経済学
担当者名	滝田 公一

講義の到達目標(ねらい) 産業組織論の入門的講義を行います。産業組織論は、企業や産業についての経済学的分析を取り扱います。

講義の内容／授業スケジュール 第1回 産業組織論とは？、第2～3回 企業の理論、第4回 産業の分類と集中度、第5～6回 完全競争と厚生経済学、第7回 独占、第8回 支配企業の理論、第9回 価格差別、第10～11回 ゲームの理論I、第12～14回 寡占理論、第15～16回 ゲームの理論II、第17回 寡占の動学理論、第18回 企業の戦略的行動、第19回 参入障壁の理論、第20～21回 製品差別化、第22～23回 垂直的統合と垂直的制約、第24回 水平合併、第25回 研究開発投資 第26回 耐久消費財、第27回 産業規制の経済理論、第28回 自然独占 第29回 国際貿易と産業構造

準備学習 予習は必要ありませんが、講義を受けた後、ノートの内容がよく理解できているか確認してください。

履修上の留意点 経済学概説の知識、特に、ミクロ経済学の知識があると役に立ちます。

成績評価の方法 学年度末の筆記試験で評価します。

教科書／テキスト 特に、指定しません。

参 考 書 Church and Ware, Industrial Organization, McGraw-Hill, 2000.
Carlton and Perloff, Modern Industrial Organization, HarperCollins, 1994.
Waldman and Jensen, Industrial Organization, Addison-Wesley 1998
ロジャー・クラーク『現代産業組織論』(多賀出版) 1989年
新庄浩二ほか『産業組織論』(有斐閣ブックス) 1995年

履修コード	136251
科目名	市場戦略概説
担当者名	<small>なかの かおり</small> 中野 香織

講義の到達目標(ねらい)

私たちが普段購入している商品や利用しているサービスが、どのように私たちの手元に届けられているか、考えたことがあるだろうか。企業はターゲットとする消費者のニーズを満たすために、どんな商品を開発すべきか、その商品をどのような価格と場所で提供すべきか、そしていかに消費者に知らせればよいかを、よく考えて戦略を実行している。これがマーケティングである。マーケティングの考え方は、消費者のニーズをいかに満たしていくかという思考方法によって市場を創造し続ける (Market+ing) ことにある。

本講義では、マーケティングの基本を理解してもらうことを目的とする。多くの事例を紹介しながら、マーケティングの基礎用語や理論を理解してもらう。

講義の内容/
授業スケジュール

- ・前期
- 1)2)マーケティングとは 3)~5)マーケティングの基本概念
- 6)7)戦略的マーケティング 8)9)製品戦略 10)11)価格戦略
- 12)13)チャネル戦略 14)グループワーク 15)前期のまとめ
- ・後期
- 16)17)コミュニケーション戦略 18)営業のマネジメント
- 19)20)ブランド・マネジメント 21)22)消費者行動
- 23)24) マーケティング・リサーチ
- 25)リレーションシップ・マーケティング
- 26)サービス・マーケティング 27)ソーシャル・マーケティング
- 28)29)グループワーク 30)後期のまとめ

準備学習

大学での学びを有意義なものにするためには、勉強を楽しむことである。勉強を楽しむために、普段から企業の動向をチェックしておくとうまい。ビジネスを学ぶ初学生にお勧めなのは、日本経済新聞の購読、「WBS」(テレビ東京・月～金曜23時～)、「ガイアの夜明け」(テレビ東京・火曜22時～)、「クローズアップ現代」(NHK総合・月～木曜19:30～)である。

成績評価の方法
参考書

平常点(出席、ワーク)、レポート、中間試験、学期末試験で評価する。
『1からのマーケティング』(石井淳蔵・廣田章光編著、視学舎、2400円)
その他の参考書は授業で紹介する。

履修コード	143001
科目名	システム論
担当者名	<small>うたに あきひで</small> 宇谷 明秀

講義の到達目標(ねらい)

この科目では、複雑で大規模なシステムを理解し、構築し、運用するための方法論を学ぶ。なるべく具体的な事例をとりあげ、システム思考、システム論への理解を深める。

講義の内容/
授業スケジュール

- [前期]
- 1. システム論(その歴史) 3回
- 2. システム論(分類と展望) 3回
- 3. モデル化の方法論(分類と特徴) 3回
- 4. 数理モデリング 3回
- 5. コンピュータシヨナルモデリング 3回

[後期]

- 1. システムの評価 3回
- 2. システムの故障と信頼性 3回
- 3. 危機管理と対策 3回
- 4. 不確実な事象とシステム設計 3回
- 5. システム導入における経済性 3回

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

特定分野の事前の知識は要求しないが、基礎的な数学の学力が必要である。
中間試験と期末試験に出席状況を加味して評価する。
授業の中で指示する。
授業の中で必要に応じて紹介する。

履修コード	140901
科目名	上級簿記
担当者名	やじま ただし 矢島 正

経営

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

講義の到達目標(ねらい)

この講義は「簿記学」を習得した学生を対象とし、通年で日商簿記検定2級の知識を身につけることを目的としています。

投資家、債権者、取引先、課税当局などの外部利害関係者に対して、企業は経済活動及び経済事象を財務諸表等によって報告する役割があります。しかし、企業では経営の多角化及び国際化の傾向が急速に強まり、これにともなって取引も複雑化してきました。したがって、企業は高度な会計知識をもった会計技術者を必要としています。問題意識をもって積極的な姿勢でこの講義を受講することを強く望みます。

- 第1回 現金預金(1)
- 第2回 現金預金(2)
- 第3回 手形(1)
- 第4回 手形(2)
- 第5回 有価証券(1)
- 第6回 有価証券(2)
- 第7回 固定資産(1)
- 第8回 固定資産(2)
- 第9回 引当金
- 第10回 一般商品売買取引(1)
- 第11回 一般商品売買取引(2)
- 第12回 一般商品売買取引(3)
- 第13回 特殊商品売買取引(1)
- 第14回 特殊商品売買取引(2)
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 株式会社の資本金(1)
- 第17回 株式会社の資本金(2)
- 第18回 繰延資産
- 第19回 税金
- 第20回 社債(1)
- 第21回 社債(2)
- 第22回 決算…[精算表]
- 第23回 決算…[英米式と大陸式]
- 第24回 決算…[損益計算書と貸借対照表]
- 第25回 本支店会計(1)
- 第26回 本支店会計(2)
- 第27回 伝票会計
- 第28回 特殊仕訳帳(1)
- 第29回 特殊仕訳帳(2)
- 第30回 後期まとめ、期末試験について

必ず電卓を用意してきてください。
出席・宿題(30%)、期末テスト(70%)によって評価しますが、そのほかに、在学中(履修年度まで)に日商簿記検定試験2級合格、講義の取り組み等においても期末の評価に加点します。

講義時に資料を配布いたします。

加古直士、渡部祐巨編著『平成23年度版新検定簿記ワークブック2級商業簿記』中央経済社是非、日商簿記検定2級を目指してみてください。

講義では各項目ごとに出来るだけ丁寧に説明していきますが、併せて『ワークブック』も購入し学習を継続することにより、一層の効率が上がると思われれます。

講義内容の変更、講義資料の配布等について変更がある場合は、第1回の講義時にお知らせいたします。

履修コード	140301
科目名	商業経営論
担当者名	石川 <small>いしかわ</small> 和男 <small>かずお</small>

講義の到達目標(ねらい)

人は日々モノやサービスを購入し生活している。またこれらの活動なしには人々の生活が成立しなくなっている。本講義では主に人々(消費者)にモノやサービス(特にモノ)を販売する主体(商業者)の行動を取り上げる。分野として大きく分けると4つの分野から構成されている。1) 商業・流通の概念とその機能、2) 商業者(流通業者)の現状とその行動、3) 販売に関する技術と方法、4) 商業者を取り巻く外部環境と内部環境についてである。これら4つの面から多面的に商業者の組織的行動である「商業経営」をとらえてもらえればと考えている。また受講生には受け身の姿勢ではなく、積極的に疑問に思い、解決を探る姿勢が身につけられるように期待したい。

講義の内容／
授業スケジュール

1 開講にあたって(受講上の諸注意)、2 商業とは、流通とは(商業概念、流通概念)、3 流通機能と流通機構、4 流通機能I(商的流通と物的流通)、5 流通機能II(流通情報と流通情報システム)、6 流通補助機関の役割、7 小売とその営業形態、8 小売業の構造と変化、9 小売マーケティング、10 卸売とその営業形態、11 卸売業の構造と変化、12 卸売マーケティング、13 卸売マーケティングの事例、14 予算管理と販売管理、15 商品回転率と価格政策、16 仕入管理と売買取約、17 在庫管理、18 消費者行動の変化、19 商業立地と商業集積、20 商業・流通を取り巻く法的環境、21 流通政策I(競争政策と振興政策)、22 流通政策II(調整政策)、23 中小零細商業者問題、24 中小零細商業者の将来、25 日本の商業環境と商慣行I、26 日本の商業環境と商慣行II、27 これまでの講義のまとめ

履修上の留意点

(なお、講義の順序については入れ替わる場合がある)

- 1 遅刻、早退、中抜けをしない
- 2 授業中は携帯電話の電源を切る(発見した場合は出席点を0とする)
- 3 他人との会話などを授業中はしない
- 4 帽子の着用、飲食しないなど最低限のマナーは守る
- 5 公欠の取り扱い(運動部の人は必ず公式試合などの場合は提出のこと)
- 6 就職活動のセミナーや説明会への出席の場合は、出席点に加算しない
- 7 その他

成績評価の方法

・第1回目の授業時に詳細な注意事項を書いたプリントを配付する
 授業への参加意欲(出席点) 約30%
 中間レポートまたは中間試験 約30%
 期末試験 約40%
 授業中のボーナス加点

教科書／テキスト
参 考 書

尾崎・野本・石川(2007)『流通業のマーケティング』五経舎
 石川和男(2007)『基礎からの商業と流通(第2版)』中央経済社
 鈴木安昭(2004)『新・流通と商業(第3版)』有斐閣
 小宮路雅博編著(1997)『現代の小売流通』同文館

その他の

第1回目の授業時に詳細な説明を行うので、必ず第1回目の授業から出席のこと。
 連絡方法は、授業時に指示する。

履修コード	331601
科目名	商業経営論
担当者名	石川 和男

講義の到達目標(ねらい)	人は日々モノやサービスを購入し生活している。またこれらの活動なしには人々の生活が成立しなくなっている。本講義では主に人々(消費者)にモノやサービス(特にモノ)を販売する主体(商業者)の行動を取り上げる。分野として大きく分けると4つの分野から構成されている。1) 商業・流通の概念とその機能、2) 商業者(流通業者)の現状とその行動、3) 販売に関する技術と方法、4) 商業者を取り巻く外部環境と内部環境についてである。これら4つの面から多面的に商業者の組織的行動である「商業経営」をとらえてもらえればと考えている。また受講生には受け身の姿勢ではなく、積極的に疑問に思い、解決を探る姿勢が身につけられるように期待したい。
講義の内容／授業スケジュール	1 開講にあたって(受講上の諸注意)、2 商業とは、流通とは(商業概念、流通概念)、3 流通機能と流通機構、4 流通機能I(商的流通と物的流通)、5 流通機能II(流通情報と流通情報システム)、6 流通補助機関の役割、7 小売とその営業形態、8 小売業の構造と変化、9 小売マーケティング、10 卸売とその営業形態、11 卸売業の構造と変化、12 卸売マーケティング、13 卸売マーケティングの事例、14 予算管理と販売管理、15 商品回転率と価格政策、16 仕入管理と売買取引、17 在庫管理、18 消費者行動の変化、19 商業立地と商業集積、20 商業・流通を取り巻く法的環境、21 流通政策I(競争政策と振興政策)、22 流通政策II(調整政策)、23 中小零細商業者問題、24 中小零細商業者の将来、25 日本の商業環境と商慣行I、26 日本の商業環境と商慣行II、27 これまでの講義のまとめ (なお、講義の順序については前後することがある)
履修上の留意点	1 遅刻、早退、中抜けをしない 2 授業中は携帯電話の電源を切る(発見した場合は出席点は0点とする) 3 他人との会話などを授業中はしない 4 帽子の着用、飲食しないなど最低限のマナーは守る 5 公欠の取り扱い(運動部の人は必ず公式試合などの場合は提出のこと) 6 就職活動などでセミナー、説明会へ出席する場合には出席点は加算しない 7 その他
成績評価の方法	・第1回目の授業時に詳細な注意事項を書いたプリントを配付する 授業への参加意欲(出席点) 約30% 中間レポート(テーマまたは課題図書を選択制) 約30% 期末試験 約40% 授業中のボーナス加点 また、年度内に販売士試験2級に合格したものは加点する
教科書／テキスト 参 考 書	尾崎・野本・石川(2007)『流通業のマーケティング』五紘舎、2000円 石川和男(2007)『基礎からの商業と流通(第2版)』中央経済社 鈴木安昭(2004)『新・流通と商業(第3版)』有斐閣 小宮路雅博編著(1997)『現代の小売流通』同文館
そ の 他	第1回目の授業時に詳細な説明を行う。必ず第1回目の授業から出席のこと。 連絡方法は、授業時に指示する。

履修コード	142301・331501
科目名	商業史
担当者名	やまだ まさる 山田 勝

講義の到達目標(ねらい)	大変革の渦中にある現下の商業経営を、歴史的視点から見つめ直し、変革の方向と意味を考える。
講義の内容／ 授業スケジュール	(A) 生産主導の商業 (1) 商業史の意義と講義の目的(第1～3回) (2) パラダイムの発展(第4回) (3) 利益と継続性(第5～8回) (4) 商品と市場(第9～12回) (5) 大衆消費社会の特徴(第13～15回) (B) 需要主導の商業 (1) 消費スタイルの変化(第16～18回) (2) 充足から満足度重視へ(第19～20回) (3) 多様化の要因(第21～22回) (4) 「サービス」商品の特徴(第23～24回) (5) IT革命と商業経営(第25～27回) (6) 生活(文化)の変革と商業(第28～30回)
準備学習	各回の対象となるテキストの範囲をあらかじめ精読し、前回までの授業内容との関係を考えてみる。
履修上の留意点	その上で授業を聴くようにすることによって、自分の商業史観がまとめやすくなります。教科書の内容を講義で補充していくので、出席はとらないが聴講に努め質問をして欲しい。講義中の私語は他の受講生に迷惑となるので厳禁とする。
成績評価の方法	定期試験による。
教科書／テキスト	山田勝『商業史概論(増補版)』(創成社)3,000円(消費税別)
参考書	講義の中で、参考書などは随時紹介していきます。
その他	日頃から、新聞・雑誌を通して経済・商業・経営の現状を理解するようにしてください。

履修コード	142001・332401
科目名	証券市場論
担当者名	かつた よしひろ 勝田 佳裕

講義の到達目標(ねらい)	「証券」そのものに焦点を当て、「市場」で取引されることの意義や諸現象ならびに市場の仕組みについて理解することを目標とする。「証券とはなにか」といった原理的な論点から始め、本来の意味での「証券市場」の理解を目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	1. 株式会社 2. 証券の流通 3. 証券価格の形成 4. 証券発行市場 5. 証券流通市場 6. 証券業と証券会社 7. 金融資産の累積と機関投資家 8. 株式所有構造の変化と企業買収 9. デリバティブ 10. 証券行政と証券政策
履修上の留意点	上記内容をテキストに沿って1年を通して講義する予定である。詳細は初回の授業時に説明するので、必ず出席すること。証券や金融市場に関連するニュースや新聞での報道に関心を持って欲しい。その上で、疑問点や不明な用語等があれば積極的に質問してもらいたい。
成績評価の方法	レポート及び学年末の定期試験によって評価する。配点は、定期試験が80点、レポートが20点。
教科書／テキスト	二上季代司・代田純編著『証券市場論』(有斐閣)
参考書	代田純編著『金融危機と証券市場の再生』(同文館) 代田純編著『日本の国債・地方債と公的金融』(税務経理協会)

履修コード	143231
科目名	消費者行動論
担当者名	乳井 瑞代

講義の到達目標(わらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業が効果的なマーケティング活動を行うためには、消費者のニーズや行動についての深い理解と適切な分析が不可欠です。 ・本講義では、そうした消費者のニーズや行動を理解するための理論や分析枠組みについて体系的に学ぶと共に、身近な事例やケーススタディを通して、消費者行動分析の活用の実際についても理解を深めていく予定です。 ・また、受講生自身が、自らを消費者としてインサイト（洞察）する場にもしていきたいと考えます。
講義の内容／授業スケジュール	<p>1. 授業のガイダンス</p> <p>2～15. 消費者行動とマーケティング／消費者行動の分析フレーム／消費者行動研究の歴史16～29. 購買意思決定プロセス／消費者行動分析と製品・ブランド戦略／消費者行動分析とコミュニケーション戦略</p> <p>30. 学年末試験</p>
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、マスメディアやネットを通して、消費関連情報に積極的に触れるだけでなく、自分や家族の消費行動や買物行動の心理やプロセスについて、関心を持って観察・考察してみましょう。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の履修にあたっては、マーケティングの基礎知識が不可欠なため、できるだけ「マーケティング論」履修者の受講が望ましい（履修していない人は独学で勉強すること）。 ・本講義の配布資料は、その回の授業時間内にしか配布しないため、欠席した場合は自己責任で調達すること。 ・他の受講生の妨げにならないよう授業中の私語は厳禁。授業態度不良の場合には、即時に退出を促すので、予め留意すること。
成績評価の方法 教科書／テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末試験の結果に、レポートや授業の出席状況（不定期にチェック）を加味して評価します。 ・特定のテキストは用いず、毎回の授業時にプリントを配布します。 ・さらなる理解を深めるために、下記参考図書を参照のこと。
参 考 書	<p>青木幸弘（2010）『消費者行動の知識』日本経済新聞社。920円</p> <p>田中洋・清水聰『消費者・コミュニケーション戦略』有斐閣アルマ。2100円</p>

履修コード	138701
科目名	商法Ⅰ（総則・会社法）
担当者名	川口 幸美

講義の到達目標(わらい)	<p>本講義では、株式会社の経済活動を経営管理の側面と資金調達の側面について規制する会社法を体系的・基礎的に理解することを目的とする。具体的には法規制の内容と、重要かつ興味深い事例等を随時紹介し、現実社会で会社法が果たしている役割について説明する。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>1. 会社の種類（LLCとLLP） 2. 会社の設立</p> <p>3. 組織と会計（機関設計と会計参与） 4. 組織と会計（リスク管理と内部統制）</p> <p>5. 会社の計算（配当・持分変動計算書） 6. 企業の計算（役員賞与の扱い）</p> <p>7. 企業買収・再編（三角合併） 8. 企業買収・再編（新株予約権の強制償却）</p> <p>9. 企業買収・再編（黄金株と譲渡制限） 10. その他</p>
履修上の留意点	<p>会社法を体系的により深く理解するために、他の商法科目（商法総則・商行為法）および民法科目（特に民法総則・債権法）を現在履修しているか、既履修であることが望ましい。</p>
成績評価の方法	<p>試験の点数による。出席は原則として取らないので、出席点は考慮しないものと考えてください。つまり、就職活動・部活動および病欠等による欠席者を優遇することはありません。期末試験は12月最後の授業内で行いますので注意してください。</p>
教科書／テキスト	<p>開講時に指定する。</p>
参 考 書	<p>神田秀樹「会社法（第11版）」（弘文堂）</p> <p>江頭憲治郎・岩原紳作・藤田友敬／編</p> <p>別冊ジュリスト「会社法判例百選」</p>
そ の 他	<p>（当然のことですが）授業中の私語・携帯電話の使用を厳しく注意します。場合によっては退室を命じます。</p>

履修コード	145001
科目名	商法Ⅱ（商行為、手形・小切手法）
担当者名	なかほま よしあき 中濱 義章

講義の到達目標(ねらい) 手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。

講義の内容／授業スケジュール 講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。

- 1 手形・小切手の意義（約束手形・為替手形・小切手の異同）
- 2 手形法・小切手の経済的機能
- 3 手形行為の意義・性質
- 4 手形行為の成立時期（手形理論）
- 5 手形行為と法律行為に関する一般原則
- 6 代理人・代表者による手形行為
- 7 無権代理と偽造、変造
- 8 手形行為と実質関係
- 9 手形の振出
- 10 白地手形
- 11 手形の裏書
- 12 善意取得の制度
- 13 手形抗弁、人的抗弁切断（制限）の制度
- 14 支払、支払拒絶など
- 15 為替手形・小切手に特有の法制度
- 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題

履修上の留意点 六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』（有斐閣）、『セレクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）など。

成績評価の方法 民法（財産法関係科目）および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。

教科書／テキスト 大塚龍児ほか『商法Ⅲ－手形・小切手（第3版）』（有斐閣Sシリーズ）

参 考 書 落合誠一＝神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選（第6版）』（有斐閣）

詳細については、開講時に指示します。

山下友信＝神田秀樹編『商法判例集（第4版）』（有斐閣）

履修コード	138901
科目名	情報処理応用A
担当者名	うらたに あきひで 宇谷 明秀

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、簡単なデータ処理であるならば、市販のデータ処理ソフトに頼ることなく、自らプログラムを作成してデータ処理できるようになることを目標に、プログラミングの基礎を学ぶ。演習で簡単なデータ処理プログラムを作成する。

- 講義の内容／授業スケジュール
1. プログラミング講義（10回）
C言語について、そのすべてを説明する。
 2. プログラミング演習（5回）
C++Builderを使って、実際に幾つかの簡単なデータ処理プログラムを作成する。

履修上の留意点

- ・情報処理の基礎科目を履修しておくが良い。
- ・情報処理系の科目、特にプログラミングは暗記科目ではない。
- ・授業は演習中心になるので、欠席は極力避けること。

成績評価の方法 期末試験に出席状況を加味して評価する。

教科書／テキスト 特に教科書は使用しない。講義内容をまとめた資料を配布する。

参 考 書 授業の中で必要に応じて紹介する。

履修コード	138801
科目名	情報処理応用A
担当者名	なが こきよう 長 国強

<p>講義の到達目標(ねらい)</p> <p>講義の内容／ 授業スケジュール</p> <p>履修上の留意点</p> <p>成績評価の方法</p> <p>教科書／テキスト</p> <p>参 考 書</p> <p>そ の 他</p>	<p>実際のデータから経済・経営活動など社会的な動きをどのように読み取るのかといった能力を養成できるように、本講義は、表計算ソフトEXCELの各種関数を中心に、データ解析の基本技法(図表、特性値、相関・回帰、市場予測、品質管理など)を実習する。</p> <p>第1回：WORDによる案内書の作成；第2回：四則計算；第3回：整数・小数計算；第4回：乱数発生；第5回：統計関数Ⅰ；第6回：統計関数Ⅱ；第7回：小テストⅠ；第8回：日付／時刻関数；第9回：財務関数；第10回：論理関数；第11回：小テストⅡ；第12回：文字列検索関数；第13回：グラフ作成Ⅰ；第14回：グラフ作成Ⅱ；第15回：小テストⅢ。</p> <p>情報処理基礎A・Bの内容を前提とします。</p> <p>総合評価(100)=出席(30)+提出課題(50)+期末試験(20)。</p> <p>特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。</p> <p>必要に応じて示します。</p> <p>特にありません。</p>
--	--

履修コード	329401
科目名	情報処理応用A
担当者名	ももづか かおる 桃塚 薫

<p>講義の到達目標(ねらい)</p> <p>講義の内容／ 授業スケジュール</p> <p>履修上の留意点</p> <p>成績評価の方法</p> <p>教科書／テキスト</p>	<p>この講義の目的は、コンピュータのエンドユーザーとして、コンピュータ言語を含む比較的高度なスキルを習得することです。とくに本授業では、ウェブにかかわる技術全般について学習します。</p> <p>(1)UNIXの基本操作。(SSH、シェル)</p> <p>(2)Webサーバの基本操作。(Apache)</p> <p>(3~5)HTML言語の基礎と応用。(XHTML)</p> <p>(6~8)スタイルシートの基礎と応用。</p> <p>(9~11)ウェブ用画像処理の基礎。</p> <p>(12~14)課題作成。</p> <p>(15)まとめ。</p> <p>実習授業のため、遅刻・欠席をしないでください。毎回出席を取ります。授業中に数回、課題を提出してもらいます。Windowsで日本語入力ができるようにしておいてください。</p> <p>出席点(50)、課題提出状況(25)、期末レポート(25)による相対評価。</p> <p>毎回プリントを配布。(同じ内容のPDFファイルをウェブ上で閲覧できる)</p>
--	---

履修コード	139101
科目名	情報処理応用B
担当者名	うたに あきひで 宇谷 明秀

<p>講義の到達目標(ねらい)</p> <p>講義の内容／ 授業スケジュール</p> <p>履修上の留意点</p> <p>成績評価の方法</p> <p>教科書／テキスト</p> <p>参 考 書</p>	<p>インターネットの普及やコンピュータの性能向上によって、情報の収集・蓄積が容易になってきている。現在、多くの企業では、日々膨大なデータを収集し、収集したデータを分析して企業経営に役立てている。この講義では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なデータ分析手法の習得 ・プログラミング技術の習得 <p>を主たる目的として、基本的なデータ分析手法を紹介し、C++Builderを使って実際にデータ分析ソフトを開発する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データ分析手法の講義(5回) 幾つかの基本的なデータ分析手法を紹介する(様々なデータを用い、そのデータにどのような意味が隠されているのかを探る)。 2. プログラミング技術の講義(5回) 演習を中心に進める。 3. データ分析ソフトの開発(5回) C++Builderを使って実際にデータ分析ソフトを開発する。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報処理関連の科目を履修しておくが良い。 ・C言語の基礎的知識を前提として講義を進める。 ・授業は演習中心になるので、欠席は極力避けること。 <p>期末試験に出席状況を加味して評価する。</p> <p>特に教科書は使用しない。講義内容をまとめた資料を配布する。</p> <p>授業の中で必要に応じて紹介する。</p>
---	--

履修コード	139001
科目名	情報処理応用B
担当者名	なが こきょう 長 国強

講義の到達目標(ねらい)	本講義は、もっともメジャーなコンピュータ言語の1つであるC言語(C PROGRAMMING)を用いて、ソフトウェア開発の基礎的な基礎を学習する。C言語の入門知識であるデータの表示と演算、制御、ポインタ、関数など、実例を通して習得していく。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：C言語とは；第2回：データの表示と計算；第3回：配列とは；第4回：プログラムの制御とは；第5回：小テストⅠ；第6回：ポイントとは；第7回：関数とは；第8回：引数と配列；第9回：ライブラリ関数；第10回：小テストⅡ；第11回：構造体の利用；第12回：構造体を指すポインタ；第13回：データ構造；第14回：最終課題への研究Ⅰ；第15回：最終課題への研究Ⅱ。
履修上の留意点	情報処理基礎A・Bの内容を前提とします。
成績評価の方法	総合評価(100)=出席(30)+提出課題(50)+期末試験(20)。
教科書／テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
参 考 書	必要に応じて示します。
そ の 他	特にありません。

履修コード	329501
科目名	情報処理応用B
担当者名	ももづか かおる 桃塚 薫

講義の到達目標(ねらい)	この講義の目的は、コンピュータのエンドユーザーとして、コンピュータ言語を含む比較的高度なスキルを習得することです。とくに本授業では、JavaScriptを中心に、プログラミング言語を扱います。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1~2)関数、引数の使い方。(3~6)if文、while文、for文、演算子、(7~9)配列、(10~14)自作のプログラムを作る実習。(15)まとめ
履修上の留意点	実習授業のため、遅刻・欠席をしないでください。毎回出席を取ります。授業中に数回、課題を提出してもらいます。Windowsで日本語入力ができるようにしておいてください。Excel使用経験者、歓迎します。
成績評価の方法	出席点(50)、課題提出状況(25)、期末レポート(25)による相対評価。
教科書／テキスト	毎回プリントを配布。(同じ内容のPDFファイルをウェブ上で閲覧できる)

履修コード	137601
科目名	情報処理基礎A
担当者名	おざわ としひる 小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	現代のビジネスにおいてコンピューターの利用は不可欠です。この講義では、コンピューターとネットワークの仕組みについて理解するとともに、インターネットを介して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションするために必要なコンピューターの知識を身につけます。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：コンピューターとネットワークの仕組み、コンピューターの基本操作、第2~6回：文書作成(文書の入力、書式の設定、図と表の作成)、情報検索の方法、課題1・課題2、第7~11回：表計算(表の作成、グラフの作成、数式と関数の使い方、いろいろな関数)、課題3・課題4、第12~14回：プレゼンテーション資料の作成、課題5、第15回：全体のまとめ
準 備 学 習	予習は特に必要ありません。復習として、授業で学んだことを必ず最低一回は一通り自分でやってみてください。WordやExcelなど、コンピューター・アプリケーションの操作を修得するには、迷いながらも自分で何度も繰り返しやってみることが早道です。
履修上の留意点	前提とする内容は特にありません。5回の課題の他に、授業中に練習として作成したファイルも提出してもらいます。
成績評価の方法	課題提出(5回、合計70点)、練習ファイルの提出(複数回、合計20点)、出席(10点)で評価します。
教科書／テキスト	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
参 考 書	必要に応じて示します。
そ の 他	特にありません。
関 連 リ ン ク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	137001
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	加藤 武信 <small>かとう たけのぶ</small>

講義の到達目標(ねらい)	情報化社会の電子文房具であるパソコンは、個人レベル、組織レベルおよび社会レベルで益々必要性を増している。ここではパソコンの原理とその活用法の基礎部分を総合的に学習し、それを自在に使って、インターネットを用いた情報検索やワープロによる文書の作成、表計算によるデータ加工の技法などを修得する。パソコンの実習環境は、Windowsを用いる。
講義の内容／ 授業スケジュール	A. コンピュータの仕組みとWindowsの基本操作 (1～2) アクセサリとペイントの活用、タイピング、ファイルシステムの操作を含む B. ワードプロソフトWordによる文書作成 (3～4) 日本語入力、手紙、納品書、履歴書などの作成、図形描画の活用 C. インターネットと電子メールの活用 (5～6) Webページの検索、ダウンロード、メールの送受信など D. 表計算ソフトExcelによる作表・作図(基本レベル) (7～10) 売上集計、成績処理と各種グラフ、納品書、履歴書、精算表の作成 (11～15) 基本関数、論理関数、データベースの活用
履修上の留意点	パソコン実習が全体の80%を占めるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。習熟するためには、時間外のパソコン実習が必須である。また、テキストや配布教材を熟読しなければならない。
成績評価の方法	平常点(出席とレポートへの点数付け)およびテストにより総合評価する。
教科書／テキスト	電子教材(教材はすべてパソコン内に格納します)
参 考 書	鈴木光勇「EXCEL ビジネスデータ分析2007対応」(翔泳社) 2,180円 ISBN978-4-7981-1118-6 C3055
そ の 他	授業の方法: パソコン実習 ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	136701・137101
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	河内谷 幸子 <small>かわちや さちこ</small>

講義の到達目標(ねらい)	この講義のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。
講義の内容／ 授業スケジュール	毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、ホームページ検索、ホームページ作成入門、ブログ、情報倫理、情報基礎理論などを実習していきます。
準備学習	その都度授業で指示します。
履修上の留意点	コンピュータ実習授業は1回休むと次の実習内容がわからなくなるので、休まないようにしましょう。出席は必ずとります。
成績評価の方法	コンピュータを使って解くレポート課題を2～3回出し、その結果と出席状況の総合評価によって成績を評価します。
教科書／テキスト	サイエンス社「情報」(仮) 詳細は初回授業で指示します。
参 考 書	その都度授業で指示します。
そ の 他	1人1台コンピュータを使った実習形式です。 ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	136801・136901
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	地引 <small>じびき</small> 昌弘 <small>まさひろ</small>

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、経営の様々な場面で出会う意思決定やその問題解決の手段として、コンピュータを自分自身で活用できるための基礎の習得を目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	・イントロダクション (1) 講義内容概説／情報教育センターに関するオリエンテーション／コンピュータ科学と経営学とについて (プロローグ) ・コンピュータの構成と基本操作 (2～8) 初めてコンピュータに触れる人が戸惑わないために、コンピュータを使う上での最初の一步から説明を始める。続いて、基本的な入力装置であるキーボードおよびマウスの操作に慣れることを目標に、ワープロソフトを用いた文書の作成を行なう。 ・コンピュータを用いた情報発信 (9～15) 電子メールによるコミュニケーションやWWWブラウザを用いた情報収集、最後にホームページあるいは電子プレゼン資料の作成を通して自ら情報発信できることを目指す。
履修上の留意点	本講義は、コンピュータの初心者、コンピュータを補助として利用できるようになることを、そして何か問題が起きた場合でも自分自身で対処を行なえるようになることを最終的な目標としています。従って、上記の基本スケジュールと並行して、適宜コンピュータに関する様々な知識や最新情報なども解説していく予定です。また、この目標に向けてのどのような質問／疑問でも大いに歓迎致します。
成績評価の方法	まずは、上記に述べた本講義の趣旨より、単位の取得だけが目的の者は遠慮していただきたい(出席免除などは基本的に認めない)。実習が中心なので、基本的には毎回出席し、出席の確認として実習内容を提出させることを予定している。各実習毎に、解決すべき課題(あるいはその実習の目標)を示すので、これらを解決(あるいは実現)できた場合に、実習毎の内容に応じた部分点を与える。また、実習の状況に応じて追加課題を提出させる場合がある。期末には、履修を終えた項目を応用したレポートを提出させる。成績は、出席および課題／レポートの各部分点を総合して評価する。
その他の	教科書などは特に指定しないが、必要に応じて各項目ごとの参考図書を紹介する。状況が許せば、コミュニケーション手段の一つとしてE-mail(電子メール)を利用する予定。 ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	137611
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	長 <small>なが</small> 国強 <small>こきやう</small>

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、コンピュータとネットワークの仕組みについて説明した後、文書作成、情報検索、表計算の知識について、実際にコンピュータを使いながら学んでいく。
講義の内容／ 授業スケジュール	コンピュータ基礎(1-2)；文書作成(3-7)；情報検索(8)；小テスト(9)；表計算(10-12)；全体のまとめ(13-14)；小テスト(15)。
成績評価の方法	総合評価(100)=出席(30)+提出課題(50)+期末試験(20)。
教科書／テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。
参考書	特に使用しません。
その他の	特にありません。

履修コード	137631
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	<small>なかの ひでひろ</small> 中野 秀洋

経営

講義の到達目標(ねらい)

この講義では、コンピュータとネットワークの仕組みについて説明した後、インターネットを介して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションするために必要なコンピュータの知識について、実際にコンピュータを使いながら学んでいく。具体的には、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成などを、専用アプリケーションを用いて行う。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回：コンピュータとネットワークの仕組み（1）
- 第2回：コンピュータとネットワークの仕組み（2）
- 第3回：コンピュータの基本操作
- 第4回：文書作成（文書の入力）
- 第5回：文書作成（書式の設定）
- 第6回：文書作成（図と表の作成）
- 第7回：情報検索の方法（1）
- 第8回：情報検索の方法（2）
- 第9回：表計算（表の作成）
- 第10回：表計算（グラフの作成）
- 第11回：表計算（関数の使い方）
- 第12回：表計算（いろいろな関数）
- 第13回：プレゼンテーション資料の作成（1）
- 第14回：プレゼンテーション資料の作成（2）
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

複数回の課題提出により評価する。授業に出席することも合格の必要条件である。
授業の中で資料を配布する。
授業の中で必要に応じて紹介する。

履修コード	137201
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	村上 ^{むらかみ} 友佳子 ^{ゆかこ}

講義の到達目標(わらい)

本講義は、経営学・経済学での基礎的なコンピューターによる数的処理・統計処理を修得することを目的とする。経済現象は、売上高の変化、利益率の変化、失業率や公定歩合などの割合の変化等々数字として表現されることがほとんどである。こうした数字からいかに情報を引き出すか、基本的な経営・経済指標について講義とエクセルを使った実習を行う。

官公庁などのホームページをデータの収集に利用していくこともおこなう予定である。関心のある事柄を調べる(図書館での文献・データベースの検索、パソコンでのインターネットの活用などによる)、表計算ソフトを使って表・グラフを作成する、プレゼンテーションを行う、レポートを書く、などの方法を習得する。

大学生として、成果をレポートや論文として残したい学生に相応しい講義です。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1 ガイダンス
 - 2 インターネットによる官公庁統計の利用
 - 3 データのダウンロード
 - 4 企業の経営データに親しむ (図書館データベースの利用)
 - 5 数的処理の方法 (構成比、成長率、寄与度)
 - 6 EXCELによる統計処理の方法 (記述統計 グラフを描く)
 - 7 WORDによるレポート執筆 (グラフの貼り付け)
 - 8 POWER POINT によるプレゼンテーション(報告)行い方
 - 9 分析事例を見てみよう (論文やレポートを読んで、数的処理を知る)
 - 10 図書館における文献、資料、統計、データベースの検索の行い方
- (「5. 数的処理の方法」「6. EXCELによる統計処理」は、複数回、講義する予定。少しずつ無理なく、情報処理を学びましょう。)

経済統計のバックグラウンドとなる経済・経営知識の講義を多少行い、実作業を行っていく予定です。

参考文献 浅子和美・加納・倉沢「マクロ経済学」(新世社)

小田切宏之「企業経済学」(東洋経済)

刈屋武昭「計量経済学の基礎と応用」(東洋経済新報社)

成績評価の方法

第一に、レポート提出を課題とする。興味のある企業の経営戦略について、WORD・EXCEL(数表、グラフ添付)を用いて、執筆すること。

第二に、講義に遅刻しないで出席し、講義を聴き、指示に従い作業を行う。分からなければ質問し、講義が進められる実際の演習を習得する。その結果として、講義内の練習問題を提出する。

そ の 他

講義受講者は、次回までに、ユーザーコード パスワードを総合情報センターの事務室で申請してください。

*この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	137301
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	依田 ^{よだ きよし} 聖

経営

講義の到達目標(わらい)	<p>コンピュータの『初心者』を対象に情報化社会において不可欠であるコンピュータの基本操作を習得します。主な内容は、コンピュータの基本操作とタイピング、インターネットのしくみ、電子メールの利用法、ワープロソフトの基本的操作、文書の保存・コピーの仕方、フォントやレイアウトの設定と、プレゼンテーションソフトの基本的操作、デザインやアニメーションの設定などです。ワープロソフトで文章書いたり印刷したり、またプレゼンソフトで発表用スライドを作成できることを目標とします。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>大学あるいは企業でPCを道具（情報収集、情報伝達、レポートの作成等）として使う基本的な力（コンピュータ・リテラシー）を養う。演習を中心に進めるが、コンピュータ化の問題点と情報倫理等の講義も行う。</p> <p>演習の主要な点は（1）PCの操作（Windowsの基本操作）（2）WWW（ブラウザの使用法、情報検索・収集）（3）電子メール（送受信、添付ファイル、アドレス帳、署名）、情報倫理（4）情報化社会（コンピュータ化）の問題（5）ワープロ（操作法、基本事項、フォント、文字飾り、文字位置）（6）ワープロ（文書作成、ファイルとフォルダ）（7）ワープロ（編集作業、移動、コピー）（8）ワープロ（表、罫線）（9）ワープロ（テキストボックス、ワードアート、クリップアート）（10）ワープロ（ページ設定、印刷）（11）パワーポイント（操作法、文字挿入、スライドの作成）（12）パワーポイント（グラフの挿入、図形の挿入）（13）パワーポイント（デザイン、アニメーション）</p>
準備学習	<p>以上の項目（1）～（13）を1～2回で行い15回で終わる。</p>
履修上の留意点	<p>PCの電源のON/OFFやKB、マウスの操作など基本的なところは自習しておくこと。</p> <p>初回は電子（PC）メールの初期設定をするので、必ず出席すること。</p> <p>講義にはメールを活用（講義録の送付と課題の提出）する。</p> <p>本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしがらず聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと（出欠は必ずとります）。</p>
成績評価の方法	<p>出席（毎回の課題を提出）とレポート40%、試験60%。特にメールを習った後は毎回の課題はメールで提出する。</p>
教科書／テキスト	<p>太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシ【第4版】』（サイエンス社）2008年1,950円＋税、ISBN4-7819-1085-8</p>
その他の	<p>※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。</p>

履修コード	137401
科目名	情報処理基礎A
担当者名	依田 ^{よだ きよし} 聖

講義の到達目標(ねらい)	これまで何らかの情報処理教育を受けたことのある人(「既習者」)を対象に、情報化社会において不可欠であるコンピュータの操作を習得します。主な内容は、インターネットのしくみとネチケット、情報検索法、電子メールの仕組みと利用法、ワープロソフトでの作表や図形の扱い、プレゼンテーションソフトでのスライドの作成とデザインやアニメーションの設定、Webページの作成です。ワープロソフトで図形付き文章の作成と印刷、プレゼンソフトでの発表用スライドの作成、Webページの作成ができることを目標とします。
講義の内容/ 授業スケジュール	大学あるいは企業でPCを道具(情報収集、情報伝達と発表、レポートの作成等)として使う「応用力」を養います。演習を中心に進めますが、コンピュータ化の問題と情報倫理等の講義も行います。前期はワープロ(ワード)とプレゼン用ソフト(パワーポイント)、Webページ(HTMLでの作成)の作成を勉強します。 演習の主要な点は(1)Web(ブラウザの使用法、情報検索・収集、インターネットの仕組み)(2)電子メール(送受信、添付ファイル、アドレス帳、署名)、情報倫理(3)情報化社会(コンピュータ化)の問題(4)ワープロ(文章作成、ファイルとフォルダ)(5)ワープロ(フォント、文字飾り、文字位置、編集作業、移動、コピー)(6)ワープロ(表の作成、罫線の操作)(7)ワープロ(罫線の操作、テキストボックス、クリップアート、ワードアート)(8)ワープロ(ページ設定、印刷、差し込み印刷)(9)パワーポイント(操作法、文字挿入、スライドの作成)(10)パワーポイント(グラフの挿入、図形の挿入)(11)パワーポイント(デザイン、アニメーション)(12)HPの作成(HTMLとは、タグファイルによるHPの作成)(13)HPの作成(タグファイルの追加、変更によるHPの作成)(14)HPの作成(オリジナルHPの作成) 以上の項目を1-2回で行い15回で終わる。
準備学習	PCの操作など基本的なところやワープロの初歩はよく復習しておくこと。またキーボードやマウスの操作はスムーズにできるようによく練習をすること。
履修上の留意点	初回は電子(PC)メールの初期設定をしますので、必ず出席すること。 講義にはメールを活用(講義録の送付と課題の提出)する。 本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしながら聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりとすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと(出欠は必ずとります)。
成績評価の方法	出席(毎回の課題を提出)とレポート40%、試験60%。特にメールを習った後は毎回の課題はメールで提出する。
教科書/テキスト	太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシ [第4版]』(サイエンス社)2008年 1,950円+税、ISBN4-7819-1085-8
その他の	授業の方法:1人1台コンピュータを使った実習形式 ※この科目は4月初回の授業に必ず出席して担当教員から許可を得なければ履修できません。

履修コード	137621
科目名	情報処理基礎A
担当者名	わかやま だいし 若山 大樹

講義の到達目標(わらい)	この講義では、コンピューターとネットワークの仕組みについて説明した後、インターネットを介して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションするために必要なコンピューターの知識について、実際にコンピューターを使いながら学んでいく。具体的には、PC基礎、PC操作基礎、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成などを、専用アプリケーションを用いて行う。
講義の内容／授業スケジュール	(1)～(2) コンピュータとネットワークの仕組み、 (3) コンピューターの基本操作、 (4)～(5) 情報検索の方法、 (6)～(12) 文書作成、 (13)～(14) プレゼンテーション資料の作成、発表会 (15) まとめ
準備学習 履修上の留意点	教材をよく読んで授業に備えること。 市場戦略学科1年生の必修科目であり、出席を重要視する。また、授業進行状況により講義スケジュールの項目が、情報処理基礎Bへ移動するなど、前後する場合がある。教場座席数に制限があるので、2年生以上の履修希望者は先着順に履修を許可するので早めに申し出ること。
成績評価の方法	4～5回の小課題提出状況(50%)と試験(20%)、出席(20%)、授業態度(課題に取り組む姿勢)(10%)、その他期末課題等により総合的に評価する。
教科書／テキスト 参考書 その他	必要に応じて配布あるいは、指示する。 必要に応じて配布あるいは、指示する。 他の学生への迷惑行為は厳禁であり、レポートや出席に関する不正行為も厳禁である。

履修コード	138601
科目名	情報処理基礎B
担当者名	おざわ としひさ 小沢 利久

講義の到達目標(わらい)	適切な経営判断、有効な計画立案を行うためには、日々蓄積されるデータを、コンピューターを用いてさまざまな観点から分析し、そこから意味のある情報を引き出すことが重要となります。この講義では、代表的な表計算アプリケーションであるExcelのワークシート関数と付属ツールを用いたデータ分析の方法を身につけます。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：ワークシート関数の基本についての復習、課題1、第2～4回：統計関数とその応用例、課題2、第5～8回：回帰分析ツールの使い方・決定係数と残差を用いた分析および応用例、課題3、第9～10回：ゴールシークの使い方とその応用例、課題4、第11～14回：ソルバーの使い方とその応用例、課題5、第15回：全体のまとめ
準備学習	予習は特に必要ありません。復習として、授業で学んだことを必ず最低一回は一通り自分でやってみてください。この授業は、単にExcelの操作を修得するためのものではなく、Excelの操作と同時にデータの分析方法についても学ぶ授業です。授業で学んだ分析方法がどのような場面で利用できるかを常に意識しながら復習をしてください。
履修上の留意点	情報処理基礎Aの内容を前提とします。5回の課題の他に、授業中に練習として作成したファイルも提出してもらいます。
成績評価の方法	課題提出(5回、合計70点)、練習ファイルの提出(複数回、合計20点)、出席(10点)で評価します。
教科書／テキスト 参考書 その他 関連リンク	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。 必要に応じて示します。 特にありません。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	138301
科目名	情報処理基礎B
担当者名	加藤 武信

講義の到達目標(ねらい)	「情報処理基礎A」の授業で確立したパソコンに関する知識・技術をさらに発展させ、実社会で応用できる活用能力に高める。すなわちExcelによる応用処理とPowerPointを用いたプレゼンテーション、さらに関係データベースAccessを活用した「仕事の仕組み」の具体化を試みる。パソコンの実習環境は、Windowsを用いる。
講義の内容／ 授業スケジュール	A. 表計算ソフトExcelによる応用処理 (1～4) データベース応用、ピボットテーブルの活用、各種計算モデルの活用、管理資料の作成 B. プレゼンテーションソフトPowerPointによるデータの視覚化 (5～6) 表題、箇条書き、組織図、表、グラフ、挿絵入りスライドなどの作成 (7～8) プレゼンテーション課題に沿った発表順序の企画とスライドの作成 C. データベースソフトAccessによる成績処理業務の設計と処理 (9～15) テーブルの設計、フォームによるデータ入力、テーブルの結合、クエリによる各種集計、SQLの基礎 (さらに希望者にはホームページ作成教材を提供します)
履修上の留意点	パソコン実習が全体の80%を占めるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。習熟するためには、時間外のパソコン実習が必須である。また、テキストや配布教材を熟読しなければならない。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	出席、レポートおよびテストにより総合評価する。 電子教材 (教材はすべてパソコン内に格納します) 鈴木光勇「EXCEL ビジネスデータ分析2007対応」(翔泳社) 2,180円 ISBN978-4-7981-1118-6 C3055
その他の	授業の方法：パソコン実習 ※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	137901・138001
科目名	情報処理基礎B
担当者名	河内谷 幸子

講義の到達目標(ねらい)	この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に全く新種のソフトが世間的に普及するような場合が生じても適応できるように、積極的に新しいものに取り組む姿勢を身につけることも目標とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。「情報処理基礎A」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方、ソフト比較演習、情報基礎理論などを実習します。
準備学習 履修上の留意点	その都度授業で指示します。 「情報処理基礎A」をあらかじめ履修しておくことをすすめます。また、コンピュータ実習授業は1回休むと次の実習内容がわからなくなるので、休まないようにしましょう。出席は必ずとります。
成績評価の方法	コンピュータを使って解くレポート課題を2～3回出し、その結果と出席状況の総合評価によって成績を評価します。
教科書／テキスト	サイエンス社「情報」(仮) 詳細は初回授業で指示します。
参 考 書 その他の	その都度授業で指示します。 1人1台コンピュータを使った実習形式です。 ※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	138101・138201
科目名	情報処理基礎B
担当者名	地引 昌弘

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、コンピュータの操作方法を単に習得するだけに偏らず、コンピュータ自体の知識や経営における実際の問題などに対応させながら、意思決定/問題解決の手段として活用できる能力の習得を目標とする。

講義の内容/授業スケジュール

- ・表計算の基本(1~6)

経営の場における情報分析に際して、ワープロ以上に重要なツールである表計算ソフトに慣れることを目標に、代表的な表計算ソフトである MS-EXCEL を利用した表計算やグラフの作成、基礎的な統計分析などの各機能について学ぶ。

- ・オフィス統合ツールの基本(7~12)

表計算ソフトの基礎的な利用方法をベースに、より実践的な経営の問題への応用を目指す。まずは、ワープロソフトやデータベースソフトとの連携を目標に、作成したグラフを文書に組み込んだり、データベースからデータを取り出して解析を行なう技術を習得する。

最後に、表計算ソフト上の簡易プログラミング機能であるマクロを利用して、各オフィスツールを統合した環境における応用方法について学ぶ。

- ・コンピュータの応用(13~15)

コンピュータを自分自身で使いこなせることを目標に、ソフトウェアやアーキテクチャ、トラブル時の処理などコンピュータへの理解を深めるための実習/解析を行なう。まずは、OSやネットワークの仕組みについて解説を行ない、オフィス統合ツール上で利用されるソフトウェアの基礎を習得する。続いて、プログラムを作成するための作法や、実際のデバッグ手法の経験を通して、今後コンピュータを独力で使いこなしていける能力の習得を目指す。

履修上の留意点 本講義は、情報処理基礎の履修者が日常の活動にコンピュータを自在に活用できることを最終的な目標にしています。従って、上記の基本スケジュールと並行して、適宜コンピュータに関する様々な知識や最新情報なども解説していく予定です。また、この目標に向けてのどのような質問/疑問でも大いに歓迎致します。

成績評価の方法 まずは、上記に述べた本講義の趣旨より、単位の取得だけが目的の者は遠慮していただきたい(出席免除などは基本的に認めない)。実習が中心なので、基本的には毎回出席し、出席の確認として実習内容を提出させることを予定している。各実習毎に、解決すべき課題(あるいはその実習の目標)を示すので、これらを解決(あるいは実現)できた場合に、実習毎の内容に応じた部分点を与える。また、実習の状況に応じて追加課題を提出させる場合がある。期末には、履修を終えた項目を応用したレポートを提出させる。成績は、出席および課題/レポートの各部分点を総合して評価する。

その他 教科書などは特に指定しないが、必要に応じて各項目ごとの参考図書を紹介する。状況が許せば、コミュニケーション手段の一つとしてE-mail(電子メール)を利用する予定。
※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	138611
科目名	情報処理基礎B
担当者名	なが 国強

講義の到達目標(ねらい) この講義では、ホームページ作成言語HTMLとプレゼンテーション資料の作成ソフト(PPT)について学んでいく。

講義の内容/授業スケジュール

- インターネット基礎(1-2); HTML言語(3-7); 情報検索(8); 小テスト(9);
- プレゼンテーション資料の作成(10-12); 全体のまとめ(13-14); 小テスト(15)。

成績評価の方法 総合評価(100)=出席(30)+提出課題(50)+期末試験(20)。

教科書/テキスト 特に使用しませんが、プリントは随時配布する予定。

参考書 特に使用しません。

その他 特にありません。

履修コード	138631
科目名	情報処理基礎B
担当者名	なかの ひでひろ 中野 秀洋

講義の到達目標(ねらい)

この講義では、代表的な表計算アプリケーションであるExcelのワークシート関数と付属ツールを用いたデータ分析の方法について学んでいく。具体的には、財務関数、統計関数、ゴールシーク、回帰分析、ソルバーを用いて例題を解きながらデータ分析についての理解を深める。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回：ワークシート関数の基本についての復習
 第2回：財務関数（いろいろな財務関数）
 第3回：財務関数（応用例）
 第4回：統計関数（いろいろな統計関数）
 第5回：統計関数（応用例）
 第6回：ゴールシーク（ゴールシークの使い方）
 第7回：ゴールシーク（応用例）
 第8回：ソルバー（ソルバーの使い方）
 第9回：ソルバー（応用例1）
 第10回：ソルバー（応用例2）
 第11回：回帰分析（回帰分析ツールの使い方）
 第12回：回帰分析（決定係数と残差を用いた分析）
 第13回：回帰分析（応用例1）
 第14回：回帰分析（応用例2）
 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法

複数回の課題提出により評価する。授業に出席することも合格の必要条件である。

教科書／テキスト

授業の中で資料を配布する。

参 考 書

授業の中で必要に応じて紹介する。

履修コード	138401
科目名	情報処理基礎B
担当者名	むらかみ ゆかこ 村上 友佳子

講義の到達目標(ねらい)

本講義の狙いは、大学生がレポートや卒業論文を執筆する際に、必要とされるスキルを学ぶことです。また、それらは、社会人になってからも、利用可能です。

数的処理やデータベース処理、回帰分析などの高度な統計処理も、EXCEL使うと簡単に習得でき、これまでと一味違う論文を書くことができます。

また、POWER POINTを使って、効果的なプレゼンテーションの練習をしましょう。今まで書いたことのあるレポートをPOWER POINTに移して、きれいな背景や分かりやすい見出しをつけ、発表すると自信がつかます。

出席する方は、まず、少人数クラスのなかで自分の意見や疑問点をしっかり述べる習慣、授業にきちんと出席して、話を聞き、課題をこなす習慣をつけてください。

大学生として、勉強や学問で実りある成果をレポートや卒業論文として残したいと考えている学生に相応しい講義です。また、社会人になってからも有効に使えるスキルを身につけたいと考えている学生にも相応しい講義です。

講義の内容／
授業スケジュール

- POWER POINTによるプレゼンテーション（報告の行い方）
- 図書館における文献、資料、統計、データベースの検索の行い方
- パソコン端末利用による、データのダウンロードの行い方
- EXCEL 表計算ソフトを使ってみましょう
- EXCEL 統計関数、財務関数の使い方
- EXCEL 論理関数の使い方（企業を評価し、ランクづけする）
- EXCEL データベース処理I（並び替え、フィルタ、自動集計機能を使う）
- EXCEL データベース処理II（顧客データの集計をピボットテーブルで行う）
- EXCEL グラフの描き方（企業評価をグラフで図示しましょう）
- EXCEL 回帰分析

成績評価の方法

第一に、POWER POINTを使って、講義時間内に少なくとも一度は報告を行うことがもめられる。報告する内容は、以前に書いた企業の経営に関するレポートに基づき、EXCELの数表、グラフを示すこと。学生個人のオリジナルな考え方に従った報告に対して高い評価をする。

第二に、講義内で示す2回の課題（EXCELによる数的処理）を提出することが求められる。

第三に、講義に遅刻しないで出席し、講義を聴き、指示に従い作業を行う。分からなければ質問し、講義が進められる実際の演習を習得する。その結果として、講義内の練習を適宜、提出する。

そ の 他

※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	137701
科目名	情報処理基礎B
担当者名	依田 聖 <small>よだ きよし</small>

経
理

講義の到達目標(ねらい)	<p>コンピュータの『初心者』を対象に情報化社会において不可欠であるコンピュータの基本操作を習得します。主な内容は、エクセルとHPの作成です。エクセルの仕組みとワークシートとセルの概念、基本操作と文書の保存・コピーの仕方、数式の入力、相対参照と絶対参照、関数の利用、様々なグラフの作成、DBの操作、エクセルによる簡易ワープロとエクセルの印刷法などです。さらに一般的なPCの利用法として、エクセル・HP検索・ワープロの3つの連携によるレポートの作成の演習を行います。</p> <p>またHPの作成をHTML言語で行います。HP表示の仕組みを、HPサーバとPCでの言語の解釈と画面の面から解説し、簡単なHP画面を作成できることを目標とします。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>大学あるいは企業でPCを道具(情報収集、情報伝達、レポートの作成等)として使う基本的な力(コンピュータ・リテラシー)を養います。演習を中心に進め、後期は表計算(エクセル)とHPの作成(HTML言語を使用)を勉強します。</p> <p>演習の主要な点は(1)表計算(エクセル操作法、計算式)(2)表計算(関数の利用、相対参照)(3)表計算(セルの挿入、削除、輻射、移動)(4)表計算(ワークシートのコントロール)(5)表計算(グラフの作成、印刷)(6)表計算(簡易ワープロ、印刷)(7)表計算(よくつかわれる関数)(8)表計算(ソートとフィルタ)(9)実務的問題、www-エクセル-ワープロの連携(アプリケーション間でのデータのやり取り、情報検索・収集とその解析、ワープロでの表、グラフの編集)(10)HPの作成(HTMLとは、タグファイルによるHPの作成)(11)HPの作成(タグファイルの追加と変更によるHPの作成)(12)HPの作成(オリジナルHPの作成)</p> <p>以上の項目(1)～(12)を1-2回で行い15回で終わる。</p>
準備学習	<p>PCの電源のON/OFFやKB、マウスの操作などはスムーズに出来るようにしておくこと。初回は前期未履修者向けに電子(PC)メールの初期設定をするので、必ず出席すること。</p>
履修上の留意点	<p>講義にはメールを活用(講義録の送付と課題の提出)する。</p> <p>本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしがらず聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりとすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと(出欠は必ずとります)。</p>
成績評価の方法 教科書／テキスト	<p>出席(毎回の課題を提出)とレポート40%、試験60%。毎回の課題はメールで提出する。</p> <p>太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシ [第4版]』(サイエンス社)2008年 1,950円+税、ISBN4-7819-1085-8</p>
その他	<p>※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。</p>

履修コード	138501
科目名	情報処理基礎B
担当者名	よだ きよし 依田 聖

講義の到達目標(ねらい)	これまで何らかの情報処理教育(エクセル)を受けたことのある人(『既習者』)を対象に、情報化社会において不可欠であるコンピュータの操作を習得します。主な内容は、エクセルの応用とPC総合問題(情報検索とグラフの作成、ワープロとの総合的使用法)です。エクセルでの数式入力、相対参照と絶対参照のから始め、関数の利用、様々なグラフの作成、DBの操作、エクセルによる簡易ワープロとエクセルの印刷法などです。さらに一般的なPCの利用法すなわち実社会での実践的な使用法として、情報検索・エクセル・ワープロの3つの連携によるレポートの作成という総合演習を行います。
講義の内容/ 授業スケジュール	大学あるいは企業でPCを道具(情報収集、情報伝達、レポートの作成等)として使う応用力を養います。演習を中心に進め、後期はエクセルによるグラフの作成と情報検索を中心に勉強します。演習の主要な点は(1)表計算(エクセル)(様々な数式の入力)(2)表計算(セル参照、簡単な関数、セルの挿入、削除、輻射、書式設定)(3)表計算(ワークシートのコントロール)(4)表計算(ソートとフィルタ)(5)表計算(簡易ワープロ、印刷)(6)表計算(相対参照、絶対参照)(7)表計算(様々な関数の使用法)(8)表計算(グラフの作成と印刷)(9)総合問題(www-ワープロ-エクセルの連携(アプリケーション間でのデータのやり取り、情報検索・収集とその解析)、総合的なPC利用によるレポートの作成)
準備学習	以上の項目(1)～(9)を2-3回で行い15回で終わる。PCの電源のON/OFFやKB、マウスの操作などはスムーズに出来るようにしておくこと。エクセルによる表計算の基本的な概念、表の合計や平均値の出し方、数式のコピー(相対参照、絶対参照)など復習しておくこと。
履修上の留意点	初回は前期未履修者向けに電子(PC)メールの初期設定をするので、必ず出席すること。講義にはメールを活用(講義録の送付と課題の提出)する。本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしくがらず聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりとすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと(出欠は必ずとります)。
成績評価の方法 教科書/テキスト	出席(毎回の課題を提出)とレポート40%、試験60%。毎回の課題はメールで提出する。太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシ[第4版]』(サイエンス社)2008年1,950円+税、ISBN4-7819-1085-8
その他の他	※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	138621
科目名	情報処理基礎B
担当者名	わかやま だいし 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい)	この講義は、情報処理基礎Aの学習内容習得済を前提に行うものである。本講義では、大学初年度で大学生が習得しておく必要がある情報処理リテラシーについて学ぶ。具体的には、代表的な表計算アプリケーションであるExcelのワークシート関数(財務関数、統計関数など)と付属ツールを用いたデータ分析の方法(回帰分析など)、分析結果のグラフ化、プレゼンテーション資料の作成方法(応用)について学んでいく。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1)～(2)表計算ソフト・エクセルの基本、 (3)～(6)ワークシート関数、財務関数、統計関数、 (7)～(8)グラフ作成、編集、 (9)～(11)回帰分析の基礎、 (12)～(14)プレゼンテーション(パワーポイントの基礎と応用)、発表会 (15)まとめ ただし、情報処理基礎Aの進捗状況により、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを情報処理基礎Bの最初に実施する場合がある。
準備学習 履修上の留意点	配布の教材をよく読んで授業に備えること。 情報処理基礎Aを履修していること。授業進行状況により講義スケジュールの項目が前後する場合がある。
成績評価の方法	4～5回の小課題提出状況や試験(50%)、パワーポイントを用いた発表(20%)、出席(20%)、課題に取り組む姿勢(授業態度)10%により総合的に評価する。
教科書/テキスト 参 考 書	必要に応じて授業時間内に配布あるいは指示する。 必要に応じて授業時間内に配布あるいは指示する。

履修コード	142511
科目名	情報セキュリティA
担当者名	にしむら かずお 西村 和夫

講義の到達目標(わらい)

情報のセキュリティについての組織の取組みを理解する。

まず、情報は社会基盤にもかかわる重要な経営上の資産であることを認識する。情報セキュリティの定義と歴史を概観したうえで、現代の脅威、社会問題と対策を知る。

そのうえで、企業の社会的責任からの要請、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)、最高情報セキュリティ責任者 (CISO) と情報セキュリティポリシーの必要性、個人情報保護マネジメントシステム (PMS)、内部統制、情報セキュリティ監査、従業者教育を含む情報セキュリティガバナンスについて学ぶ。

社会全体では、倫理も含むセキュリティ文化を醸成する必要性があることを認識する。

講義の内容/
授業スケジュール

回数 内容

- 1 ガイダンス, 自己紹介
- 2 犯罪と事故の例, 危機管理
- 3 情報セキュリティの実際, 現代の暗号技術
- 4 情報とは, 情報の資産価値
- 5 情報セキュリティの定義と歴史
- 6 リスク管理, 現代の脅威, 社会問題と対策
- 7 組織 (国, 民間, 企業) の取組み, ISO 27000
- 8 情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS, CISO)
- 9 情報セキュリティポリシー
- 10 プライバシー, 個人情報保護マネジメントシステム (PMS)
- 11 企業統治, コンプライアンス, 内部統制
- 12 情報セキュリティ監査, コンピュータ・フォレンジクス
- 13 情報セキュリティガバナンス, 従業者教育の必要性
- 14 情報セキュリティ文化, まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

授業用 Web ページを読んでおいてほしい。

履修に際して予備的な知識は必要としない。毎回出席してきちんとノートをとること。

小テストと定期試験を総合評価する。

授業用 Web ページ: <http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/security/index.html>

[1] 情報処理推進機構 セキュリティセンター, 情報セキュリティ読本 ― IT時代の危機管理入門, 実教出版, 2004. (500円).

YeStudy (<http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/2010/course/view.php?id=370>)

履修コード	142521
科目名	情報セキュリティB
担当者名	<small>にしむら かずお</small> 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい)

情報セキュリティに関する法制度および暗号の技術について理解する。
 まず、守るべき情報の価値には、秘匿性、完全性、可用性があることと、秘匿性と可用性とはトレードオフの関係にあることを再確認する。
 不正アクセス禁止法、個人情報保護法などの法律を学び、アクセス制御を理解する。また、暗号によって達成可能な目標および暗号技術を理論的に理解する。特に、公開鍵暗号のRSA方式を理解する。そのうえで、ネットワーク上で情報セキュリティを実現する方法および認証局の必要性について理解する。いくつかの暗号プロトコルを学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 回数 内容
- 1 授業内容概説，機密性と可用性のトレードオフ，危機管理
 - 2 不正アクセス禁止法，個人情報保護法，著作権法など
 - 3 アクセス制御，アクセス制御リスト
 - 4 暗号によって達成できる目標と暗号技術
 - 5 暗号系と用語
 - 6 共通鍵暗号，“踊る人形”の解説
 - 7 転置式暗号，ストリーム暗号，暗号解説
 - 8 公開鍵暗号
 - 9 剰余環，RSA方式
 - 10 認証，電子署名，ハッシュ関数
 - 11 暗号技術を使ってできること，電子マネー，量子暗号
 - 12 暗号プロトコル，SSL
 - 13 公開鍵基盤（PKI），認証局
 - 14 情報セキュリティ基盤，情報セキュリティ・サービス

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

授業用 Web ページを読んでおいてほしい。
 情報セキュリティAの履修を前提とする。毎回出席して、きちんとノートをとること。
 小テストと定期試験を総合評価する。
 授業用 Web ページ：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/security/index.html#B>

参 考 書

- [1] 情報処理推進機構 セキュリティセンター，情報セキュリティ読本 — IT時代の危機管理入門，実教出版，2004。（500円）。
 [2] 結城浩，暗号技術入門 — 秘密の国のアリス，ソフトバンクパブリッシング，2003。ISBN 4-7973-2297-7。
 YeStudy（<http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/2010/course/view.php?id=371>）

履修コード	142601
科目名	生産管理論
担当者名	ふじわら あつし 藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)

生産管理は製造企業における生産活動の管理であり、財の生産に投入する生産諸要素(資材、設備、労働力)を総合的に調整することにより、主としてQ(品質)・C(原価)・D(納期)の側面について企業の生産効率を最大にすることを目的としている。このような生産管理の機能・特徴を体系的に解説したい。

また効率よくモノづくりを行なうシステムである各種生産システム(テイラーシステム、フォードシステム、トヨタ生産システムなど)について、主として自動車産業を中心に解説する。

以上のような企業内の管理機能としての生産管理に留まらず、企業内外での生産に関する諸活動、諸現象、諸問題についても幅広く取り上げたい。また本講義では生産や生産管理と密接に関連していることから労働者による労働も考察の対象としている。

このような講義内容の学習を通じて、包括的な生産管理の機能と日本のモノづくりの強さの理解につなげたい。

講義の内容/
授業スケジュール

以下の順序で講義を行なう。前期は生産管理の機能を体系的に解説する。講義の対象と概要(第1回)、生産に関する基本的な用語・概念(第2~4回)、生産計画と生産統制(第5~8回)、QCDの側面の管理(第9~11回)、生産要素に関する管理(第12~15回)。後期は歴史上代表的な生産システムについて解説する。テイラー・システム(第16~19回)、フォード・システム(第20~22回)、トヨタ生産システム(第23~28回)、セル生産システム(第29~30回)。

以上の内容の講義と並行して経済専門紙や専門雑誌の記事を紹介しながら、最近の生産上の問題や生産の効率化に関する企業での取り組みについて解説を行いたい。

準備学習
履修上の留意点

講義で学習する理論に関して、新聞記事などで実例を読んで理解を深めておくこと。

講義中の私語は厳禁である。私語や携帯電話の呼出音等、講義を妨げる者は即座に退室扱いになり、また場合によって減点や単位取得不可になることもあるので注意すること。

成績評価の方法

定期試験で行う(100%)。またレポートの課題を出すこともあるが、その場合は定期試験90%、レポート10%で評価する。

教科書/テキスト
参 考 書

指定しない。

山下高之『体系生産管理論』中央経済社、1990年

門田安弘『トヨタプロダクションシステム~その理論と体系~』ダイヤモンド社、2006年

その他、講義の中で指示する。

履修コード	333801
科目名	生産管理論
担当者名	ふじわら あつし 藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)

生産管理は製造企業における生産活動の管理であり、財の生産に投入する生産諸要素(資材、設備、労働力)を総合的に調整することにより、主としてQ(品質)・C(原価)・D(納期)の側面について企業の生産効率を最大にすることを目的としている。このような生産管理の機能・特徴を体系的に解説したい。

また効率よくモノづくりを行なうシステムである各種生産システム(テイラーシステム、フォードシステム、トヨタ生産システムなど)について、主として自動車産業を中心に解説する。

以上のような企業内の管理機能としての生産管理に留まらず、企業内外での生産に関する諸活動、諸現象、諸問題についても幅広く取り上げたい。また本講義では生産や生産管理と密接に関連していることから労働者による労働も考察の対象としている。

このような講義内容の学習を通じて、包括的な生産管理の機能と日本のモノづくりの強さの理解につなげたい。

講義の内容/
授業スケジュール

以下の順序で講義を行なう。前期は生産管理の機能を体系的に解説する。講義の対象と概要(第1回)、生産に関する基本的な用語・概念(第2~4回)、生産計画と生産統制(第5~8回)、QCDの側面の管理(第9~11回)、生産要素に関する管理(第12~15回)。後期は歴史上代表的な生産システムについて解説する。テイラー・システム(第16~19回)、フォード・システム(第20~22回)、トヨタ生産システム(第23~28回)、セル生産システム(第29~30回)。

以上の内容の講義と並行して経済専門紙や専門雑誌の記事を紹介しながら、最近の生産上の問題や生産の効率化に関する企業での取り組みについて解説を行いたい。

準備学習
履修上の留意点

講義で学習する理論に関して、新聞記事などで実例を読んで理解を深めておくこと。

講義中の私語は厳禁である。私語や携帯電話の呼出音等、講義を妨げる者は即座に退室扱いになり、また場合によって減点や単位取得不可になることもあるので注意すること。

成績評価の方法
教科書/テキスト

定期試験70%、出席30%で評価する。

参 考 書

指定しない。

山下高之『体系生産管理論』中央経済社、1990年

門田安弘『トヨタプロダクションシステム~その理論と体系~』ダイヤモンド社、2006年

その他、講義の中で指示する。

履修コード	143221
科目名	製品開発論
担当者名	宮下 雄治 <small>みやした ゆうじ</small>

講義の到達目標(ねらい)

現代の企業は、厳しい環境を克服して成長発展への軌道を回復するための経営戦略とりわけマーケティングの積極的な展開が強く求められています。マーケティングの重要な機能である需要創造において、製品開発の果たす役割は大きく、理論的にも実践的にも製品開発はマーケティング・マネジメントの中核に位置付けられます。製品開発の重要性は、現代では製造業（メーカー）に限られたものではなく流通業においても増しており、流通業独自の製品（PB:プライベートブランド）を差別化の手段と位置づける企業が増えています。本講義では両者の視点から製品開発の知識を学習します。また、日本の多くの産業は市場や技術の方向性が見えにくい成熟産業であり、本講義ですでに成熟した市場における製品開発についてマーケティングと技術経営における諸成果をふまえて解説します。講義を通して、製品開発に関する基礎的な知識の習得と現代の産業界の要請に対する製品開発のアプローチと課題について体系的な理解を深めることを目的とします。

講義の内容/
授業スケジュール

＜前期＞第1回：オリエンテーション、第2～4回：ブランドとパッケージ、第5～7回：現代の消費市場の特徴と製品開発を取り巻く環境、第8～9回：日本のロングセラー製品、第10～11回：流通業のプライベートブランド、第12～14回：日本の製造業の強みと課題
＜後期＞第15～17回：世界の工場中国とEMS、第18～20回：ボリュームゾーンとBOP、第21～23回：日本を代表する製造業の製品開発、第24～26回：成熟市場におけるマーケティング・リサーチ、第27～29回：イノベーション、第30回：これからの製品開発
成績評価は、授業内に行う課題を重視します（ほぼ毎回の授業で行います）。その他、定期試験と中間試験、レポートを実施し総合的に評価します。

成績評価の方法

教科書/テキスト
参 考 書

教科書・テキストは使わず、板書とビデオ教材を中心に授業を行います。
・川上智子『顧客志向の新製品開発—マーケティングと技術のインタフェイス』有斐閣、2005年。
・延岡健太郎『製品開発の知識』日本経済新聞社、2002年。
・上原征彦『マーケティング戦略論—実践パラダイムの再構築』有斐閣、1999年。

履修コード	143101・334301
科目名	税法
担当者名	奥村 正郎 <small>おくむら まさろう</small>

講義の到達目標(ねらい)

租税は、我々納税者が、税法の定めるところにしたがって、国や地方公共団体（都道府県及び市町村）に納付すべきものであり、それは公共サービスの資金となり、我々の生活に影響する。しかしながら税法は、多数の法律とそれを施行するための政令、省令で成り立ち、さらに多くの通達があり、しかも法律の解釈や手続きは難解で、改正も毎年ある。このような事情からかその重要性は認識していても、将来その専門家になりたいという人以外、積極的に税法の知識を身につけようとする人は少ないように思われる。このようなことから本講義により、我々の身近な法律である税法に関心をもち、具体的事例、計算を通じてその基本的知識を習得してもらいたい。

講義の内容/
授業スケジュール

また将来、税理士試験を目指すものにとっても有用な知識を提供できるような内容にしたい。
講義の内容は以下ようになります。

前期

1. 租税のあらまし
2. 税法の基本原則
3. 租税の種類と分類
4. 民法の相続制度(1)
5. 民法の相続制度(2)
6. 相続税の納税義務者
7. 相続税の課税財産
8. みなし相続財産
9. 相続税の財産評価(1)
10. 相続税の財産評価(2)
11. 相続税の計算(1)
12. 相続税の計算(2)
13. 贈与税
14. 贈与税と相続時精算課税制度
15. まとめ

後期

1. 所得の概念
2. 納税義務者
3. 課税所得の範囲等
4. 各種所得の種類
5. ～8. 各種所得の計算(1)～(4)
9. 10. 所得控除及び税額の計算(1).(2)
11. 申告、納付、源泉徴収、その他
12. その他の税法(法人税)
13. 14. その他の税法(消費税(1)(2))
15. まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他
関 連 リ ン ク

テキスト、配布プリント等を事前に読んでおくこと授業の理解に効果的です。
本講義では簿記会計の知識は必須ではないが、上級簿記等の講義も受講することを勧める。
学期末試験80%、平常点20%、出席状況も勘案して評価する。
【公共経済と租税】速水昇他編著（学文社）
授業を進める中で適宜紹介する。
計算演習等プリントを随時配布する。電卓を使用するので持参すること。
<http://www.nta.go.jp/>

履修コード	141901
科目名	税務会計論
担当者名	高木 克己 <small>たかき かつみ</small>

講義の到達目標(ねらい)

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

講義の内容/
授業スケジュール

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、会社法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

履修上の留意点

講義内容の概要は次のとおりである。
(1~2) 税務会計の制度的基礎、(3~5) 法人税の意義、性格、納税義務者等、(6~8) 事業年度、同族会社、(9~12) 課税所得計算の基礎、(13~16) 販売収益、請負収益、有価証券譲渡益等、(17~21) 売上原価、減価償却、寄付金、交際費等、(22~24) 税額の計算、申告、納付等、(25~28) 企業組織再編税制、連結納税制度等、(29~30) 国際課税、不服申立・訴訟等

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。
原則として学年末の試験によって評価する。数回の小テストを行う予定である。
開講時に指示する。
開講時に指示する。

履修コード	332301
科目名	税務会計論
担当者名	高木 克己 <small>たかき かつみ</small>

講義の到達目標(ねらい)

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

講義の内容/
授業スケジュール

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、会社法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

履修上の留意点

講義内容の概要は次のとおりである。
(1~2) 税務会計の制度的基礎、(3~5) 法人税の意義、性格、納税義務者等、(6~8) 事業年度、同族会社、(9~12) 課税所得計算の基礎、(13~16) 販売収益、請負収益、有価証券譲渡益等、(17~21) 売上原価、減価償却、寄付金、交際費等、(22~24) 税額の計算、申告、納付等、(25~28) 企業組織再編税制、連結納税制度等、(29~30) 国際課税、不服申立・訴訟等

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。
原則として、前期末及び後期末のレポート試験によって評価する。
開講時に指示する。
開講時に指示する。

履修コード	142701・333901
科目名	ドイツ経営学
担当者名	^{たかはし} 高橋 ^{しげお} 成夫

講義の到達目標(わらい)	現代のドイツ企業システムの特徴を解明するとともに、ドイツ経営学の性格や内容を、ドイツ経営学の歴史(史的展開)の中で明らかにすることにある。
講義の内容/ 授業スケジュール	第1～7回:Iドイツの企業システム① ドイツの企業形態/所有構造と支配類型/トップ・マネジメント構造/共同決定法/企業統治 第8～11回:IIドイツの企業システム② 企業統治改革の動向/企業の生態的側面[環境経営]/ヨーロッパ会社 第12～14回:IIIドイツ経営学の前史 第15～17回:IVドイツ経営学の生成 科学的/技術的私経済学 第18～24回:Vドイツ経営学の展開 ①規範的/技術的経営経済学/私経済学的企業経済学 ②理論科学的/応用科学的経営経済学 第25～30回:VIドイツ経営学の現状(多様な構想)意思決定志向的/システム志向的/行動理論的/新規範論的経営経済学/労働志向的個別経済学/新制度派経済学に基づく経営経済学
準備学習	新聞・雑誌などからドイツ企業関連の記事を整理しておくことと事前学習になる。また、前回の授業内容を復習し、当日の授業内容の予習をしておくこと。
履修上の留意点	講義では主要な内容について出来る限り板書して説明するので、積極的に出席することが望ましい。
成績評価の方法	定期試験(80%)と平常点(20%)を総合して評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	北野利信編『経営学説入門』(有斐閣新書)900円+税

履修コード	144801
科目名	特殊講義I〔現代のビジネスモデル〕
担当者名	^{さるやま} 猿山 ^{よしひろ} 義広

講義の到達目標(わらい)	本講座は、「現代のビジネスモデル」をテーマに、起業家の育成を目的として、約3分の2は実務者によって講義される。実社会の動向がわかるようになるだけでなく、自らが考えた企画がそのまま評価の対象となるので、プレゼンテーション能力や企画力を養うこともできる。
講義の内容/ 授業スケジュール	以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認していくこと。 第1回 ガイダンス、第2回 事業計画書作成の方法、第3回 プレゼンテーションの方法、第4回 ビジネスモデルの事例研究(1)、第5回 ビジネスモデルの事例研究(2)、第6回 ビジネスモデルの事例研究(3)、第7回 事業計画書とビジネスモデル、第8回 ビジネスモデルの事例研究(4)、第9回 ビジネスモデルの事例研究(5)、第10回 ビジネスモデルの事例研究(6)、第11回 プレゼンテーション(1)、第12回 プレゼンテーション(2)、第13回 プレゼンテーションの講評、第14回 これからのビジネスモデル、第15回 まとめ
履修上の留意点	事業計画書の提出とレポート試験を課す。詳細については初回の授業で述べるので、必ず出席すること。
成績評価の方法	指定されたテーマで作成してもらった事業計画案とレポート試験で成績評価を行う。配点はそれぞれ50点満点とする。
教科書/テキスト	毎回資料を配布する。プレゼンテーションではパワーポイントを用いる。
参考書の他	適宜、授業中に紹介する。 外部の特別講師による講義では、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私語は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。

履修コード	101203
科目名	特殊講義Ⅱ〔現代の税制と税理士業務〕
担当者名	ひやくた よしはる 百田 義治

講義の到達目標(ねらい) 本科目は東京税理士会の寄附講座として開講されます。東京税理士会所属の14人の現役の税理士の方々(そのほとんどは駒澤大学または駒澤大学大学院の卒業生)が、それぞれの実務経験を踏まえながら、税理士の役割や社会的使命、さまざまな税法の内容や意義、また税理士の実際の姿などについて、わかりやすく講義します。受講生が、本授業を通して、財政や租税に関する実際的な知識を獲得し、できれば税理士や公認会計士などの職業会計人を目指す機会となることを期待しています。

講義の内容／
授業スケジュール

- 以下のテーマでの授業を予定しています。
- 第1回 わが国の租税制度
 - 第2回 グローバル化と証券税制
 - 第3回 法人と個人の税金のしくみ
 - 第4回 相続税のはなし
 - 第5回 贈与税のはなし
 - 第6回 所得税のはなし
 - 第7回 法人税のはなし
 - 第8回 税理士制度の歴史から税理士の仕事の魅力まで
 - 第9回 リスク・マネジメントと税務会計
 - 第10回 税理士と地方自治体の監査制度
 - 第11回 税務調査と税理士
 - 第12回 サラリーマンと税金のはなし
 - 第13回 消費税のはなし
 - 第14回 税制改正のはなし
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

定期試験とレポートで評価する。
毎回資料を配布する。
特になし。
この科目は、履修制限(150名~200名)をします。最初の授業で履修制限の説明をします。
本授業はすべて外部講師(税理士)の方々によって進められます。授業における私語および携帯電話の使用は禁止します。また講師講演中の遅刻入場や途中退席も原則として禁止します。

履修コード	142101・333001
科目名	日本経営史
担当者名	おおしま ひさゆき 大島 久幸

講義の到達目標(ねらい) 株主との利害調整、持株会社の機能、経営者の役割など現代企業が直面する様々な問題に対処するうえで、近代以降の企業経営の歴史から多くの示唆を得ることができよう。本講義では、近代日本において経済発展を担う主体として、また日本的な企業類型の主要なルーツとして中心的な地位を占めてきた財閥に着目して、それら財閥が、どのようなプロセスで誕生し、日本の経済発展とともにどのように成長していったのかという点を考察し、そこから日本経済の歴史的な起源や日本の経済発展を考えてみたい。

講義の内容／
授業スケジュール

- 【前期】1. 財閥の定義 2. 幕末維新の危機 3. 資本生社会論 4. 政商の誕生 5. 政商と華族資本 6. 政商からの脱皮 7. 運輸・通信システムの整備 8. 産業化の光と影 9. 家政改革と家憲 10. コンツェルンと持株会社 11. 専門経営者の登場(1) 12. 専門経営者の登場(2) 13. ~15. 前期のまとめ
- 【後期】1. 第一次大戦期における商社ブームと破綻 2. 三井物産の形成 3. 鈴木商店と金融恐慌 4. 都市化の進展と大衆生活の洋風化 5. 三大財閥の覇権 6. 恐慌とドル買い事件 7. 財閥の転向 8. 戦時体制と財閥 9. 財閥解体 10. 企業集団の形成 11. 高度成長期の日本経済 12. 高度成長期の専門経営者 13. ~15. 後期のまとめ

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

前期試験と定期試験で総合的に評価する。
武田晴人『財閥の時代』(新曜社)1996年
宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』(有斐閣)1999年。
老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史』(税務経理協会)2002年。

履修コード	139301
科目名	日本経済史
担当者名	わたなべ あらた 渡辺 新

講義の到達目標(ねらい)

経済学は理論・歴史・政策の3つの柱から成り立つが、この講義はその内の歴史(経済史)についてのものである。今年度は、日本において資本主義経済が成立して以来の経済の歴史、つまり日本資本主義発達史を学んでいくこととする。現在、私たちが住んでいる日本の資本主義経済はたかだか百数十年の歴史しかもっていない。しかし、その百数十年は人類が経験したことのない速いテンポで進み、大きく変貌している。この講義のねらいは日本の資本主義経済の歴史分析にあることはいうまでもないが、そのことによって現代日本の歴史的な位置を考えていくことにもう一つのねらいがある。

講義の内容/
授業スケジュール

前期・後期を通じてそれぞれの歴史段階に沿った形で日本経済の特質を解説していくが、今年度はとりわけ財閥の歴史を重視していく。財閥は近代日本資本主義において経済発展を担う主体であり、また日本的な企業類型の主要なルーツとして中心的な位置を占めてきた。その財閥が、政商として誕生してから時代とともにどのように変容していったかをみていくこととする。

1. 前近代の社会経済構造
2. 明治維新の社会経済構造
3. 日本の産業革命
4. 政商から財閥へ
5. 大正デモクラシーの社会経済構造
6. 商社ブームと破綻
7. 昭和恐慌と高橋財政
8. 財閥の転向
9. 十五年戦争下の日本経済
10. 戦時体制と財閥
11. 敗戦と戦後改革
12. 財閥の解体
13. 高度経済成長の歴史構造
14. 企業集団と財閥
15. まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

歴史は暗記するものではなく理解するものであることを絶えず念頭におくこと。
試験ないしはレポートによって評価する。
特に指定しない。
そのつど指示する。

履修コード	330801
科目名	日本経済史
担当者名	わたなべ あらた 渡辺 新

講義の到達目標(ねらい) 経済学は理論・歴史・政策の3つの柱から成り立つが、この講義はその内の歴史(経済史)についてのものである。今年度は、日本において資本主義経済が成立して以来の経済の歴史、つまり日本資本主義発達史を学んでいくこととする。現在、私たちが住んでいる日本の資本主義経済はたかだか百数十年の歴史しか持っていない。しかし、その百数十年は人類が経験したことのない速いテンポで進み、大きく変貌している。この講義のねらいは日本の資本主義経済の歴史分析にあることはいうまでもないが、そのことによって現代日本の歴史的な位置を考えていくことにもう一つのねらいがある。

講義の内容／授業スケジュール 前期・後期を通じてそれぞれの歴史段階に沿った形で日本経済の特質を解説していくが、今年度はとりわけ財閥の歴史を重視していく。財閥は近代日本資本主義において経済発展を担う主体であり、また、日本的な企業類型の主要なルーツとして中心的な位置を占めてきた。その財閥が、政商として誕生してから時代とともにどのようにして変容していったかをみていくこととする。

1. 前近代の社会経済構造
2. 明治維新の社会経済構造
3. 日本の産業革命
4. 政商から財閥へ
5. 大正デモクラシーの社会経済構造
6. 商社ブームと破綻
7. 昭和恐慌と高橋財政
8. 財閥の転向
9. 十五年戦争下の日本経済
10. 戦時体制と財閥
11. 敗戦と戦後改革
12. 財閥の解体
13. 高度経済成長の歴史構造
14. 企業集団と財閥
15. まとめ

履修上の留意点 歴史は暗記するものではなく理解するものであることを絶えず念頭におくこと。
成績評価の方法 試験ないしはレポートによって評価する。ただし、受講者数によっては平常点での評価をする場合がある。

教科書／テキスト 特に指定しない。
参 考 書 そのつど指示する。

履修コード	141401・332901
科目名	日本経済論
担当者名	はとり しげる 羽鳥 茂

講義の到達目標(ねらい) 多様な経済システム(日本の経済システムはそれらのうちの1つ)がどのようにして生まれ、また、それらはどのように進化していくのでしょうか。このことを考えてみたいと思います。

講義の内容／授業スケジュール 情報・組織・契約のミクロ経済学と、それらの理論的基礎を提供するゲーム理論、およびゲーム理論のフロンティアの1つである進化ゲーム理論の新しい展開をふまえて、講義のねらいの目標にチャレンジします。

前期では企業の内部システムを検討します。企業内コーディネーションの情報効率性比較、企業システムの生成と進化の可能性、雇用契約とインセンティブが主要なテーマです。

後期においては、企業間の競争と合併、コーポレート・ガバナンス、企業金融、政府と企業の関係がテーマになります。

成績評価の方法 後期授業終了後の筆記試験によって成績評価を行います。
教科書／テキスト 青木昌彦・奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』(東京大学出版会)、1996年、3200円
参 考 書 鶴光太郎『日本の経済システム改革』2006年、2600円
その他、講義の進み具合に応じて適時紹介します。

履修コード	144901
科目名	ビジネス英語
担当者名	あきば しげる 秋葉 滋

講義の到達目標(ねらい)	—国際ビジネスの現場で使っている英語力を身につける —国際ビジネスで使うレター、E-mailの書き方を身につける —将来国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイス
講義の内容／ 授業スケジュール	(a) 第1回 (1)オリエンテーション、(2)「国際ビジネスとは？」についての解説と経験談、(3)グローバルな視点で物事を見ること、英語の必要性について説明 (b) 第2回—第7回 (1)英文レター、E-mailの書き方入門と実践、(2)各自の英語による自己紹介 (c) 第8回—第12回 (1)米、ニューヨーク連邦準備銀行発行の「マンガ、The Story of Monetary Policy」を使って経済、金融の仕組み、中央銀行の政策等を学ぶ、(2)英文ニュース、社説を通じて国際ビジネスに使われている英語の習得、(3)各自の自己紹介 (d) 第13回 国際ビジネスに関わる経営者のプレゼンテーション (第1回) (e) 第14回、第15回 前期の復習 (英文レター、e-mailの書き方) (f) 第16回—第23回 (1)英文ニュース、社説を通じて国際ビジネスに使われている英語の習得、(2)テキスト「マンガ、The Story of Monetary Policy」解説 (g) 第24回 国際ビジネス関わる経営者のプレゼンテーション (第2回) (h) 第25回—第28回 国際ビジネスの実践と現場—解説と経験談 (i) 第29回—第30回 期末試験及び国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイスを行う テキスト及び次回使う資料、参考資料 (メディアが配信する経済ニュース、社説等) の予習 プロセス評価 (出席、宿題、小テスト、毎回の授業における積極的な発言回数等) 40% 結果評価 (学期末試験 (12月予定) の結果) 60%
履修上の留意点 成績評価の方法	The Story of Monetary Policy (Comics) by FRB of New York (先生の方で準備)
教科書／テキスト 参 考 書	未定

履修コード	143711・331011
科目名	ファイナンス理論
担当者名	えとう たかはる 江頭 隆治

講義の到達目標(ねらい)	(1) 金融システム、金融商品 (株式、債券、先物やオプションなどデリバティブ) についての基本的な知識を身につける。 (2) ファイナンスを理解するために必要最低限の確率と統計を学ぶ。 (3) 市場におけるファイナンスの機能を理解する。 (4) 自らの投資に役立つ知識を養う。 (5) 金融関係の仕事で将来生かせるファイナンスの基礎を学ぶ。 (6) MBAのファイナンスに耐えら得る基礎学力を身につける。
講義の内容／ 授業スケジュール	入門知識篇 (1-15) 金融と金融商品の基礎知識、投資入門、ファイナンスのための確率と統計の基礎、リスク、リターン、リスクプレミアム、投資とはどういうゲームか、株価とは何か 基礎理論篇 (16-30) 金融工学で金儲けできるか、分散投資の原理、「ベータ」投資理論、先物取引、オプション、行動ファイナンス入門 授業前に講義ノートをYeStudyにアップロードするので、それに目を通してください。 目ごろから、メディアに掲載される銀行・証券会社などの金融機関の広告などを見て、どんな金融商品があるか、その金融商品の内容を理解できるか、考えてください。
準 備 学 習 履修上の留意点	期末試験 (100%) 参考文献の一部を用いて授業を行います、特に購入する必要はありません。 藤沢数希「なぜ投資のプロはサルに負けるのか?」、ダイヤモンド社、1600円、ISBN4-478-60053-8 野口悠紀雄「金融工学、こんなに面白い」、文藝春秋、690円、ISBN4-16-660123-7 渡辺茂 「しっかりわかるファイナンス」、中央経済社、2400円、ISBN978-4-502-28500-4
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	

履修コード	143401
科目名	ベンチャー企業論
担当者名	ちよ 銀順

講義の到達目標(わらい)	本講義は、ベンチャー企業に関する知識の習得とベンチャースピリット（創造性があるアイデアとそれを推し進めていくチャレンジ精神）を涵養することをねらいとする。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義の内容・スケジュールを記せば、大略は以下のとおりである。 先ず、アントレプレナーとベンチャー企業に関するフレームワークを提示し、基本的知識の習得を求める。ケーススタディは、ベンチャー精神を感じ取るため、時代を先導するアントレプレナーに焦点を合わせる。すなわち、ビジネスを立ち上げた起業家に関する映像資料(VTR,DVD)を用いて、解説を行う。
履修上の留意点	前期：ベンチャー企業の歴史と現状、企業家と企業家精神(1～5回)、ビジネスモデルを創る方法、創業期のマーケティング、ベンチャー企業のマネジメント(6回～10回)、ケーススタディ(11回～15回) 後期：環境変化と今後の展開、会社を作る、会社法とその活用(16回～20回)、シリコンバレーモデルとアントレプレナー、資金調達、クラスター政策(21回～25回)、ケーススタディ(26回～30回) ・楽しく学ぶために、ルールとマナーを守りましょう。 【授業態度に問題がある場合（特に私語・携帯電話使用など）、学籍番号を控え、退室させる。(退室2回で単位不認定)】
成績評価の方法	・詳細は第1回目のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。 ・出席状況30% ・授業内レポート+夏休みレポート30% ・期末試験40%で評価する。
教科書/テキスト	特定の教科書は使用せず、必要に応じて板書、パワーポイント（各自ダウンロード）、映像学習の3つの講義形式とする。
参 考 書	トピックに応じて、適宜紹介する。
そ の 他	YeStudyを活用します。
関 連 リ ン ク	http://www.komazawa-u.ac.jp/

履修コード	329601
科目名	ベンチャー企業論
担当者名	ちよ 銀順

講義の到達目標(わらい)	本講義は、ベンチャー企業に関する知識の習得とベンチャースピリット（創造性があるアイデアとそれを推し進めていくチャレンジ精神）を涵養することをねらいとする。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義の内容・スケジュールを記せば、大略は以下のとおりである。 先ず、アントレプレナーとベンチャー企業に関するフレームワークを提示し、基本的知識の習得を求める。ケーススタディは、ベンチャー精神を感じ取るため、時代を先導するアントレプレナーに焦点を合わせる。すなわち、ビジネスを立ち上げた起業家に関する映像資料(VTR,DVD)を用いて、解説を行う。
履修上の留意点	前期：ベンチャー企業の歴史と現状、企業家と企業家精神(1～5回)、ビジネスモデルを創る方法、創業期のマーケティング、ベンチャー企業のマネジメント(6回～10回)、ケーススタディ(11回～15回) 後期：環境変化と今後の展開、会社を作る、会社法とその活用(16回～20回)、シリコンバレーモデルとアントレプレナー、資金調達、クラスター政策(21回～25回)、ケーススタディ(26回～30回) 日頃からベンチャー関連の情報に触れ、ベンチャー魂をかきたてることが望ましい。 出席状況、授業内レポート、夏休みレポート、期末試験等を総合的に評価する。
成績評価の方法	特定の教科書は使用せず、必要に応じて板書、PowerPoint(各自ダウンロード)、映像学習の3つの講義形式とする。
教科書/テキスト	トピックに応じて、適宜紹介する。
参 考 書	YeStudyを活用します。
そ の 他	
関 連 リ ン ク	http://www.komazawa-u.ac.jp/

履修コード	135601
科目名	簿記学
担当者名	岩瀬 昭子

講義の到達目標(わらい)	本講義は、初めて簿記を学ぶ学生を対象に、簿記の基本原則を解説する「簿記入門」の授業です。この講義では、日商簿記検定3級程度の知識の習得を目的としています。
講義の内容／ 授業スケジュール	[前期] ガイダンス、簿記の基礎、取引と勘定、仕訳と転記、現金、預金、小口現金、商品売買、売掛金と買掛金、貸し倒れ、手形、その他の債権・債務 [後期] 有形固定資産、資本金と引出金、営業費・税金、試算表、決算、精算表、帳簿決算、財務諸表の作成、帳簿と伝票
準備学習 履修上の留意点	前回の授業内容を復習しておいてください。 簿記は、手を動かして練習問題を多く解くことで力がつきます。授業中は、集中して説明を聞き、一緒に問題を解いてください。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書 その他	出席(30%)、前期末と後期末の試験(各30%)、受講態度・小テスト(10%)による総合評価。 大橋信定編著『簿記基礎講座(五訂版)』、創成社、1,575円(税込) ISBN978-4-7944-1404-5 必要に応じて指示します。 3回目以降の授業では、毎回電卓を持参すること。

履修コード	135101・135301
科目名	簿記学
担当者名	大野 満奈

講義の到達目標(わらい)	簿記は会計学の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部に学ぶ者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とする。取引の仕訳から財務諸表の作成まで帳簿記録の方法や計算の技術を学び、またその背景にある簿記・会計の基礎理論を勉強する。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義の内容／授業スケジュール 前期(15回) 1. 簿記・会計の意義と目的, 2. 企業の財政状態-貸借対照表, 3. 企業の経営成績-損益計算書, 4. 取引と仕訳, 5. 勘定記入と元帳の締め切り, 6. 帳簿・伝票・証ひょう, 7. 試算表の作成(1), 8. 精算表の作成(2), 9. 現金・預金, 10. 小口現金, 11. 商品売買の処理と仕入帳・売上帳, 12. その他の債権債務, 13.~14. 有価証券, 15. 前期試験 後期(15回) 1. 商品有高長, 2. 売掛金・買掛金と人名勘定, 3. 有形固定資産の取得と売却, 4. 資本金と引出金, 5. 試算表の作成(2), 6. 売上原価の計算と決算仕訳, 7. 貸し倒れの見積り, 8. 減価償却, 9. 精算表の作成(2), 10. 手形取引, 11. 費用・収益の見越しと繰り延べ, 12. 決算整理, 13. 精算表の作成(3), 14. 総合復習, 15. 後期試験
準備学習 履修上の留意点	授業時間内に解ききれなかった問題に関しては、次回の授業までに必ず解いておくこと。 簿記は自分で練習問題を解き、反復的に記帳練習を行うことにより初めて修得できるものであるから、原則として毎回出席して要点を理解し、自宅では毎回の復習に心掛けること。また、疑問点は、積極的に質問することによって早期に解決しておくこと。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	試験の点数・出席回数・提出物の三点をもって総合的に評価する。 新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記 中央経済社 新検定 簿記講義 3級 商業簿記 中央経済社

履修コード	135201・135811
科目名	簿記学
担当者名	さるやま よしひろ 猿山 義広

経営

講義の到達目標(ねらい)	この講義の目的は、会計実務の基礎となる簿記の手続きについて、最も単純な企業形態である個人企業の取引を例に取り上げて理解させることにある。内容のレベルは、日商簿記検定3級商業簿記のレベルである。簿記の知識は、すべての社会人にとって有用であり、とくに将来、企業経営者を目指す人にとっては必須の知識と言ってよい。この講義を通じて、企業の財政状態や経営成績を正しく把握できるための基礎知識を習得してほしい。
講義の内容／授業スケジュール	第1回 簿記の基本概念、第2回 簿記一巡の手続、第3回 試算表と精算表、第4回 第1回小テスト、第5回 現金と預金1、第6回 現金と預金2、第7回 商品売買1、第8回 第2回小テスト、第9回 商品売買2、第10回 債権・債務1、第11回 債権・債務2、第12回 第3回小テスト、第13回 手形、第14回 貸倒損失と貸倒引当金、第15回 残高試算表、第16回 第4回小テスト、第17回 有価証券、第18回 固定資産、第19回 費用・収益の見越しと繰延べ、第20回 第5回小テスト、第21回 決算1、第22回 決算2、第23回 純資産と税金、第24回 帳簿と伝票1、第25回 帳簿と伝票2、第26回 第6回小テスト、第27回 特殊商品売買の基礎、第28回 株式会社会計の基礎、第29回 本支店会計の基礎、第30回 まとめ
履修上の留意点	簿記学では、会計処理や記帳法の技術を習得することが重要なので、授業においては可能なかぎり計算問題を解くようにしたい。講義の重点は計算問題の解法に置かれるので、かならず電卓を持参すること。
成績評価の方法	年間で6回行う授業中の小テストを20%、本試験を80%のウエートで評価を行う。本試験は電卓以外の参照は一切不可なので、注意してほしい。
教科書／テキスト	毎回プリントを配布するので、とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記3級商業簿記の過去の検定試験において出題された問題を参考にしてほしい。プリントは毎回配布するので、きちんと保存するようにしてほしい。
参考文献	個々の項目の内容については、市販の日商簿記3級商業簿記検定試験用のテキストが参考になる。また、検定試験問題の詳しい解法については、大手専門学校が編集・発行しているテキストに説明されているので、そちらを参照すること。
その他の他	少しでも疑問な点があれば、授業中でも授業終了後でもかまわないので、積極的に質問すること。プリントは大切に保存してほしいが、もし紛失してしまったときは遠慮なく申し出ること。最後まであきらめることなく、粘り強く勉強してほしい。

履修コード	135701
科目名	簿記学
担当者名	たけこし ともみ 竹腰 友美

講義の到達目標(ねらい)

この講義は、簿記をはじめて学習する学生を対象としています。簿記は、「帳簿記入のルール」ともいわれているように、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・消滅などについて記帳し、企業の経営成績と財政状態を明らかにするための技術です。簿記を学ぶことは、会社の数字を読めるようになります。また、今後、会計系の専門科目を勉強するときの基礎となる大切な科目であり、資格試験等に役立つものです。講義では、できるだけ丁寧にわかりやすく説明していきますので、一緒に頑張ってください。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容は次のようになります。

- 1 簿記の仕組み
- 2~4 簿記総論・簿記の要素 取引と勘定
- 5~6 現金・預金
- 7~8 商品売買取引の記帳、掛け取引の記帳
- 9~12 手形取引の記帳、固定資産取引の記帳
- 13~15 貸倒引当金、有価証券
- 16~20 経過勘定、資本の記帳、その他の取引の記帳
- 21~23 試算表の作成、伝票会計
- 24~25 決算
- 26 総まとめ
- 27~30 復習・問題、試験の質疑応答

準備学習
履修上の留意点

前回の復習

簿記の学習は、積み重ねが大切です。講義には、毎回出席し、積極的な姿勢で受講してくれることを強く望みます。必ず電卓を用意してください。講義中の私語は厳禁です。

成績評価の方法
教科書／テキスト

原則として、学年末の試験によって評価します。数回の小テストを行う予定です。

学校法人 村田学園 『村田の簿記検定合格シリーズ 日商3級(商業簿記)』

価格 2,445円(税込)

参考書

随時、講義中に紹介します。

履修コード	135401・135801
科目名	簿記学
担当者名	みずの けいこ 水野 恵子

講義の到達目標(ねらい)

初めて簿記を学ぶ学生を対象に、簿記の基本原則を解説する「簿記入門」の授業です。この講義では、簿記検定3級程度の知識の習得を目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 簿記を学ぶにあたって | 1. 現金・預金 |
| 2. 簿記上の取引と勘定 | 2. 仕入・売上 |
| 3. 取引の仕訳 | 3. 手形 |
| 4. 勘定への転記 | 4. 債権・債務 |
| 5. 試算表の作成 | 5. 有価証券 |
| 6. 精算表の作成 | 6. 固定資産 |
| 7. 決算手続 | 7. 資本金 |
| | 8. 貸倒償却費の計算 |
| | 9. 減価償却費の計算 |
| | 10. 収益と費用の見越・繰延 |
| | 11. 8けた精算表の作成 |

履修上の留意点

簿記は、練習問題を多く解くことで力がつきます。そのため、授業の復習は不可欠です。検定合格には、一步一步の努力が重要です。授業中の私語は厳禁。

成績評価の方法
教科書／テキスト

定期試験、講義の際の小テストの点数を基本に評価します。出席状況も考慮します。

『日商簿記検定テキスト基本問題集三丁版3級』, 実教出版 650円 ISBN4-407-04623-6

参考書の
その他

授業の中で指示します。

必要に応じてレジュメを配布します。

履修コード	135501
科目名	簿記学
担当者名	やじま ただし 矢島 正

経営

講義の到達目標(ねらい)

この講義は簿記をはじめて学習する学生を対象とし、通年で日商簿記検定3級程度の知識を身につけることを目的としています。

簿記とは日常の経営活動を帳簿に記録、計算、整理して企業の財政状態及び経営成績を的確に把握する技術です。この技術によって、企業の経営管理及び経営計画が可能となります。よって、経営者及び利害関係者にとって、簿記は必要不可欠な技術であると考えられます。問題意識をもって積極的な姿勢で受講することを強く望みます。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1回 簿記とは(1)
- 第2回 簿記とは(2)
- 第3回 現金預金(1)
- 第4回 現金預金(2)
- 第5回 現金預金(3)
- 第6回 商品売買取引(1)
- 第7回 商品売買取引(2)
- 第8回 商品売買取引(3)
- 第9回 手形取引(1)
- 第10回 手形取引(2)
- 第11回 手形取引(3)
- 第12回 貸倒引当金
- 第13回 有価証券
- 第14回 固定資産
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 その他の債券・債務(1)
- 第17回 その他の債券・債務(2)
- 第18回 引出金と税金
- 第19回 伝票(1)
- 第20回 伝票(2)
- 第21回 訂正仕訳
- 第22回 決算[締切り]
- 第23回 決算[試算表]
- 第24回 決算[経過勘定](1)
- 第25回 決算[経過勘定](2)
- 第26回 決算[経過勘定](3)
- 第27回 精算表(1)
- 第28回 精算表(2)
- 第29回 試算表
- 第30回 後期のまとめ、期末試験について

履修上の留意点
成績評価の方法

必ず電卓を用意してきてください。
出席・宿題(30%)、期末テスト(70%)によって評価しますが、そのほかに、在学中(履修年度まで)に日商簿記検定試験3級合格、講義の取り組み等においても期末の評価に加点します。

教科書/テキスト

田邊 正、矢島 正「ズバッと解決! 日商簿記検定3級商業簿記テキスト—これで理解ばっちり—」創成社

参 考 書

柴谷恭次郎、新井清光、岡本清監修『平成23年度版新検定簿記講義3級 商業簿記』、『平成23年度版簿記ワークブック3級』中央経済社

そ の 他

是非、日商簿記検定3級を目指してみてください。

履修コード	140401
科目名	保険経営論
担当者名	岡田 太

講義の到達目標(ねらい)

保険は、個人や企業などをリスクから守る有効な手段です。リスクマネジメント論が主に保険を利用する視点から展開されるのに対して、本講義は保険を提供する保険企業の立場から経営の基本を学びます。リスクマネジメントをビジネスとして営む保険企業の特徴を理解し、経営をめぐる諸問題を考察することを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

(1～3) 保険概論 (4～6) 保険市場 (7～9) 保険産業 (10～11) 保険経営総論 (12～17) 保険マーケティング(各種保険商品の企画・開発、販売、保全、保険流通、CRM) (18～19) 再保険 (20～21) 資産運用 (22～23) 保険金請求処理 (23～24) 保険数理 (25～26) 保険会社のリスク管理とガバナンス (27) 保険会社のCSR (28～29) 国際経営 (30) まとめ

準備学習
履修上の留意点

テキストを熟読してください。また、章末の練習問題に取り組むと理解が深まります。

リスクマネジメント論とあわせて履修すると学習効果が高まります。新聞・雑誌などで保険の記事に注意してください。授業でも適宜最近の話題を解説します。また、授業で使用するレジュメについて、各自ダウンロードしてください。

成績評価の方法

学期末試験(60%)と授業参加(出席、レポートなど40%)を総合して評価します。詳細は開講時に説明します。

教科書／テキスト

下和田・米山・金・柳瀬・諏澤・岡田著『はじめて学ぶリスクと保険』(第3版)有斐閣

ISBN9784641183858、2010年

参考書
その他の

教科書掲載の参考文献のほか、必要に応じて授業中に指示します。

前期と後期にそれぞれグループワークを行っています。昨年度は、前期に自殺と生命保険、後期に保険商品の開発について、グループ毎に取組み、発表してもらいました。グループワークに参加できる学生諸氏の受講を望みます。

履修コード	332601
科目名	保険経営論
担当者名	岡田 太

講義の到達目標(ねらい)

保険は、個人や企業などをリスクから守る有効な手段です。リスクマネジメント論が主に保険を利用する視点から展開されるのに対して、本講義は保険を提供する保険企業の立場から経営の基本を学びます。リスクマネジメントをビジネスとして営む保険企業の特徴を理解し、経営をめぐる諸問題を考察することを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

(1～3) 保険概論 (4～6) 保険市場 (7～9) 保険産業 (10～11) 保険経営総論 (12～17) 保険マーケティング(各種保険商品の企画・開発、販売、保全、保険流通、CRM) (18～19) 再保険 (20～21) 資産運用 (22～23) 保険金請求処理 (23～24) 保険数理 (25～26) 保険会社のリスク管理とガバナンス (27) 保険会社のCSR (28～29) 国際経営 (30) まとめ

準備学習
履修上の留意点

テキストを熟読してください。また、章末の練習問題に取り組むと理解が深まります。

リスクマネジメント論とあわせて履修すると学習効果が高まります。新聞・雑誌などで保険の記事に注意してください。授業でも適宜最近の話題を解説します。また、授業で使用するレジュメについて、各自ダウンロードしてください。

成績評価の方法

学期末試験(60%)と授業参加(出席、レポートなど40%)を総合して評価します。詳細は開講時に説明します。

教科書／テキスト

下和田・米山・金・柳瀬・諏澤・岡田著『はじめて学ぶリスクと保険』(改訂版)有斐閣

ISBN9784641183858、2010年

参考書
その他の

教科書掲載の参考文献のほか、必要に応じて授業中に指示します。

初回の授業に出席できない場合、メール(okada66@komazawa-u.ac.jp)で連絡してください。

履修コード	143241
科目名	マーケティング・コミュニケーション論
担当者名	なかの かわり 中野 香織

講義の到達目標(ねらい) マーケティング・コミュニケーション (MC) とは、企業が自社の製品やサービスについて、消費者に認知させ、購買を促進するために情報を発信することである。その主な手段は広告やセールス・プロモーション (SP) である。しかし近年は、消費者のメディア接触形態の変化やマス広告の効果減少などを背景に、MCの領域が拡大してきている。そこで、日常生活で接するものを全てコミュニケーションのためのメディアと捉える統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC) が、今後重要となる。

講義の内容／授業スケジュール 本講義ではIMCを包括的に理解してもらうことを目的とし、理論的な説明に加えて、事例紹介やゲスト (実務担当者) による講義等、実践的な説明も行う。講義は3段階に分けて行う。初めにマーケティング・コミュニケーション (MC) の全体構造を説明する。次にMCを構成する具体的な戦略を説明し、最後に各MC戦略がどのように統合されるのかをIMCを用いて説明する。

成績評価の方法 平常点30% (ワークなど)、中間試験30%、学期末試験40%で評価する。

教科書／テキスト 教科書は使わず、レジュメを配布する。

参考文献 書 亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』2009年 (日本経済新聞出版社) 2,310円
石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年 (八千代出版) 2,835円
嶋村和恵監修『新しい広告』2006年 (電通) 2,100円
岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論新版』2008年 (有斐閣) 2,205円

履修コード	141151
科目名	マーケティング・サイエンスA
担当者名	わかやま たいき 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的は、マーケティング活動諸問題への科学的アプローチについて、その考え方と方法論を学ぶことにある。そのため、マーケティングサイエンスAでは、マーケティング諸理論及びそこで取り扱う様々なデータや統計解析手法について学び、市場と消費者に関する理論・モデルおよびマーケティングの戦略的側面に関する科学的アプローチについて学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール (1) 科学的アプローチによるマーケティング、
(2) 理論・モデルを通じた市場理解の方法、
(3) ~ (4) マーケティングデータと測定法・分析法、
(5) ~ (6) 市場の構造分析、
(7) ~ (8) 市場細分化、
(9) ~ (12) 消費者行動分析モデル、
(13) ~ (14) マーケティング戦略 (STP) に関する科学的アプローチ、
(15) まとめ

準備学習 配布する資料をよく読んで授業に備えること。

履修上の留意点 マーケティング関連科目を履修していること。また、統計学の基礎を身につけていることが望ましい。今年度より小テストを頻繁に行う方法を取り入れて知識の習得を目指したいと考えている。

成績評価の方法 授業中に行う数回の小テスト (50%) と出席状況 (10%)、期末レポート (20%)、期末試験 (20%) により総合的に評価する。遅刻は出席にカウントしないことがある。小テストを受けたことがないものは期末レポートを受け付けない。

教科書／テキスト 必要に応じて配布あるいは、指示する。

参考文献 書 必要に応じて配布あるいは、指示する。

その他 他の学生への迷惑行為は厳禁であり、試験・レポートや出席に関する不正行為も厳禁である。

履修コード	141161
科目名	マーケティング・サイエンスB
担当者名	わかやま だいき 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的は、マーケティング活動諸問題への科学的アプローチについて、その考え方と方法論を習得することである。そのため、マーケティング・サイエンスBでは、製品・サービスのデザインや価格、流通、プロモーションといったマーケティングの戦術的側面を議論する上で用いられるデータ分析手法を学び、マネジリアルな観点から議論するための素養を身につける。

- 講義の内容／授業スケジュール
- (1)～(2) マーケティング戦術に対する科学的アプローチ、
 - (3)～(5) マーケット(市場、消費者)の異質性を論じるための科学的な方法、
 - (6)～(8) 市場の構造と購買要因間の関連性を論じるための科学的な方法、
 - (9)～(11) マーケティング活動の効果を分析し予測するための科学的な方法(製品・サービスのデザイン、価格政策と反応、プロモーションと広告に関するモデルのまとめ)、
 - (12)～(14) マーケティングに関する実験的方法と反応・効果の測定及びマーケティング活動でよく用いられる多変量解析、
 - (15) まとめ

準備学習
履修上の留意点 配布資料をよく読んで授業に備えること。
マーケティング・サイエンスAを履修済であることが望ましい。また、マーケティング関連科目、統計学関連科目、心理学関連科目等を履修していることが望ましい。PC教場で統計ソフトSPSSを使用するので毎回の出席を前提に授業を進める。休まずに出席すれば理解できるようになる。

成績評価の方法 5～6回の小課題提出状況や課題に取り組む姿勢(50%)と出席、期末レポート課題(20%)と期末試験(30%)により総合的に評価する。

教科書／テキスト
参 考 書 必要に応じて配布あるいは、授業中に指示する。
必要に応じて配布あるいは、授業中に指示する。

履修コード	143251
科目名	マーケティング・チャネル論
担当者名	あおき しげき 青木 茂樹

講義の到達目標(ねらい) 我々が手にしている商品、とくにブランドとして認知されている商品は、ある一企業の戦略目的に基づき、他の流通パートナーをコントロールしながら成果を挙げていくために形成されたマーケティング・チャネルを経由してきている。

従来はメーカーがチャネル・リーダーとなっており、これらが形成され、卸売業、小売業がこれによりコントロールされてきた。近年は従来、被支配的な立場とされてきた卸売業や小売業が、主体的にチャネル・リーダーとなっており、自社のブランドを強めていく例も増えてきた。また新しいツールとしてのインターネットにおいて、チャネル構築を試みる中小企業や農林水産業者も出てきている。

本稿では、これまでの中心であったメーカーの国内マーケティング・チャネルまでを考察していく。将来、マーケティングや営業を志向する学生にとっては必須の科目となろう。

- 講義の内容／授業スケジュール
- 1)～4) メーカーによる垂直的マーケティング・チャネル
 - 5)～8) マーケティング・チャネル構築・管理の諸理論
 - 9)～12) 家電、自動車、化粧品におけるマーケティング・チャネル管理
 - 13) ゲスト・スピーカー
 - 14)～15) プライベート・ブランドに見られるマーケティング・チャネル戦略
 - 16)～18) 国際マーケティングにおけるマーケティング・チャネル戦略
 - 19) ゲスト・スピーカー
 - 20)～21) 農林水産物におけるマーケティング戦略とチャネル管理
 - 22)～26) インターネットにおけるマーケティング・チャネル管理
 - 27) ゲスト・スピーカー
 - 28)～30) 生産財マーケティングにおけるマーケティング・チャネル管理

履修上の留意点 流通システム論を既習していることが望ましい。講義形式ではあるが、学生・教員相互に名札を付けるなどして、学生の主体的な発言と双方向のコミュニケーションを促す。

成績評価の方法 毎回の小テストと、個人レポート(またはテスト)の評価をベースとする。場合によっては、グループレポートおよびその発表を評価に加えることもある。また、講義内の自主的発言1回に対して1点以上のボーナス点が与えられる。

教科書／テキスト
参 考 書 小林哲・南知恵子(2004)『流通・営業戦略』有斐閣アルマ。
日経MJ編(2010)『日経MJトレンド情報 マーケティング・ハンドブック、〈2011年版〉』日本経済新聞社。
Erin Anderson, Louis W. Stern, Adel I. El-Ansary, Anne T. Coughlan(2001) Marketing Channels, The Prentice Hall, 978-0130127723。

履修コード	141131
科目名	マーケティング・リサーチA
担当者名	<small>たかはた ゆたか</small> 高畑 泰

講義の到達目標(ねらい)	マーケティング・リサーチの役割及び調査の基本について理解した上で、実際に調査の設計・アンケート表の作成・データの収集・分析・報告を行うことでマーケティング・リサーチを体感的に理解することを目標とする。
講義の内容／授業スケジュール	第1回イントロダクション、第2回マーケティング・リサーチとは、第3回～第6回アンケート調査の方法、第7回エクセルでのデータ・ハンドリング及びSPSSの使い方、第8回～第13回演習(単純集計、クロス集計、検定、相関分析など)、第14回～第15回報告会
準備学習	マーケティング全般についての実社会での動きにアンテナを張ること。
履修上の留意点	演習なので欠席はできない。また、後期のマーケティング・リサーチBを連続して履修することを条件とする。履修者数制限がありえるので、希望者は第1回目に必ず出席のこと。
成績評価の方法	課題への取り組み、レポート、発表により総合的に評価。
教科書／テキスト	講義内にて指示する。

履修コード	141141
科目名	マーケティング・リサーチB
担当者名	<small>たかはた ゆたか</small> 高畑 泰

講義の到達目標(ねらい)	マーケティング・リサーチの役割及び調査の基本について理解した上で、実際に調査の設計・アンケート表の作成・データの収集・分析・報告を行うことでマーケティング・リサーチを体感的に理解することを目標とする。
講義の内容／授業スケジュール	第1回マーケティング・リサーチAの復習、第2回～第13回演習(回帰分析、分散分析、因子分析、クラスター分析など)、第14回～第15回報告会
準備学習	マーケティング全般についての実社会での動きにアンテナを張ること。
履修上の留意点	前期のマーケティング・リサーチAを履修を条件とする。演習なので欠席はできない。
成績評価の方法	課題への取り組み、レポート、発表により総合的に評価。
教科書／テキスト	講義内にて指示する。

履修コード	143281
科目名	マーケティング史
担当者名	石川 <small>いしかわ かずお</small> 和男

講義の到達目標(ねらい)

マーケティングという学問が誕生してからはや1世紀以上が経過した。経済学や法学など、他の社会科学分野の学問に比較すると、その歴史の長さは比べようもなく短いといわなければならない。しかし、マーケティングという「市場対応」に関する方法や技術が、20世紀の社会を変化させてきたこと、そして21世紀の社会を変化させる1つの基軸となることは間違いないであろう。そこで、本講義では、いかにマーケティングが市場対応をしてきたかという歴史を振り返ることで、これから将来にわたり、いかに市場対応することが必要か、またそれを実践できる元となるものを本講義では身につけてもらいたい。講義ではさまざまな分野の産業におけるマーケティングの展開について触れる。それは経営史でも商業史でもなく、メーカーや流通業者などの主体がいかに市場に対応してきたかという足跡を辿ることになる。受講生には、ただ講義を聴くという姿勢ではなく、積極的に企業などの市場対応をしてきた歴史について関心を持つことを期待したい。

講義の内容／
授業スケジュール

1.開講にあたって、2.マーケティング史と経営史、商業史、経済史との違い、3.戦前期の先駆的マーケティング(1)－戦前期のマーケティングの形成、4.戦前期の先駆的マーケティング(2)－森永製菓、5.戦前期の先駆的マーケティング(3)－化粧品産業の発展と市場構造、6.戦前期の先駆的マーケティング(4)－資生堂、7.戦前期の先駆的マーケティング(5)－花王、8.戦後の経済発展とマーケティング－大衆消費社会の形成とマーケティング、9.問屋制度とマーケティング(1)－伝統的問屋制度と医薬品流通、10.問屋制度とマーケティング(2)－大正製菓、11.マーケティング企業の普遍化(1)－松下電器産業、12.マーケティング企業の普遍化(2)－トヨタ自動車、13.マーケティング企業の普遍化(3)－トヨタ自動車、14.小売業のマーケティング展開(1)－小売業態変化、15.小売業のマーケティング展開(2)－百貨店、16.小売業のマーケティング展開(3)－スーパーマーケット、17.小売業のマーケティング展開(4)－その他の業態、18.卸売業のマーケティング展開(1)、19.卸売業のマーケティング展開(2)－総合商社の発展、20.卸売業のマーケティング展開(3)－食品専門卸売の発展、21.グローバル化の進展とマーケティング(1)－日本企業のグローバル化、22.グローバル化の進展とマーケティング(2)－ホンダ、23.グローバル化の進展とマーケティング(3)－ソニー、24.展開期のマーケティング－マーケティングの刷新、25.マーケティング・コミュニケーションの進展、26.サービス・マーケティングの進展(1)、27.サービス・マーケティングの進展(2)－外食産業の発展、28.サービス・マーケティングの進展(3)－東京ディズニーリゾート、29.非営利組織のマーケティング展開、30.これまでの講義のまとめ

(なお、講義の順序については入れ替わる場合がある)

履修上の留意点

1. 携帯電話の使用厳禁(使用を発見した場合は出席点を0点とする)
2. 遅刻・早退・中抜け厳禁
3. 私語厳禁
4. 帽子着用、食厳禁
5. 公欠の取り扱い(運動部の公式試合、教育実習などの場合は証明書を提出のこと)
6. 就職活動におけるセミナー、説明会への出席の場合は出席点には加算しない
その他、開講時の1時間目に細かく指示。
したがって、第1回目の授業時から出席の必要あり。

成績評価の方法

1. 出席点30点
2. レポート30点
3. 期末試験または期末レポート40点

教科書／テキスト

特に指定しない

参 考 書

小原博(1994)『日本マーケティング史』中央経済社
日本経済新聞社編(1993)『流通現代史』日本経済新聞社
尾崎・神保編(2000)『マーケティングへの歴史的視角』同文館

そ の 他

第1回目の授業時に、重要なことを話しますので、必ず第1回目から出席すること

履修コード	143201・334401
科目名	マーケティング論
担当者名	兼村 栄哲

経営

講義の到達目標(ねらい)

社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、①主体的懸隔、②量と組み合わせに関する懸隔、③情報の懸隔、④空間的懸隔、⑤時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換(の連鎖)を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品を消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング(「流通」とほぼ同義)と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング(いわゆる「マーケティング」)に大別される。

マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。

本講義のねらいは、各履修者が、マーケティング論における基本的な概念ないし理論などを正確に理解することにある。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1～4回：マーケティングの二義性
 - 第5回：流通機能の意義
 - 第6回：流通フロー（マーケティング・フロー）
 - 第7～15回：流通機能の領域
 - 第16回：流通機構の意義
 - 第17～18回：流通機関の意義と分類
 - 第19～22回：小売業者の分類
 - 第23回：マーケティング・コンセプト
 - 第24回：企業におけるマーケティングの役割
 - 第25～26回：マーケティング管理
 - 第27回：製品政策
 - 第28回：価格政策
 - 第29回：プロモーション政策
 - 第30回：チャネル政策
- 事前に配布された印刷物などに目を通しておくこと。

準備学習
履修上の留意点

1. 講義中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該講義時間内にしか配布しない。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回講義までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。
2. 携帯電話や私語など、講義の妨げになるような行為は絶対にしないこと。
3. 進捗状況が芳しくない場合には、補講期間中に補講をおこなう。履修登録する際には、この点を踏まえて登録すること。

成績評価の方法

テスト-90点
出席状況および授業中の態度-10点

教科書/
テキスト
参考書

- なし(配布する印刷物に基づいて、授業を進めていく)。
兼村栄哲他4名(著)『現代流通論』八千代出版、1999年、3,045円。
(ISBN: 4-8429-1093-3)
小川孔輔(著)『マーケティング入門』日本経済新聞出版社、2009年、3,990円。
(ISBN: 978-4-532-13369-6)
宮澤永光(監修)『基本流通用語辞典』〔改訂版〕(白桃書房)2007年、2,625円。
(ISBN: 978-4-561-75169-4)
宮澤永光・亀井昭宏(監修)『マーケティング辞典』〔改訂版〕(同文館)2003年、2,940円。(ISBN: 4-495-63492-5)
その他については、適宜紹介する。

履修コード	141111
科目名	マネジメント・サイエンスA
担当者名	小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、定量的に分析する点に特徴があります。マネジメント・サイエンスの考え方や手法は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へ応用の範囲を広げつつあります。マネジメント・サイエンスAでは、生産・流通に関連した分野とマーケティングに関連した分野で用いられている手法を取り上げ、問題の捉え方と分析方法について学びます(注意:授業で取り上げる手法は他の分野へも応用できるものです)。
講義の内容/ 授業スケジュール	第1回:マネジメント・サイエンスについて 《生産・流通に関連して》第2~4回:線形計画法(定式化、図による解法、感度分析、生産計画などへの応用)、第5~6回:在庫管理(経済的発注量、発注点方式、定期発注方式) 《マーケティングに関連して》第7~8回:ブランド選択モデル(購買行動プロセス、ロジックモデル、マーケティング活動の効果分析への応用)、第9~10回:コンジョイント分析(バリューマーケティング、コンジョイント測定法、直交表、製品デザインへの応用)、第11~12回:階層化意思決定法(階層モデル、一対比較、ウエイトの計算、代替案選択への応用) 第13~15回:Excelを用いた分析(線形計画法とコンジョイント分析)
準備学習	予習は特に必要としません。板書き中心で授業を進めますので、ノートをしっかり取り、ノートとプリントを次回授業の前に読み直すという復習を実行して下さい。
履修上の留意点	理解度確認のため、単元ごとに宿題を出します。授業で取り上げたいいくつかの分析手法についてはパソコンを使って実際に計算してみます。経営数学A・B、確率・統計入門A・Bを先または同時に履修しておくことを勧めます。
成績評価の方法	定期試験の結果を主とし(基本的に10割)、それに提出された宿題の点を加算して評価します。出席は参考とします。
教科書/テキスト 参考書 その他 関連リンク	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。 必要に応じて示します。 特にありません。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	141121
科目名	マネジメント・サイエンスB
担当者名	小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、定量的に分析する点に特徴があります。マネジメント・サイエンスの考え方や手法は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へ応用の範囲を広げつつあります。マネジメント・サイエンスBでは、経営効率の分析に関連した分野、金融工学に関連した分野、システムの設計に関連した分野で用いられている手法を取り上げ、問題の捉え方と分析方法について学びます(注意:授業で取り上げる手法は他の分野へも応用できるものです)。
講義の内容/ 授業スケジュール	《経営効率の分析に関連して》第1~2回:データ包絡分析法(CCRモデル、効率的フロンティア、経営効率性比較への応用)、第3~4回:キャッシュフローと現在価値(現在価値、割引キャッシュフロー、内部収益率、投資案比較への応用)、第5~7回:情報の期待価値(情報の貨幣的価値、完全情報とサンプル情報の期待価値、調査の実施可否への応用) 《金融工学に関連して》第8~11回:ポートフォリオ選択(リターンとリスク、平均・分散モデル、効用関数とリスク、株式ポートフォリオ構成への応用) 《システムの設計に関連して》第12~13回:待ち行列理論(待ち行列モデル、リトルの式、M/M/Sモデル、コールセンター人員配置問題などへの応用) 第14~15回:Excelを用いた分析(データ包絡分析法とポートフォリオ選択)
準備学習	予習は特に必要としません。板書き中心で授業を進めますので、ノートをしっかり取り、ノートとプリントを次回授業の前に読み直すという復習を実行して下さい。
履修上の留意点	理解度確認のため、単元ごとに宿題を出します。授業で取り上げたいいくつかの分析手法についてはパソコンを使って実際に計算してみます。経営数学A・B、確率・統計入門A・Bを先または同時に履修しておくことを勧めます。
成績評価の方法	定期試験の結果を主とし(基本的に10割)、それに提出された宿題の点を加算して評価します。出席は参考とします。
教科書/テキスト 参考書 その他 関連リンク	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。 必要に応じて示します。 特にありません。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	307802
科目名	民法
担当者名	織田 ^{みだ} 晃子 ^{てるこ}

講義の到達目標(ねらい) 民法総則、物権が講義の対象です。具体的な事件、従って判例をなるべく使って基礎的な力をつける。

講義の内容／
授業スケジュール (1～4) 権利の主体、特に自然人について権利能力、意思能力、行為能力、不在者、失踪宣告 (5) 権利の客体 (6～9) 権利の変動として法律行為、意思表示、代理、無効及び取消、時効等 (10～12) 物権変動 (13～15) 抵当権 (16～20) 譲渡担保 (21～22) 仮登記担保 (23～25) 所有権留保 (26～30) 買戻し・再売買の予約

履修上の留意点 六法は必ず持参すること

成績評価の方法 期末試験の成績による

教科書／テキスト 『民法第三版①総則・物権法』(勁草書房)、ポケット六法(有斐閣)

その他 プリント配布

履修コード	127802
科目名	民法Ⅰ(総則・物権法)
担当者名	熊谷 ^{くまがい} 芝青 ^{しせい}

講義の到達目標(ねらい) 我々の日常生活は民法に支配されている。したがって、この社会で活動するには民法についてひとつとりの知識がなければならない。市民の社会生活には財貨の生産、交換、消費、配分などを目的とする経済生活の面(これを規律する法が財産法)と種族保存を目的とする家族生活の面(これを規律する法が家族法)とがある。この財産法の領域の法が物権法と債権法である。これらの通則として総則がおかれている。本講義では民法第一編総則と第二編物権法について、基本となる知識を持つようにしたい。その結果、資格試験等の基礎力が養成されることを願っている。

講義の内容／
授業スケジュール 前期(民法総則)
①民法とは何か、民法の歴史 ②民法の基本原則 ③権利の主体(自然人) ④法人(社団法人、財団法人) ⑤権利の客体(物とは) ⑥法律行為(意思の欠缺、瑕疵ある意思表示)
⑦無効と取消 ⑧条件および期限・期間 ⑨時効(取得時効、消滅時効)
後期(物権法)
①物権の意義、種類 ②物権の効力 ③物権の変動 ④占有権 ⑤所有権 ⑥用益物権
⑦担保物権(法定担保物権) ⑧約定担保物権 ⑨非典型担保(譲渡担保、仮登記担保)
指定教科書の該当頁を予習しておくことが望ましいが、必要ではない。

準備学習
履修上の留意点 法学の修得で大切なことは、繰り返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の実力上昇につながると信じている。
当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。
また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。

成績評価の方法 学年末の定期試験により評価する。

教科書／テキスト 我妻栄・有泉亨・川井健『民法』第三版①総則・物権(勁草書房)2200円

参考書 尾崎哲夫『はじめての民法総則』『はじめての物権法』『はじめての担保物権』(自由国民社)

履修コード	143801
科目名	民法Ⅱ（債権法）
担当者名	上井 長久 <small>うえい ながひさ</small>

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、他人に対して、或る物を交付させること、または、或ることを為すことを要求する権利、すなわち債権についての実体的権利関係を総合的に考察するが、それを通して、債権をめぐる問題に対して精通するとともに、柔軟に解決できるように導くことを目標とする。そのように人が人に対して或る事柄を要求することを正当と認め、その請求の実現が当事者間ではかることが出来ない場合に、当事者の一方の訴えに基づき他方の責任を追求するために裁判所が力を貸す関係が債権関係である。そのような人と人の関係は、封建的な身分関係から生じるのではなく、周知のように近現代では多くは契約関係から生じる。その他に、契約関係がなくとも相互扶助、公平、損害補填等の要請に基づく事務管理、不当利得、不法行為などからも債権関係が生じる。

講義の内容／
授業スケジュール

債権法は、その全てについて言えることではないが、合意優先ないし契約自由の原則の及ぶ領域においては、その規定が任意法規性のゆえに日常の経済生活では往々にして、合意により債権法規と異なる生活規範が設定され、また、それが許される法の範疇である。この範疇においては、日常生活の一定の基準たる債権法規の解釈と、その法規を排除した、より有益な準則を設定した生活関係の両方を理解することが必要である。

この講義は、債権総論と債権各論を講義の対象とする。まず債権法全体の仕組み、内容をひととおり説明したうえで、債権一般の通則たる債権総論、次いで債権発生の原因にあたる債権各論について逐条的かつ重点的に解明する。

第1回～第3回：債権の意義・性質・社会的機能、債権法の法源、債権法の特質・体系、第4回：債権の目的・内容、第5回：債権の効力——債務と責任、履行強制、第6回～7回：債務不履行責任、第8回：債権の対外的効力——債権者代位権、第9回：債権者取消権、第10回：多数当事者の債権関係——債権の共有・合有・総有、分割・不可分債権、第11回～12回：連帯債務、第13回～14回：保証債務、第15～16回：債権の譲渡、債務の引受、第17回：債権の消滅、第18回：契約総則——債権発生原因、契約自由の原則、契約の種類、第19回：契約の成立、第20回：契約の効力——同時履行の抗弁権、第21回：危険負担、第22回～23回：第三者のためにする契約、契約の解除、第24回：贈与、売買、交換、第25回：消費貸借、使用貸借、賃貸借、第26回：雇傭、請負、委任等の契約、第27回：事務管理、不当利得、第28回～30回：不法行為

準備学習
履修上の留意点

各回のテーマに関連する内容について条文および教科書を一読した上で講義に臨むこと。

債権法は、民法学の一分野であるから、必然的に民法の他の分野にも関連する。とくに債権を担保するための担保物権や民法全体の基本原則である民法総則などを扱う「民法I」も併せて履修することが望ましい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

学年末の定期試験で行う。
我妻栄・有泉亨・川井健著『民法Ⅱ 債権法（第三版）』（勁草書房）
川井健『民法概論Ⅲ 債権総論』、『民法概論Ⅳ 債権各論』（有斐閣）
内田貴『民法Ⅲ 債権総論・担保物権』、『民法Ⅱ 債権各論』（東京大学出版会）
稲本洋之助・上井他共著『民法講義Ⅴ 契約』（有斐閣大学双書）

履修コード	142351・331551
科目名	リスクマネジメント論
担当者名	石名坂 邦昭 <small>いしなざか くにあき</small>

講義の到達目標(ねらい)

近年、企業を取り巻く環境は多種多様なリスクに囲まれている。企業はそれらのリスクを征服しなければ、安定経営は望めない。企業を取り巻くリスクにはどのようなものがあるかを知り、それらにどのように対処したらよいかを講義の中心とする。

講義の内容／
授業スケジュール

リスクマネジメントの生成について学び、リスクマネジメント・プロセスについて講義を行う。その後、PLリスクや環境リスクについて学ぶ。

- ①リスクマネジメントの生成と発達、1～3、②リスクマネジメントの理論、4～10、
- ③企業経営とリスクマネジメント、11～20、④PLとリスクマネジメント、21～25、
- ⑤環境リスクとリスクマネジメント、26～30

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

ノートをしっかりととること
定期試験の成績と平常点
特になし
『リスクマネジメントの理論』石名坂邦昭著 白桃書房
授業にまじめに出席すること

履修コード	143211
科目名	流通システム論
担当者名	<small>あさき しげき</small> 青木 茂樹

経営

講義の到達目標(わらい)	私達の生活はあらゆる商品によって支えられており、これは流通システムがあるから成り立っている。講義では、身近な事例より興味を喚起し、その仕組みの理解を促す。今日、情報化、国際化によって、流通システムは新たな変化のうねりを迎えている。変化の時代に重要なことは現象面を追うだけではなく、どのような分析枠組みで理解・予測できるかである。また複眼的・多角的に捉えることにより、個々人の受講生が今後の流通のあり方についてのおのおのの意見をもつことを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>1)～4) 流通の基礎概念と機能的アプローチ</p> <p>5)～9) 流通の機関別アプローチ (小売業・卸売業)</p> <p>10)～13) 流通システムとしての発展I</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次・第二次流通再編成の諸特徴 ・チェーン・オペレーションの登場と進化 <p>14)～17) 流通を巡る法規制とまちづくりの諸問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通に関わる経済システムと社会システムの拮抗 <p>18)～21) 流通システムとしての発展II</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業化社会の流通システムから情報化社会の流通システムへ ・コンビニエンス・ストアのイノベーション <p>22)～25) 流通の情報化の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サプライ・チェーンからダイヤモンド・チェーンへの転換 ・インターネットによる流通の革新 <p>26)～27) 流通における関係の取引の理論的認識</p> <p>28)～30) 生活創造としての流通システムの展望</p>
履修上の留意点	講義形式ではあるが、一方向とならぬよう、学生・教員相互に名札を付けるなどして、学生の主体的な発言と双方向のコミュニケーションを促し、積極的に楽しんで参加してもらえるような方向を目指したい。
成績評価の方法	毎回の小テストと、個人レポート(またはテスト)の評価をベースとする。場合によっては、グループレポートおよびその発表を評価に加えることもある。また、講義内の自主的発言1回に対して1点以上のボーナス点が与えられる。
教科書／テキスト 参 考 書	渡辺達郎他(2008)『流通論をつかむ』有斐閣 日経MJ編(2010)『日経MJトレンド情報 マーケティング・ハンドブック(2011年版)』日本経済新聞社。

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	ふじもと しげる 藤本 茂

講義の到達目標(ねらい)

今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。

労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではいられません。

労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近では雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正（近くでは労働時間や年次有給休暇など）、男女雇用平等、労働契約法などです。

本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標においています。

下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。

1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。

以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。

- 第1回 ガイダンス-労働法分野と授業で扱う分野
- 第2回 労働法の基礎的考え方
- 第3回 日本型雇用システムの変化と労働法
- 第4回 労働関係の主人公-労働者、使用者、労働組合
- 第5回 労働契約と労働契約法
- 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保
- 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味
- 第8回 調整
- 第9回 雇用における平等① 労基法3条
- 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止
- 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法
- 第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則
- 第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則の法的性質
- 第14回 労働条件の集団的決定③ 就業規則による労働条件変更
- 第15回 調整
- 第16回 雇用の入口① 採用
- 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度
- 第18回 人事異動 配転
- 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了
- 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制
- 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用
- 第22回 調整
- 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など
- 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金
- 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制
- 第26回 労働時間② 変形制度など
- 第27回 労働時間③ 労働時間の例外
- 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質
- 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休
- 第30回 調整

準備学習

テキストを読むこと（少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください）。新聞を読むことなどです。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。

履修上の留意点

出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジメや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。

成績評価の方法

憲法、民法、社会保障法、社会政策は履修してほしい科目です。
成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価が付きません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。

教科書/テキスト

追試験は実施します。
教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熱意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法 I [第2版]』（エイデル研究所 2010）を掲げます。もとより、これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考文献

概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。
六法は最新のもの（法律改正や制定があるので特に注意）。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。

履修コード	325101
科目名	労働法
担当者名	ふじもと しげる 藤本 茂

経営

講義の到達目標(わらい)

今日、わが国の労働関係(雇用社会)は、少子高齢社会・人口減社会やグローバル化によって、リストラ、成果主義人事管理の導入・見直しがなされるなど大きく変貌しています。

労働法は、労働問題を平和的に(つまりは法的に)解決する妥当な考え方を学ぶ法領域です。雇用社会の変動に無関係ではられません。

この時期、労働者に降りかかるさまざまな事象は、労働基準法改正、労働契約法や男女雇用平等などの雇用関係法領域において、顕著です。

本講義ではこの雇用関係法領域を中心に授業を進め、その基礎的知識を身につけることを目標とします。到達目標は、基礎的知識の習得とリーガルマインドを身につけることです。

下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。

1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。

以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。

第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野

第2回 労働法の基礎的考え方

第3回 日本型雇用システムの変化と労働法

第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合

第5回 労働契約と労働契約法

第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保

第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味

第8回 調整

第9回 雇用における平等① 労基法3条

第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止

第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法

第12回 労働条件の集団的決定① 労働契約と就業規則

第13回 労働条件の集団的決定② 就業規則の法的性質

第14回 労働条件の集団的決定③ 就業規則による労働条件変更

第15回 調整

第16回 雇用の入口① 採用

第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度

第18回 人事異動 配転

第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了

第20回 雇用の終了② 法による解雇規制

第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用

第22回 調整

第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など

第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金

第25回 労働時間① 労働時間に対する規制

第26回 労働時間② 変形制度など

第27回 労働時間③ 労働時間の例外

第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質

第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休

第30回 調整

準備学習

準備学習といえば、以下のことをお願いするだけです。教科書を読んで授業に臨むということです。

履修上の留意点

出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo、そして無断で席を立つことはNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。

適宜、項目を列挙したレジュメや資料を配りますが、それでは十分ではありません。教科書を使って有意義な勉強を心がけてください。

成績評価の方法

憲法、民法、社会保障法、社会政策は、近接科目であるので、ぜひ履修してください。

成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価はつきません。前期試験、レポートや出席を含めて、総合的に評価します。

追試験は実施します。

教科書/テキスト

金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所2010)。これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書

第1回目の授業で、プリントで紹介します。

六法は、最新のもの(法律改正や制定があるので特に)。そして労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、これも1回目の授業で話します。

專 門 教 育 科 目

3. 医 療 健 康 科 学 部

履修コード	159201
科目名	医学英語
担当者名	吉川 宏起 よしかわ こうき

講義の到達目標(わらい) 医学領域では診療情報の伝達に英語が頻繁に用いられている。また英語圏におけるインターネットのホームページから得られる医学知識は膨大である。このように医療チームの一員として活躍する診療放射線技師にとって英語学習は必要不可欠なものとなっている。本講義では臨床の場に役立つ基本的な単語および診療録の慣用句を中心に学び、診療の場で実践に役立つ医学英語の習得を目指す。

講義の内容／
授業スケジュール

(1、2) 医学英語の特徴、体の部位や方向に関する用語
(3、4) ヒトの体の器官1：体表(外皮)、筋骨格系、呼吸器系
(5-7) ヒトの体の器官2：循環器系(血管、リンパ管)
(8-10) ヒトの体の器官3：消火器系、泌尿器系
(11、12) ヒトの体の器官4：内分泌器系
(13、14) ヒトの体の器官5：神経系
(15) 放射線診療で用いられる医学用語

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

基本的な医学英語を修得し、インターネット上での教育システムの活用を行う習慣をつける。
授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
使用しない。プリントを配布する。

医療

履修コード	154901
科目名	医学概論
担当者名	吉川 宏起 よしかわ こうき

講義の到達目標(わらい) 現代医学で行われている実際の医療について幅広く理解し、その中での放射線医学の役割について理解する。さらに医療従事者として必要な人権を尊重した医療倫理について考察する。

講義の内容／
授業スケジュール

(1、2) 医学の定義、生命とは、生活習慣病、QOL、インフォームドコンセント、IRB
(3、4) 医学の起源、近代の医学(X線の発見)、治療医学の展開、予防医学の展開、医用電子工学(ME)の展開
(5、6) 病気の内因(免疫)、病気の外因、メタボリック症候群
(7、8) 病変の分類1：血行性病変(出血、梗塞、血栓症、塞栓症)
(9、10) 病変の分類2：進行性病変、退行性病変、炎症性病変
(11、12) 病変の分類3：腫瘍、奇形、染色体異常
(13) 予防医学と衛生学、生活習慣病の予防

履修上の留意点

(14) 医療システムとその役割、一次医療(プライマリケア)、二次医療、救急医療、保健診療
現代医学の発展に関する基礎的知識を修得することと、日常で起こる医学に関する問題について考える習慣をつける。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
使用しない。プリントを配布する。
日野原重明著『医学概論』(医学書院)1,600円

履修コード	164801
科目名	医学特論
担当者名	山口 晶 やまぐち あきら

講義の到達目標(わらい) 実際の症例画像を提示しながら、臨床目的に即した撮像技術を修得する。具体的には単純X線撮影、超音波検査(US)、X線CT、血管造影、核医学検査(RI)および種々のモダリティによる3次元画像を提示しながら画像の検討、読影を行う。さらにより侵襲の少ない方法で診断するための撮像モダリティの応用法について講義を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 各撮像技術の特徴(2、3)呼吸器疾患(4、5)骨軟部疾患(6、7)中枢神経系疾患(8、9)消化管疾患(10、11)泌尿器疾患(12、13)婦人科系疾患(14、15)総合画像診断

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

これまで修得した画像解剖の復習と各種画像検査法の原理、特徴について復習しておくこと。
授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
使用しない。プリントを配布する。

履修コード	153701・153801
科目名	医用化学実験〔実験〕
担当者名	原田 <small>はらだ</small> 和正 <small>かずまさ</small> ・秋山 <small>あきやま</small> 稔 <small>みのる</small> ・本多 <small>ほんだ</small> 貴之 <small>たかゆき</small> ・山岸 <small>やまぎし</small> 賢司 <small>けんじ</small> ・山本 <small>やまもと</small> 裕右 <small>ゆうすけ</small>

講義の到達目標(おらい) 医療分野において必要な化学に関する実験を通して、化学の基本原理や概念を理解すると共に、化学実験における基本操作、薬品取扱時の基礎知識を学ぶ。また、実験で得られたデータを客観的に評価し、分子レベルで化学的に考察してレポートにまとめる能力を育成する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. ガイダンス
2. ガラス細工、器具の洗浄
3. 容量、重量の測定、試薬の調製法
4. ハロゲン化銀の感光性と現像、定着試薬との反応
5. 中和滴定による酸の定量
6. 薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の分離・同定
7. 分子模型実習
8. pHメータによる緩衝能の測定
9. 硫酸銅(II)五水和物の合成
10. ヨウ素滴定による銅(II)の定量
11. o-フェナントロリン法による鉄(II)の比色分析
12. イオン交換樹脂の交換容量の測定
- 13-15. レポート指導

履修上の留意点 化学実験には危険や事故が付きまとうため、ガイダンスでの注意事項を厳守すること。
成績評価の方法 平常点30%、レポート40%、筆記試験30%により評価する。

教科書／テキスト

プリント使用

参 考 書

第7版『実験を安全に行うために—事故・災害防止編』(化学同人) 800円
第3版『(続)実験を安全に行うために—基本操作・基本測定編』(化学同人) 800円
以上2冊は、実験時に常に持参すること。

そ の 他

関数電卓を持参すること。また、必要に応じ、グラフ用紙等を用意すること。

医
療

履修コード	156301
科目名	医用画像工学
担当者名	熊坂 <small>くまざか</small> さつき

講義の到達目標(おらい) この科目は放射線技師の国家試験に出題される内容を中心に授業を行う。医用画像情報学、診療画像技術学の分野を総合的に理解する。特にDR圧縮処理、FNC処理、エネルギーサブトラクション処理、テンポラリーサブトラクション処理、CRの画像処理システム等にもふれ国家試験の必要な基礎的知識を身につける。授業では国家試験問題を実際に皆で解く授業もある。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1～2 医用画像の基礎
- 3～4 アナログ画像
- 5～8 特性曲線、MTF、WS、RMS、DQE、NEQ、ROC、信号検出論
- 9～10 デジタル画像 サンプリング定理、ナイキスト周波数
- 11～14 画像処理、フィルタ、画像間演算、データ圧縮、医療情報基礎事項

準 備 学 習

準備学習 1年生で学習した事項について再確認しておくこと。

履修上の留意点

1年生の復習項目を含む授業もあるが、その内容はより国家試験を意識した内容になっている。総括的評価として2回程度の筆記試験を行う。試験によって評価する。

教科書／テキスト

医用画像工学講座14 医用画像工学第二版 医歯薬出版株式会社 岡部哲夫 藤田広志

参 考 書

ブルーノート 基礎編 メジカルビュー 福士政広
イエローノート 臨床編 メジカルビュー 福士政広
グリーンノート 基礎編 メジカルビュー 福士政広
グリーンノート 臨床編 メジカルビュー 福士政広

履修コード	159501
科目名	医用検査学
担当者名	名古 安伸

講義の到達目標(ねらい) ヒトの病気を知るためには、まず生体レベルでどのような異常が起こっているのかを理解することが重要です。しかし、外から観察しているだけでは病態を理解することはできず、治療に結びつけることはできません。そこで、病気の原因を画像診断（ここではMRIと超音波検査を主とする）にて捉えるための基礎的な技術学の理解を目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (1～3) MRIの原理と復習
(4～8) MRIの基本的撮像法
(9～11) MRIの臨床応用
(12) 超音波診断装置の原理と復習
(13～15) 超音波検査の基本的撮像法と臨床応用

準備学習 ここまで学習して来た画像診断装置の基本原則、診療画像技術学及び人体解剖学の基礎知識を復習しておいて下さい。

履修上の留意点 教科書、参考書をよく読み、講義内容を理解することに努めて下さい。

成績評価の方法 定期試験の結果および出席状況により評価します。

教科書／テキスト 『診療放射線技術』上巻（南江堂）6,800円

必要によりプリントを配布します。

参考書 日本放射線技術学会監修：『核医学検査技術学』（オーム社） 5,200円

高原太郎：『MRI自由自在』（メジカルビュー社） 7,000円

医療

履修コード	153501・153601
科目名	医用物理学実験〔実験〕
担当者名	佐藤 昌憲・小川 雅生・鳥山 保・羽生 毅・藤森 成一

講義の到達目標(ねらい) 多くの学生にとっては初めての実験であると思われるので、前半・後半と分けて、前半は器具・機器の扱い方の学習をする。後半はデーターを処理する方法の実験をする。現象を通じて理論を理解することも同時に身に付けてもらいたい。

講義の内容／授業スケジュール 内容は手引書を製作してあるのでこれを参照すること。少人数で実験をするために班分けをする。そのためにスケジュールは個々によって異なる。入学後のガイダンスの際に班分けしスケジュールを発表する。

1. ガイダンス
2. 放射線実験室の立ち入り方
3. パソコンによるレポート作成法
4. 直流回路（電界）
5. 交流回路（磁界）
6. Excel関数の使用法
7. 計測に関する統計と誤差
8. GM計数管のプラトーの測定
9. サーベイメータの使い方
10. 電離箱の平衡厚測定
11. X線の実効エネルギーの算定

成績評価の方法 1. レポート 2. 実験 3. 質疑応答 4. 調査・検索について点数化して総得点で評価する。

教科書／テキスト 実験のために用意した手引書を制作してある。

履修コード	162401
科目名	医療画像科学総合研究
担当者名	野口 勝・飯田 幸雄・熊坂 さつき・近藤 啓介・瀬尾 育武

医療

講義の到達目標(ねらい) 3年次までに学習してきた基礎知識をベースにし、医療画像科学分野の諸課題について、文献調査、実験、結果の考察、今後の課題と解決策の検討など、未知の研究テーマに挑戦する。これまでのように筋道が示された実験ではなく、日々試行錯誤の連続となる。この過程を通して、問題を解決するために自ら工夫し、それが成功したときの楽しさ、達成感、充実感を体験して欲しい。研究で得られた成果は研究報告書としてまとめることにより、行った一連の流れを論理立てすることも学ぶ。また成果を総合研究発表会で発表する。

講義の内容／授業スケジュール 研究テーマは1人1テーマを原則とし、指導担当の先生と話し合っで選定し、推進する。また数回、画像技術科学コースの先生全員に対して進捗報告を行い、幅広い視点からのアドバイスを受ける。

履修上の留意点 4月 : テーマの選定と具体化
5～8月 : 文献調査、実験の推進、結果の考察
9～10月 : 追実験、報告書のまとめ
10月下旬 : 総合研究発表会
自主的に、計画的にテーマに取り組むこと。先生の指示を待つのではなく、自ら課題をもって相談に行き、指導を受けること。

成績評価の方法 自主性・積極性、原理の理解度、工夫の度合い、報告書と発表のきばえ等を総合して評価する。
教科書／テキスト 必要に応じて資料を配布する。
参 考 書 必要に応じて資料を配布する。
そ の 他 自分にとって未知の新しい課題に取り組むことにより、壁を乗り越えるための進め方を経験し、身につけて欲しい。

履修コード	164201
科目名	医療画像科学論文講読
担当者名	熊坂 さつき

講義の到達目標(ねらい) 学士論文、実験研究に必要な各自のテーマに沿った学術論文を読み、研究のテーマのターゲットを見つけて出す為の基礎知識を養う。

講義の内容／授業スケジュール 画像コースの教員5人(野口教授、瀬尾教授、熊坂教授、近藤准教授、飯田助教)が同時参加して行う。場合によっては画像コースを2つに分け、2教室で同時進行する場合でも必ず複数の教員が参加して討議に加わる。その際は、必ず総合研究の指導教官が直接指導を行いながら論文講読の授業を行う。

準備学習 テーマにあわせた学術論文を各自が読みながら発表、論説、討論する。授業は週に2回行ったり、2から3時限続けて行ったりする場合がある。

履修上の留意点 1～14論文講読発表会と討論会
(授業回数は14回以上になる事がある)
論文の内容を発表出来る様に良く理解すること。参加者全員に配布するためのわかりやすい資料を作成し準備すること。

成績評価の方法 画像コース担当の先生方が授業と討論に加わる。複数の教員で授業を行うため、開講日時と教場が変わる場合がある。
教科書／テキスト 発表した学術論文の内容についての理解度、発表の仕方、提出レポートについて評価する。
参 考 書 教員または学生自らが選別した学術論文。
そ の 他 各ゼミの教員がそれぞれの学生の研究テーマに沿った参考書を紹介する。
複数の教員で授業を行うため、開講日時と教場が変わる場合がある。掲示や連絡に注意すること。

履修コード	164701
科目名	医療経済学
担当者名	まつもと かつとし 松元 和敏

講義の到達目標(ねらい)

医療経済学(Healthcare Economics):近年医療に求められているものとして、医療技術、医療安全、医療感染対策、そして医療経済などがある。特に医療経済学は、医療のこれからの方向に重大な影響を与えるため、経済学の知識は益々必要とされる。主に、医療費や医療の受給関係、費用対効果、医療経済評価、医療制度などが対象である。当講義では、基礎的な知識を基に現在の医療問題点を紹介しながら医療経済学を理解していただく。

講義の内容／
授業スケジュール

講義は、テキストと資料を併用して行なう。資料は医療経済に関する最新の論文、行政公布書類等を使用する

1. 医療用語説明 1～2
2. 医療経済学を理解するために 3～4
3. 医療経済学の経済学的基礎 5
4. 医療経済学とはなにか 6
5. 医療と最新の経済学 7～8
6. 医療の仕組みを経済学で分析する 9～10
7. 医療のプレーヤーとその行動 11
8. 米国の医療制度を考える 12
9. 日本の医療制度を考える 13～15

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

医療に関する新聞記事を多く読んで参加して頂きたい。
実践に即した内容にするために参加型の授業を目指し、積極的な参加を求める。

レポート、試験

真野俊樹著「入門 医療経済学」(中公新書)、820円

① 医療の質 用語事典 「日本規格協会」 3000円

② 宇沢弘文 「社会的共通資本」 岩波新書 819円

その他の

厚生労働省、日本病院会、日本医師会

医療

履修コード	164601
科目名	医療宗教学
担当者名	よしづ よしひで 吉津 宜英

講義の到達目標(ねらい)

この科目は将来皆さんが医療の現場に出るお仕事をする時、患者さんと接する場合に役立つことを目的としています。科目名が「医療宗教学」となっていますが、宗教学を講義するつもりはありません。それは「仏教と人間」という宗教教育科目で学んでもらいたいと思います。私はむしろ「医療人間学」というぐらいの科目名で考えてもらいたいと思います。ただ皆さんが受講する「臨床医療人間学」2科目とダブらないように注意します。医療人としての皆さんは様々な患者さんに出会うことでしょう。医療技術には自信があっても、人間的には好悪の感情は否定できないし、大いにストレスを感じることでしょ。どんなに嫌いな人であっても、誠意をもって治療に当たらなくてはなりません。そのためには皆さんの人間性においてどんな人にも柔軟に対処できる姿勢が形成されていなくてはいけないと思います。この科目は様々な宗教的、また哲学的な人間観を示して、その参考に供したいと思います。ある一定の自分の人間観を持つと共に、いろいろな人々の人間観を認めることのできる医療者になったほしいのです。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回目は全体的なガイダンスです。医療、特に病院の人間関係を考え、今年はストレスにいかに対処するかを考察します。拙著『やさしさの仏教』をベースにして、いいかげんではなく、良い加減の生活のあり方を模索します。自己を考えます(2,3回目)。人間を考えます(4,5,6回目)。社会を考えます(7,8,9回目)。人生を考えます(10,11,12回目)。まとめとテストを行います(13,14,15回目)。内容の順序に替りはありませんが、回数については延長、短縮が有り得ることを了解して下さい。

準備学習
履修上の留意点

特にありません。

この科目専用のノートを用意して下さい。講義内容を筆記すると共に自分の意見や疑問を書きとめ、全体を通して受講と思索の軌跡が残るようにしてもらいたいと希望します。

成績評価の方法
教科書／テキスト

毎回出席を取ります。最後に試験を行います。その結果を総合して成績評価を出します。

参考書

特に使用しない。出来るだけプリントを配布します。

その他の

講義の中で随時紹介します。

私の講義の最中でも挙手して質問して下さい。私語は厳禁です。あまり目立つ場合は退場を要請します。授業開始時間後30分を経過してからは教場に入らないで下さい。

医療

履修コード	164301
科目名	医療統計学
担当者名	近藤 啓介

講義の到達目標(ねらい) 医療に関する多数のデータを整理・解析しようとするとき、統計学の知識が必要不可欠となる。特に医療データは、単に平均や標準偏差を求めれば良いというものでなく、その特殊性に応じたデータの収集方法や解析方法が必要となる。授業では統計学の初歩的事項から実用的な統計手法までを解説する。統計学の理論を理解するだけでなく、実際の業務に役立つ手段として身につけることに重点を置いて講義をする。

講義の内容／授業スケジュール (1) 医療統計学とは (2) 統計と表 (3～5) 統計とグラフ (6～7) 統計量 (8～9) 統計的推定 (10～11) 検定 (12～14) 実習 (15) ROC解析

履修上の留意点 単に計算式を覚えるのではなく、実際に使えるようになることが重要です。総合研究や将来の論文・研究で利用することを考えて、積極的に受講すること。

成績評価の方法 演習とレポート及び試験により評価する。

教科書／テキスト プリントを配布する。

履修コード	162301
科目名	医療放射線科学総合研究
担当者名	西尾 誠示・青木 清・小川 雅生・奥山 康男・金子 順一・佐藤 昌憲・嶋田 守男・名古 安伸・原田 和正・山本 裕右・吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい) この科目は個々の学生の研究能力を高めることを目的としている。そのために各学生が、これまでに学修してきた基礎知識を生かして、医療放射線科学分野における諸問題を自分自身で解決することに挑戦する。したがって、通常の講義や実験と異なり、内容や結果が決まっているものではない。あくまで、各自が主体的に内容を深めていくことが大切である。学生には指導教員がつくが、教員の役割は研究の方向性や実施方法を示すことであり、実際に調査を行ったり、実験を行ったりするのはあくまで学生自身である。研究で得られた成果については、各自が報告書にまとめ、研究発表会にて発表する。

講義の内容／授業スケジュール 研究は次のような手順で進める。(1～3)興味ある分野についての学修、(4) 研究テーマの決定、(5～7)研究テーマに関連する文献の調査、(8～25)問題点の検討や実験の実施、(26～29)報告書の作成、(30)成果の発表

準備学習 授業スケジュールは目安であり、各自の学修、実験等の進捗状況により変わることがある。研究テーマを決定するにあたり、関連学会に参加し、さらに論文等をよく調べること。

履修上の留意点 学生自身が主体的に考え、取り組むことが大切である。

成績評価の方法 平常の実験・研究の進め方、報告書、発表内容に基づき総合的に評価する。

教科書／テキスト 教科書は使用されない。

参考書 各自が調べた論文等が参考文献となる。

履修コード	164101
科目名	医療放射線科学論文講読
担当者名	吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい) 診療放射線医学に関する英文に頻出する単語や熟語を習得し、英文論文の読み方を身につける。

講義の内容／授業スケジュール 最初に頻出する単語や代表的な熟語についての解説を加える。次に放射線診断学における代表的な英文論文を選定し、講読を進めていく。

履修上の留意点 身に付けた単語や熟語をキーワードとして、医療関連の英語のホームページに入っていく情報収集しながら医学英語に親しむようにする。

成績評価の方法 授業態度とレポートによる。

教科書／テキスト 使用しない。プリントを配布する。

履修コード	158601
科目名	応用機器工学
担当者名	名古 <small>なご</small> やすのみ 安伸

講義の到達目標(ねらい)

近年、放射線治療は侵襲性が低く臓器の形態・機能温存に優れていることから注目を集め、なかでも高エネルギーX線・電子線・粒子線及び高精度放射線治療装置などの治療機器の進歩は著しいものがあります。また、放射性同位元素で標識された薬剤を患者さんに投与して行われる核医学検査もSPECT/CT装置やPET/CT装置の開発によって、目覚ましい発展を遂げています。

これらの背景を基に、応用機器工学では加速器を中心とした放射線治療機器とSPECT・PET/CT装置を中心とした核医学診断装置について学習する。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) 核医学検査装置の概論
- (2~3) 核医学診断装置の原理と概要
- (4~5) 核医学診断装置の性能評価と保守管理
- (6) SPECT・PET/CT装置の原理と概要
- (7) 放射線治療装置の概論
- (8~9) コバルト遠隔治療装置と直線型加速器
- (10~11) 円軌道加速器と重粒子線治療装置
- (12~13) 定位放射線照射装置と治療計画に使用される装置
- (14~15) 放射線治療装置の性能評価と保守管理

準備学習

放射線計測学、放射線物理学、原子核物理学などで学習して来たシンチレーション検出器、ガンマ線放出核種、放射線計測回路、加速器などに関連のある項目は予め予習しておいて下さい。

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書、参考書をよく読み、講義内容を理解することに努めて下さい。
定期試験の結果および出席状況により評価します。

教科書／テキスト

『診療放射線技術』下巻(南江堂)6,800円

参考書

三枝健二 共著:『新版 放射線機器学(Ⅱ)』(コロナ社) 4,700円

日本放射線技術学会監修:『核医学検査技術学』(オーム社) 5,700円

履修コード	158701
科目名	応用計測学
担当者名	小川 <small>おがわ</small> 雅生 <small>まさお</small>

講義の到達目標(ねらい)

中性子計測・電子線計測・個人被曝線量計測について検出器系の検出原理、応答特性、実測上の問題点などを学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール

- 1 回 中性子の特殊性、ベータ崩壊
- 2 回 原子核反応、結合エネルギー、反応断面積
- 3 回 中性子による原子核反応、1/v法則、中性子検出の原理
- 4-5 回 He3計数管、BF3計数管
- 6 回 ロングカウンター、ボナー球カウンター
- 7-8 回 FWHMと標準偏差、ファノ因子、誤差の伝搬
- 9 回 ガラス線量計、熱蛍光線量計
- 10 回 熱刺激ルミネッセンス
- 11 回 イメージングプレート、フラットパネルディテクター
- 12 回 信号処理、AD変換
- 13 回 化学線量計、フリッケ線量計、アニリン線量計
- 14 回 荷電粒子の計測、阻止能、飛程、ブラッグピーク
- 15 回 加速器

履修上の留意点
成績評価の方法

授業において不明な点があれば質問すること。講義が分かりにくい場合は、その旨を主張すること。定期試験の他、講義中に行う小問題および出席状況により評価する。

教科書／テキスト

YeStudyに掲載する参考資料をプリントすること。

履修コード	153401
科目名	応用数学
担当者名	<small>のぐち まさる</small> 野口 勝

講義の到達目標(わらい)

「基礎数学」で学んだ微分・積分の知識をさらに発展させ、大学理工系としての数学の基礎を学習する。これにより、本学部・学科の専門科目で学ぶ高度な医療画像技術を理解するために必要となる基本的な数学の力を身につけることが目標である。

講義の内容／授業スケジュール

微分・積分の応用、発展として以下を学ぶ。

1. 定積分 (第1～6回)
定積分の計算、異常積分・無限積分、面積・体積の計算等
2. 微分・積分の応用 (第7～11回)
関数の展開、不定形の極限、定積分の応用等
3. 偏微分 (第12～18回)
偏微分、基本公式、偏微分の応用等
4. 重積分 (第19～23回)
2重積分とその応用、3重積分とその応用等
5. 微分方程式 (第24～30回)
1階微分方程式、定数係数線形微分方程式等

準備学習
履修上の留意点

スケジュール表を見て、きょう勉強する事は何か、をしっかりと意識して授業に臨んで欲しい。数学は基礎の積み重ねが重要である。したがって毎回行う演習に真剣に取り組み、今日学んだことは今日習得する、という姿勢で臨むこと。また必要に応じて「基礎数学」で学んだ微分・積分を復習すること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書
その他

2～3回の理解度確認テスト、および学習態度の総合点による。
矢野・石原編『微分積分 改訂版』(裳華房), 2,100円+税, ISBN978-4-7853-1071-4
必要に応じて資料を配付する。
「解を暗記するのではなく、考え方を理解する」ということが数学力向上のポイントである。この意識をしっかりと持とう！

履修コード	153101
科目名	解剖学
担当者名	<small>しまだ もりお</small> 嶋田 守男

講義の到達目標(わらい)

解剖学は人体の正常な形態と構造を研究する学問である。我々の身体の正常形態および構造を理解することは、疾病患者の異常を理解する上で非常に大切なことである。これゆえに、解剖学は、現代医学とくに放射線医学を理解するうえで最も基礎となる重要な分野である。そのために要点を確実に習得する必要がある。

講義の内容／授業スケジュール

- (1-4) 骨格系
- (5-6) 筋系
- (7) 脈管系
- (8) 消化器系
- (9) 呼吸器系
- (10) 泌尿器系
- (11) 生殖器系
- (12) 内分泌系
- (13) 神経系
- (14) 感覚器系
- (15) 発生学に分けて系統的に学習する。

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書での予習、講義後の復習、テストを通して正確な知識を得るように努めること。
出席と期末試験によって成績を評価する。

履修コード	158901
科目名	核医学
担当者名	おくやま やすお 奥山 康男

講義の到達目標(ねらい)

核医学検査の多くは放射性医薬品を利用して人体臓器の様々な機能と代謝を最新技術の核医学検査機器などにて画像化及び定量化し、各疾病診断のために付加価値情報を提供する重要な検査である。これらの検査法は、測定の対象に従って生体の測定(患者検査)及び医学試料の測定(血液・糞尿など)に大別され、使用する放射性医薬品も生体内に投与するもの(インビボ法)と、投与しないもの(インビトロ法)の2種類となる。以上の背景を踏まえ、核医学検査法に関する放射性医薬品や試薬キット類、検査機器、検査手技などについて講義する。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回～2回:核医学の基礎<核医学の歴史と安全管理について>
第3回～5回:放射性医薬品<インビボ用医薬品、インビトロ用医薬品について>
第6回～9回:核医学機器<シンチカメラ、SPECT・SPECT/CT装置、PET・PET/CT装置について>
第10回～25回:核医学検査<インビボ編=脳神経系、内分泌系、呼吸・循環器系、腫瘍、PET等について>
第26回～28回:核医学検査<インビトロ編=試料検査の概要、原理、基準値について>
第29回～30回:核医学治療<内用療法=治療概要、甲状腺、骨転移除痛療法、悪性リンパ種治療等について>

準備学習

基礎化学、生化学、放射化学並びに放射性同位元素の基礎知識を見直しすることで授業内容が理解しやすくなる。

履修上の留意点

日常の臨床画像等をPCプロジェクトに映写しながら授業を行うので教科書内容と臨床画像を関連づける。

成績評価の方法

授業出席状況、受講態度、前期・後期定期試験による総合評価にて決める。

教科書/テキスト

大西英雄 他編『核医学検査技術学(改定2版)』日本放射線技術学会出版委員会 5,700円(税別)

参考書

金森勇雄 他編『診療画像検査法 実践 核医学検査』医療科学社 7,000円(税別)

履修コード	160701・160801
科目名	核医学検査技術学基礎実習〔実験〕
担当者名	やまもと ほうけい おくやま やすお かねこ しゆんいち とやま まり はらだ かずまさ 山本 裕右・奥山 康男・金子 順一・外山 真理・原田 和正

講義の到達目標(ねらい)

主として核医学検査技術学、放射化学領域における実験を行う。本実験では、2年次に学んだ「放射化学」、「放射線計測学」、3年時に学ぶ「核医学」での知識を基に、SPECT、核医学領域における非密封放射性同位元素の取扱、PECTにおける放射線計測の基礎についての実験を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

以下のテーマについて、各自定められた日程に従い実験を行う。
(1)ガンマカメラの性能評価:均一性、分解能、直線性などの基本性能試験、(2)ガンマカメラの各種撮像法:静止画像、全身画像、SPECT画像の撮像、(3～5)非密封放射性同位元素取扱法の基礎(ホットランは学外実習として行う)、(6)マイクロベットの検定:重量法、吸光光度法、(7,8)フリック線量計による吸収線量の測定:線量計の調製、線量測定、(9)ポジトロンの同時計数測定:PECTの基本実験としてポジロン放出核種を用いた同時計数測定、(10)マルチチャンネル計測法:マルチチャンネル波高分析器を使用しての未知核種のガンマ線スペクトル測定とその同定、(11～15)レポート指導・試問

履修上の留意点

非密封放射性同位元素は医学、化学、生物などの研究においてきわめて有用な情報を我々に与えてくれるものであると同時に、放射能汚染や被曝の問題など、危険な側面ももっている。従って、実験に対する準備を十分におこない、事前に実験操作、手順を理解しておくと同時に取り扱う放射性同位元素の性質を熟知しておくことが必要である。

成績評価の方法

平常点、実験レポート、試問、試験により評価する。

教科書/テキスト

実験プリント

参考書

日本アイソトープ協会編 『アイソトープ手帳』(日本アイソトープ協会) 1,680円

その他の

本実験の一部は学外実習施設を利用して行う。

履修コード	163001
科目名	核医学検査技術学実習（病院実習）
担当者名	吉川 宏起・奥山 康男・原田 和正

講義の到達目標(ねらい)	本実習は、放射線治療技術学実習と同時期に指定された病院にて実施する。実習生は、学内では経験できない臨床上の業務の流れや手技について習得する。そのためには、予習・復習を行い積極的に実習に臨み、将来医療技術者として必要な基礎を身につける。
講義の内容／授業スケジュール	平成23年度は、6月中旬より7月中旬までの4週間（土日は除く）首都圏の指定された病院で放射線治療技術学実習とともに実施する。実習病院では、経験豊かな担当者によって診療業務を行いながら指導を受ける。
履修上の留意点	実習中は、医療人としての自覚を持ち、言葉使いや身だしなみには十分に注意することが大切である。守秘義務ならびに個人情報保護の観点からも、実習中に知り得た患者さんの情報を他に漏らしてはいけない。
成績評価の方法	実習病院からの“実習成績評価報告書”および実習生が提出する“病院実習報告書”などにより決定する。
教科書／テキスト 参 考 書	使用しない。 核医学検査技術学（南山堂）、病院実習要項

履修コード	158301
科目名	画像解剖学
担当者名	嶋田 守男

講義の到達目標(ねらい)	単純X線撮影、CT、超音波画像、MRIなど各種の医用画像診断の根底にあるのは正常画像解剖の知識であり、適切な検査を行うためにはこの点に関する正確な理解が要求される。既に習得した人体解剖学の基礎の上に臨床的に特に重要な領域の画像解剖学についての講義を行う。
講義の内容／授業スケジュール	基礎となる解剖学を新たに画像診断（単純X線撮影、CT、超音波画像、MRIなど）の角度からながめて要点を再確認しつつ、スライドで供覧する画像所見との対比を行う。対象領域は下記の領域である。 (1—3) 頭部 (4—6) 胸部 (7—9) 腹部 (10—12) 骨盤腔 (13—15) 四肢に分けて系統的に学習する。
履修上の留意点	必要に応じて解剖学の講義で使用したプリントをよく復習すること。
成績評価の方法	講義の出席率と定期試験の成績により評価する。
教科書／テキスト	使用しない。必要なプリントを配布する。

履修コード	156801・156901
科目名	画像検査技術学基礎実習〔実験〕
担当者名	にしお せいじ いらし たろう たなか たかし たにくち たかひさ なこ やすのぶ よしかわ たつお 西尾 誠示・五十嵐 太郎・田仲 隆・谷口 貴久・名古 安伸・吉川 達生

講義の到達目標(ねらい) X線装置等を用い、実際に人体ファントムを撮影する。実際の検査手順と体表解剖学を踏まえた撮影手技を学び、撮影法と得られた画像の関係について考察する。撮影原理、技術、画像評価について臨床実習を受けられる能力を身につける。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 頭部X線撮影法
頭部ファントムを用い、頭部正面・側面撮影、タウン法などの撮影法を学ぶと共に、頭部の画像解剖を理解する。
 - (2) 耳鼻科領域の撮影法
頭部ファントムを用いてウオーターズ法、コルドウエル法などの副鼻腔撮影及びシュラー法、ステンバース法などの聴器の撮影法を学び、それらの画像解剖を理解する。
 - (3) 椎骨、骨盤のX線撮影法
頸椎、腰椎・骨盤ファントムを用い、正面撮影、側面撮影、斜位撮影などの脊椎の撮影法を学び、画像解剖を理解する。
 - (4) 四肢骨の撮影法
手関節、肘関節、膝関節、足関節のファントムを用い、撮影技術を習得する。
 - (5) 胸部の撮影技術と感光材料
胸部ファントムを用い、胸部の撮影手技を学び最適な撮影条件と検出系について検討する。
 - (6) 乳腺のX線撮影 (Mammography)
乳房用X線装置、乳房ファントムを用いて照射条件毎の画像の変化を評価する。撮影に用いる機器類、感光材料から軟線撮影の特殊性を理解する。
 - (7) 胃造影検査法
X線TV装置の操作法を習得するとともに、造影剤とファントムを用い透視・撮影法を学ぶ。特に体位と画像評価について学ぶ。
 - (8) X線CTの基礎と応用
X線CT装置の原理と構造を理解し、画像評価用ファントムを用いて基礎実験を行う。さらに、人体模擬ファントムを用いて臨床と同様な方式で撮影方法を学ぶ。
 - (9) MRIの検査
MR装置の原理と構造を学び、基礎的な実験を行う。さらに臨床に応じた実習を行い、撮像原理と画像について学ぶ。
- 準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
- 診療画像技術学の教科書で予習すること。
授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。
授業前にマニュアルを読み、実習内容を把握しておくこと。
定期試験、レポート・試問について総合的に判定する。評価の割合は試験50%、レポート40%、試問10%とする。但し、定期試験の受験資格は全レポートの提出者のみである。
実験・実習プリントを配布する。
参考：稲本一夫編『放射線画像技術学』（医歯薬出版）

医療

履修コード	160901
科目名	画像検査技術学実習〔病院実習〕
担当者名	しまだ もりお いただ ゆきお なこ やすのぶ にしお せいじ 嶋田 守男・飯田 幸雄・名古 安伸・西尾 誠示

講義の到達目標(ねらい) これまでの講義および実験で習得した莫大な放射線および一般臨床医学知識をもとに、実際の医療の現場で放射線診療の流れを学習し、診療放射線技師の役割を実地で詳細に入念に理解すると共に今後の学習に参考とすべき点を学ぶ。実習に先立って担当教員と臨床実習病院指導者等から必要事項のガイダンスを受ける。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 病院実習の目的、実習手続上必要な書類と記入方法
- (2) 実習病院の組織、機能、施設についての説明
- (3) 患者接遇など病院内で実習する上の心得
- (4) 分野別の実習
 - a. 一般撮影
 - b. 消化管撮影
 - c. 血管造影
 - d. X線CT
 - e. MRI
 - f. 救急医療での撮影

履修上の留意点

病院実習は指定規則により、診療放射線技師国家試験受験資格を取得するための必須科目となっている。

成績評価の方法

実習病院からの実習成績評価報告書と学生の提出する実習報告書による。

履修コード	159801
科目名	画像工学 I
担当者名	瀬尾 育式

講義の到達目標(ねらい)	医用画像形成システムに使用されている画像データ処理に関する基礎理論の学習と演習をおこなう。
講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ～3. Fourier級数、Fourier変換の演習（2年生の復習） 4. ～6. Fourier解析による画質の解析と評価（2年生の復習） 7. ～9. デルタ関数とFourier変換 10. ～12. アナログ信号の離散化と標本化定理 13. ～15. 離散化された信号のFourier変換
履修上の留意点	理解を深めるための補足資料を配布します。よく復習して下さい。
成績評価の方法	中間試験と学期末試験の総合点。
教科書／テキスト	・プリントを配布します。(1000円)
参 考 書	・岡部哲夫、藤田広志編集『医用画像工学（第2版）』（医薬出版）4,900円
そ の 他	・谷口慶治編『画像処理工学』（共立出版）3,800円 演習を多くおこないます。欠席しないように。

履修コード	159901
科目名	画像工学 II
担当者名	瀬尾 育式

講義の到達目標(ねらい)	「画像工学I」で学習した基礎理論をもとに、実際に医療現場で実用されている画像圧縮、ウェーブレット変換、Z変換、パターン認識などについて、理論的にその内容を学習する。
講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1.～2. 画像の直交変換 3.～4. 高速Fourier変換（FFT） 5. 散信号のコサイン変換（DCT） 6.～7. 画像圧縮 8. 符号化 9. 画像ファイル形式とカラー表示の基礎 10. Fourier変換からWavelet変換へ 11. 多重解像度解析 12. Z変換 13. パターン認識 14. 視覚について 15. CT、MRIの画像再構成
履修上の留意点	学習内容が多いので、良く復習して下さい。
成績評価の方法	中間試験及び学期末試験の総合点
教科書／テキスト	・プリントを配布します。(1000円)
参 考 書	・岡部哲夫、藤田広志編『医用画像工学（第2版）』（医薬出版）3,800円

履修コード	153001・153002
科目名	画像工学概論Ⅰ 放射線写真学
担当者名	飯田 幸雄 <small>いいた ゆきお</small>

講義の到達目標(ねらい)

現在、医療に用いられる画像の重要性がさらに増している。また、画像の形成はアナログからデジタルへと大きく変化し、医用画像も画像処理が容易になった。それに伴い、携わる診療放射線技師の業務も少しずつ変わり、画像形成の重視から形成後の処理の重要性が増している。しかし、「正しく診断のできる画像を提供する」という本質は変わっておらず、診療放射線技師として、基本的な画像の形成・評価等の理解は重要である。

そこで、本講義においては、診療放射線技師として理解しておくべき、基本的な画像の形成から画像評価に関し、診療放射線技師国家試験の内容も含め講義する。

講義の内容／
授業スケジュール

・講義内容

(1) 総論 (計3回)

X線と画像／診療放射線技師と画像／一般画像と医用画像／その他

(2) 各論 (計12回)

①画像形成：・アナログ画像の形成

スクリーン・フィルム系におけるX線画像の成り立ち／感光理論／

現像・定着／感光材料／自動現像機／濃度

・デジタル画像の形成

／標本化／量子化／画素／画像・ファイルのデータ量／

②画像評価：信号の入出力特性（特性曲線）／

画質評価法（コントラスト、解像特性、粒状性特性、視覚評価等）

③その他： 必要に応じて（視覚特性／フーリエ変換等）

履修上の留意点

・基本的には板書・パワーポイントを使用した授業を行うが、口頭でのみ説明するもしくは教科書からノートに転書させる場合もある。

・授業内で当日の内容もしくは数回の授業内容に関する小テストを実施し、理解度を確認する。この小テストは、自筆ノートのみ閲覧可とする場合と閲覧不可とする場合がある。

授業内の小テストおよび出席も重視し、期末試験結果と合わせて総合評価する。

成績評価の方法
教科書／テキスト

『医用画像情報学』 桂川 茂彦 編 南山堂発行

『放射写真学』 富士フィルムメディカル(株) 編&発行

医用放射線科学講座14 『医用画像工学』 岡部 哲夫編 医歯薬出版株式会社

『基礎放射線画像工学』 内田 勝 オーム社

『デジタル放射線画像』 内田 勝 オーム社

参 考 書

医
療

履修コード	156001・156002
科目名	画像工学概論Ⅱ 画像工学概論
担当者名	<small>のぐち まさる</small> 野口 勝

<p>講義の到達目標(ねらい)</p> <p>講義の内容/ 授業スケジュール</p> <p>準備学習 履修上の留意点 成績評価の方法 教科書/テキスト 参考書</p> <p>その他</p>	<p>デジタル医用画像を中心とした医用画像情報技術の理論を学習する。具体的には、デジタル画像の形成、評価、処理、画像情報システム等に関する基本知識を身につける。技術を学習することはもちろん、診療放射線技師国家試験への準備という側面も意識し、国試関連問題を演習する。</p> <p>デジタル系を中心とし、以下の内容を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フーリエ変換の基礎 (第1～3回) フーリエ級数展開、フーリエ変換、畳み込み積分 2. デジタルX線画像の形成 (第4～6回) 画像のデジタル化、標本化定理とエリアシング、画像のデータ量等 3. デジタルX線画像の評価 (第7～9回) 入出力特性、解像特性、ノイズ特性、SN比、ROC解析等 4. デジタルX線画像の処理 (第10～12回) 階調処理、空間フィルタ処理、空間周波数フィルタ処理、しきい値処理、画像間演算処理等 5. 医用画像情報システム (第13～15回) PACS、RIS、HIS、情報システムとセキュリティ等 <p>スケジュール表を見て、きょう勉強する事は何か、をしっかりと意識して授業に臨んで欲しい。分野が多岐にわたり内容が多いので、自習を心がけること。</p> <p>2～3回の理解度確認テストと学習態度の総合点による。</p> <p>桂川茂彦編『医用画像情報学 改訂2版』(南山堂)、3,300円+税、ISBN978-4-525-27932-5 内田勝監修『デジタル放射線画像』(オーム社)、3,800円+税、ISBN4-274-13152-1。その他、必要な資料はプリントを配布する。</p> <p>理解を深めるため、臨機に演習を行う。</p>
--	--

履修コード	160301・160401
科目名	画像工学実験【実験】
担当者名	<small>せお やすつぐ</small> 瀬尾 育式・ <small>いいた ゆきお</small> 飯田 幸雄・ <small>こんどう けいすけ</small> 近藤 啓介・ <small>のぐち まさる</small> 野口 勝・ <small>ふるかわ かつはる</small> 古川 克治・ <small>またの こうじ</small> 俣野 公志

<p>講義の到達目標(ねらい)</p> <p>講義の内容/ 授業スケジュール</p> <p>履修上の留意点</p> <p>成績評価の方法 教科書/テキスト 参考書</p> <p>その他</p>	<p>画像診断分野は急速にデジタル化が進み、画像処理の知識や技術が大変重要になってきている。本実験では、デジタル画像処理とはどのようなものか、また画像処理が読影に如何に有効であるかにつき、CR画像形成システムや画像解析装置、超音波画像形成システムを使用して体験学習する。</p> <p><前期> テーマは大きく3つに分かれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アナログX線画像とデジタルX線画像の画質解析 (1)S/Fシステム及びFCRシステムの撮影技術とその画像の視覚特性 (2)S/Fシステム及びFCRシステムによる画像のRMS粒状度とその諸性質 2. CRデジタル画像の基礎 3. フーリエ変換の基本 <p><後期> 基本的な画像処理である4テーマの実験を行う。各テーマを1週の実験で終了し、レポートをまとめて提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボケマスクによる周波数処理の効果 2. 医用画像のフィルタ処理 3. WS、RMSによるノイズ特性 4. 超音波診断システムの画像特性 <p>2年次の「画像工学概論」で学習した理論を確実な知識とするための実験科目である。事前に教科書を復習しておくこと。</p> <p>よりよい画質の医療画像を作り出すため、物理評価はそのための手段として、視覚評価は人間による判断として大変重要である。実験では撮影した画像と物理測定データをよく比較対照し、内容のあるレポートにまとめて欲しい。検討・考察が不十分なレポートは再提出を求める。</p> <p>レポート、定期試験、実験中の態度などを総合評価する。</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>桂川茂彦編『医用画像情報学(改訂2版)』(南山堂)、3,300円+税、ISBN4-525-27932-X 単位取得には、所定の実験テーマを全て実施し、レポート及び試験に合格する必要がある。</p>
--	---

履修コード	163501
科目名	画像構築論 I
担当者名	こんどう けいすけ 近藤 啓介

講義の到達目標(ねらい)	近年のX線撮影ではCT(コンピュータ断層撮影)やMRI(核磁気共鳴映像法)などが普及してきています。これらの機器は計測されたデータをコンピュータで再構築する処理が不可欠となります。本講義ではCTやMRIの画像構成手法を中心に3次元処理などの基本的な画像処理について解説します。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1~4) フーリエ変換 (5~9) CT・MRIの画像再構成処理 (10~13) 3次元処理 (14~15) コンピュータ実習
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書/テキスト 参 考 書	演習形式で行うので、積極的に受講すること。 取り組み姿勢とレポート及び試験により評価する。 プリントを配布する。 近藤啓介・田畑慶人・笠井俊文著、オーム社、『医療画像処理実践テキスト』、4,200円 ISBN4-274-19744-1 岡部哲夫・瓜谷富三編集、『医用放射線科学講座14 医用画像工学』(医歯薬出版株式会社)

履修コード	164251・164261
科目名	画像処理概論
担当者名	こんどう けいすけ 近藤 啓介

講義の到達目標(ねらい)	医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要がある。また、画像の解析やデータの分析にはコンピュータを使う必要があり、コンピュータを使ってどのように処理するのか習得する必要がある。そこで、将来の医療現場に必要な情報処理技術・画像の処理解析技術・セキュリティの技術を演習を中心として体験しながら学ぶ。画像の解析においては統合表計算ソフトの利用方法を中心に演習を行う。医療用の画像処理技術であるフィルタ処理、データ変換、3次元処理などは画像処理ソフトを中心に行う。
講義の内容/ 授業スケジュール	1. データの解析方法 2. ヒストグラム解析 3. 分岐処理 4. 解析関数の使い方① 5. 解析関数の使い方② 6. 画像処理・解析ソフト「ImageJ」とは 7. 医療画像の読み込み(医療画像の仕組み) 8. 表示方法(白黒反転・2値化処理) 9. 階調処理 10. フィルタ処理 11. 周波数処理 12. 画像解析(プロファイル・RMSなど) 13. 3次元表示 14. CT・MRI画像の表示 15. 3D化処理
成績評価の方法 教科書/テキスト	取り組み姿勢・レポート・試験により評価する。 適宜、プリントと資料を配布する。

履修コード	159301
科目名	画像処理言語論
担当者名	近藤 啓介

講義の到達目標(わらい)

医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要がある。そのためにはコンピュータの中でどのように処理されているかを理解する必要がある。現在、画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われており、ここでは、基本的な画像処理を中心に学習する。

この授業では「計算機言語論」で習得したC言語を利用して、実際の医用画像に対して基本的な画像処理プログラムを作成する。そして、画像処理がコンピュータの中でどのように処理されているのかを自らプログラミングすることにより理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) ガイダンス・プログラミングの考え方
- (2) 画像のデジタル化
- (3) 医用画像の構成・DICOMとは
- (4) 平滑化フィルタ
- (5) ラプラシアンフィルタ・メディアンフィルタ
- (6) 医療画像の表示
- (7) Big EndianとLittle Endian・白黒反転
- (8~15) 画像処理プログラムの実習

準備学習

この授業では、C言語を利用して画像処理のプログラミングを作成します。前期の計算機言語論を履修して、C言語の基礎知識を習得する必要があります。

履修上の留意点
成績評価の方法
参考書

演習形式で行うので、積極的に受講すること。

取り組み姿勢・レポート・試験により評価する。

近藤啓介・田畑慶人・笠井俊文著、オーム社、『医療画像処理実践テキスト』、4,200円
ISBN4-274-19744-1

履修コード	162101
科目名	画像処理論
担当者名	近藤 啓介

講義の到達目標(わらい)

医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要がある。そのためにはコンピュータの中でどのように処理されているかを理解する必要がある。

「画像処理言語論」学んだ基本的画像処理を土台にして、実際の医用画像に対して行われている基本的な画像処理の手法から周波数解析の手法やデータ圧縮の方法などを解説する。そして、自らプログラミングすることにより画像処理の仕組みを理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 画像処理とは
- (2) 画像の拡大・縮小
- (3) 画像の鏡影・せん断
- (4) 画像の線形変換・合成
- (5) ソーベルフィルタ
- (6) ハイパスフィルタ・ローパスフィルタ
- (7) 画像圧縮
- (8~15) 画像処理の実習

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

演習形式で行うので、積極的に受講すること。

取り組み姿勢・レポート・試験により評価する。

適宜、プリントと資料を配布する。

近藤啓介・田畑慶人・笠井俊文著、オーム社、『医療画像処理実践テキスト』、4,200円

ISBN4-274-19744-1

履修コード	158501
科目名	画像診断機器工学
担当者名	瀬尾 育式

講義の到達目標(ねらい)

MRI (磁気共鳴イメージング装置) と超音波診断装置について講義する。

講義の内容/
授業スケジュール

その他、X線CT装置についてもその概要を講義する。
1~3. 核磁気共鳴 (MRI) の物理的原理 4. MR画像形成法とパルスシーケンス 5. MRアンギオ
6. MR装置の機器構成 7. MRIの諸特性 8. 超音波診断装置概説 9. 超音波の物理的基礎 10.
超音波診断装置 機器 11. 分解能とS/N 12. アーチファクト 13. 超音波検査の概要 (循環器、
腹部、体表、産科) 14. 超音波の最新動向 15. X線CTの原理

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

学修の内容が多いので、良く復習してください。

学期末試験、授業内での中間テストにより評価する。

・佐々木博 著 『医用超音波論』 国際医療福祉大 1000円(本屋で扱っていません、授業開始時に教場で販売)

・佐々木博 著 『医用磁気共鳴論』 国際医療福祉大 1000円(本屋で扱っていません、授業開始時に教場で販売)

参 考 書

・必要に応じて教材用プリントを使用する。

・日本放射線技術学会監修 放射線技術シリーズ『MR撮像技術学』(株)オーム社 5460円

・木村雄治著 『画像診断装置入門』 コロナ社 3000円

・高原太郎著 『MRI自由自在』 メジカルビュー 7000円

・伊藤・望月著 『超音波診断装置』 コロナ社 2800円

・千原著 『日本エム・イー学会編/ME教科書シリーズ 超音波』 コロナ社 2700円

・佐久間・桑島著 『よくわかる超音波検査入門講座』 永井書店 9240円

履修コード	159401
科目名	画像診断技術学 I
担当者名	嶋田 守男

講義の到達目標(ねらい)

放射線診療で利用されている画像診断法(主としてX線コンピュータ断層撮影(CT)や磁気共鳴画像法(MRI)、超音波検査など)の原理について習熟し、各モダリティの代表的な画像情報処理法を理解する。各種画像から得られる情報を総合的に診断する方法について学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

(1、2) 放射線科が扱う検査(X線撮影、X線CT、PET-CT、超音波検査)

(3、4) 画像診断に必要な解剖知識

(5、6) 磁気共鳴画像法(MRI)の撮像原理と画像診断法

(7、8) 磁気共鳴画像法(MRI)によるアーチファクト

(9、10) 磁気共鳴血管撮像法(MRA)の撮像原理と診断法

(11) 磁気共鳴画像法(MRI)に使用する造影剤と有効性と安全性

(12、13) 超音波検査(US)のアーチファクトと診断法

(14) 超音波検査(US)に使用する造影剤の有効性と安全性

(15) 総合画像診断の実際に分けて系統的に学習する。

履修上の留意点

画像解剖の基礎知識を復習しておく。そして各種画像診断法の画像を学修しながら実践に用いることができるようにする。

成績評価の方法
教科書/テキスト

授業の出席率と定期試験により評価する。

使用しない。プリントを配布する。

医療

履修コード	163701
科目名	画像診断技術学Ⅱ
担当者名	よしかわ こうき 吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい)	診療放射線医学で扱う種々の画像診断モダリティにおける正常像と代表的疾患の異常像ならびに装置特有のアーチファクトについて学び、各疾患ごとの効率的な検査の進め方をマスターしていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1-3) 中枢神経系における代表的疾患 (4、5) 頭頸部における代表的疾患の検査法 (6、7) 呼吸器系における代表的疾患の検査法 (8-10) 消化器系における代表的疾患の検査法 (11、12) 泌尿生殖器系における代表的疾患の検査法 (13-15) 四肢関節系における代表的疾患の検査法
履修上の留意点	画像診断モダリティーの種類と特徴、それぞれの画像法の原理について復習しておく。各臓器別、疾患別の各種画像診断法の効率的かつ有効な応用法の学修を目指す。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	授業時間内の小テスト、定期の筆記試験。 使用しない。プリントを配布する。 笠井俊文・小川敬壽共編『診療画像機器学』（オーム社）5,400円

履修コード	155501
科目名	画像数学
担当者名	しむら かずお 志村 一男

講義の到達目標(ねらい)	画像数学は画像研究の基礎となる学問、科学である。X線写真、CT、MRといった様々な医用画像の画質評価、また画像強調、データ圧縮、画像認識といった各種の画像処理は全てその基礎となる画像数学の上に成立している。本講義を通じて画像数学を理解する事により、画質評価や画像処理の本質を把握してもらいたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	画像のデジタル化における数学（1～3） 画像数学の基礎（フーリエ解析）（4～6） フィルタ処理における数学（7～9） 画質評価における数学（10～15）
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	中間期末試験、学習状況により評価する。 授業内容に関するプリントを随時配布する。 ローゼンフェルド、カク『デジタル画像処理』（近代科学社）

履修コード	163601
科目名	画像伝送論
担当者名	ひろた よしのり 廣田 尊宣

講義の到達目標(ねらい)	近年ではPACS (Picture Archiving & Communication System) が普及し、放射線科部門のみならず院内での検査運用が広くデジタル化されてきています。医用画像情報システムを構築し、運用を管理するとともに蓄積された診療データを利活用することで、医療の質と効率を上げることが重要な課題になってきています。本講座では画像通信の基本となるネットワーク技術、DICOM (Digital Imaging and Communications in Medicine) 及びストレージ技術について概要を学びます。前半は講義中心に進めます。後半は実習中心に進め、前半の講義で学習した内容の理解を深めます。
講義の内容／ 授業スケジュール	
成績評価の方法 教科書／テキスト	試験とレポートにより評価します。 講義内容に関するプリントを随時配布します。

履修コード	164001
科目名	画像と放射線治療
担当者名	よしかわ こうき 吉川 宏起

講義の到達目標(わらい)	放射線治療は、放射線診断とともに医学における電離放射線利用の柱であり、現在も大きく進歩している領域である。本講義では各臓器における悪性腫瘍の病期決定に必要な画像情報とその検査法、放射線治療法について習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) 放射線治療における画像診断 (2、3) 脳腫瘍の放射線治療と画像診断 (4-6) 頭頸部腫瘍の放射線治療と画像診断 (7、8) 肺腫瘍の放射線治療と画像診断 (9、10) 消化管腫瘍の放射線治療と画像診断 (11) 肝・胆・膵腫瘍の放射線治療と画像診断 (12、13) 婦人科腫瘍の放射線治療と画像診断 (14) 泌尿器科腫瘍の放射線治療と画像診断 (15) 悪性リンパ腫の放射線治療と画像診断
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト	放射線治療計画を行う上で必要な画像情報とそれを得るための撮影技術を理解する。 授業時間内の小テスト、定期的筆記試験による。 使用しない。プリントを配布する。

履修コード	153201
科目名	環境保健医学
担当者名	くろこ こういち 黒子 幸一

講義の到達目標(わらい)	人間を取り巻く環境が健康に及ぼす影響と疾患との関係、疾病予防についての基礎的知識の習得を目的とする
講義の内容／ 授業スケジュール	健康を阻害する疾病、社会要因、環境因子を理解するために年齢別疾病罹患（高齢化社会の疾病）、環境因子の地域差・推移を知り、予防医学的考察まで進める
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	小テスト、レポート提出を実施する 定期試験、小テスト、レポートにより評価する 『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂）2,400円 『国民衛生の動向』厚生指針（厚生統計協会） 授業方法は講義形式を主にビデオ学習、グループディスカッション、ロールプレイを行う プリント配布、講義スライド資料配布予定

履修コード	160001
科目名	技術英語
担当者名	たかはし まさみ 高橋 優身

講義の到達目標(わらい)	放射線技師のための「専門英語」を習得することがこの科目の目標であるが、開講が半期のため、「信頼される」放射線技師であるための必須条件に絞って、関連の「専門英語」を習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	1～2回 Want to Be an R.T. ? 3～5回 ASRT Code of Ethics 6～8回 Practice Standards 9～11回 Radiography Clinical Performance Standards 12～13回 Quality Performance Standards 14～15回 Professional Performance Standards
履修上の留意点	規定の出席率を越えた学生のみ試験受験資格を有する。予習が必要であろう。授業時の活発な発言を期待する。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	学期末試験を基本に評価します。 プリント配布。 授業時に指示。 演習形式で行うので、学生主体の授業である。

履修コード	159601
科目名	救急医療学
担当者名	<small>おくやま やすお</small> 奥山 康男

講義の到達目標(ねらい)	救急医療は、病院到着前救護（プレホスピタルケア）と医療機関との両者が一体となってはじめて成立するものである。総合的かつ広範な医学知識や技術、そして十分な臨床経験が必要である救急医療において医療画像情報を提供する診療放射線技師の役割は大変重要である。本講義では実際の臨床現場で備えておかなければならない救急時の検査手技等の基礎知識を学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回～ 3回：救急医療学の概略と心構えについて 第4回～ 14回：救急医療における検査方法と手技、画像の読み方について 第15回：実技を兼ねた上級救命技能認定講習（AED取扱）を世田谷消防署の協力にて開催予定 ※消防署に支払う受講料（平成22年7月現在において¥2,600）は受講時に別途発生
準備学習 履修上の留意点	1・2年で学習した解剖学や診療画像技術学の基礎知識を見直すことで授業内容が理解しやすくなる。臨床画像をプロジェクトに映しながら授業を行うので配付資料と画像とが結び合うように関連づけをしっかりと覚えること。
成績評価の方法 教科書／テキスト	授業出席状況、受講態度、前期・後期定期試験による総合評価にて決める。 プリントを配布する。

履修コード	164401
科目名	計算機言語論
担当者名	<small>こんどう けいすけ</small> 近藤 啓介

講義の到達目標(ねらい)	今日、病院で取り扱われている医用画像の多くは、デジタル信号化され画像処理されている。画像処理を行うためには、画像処理ソフトを利用する方法もあるが、新しい方法で処理する場合や、開発をするためには、自らプログラミングする必要がある。 この授業では、プログラミングのための基本的な知識を習得することを目指します。ただし、半年間という短い期間ですので、画像処理でフィルタ処理をするために必要な基本的な命令文に絞って学習します。プログラミング言語はC言語を利用します。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) プログラミング (2) 変数とは (3～4) 変数による計算 (5～6) 繰り返し文 (7～8) 分岐文 (9～11) 繰り返し文の実習 (12～13) 分岐文の実習 (14～15) ソートプログラミングの実習
履修上の留意点	画像処理言語論の受講にあたっては、この授業にてC言語の知識を習得している必要があるため、画像処理言語論の受講予定者は必ず受講すること。
成績評価の方法 教科書／テキスト	授業の半分は演習を行います。積極的に受講すること。 レポート及び試験により評価する。 プリントを配布する。

履修コード	155601
科目名	原子核物理学
担当者名	ながい よしのり 永井 喜則

講義の到達目標(ねらい)	放射線物理学で学習した内容を基礎とし、原子核と放射線に関する講義を行う。特に α ・ β 壊変と γ 線放射は、今後、放射性同位元素の応用を考える上での基礎となるものである。正確な理解をすると共に、他の科目との関連を意識しながら受講すること。
講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子核の性質（構成粒子、質量、結合エネルギー、核力、核模型、磁気モーメント） 2. 放射性壊変（放射能、α・β・γ線、壊変図） 3. α壊変（α線のエネルギー、ガイガーヌットルの法則、トンネル効果） 4. β壊変（β^-壊変、β^+壊変、β線のエネルギー、電子捕獲、カリープロット） 5. γ線放射（γ線の角運動量、核異性体、内部転換、メスバウアー効果） 6. 核反応（核反応の種類、Q値、しきい値、核反応断面積、複合核、光核反応） 7. 中性子（中性子の性質、中性子発生源、エネルギーによる分類） 8. 原子炉（核分裂と放出エネルギー、中性子の減速、原子炉の構造、中性子捕捉療法）
履修上の留意点	講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするように心がけてほしい。講義の後には、短時間でも必ず復習を行うこと。
成績評価の方法	定期試験以外に中間試験を2回行い、その結果から成績を評価する。
教科書／テキスト	教科書は使用しない。
参 考 書	上原周三著『放射線物理学』（南山堂） 田島英三著『原子核物理概論』（地人書館） 鷲見義雄著『原子核物理入門』（裳華房）
そ の 他	授業の中では演習問題を解くこともする。電卓を用意しておくこと。

医療

履修コード	165301
科目名	最新医療技術
担当者名	よしかわ こうき 吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい)	医療における技術開発は目覚ましい。本講義では最新画像診断技術学を中心に新しい診断技術および治療技術について習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1-3) 放射線診断学における最新医療技術 (4、5) 核医学診断学における最新医療技術 (6、7) 放射線治療学における最新医療技術 (8-10) MRI技術の最新情報 (11-13) X線CT技術の最新情報 (14-15) IVRの最新情報
履修上の留意点	1年～3年次の解剖学と病理学の復習を行っておくこと。
成績評価の方法	授業中の小テスト、定期期末テストによる評価。
教科書／テキスト	特になし。プリントを配布。

履修コード	156101
科目名	診療画像技術学
担当者名	にしお せいじ 西尾 誠示

医療

講義の到達目標(ねらい)

画像技術学はX線解剖学や基礎的な画像工学を元にした幅広い分野から構成される。体表解剖、解剖・生理を裏付けとした整位、及び理論的な撮影条件を始めとして臨床画像の評価まで含めて講義を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 放射線の取扱い
- (2) X線撮影の基礎
- (3) 画像の理論
- (4) 患者接遇について
- (5) X線撮影の基準線、体位について
- (6) 頭部の撮影技術 1
- (7) 頭部の撮影技術 2
- (8) 聴器の撮影技術
- (9) 副鼻腔の撮影技術
- (10) 眼窩・顔面の撮影技術
- (11) 頸椎の撮影技術
- (12) 胸椎の撮影技術
- (13) 腰椎の撮影技術
- (14) 胸郭の撮影技術
- (15) 肩関節・周囲の撮影技術
- (16) 上肢骨の撮影技術
- (17) 骨盤の撮影技術
- (18) 股関節の撮影技術
- (19) 下肢骨の撮影技術
- (20) 胸部撮影の理論
- (21) 胸部撮影の技術
- (22) 腹部の撮影技術
- (23) 乳腺撮影・理論
- (24) 乳腺撮影・技術
- (25) 小児の撮影技術・頭部
- (26) 小児の撮影技術・胸部、腹部
- (27) 小児の撮影技術・股関節、脊椎
- (28) 画像の評価方法について
- (29) 研究方法と論文の書き方
- (30) まとめ

準備学習
履修上の留意点

教科書を事前に読んで授業に出席すること。

講義はスライドと教科書を併用して行われる。スライドには要点を示してあるので必ずノートをとること。

成績評価の方法

中間試験および定期試験の結果を基準に評価する。評価割合を中間試験45%、定期試験45%とし、平常点を10%とする。

教科書／テキスト
参 考 書

『放射線画像技術学』(医歯薬出版) 4,800円

講義用スライド、プリント

履修コード	153301
科目名	診療画像技術学概論
担当者名	西尾 誠示

講義の到達目標(ねらい)

医療の場において診療放射線技師の果たす役割とその関連事項、及び診療画像技術学を学ぶ上で基礎となるX線画像の基礎知識について講義を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 医療社会の構成、医療・病院の仕組みについて
- (2) 放射線学の歴史、診療放射線技師の役割、将来の展望等について
- (3) 診療放射線学とチーム医療について
- (4) X線の発生、線質、減弱、物質との相互作用、写真効果などについて
- (5) X線照射によって生じる写真効果と画像の拡大、歪み、重責効果など
- (6) 写真濃度とフィルムの特性曲線について
- (7) 被写体コントラストと写真コントラストについて
- (8) 鮮鋭度と粒状度(性) について
- (9) 管電圧、散乱線とグリッド、フィルム・増感紙などについて
- (10) 最適な画像を得るための理論的な考え方、課題と改善策について
- (11) 医療画像検査を行う上で重要な基準線、名称などについて
- (12) 画像検査の種類と特殊撮影の原理・応用
- (13) 単純撮影について
- (14) 造影剤を用いた画像検査について
- (15) まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書
その他

事前に教科書を読んでおくこと。

講義のスライドに要点を示してあるので、必ずノートに取ること。

評価に占める割合は定期試験を90%、平常点を10%とする。

立入弘著『診療放射線技術』(南江堂) 6,800円

講義用スライド及びプリント

授業中に質問あるいは意見を求める。

医療

履修コード	153901
科目名	診療画像技術学実験〔実験〕
担当者名	西尾 誠示・飯田 幸雄・熊坂 さつき・古川 克治

講義の到達目標(ねらい)

X線装置及び周辺機器の構造を理解し、正しい使用法を習得する。
X線画像を左右する要因と基礎的な画質評価について実験を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) X線量と写真濃度
被検体からより多い情報を得るための適切な線量を求める。ファントムを用いて、照射を行いX線の吸収と写真濃度を理解する。
- (2) 撮影条件表の作成
アクリル板を用い、その厚さの変化に対する適正な線量、電圧を求め、条件表を作成する。
- (3) 照射野の線量分布と撮影距離
X線照射野とフィルム・X線焦点間距離を変化させ写真濃度を測定し、その濃度を相対露光量に変換することによって照射野内のX線分布を把握する。
- (4) フィルムの特性曲線の作成
距離の逆二乗則を利用した距離法にて複数の特性曲線を作成する。特性曲線と露光量の関係を理解するとともに、その利用方法を学ぶ。
- (5) 撮影電圧とコントラスト
管電圧とファントムの厚さを変化させ、線質や被写体の違いが画質に及ぼす影響を調べる。
X線吸収差の少ない被写体のコントラストを評価する。
- (6) 増感紙の感度
フィルムの特性曲線を作成し、各種増感紙の相対感度を求める。増感紙とフィルムの正しい組合せ、および感度と被曝線量の関係について学習する。
- (7) フィルム・増感紙の鮮鋭度／解像力
X線テストチャートを用いて、フィルム・増感紙の鮮鋭度を求める。マイクロデンシトメータの取扱いを習得する。
- (8) 散乱線の評価
上記の特性曲線を用いて、鉛ディスク法による散乱線含有率を求める。被写体厚と照射野を変化させて散乱線の量を測定し、臨床における量を把握する。
- (9) グリッドの性能評価
鉛ディスク法にて散乱線透過率、直接線透過率、全X線透過率から露出倍数、コントラスト改善度、選択度を求め、グリッドの基本的性能を評価する。
ガイドランスで配布したプリントを授業前に読んでくること。
授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。
実験マニュアルを事前によく読んで、内容を把握しておくこと。
定期試験、レポートについて総合的に判定する。評価の割合を定期試験60%、レポートを40%とするが、受験資格は全レポートを提出したものに限られる。
実験マニュアルを配布する。
立入弘監修「診療放射線技術上巻」(南江堂) 6,800円
他人のレポートをコピーして提出するなどの不正行為は本科日の受験資格を失います。

医療

準備学習
履修上の留意点

成績評価の方法

教科書／テキスト
参考書
その他

履修コード	154001
科目名	診療画像技術学実験〔実験〕
担当者名	西尾 誠示・熊坂 さつき・古川 克治・飯田 幸雄

講義の到達目標(ねらい)

X線装置及び周辺機器の構造を理解し、正しい使用方法を習得する。
X線画像を左右する要因と基礎的な画質評価について実験を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) X線量と写真濃度
被検体からより多い情報を得るための適切な線量を求める。ファントムを用いて、照射を行いX線の吸収と写真濃度を理解する。
 - (2) 撮影条件表の作成
アクリル板を用い、その厚さの変化に対する適正な線量、電圧を求め、条件表を作成する。
 - (3) 照射野の線量分布と撮影距離
X線照射野とフィルム・X線焦点間距離を変化させ写真濃度を測定し、照射野内のX線分布を把握する。
 - (4) フィルムの特性曲線の作成
距離の逆二乗則を利用した距離法にて複数の特性曲線を作成する。特性曲線と線量の関係を理解するとともに、その利用方法を学ぶ。
 - (5) 撮影電圧とコントラスト
電圧とフィルター厚を変化させ、線質の違いが画質に及ぼす影響を調べる。
X線吸収差の少ない被写体のコントラスト、微小検体の描出度を評価する。
 - (6) 増感紙の感度
フィルムの特性曲線を作成し、各種増感紙の相対感度を求める。増感紙とフィルムの正しい組合せ、および感度と被曝線量の関係について学習する。
 - (7) フィルム・増感紙の鮮鋭度／解像力
矩形波チャートを用いて、フィルム・増感紙の鮮鋭度を求める。マイクロデンシトメータの取扱いを習得する。
 - (8) 散乱線の評価
上記の特性曲線を用いて、鉛ディスク法による散乱線含有率を求める。被写体厚と照射野を変化させて散乱線の量を測定し、臨床における量を把握する。
 - (9) グリッドの性能評価
鉛ディスク法にて散乱線透過率、直接線透過率、全X線透過率から露出倍数、コントラスト改善度、選択度を求め、グリッドの基本的性能を評価する。
- ガイダンスで配布したプリントを授業前に読んでおくこと。
授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。
実験マニュアルを事前によく読んで、内容を把握しておくこと。
定期試験、レポートについて総合的に判定する。評価の割合を定期試験60%、レポートを40%とするが、受験資格は全レポートを提出したものに限られる。
実験マニュアルを配布する。
立入弘監修「診療放射線技術上巻」(南江堂) 6,800円
レポートの不正行為は本科目の受験資格を失うので注意すること。

準備学習
履修上の留意点

成績評価の方法

教科書／テキスト
参考書
その他

医療

履修コード	158801
科目名	診療画像情報学Ⅰ
担当者名	西尾 誠示

講義の到達目標(ねらい) 主に造影剤を用いた検査と画像を主体に講義を行う。この講義内容は臨床実習の基礎となるので、学生は実際の検査手技と臨床画像の評価方法を習得すること、更に最低限正常像について解説できることが求められる。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 概論
- (2) 胸部単純像の評価
- (3) 乳腺検査の現状と技術
- (4) 下咽頭・食道の画像検査技術
- (5) 上部消化管造影の技術
- (6) 腹部実質臓器の検査技術
- (7) 泌尿器の画像検査技術
- (8) 下部消化管造影技術
- (9) 心・大血管の検査技術と画像評価
- (10) 冠状動脈の検査技術と画像評価
- (11) 腹部血管の検査と画像評価
- (12) 頭部血管造影検査と画像評価
- (13) CT検査技術・基礎
- (14) CT検査技術・応用
- (15) まとめ

準備学習
履修上の留意点 事前に教科書を読んでおくこと。
教科書とスライドを併用し、主に撮像技術と臨床画像について解説する。履修者は生体解剖と対比しながら画像を評価することが望まれる。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書
その他 定期試験の結果と学習意欲を基準にする。評価の割合を定期試験90%、平常点を10%とする。
稲本一夫編『放射線画像技術学』(医歯薬出版) 4,800円
講義用スライドおよびプリント
授業は講義形式であるが、内容により質問あるいは意見を求める。

履修コード	163801
科目名	診療画像情報学Ⅱ
担当者名	西尾 誠示

講義の到達目標(ねらい) ここでは実際の臨床写真を用いて生体と画像の因果関係を中心に、撮像技術および画像の品質管理も含めて講義する。診療技術科学コースの学生は最低限正常例について理解し、それを自ら解説できる能力を身につけなければならない。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 概論
- (2) 画像に影響を及ぼす因子と画質の評価尺度
- (3) 胸部単純像の画像評価
- (4) 胸部CT像の画像評価・単純像との対比
- (5) 腹部領域における画像評価
- (6) 腹部CT像と画像評価
- (7) 乳腺X線画像の評価、乳腺画像の品質管理
- (8) 頭部単純像の画像評価
- (9) 消化管造影像の評価
- (10) 椎骨X線像の画像評価
- (11) 四肢骨X線像の画像評価
- (12) 心・大血管の検査と画像評価
- (13) 頭部血管像の画像評価
- (14) 頭部CT像の画像評価
- (15) まとめ

準備学習
履修上の留意点 事前に教科書を読んでおくこと。
医療画像の画質の評価が出来るようになること。
正常像について解説できるようになること。
典型的な症例について理解できるようになること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書 定期試験の結果と学習意欲を基に評価する。評価の割合は試験結果を90%、平常点を10%とする。
放射線画像医学 (医歯薬出版) 3,800円
講義用スライドおよびプリント

履修コード	165601
科目名	診療機器システム学
担当者名	近藤 啓介

講義の到達目標(ねらい) 診療機器は病院情報システム、放射線部情報システムやPACSなどのサブシステムであると同時に、それ自体システムとみなすことができる。そこで、まず、システムの信頼性をどう捉えるかが重要である。

また、医療機器以外にも診療放射線技師は医療画像を評価・解析するシステムの操作方法の習得は将来、研究をするときに必要になってくる。授業では、実際のシステムを操作を行いながら、利用方法を学ぶ。また、最新の画像解析装置や特殊な測定装置や評価装置も体験しながら、その仕組みを理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) システムの信頼性
- (2) システムとシステムズ・アプローチ
- (3～6) システムの操作方法の実習
- (7～12) 解析装置の実習
- (13～15) 実際の装置を使った解析・評価

履修上の留意点

画像の解析や評価の基礎知識が必要不可欠であるため、受講希望者は画像コースの勉強会に参加することが望ましいので、履修前に担当教員に確認をとること。

また、実際にシステムを利用しながら学ぶため、演習時には授業時間以外に週2回程度必要になるので、積極的に出席すること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

レポートの内容と実習の取り組み状況から評価する。
適宜プリントを配布する。
講義の中で随時紹介します。

履修コード	155401
科目名	生化学
担当者名	原田 和正

講義の到達目標(ねらい) 生化学の分野から、診療放射線技師にとって最低限必要と思われる項目に重点を置いて学習する。

講義の内容／
授業スケジュール
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

- (1) 序 (2～4) 生体分子の基礎化学 (5～7) 核酸とタンパク (8～10) 代謝の化学
 - (11～13) 酵素の働きと反応速度 (14～15) 生体の機能と分子
- 定期試験70%と平常点30%で評価する。
猪飼篤著『化学入門コース8生化学』(岩波書店) 2,913円
林典夫・廣野治子編『シンプル生化学』(南江堂) 2,800円

履修コード	155301
科目名	生理学
担当者名	樋口 雄三

講義の到達目標(ねらい) 生理学は、専門的知識を構築する基礎となるものであり、十分に習得して欲しい。講義では、いろいろな生命現象が関連し、恒常性が維持されていることをわかりやすく解説する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 恒常性維持と生体防御機構
2. 血液・体液
3. 心臓血管系・循環系
4. 呼吸
5. 消化・吸収・代謝
6. 排泄
7. 内分泌
8. 脳・神経系
9. 筋・行動系
10. 感覚系

成績評価の方法
教科書／テキスト

定期試験、平常点などから総合的に評価する。
下 正宗『人体の構造と機能』(医学書院) 3,000円

医療

履修コード	162201
科目名	線量計測工学
担当者名	小川 ^{おがわ} 雅生 ^{まさお}

講義の到達目標(ねらい) 放射線治療にとって重要な吸収線量に関する物理および装置について講義する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1 回 フルエンス、エネルギーフルエンス、放射エネルギー
- 2 回 放射線治療用加速器
- 3-4 回 カーマ、空気カーマ、照射線量、吸収線量
- 5 回 電離箱
- 6-7 回 吸収線量の標準測定法
- 9 回 荷電粒子平衡
- 10-11 回 ブラッグ・グレイの空洞理論
- 12 回 電離箱による測定例
- 13 回 化学線量計
- 14 回 電子線、X線の線量計測
- 15 回 実効線量、線質係数、放射線荷重係数

履修上の留意点 線量計測の背景にある放射線物理を把握すること。

成績評価の方法 定期試験の他、講義中に行う演習問題および出席状況により評価する。

教科書／テキスト YeStudyに参考資料を掲載する。

参 考 書 外部放射線治療における吸収線量の標準測定法（日本医学物理学会編、通商産業研究者発行）

履修コード	152801
科目名	電気工学
担当者名	佐藤 ^{さとう} 昌憲 ^{まさのり}

講義の到達目標(ねらい) 交流回路理論の基礎知識を得ることを目的としているこの科目は、診療放射線技師国家試験科目であるので、十分な演習と中間テストも合わせて講義をする。

講義の内容／
授業スケジュール

次の内容で授業を進める。

- 1) 交流回路の基礎
- 2) 交流の平均値・実効値
- 3) 正弦波交流の基本回路
- 4) 交流の直列回路
- 5) 交流の並列回路
- 6) 交流の電力
- 7) 複素数とベクトル
- 8) 交流回路の計算
- 9) 相互インダクタンスを含む回路の計算
- 10) 三相交流の基礎
- 11) 三相の結線方法と電圧・電流の関係
- 12) 三相交流の電力と力率
- 13) 平衡三相交流回路の計算
- 14) 電気計測（電圧・電流・電力の測定）

成績評価の方法 中間テストと定期テストの結果より評価する。また、授業の出席数や課題レポートも加味する。

教科書／テキスト 『電気基礎下』（東京電機大学）

履修コード	156401・156501
科目名	電気電子工学実験〔実験〕
担当者名	青木 清・金子 順一・川副 護・吉田 正廣

講義の到達目標(ねらい)

各種医療機器の動作を理解しようとするとき、電気工学や電子工学の知識は不可欠のものである。これらの知識は、実際に素子や回路を動作させるという体験により、しっかりと定着する。本実験では、電気・電子工学分野の各種回路を自分達で組み立て、特性を測定する。これにより、素子や回路の動作の実際を体得する。

講義の内容／
授業スケジュール

少人数の班に分かれ、以下のように実験を行う。実験テーマの順序は班により異なる。
第1～3回：実験の目的と内容の解説、実験の実施に関する説明（班分け、実験順序、注意事項）、レポート作成上の注意、第4回：電磁誘導回路（自己誘導、相互誘導、変圧器）、第5回：コンデンサの充放電（過渡特性、時定数）、第6回：RC直列回路（交流の位相、微分回路、積分回路）、第7回：直列共振（RLC回路、Q）、第8回：並列共振（RLC回路、Q）、第9回：半導体素子（ダイオード、サイリスタ、トランジスタ）、第10回：集積回路（演算増幅器、論理回路）、第11回：整流回路（半波整流、全波整流、平滑回路）、第12回：ツェナーダイオードによる定電圧回路（ツェナー電圧、定電圧特性）、第13回：三相12ピーク整流回路（三角結線、星形結線、リップル百分率）、第14～15回：レポート指導

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

実験の前に実験内容を予習し、必要となるグラフ用紙や電卓などを用意しておく。
電気工学、電子工学、放射線機器工学等での学修内容と関連づけながら実験を進めること。
実験の実施状況、実験レポート、試験により評価する。
『電気電子工学実験』（ガイダンスのときに配布する。）

医療

履修コード	155801
科目名	電子工学
担当者名	金子 順一

講義の到達目標(ねらい)

電子工学は、電子の挙動の制御を通してエネルギーや情報などを制御する技術である。この技術は、医療分野の測定器から日常生活まで極めて広い範囲の基盤となっている。本講義の目標は、電子工学を理解するうえで必要となる基礎的事項や、それをもとにした基本的な素子（トランジスタやダイオード等）、電子回路（増幅回路や論理回路等）の動作について理解することである。講義は以下の内容で行う。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回～第3回 電子の基本的性質、相互作用
第4回～第6回 電子管技術
第7回～第15回 半導体、半導体素子
第16回～第21回 電子回路技術
第22回～第27回 デジタル回路技術、論理回路、コンピュータ
第28回～第30回 測定回路・測定器、電子機器への応用

成績評価の方法
教科書／テキスト

中間試験、期末試験及び出席状況で評価を行う。
宇佐美晶・曾根福保共著『テキストブック 電子工学概論』（日本理工出版会）2,500円＋税
ISBN4-89019-115-4

その他の

この科目は、診療放射線技師国家試験の試験科目に含まれている。

履修コード	155201
科目名	病理学
担当者名	吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい) 病理学は医学の根幹をなす重要な科目であり、さまざまな臓器・器官における疾患の成り立ちを追求する学問である。臨床医学を理解するための基礎的知識として特に重要な項目をとりあげて解説する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 病理学の歴史と細胞内小器官
- (2、3) 病理学総論：先天性疾患、退行性疾患、進行性疾患、循環障害
- (4、5) 炎症と感染症
- (6、7) 免疫機構と自己免疫機構
- (8) 腫瘍
- (9) 循環器障害
- (10) 呼吸器障害
- (11、12) 消化器障害
- (13) 泌尿器障害
- (14) 代謝性疾患
- (15) 神経系疾患

履修上の留意点 これまで学修してきた解剖学と生理生化学の知識を基礎にさまざまな病態のメカニズムを理解し、それらの異常がどのような画像所見を示すのかを知っていくことが大切である。

成績評価の方法
教科書／テキスト 授業時間内的小テスト、定期の筆記試験。
使用しない。プリントを配布する。

履修コード	155701
科目名	放射化学
担当者名	山本 裕右

講義の到達目標(ねらい) 診療放射線技師として必要な放射性同位元素の化学について学ぶ。

本講義では、すでに1年次に学んだ「基礎化学」および「放射線物理学」、さらに2年次で並行して学ぶ「原子核物理学」で得た、化学的、物理的知識を基に、放射性同位元素の化学について解説する。またここで学ぶ事柄は、3年次の「核医学検査技術学基礎実習」を履修するための必要不可欠な学問的基礎となるものであると同時に、「核医学」、「放射線管理学」に必要な放射化学的知識の基礎となるものである。

講義の内容／
授業スケジュール

なお、診療放射線技師国家試験の科目として「放射化学」がある。

- (1～3) 放射能・放射性核種、(4～6) 天然に存在する放射性同位体、(7～9) 放射壊変および壊変則、(10～13) 放射平衡、(14～16) 放射性核種の製造、(17～21) 放射性同位体の分離・精製、(22～26) 放射能を利用する分析法、(27～30) 放射性標識化合物の合成法

成績評価の方法
教科書／テキスト 2回の中試験(各30%)、学年末試験(30%)および平常点(10%)により評価する。
使用しない。

参 考 書 データブックとして 日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』(日本アイソトープ協会1,680円)を使用する。講義には必ず持参すること。

そ の 他 並行して演習問題を行うので、関数電卓を持参すること。

履修コード	165401
科目名	放射化学特論
担当者名	ほらだ かずまさ 原田 和正

講義の到達目標(ねらい)

核医学で用いられる放射性同位元素および標識化合物についての各論を学ぶ。現在、放射性医薬品として使われている放射性核種は^{99m}テクネチウムをはじめとして、¹³³キセノン、⁶⁷、⁶⁸-ガリウム、¹²³、¹²⁵、¹³¹-ヨウ素など多種にわたる。これらの核種を利用しての核医学検査技術的な面については3年次の「核医学」で既に学んでいるが、本講義においてはin-vivo放射性医薬品の体内での挙動を理解するうえで基礎となる事項を中心に解説するとともに、放射平衡や半減期計算など放射化学における基本事項の再確認を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

^{99m}テクネチウムを中心に以下の内容について講義する。

・テクネチウム

発見の歴史(1)、核的性質(2~3)、化学的性質(4~5)、製造法(6~7)、ジェネレータ(8~9)、標識化合物の性質と標識法(10~11)

・その他の核種：キセノン、クリプトン、ガリウム、インジウム、タリウム、ヨウ素(発見の歴史とその存在、化学的性質、核的性質、製造法、⁸¹Rb—^{81m}Krジェネレータ、標識化合物の性質と標識法)(12~15)

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

筆記試験70%と平常点30%により評価する。

使用しない。

日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』(日本アイソトープ協会)1,680円 講義には必ず持参すること

履修コード	158401
科目名	放射線医学概論
担当者名	しまだ もりお 嶋田 守男

講義の到達目標(ねらい)

既に学んだ人体解剖学および人体病理学の基礎の上に、放射線診断が臨床医学の中で占める役割について時代をおって現在にいたるまで理解することを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

放射線医学のはじまりと発展の歴史、放射線診断学の現況を解説すると共に、主要疾患につき診断手法の適応と選択、診断能とその限界について講義をすすめる。

(1)放射線医学のはじまりと発展の歴史

(2—6)放射線診断学の現況

(7—15)主要疾患につき診断手法の適応と選択、診断能とその限界に分けて系統的に学習する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

既習の科目と関連する部分は各自必要に応じて復習しておくこと。

講義の出席率と定期試験の成績により評価する。

使用しない。必要なプリントを配布する。

履修コード	165101
科目名	放射線化学特論
担当者名	ほらだ かずまさ 原田 和正

講義の到達目標(ねらい)

本講義においては、固体の放射線化学のうち、特に、放射線と固体との相互作用を利用した放射線線量測定に関係する領域について解説する。まず、イオン結晶、共有結晶、ガラスについて放射線の固体への効果を概観し、固体に残される放射線効果と格子欠陥の関係、空孔と捕獲中心などに触れながら、放射線のエネルギーがいかんして固体中に蓄積されるか、また、蓄積されたエネルギーをいかにして解放するかを解説する。さらに、以上の事を基礎として、熱ルミネセンス、エキソ電子放出現象について言及する。

講義の内容/
授業スケジュール

(1~3)固体の化学、結晶、(4,5)結晶の不完全さ、格子欠陥、(6~8)放射線と固体の相互作用、(9)放射線による発光現象、(10)熱ルミネセンスとは、(11,12)グロー曲線の解析、(13)熱ルミネセンスの放射線計測への応用、(14,15)各種TLDの特性

平常点(20%)、レポート(30%)、定期試験(50%)。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

使用しない。

Handbook of Thermoluminescence, C.Furetta, World Scientific(2003).

Phosphor Handbook 2nd ed., W.M.Yen, S.Shionoya and H.Yamamoto ed., CRC Press(2006).

入門固体化学, L.Smart and E.Moore著、河本、平尾 訳、化学同人(1996).

希土類の科学、足立吟也 編、化学同人(1999).

履修コード	162001
科目名	放射線学総合演習
担当者名	金子 順一

講義の到達目標(ねらい)

これまでに講義・実験・演習及び臨床実習等を通して診療放射線技術科学の広い分野にわたって学習して来た。本演習は、それらを総合した知識および技術力をさらに深め、診療放射線技師国家試験の合格に必要な知識を身につけることを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール

学生が主体となってグループを編成し、演習テーマを決めて自主的に学習を進めて行くことを基本とする。それぞれの専門科目の演習は必要に応じて担当教員が支援する。また、放射線技師試験の受験対策のための模擬試験を数回実施する。

本講義の内容は、診療放射線技師試験で出題される下記14科目のすべてを対象とする。

「放射化学」、「診療画像機器学」、「診療画像検査学」、「核医学検査技術学」、「放射線治療技術学」、「医用画像情報学」、「基礎医学大要」、「放射線生物学」、「放射線物理学」、「医用工学」、「放射線計測学」、「エックス線撮影技術学」、「画像工学」、「放射線管理学」。

履修上の留意点

第1～15回 診療放射線技師国家試験出題科目演習(模擬試験を含む)

自主的に取り組む姿勢が不可欠である。

1年次～3年次に履修した科目は前期のうちに一度復習を終え、基礎的な知識を早期に充実させること。また、前期のうちに全科目の過去問演習を行っておくよう努力して欲しい。また過去問等の演習で重要なことは、答が合った、間違っただの数を問題にするのではなく、内容を理解できているかどうかをチェックすること。内容理解の積み重ねが成功の秘訣である。

成績評価の方法

1月と2月に実施する。本番の診療放射線技師国家試験と同形式の定期試験の結果と、臨機に実施する模擬試験の結果によって診療放射線技師国家試験の合格基準に達しているかを総合的に評価する。なお、原則として出席回数が全体の2/3に満たないものは単位の対象としない。

教科書／テキスト

特に定めない。必要に応じて教材用のプリントを使用する。

履修コード	165501
科目名	放射線学特論
担当者名	熊坂 さつき

講義の到達目標(ねらい)

診療放射線技師として放射線の物理学的特性、医用画像の特徴、特にデジタル化された画像の特徴や画像処理の仕組み、安全管理、核の取り扱いと知識、放射線が生物に与える影響を十分に理解しておく必要がある。

この授業では、この様な分野について放射線技師国家試験に十分合格出来るような知識を養う講義を行う。

各専門の複数の教員で授業を行う(青木教授、小川教授、野口教授、熊坂教授、近藤准教授、飯田助教)。

放射線学演習と同時に履修することが望ましい。

講義の内容／授業スケジュール

(1-3) 放射線計測学、放射線安全管理学

(4-6) 放射線物理学

(7-11) 画像工学、医用画像情報学

(12-14) 放射線生物学

準備学習

国家試験の問題を何度も繰り返し学習しておくこと

履修上の留意点

基本的には毎週演習をおこないます。白習をしっかりとすること。

成績評価の方法

試験により評価する。

教科書／テキスト

プリントを配布する。

参考書

放射線技師国家試験用の問題集や参考書

その他

放射線学演習と同時に履修することが望ましい

履修コード	158101
科目名	放射線関係法規
担当者名	あおき きよし 青木 清

講義の到達目標(ねらい)

放射線を取り扱うにあたっては関連する法令を理解しておくことが必須である。診療放射線技師の業務に関する法令は診療放射線技師法、医療用の装置や放射性同位元素に関する法令は医療法、医薬品を除く放射性同位元素や加速器に関する法令は放射線障害防止法、放射線関連業務従事者の安全に関する法令は電離放射線障害防止規則である。これらの法令の内容と関連性を理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

第1～2回：放射線関係法令理解のための基礎事項（用語、放射線防護の考え方、法体系、条文構成）、第3回：医療用放射線に関する法令、第4～5回：診療放射線技師法、第6～7回：医療法施行規則（届出、装置の防護）、第8～11回：医療法施行規則（診療室の構造設備、管理者の義務）、第12～14回：放射線障害防止法、第15回：電離放射線障害防止規則

準備学習
履修上の留意点

教科書の関連部分を読んでおくこと。
法令の基となる基本的な考え方を理解するよう心がけてほしい。講義の後は短時間でも必ず復習を行うこと。

成績評価の方法
教科書／テキスト

定期試験ならびに出席状況により評価する。
富樫・鈴木・西谷編、放射線技術学シリーズ『放射線安全管理学』（オーム社）5,145円
ISBN4-274-20128-7

参考書

『アイソトープ法令集Ⅱ－医療放射線防護関係法令－』（日本アイソトープ協会）

医療

履修コード	165001
科目名	放射線感光化学
担当者名	やまもと ゆうすけ 山本 裕右

講義の到達目標(ねらい)

放射線の感光材料としてはフィルムが最も一般的であり広く使用されているが、本講義においては、医療分野でフィルムと組み合わせて使用される増感紙、および放射線に対する新しい感光材料として近年使用されている輝尽発光体について、放射線と物質の相互作用に注目して解説する。増感紙については、まずラジオルミネセンスについて触れ、発光機構を説明すると共に、種々の増感紙材料の化学および発光特性について解説する。また、輝尽発光体については、輝尽発光の発光機構について説明し、種々の輝尽発光体材料の化学および発光特性について解説する。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 放射線による発光現象の医療への応用、(2,3) 増感紙に用いられる発光体とその特性、(4,5) 輝尽発光とは、(6) 輝尽発光体の歴史、(7～11) BaFX:Eu発光体の特性と発光機構、(12,13) その他の輝尽発光体の特性、(14) ISPの自然科学への応用、(15) 輝尽発光現象の線量測定への応用

成績評価の方法
教科書／テキスト

平常点 (30%)、レポート (70%)。
使用しない。

参考書

W. M. Yen, S. Shionoya and H. Yamamoto ed., Phosphor Handbook 2nd ed., CRC Press (2006).
入門固体化学, L. Smart and E. Moore著、河本、平尾 訳、化学同人 (1996).

履修コード	159101
科目名	放射線管理学
担当者名	あおき きよし 青木 清

講義の到達目標(ねらい)

放射線の利用においては、不必要な被ばくが生じないよう、適切で安全な状況を作り上げ維持することが重要である。そのための基本的な理念と指針を与えているのが「国際放射線防護委員会(ICRP)の勧告」である。本講義ではこの勧告の概要について学ぶとともに、それを実践するために必要となる計測技術や、放射性物質の取り扱い方について学修する。さらに、医療の場において大切となる患者被ばく防護の考え方とそのための方策を理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

第1～2回：放射線管理の基本（放射線防護体系、放射線被ばくの現状）、第3～4回：放射線の防護（外部被ばく防護、内部被ばく防護）第5～6回：施設の管理（X線診療室、密封RI使用施設、非密封RI使用施設）、第7～9回：環境の管理（空間放射線の量、RI濃度、表面汚染密度）、第10～12回：個人の管理（外部被ばく、内部被ばく）、第13回：放射性廃棄物、第14～15回：医療被ばく（X線検査、核医学検査）

準備学習
履修上の留意点

教科書の関連部分を読んでおくこと。
放射線関係法規で学習した内容と関連づけて理解するよう心がけてほしい。

成績評価の方法
教科書／テキスト

定期試験ならびに出席状況により評価する。
富樫・鈴木・西谷編、放射線技術学シリーズ『放射線安全管理学』（オーム社）5,145円
ISBN4-274-20128-7

参考書

『ICRP Publication 103 国際放射線防護委員会の2007年勧告』（日本アイソトープ協会）

履修コード	160501・160601
科目名	放射線管理学実験〔実験〕
担当者名	あおき きよし おおにし たかあき かねこ じゆんいち たかはし しのぶ ながい よしのり 青木 清・大西 孝明・金子 順一・高橋 忍・永井 喜則

医療

講義の到達目標(ねらい)

エックス線撮影において患者被曝線量を把握しておくことは大切なことである。また、撮影状況によっては術者または患者周辺の人が被曝する場合もあり、このような場合の被曝線量も知っておかなくてはならない。本実験では、直接X線ならびに散乱線による被曝線量の測定法を体得するとともに、被曝線量低減のための方策について考える。併せて、被曝低減を考える上で重要となるX線の線質管理法と、モンテカルロ法を用いた線量計算の方法を理解する。

講義の内容／授業スケジュール

少人数の班に分かれ、以下のように実験を行う。実験テーマの順序は班により異なる。
第1～3回：実験内容の解説、実験の実施に関する説明(班分け、実験順序、注意事項)、レポート作成上の注意、第4～5回：腹部・胸部撮影における被曝管理(入射表面線量の測定と評価)、第6～7回：CT検査における被曝管理(CTDIとMSADの測定と評価)、第8～9回：乳房撮影における被曝管理(ACRの方法による平均乳腺線量の測定と評価)、第10～11回：病室撮影における被曝管理(移動型X線撮影装置による腹部・胸部撮影時の患者と術者の被曝線量)、第12～13回：診断用X線の線質管理(半導体検出器によるX線スペクトルの測定)、第14回：モンテカルロ法Ⅰ(モンテカルロ法の基礎：円周率の算出、X線と物質の相互作用シミュレーション)、第15回：モンテカルロ法Ⅱ(EGS5を用いたファントム内線量分布の算出)

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

実験の前に実験内容を予習し、必要となるグラフ用紙や電卓などを用意しておく。
放射線管理学、放射線計測学、診療画像技術学等での学修内容と関連づけながら実験を進めること。
実験の実施状況、実験レポート、試験により評価する。
プリントを配布する。

履修コード	152901
科目名	放射線機器概論
担当者名	なこ やすのぶ 名古屋 安伸

講義の到達目標(ねらい)

診療放射線業務を行うには医療用放射線機器や器具が必要である。それらのうち診療用の各種X線機器・装置・用具の構造・動作原理や取扱い方法・精度維持や安全管理に必要な知識を習得する。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) X線画像機器の概要
- (2) X線発生装置：X線管装置
- (3) X線発生装置：X線管容器、絞リ装置
- (4) X線発生装置：X線用高電圧ケーブル、X線高電圧発生装置
- (5) X線発生装置：X線制御装置、電源設備
- (6) X線機械装置：X線透視撮影装置
- (7) X線機械装置：保持装置、X線撮影台
- (8) X線機械装置：乳房用X線装置、その他の特殊装置
- (9) 映像装置・画像関連用品：散乱X線除去用グリッド、フィルムカセット
- (10) 画像検出装置：コンピューテッドラジオグラフィ、X線平面検出器
- (11) 診断用X線システム：一般X線検査システム
- (12) 診断用X線システム：特殊X線検査システム
- (13) 診断用X線システム：頭腹部・四肢血管撮影装置と関連機器
- (14) 診断用X線システム：心臓・大血管撮影用装置と関連機器
- (15) X線機器の保守管理

履修上の留意点

診療放射線技師として必要なX線装置の基本的講義です。教科書をよく読み、講義内容を理解することに努めて下さい。

成績評価の方法

定期試験の結果および出席状況により評価します。

教科書／テキスト

『診療放射線技術』上巻(南江堂)6,800円

参 考 書

青柳康司 共著：『新版 放射線機器学(Ⅰ)』(コロナ社)4,700円

履修コード	155901
科目名	放射線機器工学
担当者名	おくやま やすお 奥山 康男

講義の到達目標(ねらい)	コンピュータの演算速度高速化に伴って、デジタル化された医用画像診断機器技術はめざましく進歩している。これら最新画像診断機器の理解を助ける目的で診断用X線発生装置をはじめとする各画像診断装置の基本原理、電気工学的な基礎知識、構造、特性及び装置を取り扱うための基礎知識を習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回～2回:放射線機器の紹介、病院で設置されている機器等について 第3回～5回:X線管の原理と構造 第6回～10回:X線管発生装置について、単相2ピーク装置からインバータ装置まで 第11回～15回:X線発生装置に関するJIS規格、管電圧や管電流の許容誤差について 第16回～18回:CR装置、DSA装置、FPDなど周辺機器について 第19回～22回:増感紙やグリッドなどの補助器具、機器の安全・保守管理、受け入れ・不変性試験について 第23回～30回:X線CT装置・MRI装置・超音波診断装置・無散瞳型眼底カメラなどの原理と構造
準備学習	1年次で学習した電気・電子工学や放射線機器概論の基礎知識を見直しすることで授業内容が理解しやすくなる。
履修上の留意点	教科書に沿った内容をプロジェクタに映写しながら授業を行うのでポイント点をしっかりと関連付けて学習する。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	授業出席状況、受講態度、前期・後期定期試験による総合評価にて決める。 青柳泰司 共編:『新版-放射線機器学 (I)』 コロナ社 4,935円 IBN4-339-07080-7 特に指定しない 特になし。

履修コード	156601・156701
科目名	放射線機器工学実験〔実験〕
担当者名	おくやま やすお せお やすつぐ ほぶ たけし 奥山 康男・瀬尾 育式・羽生 毅

講義の到達目標(ねらい)	「放射線機器工学」の講義で学習する理論を実験に検証・理解させることを目的とし、あわせて各放射線機器や装置の取扱法を習熟させることを目標とする。実験は6～7名を1班として構成し、少人数化によるフットワークの良い実験を遂行する。
講義の内容／ 授業スケジュール	本実験は、以下に記す6課題を全学期(前期3回、後期3回)に行なう。スケジュールは実験ガイダンスを2回実施した後、各テーマに添った実験を班ごとで行う。実験後は指定期日までに実験レポートを作成・提出することで課題終了となる。 第1回～2回:前後期分の実験スケジュール及びレポート作成手順などの諸注意を含めた実験ガイダンス 第3回～15回:前期実験は、1章=X線管焦点の測定、2章=超音波診断装置の画像特性、3章=X線管電圧・管電流の測定 第16回～28回:後期実験は、4章=撮影用タイム性能試験とX線CT装置等によるファントム測定、5章=MR装置の画像特性、6章=インバータ式X線装置の特性と無散瞳型眼底カメラの取り扱いについて 第29回～30回:実験内容の理解度を確認する目的で2回に分けて口頭試問等を行う。
準備学習	2年次に講義している放射線機器工学の内容を実際に検証する授業なので、基本的な知識は常に予め復習しておくこと。
履修上の留意点	実験内容書に予め日を通し、当日の実験は何を行うのかを必ず確認しておくこと。また、高電圧機器を取り扱うので必ず指導教員の指示に従うこと。さらに感電等から安全を確保する目的で実験中の容姿(底高靴やアクセサリーの禁止)・マナーは守ること。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	授業出席状況、実験中の態度、課題レポート、筆記による前期・後期試験による総合評価にて決める。 実験要項の小冊子を実験ガイダンス時に無料配布する。 放射線機器工学の授業で用いている『新版-放射線機器学 (I)』 コロナ社 実験科目の単位取得には所定のテーマを全て終了することが必要である。何らかの理由で欠席する場合は事前に担当教員に連絡・許可された後、指定された期日に(他班へ合流)実験することとなる。

履修コード	156201
科目名	放射線計測学
担当者名	あおき きよし 青木 清

講義の到達目標(ねらい)

放射線にはいろいろな種類があり、物質との相互作用もそれぞれ異なっている。また、同じ種類の放射線であっても、エネルギーにより性質が異なる。このような多様な放射線を測定するため、たくさん測定器が考案されている。正確な測定を行うにはこれらの測定器を正しく使い分けなければならない。このために必要となる、代表的な放射線測定器の動作原理、特徴、測定方法ならびに測定結果の評価法を理解することが到達目標である。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：放射線検出の概要、第2～3回：電離箱の基本原理と構造、第4回：電離箱出力の測定、第5回：パルス電離箱、第6～8回：ガス増幅を利用した検出器（比例計数管、GM計数管）、第9～10回：半導体検出器、第11～13回：シンチレーション検出器、パルス計測装置、第14～16回：計数値の統計処理、第17～19回：放射線のエネルギー測定、第20～21回：放射能の測定、第22～24回：照射線量と各種電離箱、第25～27回：電離箱による吸収線量測定、第28～29回：ブラッグ・グレイの空洞理論、第30回：吸収線量の標準測定法

準備学習
履修上の留意点

教科書の関連部分を読んでおく。
講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするよう心がけてほしい。講義の後は短時間でも必ず復習を行うこと。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

定期試験、授業内試験ならびに出席状況により評価する。
長哲二著『放射線計測学』（南山堂）2,940円 ISBN4-525-27874-9
『放射線基礎計測学』（医療科学社）、『放射線計測学』（オーム社）、『放射線計測学』（コロナ社）

履修コード	164901
科目名	放射線検出器工学
担当者名	とりやま たもつ 鳥山 保

講義の到達目標(ねらい)

放射線と物質との相互作用に伴う検出器内での物理現象、その後の電気的パルス生成過程、波高分析システム、並びに計数の精度等の基礎的な知識を学んだ上で、各種放射線検出器の放射線への適用性、測定エネルギー範囲、エネルギー分解能、効率、時間分解能について学習する。さらに、2次元放射線検出器等についても学ぶ。上記の学習内容をもとに診療機器で使用されている放射線検出器の性能について説明できるようになることを授業目標とする。

講義の内容／
授業スケジュール

1回／放射線検出の基礎(1)：放射線の種類と発生源（線源・加速器）、2回／同(2)：物質の構造（量子力学/原子・分子・固体）、3回～4回／同(3)：光子と物質との相互作用（光電効果・コンプトン散乱・電子対生成）、5回／同(4)：荷電粒子線と物質との相互作用（阻止能・飛程）、中性子線と物質との相互作用、6回／放射線検出器の一般的性質と計測システム（パルス波高分析器）、7回／計数の統計と誤差の評価、8回／電離箱の構造と検出手法（直流測定・パルス測定）、照射線量・吸収線量計測、9～10回／比例計数管の構造と性能、位置敏感型比例計数管、中性子検出、GM計数管、11回／シンチレーション検出器（無機・有機シンチレータ）、12回／光電子増倍管とX線・γ線の測定スペクトルの測定、13～14回／半導体検出器の構造とSi検出器による荷電粒子・X線の測定、Ge検出器によるX・γ線の測定、15回／他の半導体検出器（CdTe、HgI2等）、CCD検出器を用いた2次元検出器、イメージング・プレート（IP）

準備学習
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

3年次までに放射線検出器について行なった実験のレポートを見返しておくこと。
定期試験の他、授業の中で出題するレポートにより評価する。
使用しない。プリント配布。
グレンF. ノル著、放射線計測ハンドブック（第3版） 訳/木村逸郎・坂井英次（日刊工業新聞社）、ニコラス ツルファニデス著：放射線計測の理論と演習、上・下巻、坂井英次訳（現代工学社）
メールアドレス：ttoriyam@komazawa-u.ac.jp

その他の

履修コード	159001
科目名	放射線腫瘍学
担当者名	たかやま まこと 高山 誠

講義の到達目標(ねらい)

癌治療における放射線治療の役割や意義を中心とした放射線治療概論について講ずる。
放射線の人体に対する影響などの放射線治療の基礎となる放射線生物学や実際の臨床に用いられる放射線治療機器の特性、使用方法について解説を行う。放射線治療を行う際の放射線治療計画、線量分布や照射方法(外部照射、密封小線源治療等)の総論的項目について考える。
また、医療技術の進展の内で、特に放射線治療の技術的な動向についても取り上げる。
新しい治療方法である定位放射線治療や強度変調照射(IMRT)の現況、応用に関する技術的問題点など、その方向と展開に注目する。

講義の内容/
授業スケジュール
成績評価の方法
教科書/テキスト

(1)放射線治療概要、(2~3)放射線障害、(4~5)放射線生物学、(6~7)放射線治療機器、(8~10)密封小線源治療、(11~13)3次元照射、(14)全身照射、(15)血液照射
授業出席、受講態度などと定期試験による。
増田 康治 編 「放射線治療技術」改訂第4版
立入 弘 監修 「診療放射線技術」下巻 改訂第11版

医療

履修コード	155101
科目名	放射線生物学
担当者名	くまざか さつき 熊坂 さつき

講義の到達目標(ねらい)

この科目は放射線技師の国家試験に出題される内容を中心に授業を行う。放射線が生物に及ぼす影響を、分子や細胞のレベルから個体や集団のレベルに至るまで総合的に理解する。それによって、今後治療技術学や安全管理学を学んでいく上での基礎となる「被ばくの影響を正しく評価するための知識」を身につける。

講義の内容/
授業スケジュール

20世紀後半における分子遺伝学の進歩によって、生物への放射線影響の解析は著しく進歩した。この講義では、高線量及び低線量の放射線の生物影響研究の最新の知識を伝えたい。
1~2 放射線生物学の基礎：細胞、遺伝
3~4 生物作用の初期過程：物理・化学・生化学的作用
5 放射線による細胞死、細胞の生存率曲線とその解析：標的理論、LQモデル
6 放射線影響の修飾：LET、線量率、分割照射、酸素、温度、細胞周期など
7 DNA損傷とその修復、遺伝子突然変異と染色体異常
8~9 細胞への影響：分裂遅延、アポトーシスとネクローシス、適応応答、バイスタンダー効果
10 組織・臓器への影響：早期障害と後期障害、確定的影響と確率的影響
11~12 放射線による発がんや遺伝的影響、胚と胎児への影響
13 腫瘍の放射線生物学：感受性とその修飾、分割照射と4R、高LET、温熱療法
14 放射線被ばくのリスクと防護

準備学習

高校の生物学の学習書を用いて、DNAや細胞の構造や人体の仕組み各組織、臓器の働きと構造について再確認しておくこと。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

また、大学1年履修した物理の復習と再確認をしておくこと。
月曜の1時間目なので授業開始に間に合うように気をつけて登校して下さい。
総括的評価として2回程度の筆記試験を行う。

参考書
その他の

江島洋介、木村博編、放射線技術学シリーズ「放射線生物学」(オーム社)2002年。
プリントを必要に応じて配布する。
診療放射線技師 スリムベーシック1 放射線生物学 富士正広 MEDICAL VIEW
国家試験を始めて意識する様な授業にしようと考えています。2年後の国家試験目指して頑張りましょう。

履修コード	163401
科目名	放射線治療技術学
担当者名	たかやま まこと 高山 誠

講義の到達目標(ねらい) 各領域の疾患別について放射線治療の各論的項目を講ずる。
 診療放射線技師として認識していなければならない各領域の放射線治療の対象となる代表的疾患について講義を行い、放射線治療を行う際の治療計画や照射方法について実際の症例を提示して解説を行う。

また、各領域における最新の放射線治療の技術的な動向についても取り上げる。

講義の内容／授業スケジュール (1～2)脳腫瘍の放射線治療、(3～6)頭頸部領域の放射線治療、(7～8)胸部の放射線治療、(9～10)食道、消化器領域の放射線治療、(11～13)婦人科領域の放射線治療、(14)泌尿器科領域の放射線治療、(15)総括

成績評価の方法 授業出席、受講態度などと定期試験による。

教科書／テキスト 増田 康治 編 「放射線治療技術」 改訂第4版
 立入 弘 監修 「診療放射線技術」下巻 改訂第11版

医療

履修コード	160101・160201
科目名	放射線治療技術学実験〔実験〕
担当者名	さとう まさのり いいだ ゆきお おがわ まさお たかぎ たもつ はぶ たけし 佐藤 昌憲・飯田 幸雄・小川 雅生・高城 保・羽生 毅

講義の到達目標(ねらい) 放射能の測定手順・放射能測定計測系の機能・放射線治療を念頭に置いた吸収線量測定概念と実測技術の基礎を把握する。

講義の内容／授業スケジュール 主として行なわれる実験題目とその概要は次の通りである。

- 1) 吸収線量の測定。
 高エネルギー放射線による治療では人体組織に対する吸収線量の附与レベル決定がきわめて重要な因子である。ここではCo60線源を用いて、指頭型電離箱と樹脂ファントムの組み合わせによる吸収線量測定の基礎的手順を学ぶ。Co60線源に対する照射線量率定数・指頭型電離箱の特性と使用法・線源-ファントム-電離箱の幾何学的位置関係の効果・吸収線量率値とファントム厚さとの関係などに注意する必要がある。
- 2) フィルムによる放射線場の測定。
 計測器としてのフィルムは実時間(リアルタイム)応答の計測器では容易に得ることのできない特性を持っている。ここではCo60線源を使用して、照射線量分布・肺近以不均等物質での深部線量百分率補正などの実測手順を学ぶ。
- 3) 半導体検出器による α 線の測定。
 表面障壁型半導体検出器を使用して α 線による波高分布を測定する。逆方向電圧による電荷集積率・エネルギー分解能などへ与える効果、空乏層との関係を中心として学ぶ。
- 4) GM計数管による線源の β 壊変率測定。
 GM計数管を検出器とする比較的簡単な測定装置を用いて線源の壊変率を求める手順と、その補正の考え方を学ぶ。
 実験で取上げる項目は少ないものであるが、各々の知識が実際にはどの様に係わり、結果に影響してくるかを実感して欲しい。

成績評価の方法 実験レポート、実験実施状況、随時おこなう中間テストなどにより評価する。

教科書／テキスト 日本医学物理学会編『外部放射線治療における吸収線量の標準測定法』(発行通商産業研究社)

履修コード	163101
科目名	放射線治療技術学実習〔病院実習〕
担当者名	よしかわ こうき いいだ ゆきお さとう まさのり 吉川 宏起・飯田 幸雄・佐藤 昌憲

講義の到達目標(ねらい) 本実習は、核医学検査技術学実習と同時期に指定された病院にて実施する。実習生は、学内では経験できない臨床上の業務の流れや手技について習得する。そのためには、予習・復習を行い積極的に実習に臨み、将来医療技術者として必要な基礎を身につける。

講義の内容／授業スケジュール 平成23年度は、6月中旬より7月中旬までの4週間(土日は除く)首都圏の指定された病院で核医学検査技術学実習とともに実施する。実習病院では、経験豊かな担当者により診療業務を行いながら指導を受ける。

履修上の留意点 実習中は、医療人としての自覚を持ち、言葉使いや身だしなみには十分に注意することが大切である。守秘義務ならびに個人情報保護の観点からも、実習中に知り得た患者さんの情報を他に漏らしてはならない。

成績評価の方法 実習病院からの“実習成績評価報告書”および実習生が提出する“病院実習報告書”などにより決定する。

教科書／テキスト 使用しない。

参考書 病院実習要項

履修コード	165901
科目名	放射線被曝管理論
担当者名	はふ たけし 羽生 毅

講義の到達目標(ねらい)

放射線被曝管理体系は、原子放射線の影響に関する国連科学委員会UNSCEAR調査報告書を基に、国際放射線防護委員会ICRPが正当化・最適化・線量限度を勧告、具体的基準を国際原子力機関IAEAが作成し、各国の被曝管理法規に反映される。

診療放射線技師の職務は、医療放射線データ提供と患者に対する被曝行為である。医療を担う将来の一員として、必須な被曝管理体系と最適化患者被曝の知識を整理する。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：被曝管理の歴史、第2～6回：UNSCEAR2008年報告書(主文・医療被曝・公衆と職業被曝)、第7～10回：ICRP(2007年勧告・Pub.84妊娠と医療放射線・Pub.105医療における放射線防護)、第11～12回：医療被曝ガイドライン(IAEA-Pub.SS115・他)、第13回：患者被曝線量のコンピュータシミュレーション、第14回：メディカルリスクマネジメント

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書
その他の他

UNSCEAR・ICRP・IAEAの各Webサイトを閲覧する。
放射線管理学・病院実習の知見を整理しておくことが望ましい。
試験により評価する。
プリントを配付する。
UNSCEAR・ICRP・IAEA等の刊行物
なし

医療

履修コード	152701
科目名	放射線物理学
担当者名	おがわ まさお 小川 雅生

講義の到達目標(ねらい)

診療放射線技師が作業現場で取り扱う「放射線」に関する基礎的な物理を学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1 回 電子、光子、陽子、中性子、物理定数
- 2 回 光の粒子性、粒子の波動性、プランク定数
- 3-4 回 ボーアの原子模型
- 5-6 回 特性X線、オーグジュ電子、蛍光収率、モズレーの法則
- 7-8 回 制動X線の発生とスペクトル
- 9 回 原子核の世界、核子、同位体、結合エネルギー
- 10 回 原子核の壊変、放射能、半減期、逐次壊変
- 11-12回 ベータ壊変、ニュートリノ、レプトン
- 13-14回 β +壊変、電子捕獲
- 15-16回 光子と物質の相互作用、光電効果
- 17-18回 コンプトン散乱、対生成
- 19 回 光子の減弱、減弱係数、作用断面積
- 20 回 コンプトン端、後方散乱、陽電子消滅
- 21 回 ガンマ壊変、ガンマ線スペクトル
- 22 回 吸収端、原子模型との関係
- 23 回 荷電粒子の阻止能
- 24-25回 飛程、ストラグリング、ブラッグピーク、LET
- 26-27回 電子の阻止能、臨界エネルギー
- 28 回 アルファ壊変、ガイガー・ヌッタルの法則
- 29 回 核磁気モーメント、核磁気共鳴、MRI
- 30 回 原子核アイソマー、内部転換電子

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

講義において不明な点があれば質問すること。講義が分かりにくい場合は、その旨を主張すること。定期試験に加えて、講義中に行う演習問題および出席状況の評価する。教科書は使用しない。YeStudyに掲載された説明資料を各自プリントすること。放射線物理学(多田順一郎著、オーム社)、アイソトープ手帳(日本アイソトープ協会編、丸善)を推薦する。

履修コード	164501
科目名	量子論
担当者名	金子 順一

講義の到達目標(ねらい)	量子論はミクロの世界を記述する理論であり、原子の振る舞いや、放射線に関連した現象の理解には欠かせないものである。本講義では、量子論が必要とされた経緯から始め、古典論では説明することのできない諸現象を、量子論の手法で解説を行う。量子力学における基本方程式である波動方程式の導出を行い、基本的な系での解法の説明を行う。本講座は、量子論の基本的な事項について理解することが目標である。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回 古典論の問題点 第2回～第4回 前期量子論、物質と波動 第5回～第6回 波動関数と波動方程式 第7回～第12回 基本的な系における波動方程式の解 第13回～第15回 波動関数と物理量
成績評価の方法 教科書／テキスト	期末試験及び講義中の理解度の確認結果によって評価を行う。 特に指定しない。講義中に必要な資料については、プリントを配布する。

履修コード	155001
科目名	臨床医学概論
担当者名	嶋田 守男

講義の到達目標(ねらい)	医学概論で学んだ基礎知識を基に、更に一歩進めて最近注目をあびている生活習慣病などに焦点をあててその主要疾患について放射線画像診断と放射線治療学との関連性を中心に解説する。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1-3) 生活習慣病、画像診断、放射線治療の概説 (4-6) 生活習慣病：がん (7-9) 生活習慣病：虚血性心疾患 (10-12) 生活習慣病：脳卒中 (13) メタボリック症候群 (14) 放射線診療における造影剤の有用性と副作用 (15) 救急医療における放射線診療の役割に分けて系統的に学習する
履修上の留意点	診療放射線技師として必須の種々の疾患概念を理解し、実際の臨床医学に結びつく放射線医学(放射線診断学、核医学、放射線治療学)への基礎的知識を獲得することが重要である。
成績評価の方法 教科書／テキスト	授業の出席率と定期試験にて成績を評価する。 使用しない。プリントを配布する。

履修コード	159701
科目名	臨床医療人間学 I
担当者名	名古 安伸

講義の到達目標(ねらい)	医療現場で発生する倫理的諸問題すなわち生命倫理について学び、生命倫理を広く人間科学や人間工学の立場から考察します。特に、病に対して鋭敏な不安を抱く患者や家族への応対(言語、仕草、思いやり)を医療人の視点で学習する。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) 半期15回の授業スケジュール (2-10) 心理学の立場から患者や家族の行動を理解する (11-13) 疼痛、ターミナルケア、尊厳死と安楽死など (14-15) 生命と医療の原点を考える
準備学習	生命倫理学とは、「患者との人間関係において、私はいかに振る舞うべきか」を考える哲学の学問です。生命が脅かされた時や恐怖感から脱出したい時などに発生する「神様・仏様」。病院にいるとこの言葉がたくさん聞こえて来ます。駒澤大学で学習する「宗教学や禅の心」と「医療」との結びつきを考えておいて下さい。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト	3年次後期に行う病院実習の諸手続き、注意事項を含み講義します。出席は必須です。 レポート提出、定期試験の結果および出席状況により評価します。 必要によりプリントを配布します。

履修コード	163901
科目名	臨床医療人間学Ⅱ
担当者名	<small>おくやま やすお</small> 奥山 康男

講義の到達目標(ねらい)	医療の特殊性を理解し、病院実習および就職後の医療人(社会人)として対応可能な人間性を身につける。また、医療事故を誘発する諸々因子を医療安全の視点から人間工学的に基礎解説する。
講義の内容/ 授業スケジュール	第1回～3回：医療現場における診療放射線技師の役割について 第4回～6回：医療事故と医療安全、医療事故分析方法、ヒヤリ・ハットについて 第7回～10回：医療事故に必要な人間工学と認知的心理学の位置づけについて 第11回～15回：法律に基づいた密封及び非密封線源の放射線管理区域への立ち入り前教育
準備学習	3年次に学習した核医学や放射線治療学、放射線安全管理学を復習・見直しすることで授業内容が理解しやすい。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書/テキスト	プロジェクトに映写しながら授業を行うのでポイント点をしっかりと関連付けて学習すること。 授業出席状況、受講態度、定期試験による総合評価にて決める。 必要時にプリントを配布する。

医療

専 門 教 育 科 目

4. グローバル・メディア・スタディーズ学部

履修コード	409901・410001・410101・410201・410301・410401・410501・410601・410701・410801・410901・411001・411011・411021・411031・411041・411051・411061
科目名	Academic Writing
担当者名	モハメツド、 G. ・ゴールド、 F. ・アシュウェル、 T. ・クオック、 R. Y. F. ・ダーリン、 M. ・ブラック、 A. ・グレコ、 M. A.

講義の到達目標(ねらい)

The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.

講義の内容／
授業スケジュール

Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習

Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.

履修上の留意点

Pre-requisite for this course from 2011:

●Successful completion of Written Communication 2

[N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. If you miss three or fewer classes in a semester, there is no problem, but if you miss four or more classes, you will incur a penalty in your final grade. Specifically, 4 absences incurs a 5% penalty; 5 absences a 10% penalty and 6 absences a 20% penalty. More than 6 absences mean that you will fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among other commitments.

成績評価の方法

Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the feedback they give to other students.

Final research paper grading:

Quality of final research paper = 70%

Adherence to drafting schedule:
 Section 1 handed in on time = 5%
 Section 2 handed in on time = 5%
 Section 3 handed in on time = 5%

Participation in the feedback process:
 Quality of feedback given to others = 15%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト
 参 考 書

None
 上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究者。
 Kamimura, T. and Oi, K. (2004) A Handbook for Writers of Essays and Research Papers.
 (Eigoronbun/repootonokakikata). Tokyo: Kenkyuusha.

関 連 リ ン ク

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated.
<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	434401
科目名	E-コマース論
担当者名	いまむら まこと 今村 誠

講義の到達目標(ねらい)

eコマースとは、インターネットなどのネットワークを利用して、製品やサービスの広告、販売、決済、アフターサービスなどのビジネスを行う形態である。本講義では、ネットビジネスの現状、インターネットを利用したマーケティング、および、Webサイト構築に必要な情報システム技術を理解することにより、「消費者の立場からネットショッピングの使い方を工夫できるようになる」、また、「サービス提供者の立場からネットビジネスのアイデアを考えることができる」ようになることを目的とする。また、毎回の講義中に、Q&A形式で講義のポイントを記載することにより、自分の考えを自分の言葉で表現する力が身につくようにする。

講義の内容/
 授業スケジュール

インターネットの普及に伴い、企業間、企業・消費者間のビジネスの形態が大きく変化した。本講義では、以下の内容を実際の講義の授業回数に配分して講義する。
 (1)eコマース入門： eコマースの現状、Webサイト上の消費者の行動パターン、eコマースのビジネスモデル、企業間ビジネス、企業・消費者間ビジネスなど
 (2)eコマースマーケティング： インターネットを用いたマーケティング、インターネット普及に伴う製品・サービスの変化、価格はどのように決まるか、流通チャネル、ネット広告など
 (3)Webサイト構築のための情報システム技術： 顧客関係管理とデータマイニング、Webコンテンツ管理と情報アーキテクチャ、セキュリティと情報倫理、検索エンジンと検索テクニックなど
 インターネットの利用経験があることを前提条件とする。授業中の私語は厳禁とする。

履修上の留意点
 成績評価の方法

課題レポート(授業期間中に1回)と小レポート(毎回の講義中に、講義を聴講しながら、Q&A形式で講義のポイントを記載する。A4 1枚)による総合評価。出席率は、70%以上を基準とする。

教科書/テキスト
 参 考 書

必要に応じて資料を配布する。
 (1) 幡鎌 博: eビジネスの教科書[第三版], 創成社 (ISBN: 978-4794423313)
 (2) 丸山 清貴, 海老根 智仁: eコマースプランニング, 翔泳社 (ISBN 4-274-20309-3)
 講義形式。

そ の 他

履修コード	434711
科目名	イスラムと文化
担当者名	おくだ あつし 奥田 敦

講義の到達目標(ねらい) イスラームについて、その教えの基本を念頭におきながら、さまざまな角度から紹介を行い、先入観や偏見にとらわれない、イスラームに対する包括的な理解を深めると同時に、グローバル化時代に生きる人間およびその社会にとって、あるいは現代の日本人および日本にとって、人類全体に向けられた教えとしてのイスラームの意義を探究していく。アラビア語の用語の紹介なども積極的に行ないたい。

講義の内容／授業スケジュール

講義では、次のトピックを扱う予定である。
①宗教と文化 ②アラビア語のスメ ③オリエンタリズムを越えて ④神はどこにいるのか ⑤イスラームとは ⑥報われるということ ⑦見えないものから発想する ⑧人はなぜラマダーンをするのか(宗教と法) ⑨アレppo石鹸は語る(宗教と労働) ⑩人間らしさについて ⑪イスラームにおける人と人権 ⑫ジハードはテロリズムか? ⑬大きなわれわれについて ⑭イスラーム社会の理想と現実 ⑮イスラーム圏との文化交流 ⑯グローバル化時代のイスラーム

履修上の留意点
成績評価の方法

講義には毎回必ず出席すること。授業中の私語と飲食は厳に慎むように。
講義内容に関するレポートと、出席の状況を中心に評価を行なう予定である。(場合によっては受講態度を考慮することがある)

教科書／テキスト
参 考 書

毎回レジュメを配布する。
奥田敦『イスラームの人権』慶應義塾大学出版会、2005年。その他については講義中に案内する。

G
M
S

履修コード	430911
科目名	イノベーション普及論
担当者名	しらみず しげこ 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい) イノベーションとは、新しいアイデア、すなわち、新しいモノ、行為、思想などです。従って流行研究を含みます。前期は主にイノベーションの採用過程、集団過程を学びます。すなわち、わたしたちは、どのような心理的過程をへて、新しいものを採用するか、その仕組みを調べます。そして個人やメディアは新しいアイデアの、集団内や集団間の普及にどのような役割を果たすか、検討します。

講義の内容／授業スケジュール

どうして、わたしたちは、あるイノベーションは採用するが、あるイノベーションは採用しないのか、なぜ、ブランド品などの高価なものを買ってしまうのか。購入に際して友人や店員はどのような役割を果たしているのか。テレビなどのメディアはどのような役割を果たすのか…。身近なところで事例がいくらかでもある、とても心理学的に興味深い研究です。

わかりやすい例としてまず、流行を取り上げてイノベーションの普及に入っていきます。

第1回～3回 流行と普及の実態

流行とはなにか
流行と普及の関係

第4回～8回 採用過程：イノベーション採用過程

イノベーションの採用に至るまでの心的過程
人はどのような過程を経て実際に使用するようになるか
メディアはどのようなときに最も効果的に働くか

第9回～12回 普及過程：集団内での普及のメカニズム、個人やメディアの役割

第13回～15回 集団間普及：架橋的エージェントの活動、異文化間普及

準 備 学 習

授業時間中に提示するスライドは、前もってGMSの授業支援システムのイノベーション普及論にアップしてあるので、授業の前に閲覧すること。地球環境に配慮して授業中の印刷物の配布は最少限にします。ご理解ください。

履修上の留意点

参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。授業中にしばしば質問を発します。答える意欲のない学生は脱落候補です。

成績評価の方法

授業時間中にしばしばエッセイを課す(5回程度の予定)。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイの提出が3回以下の場合には成績がつかないことがあるので、そのつもりで。

教科書／テキスト

白水繁彦『イノベーション社会学』御茶の水書房、2011年

および、パワーポイントによる説明。適宜プリント等を配布する。

参 考 書

ロジャーズ著、三藤訳 2007『イノベーションの普及』翔泳社
青池慎一 2007『イノベーション普及過程論』慶應義塾大学出版会
白水繁彦 1998『エスニック文化の社会学』日本評論社

そ の 他

授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。したがって参加意欲のない学生はついていけないので、そのつもりで。

履修コード	432901
科目名	異文化間コミュニケーション論
担当者名	高 媛 <small>こう めん</small>

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、「異文化現象」を多角的に取り上げ、異なる文化間の「境界線」がいかに社会的に作り出されてきたかを批判的に問い、「異文化」に向ける私たち自身のまなざしを再考する。

講義の内容／授業スケジュール 言語、非言語、国家、地域、宗教、身体といった諸テーマに沿って、多言語・多ジャンルの映像資料を交えながら、グローバル時代における異文化間コミュニケーションの技法を解説する。

履修上の留意点 講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法 出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

教科書／テキスト 特に指定しない

参 考 書 ・岩渕功一『トランスナショナル・ジャパン——アジアをつなぐポピュラー文化』（岩波書店、2001年）2,800円、ISBN: 4000241184

・ロバート・G.リー著、貴堂嘉之訳『オリエンタルズ——大衆文化のなかのアジア系アメリカ人』（岩波書店、1999=2007年）、4,400円、ISBN: 4000223909

そ の 他 講義形式

G
M
S

履修コード	431301
科目名	異文化経営論
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい) This course on comparative business culture provides students with a basic understanding of issues in international business and cross-cultural management. Students will be introduced to issues related to management in an inter-cultural context, ethics and values in cross-cultural management, and the impact of cultural diversity in multinational companies. The course draws in ideas from social anthropology, cross-cultural psychology, and organizational theory.

講義の内容／授業スケジュール The content of the course is introduced in a series of lectures. Certain themes may be explored further through short readings given by the teacher in class.

成績評価の方法 Students will be evaluated based on three short essays and final exam.

参 考 書 Materials will be provided by the teacher.

履修コード	417001
科目名	インターネットとメディア
担当者名	吉田 ^{よしだ} 尚史 ^{なむらみ}

講義の到達目標(ならい)

インターネットはデジタルコンテンツの配布、共有、閲覧などのサービスを提供する主要な通信メディアの一つとなり、グローバルな研究・ビジネス活動に欠かせないものとなってきた。インターネット上でデジタルコンテンツを用いた様々なサービスを有効かつ効率よく実現するためには、インターネットおよびメディアが持つ特性、構成を理解することが必要不可欠である。この講義では、インターネットの原理、インターネット上に構成された様々なメディアを用いた応用サービスの構成について学ぶ。

講義の内容 / 授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマは、次のとおりである。本講義では、講義形式と実習形式の組み合わせにより、インターネットの原理、インターネット上のメディアを用いた応用サービスについて体得することを目的とする。

－インターネットの原理

第1回: 導入, OSI7階層モデル, 静的と動的

第2回: プロトコル

第3回: Wiki

－インターネットのアーキテクチャ・通信方式

第4回: MIME: Multipurpose Internet Mail Extension

第5回: DNS: Domain Name System

第6回: インターネット上の経路, ルーティング

－インターネット上のメディアの基礎

第7回: マルチメディア検索

第8回: メタデータ, MPEG-7

－インターネット上のメディア応用サービス

第9回: アクティブ情報システム

第10回: ストリーミング

－インターネット上のメディア応用サービスの実現

第11回: WWWブラウザ実習

第12回: WWWサーバ実習(1) HTTPDとApache

第13回: WWWサーバ実習(2) プログラミング言語環境

第14回: WWWサーバ実習(3) データベース連携

第15回: まとめ・レポート出題・解説

その他, 最新情報は, GMS授業支援システム上に公開する。

情報リテラシーおよび情報リテラシー実習を履修済みであること。

留学など履修計画に困難な場合を除き, なるべく2年次以降に履修すること。

毎回の講義における出席、課題、および、期末レポートにより評価する。

(期末試験は行わない。)

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し, 教科書とする。

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

本講義は, 講義と実習を併せた形式で行う。

各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修上の留意点

成績評価の方法

教科書 / テキスト

参考書

その他

関連リンク

履修コード	441001
科目名	Integrated English I
担当者名	ダーリン、 M.

講義の到達目標(ねらい)

- ・ Develop a greater awareness and understanding of issues affecting these regions as presented by various forms of English media
- ・ Learn to critically analyze issues, form opinions, and present solutions to conflicts

Students will:

- ・ develop English language proficiency in the four basic skills
- ・ learn the skills required to lead and fully participate in group discussions
- ・ gain experience making effective presentations
- ・ be encouraged to become autonomous learners by having input into class content and taking responsibility for their own learning

G
M
S

講義の内容／
授業スケジュール

geography/religion/human rights: (1-3)
 conflict & security (4-10)
 American bases in Japan
 Japan & South Korea - Takeshima
 Japan & China - textbook issue
 Japan & North Korea - abductees
 North Korea - nuclear missiles
 Pakistan & India - Kashmir issue

poverty & wealth gap (11-16)
 child labor - Philippines
 sweat shops - India
 human trafficking

human rights (17-23)
 indigenous populations - Australia & New Zealand
 Aung San Suu Kyi (Myanmar)
 Dalai Lama - Tibet
 media censorship (China)
 honor killings - Pakistan

Presentations (24-28)

Working with a partner or in a small group, students will research a conflict or problem they have studied in class. Grading will be based on the depth of research, understanding of the issues and their recommended solutions.

準備学習

Students are expected to come to class with a basic knowledge of the countries and issues in these regions

履修上の留意点

The course will be taught in English and students are expected to participate in English at all times. Students committed to developing their English language skills and possessing an interest in Asia and Oceania are encouraged to join the class.

成績評価の方法

Attendance is essential and punctuality is expected. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than ten minutes count as one absence.

Evaluation will consist of:

Individual reports prepared for class discussions (30%)

Group project & presentation (25%)

Vocabulary notebook & Journal (25%)

Participation, effort and attitude in class (20%)

教科書／テキスト

Textbook is not required. Materials will be provided by the instructor and posted on a dedicated website.

参考書
その他の

An up-to-date English-English learner's dictionary is highly recommended. Students are required to have a notebook.

履修コード	441151
科目名	Integrated English II
担当者名	ダーリン、 M.

講義の到達目標(ならい)

- Develop language proficiency in the expressive skills by inquiry, analysis and discussion of contemporary North American, Central American and South American affairs.
- Grow the ability to identify and analyze issues by engaging in research using English sources and materials (video and print) and discussing the findings.
- Build knowledge of and interest in the Americas.
- In addition, students will:
learn the skills required to fully participate in and run discussions
gain experience making effective presentations

講義の内容/
授業スケジュール

- An Introduction to the Americas: geography/history/ politics (1-3)
- Issues in North America: (4-10)
The USA/Mexico border and Illegal Immigrants
What is western "democracy"?
Canada's French population
(Other topics to be decided)
- Issues in Central America and the Caribbean: (11-16)
The Panama Canal
The Cuba Embargo
(Other topics to be decided)
- Issues in South America: (17-22)
The Drug Trade
Venezuela's relationship with America
Brazil's Alternative Fuel Source
Deforestation in South America
(Other topics to be decided)
- Final Presentations (23-28)
Students will be assigned final pair presentations on an important issue in a North/South/Central American country assigned by the teacher. These final presentations will be graded on research, English usage and presentation skills.

Topics are subject to change as current events unfold in the Americas. Students may also have a say in regional topics focused on in class.

Students are expected to submit regular homework assignments online. These assignments will consist of answering questions that show the students understand the topics discussed in class and can offer critical analysis. Students are also required to work on a special group project examining in greater depth an issue of interest and how it affects the global community of nations.

準備学習
履修上の留意点

Students should familiarize themselves with the current affairs of the region.

Course taught in English. Students are expected to participate in English. Those committed to developing their English skills are encouraged to join.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students are responsible for completing all work assigned.

More than three unexcused absences during a semester will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than 10 minutes counted as one absence.

成績評価の方法

Evaluations will be based on:

- Serving as Discussion Leader and news summary writing (30%)
- Vocabulary notebook & Journal (25%)
- Participation (20%)
- Final presentation (25%)

教科書/テキスト

Textbook not required. Material provided by instructor and posted on a dedicated website.

履修コード	441201
科目名	Integrated English III
担当者名	オーラ、 B.

講義の到達目標(おらい)

- Regional Studies III: Europe and Russia
- Build knowledge of and interest in a particular region of the world through an analysis of the way the region is represented in the media, both domestic—insofar as English-language media are available, and foreign
 - Develop the ability to engage in research into the countries and media of a region using English sources and materials
 - Develop communicative competence: the ability to communicate with clarity, relevance, accuracy and variety in both written and oral form. To this end an online discussion board format will be utilized weekly for students and instructor alike to post material or questions—in either written or audio format, complete, submit, comment upon and discuss assignments.

Students will:

- develop English language proficiency in the four macro skills: listening, speaking, reading and writing
- develop the ability to use language and experience acquired in the class to respond to new material and new situations
- develop critical skills: to be able to scan, filter and analyze different forms of information in English
- develop cross-cultural awareness
- gain experience making effective presentations
- learn the skills required to fully participate in and run discussions

講義の内容/
授業スケジュール

Students will watch, listen to and read English-language media related to Europe and Russia in order to analyze and discuss the content. Subjects of inquiry shall include but are not limited to: 1) Economy & Immigrant Labor, 2) Regional Politics, 3) International Relations, 4) freedom of the Press, and 5) Culture & Society with special attention to the global ramifications of events in the region. Emphasis will be given topic-specific vocabulary acquisition and its use in progressively more demanding conversational situations. Students are expected to produce brief but regular written and/or oral reports that will serve as the basis for classroom. Students will also be required to work on a special group project examining in greater depth a country or issue of interest.

Module 1: Europe. Intro: Countries of the region. Classes 1&2

Country geography and profiles: Students select country/countries they want to concentrate on for individual/group presentations.

Module 2: EU and non-EU European countries. Classes 3-10

EU and NATO

UK and EU

Spain and North African immigration

France: Cultural integration: Muslims in France

Italy: Berlusconi and the Press

Germany: Problems of Unification

New EU Members (former republics of the Soviet Union)

Module 3: Russia: Russia and the EU: Gas and Oil Dependence.

Classes 11 & 12

Module 4: Russia continued. Classes 13-20

Leaders and politics

The State vs. the Media: Murder in the Streets of Moscow

Foreign affairs: Russia and the former Soviet Republics

(Baltic States & Georgia)

Georgia: 2007 conflict and it's impact on EU-Russia relationship

Module 5: Japan and Eurasia. Classes 21-28

Russia and Japan:

The Kuril Islands Dispute

Japanese used cars in Vladivostok

Europe and Japan:

Students supply topics and present them in short 5-10 min presentation

準備学習

Module 6: Final presentations. Classes 29 & 30

履修上の留意点

Students are expected to come to class with knowledge of basic country facts: population, territory, neighboring countries, and political leaders.

The course will be taught in English and students are expected to participate in English at all times. As this is an elective course for sophomores and above, students committed to developing their English language skills are encouraged to join the class.

成績評価の方法

Attendance is essential and punctuality is expected. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than ten minutes count as one absence.

Evaluation based on:

Class and discussion board participation and short reports 40%

Midterm: Europe 20%

Final exam: Russia 20%

Final multimedia presentation: 20%

教科書/テキスト

Purchase of a textbook is not required. Materials will be provided by the instructor and by the students themselves.

参考書
その他の

An up-to-date English electronic learner's dictionary is recommended.

Students need a notebook to keep vocabulary and country facts.

G
M
S

履修コード	441351
科目名	Integrated English IV
担当者名	ギャリソン、 J. G.

講義の到達目標(ねらい)

- Develop language proficiency in the expressive skills by inquiry, analysis and discussion of contemporary African and Middle Eastern affairs
 - Grow the ability to identify and analyze issues by engaging in research using English sources and materials (video, audio, & print) and discussing the findings
 - Build knowledge of and interest in Africa and the Middle East
- In addition, students will:
- learn skills required to fully participate in and run discussions
 - gain experience making effective presentations

G
M
S

講義の内容／
授業スケジュール

- geography/ethnography/colonization/independence: (1回—4回)
- business & economics: (5回—10回)
The Trans-Saharan Pipeline (AFRICA)
The Tunnels of Gaza (MIDDLE EAST)
The Saharan Salt Trade (AFRICA)
Ugandans in Iraq (AFRICA & MIDDLE EAST)
- domestic politics & international issues: (11回—16回)
Piracy, Somalia & Nigeria (AFRICA & MIDDLE EAST)
Slavery & Human Trafficking in Malawi & Marutania (AFRICA)
- media & technology: (17回—22回)
Islamist TV—Al-Aqsa's Mickey Mouse Look Alike (MIDDLE EAST)
Neda Soltan & the Iranian election of 2009 (MIDDLE EAST)
Al-Alam Goes Off the Air (MIDDLE EAST)
- culture & social trends: (23回—28回)
Nigeria's Film Industry: Nollywood (AFRICA)
Video: Islam on the March (REGIONAL)/The 99 Heroes of Islam
The Diaspora: Bob Marley: "Africa Unite" (AFRICA)

Students are expected to produce brief written reports and presentations that will serve as the basis for discussion. Students are also required to work on a special group project examining in greater depth an issue of interest and how it affects the global community of nations.

準備学習
履修上の留意点

Students should familiarize themselves with the current affairs of the region.

Course taught in English. Students are expected to participate in English. Those committed to developing their English skills are encouraged to join.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students are responsible for completing all work assigned.

More than three unexcused absences during a semester will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than 10 minutes counted as one absence.

成績評価の方法

Evaluations will be based on:

- Preparation for and participation in class (50%)
- Individual reports prepared for discussion and presentation (25%)
- Group project (25%)

教科書／テキスト

Textbook not required. Material provided by instructor and posted on Moodle or a dedicated website on the GMS server.

参 考 書

An up-to-date English-English learner's dictionary is highly recommended.

履修コード	441801
科目名	Integrated English IX
担当者名	フアーロー、 D.

講義の到達目標(ならい) Integrated English IX - Media and Conflict

Goal of the class: To give students historical background of the development of media; to consider the history of various conflicts from WW2 to the present day; to present media involvement in these conflicts and the issues of involvement in war; encourage students to develop research and critical thinking skills regarding past and contemporary media coverage or portrayal of war/conflict.

講義の内容／
授業スケジュール

Content: Students will be required to analyze representations of war by examining media such as newspapers, films, and documentaries concerned with various conflicts over the last century. The viewing of documentaries and films will be conducted both in class and as homework. The topics raised will be discussed and examined in further detail during class time. Each week simplified information sheets regarding the week's topic will be provided in class but students are expected to undertake further research outside of class. The exact schedule depends on the number of students taking the class.

Topics to include:
 The Press as a mass medium
 The Development of the Film Industry and Radio
 WW2
 Vietnam
 The Gulf War
 911 and Afghanistan
 Infotainment
 The Invasion of Iraq
 Wikileaks and Citizen Journalism

成績評価の方法

Student evaluation will be based on:
 class participation 20%, 500 word writing assignment 40%, presentation 40%

G
M
S

履修コード	441901
科目名	Integrated English X
担当者名	モハメッド、 G.

GMS

講義の到達目標(ねらい)

This course will look at the impact advertising has on our lives. Students will be expected to analyze images and texts in order to understand how messages are conveyed through advertising and for what purpose. The students will analyze advertisements in a variety of media settings including: magazines, the Internet, television and newspapers.

講義の内容/
授業スケジュール

During the second part of the course, we will look at how some real campaigns allowed companies to define (or in a few cases redefine) themselves in the global or local markets. Students will be able to develop their language ability and broaden their vocabulary repertoire through their exposure to English language advertising. Furthermore, it is expected that students develop their critical thinking ability through the analysis of the advertising business.

Students should learn to be culturally aware when viewing materials and be willing to conduct independent research in order to maximize their understanding.

The class schedule will be as follows:

- Week 1: Introduction and guidance
- Week 2: What is advertising? (Background and examples)
- Week 3: Advertising is everywhere (Relationships between the Media and advertising)
- Week 4: Images and slogans (Meaning and purpose)
- Week 5: Coca-Cola (Americana goes global)
- Week 6: Benetton (Social awareness campaigns)
- Week 7: Nike (Celebrity sponsorship and impact)
- Week 8: McDonald's (Strategies for surviving a backlash)
- Week 9: Commercial appeal (structure and style in commercials)
- Week 10: Controversy and shock value (breaking taboos)
- Week 11: Spoof campaigns
- Week 12: Audience and demographics
- Week 13: Project Work
- Week 14: PRESENTATIONS

準備学習
履修上の留意点

Students will be expected to create their own advertising project to be presented to their peers at the end of the course. The topic for this will be decided between the teacher and students during the second half of the course.

No preparation is necessary. The teacher will explain the outline during the first class. Attendance is essential and punctuality is expected. Should the student be late or absent, the student should notify the instructor as soon as possible. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. If you are late, this counts as "half an absence". Any student missing more than 6 classes will lose the chance to take the final project.

成績評価の方法

Students will be evaluated on: Attendance, Research and Preparation, Final Project. In addition to the above, there will be regular quizzes and discussion activities, which will also contribute to your final grade.

教科書/テキスト

Attendance 20%
Research & Preparation 10%
Quizzes & Discussions 30%
Final Project 40%

None. . All materials for this course will be provided by the teacher and will be made available online. Materials will include: texts, images and video clips. Students will be expected to carry out independent research in addition to some pre-class reading assignments. Finally, students will be expected to prepare a presentation at the end of the course on any topic agreed on with the teacher

参 考 書

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. In addition, should the computer lab be unavailable, a laptop may be necessary. Students should also have a notebook handy for new vocabulary and expressions and make sure they add new items regularly.

そ の 他

Students may contact the teacher by e-mail: gamalamohamed@hotmail.com

履修コード	442001
科目名	Integrated English XI
担当者名	フアーロー、 D.

講義の到達目標(ねらい) Integrated English XI - British Film, Culture and Society

Goal of the class: To educate students about debates, issues and topics of interest in modern British society; to look at recent changes in Britain and the effect on its population; to encourage students to undertake individual research about an aspect of British culture or society which interests them, and critically examine it; and to develop an ability to speak about a variety of current events.

講義の内容/
授業スケジュール

Content: Students will be required to analyze recent or current issues in British society by examining media such as newspapers, films, and documentaries concerned. The viewing of documentaries and films will be conducted both in class and as homework. The topics raised will be discussed and examined in further detail during class time. Each week simplified information sheets regarding the week's topic will be provided in class but students are expected to undertake further research outside of class. The exact schedule depends on the number of students taking the class.

G
M
S

成績評価の方法

Topics to include:
Economy, Politics, Sport, Music, Film, Society
Student evaluation will be based on:
class participation 20%, 500 word writing 40%, presentation 40%

履修コード	442101
科目名	Integrated English XII
担当者名	モハメッド、 G.

講義の到達目標(めらい)

This course will focus on representation and meaning of global media texts and images. By looking at recent events, the students will be expected to reflect on how they are framed by news organizations, what meaning the audience takes from them and, how they are formed into the current global narrative.

Later in the course, media producers will come under the spotlight, and students will be able to debate the relevancy and legitimacy of these organizations in the modern age. Issues of representation and media bias will form the central themes of this course.

講義の内容/
授業スケジュール

Students will be able to understand how objectivity (or lack thereof) defines our reality in a world dominated by the global news media empires. It is how this global narrative is shaped by these organizations that should interest the students. In addition, students will also be exposed to alternative media, mostly featured online, and they will have the opportunity to contrast and compare with mainstream texts and praxis.

The majority of class materials will be sent to students by email. The materials will be designed to develop critical thinking skills and will enhance students' ability to interpret the information allowing them a wider understanding of the issues raised.

The class schedule will be as follows:

- Week 1: Introduction and Guidance
- Week 2: Interpreting the News: Framing and Context
- Week 3: Social & Political Protest
- Week 4: Current Global Crises
- Week 5: Perpetuating Fear
- Week 6: Religious Fundamentalism
- Week 7: Election Campaigns
- Week 8: Sport as Business
- Week 9: Food Scares
- Week 10: Hollywood
- Week 11: The World of Fashion
- Week 12: Financial Meltdown
- Week 13: Project Work
- Week 14: PRESENTATIONS

準備学習
履修上の留意点

Students should learn to independently record new vocabulary and expressions. No preparation is necessary. The teacher will explain the outline during the first class. Attendance is essential and punctuality is expected. Should the student be late or absent, the student should notify the instructor as soon as possible. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. If you are late, this counts as "half an absence". Any student missing more than 6 classes will lose the chance to take the final project.

成績評価の方法

Students will be evaluated on: Attendance, Research and Preparation, Final Project. In addition to the above, there will be regular quizzes and discussion activities, which will also contribute to your final grade.

- Attendance 20%
- Research & Preparation 10%
- Quizzes & Discussions 30%
- Final Project 40%

教科書/テキスト

None.. All materials for this course will be provided by the teacher and will be made available online. Materials will include: texts, images and video clips. Students will be exposed to mainstream media texts as well as alternative materials mostly featured online. In addition to classroom exercises, discussions and group work students will be expected to prepare a presentation at the end of the course on any topic agreed on with the teacher.

参考書

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. In addition, should the computer lab be unavailable, a laptop may be necessary. Students should also have a notebook handy for new vocabulary and expressions and make sure they add new items regularly.

その他

Students may contact the teacher by e-mail: gamalamohamed@hotmail.com

G
M
S

履修コード	434701
科目名	Webコンテンツ
担当者名	みなみ まさき 南 政樹

講義の到達目標(ねらい)

インターネットアプリケーションの多くがWorld Wide Web (以下、Web) をベースにして構築されている。たとえば、コミュニケーションスペース、知識の共有空間、オンラインビジネスやオンラインコミュニティのインフラ、共同作業の実践空間など、様々な方向へと発展的に進化し続けている。Webは、ハイパーテキストとして必要十分な機能を持つ文書を記述するHTML (Hyper Text Markup Language)、HTMLで記述されたコンテンツを転送するためのHTTP (Hyper Text Transfer Protocol)、そして文書をこの世で重複なく識別するためのURI (Uniform Resource Identifier) の3つの技術によって成立している。これらの技術は時代の変遷と共に、社会のニーズに応じて、今日も発展し続けている。

本講義では、Webの構造と機能とを深く理解し、有効なグローバルメディア空間として活用していく方法について習得する。具体的には、Webシステムの基本アーキテクチャ、Webコンテンツを記述するHTML、画面構成を記述するスタイルシートとそれを記述するCSS、HTMLとCSSによって構成された画面をオブジェクトとして捉えるモデルDOM、アプリケーションを記述する言語JavaScriptとそのインターフェースを用いたプログラミングを取り上げる。また、サーバサイドで様々な処理を行うプログラミング言語PHPについても学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

- 1) 講義ガイダンス
- 2) Web技術の概要、制作準備 (サーバ構築パッケージのインストール)
- 3) HTMLとCSSによるWebページの制作 (1)
- 4) HTMLとCSSによるWebページの制作 (2)
- 5) HTMLとCSSによるWebページの制作 (3)
- 6) Webサーバとサーバサイドプログラミング (1)
- 7) Webサーバとサーバサイドプログラミング (2)
- 8) Webサーバとサーバサイドプログラミング (3)
- 9) Webサーバとクライアントの連携 (1) Cookieの利用
- 10) Webサーバとクライアントの連携 (2) Sessionの利用
- 11) JavaScriptによるDOMプログラミング (1)
- 12) JavaScriptによるDOMプログラミング (2)
- 13) 総合実習 (1) ~これまで学んだことを使ったWebサイト構築~
- 14) 総合実習 (2) ~これまで学んだことを使ったWebサイト構築~
- 15) Webコンテンツ まとめ

準備学習

情報リテラシー、情報リテラシー実習を履修していること。

また、コンピュータ・ワークショップやWebコンテンツデザイン各論、Webコンテンツデザイン演習、マルチメディアコンテンツデザイン各論、マルチメディアコンテンツデザイン演習などを履修することで、さらに高度なWebコンテンツの作成が可能になる。

履修上の留意点

PCを使った実習を随時行う。また原則として各回練習問題 (提出不要) と課題 (要提出) を出題する。連続した学習を進める上で各自のノートPCで行うことが望ましいと考える。

成績評価の方法

なお、講義内容は全体の理解度に応じて変更することがある。
各回出題される課題と総合実習によって構築されるWebサイトの出来を総合的な評価によって判定する。

教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

なお、定期試験は行わない。

履修者の理解度に応じて、予告なく抜き打ちの小テストを行うことがある。

指定しない。

各回の講義に合わせて参考となる図書や情報源を公表する。

各自のノートPCにWebサービスを構築するため、WAMPあるいはMAMPと呼ばれるサーバ構築パッケージをインストールする。

履修コード	436781
科目名	Webコンテンツデザイン演習
担当者名	よしだ なおみ 吉田 尚史

講義の到達目標(ねらい)

最も一般性の高いデジタルコンテンツであるWebコンテンツの制作を実践し、デザイン、作成するための基本的な概念、要素技術、構成法など各論Iで得た知識を確実なものとする。XHTMLによるコンテンツの記述、CSSによるスタイルの記述、メタデータの付与、SMIL、SVGなどを用いたマルチメディア処理を会話型の処理のデザインと技法、スクリプトによるユーザーエージェント側での高度な処理を用いて、Webページの作成実践を行う。また、動画の制作実践、携帯電話その他の機器用のWebコンテンツの制作実践も行う。

講義の内容/
授業スケジュール

下記のスケジュールに沿って、オープンソースソフトウェア/フリーソフトウェアを用いて、主として実習により、コンテンツデザインの実践を学ぶ。

第1週～第4週: 導入と基礎

- World Wide Web 概要, WWWページアップロード実習
- WWW批判的閲覧実習
- XHTMLとCSS, HTMLからXHTMLへの変換実習、文法チェック
- ビットマップ・グラフィクスとベクター・グラフィクスSMILとSVG実習

第5週～第8週: Webコンテンツ処理

- Inkscape によるベクター・グラフィクス実習(1)
- Inkscape によるベクター・グラフィクス実習(2)
- GIMP によるビットマップ・グラフィクス実習(1)
- GIMP によるビットマップ・グラフィクス実習(2)

第9週～第13週: Webコンテンツ応用

- JavaScriptによる動的Web Page実習(1)
- JavaScriptによる動的Web Page実習(2)
- Flash コンテンツ作成実習(1) Suzuka
- Flash コンテンツ作成実習(2) トゥイーン
- Flash コンテンツ作成実習(3) Action Script

第14～15週: まとめとレポート

- Webコンテンツデザインまとめ
- レポート出題・解説

順序については変更される場合がある。

履修上の留意点

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。
「Webコンテンツデザイン各論」と同時に履修すること（2時限連続した授業である）。
「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであること。
「インターネットとメディア」を履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

オープンソースソフトウェア/フリーソフトウェアを活用して授業を行うので、各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。一部、いわゆるWindows環境のみで動作するソフトウェアを用いる。
講義における課題、最終レポート(作品・コンテンツ)により評価する。
(期末試験は行わない。)

教科書/テキスト
参 考 書
関 連 リンク

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
講義中あるいは教材中に適宜指示する。
<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	436761
科目名	Webコンテンツデザイン各論
担当者名	よしだ なおみ 吉田 尚史

講義の到達目標(ねらい)

最も一般性の高いデジタルコンテンツであるWebコンテンツをデザイン、作成するための基本的な概念、要素技術、構成法などについて学ぶ。実際には、XHTMLによるコンテンツの記述、CSSによるスタイルの記述、メタデータの付与、SMIL、SVGなどを用いたマルチメディア処理を会話型の処理のデザインと技法、スクリプトによるユーザーエージェント側での高度な処理について学ぶ。また、動画像や、携帯電話その他の機器におけるコンテンツのデザイン手法についても学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

下記のスケジュールに沿って、主として理論を習得する。
オープンソースソフトウェア/フリーソフトウェアを用いたコンテンツ作成も行う。

第1週～第4週: 導入と基礎となる学習

- World Wide Web 概要, 要素技術・原理
- XHTMLとCSS
- SMILとSVGの基礎
- ビットマップ・グラフィクスとベクター・グラフィクス

第5週～第8週: Webコンテンツ処理

- Inkscape によるベクター・グラフィクス作成(1)
- Inkscape によるベクター・グラフィクス作成(2)
- GIMP によるビットマップ・グラフィクス作成(1)
- GIMP によるビットマップ・グラフィクス作成(2)

第9週～第13週: Webコンテンツ応用

- JavaScriptによる動的Web Page(1)
- JavaScriptによる動的Web Page(2)
- Flash コンテンツ作成(1) Suzuka
- Flash コンテンツ作成(2) トゥイーン
- Flash コンテンツ作成(3) Action Script

第14～15週: まとめとレポート

- Webコンテンツデザインまとめ
- レポート出題・解説

順序については変更される場合がある。

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修上の留意点

「Webコンテンツデザイン演習」と同時に履修すること(2時限連続した授業である)。
「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであること。
「インターネットとメディア」を履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

オープンソースソフトウェア/フリーソフトウェアを活用して授業を行うので、各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。一部、いわゆるWindows環境のみで動作するソフトウェアを用いる。

講義における出席、最終レポートにより評価する。
(期末試験は行わない。)

教科書/テキスト
参 考 書
関 連 リ ン ク

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	433201
科目名	英語圏文学概論
担当者名	佐藤 <small>まとう あやこ</small> アヤ子

講義の到達目標(ねらい)

「世界文学」という言葉さえ使われる昨今、文学の世界の境界はますます低くなっています。英語はイギリス、アメリカのみならず、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、カリブ諸国、およびアフリカ、アジア等の一部の国々で公用語として用いられています。本授業では、「英語圏文学」という文学地図で英語圏の文学を講義します。

また、今日世界で生活する人々の四分の三以上の生活は、過去の植民地主義体験によって形作られたものであると言われています。世界の英語圏の国々も、かつてはイギリスの植民地でした。そして、このことがさまざまな民族の知覚や認識の枠組みに与えた影響は計り知れません。本授業では、こういった時代背景を学びながら、アメリカ、カナダ、オーストラリア、カリブ諸国およびアフリカで今日活躍する英語圏作家が提示するさまざまな問題を考えていきます。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 英語圏文学概観
2. イギリス文学概論 1
3. イギリス文学概論 2
4. イギリス文学作品鑑賞
5. イギリス文学作品鑑賞
6. アメリカ文学概論 1
6. アメリカ文学概論 2
7. アメリカ文学作品鑑賞
8. アメリカ文学作品鑑賞
9. カナダ文学概論 1
10. カナダ文学概論 2
11. カナダ文学作品鑑賞
12. カナダ文学作品鑑賞
13. 英語圏アフリカ文学概論
14. オーストラリア文学概論
15. 英語圏文学総括

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

授業で指定された作品を精読しておくこと。

授業で取りあげる作品は事前に読んでおくこと。

連続して授業に出席することを受講の条件とし、授業への参加、提出レポート等を総合的に評価します。

教科書／テキスト

マーガレット・アトウッド作・佐藤アヤ子訳『またの名をグレイス上・下』、岩波書店、各2800円、ISBN978-4-00-024805-1、ISBN978-4-00-024806-8

アソル・フガード作・福田逸訳『谷間の歌』、而立書房、1500円

ISBN4-88059-258-7-C0074

参考書

ビル・アッシュクロフト他著『ポストコロニアルの文学』（青土社）

履修コード	433611
科目名	映像コミュニケーション実習
担当者名	かなやま ともこ 金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要になってきました。本講義では、映像制作実践を通して、より良いメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標とします。マスメディアが伝えないような、身近な出来事、身近な人々や活動、或いは社会的な問題などを、自分達の疑問・思い・考えをもとに独自の視点でとらえ、これを映像コンテンツとして加工して、社会に還元してゆくことは意義のあることです。映像コンテンツの制作過程において、さまざまな人たちとかかわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えたいことの難しさと面白さを経験して下さい。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) 映像撮影や編集機材の使用法を学ぶ。

主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます

(2) 映像作品を読み解く

一般市民が制作した“よい映像作品”を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味について考えます。

(3) 映像コンテンツを制作する

少人数グループで、5～10分程度の映像作品を制作します。企画・構成・取材・撮影・編集といった映像制作過程を体験し、映像によるコミュニケーションを身につけます。

<授業スケジュール>

1回----映像コミュニケーションとは

2回----映像制作とは

3-5回--映像制作プロジェクト企画・プレゼンテーション

6回----映像撮影の基本・機材の使い方・企画書の書き方

7回----撮影実習プロジェクト

8-9回--編集機材の使い方・編集の基本

10回----実習作品発表

11-14回--映像撮影・編集

15回----映像作品発表

履修上の留意点

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。映像コンテンツ制作は基本的にチームワークで行います。また、クラス授業時間外での作業がかなり必要になります。したがって、原則として欠席しないこと、授業外での作業を厭わないことが前提条件です。

8割出席が単位取得の条件となります。

また、履修者が定員（16名）を超えた場合は選考があります。

成績評価の方法
その他

授業参加、実習作品、自由作品

映像によるコミュニケーションに興味のある学生、また作品を最後まで仕上げる学生を望みます。映像制作技術の有無は全く問いません。

履修コード	435011
科目名	映像産業論
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)

グローバリゼーションとは何か？経済のグローバル化は、日本の映像文化にどのような帰結をもたらしたのか？

講義の内容／
授業スケジュール

映像コンテンツ産業の象徴的核である映画産業のグローバル化の歴史をたどり、アメリカ大衆文化の世界的拡大とそれに伴う文化の画一化ならびに多様化の問題を検証します。19世紀末の映画伝来以来、日本の映画産業と文化は、いかに近代化、欧米化、グローバル化してきたのかを解き明かし、現代日本の文化状況を批判的に検証する教養を身につけます。

講義前半で、アドルフ・ホーケイマーの「文化産業」論、ウォルター・ベンヤミンの「複製技術時代の芸術」論、シラーの「文化帝国主義批判」理論、アンソニー・ギデンズの「グローバリゼーション」理論等、メディア&カルチュラル・スタディーズ(メディア文化研究)の基本理論を紹介し、そして後半は、戦後から現在にいたる日本映画産業の国際化、グローバル化、コスモポリタン化の過程を実証的に分析します。

- 第一週 コース紹介
- 第二週 文化産業—大衆欺瞞としての啓蒙
- 第三週 複製技術時代の芸術
- 第四週 文化帝国主義批判
- 第五週 文化のグローバル化—近代の拡散
- 第六週 文化的差異のグローバルな共有システム
- 第七週 文化産業のグローバル化
- 第八週 リーディング・ウィーク
- 第九週 米占領政策と日本映画産業
- 第一〇週 日本映画の国際化
- 第十一週 アジアにおける日本映画の国際化
- 第十二週 日本・香港映画交流の黄金時代
- 第十三週 日本映画資本のグローバル化
- 第十四週 日本先行型モダニティの終焉
- 第十五週 まとめ

準備学習
履修上の留意点

前期に「表象メディア論」を履修していることが望ましい。

現代思想や文化・社会理論に興味があり、社会科学の基礎をある程度すでに学んでいることが望ましい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

授業貢献度、毎週の小課題、中間および期末レポートの結果で総合的に評価する。

テヅカヨシハル著 映像のコスモポリティクス：グローバル化と日本、そして映画産業、せりか書房
講義進行にあわせて適宜指定・配布します。

履修コード	435611
科目名	エスニシティの文化心理学
担当者名	しらぬす しげのこ 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

異文化の人びととのスムーズなコミュニケーションのありかたを心理学的、メディア社会学的な観点から考察します。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回から第2回：異文化間コミュニケーションとは？
- 第3回から第4回：在日外国人の実態とコミュニケーション
- 第5回から第6回：アメリカにおける文化摩擦
- 第7回から第9回：主流メディアとエスニック・メディアの関係
- 第10回から第11回：在日エスニック・メディアの実態
- 第12回から第13回：まとめ

準備学習

GMSの授業支援システムの当該授業のページにパワーポイントのスライドをアップしておくので、前もって読んでおくように。

履修上の留意点

参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。授業中にしばしば質問を發します。答える意欲のない学生は脱落候補です。

成績評価の方法

授業時間中にしばしばエッセイを課す(5回程度の予定)。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイの提出が3回以下の場合には成績がつかないことがあるので、そのつもりで。とくになし。パワーポイントのスライドやビデオを用いる。

教科書／テキスト
参考書

白水繁彦『エスニック・メディア研究』明石書店、2004年

白水繁彦編『エスニック・メディア』明石書店、1998年

その他の

授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。したがって参加意欲のない学生はついていけないので、そのつもりで。

履修コード	419321
科目名	演習 I a
担当者名	アッシュウェル、 T.

講義の到達目標(ねらい) This seminar class will provide learners with a general introduction to the study of language in use. Some aspects of linguistics will be touched upon, but the main focus is the use of language in society, particularly the use of language in the media and on the Internet. By taking this course, it is intended that students will gain a greater sensitivity to the use of language in society and how it maintains and reinforces social roles and power relationships.

講義の内容／授業スケジュール In Enshu 1a, general topics of interest in language use such as child language acquisition, language variety and multilingualism will be discussed. Basic linguistic concepts in areas such as phonology, syntax/grammar and lexis will be introduced. These topics will be covered according to a weekly schedule which will be explained in the first class.

準備学習履修上の留意点 None
Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a semester incurs a penalty in the final grade. More than six unexcused absences mean that you fail the course. If you are late, this counts as "half an absence". Evaluation of students will be based on their performance on class activities and assignments. A detailed breakdown of the evaluation system will be presented to students in the first class.

成績評価の方法 To be announced.

教科書／テキスト 参考書 As much of the class will be conducted in English, a good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

その他 The 演習1a (Ashwell) page on the GMS Course Management System (<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>)

履修コード	418101
科目名	演習 I a
担当者名	石川 憲洋 <small>いしかわ のりひろ</small>

講義の到達目標(ねらい) ケータイはすでに携帯電話を超えて、メール、Webアクセス、様々なアプリケーションサービス(音楽、動画、ゲーム、ナビゲーション、天気予報、乗換案内など)、電子マネー、TV(ワンセグ)などを提供する、日常生活に不可欠なツールへと大きく発展を遂げ、子供から大人まで、幅広く浸透している。

一方で、ケータイに関する技術革新は激しく、アップルのiPhone、グーグルのAndroid・ケータイなどの全く新しいケータイが登場し、大きな注目を集めている。
高速モバイル通信機能(LTEなど)、各種センサー機能(位置センサー、電子コンパス、加速度センサーなど)、近距離通信機能(Bluetooth、無線LAN)などが搭載された近未来のケータイを想定し、それらを活用した斬新なサービス創出に関して、議論、考察するとともに、その実現に向けた基盤技術(ケータイ向けコンテンツ/アプリケーション作成技術など)についても学習する。
【第1週～第4週】ケータイの最新動向に関する調査、研究。特に、新しいケータイの動向(マイクロソフト、アップル、グーグル等のスマートフォン等)、ケータイ向け新サービスの動向(拡張現実、位置情報利用サービス等)について詳しく調査する。

【第5週～第8週】ケータイ向けWebコンテンツ作成技術(XHTML等)の調査、研究と、作成環境の構築。

【第9週～第12週】ケータイ向けWebコンテンツの作成実習。各自(又はグループ)で自らテーマを設定し、レポートを作成。

【第13週～第15週】作成したケータイ向けWebコンテンツ及び作成したレポートに関するプレゼンテーション。

準備学習履修上の留意点 インターネット上のWebページ等を利用して、ケータイ業界の最新の動向をよく調べておくこと。情報リテラシー及び情報リテラシー実習を履修済みであること。通年での履修を前提とする。
成績評価の方法 出席回数、レポート課題/実習課題の提出、グループ課題の発表などを考慮して、総合的に評価する。

教科書/テキスト 参考書 なし
演習の中で、適宜、参考書、インターネット上のWebページ等を紹介する。

履修コード	418801
科目名	演習 I a
担当者名	いしはし なつき 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)	情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。 本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。 具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	Iaは特に、文献調査・輪講を通じて社会情勢を読む視野を広げ、同時に、演習を通じてシステム構築の基礎を学ぶことを目標とする。 1週～4週：文献調査 (brainstorming) 5週～8週：プログラミング実習 (skill acquisition) 9週～：システム設計実習 (governance design) コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、I bと併せての履修を前提とする。
履修上の留意点	課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。
成績評価の方法	Webにおいて電子教材を提供する。
教科書／テキスト	講義中において教材を指定する。
参考文献	

G
M
S

履修コード	418301
科目名	演習 I a
担当者名	かがみ ようこ 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)	大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。 現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。
講義の内容／ 授業スケジュール	理論研究では、経営環境、経営戦略、経営社の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、現実の企業研修に利用されているビジネス・シミュレーション・ゲーム(企業経営模擬実験)をチームに分かれて行う。会社の創立から株主総会の開催(ゲームの最終段階)、経営幹部反省会(コンパ)まで、企業経営の一連の流れを体感し、意思決定の難しさ、チームワークの重要性を実感してもらう。
準備学習	グループワークが主体で進めますので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。課題図書、参考文献の発表準備、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。
履修上の留意点	出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。
成績評価の方法	ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。
教科書／テキスト	年に数冊。 適宜指示する。
参考文献	日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。 あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。 特に重要な書籍などは適宜指示する。
その他	・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。 ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。 ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	418401
科目名	演習 I a
担当者名	かなやま ともこ 金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミでは、メディアの研究・実践・応用を通して、より高いレベルでのメディア・リテラシーを身につけること、そしてコミュニケーション能力を高めることを目指します。身の回りのさまざまな現象を、メディアという視点から理解すると同時に、メディアを介して実践されるコミュニケーションについて考察します。マスメディアやパーソナルメディア、ソーシャルメディアだけでなく、紙芝居、ダンス、カフェ、付録、化粧といったさまざまなものをメディアとして捉えています。

研究テーマは基本的に自由ですが、メディアに視点をおきながら、地域活性化・コミュニティ形成・社会問題といったローカルな問題から、環境・貧困・国際支援といったグローバルな問題を調査していくこと、あるいは、現代社会におけるメディアの役割や意義について研究していくことが中心となります。

また、継続的かつ長期的なメディアの実践を通して、メディア・コミュニケーションの意味を自ら学びます。

講義の内容／
授業スケジュール

主な3つの活動

【1. 研究】グループ毎にメディアに関するテーマについて1年間、調査研究します。前期は研究テーマ設定、文献調査や理論のもとに研究計画をたて、後期はアンケート、インタビュー、内容分析等の方法で調査を実施、結果を発表します。研究成果は論文集にまとめます。

【2. 実践】チーム毎に異なるメディアを使った長期プロジェクトを企画し実践していきます。

【3. 応用】より公共性の高いメディアのプロジェクトに参加します。

履修上の留意点

欠席はしないこと。I abの通年履修が原則。合宿には必ず参加すること。

特に積極的な参加や態度を重視します。

成績評価の方法

出席、参加、および研究計画書による総合評価

教科書／テキスト

授業内で資料を配布します。

履修コード	418901
科目名	演習 I a
担当者名	きぬかわ しんや 絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい)

プレゼンテーションの基礎を講義と演習によって習得する。最初に講義でプレゼンテーションの基礎を学び、次に演習で、英文経済雑誌Businessweekから記事を選び、内容をまとめて発表する。トピックは、コンテンツ(映画、アニメ、マンガ、音楽など)、ソフトウェア、インターネットビジネス、著作権・特許権制度など、知的財産に関するもの。各自、自分の関心のある記事を、教員と相談しながら自ら探す。さらに、選択した記事内容との関連事項を独自に調べ、報告を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回「イントロダクション」全体説明

第2回「プレゼンテーション予行演習」

第3回「記事の選択」

第4回「講義(1)」

第5回「講義(2)」

第6回「個別指導」

第7～10回「記事内容の報告」

第11回「個別指導」

第12～15回「独自調査内容の報告」

履修上の留意点

発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。

成績評価の方法

・発表内容

・出席

・ディスカッションへの参加度合い

教科書／テキスト

藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術』、講談社ブルーバックス、800円+税、ISBN4-06-257387-3

履修コード	417701
科目名	演習 I a
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. The basics of the production process will be explored.

講義の内容／
授業スケジュール This Semester 1 seminar will meet during 3rd, 4th or 5th period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.

履修上の留意点 Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法 Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project.

教科書／テキスト There are no required textbooks as readings will be provided on the class website.

参考文献 書 Professor will provide materials from the following:
 Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004
 Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005
 Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997
 Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005
 Brian McKernan(Editor), John Rice(Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

G
M
S

履修コード	419101
科目名	演習 I a
担当者名	芝崎 厚士 <small>しばさき あつし</small>

講義の到達目標(ねらい) ・国際関係論、国際関係史の基礎を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容
前期は日本を中心とした国際関係史の文献輪読、発表を中心とし、関連する映像・メディア作品や、毎週課される課題に基づくディスカッションを行う。
授業の形式：
(1) 毎週課される課題、(2) 毎月課される課題がそれぞれある。また、文献の内容を発表する機会や、ディスカッションのためのプレゼンテーションや討論のまとめなども数多く行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 国際関係史1 幕末から明治維新
- 3回目 国際関係史2 文明開化から日清戦争
- 4回目 国際関係史3 日露戦争から第1次世界大戦
- 5回目 映像分析1
- 6回目 国際関係史4 戦間期
- 7回目 国際関係史5 太平洋戦争期
- 8回目 国際関係史6 占領期
- 9回目 映像分析2
- 10回目 国際関係史7 55年体制形成期
- 11回目 国際関係史8 高度成長期
- 12回目 国際関係史9 1980年代
- 13回目 映像分析3
- 14回目 国際関係史10 1990年代
- 15回目 まとめ 21世紀の世界と日本、そして我々

※とりあげる内容や順番は、若干変更することがあります。

履修上の留意点

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

- 出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。
- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・多種多様なゲストを迎える「囲む会」、ゲストの勤務先を訪問するフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミなどを随時開講予定。参加可能な場合には参加すること。
- ・夏季合宿(7月末から8月初旬)は原則として全員参加。

GMS

履修コード	418001
科目名	演習 I a
担当者名	白水 繁彦 <small>しらみず しげのこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

社会学の方法を学ぶ
社会学の考え方、社会調査の方法などの基礎を学ぶ

講義の内容／
授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②テキスト輪読グループ分け
- 2～3回目 図書館の利用法など
- 4回目～14回目 テキストの輪読、プレゼンテーション

準 備 学 習
履修上の留意点

テキストの事前学習は必須
絶えず新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアに接し、社会の動きに注意をはらうこと。とくに社会や文化の変動の仕掛け人やオピニオン・リーダーの言動に注意をはらうこと。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。
配付する
授業中に指定する
能動的で積極的で欠席しない人の受講を望む。

履修コード	419351
科目名	演習 I a
担当者名	<small>すぎもり けんたろう</small> 杉森 建太郎

講義の到達目標(ねらい)	ステレオタイプ・偏見への意識を高め「異文化」に対して少しでも理解しよう、寛容であろう、とする姿勢を身につける。そのような姿勢はぐくむ手段の一つとして、この授業では、我々の日常にあふれるメディアの中のステレオタイプ・偏見を分析していく。メディアの中にあふれるステレオタイプ・偏見を分析することを通じ、そういったステレオタイプ・偏見への意識を高めていくとともに、自らの姿勢を省み、よりそういった問題に敏感な人間となることを目指す。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) 文化、ステレオタイプ、偏見、等の概念について学ぶ。 (2) いくつかの質的研究の調査・分析方法（観察、インタビュー等）について学び、練習を行う。 (3) いくつかの資料（映画、番組、広告、本、新聞等）を元に、どのような異文化に対するステレオタイプ・偏見が存在するか学ぶ。 (4) グループで研究対象を決め、リサーチ・分析・発表。 (5) また、大学生としての学習ストラテジーやマナーも学ぶ。
履修上の留意点	(1) 基本的にすべての授業に出席し、やむを得ない欠席は事前に連絡すること。 (2) ゼミ該当曜日（木曜日）は、授業後に他の予定を入れないこと。 (3) 演習 I abセットで履修すること。
成績評価の方法 教科書／テキスト	授業への貢献、課題発表等総合的に評価。 授業の際に指示する。
参 考 書	授業の際に指示する。
そ の 他	文化施設等への訪問や新聞を活用した活動も行う。

履修コード	418601
科目名	演習 I a
担当者名	<small>にしおか ようこ</small> 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)	メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。 メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。
講義の内容／ 授業スケジュール	また、文献調査、理論的文献の読解、レジュメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。 前期は、メディア論およびメディア史に関する文献を輪読し、経済社会およびメディアが進化を遂げてきたことを理解する。
履修上の留意点	後期は、現在の国内主要メディア産業をとりあげ、メディア産業の特質および構造、競争状況について考察を行い、その全体的仕組みを理解し、3年次以降の学習の基礎を作る。 テーマによって、英語文献の使用および調査を求める場合がある。
成績評価の方法 教科書／テキスト	平常点（出席、態度、発表内容、演習への貢献など）および期末レポートを総合して評価する。 随時指示する。
参 考 書	随時指示する。

履修コード	418201
科目名	演習 I a
担当者名	福家 秀紀 <small>ふけ ひでのり</small>

講義の到達目標(ねらい)	演習における基礎的な勉強方法の習得に重点を置く。ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身につけることを主眼とします。
講義の内容／授業スケジュール	特定のテーマを指定してそのテーマを深めるのではなく、ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。(1) ガイダンス、(2)～(6) 文献輪読、(7)～(8) 文献学習の方法、情報・データの収集方法、(9)～(14) レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、討論の進め方 (15) まとめ
準備学習	各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。
履修上の留意点	原則として演習I、II、IIIを通して履修することと、情報メディア産業論Iを履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価します。 ・村井純、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4 ・佐々木俊尚[2006]、『グーグル』、文春新書、760円、4-16-660501-1 ・梅田望夫[1996]、『ウェブ進化論』ちくま新書、740円、4-480-06285-8 ・その他適宜指示します。
参考文献	講義の中で適宜紹介します。

履修コード	417901
科目名	演習 I a
担当者名	みなみ まさき 南 政樹

講義の到達目標(ねらい)	インターネットの技術と社会(I) 今日の情報社会はインターネットを基盤とした階層的な構造として捉えることができる。その最上位は我々が存在する実社会であり、そこに提供される様々なサービスである。その最下位は物理的なデータ伝送を行う媒体である。 階層的な構造としてみることで、各層の役割とその上下のそととの関わり合いを局所的に理解することができ、インターネットを通じたコミュニケーションにおける問題点や課題をより具体的に捉えることができる。 本講義では、インターネットとそのサービスを実現する要素の技術的理解と、今日の社会におけるコミュニケーションやサービスなどの意味的理解によって、将来の技術と社会の有り様を探る。
講義の内容／授業スケジュール	1) 講義ガイダンス 2) 学習・研究目標設定 3) インターネットの技術的理解 (1) 4) インターネットの技術的理解 (2) 5) インターネットの技術的理解 (3) 6) 学習・研究進捗確認 (1) 7) プログラミング実習 (1) 8) プログラミング実習 (2) 9) プログラミング実習 (3) 10) 学習・研究進捗確認 (2) 11) インターネットサービス (1) 12) インターネットサービス (2) 13) インターネットサービス (3) 14) 学習・研究評価 15) まとめ
準備学習	情報リテラシー、情報リテラシー実習を履修済みであることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。
履修上の留意点	演習I、II、IIIを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。 本講義は時間割で割り当てられた時限だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。
成績評価の方法 教科書／テキスト	日常の活動および期間中に進めるプロジェクトによる評価で総合的に判定する。 指定しない。
参考文献	学習および研究の内容に応じて、適宜指定する。

履修コード	418701
科目名	演習 I a
担当者名	山口 浩 <small>やまぐち ひろし</small>

講義の到達目標(ねらい)

「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとします。これまで別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきています。これらすべての分野の専門家に同時になることは難しいですが、少しでも知っていれば大きな価値になります。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることをめざします。

講義の内容／
授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分けて実施します。

1 共通プログラム

- ①企業経営・ファイナンスについての学習
- ②ゼミ企業、及び共同プロジェクトの運営
- ③ゼミブログの運営

2 個別プログラム

上記の他、その時点での状況に応じ、複数のチームに分け、複数のプロジェクトを実施します。プロジェクトの例は以下の通りですが、これに縛られません。

- ①ブログ関連 取材からアフィリエイトによる収益化までを含むブログ運営
- ②ゲーム関連 学習ゲーム制作、eスポーツ他
- ③動画関連 動画番組の制作

④イベント関連 各種イベントの企画・運営

自分が何に貢献できるか、何ができるか考えてきてください。

通年、3年間継続履修を原則とします。

「グローバル経営論」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることを前提とします。

その他、次の点に留意してください。

- ①このゼミは、人によってやるのがちがうことを前提としています。多様な人がそれぞれの力を生かして共同で何かを作り上げていくプロセスを重要と考えます。そうした価値観に賛同いただける方の参加を希望します。
- ②このゼミは、自分で面白いと思うものを見つけ、自分で何をすべきか考え、自分から動くことのできる人を対象としています。逆にいえば、黙って座っていれば何か面白いものが降ってくるとか、いわれたことだけをやっていればいいとかいうタイプの人には向きません。もしそういう人がいたら、何も得られずに（単位も）時間を無駄にするだけです。ご注意ください。
- ③このゼミでは動画や静止画の撮影をしばしば行います。したがって、自分の姿がそれらに映り込んだり、あるいは出演してもらったりすることもあります。
- ④このゼミでは、アルバイト経験を社会に触れる重要な機会と考えています。しかし学生の本分は学ぶことでもあり、アルバイトを理由にたびたび欠席するようなことがあれば、それは本末転倒と考えざるを得ません。活動の性格上、正規の活動日以外にも活動しなければならないケースもしばしば考えられます。アルバイト自体を問題視するわけではありませんが、あまり忙しい方は、このゼミには向かないと思います。

準備学習
履修上の留意点

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスの他、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自ら立てた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価します。

教科書／テキスト
参 考 書

必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。
必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

履修コード	419301
科目名	演習 I a
担当者名	吉田 <small>よしだ なおふみ</small> 尚史

講義の到達目標(わらい)

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習Iaでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容 /
授業スケジュール

第1週～第4週: 導入と基礎となる学習

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語Academic Reading
- 日本語Academic Writing
- 日本語Academic Presentation
- デイベート

第5週～第8週: 各研究テーマに関するディスカッション

- 計画発表会
- ディスカッション
- デイベート
- PowerPoint作成実習(継続)
- 日本語Academic Reading(継続)
- 日本語Academic Writing(継続)
- 日本語Academic Presentation(継続)

第9週～第13週: 各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備

- プログラミングによるシステム試作
- 発表会
- ディスカッション

第14～15週: 最終発表会

- 発表会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

その他最新情報は、次のWebページに掲載している。

積極的な参加(出席を含む)および発表会における発表により評価する。

授業において指示する。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

成績評価の方法
教科書/テキスト
関連リンク

履修コード	419201
科目名	演習 I a
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容／
授業スケジュール The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:
 1. Aspects of business history
 2. Innovation
 3. Entrepreneurship
 4. Venture businesses
 5. New technology-based firms
 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.
 Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:
 Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.
 Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.
 Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点 The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法 Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	421121
科目名	演習 I b
担当者名	アシュウェル、 T.

講義の到達目標(ねらい) The aims of this seminar class are the same as for the Enshu 1a class.

講義の内容／
授業スケジュール In Enshu 1b, the focus will be on language use in the media and how language use can be analyzed. These topics will be covered according to a weekly schedule which will be explained in the first class.

準備学習
履修上の留意点

None
 Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a semester incurs a penalty in the final grade. More than six unexcused absences mean that you fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

成績評価の方法 Evaluation of students will be based on their performance on class activities and assignments. A detailed breakdown of the evaluation system will be presented to students in the first class.

教科書／テキスト
参考書

To be announced.
 As much of the class will be conducted in English, a good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

その他

The 演習1b (Ashwell) page on the GMS Course Management System (<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>)

履修コード	419901
科目名	演習 I b
担当者名	いしかわ のりひろ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

ケータイはすでに携帯電話を超えて、メール、Webアクセス、様々なアプリケーションサービス(音楽、動画、ゲーム、ナビゲーション、天気予報、乗換案内など)、電子マネー、TV(ワンセグ)などを提供する、日常生活に不可欠なツールへと大きく発展を遂げ、子供から大人まで、幅広く浸透している。

一方で、ケータイに関する技術革新は激しく、アップルのiPhone、グーグルのAndroid・ケータイなどの全く新しいケータイが登場し、大きな注目を集めている。

高速モバイル通信機能(LTEなど)、各種センサー機能(位置センサー、電子コンパス、加速度センサーなど)、近距離通信機能(Bluetooth、無線LAN)などが搭載された近未来のケータイを想定し、それらを活用した斬新なサービス創出に関して、議論、考察するとともに、その実現に向けた基盤技術(ケータイ向けコンテンツ/アプリケーション作成技術など)についても学習する。

講義の内容/
授業スケジュール

【第1週～第4週】高速モバイル通信機能(LTEなど)、各種センサー機能(位置センサー、電子コンパス、加速度センサーなど)、近距離通信機能(Bluetooth、無線LAN)などのケータイ向け新技術に関する調査、研究。それらの新技術を活用した、近未来ケータイ、近未来サービスに関する自由な議論、研究。

【第5週～第8週】ケータイ向けアプリケーション作成技術(Java、JavaScript、Flash等)の調査、研究と、作成環境の構築。

【第9週～第12週】ケータイ向けアプリケーションの作成実習。各自(又はグループ)で自らテーマを設定し、レポートを作成。

【第13週～第15週】作成したケータイ向けアプリケーション及び作成したレポートに関するプレゼンテーション。

準備学習

演習Iaで調査、研究した内容をよく復習しておくこと。

履修上の留意点

情報リテラシー及び情報リテラシー実習を履修済みであること。通年での履修を前提とする。

成績評価の方法

出席回数、レポート課題/実習課題の提出、グループ課題の発表などを考慮して、総合的に評価する。

教科書/テキスト

なし

参考書

演習の中で、適宜、参考書、インターネット上のWebページ等を紹介する。

履修コード	420601
科目名	演習 I b
担当者名	いしばし なおき 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。

本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。

具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

Ibでは、特に、モバイル端末を対象として、自らのビジネスモデルの構築、システム設計を行い、システムのプロトタイプ作成を目指す。

1週～3週：文献調査(brainstorming)

4週～7週：Web Design(skill acquisition)

8週～：システム構築実習(service prototyping)

履修上の留意点

コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、Iaと併せての履修を前提とする。

成績評価の方法

課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

教科書/テキスト

Webにおいて電子教材を提供する。

参考書

講義中において教材を指定する。

履修コード	420101
科目名	演習 I b
担当者名	各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

理論研究では、経営環境、経営戦略、経営者の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、後期は業界構造を研究する。チームに分れて、インターネットや図書館ばかりでなく、現実の業界を扱う団体、国会図書館、東京証券取引所、企業の運営する資料室など、各所を訪問して、できる限り質の高い情報を集める方法を学ぶ。集めたデータの分析方法、グループでの効果的なプレゼンテーションなどを通して、一冊の業界構造分析を製本する。最後に関係する企業にインタビューに伺い、企業人の生の声を伺う。情報収集力、データ分析力、プレゼンテーション力を養い、チームワークの重要性を身をもって体験してもらう。

準備学習

グループワークが主体ですので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。参考文献の発表準備、課題図書、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。

履修上の留意点
成績評価の方法

出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。

教科書/テキスト

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。
テキストは適宜使用する。

参考書

日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。
あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

その他の

特に重要な書籍などは適宜指示する。
・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。
・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。
・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	420201
科目名	演習 I b
担当者名	金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミでは、メディアの研究・実践・応用を通して、より高いレベルでのメディア・リテラシーを身につけること、そしてコミュニケーション能力を高めることを目指します。身の回りのさまざまな現象を、メディアという視点から理解すると同時に、メディアを介して実践されるコミュニケーションについて考察します。マスメディアやパーソナルメディア、ソーシャルメディアだけでなく、紙芝居、ダンス、カフェ、付録、化粧といったさまざまなものをメディアとして捉えていきます。

研究テーマは基本的に自由ですが、メディアに視点をおきながら、地域活性化・コミュニティ形成・社会問題といったローカルな問題から、環境・貧困・国際支援といったグローバルな問題を調査していくこと、あるいは、現代社会におけるメディアの役割や意義について研究していくことが中心となります。

また、継続的かつ長期的なメディアの実践を通して、メディア・コミュニケーションの意味を自ら学びます。

講義の内容/
授業スケジュール

主な3つの活動

- 【1. 研究】グループ毎にメディアに関するテーマについて1年間、調査研究します。前期は研究テーマ設定、文献調査や理論のもとに研究計画をたて、後期はアンケート、インタビュー、内容分析等の方法で調査を実施、結果を発表します。研究成果は論文集にまとめます。
- 【2. 実践】チーム毎に異なるメディアを使った長期プロジェクトを企画し実践していきます。
- 【3. 応用】より公共性の高いメディアのプロジェクトに参加します。

履修上の留意点

欠席はしないこと。I abの通年履修が原則。合宿には必ず参加すること。

成績評価の方法
教科書/テキスト

特に積極的な参加や態度を重視します。
出席、参加、および研究計画書による総合評価
授業内で資料を配布します。

履修コード	420701
科目名	演習 I b
担当者名	<small>きぬかわ しんや</small> 絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい)	レポート作成の基礎を講義と演習によって習得する。最初に講義でレポート作成の基礎を学び、次に演習で、各自で選んだテーマについてレポートを作成、その内容について発表する。テーマは、コンテンツ（映画、アニメ、マンガ、音楽など）、ソフトウェア、インターネットビジネス、著作権・特許権制度など、知的財産に関するもの。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回「イントロダクション」全体説明 第2回「図書館ガイダンス」図書館の利用法についての説明 第3回「講義（1）」レポートの性質と構成について 第4回「個別指導」 第5回「テーマとアウトラインの発表」 第6回「講義（2）」文章の書き方について 第7回「個別指導」 第8回「レポート初稿提出」 第9～10回「レポート修正指導」 第11～14回「レポート内容発表」 第15回「レポート最終校提出」
履修上の留意点	発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。
成績評価の方法	・レポートおよび発表内容 ・出席 ・ディスカッションへの参加度合い
教科書／テキスト	木下是雄『レポートの組み立て方』、ちくま学芸文庫、780円＋税、ISBN4-480-08121-6

履修コード	419501
科目名	演習 I b
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)

This class deals with the emerging realm of media for cell phones and other mobile computers. Its focus is in creating and producing a media platform and associated program applications that will showcase Japan's youth culture.

講義の内容／
授業スケジュール

Seminar lab will meet once a week during 3rd, 4th or 5th period. Introduction to producing media and the conceptual foundations of this course will be provided. Students will divide into teams to create and produce a media program that will be part of the Shibuya media platform. Students in teams will develop a presentation package for a final course presentation. Student's work will be added to their portfolio which will provide the basis for their senior thesis.

履修上の留意点

This seminar is for students truly interested in producing media. The purpose of this course is not to teach English, but rather on how to take an idea and turn it into a media project proposal. Students who will benefit most from this seminar are those who are self motivated and seek to take control of their own learning.

成績評価の方法

Students will be graded based on participation, the results of their final project presentation and their portfolio. Attendance will be required.

教科書／テキスト
参 考 書

There are no required textbooks.

Professor will provide materials from the following:

Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004

Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997

Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Brian McKernan (Editor), John Rice (Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	420901
科目名	演習 I b
担当者名	しばき あつし 芝崎 厚士

講義の到達目標(ねらい)

・国際関係の理論と実践の初歩を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。

※後期は特に、レジユメの作成、文献調査の方法など、研究の進め方、発表の仕方などについて力点を置き、ゼミ論を作成することで、3年次以降の研究の基礎体力を養成する。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容

後期は国際関係論・国際政治学の基礎的な理論と世界の実情に関する基礎文献の輪読と発表を第1の柱とする。第2の柱として、グループ単位での研究を行い、ゼミ論を作成する。

授業の形式：

(1) 毎週課される課題、(2) 毎月課される課題がそれぞれある。また、文献の内容を発表する機会や、ディスカッションのためのプレゼンテーションや討論のまとめなども数多く行う。さらに、グループ研究に関する各自の研究発表がこれに加わる。

授業スケジュール

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 国際関係理論 1 (全体像と歴史的背景)・グループ研究 1
- 3 回目 国際関係理論 2 (リアリズム)・グループ研究 2
- 4 回目 国際関係の実践 1 (外交と対外政策)・グループ研究 3
- 5 回目 メディア分析 1
- 6 回目 国際関係理論 3 (リベラリズム)・グループ研究 4
- 7 回目 国際関係理論 4 (マルクス主義・世界システム論)・グループ研究 5
- 8 回目 国際関係の実践 2 (国際政治経済)・グループ研究 6
- 9 回目 メディア分析 2
- 10 回目 国際関係の理論 5 (相互依存)・グループ研究 7
- 11 回目 国際関係の理論 6 (グローバリゼーション)・グループ研究 8
- 12 回目 国際関係の実践 3 (国際紛争)・グループ研究 9
- 13 回目 メディア分析 3
- 14 回目 国際関係の実践 4 (情報革命)・グループ研究発表 1
- 15 回目 国際関係の実践 5 (多国籍企業・NGO)・グループ研究発表 2

※学生と相談の上で、順番、内容は変更することがあります。

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。
- 出席点、課題、発表、レポートにより評価。

履修上の留意点

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。

・多種多様なゲストを招いた「囲む会」、ゲストの勤務先に赴くフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを別途開講予定。参加可能な場合には参加すること。

G
M
S

履修コード	419801
科目名	演習 I b
担当者名	しらみず しげこ 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

社会学の研究法を用いて把握の実習
グループに分かれてテーマを設定しフィールドワークなどを実施

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

社会の方法を試してみる。

グループ別にテーマを決めて、方法を試す。とくにインタビューの方法に慣れる。

自分が関心のある具体的なテーマを設定し、文献を調べ、仮説を設定し、小規模なフィールドワークもしくは文献調査をして検証する。それを各種メディアを使ってわかりやすく発表する。

演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

各自

適宜指定する

能動的で積極的に欠席しない人の受講を望む。

履修コード	421151
科目名	演習 I b
担当者名	杉森 建太郎

講義の到達目標(ねらい) ステレオタイプ・偏見への意識を高め「異文化」に対して少しでも理解しよう、寛容であろう、とする姿勢を身につける。そのような姿勢をはぐくむ手段の一つとして、この授業では、我々の日常にあふれるメディアの中のステレオタイプ・偏見を分析していく。メディアの中にあふれるステレオタイプ・偏見を分析することを通じ、そういったステレオタイプ・偏見への意識を高めていくとともに、自らの姿勢を省み、よりそういった問題に敏感な人間となることを目指す。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 文化、ステレオタイプ、偏見、等の概念について学ぶ。
- (2) いくつかの質的研究の調査・分析方法（観察、インタビュー等）について学び、練習を行う。
- (3) いくつかの資料（映画、番組、広告、本、新聞等）を元に、どのような異文化に対するステレオタイプ・偏見が存在するか学ぶ。
- (4) グループで研究対象を決め、リサーチ・分析・発表。
- (5) また、大学生としての学習ストラテジーやマナーも学ぶ。

履修上の留意点

- (1) 基本的にすべての授業に出席し、やむを得ない欠席は事前に連絡すること。
- (2) ゼミ該当曜日（木曜日）は、授業後に他の予定を入れないこと。
- (3) 演習 I abセットで履修すること。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

授業への貢献、課題発表等総合的に評価。
授業の際に指示する。
授業の際に指示する。
文化施設等への訪問や新聞を活用した活動も行う。

履修コード	420401
科目名	演習 I b
担当者名	西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい) メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。

メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。

講義の内容/
授業スケジュール

前期は、メディア論およびメディア史に関する文献を輪読し、経済社会およびメディアが進化を遂げてきたことを理解する。

後期は、現在の国内主要メディア産業をとりあげ、メディア産業の特質および構造、競争状況について考察を行い、その全体的仕組みを理解し、3年次以降の学習の基礎を作る。

合宿は、Iab, IIab合同で前期終了時を目安に行う。

テーマによって、英語文献の使用および調査を求める場合がある。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

平常点（出席、態度、発表内容、演習への貢献など）および期末レポートを総合して評価する

随時指示する。

随時指示する。

履修コード	420001
科目名	演習 I b
担当者名	福家 秀紀 <small>ふけ ひでのり</small>

講義の到達目標(ねらい) 演習における基礎的な勉強方法の習得に重点を置く。ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身につけることを主眼とします。

講義の内容／授業スケジュール 特定のテーマを指定してそのテーマを深めるのではなく、ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら進めます。また、発表時の司会・討論は学生が主体となって進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。(1) ガイダンス、(2) ～ (14) 文献輪読と個人研究発表、(15) まとめ

準備学習 各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。

履修上の留意点 原則として演習I、II、IIIを通して履修することと、情報メディア産業論IIを履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。

成績評価の方法教科書／テキスト 出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価します。
・Auletta, Ken [2009]. 'Googled', Virgin Books, 土方奈美訳 [2010], 『グーグル秘録』、文藝春秋、1,900円、978-4-16-372500-0

参考書 その他演習Iaの進捗状況を見て別途指示します。
ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて適宜指示します。

G
M
S

履修コード	419701
科目名	演習 I b
担当者名	南 政樹 <small>みなみ まさき</small>

講義の到達目標(ねらい) インターネットの技術と社会(II)
今日の情報社会はインターネットを基盤とした階層的な構造として捉えることができる。その最上位は我々が存在する実社会であり、そこに提供される様々なサービスである。その最下位は物理的なデータ伝送を行う媒体である。
階層的な構造としてみることで、各層の役割とその上下のそととの関わり合いを局所的に理解することができ、インターネットを通じたコミュニケーションにおける問題点や課題をより具体的に捉えることができる。

講義の内容／授業スケジュール 本講義では、インターネットとそのサービスを実現する要素の技術的理解と、今日の社会におけるコミュニケーションやサービスなどの意味的理解によって、将来の技術と社会の有り様を探る。

- 1) 講義ガイダンス
- 2) 学習・研究目標設定
- 3) インターネット技術の応用 (1)
- 4) インターネット技術の応用 (2)
- 5) インターネット技術の応用 (3)
- 6) 学習・研究進捗確認 (1)
- 7) プログラミング実践 (1)
- 8) プログラミング実践 (2)
- 9) プログラミング実践 (3)
- 10) 学習・研究進捗確認 (2)
- 11) インターネットサービス構築 (1)
- 12) インターネットサービス構築 (2)
- 13) インターネットサービス構築 (3)
- 14) 学習・研究評価
- 15) まとめ

準備学習 演習Iaを履修していることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。

履修上の留意点 演習I、II、IIIを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。
本講義は時間割で割り当てられた時限だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。

成績評価の方法教科書／テキスト 日常の活動および期間中に進めるプロジェクトによる評価で総合的に判定する。
指定しない。

参考書 学習および研究の内容に応じて、適宜指定する。

履修コード	420501
科目名	演習 I b
担当者名	やまぐち ひろし 山口 浩

講義の到達目標(ねらい)

「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとします。これまで別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきています。これらすべての分野の専門家に同時になることは難しいですが、少しでも知っていれば大きな価値になります。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることをめざします。
共通プログラムと個別プログラムに分けて実施します。

講義の内容／
授業スケジュール

1 共通プログラム

- ①企業経営・ファイナンスについての学習
- ②ゼミ企業、及び共同プロジェクトの運営
- ③ゼミブログの運営

2 個別プログラム

上記の他、その時点での状況に応じ、複数のチームに分け、複数のプロジェクトを実施します。プロジェクトの例は以下の通りですが、これに縛られません。

- ①ブログ関連 取材からアフィリエイトによる収益化までを含むブログ運営
- ②ゲーム関連 学習ゲーム制作、eスポーツ他
- ③動画関連 動画番組の制作
- ④イベント関連 各種イベントの企画・運営

準備学習
履修上の留意点

自分が何に貢献できるか、何ができるか考えてきてください。

通年、3年間継続履修を原則とします。

「グローバル経営論I」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることを前提とします。

その他、次の点に留意してください。

- ①このゼミは、人によってやるのがちがうことを前提としています。多様な人がそれぞれの力を生かして共同で何かを作り上げていくプロセスを重要と考えます。そうした価値観に賛同いただける方の参加を希望します。
- ②このゼミは、自分で面白いと思うものを見つけ、自分で何をすべきか考え、自分から動くことのできる人を対象としています。逆にいえば、黙って座っていれば何か面白いものが降ってくるとか、いわれたことだけをやっていればいいとかいうタイプの人には向きません。もしそういう人がいたら、何も得られずに（単位も）時間を無駄にするだけです。ご注意ください。
- ③このゼミでは動画や静止画の撮影をしばしば行います。したがって、自分の姿がそれらに映り込んだり、あるいは出演してもらったりすることもあります。
- ④このゼミでは、アルバイト経験を社会に触れる重要な機会と考えています。しかし学生の本分は学ぶことでもあり、アルバイトを理由にたびたび欠席するようなことがあれば、それは本末転倒と考えざるを得ません。活動の性格上、正規の活動日以外にも活動しなければならないケースもしばしば考えられます。アルバイト自体を問題視するわけではありませんが、あまり忙しい方は、このゼミには向かないと思います。

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスの他、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自ら立てた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価します。

教科書／テキスト
参 考 書

必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。
必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

履修コード	421101
科目名	演習 I b
担当者名	<small>よしだ なおふみ</small> 吉田 尚史

講義の到達目標(わらい)

本演習では、グローバルな社会環境において实际的に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習Ibでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容／
授業スケジュール

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語Academic Reading
- 日本語Academic Writing
- 日本語Academic Presentation, Q&A
- 計画発表会
- ディスカッション
- Webサイト作成
- プログラミングによるシステム試作
- ディスカッション
- ダイベート
- 発表会

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
関 連 リ ン ク

これらの内容を、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

積極的な参加（出席を含む）および発表会における発表により評価する。

授業において指示する。

授業において指示する。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

履修コード	421001
科目名	演習 I b
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい)

The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容／
授業スケジュール

The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:

1. Aspects of business history
2. Innovation
3. Entrepreneurship
4. Venture businesses
5. New technology-based firms
6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.

Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is: Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.

Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.

Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点

The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法

Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	421601
科目名	演習 II a
担当者名	<small>いしかわ のりひら</small> 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

ケータイ向け新サービス創出とその実現技術、ケータイ向けコンテンツ作成、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマから、自らテーマを設定し、文献、インターネット等を利用して、調査、研究活動を進め、研究成果に基づくレポート作成とそのプレゼンテーション等を通じて、卒業研究に向けた、基礎能力の向上を図る。

講義の内容／
授業スケジュール

【第1週～第4週】ケータイ向け新サービス創出とその実現技術、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマに関して、文献、インターネット等を利用して、各自(又はグループ)で自らテーマを設定する。

【第5週～第8週】設定したテーマについて、調査、研究活動を行い、解決すべき研究課題の明確化を図る。

【第9週～第12週】メンバー間でのディスカッション、研究内容のプレゼンテーション等を通じて、研究課題の解決に向けた活動を行う。

【第13週～第15週】調査、研究した内容に基づいてレポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを行う。

準備学習

演習I a bで調査、研究した内容をよく復習しておくこと。

履修上の留意点

通年での履修を前提とする

成績評価の方法

出席回数、レポート課題/実習課題の提出、レポート課題のプレゼンテーションなどを考慮して、総合的に評価する。

教科書/テキスト

なし

参考書

演習の中で、適宜、参考書、インターネット上のWebページ等を紹介する。

履修コード	422301
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	いしばし なおき 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。

本演習では、情報技術の立場から、時勢に先じた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。

具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅱaにおいては、特に、各自の興味対象に応じた既存システムの調査、ならびに、技術的裏付けの調査を行う。

1週～4週：文献調査 (brainstorming)

5週～8週：プログラミング実習 (skill acquisition)

9週～：システム設計実習 (governance design)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考文献

コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

Webにおいて電子教材を提供する。

講義中において教材を指定する。

G
M
S

履修コード	421801
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	かがみ ようこ 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

講義の内容／
授業スケジュール

理論研究では、演習で学んだ経営学の基本を中心に、企業理論を深める。テキストを精読、レジュメを作成し、報告する。理論と同時に実践を学ぶために、様々な業界、業種の企業を深く学ぶケーススタディを採用している。更に、学習した内容を、自分の言葉で表現し直し、議論を通して深く理解することを実現するために、毎週、理論の重要なポイントをテーマとしてとりあげ、30分ディベートを実施。この独自プログラムは、毎年夏合宿で、徹底的に身体で身につけ、演習Ⅱ&Ⅲのツールとして利用している。

準備学習

グループワークが主体ですので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。参考文献の発表準備、課題図書、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。

履修上の留意点
成績評価の方法

出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。
ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

教科書／テキスト

年に数冊。

適宜指示する。

参考文献

日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

特に重要な書籍などは適宜指示する。

その他の事項

・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	421901
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	かみやま ともこ 金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

IIabでは卒論の土台となる調査を実施します。マス・メディア、コミュニテ・イメディア、市民メディア、空間メディアといったメディアに関するもの、或いはローカルやグローバルな問題など自分に関心のある事柄とメディアとの関係などがテーマの対象となります。また、メディア・プロジェクトを通して、理論や調査で学んだことを社会の中で実践します。

講義の内容／
授業スケジュール

IIabでは個人またはグループで研究を実施します。Iabで習得した研究手順に従い、前期は研究計画書の作成し、後期に調査を行い、発表します。研究成果は論文集にまとめます。Iab同様、メディアプロジェクトを実践していきます。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

欠席はしないこと。原則として合宿には必ず参加すること。
出席、参加度、研究発表&報告
特になし。

履修コード	422401
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	きぬがわ しんや 絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい)

知的財産と経済との関係について、企業活動という視点から学ぶ。知的財産の生産または流通を担う企業の行動、企業の諸活動における知的財産の利用、などについて、国内外のビジネス大学院で作成された「ケース教材」を用いて学習する。企業のブランド戦略や商標法、財務諸表の見方など、ケース教材を読むために必要な知識は講義で学ぶ。履修者は、自分の関心のあるケース教材を選択し、内容をまとめて発表する。そして、ケース教材を参考に、独自の企業研究を行い、発表する。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回「イントロダクション」全体説明
第2回「ケース教材の選択」
第3回「講義(1)」財務諸表
第4回「講義(2)」ブランド・マネジメント
第5回「講義(3)」商標法
第6～7回「個別指導」
第8回「ケース教材内容発表(1)」
第9回「ケース教材内容発表(2)」
第10回「ケース教材内容発表(3)」
第11～12回「個別指導」
第13回「企業研究発表(1)」
第14回「企業研究発表(2)」
第15回「企業研究発表(3)」

履修上の留意点

発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。

成績評価の方法

・発表内容
・出席
・ディスカッションへの参加度合い

教科書／テキスト

参 考 書

なし
石井淳蔵、嶋口充輝、余田拓郎、栗木契『ゼミナール マーケティング入門』、日本経済新聞社、3200円+税、ISBN978-4-532-13272-9
佐々木秀一『日経ベーシック 財務諸表入門』、日本経済新聞社、1000円+税、ISBN978-4-532-11811-2
角田政芳、辰巳直彦『知的財産法 第5版』、有斐閣、2700円+税、ISBN978-4-641-12402-8

履修コード	421201
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. This is a more advanced course than Seminar Ia.

講義の内容／
授業スケジュール This Semester I seminar will meet on Wednesdays during 1st period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.

履修上の留意点 Students should have previously taken either a Seminar I class or had media project development experience so that they will be familiar with the project requirements.

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法 Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project.

教科書／テキスト
参 考 書 There are no required textbooks as readings will be provided on the class website Professor will provide materials from the following:
Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004
Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005
Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997
Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005
Brian McKernan(Editor), John Rice(Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	422501
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	五野井 ^{このい} ^{いくお} 郁夫

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、ファッションにおけるスタイルの取捨選択からコスメ、健康、幸福をめぐるわたしたちの意識形成に至るまで、メディアが消費社会においてどのような役割をしてきたのかについて、「歴史」と「越境」をキーワードに検討する。

講義の内容／
授業スケジュール 本演習は、メディア分析に必要な文献の討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。さらに、プレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。具体的には、①新聞・雑誌記事(ウェブを含む)の分析 ②自由発表 ③グループワークの三つのステップに分けて進行する。

履修上の留意点 積極的な参加を期待する。

成績評価の方法 出席状況、授業への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらったコメントの内容、グループワークの成果によって総合的に評価する。

教科書／テキスト
参 考 書 ゼミの中で随時に提示する。
ゼミの中で随時に提示する。

履修コード	422601
科目名	演習Ⅱa
担当者名	しほき かつし 芝崎 厚士

講義の到達目標(ねらい) これまでに学んだ基礎知識に基づいて、(1) 国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2) 各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3) 文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかり、ゼミ論を作成し、卒業論文作成の下準備を完成させる。

講義の内容/
授業スケジュール

講義の内容

(1) 英語文献の輪読・発表(2) 各自の研究テーマの発表と指導(3) さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1) 課題の提出(2) 文献発表(3) 研究発表(4) ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 文献購読1・グループ研究1
- 3回目 文献購読2・グループ研究2
- 4回目 文献購読3・グループ研究3
- 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 文献購読4・グループ研究4
- 7回目 文献購読5・グループ研究5
- 8回目 文献購読6・グループ研究6
- 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 文献購読7・グループ研究7
- 11回目 文献購読8・グループ研究8
- 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 文献購読9・グループ研究9
- 14回目 ゼミ論発表・討論会1
- 15回目 ゼミ論発表・討論会2

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。

履修上の留意点

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退席は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法

教科書/テキスト

参考書

その他の

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。

・授業中に随時指示。

・授業中に随時指示。

・レポート課題図書については、授業時に指示する。

・ゲストを招いた「囲む会」、ゲストの勤務先を訪問するフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを別途開講予定。他のゼミ生や2年生も、参加可能な場合には参加すること。

・7月末から8月初旬に行われる夏季合宿は原則として全員参加。

履修コード	421501
科目名	演習Ⅱa
担当者名	しらみず しげひこ 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい) イノベーションの社会学：新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の研究
チェンジエージェント、チェンジメーカーの事例研究

講義の内容/
授業スケジュール

1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②研究グループ分け、2回目以降各グループによる発表

履修上の留意点

絶えず新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアに接し、社会の動きに注意をはらうこと。とくに社会や文化の変動の仕掛け人やオピニオン・リーダーの言動に注意をはらうこと。

成績評価の方法

教科書/テキスト

参考書

その他の

演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

未定

ロジャーズ著、三藤訳『イノベーションの普及』翔泳社、2007年、5040円 9784798113333

能動的で積極的で欠席しない人の履修を望む。

履修コード	422001
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	テツカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディーズのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。

講義の内容/
授業スケジュール

なお、指導教官の研究専門分野はグローバルイゼーションと映画文化/産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。

演習2abでは、演習1abで培った問題意識と方法論を深めます。演習2の前期で学生は、各自が選んだ分野の先行文献調査をおこない、その分野でどのような議論がなされているのかを理解し、各自のテーマ設問を決定します。後期では、各自のテーマ設問に従いインタビュー、参与観察等の実証調査を行い、卒業論文執筆に備えます。演習3abは、主に論文指導です。

履修上の留意点

カルチュラルタイフーン2011神戸大会(7月23-24日)および山形国際ドキュメンタリー映画祭(2011年10月6日-13日)にゼミ生有志は参加します。「表象メディア論」と「映像産業論」はゼミ生必修です。

成績評価の方法
教科書/テキスト

映像・映画に興味のある学生は「ドキュメンタリーの視線と実践」(前期)および「ドキュメンタリー制作演習」(後期)も履修してください。

授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。
グレアム ターナー著、金子智子他訳、カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展(1999)、作品社

履修コード	422101
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	にしおか ようこ 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。

メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。

講義の内容/
授業スケジュール

主にグループ研究を行う。前期は、研究計画を完成させ、11月までを日処に研究を実施する。12月は、卒業研究計画を作成する。また、後期は、それと平行して就活のアドバイスも行う。

履修上の留意点

合宿は、前期終了時を目安に2,3年生合同で行う。
原則として通年履修。演習I,II,IIIを原則継続履修。Iを未履修の場合は、Ia(前期)の聴講および課題を課す。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

平常点(出席、態度、発表内容、演習への貢献など)、期末レポートなどを総合して評価する
適宜指定する。
適宜指定する。

履修コード	421701
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	福家 秀紀 <small>ふけ ひでのり</small>

講義の到達目標(ねらい) 演習Ⅰに引き続き、ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業の課題についての理解をさらに深めることに重点を置きます。同時に、演習Ⅰを通して身につけた文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを生かして、各自の設定したテーマの研究を深め、卒業論文を書くための準備を進めます。

講義の内容／授業スケジュール 発表については、演習Ⅰと同様に司会・討論は学生が主体となって進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。

準備学習 (1) ガイダンス、(2) ~ (14) 文献輪読と個人研究発表、(15) まとめ
各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。

履修上の留意点 原則として演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して履修することと、ネットワーク経済論を履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。

成績評価の方法 出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価します。
教科書／テキスト ・Anderson, Chris [2009], 'Free', Hyperion, 小林則明監修[2009], 『フリー』, NHK出版, 1,800円, 978-4-14-081404-8

参考書 ・その他ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて、適宜指示します。
・福家秀紀, 『ブロードバンド時代の情報通信政策』, NTT出版, 3,600円, 978-4-7571-0203-3
・その他、講義の中で適宜紹介します。

履修コード	421401
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	南 政樹 <small>みなみ まさき</small>

講義の到達目標(ねらい) インターネット・サービス (I)
今日、様々なサービスがインターネットを通じて提供されている。たとえば、楽天市場の登場で店舗を持たなくても小売業を始めることができるようになった。このように、インターネット以前には実現が難しかったことが、今日では容易に行うことができる。
このことの本質的な意味はなんだろうか？
ひとつの側面は、インターネットが誰でも容易に何かを始めるプレイグラウンドとして利用可能なことである。インターネットでは、誰でも新たなサービスを簡単に立ち上げることができる。
本講義では、インターネット上で「新たなサービス」を提供することを目標として、それに必要な素養を身につけると共に、実践を行う。

講義の内容／授業スケジュール

- 1) 講義ガイダンス
- 2) 学習・研究目標設定
- 3) サービス設計 (1)
- 4) サービス設計 (2)
- 5) サービス設計 (3)
- 6) 学習・研究進捗確認 (1)
- 7) サービス実装 (1)
- 8) サービス実装 (2)
- 9) サービス実装 (3)
- 10) 学習・研究進捗確認 (2)
- 11) サービス評価 (1)
- 12) サービス評価 (2)
- 13) サービス評価 (3)
- 14) 学習・研究評価
- 15) まとめ

準備学習 演習Ⅰa/Ⅰbを履修済みであることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。

履修上の留意点 演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。
本講義は時間割で割り当てられた時間だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。

成績評価の方法 日常の活動および期間中に進めるプロジェクトによる評価で総合的に判定する。
教科書／テキスト 指定しない。

参考書 学習および研究の内容に応じて、適宜指定する。

履修コード	422201
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	やまぐち ひろし 山口 浩

講義の到達目標(ねらい)

「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとします。これまで別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきています。これらすべての分野の専門家に同時になることは難しいですが、少しでも知っていれば大きな価値になります。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることをめざします。

講義の内容／
授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分けて実施します。

1 共通プログラム

- ①企業経営・ファイナンスについての学習
- ②ゼミ企業、及び共同プロジェクトの運営
- ③ゼミブログの運営

2 個別プログラム

上記の他、その時点での状況に応じ、複数のチームに分け、複数のプロジェクトを実施します。プロジェクトの例は以下の通りですが、これに縛られません。

- ①ブログ関連 取材からアフィリエイトによる収益化までを含むブログ運営
- ②ゲーム関連 学習ゲーム制作、eスポーツ他
- ③動画関連 動画番組の制作
- ④イベント関連 各種イベントの企画・運営

準備学習
履修上の留意点

自分が何に貢献できるか、何ができるか考えてきてください。

通年、3年間継続履修を原則とします。

「グローバル経営論I」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることを前提とします。

その他、次の点に留意してください。

①このゼミは、人によってやるがちがうことを前提としています。多様な人がそれぞれの力を生かして共同で何かを作り上げていくプロセスを重要と考えます。そうした価値観に賛同いただける方の参加を希望します。

②このゼミは、自分で面白いと思うものを見つけ、自分で何をすべきか考え、自分から動くことのできる人を対象としています。逆にいえば、黙って座っていれば何か面白いものが降ってくるとか、いわれたことだけをやっていけばいいとかいうタイプの人には向きません。もしそういう人がいたら、何も得られずに(単位も)時間を無駄にするだけです。ご注意ください。

③このゼミでは動画や静止画の撮影をしばしば行います。したがって、自分の姿がそれらに映り込んだり、あるいは出演してもらったりすることもあります。

④このゼミでは、アルバイト経験を社会に触れる重要な機会と考えています。しかし学生の本分は学ぶことでもあり、アルバイトを理由にたびたび欠席するようなことがあれば、それは本末転倒と考えざるを得ません。活動の性格上、正規の活動日以外にも活動しなければならないケースもしばしば考えられます。アルバイト自体を問題視するわけではありませんが、あまり忙しい方は、このゼミには向かないと思います。

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスの他、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自ら立てた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価します。

教科書／テキスト
参 考 書

必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

履修コード	422801
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	吉田 <small>よしだ</small> 尚史 <small>なおふみ</small>

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、グローバルな社会環境において实际的に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習2aでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1週～第4週: 導入と基礎となる学習
- IT系の学会の資料についての学習
 - プログラミング実習
 - 教科書に沿った学習
 - 研究プロジェクト紹介
 - PowerPoint作成実習
 - 日本語Academic Reading
 - 日本語Academic Writing
 - 日本語Academic Presentation
- 第5週～第8週: 各研究テーマに関するディスカッション
- 計画発表会
 - ディスカッション
 - PowerPoint作成実習(継続)
 - 日本語Academic Reading(継続)
 - 日本語Academic Writing(継続)
 - 日本語Academic Presentation(継続)
- 第9週～第13週: 各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備
- プログラミングによるシステム試作
 - 卒業研究計画
 - 発表会
 - ディスカッション
- 第14～15週: 最終発表会
- 発表会

おおよそそのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

成績評価の方法
教科書／テキスト
関連リンク

積極的な参加(出席を含む)および発表会における発表により評価する。
授業において指示する。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

履修コード	422701
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容 / 授業スケジュール The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:
 1. Aspects of business history
 2. Innovation
 3. Entrepreneurship
 4. Venture businesses
 5. New technology-based firms
 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.
 Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:
 Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.
 Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.
 Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点 The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法 Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	421301
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	渡辺 彰規

講義の到達目標(ねらい) 社会学的な発想と方法を、2年次に身につけた上で、この学期では、共通のテーマをきめ、それについて文献の輪読をはじめとした研究を行う(場合によっては、個人の研究発表の機会も設ける)。

講義の内容 / 授業スケジュール この学期では、今まで養ってきた基礎力を踏まえて、共通テーマ内での文献の輪読を行う。基本的には、現代文化に関するものとする。

- 〈スケジュール〉
1. テーマの設定
 2. テーマについての講義
 3. -14. 輪読
 15. まとめ

履修上の留意点 これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。

成績評価の方法 平常点と最後のレポートにより採点する。

教科書 / テキスト 授業内で指示する。

参 考 書 授業内で指示する。

履修コード	423301
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	いしかわ のりひろ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

ケータイ向け新サービス創出とその実現技術、ケータイ向けコンテンツ作成、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマから、自らテーマを設定し、インターネット等を利用して、調査、研究活動を進め、研究成果に基づくレポート作成とそのプレゼンテーション等を通じて、卒業研究に向けた、テーマの具体化を図る。

講義の内容／
授業スケジュール

【第1週～第4週】演習Ⅱaで設定したテーマについて、継続して調査、研究活動を行い、研究活動を行うために必要なスキルの向上を図る。

【第5週～第8週】メンバー間でのディスカッション、研究内容のプレゼンテーション等を通じて、研究課題の解決に向けた活動を行う。その中で必要に応じて、テーマ、研究課題、研究の進め方等の見直しを行い、卒業研究のテーマの具体化を図る。

【第9週～第12週】可能であれば、卒業論文テーマの具体化を図り、卒業論文の作成に向けた研究活動を開始する。

【第13週～第15週】演習Ⅱa、演習Ⅱbを通して調査、研究した内容に基づいてレポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを行い、卒業研究に向けた準備を進める。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

演習Ⅱaで調査、研究した内容をよく復習しておくこと。

通年での履修を前提とする

出席回数、レポート課題／実習課題の提出、レポート課題のプレゼンテーションなどを考慮して、総合的に評価する。

教科書／テキスト
参 考 書

なし

演習の中で、適宜、参考書、インターネット上のWebページ等を紹介する。

履修コード	424001
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	いしばし なおき 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。

本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。

具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅱbにおいては、特に、World Wide Webを対象として、自らのビジネスモデルの構築、システム設計を行い、システムのプロトタイプ作成を目指す。

1週～3週：文献調査 (brainstorming)

4週～7週：プログラミング実習 (skill acquisition)

8週～：システム設計実習 (governance design)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

Webにおいて電子教材を提供する。

講義中において教材を指定する。

履修コード	423501
科目名	演習Ⅱb
担当者名	かがみ ようこ 各務 洋子

講義の到達目標(わらい)

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容/
授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

理論研究では、演習で学んだ経営学の基本を中心に、企業理論を深める。テキストを精読、レジュメを作成し、報告する。理論と同時に実践を学ぶために、様々な業界、業種の企業を深く学ぶケーススタディを採用している。更に、学習した内容を、自分の言葉で表現し直し、議論を通して深く理解することを実現するために、毎週、理論の重要なポイントをテーマとしてとりあげ、30分ディベートを実施。この独自プログラムは、毎年夏合宿で、徹底的に身体で身につけ、演習Ⅱ&Ⅲのツールとして利用している。

準備学習

グループワークが主体ですので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。参考文献の発表準備、課題図書、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。

履修上の留意点
成績評価の方法

出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

教科書/テキスト

年に数冊。
適宜指示する。

日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。

参考書

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

その他の他

特に重要な書籍などは適宜指示する。

・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	423601
科目名	演習Ⅱb
担当者名	かなやま とほこ 金山 智子

講義の到達目標(わらい)

Ⅱabでは卒論の土台となる調査を実施します。マス・メディア、コミュニティーメディア、市民メディア、空間メディアといったメディアに関するもの、或いはローカルやグローバルな問題など自分が関心のある事柄とメディアとの関係などがテーマの対象となります。また、メディア・プロジェクトを通して、理論や調査で学んだことを社会の中で実践します。

講義の内容/
授業スケジュール

Ⅱabでは個人またはグループで研究を実施します。Ⅰabで習得した研究手順に従い、前期は研究計画書の作成し、後期に調査を行い、発表します。研究成果は論文集にまとめます。Ⅰab同様、メディアプロジェクトを実践していきます。

履修上の留意点
成績評価の方法

欠席はしないこと。原則として合宿には必ず参加すること。

出席、参加度、研究発表&報告

教科書/テキスト

特になし。

履修コード	424101
科目名	演習Ⅱb
担当者名	<small>きぬかわ しんや</small> 絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい)	知的財産と経済との関係について、産業・業界という視点から学ぶ。扱うべきテーマは、知的財産の生産または流通を担う産業、一般の産業・業界内の競争構造における知的財産の役割などである。産業・業界分析を行うための視点やツールなどは講義によって学ぶ。履修者は自分の興味のある産業・業界についての調査研究を自ら行い、レポートにまとめて発表を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回「イントロダクション」全体説明 第2回「講義（1）」産業の定義 第3回「講義（2）」企業間の取引構造 第4回「講義（3）」市場と事業のダイナミクス 第5回「個別指導」 第6回「テーマ発表」 第7～8回「レポート執筆指導」 第9回「レポート初稿提出」 第10～11回「レポート修正指導」 第12回「最終発表（1）」 第13回「最終発表（2）」 第14回「最終発表（3）」 第15回「レポート最終校提出」
履修上の留意点	発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。
成績評価の方法	・発表およびレポートの内容 ・出席 ・ディスカッションへの参加度合い
教科書／テキスト	なし
参 考 書	石井淳蔵、嶋口充輝、余田拓郎、栗木契『ゼミナール マーケティング入門』、日本経済新聞社、3200円＋税、ISBN978-4-532-13272-9

履修コード	422901
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. This is a more advanced course than Seminar Ia.

講義の内容／
授業スケジュール This Semester 2 seminar will meet during 3rd, 4th or 5th period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.

履修上の留意点 Students should have previously taken either a Seminar I class or had media project development experience so that they will be familiar with the project requirements.

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法 Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project.

教科書／テキスト There are no required textbooks as readings will be provided on the class website.

参 考 書 Professor will provide materials from the following:
 Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004
 Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005
 Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997
 Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005
 Brian McKernan (Editor) . John Rice (Editor, Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

G
M
S

履修コード	424201
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	高 媛 <small>こうえん</small>

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、ファッション選びから健康や幸福をめぐる私たちの意識形成に至るまで、メディアが消費社会においてどのような役割をしてきたのか、「歴史」と「越境」をキーワードに検討する。

講義の内容／
授業スケジュール 本演習は、メディア分析に必要な文献の討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。さらに、プレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。具体的には、①新聞記事の分析 ②卒論を視野に入れた個人発表 ③グループワークを中心に行う予定。

履修上の留意点 積極的な参加を期待する。
 成績評価の方法 出席状況、授業への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらったコメントの内容、グループワークの成果によって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

教科書／テキスト ゼミの中で随時に提示する。

参 考 書 ゼミの中で随時に提示する。

その他の他 3年後期選択科目「メディアイベント論」と合せて受講されることをお勧めする。

履修コード	424301
科目名	演習Ⅱb
担当者名	しげさき あつし 芝崎 厚士

講義の到達目標(ねらい)

これまでに学んだ基礎知識に基づいて、(1)国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2)各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3)文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかり、ゼミ論を作成し、卒業論文作成の下準備を完成させる。

※後期は特に、卒業論文作成へ向けた各自の研究テーマの発見と調査の方向性、議論の仕方などに重点を置いて指導を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

講義の内容

(1)英語文献の輪読・発表(2)各自の研究テーマの発表と指導(3)さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1)課題の提出(2)文献発表(3)研究発表(4)ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 グループ研究1・文献購読1
- 3回目 グループ研究2・文献購読2
- 4回目 グループ研究3・文献購読3
- 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 グループ研究4・文献購読4
- 7回目 グループ研究5・文献購読5
- 8回目 グループ研究6・文献購読6
- 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 グループ研究7・文献購読7
- 11回目 グループ研究8・文献購読8
- 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 グループ研究9・文献購読9
- 14回目 ゼミ論発表・討論会1
- 15回目 ゼミ論発表・討論会2

履修上の留意点

- ※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。
- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。
- ・出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。
- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・ゲストを招いた「囲む会」やゲストの勤務先を訪問するフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなど別途開講予定。他のゼミ生や2年生も、参加可能な場合には参加すること。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

履修コード	423201
科目名	演習Ⅱb
担当者名	しらみず しげのこ 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

イノベーションの社会学:新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の研究:各班が独自のテーマで研究

講義の内容/
授業スケジュール

1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②発表グループ分け、2~3 G班発表、4~5 H班発表、6~7 I班発表、8~9 J班発表、10~11 K班発表、12~13 L班発表、14~15まとめ

履修上の留意点

自分が関心のある具体的なテーマを設定し、文献を調べ、仮説を設定し、小規模なフィールドワークもしくは文献調査をして検証する。それを各種メディアを使ってわかりやすく発表する。演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

各自
白水繁彦編著『移動する人びと、変容する文化』御茶ノ水書房、2008年、2500円
能動的で積極的で欠席しない人の履修を望みます。

履修コード	423701
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディーズのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。

講義の内容／
授業スケジュール

なお、指導教官の研究専門分野はグローバルイゼーションと映画文化／産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。

演習2abでは、演習1abで培った問題意識と方法論を深めます。演習2の前期で学生は、各自が選んだ分野の先行文献調査をおこない、その分野でどのような議論がなされているのかを理解し、各自のテーマ設問を決定します。後期では、各自のテーマ設問に従いインタビュー、参与観察等の実証調査を行い、卒業論文執筆に備えます。演習3abは、主に論文指導です。

履修上の留意点

カルチュラルタイフーン2011神戸大会（7月23-24日）および山形国際ドキュメンタリー映画祭（2011年10月6日-13日）にゼミ生有志は参加します。「表象メディア論」と「映像産業論」はゼミ生必修です。

成績評価の方法

映像・映画に興味のある学生は「ドキュメンタリーの視線と実践」（前期）および「ドキュメンタリー制作演習」（後期）も履修してください。授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。

履修コード	423801
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	にしおか 洋子

講義の到達目標(ねらい)

メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。

メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。

講義の内容／
授業スケジュール

主にグループ研究を行う。前期は、研究計画を完成させ、11月までを目処に研究を実施する。12月は、卒業研究計画を作成する。また、後期は、それと平行して就活のアドバイスも行う。

履修上の留意点

合宿は、前期終了時を目安に2,3年生合同で行う。原則として通年履修。演習I,II,IIIを原則継続履修。Iを未履修の場合は、Ia（前期）の聴講および課題を課す。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

平常点（出席、態度、発表内容、演習への貢献など）、期末レポートなどを総合して評価する。適宜指定する。適宜指定する。

履修コード	423401
科目名	演習Ⅱb
担当者名	福家 秀紀 <small>ふけ ひでのり</small>

講義の到達目標(ねらい)

演習Ⅰに引き続き、ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業の課題についての理解をさらに深めることに重点を置きます。同時に、演習Ⅰを通して身につけた文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを生かして、各自の設定したテーマの研究を深め、卒業論文を書くための準備を進めます。

講義の内容／
授業スケジュール

発表については、演習Ⅰと同様に司会・討論は学生が主体となって進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。

準備学習

(1) ガイダンス、(2) ~ (14) 文献輪読と卒論の下書き作成、(15) まとめ
各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。

履修上の留意点

原則として演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して履修することと、グローバルネットワーク論を履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価します。
・ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて、適宜指示します。
講義の中で適宜紹介します。

履修コード	423101
科目名	演習Ⅱb
担当者名	南 政樹 <small>みなみ まさき</small>

講義の到達目標(ねらい)

インターネット・サービス(Ⅱ)
今日、様々なサービスがインターネットを通じて提供されている。たとえば、楽天市場の登場で店舗を持たなくても小売業を始めることができるようになった。このように、インターネット以前には実現が難しかったことが、今日では容易に行うことができる。

講義の内容／
授業スケジュール

このことの本質的な意味はなんだろうか？
ひとつの側面は、インターネット上で新たなサービスを立ち上げるために、その一部の機能を肩代わりしたり支援したりする別のサービスが数多く存在することである。つまり、インターネットでは、必要に応じて外部サービスを活用することで、本当に必要な機能だけを提供すれば新たなサービスを立ち上げることができるのである。
本講義では、インターネット上で提供されている「サービス」を活用して、新たなサービスを提供することを目標とする。なお、構築するサービスのテーマについては、初回・2回講義においてプレインストーミングを行いながら決めていくこととする。

準備学習

- 1) 講義ガイダンス (プレスト)
- 2) 学習・研究目標設定 (プレスト)
- 3) マッシュアップ演習(1)
- 4) マッシュアップ演習(2)
- 5) マッシュアップ演習(3)
- 6) マッシュアップ演習(4)
- 7) 学習・研究進捗確認(1)
- 8) サービス設計(1)
- 9) サービス設計(2)
- 10) サービス実装(1)
- 11) サービス実装(2)
- 12) サービス実装(3)
- 13) 学習・研究進捗確認(2)
- 14) ビアレビュー
- 15) まとめ

履修上の留意点

演習Ⅱaを履修済みであることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。
演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。
本講義は時間割で割り当てられた時限だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

日常の活動および期間中に進めるプロジェクトによる評価で総合的に判定する。
指定しない。
学習および研究の内容に応じて、適宜指定する。

履修コード	423901
科目名	演習Ⅱb
担当者名	やまぐち のりし 山口 浩

講義の到達目標(ねらい)

「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとします。これまで別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきました。これらすべての分野の専門家と同時にすることは難しいですが、少しでも知っていれば大きな価値になります。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることをめざします。

講義の内容／
授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分けて実施します。

1 共通プログラム

- ①企業経営・ファイナンスについての学習
- ②ゼミ企業、及び共同プロジェクトの運営
- ③ゼミブログの運営

2 個別プログラム

上記の他、その時点での状況に応じ、複数のチームに分け、複数のプロジェクトを実施します。プロジェクトの例は以下の通りですが、これに縛られません。

- ①ブログ関連 取材からアフィリエイトによる収益化までを含むブログ運営
- ②ゲーム関連 学習ゲーム制作、eスポーツ他
- ③動画関連 動画番組の制作
- ④イベント関連 各種イベントの企画・運営

準備学習
履修上の留意点

自分が何に貢献できるか、何ができるか考えてきてください。

通年、3年間継続履修を原則とします。

「グローバル経営論I」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることを前提とします。

その他、次の点に留意してください。

- ①このゼミは、人によってやる事がちがうことを前提としています。多様な人がそれぞれの力を生かして共同で何かを作り上げていくプロセスを重要と考えます。そうした価値観に賛同いただける方の参加を希望します。
- ②このゼミは、自分で面白いと思うものを見つけ、自分で何をすべきか考え、自分から動くことのできる人を対象としています。逆にいえば、黙って座っていれば何か面白いものが降ってくるとか、いわれたことだけをやっていればいいとかいうタイプの人には向きません。もしそういう人がいたら、何も得られずに(単位も)時間を無駄にするだけです。ご注意ください。
- ③このゼミでは動画や静止画の撮影をしばしば行います。したがって、自分の姿がそれらに映り込んだり、あるいは出演してもらったりすることもあります。
- ④このゼミでは、アルバイト経験を社会に触れる重要な機会と考えています。しかし学生の本分は学ぶことでもあり、アルバイトを理由にたびたび欠席するようなことがあれば、それは本末転倒と考えざるを得ません。活動の性格上、正規の活動日以外にも活動しなければならぬケースもしばしば考えられます。アルバイト自体を問題視するわけではありませんが、あまり忙しい方は、このゼミには向かないと思います。

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスの他、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自ら立てた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価します。

教科書／テキスト
参考書

必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。
必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

履修コード	424501
科目名	演習Ⅱb
担当者名	吉田 ^{よしだ} 尚史 ^{なほふみ}

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習2bでは、演習2aに引き続き、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容/
授業スケジュール

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語Academic Reading
- 日本語Academic Writing
- 日本語Academic Presentation, Q&A
- 計画発表会
- ディスカッション
- Webサイト作成
- プログラミングによるシステム試作
- ディスカッション
- ディベート
- 卒業研究計画
- 発表会

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
関 連 リ ン ク

これらの内容を、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。
積極的な参加（出席を含む）および発表会における発表により評価する。

授業において指示する。

授業において指示する。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

履修コード	424401
科目名	演習Ⅱb
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容／
授業スケジュール The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:
 1. Aspects of business history
 2. Innovation
 3. Entrepreneurship
 4. Venture businesses
 5. New technology-based firms
 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.
 Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:
 Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.
 Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.
 Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点 The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法 Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	423001
科目名	演習Ⅱb
担当者名	<small>わたなべ あきのり</small> 渡辺 彰規

講義の到達目標(ねらい) 卒業論文のテーマを発見し、卒業論文をどう書くのかに関する基礎力を要請することをねらいとする。

講義の内容／
授業スケジュール 前期までの研究蓄積を活かし、各個人の卒業論文テーマを模索し、どのような内容にするのかの概要を決めるところまで持っていく。発表と討論が中心となる。
(スケジュール)

1. 卒論のテーマをどう決めるか
2. 卒論の書き方
3. -14. 発表
15. まとめ

履修上の留意点 これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。

成績評価の方法 平常点と最後のレポートにより採点する。

教科書／テキスト 授業の中で指示する。

参 考 書 授業の中で指示する。

履修コード	412601
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	いしかわ のりひろ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)	ケータイ向け新サービス創出とその実現技術、ケータイ向けコンテンツ作成、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマから、自らテーマを設定し、卒業論文の作成に向けた調査、研究活動を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習IIab、選択科目「コンピュータワークショップ」、「情報保護と社会」、「メディアとセキュリティ」などで学習した内容を踏まえて、自ら卒業論文のテーマを設定し、そのテーマについて、文献、インターネット等を利用した調査、研究活動を行うとともに、論文の書き方を学習し、その結果を卒業論文の概要としてまとめる。
準備学習 履修上の留意点	演習IIabで学習した内容をよく復習しておくこと。 演習IIab (石川担当)、選択科目「コンピュータワークショップ」、「情報保護と社会」、「メディアとセキュリティ」を履修していることが望ましい。
成績評価の方法	次の3項目を総合して評価する。 1. 卒業論文の中間レポートの内容 2. 卒業論文の中間レポートのプレゼンテーション 3. 演習等の出席状況
教科書／テキスト 参 考 書	なし 授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

G
M
S

履修コード	412701
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	いしはし なおき 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)	情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習IIIaにおいては、特に、各自の興味対象に応じた既存システムの調査、ならびに、技術的裏付けの調査を行う。 1 週～3 週：文献調査 (brainstorming) 4 週～7 週：プログラミング実習 (skill acquisition) 8 週～：システム設計実習 (governance design)
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト	コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。 課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。 演習の進捗に応じて適宜指示する。

履修コード	412301
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	かがみ ぶようこ 各務 洋子

講義の到達目標(ならい) 大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容／授業スケジュール 現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

準備学習 本講義では、演習Iab, IIabで学んだ理論研究、実証研究を踏まえて、卒業研究を完成させるための準備を整えます。卒業研究は理論研究と実証研究の両方を含みます。個別に興味のある領域で、仮説を設定し、理論研究を基礎とした実証研究によって、仮説を検証するというプロセスを学びます。経営環境、経営戦略、経営者の役割など、これまで学んだ経営学の応用編と考えて下さい。

履修上の留意点 成績評価の方法 グループ学習主体ですので、演習の時間以外に、チームごとに課題解決のための集まりがあります。参考文献の発表準備、新聞、雑誌の資料をチェックすることも含みます。

教科書／テキスト 出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

参 考 書 年に数冊。適宜指示する。日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。

そ の 他 あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。特に重要な書籍などは適宜指示する。

- ・合宿は9月の後期が始まる直前に、全学年合同2泊3日で実施する。
- ・上記の合宿以外、学年毎にも適宜合宿や、勉強会を実施する。
- ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。
- ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	413901
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	かなやま ともこ 金山 智子

講義の到達目標(ならい) メディアによるコミュニケーションを学び、実践することを目指す「メディア・コミュニケーション論」のゼミです。メディアと社会との関わり、そして、メディアのメッセージについて研究していきます。

講義の内容／授業スケジュール IIIabでは卒論または卒業制作に取り組みます。前期では卒論テーマの決定、文献調査(理論を含む)、仮説・課題の設定を行い、卒論計画書を作成します。

履修上の留意点 成績評価の方法 映像など卒業制作を選択する人は、必要な調査を行ったうえで、卒業作品企画書を作成します。個人の自己管理をしっかり行うこと。総合評価

履修コード	413701
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	<small>まねかわ しんや</small> 絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい) 「著作権の経済分析」、「特許権の経済分析」、「演習IIab」で扱った内容を始め、知的財産と経済に関連した幅広いテーマの中から、自ら研究テーマを選択、独自の調査研究を行い卒業研究論文としてまとめる。演習IIIaでは、論文の詳細なアウトラインの作成を到達目標とする。

講義の内容／
授業スケジュール
第1回「イントロダクション」全体説明
第2回「卒論フォーマットの説明」
第3～4回「研究テーマについての個別面談」
第5回「研究テーマ発表会」
第6～7回「個別指導」
第8回「アウトライン報告：グループ1」
第9回「アウトライン報告：グループ2」
第10回「アウトライン報告：グループ3」
第11回「アウトライン報告：グループ4」
第12～13回「個別指導」

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
第14回「第1回中間報告会：グループ1,2」
第15回「第1回中間報告会：グループ3,4」
「著作権の経済分析」、「特許権の経済分析」、「演習IIab」のいずれかを履修済みであること。
卒論アウトラインの内容
なし。
適宜指示する。

G
M
S

履修コード	413001
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) Creating a Virtual World

講義の内容／
授業スケジュール Students will work in teams as producers in creating a virtual world program on Shibuya. This effort will be a joint project with other select members of GMS and with Harvard University's Graduate School of Design.
Seminar meets once a week but students will put in many hours in separate meetings from the class and in field work.

履修上の留意点 Knowledge of and skills in digital media and business; Seminar IIIa requires either Seminar II and/or a course in one of the following: digital production, creative business, multimedia business, or content business.
An understanding of and ability to converse in English would be very helpful. Presentations and reports must be written in English.

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法 Students will be graded based on participation, portfolio of their work and the results of their final project.

教科書／テキスト Readings will be provided by the professor.

履修コード	412801
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	五野井 郁夫

講義の到達目標(ねらい) 昨年度の演習IIaで学んだことを踏まえ、各自が自ら設定した卒論テーマに取り組む。本演習は卒論の完成に向けた論文指導を中心に行う。

講義の内容／授業スケジュール
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

①メディア事象の分析・発表ならびに②卒論の研究発表を中心に進める。

積極的な参加を期待する。

出席状況、発表・討論への参加度、卒論の完成度によって総合的に評価します。

なし

各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。

履修コード	413501
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	芝崎 厚士

講義の到達目標(ねらい) 演習IIIaは、(1)卒業論文指導と、(2)グローバル社会の現状分析と課題発見・解決の2つの柱を中心とするゼミである。卒業論文指導は、毎月ごとに進捗状況を報告し討論するとともに、調査方法などについても指導を行う。グローバル社会研究は、冷戦崩壊後から現在に至る20年ほどの世界の出来事を、市民の視点から振り返り、事実を調査し、問題点を発見し課題を見出すトレーニングを行う。具体的には、(1)英語を中心とした国際関係にかなするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2)各自が選んだテーマにかなする個別研究の指導(3)文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかる。

講義の内容／授業スケジュール

(1)文献の輪読・発表(2)各自の研究テーマの発表と指導(3)さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1)課題の提出(2)文献発表(3)研究発表(4)ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

1回目 ガイダンス
2回目 卒業研究1・グローバル市民社会分析1
3回目 卒業研究2・グローバル市民社会分析2
4回目 卒業研究3・グローバル市民社会分析3
5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
6回目 卒業研究4・グローバル市民社会分析4
7回目 卒業研究5・グローバル市民社会分析5
8回目 卒業研究6・グローバル市民社会分析6
9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション
10回目 卒業研究7・グローバル市民社会分析7
11回目 卒業研究8・グローバル市民社会分析8
12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
13回目 卒業研究9・グローバル市民社会分析9
14回目 ゼミ論発表・討論会1
15回目 ゼミ論発表・討論会2

履修上の留意点

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・前期終了時点で、卒論の中間報告レポートを必ず提出すること。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。

前期は、卒論の中間報告レポートを必ず提出すること。

教科書／テキスト

参 考 書

そ の 他

- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。他学年のゼミ生も、参加可能な場合には参加すること。

履修コード	413801
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	白水 繁彦 <small>しらかず しげひこ</small>

講義の到達目標(ならい)	演習Ⅱまでに学んできたことを基礎に卒業論文の作成を本格的に開始する。
講義の内容／ 授業スケジュール	1回～3回 卒論テーマの確認と情報(調査)収集方法の確認 4回～6回 研究および調査の進捗状況の発表 7回～15回 調査の進捗状況の発表
履修上の留意点	毎回出席は当然として、演習中には必ず発言をすること。発表の順番のときは十分な準備をすること。
成績評価の方法	出席ならびに発言など、演習への貢献度と研究報告の出来で評価する。
教科書／テキスト	とくになし。各自のテーマにかんする先行研究文献等。
参 考 書	とくになし。各自のテーマにかんする文献等。

履修コード	413201
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ならい)	本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディーズのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	なお、指導教官の研究専門分野はグローバルイゼーションと映画文化／産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。 3abは主に論文指導です。
成績評価の方法	カルチュラルタイフーン2011神戸大会(7月23-24日)および山形国際ドキュメンタリー映画祭(2011年10月6日-13日)にゼミ生有志は参加します。 卒業論文・制作の進行具合、ゼミ共同作業への貢献度で総合的に評価します。

履修コード	413101
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	西岡 洋子 <small>にしおか ようこ</small>

講義の到達目標(ならい)	卒業論文執筆を通して課題発見から課題解決までの一連のプロセスを自ら構築できる能力を養う。
講義の内容／ 授業スケジュール	4～5月：テーマ絞込み、6月：詳細研究計画の作成、7月：データ収集および分析、9、10月：ドラフト執筆、11、12月：完成
履修上の留意点	事前に教員の許可が必要
成績評価の方法	平常点および論文
教科書／テキスト	なし
参 考 書	講義中に指示

履修コード	413601
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	福家 秀紀

講義の到達目標(ねらい)	ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業に関して、各自が設定したテーマに基づいて研究を進め、卒業論文を書き上げることを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール 準備学習	演習Ⅲaは、各自の研究の発表とディスカッションを中心とします。
履修上の留意点	各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	原則として演習I、II、IIIを通して履修することが望ましい。また、卒業研究予定論題届の提出を単位認定の条件とします。 出席、発表、議論への参加状況を総合的に評価します。 ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。 ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。

履修コード	412501
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	南 政樹

講義の到達目標(ねらい)	インターネットの実践研究 (I) インターネットは「誰でも容易に何かを始めるプレイグラウンド」である。すなわち、利用方法によっては、様々な社会の課題を解決する可能性を秘めている。 本講義では、インターネットの技術的あるいは社会における課題を解決することを目指し、その実践を進める。そして、ここで行った活動を元に、最終的には卒業論文としてまとめる。
講義の内容／ 授業スケジュール	1) 講義ガイダンス 2) 研究目標設定 3) 問題発見と設定 4) サーベイランス (1) 5) サーベイランス (2) 6) サーベイランス (3) 7) 研究進捗確認 8) 問題解決の方針設定 (1) 9) 問題解決の方針設定 (2) 10) 問題解決のため手法 (1) 11) 問題解決のため手法 (2) 12) 問題解決のため手法 (3) 13) 問題解決のため手法 (4) 14) 研究評価 15) まとめ
準備学習	演習IIを履修済みであることが望ましい。履修していなくても履修可能であるが、キャッチアップは各自の責任で行うこと。
履修上の留意点	演習I、II、IIIを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。 本講義は時間割で割り当てられた時限だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間で学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	日常の活動および期間中に進めるプロジェクトによる評価で総合的に判定する。 指定しない。 学習および研究の内容に応じて、適宜指定する。

履修コード	413301
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	山口 浩

講義の到達目標(ねらい)	グループないし個人による卒業研究へ向けた活動を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	卒業研究に関し、教員と相談の上テーマを決定し、作業を行う。
履修上の留意点	定期的に報告会を行う。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	報告・連絡・相談を密にすること。 活動状況、卒業研究などを総合的に勘案して評価します。 必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。 必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

履修コード	413401
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	吉田 <small>よしだ なおふみ</small> 尚史

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習3aでは、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って研究成果を集約させる。

講義の内容 / 授業スケジュール

具体的には、次のような項目を卒業論文を完成させることを目的として、適宜順序を変更しながら実施する。

第1週～第4週: 基礎学習

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語Academic Reading
- 日本語Academic Writing
- 日本語Academic Presentation
- 卒業研究計画
- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

第5週～第8週: 各研究テーマに関するディスカッション

- 計画発表会
- ディスカッション
- PowerPoint作成実習(継続)
- 日本語Academic Reading(継続)
- 日本語Academic Writing(継続)
- 日本語Academic Presentation(継続)
- 卒業研究計画
- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

第9週～第13週: 各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備

- プログラミングによるシステム試作
- 卒業研究計画
- 発表会
- ディスカッション
- 卒業研究計画
- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

第14～15週: まとめ

- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

成績評価の方法
教科書/テキスト
関連リンク

このようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。積極的な参加(出席を含む)、卒業研究の標題の提出、および、発表会における発表により評価する。授業において指示する。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

履修コード	412901
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容/
授業スケジュール

The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:

1. Aspects of business history
2. Innovation
3. Entrepreneurship
4. Venture businesses
5. New technology-based firms
6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.

Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:
Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.

Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.

Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点

The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法

Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	412401
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	わたなべ あきのり 渡辺 彰規

講義の到達目標(ねらい)

卒業研究の準備。

講義の内容/
授業スケジュール

演習では、卒業研究を作成するための基礎と大体の方向づけを行う。具体的には、最初に卒業研究のマニュアルを基に、どのように作成するかについて、テーマ・構成・書式・文献などについて細かく、そのモデルを説明する。その後、個人別に卒業計画を発表してもらい、その後それぞれに応じて、指導をしていく。最終的に、執筆までのめどをつけることを演習の目的とする。

成績評価の方法

平常点と最後のレポートにより採点する。

履修コード	414301
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	石川 <small>いしかわ のりひろ</small> 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

ケータイ向け新サービス創出とその実現技術、ケータイ向けコンテンツ作成、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマから、自ら設定したテーマの調査、研究活動を行い、その研究成果に基づいて卒業論文を完成させる。

講義の内容／
授業スケジュール
準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

演習Ⅲa(石川担当)で自ら設定した卒業論文のテーマについて研究活動を継続し、その成果に基づいて卒業論文を作成し、卒業論文の報告会で発表する。

演習Ⅲa(石川担当)で行った研究テーマに関する調査、研究活動について、復習しておくこと。演習Ⅲa(石川担当)から継続して履修すること。

次の3項目を総合して評価する。

1. 卒業論文の内容
2. 卒業論文の報告会のプレゼンテーション
3. 演習等の出席状況

教科書／テキスト
参 考 書

なし
授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

履修コード	414401
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	石橋 <small>いしばし なおき</small> 直樹

講義の到達目標(ねらい)

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅲbにおいては、これまでの成果を基に、卒業論文の作成を行う。

- 1週～3週：文献調査 (brainstorming)
- 4週～7週：卒業制作
- 8週～：論文作成

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。演習の進捗に応じて適宜指示する。

履修コード	414001
科目名	演習Ⅲb
担当者名	<small>かみか しょうこ</small> 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい) 大学は学問追求の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1) 高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2) 多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3) 生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容/
授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

本講義では、演習Iab、IIab、IIIaで学んだ理論研究、実証研究を踏まえて、卒業研究を完成させます。卒業研究は理論研究と実証研究の両方を含みます。個別に興味のある領域で、仮説を設定し、理論研究を基礎とした実証研究によって、仮説を検証するというプロセスを学びます。

経営環境、経営戦略、経営者の役割など、これまで学んだ経営学の応用編と考えて下さい。

卒業論文の作成が中心になりますので、自宅で論文を書くことが主な準備学習となります。

出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

教科書/テキスト

年に数冊。

適宜指示する。

参 考 書

日本経済新聞は毎日読み、ディベート、スピーチ、ケーススタディに利用する。

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

特に重要な書籍などは適宜指示する。

そ の 他

・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

G
M
S

履修コード	415601
科目名	演習Ⅲb
担当者名	<small>かみやま ともこ</small> 金山 智子

講義の到達目標(ねらい) メディアによるコミュニケーションを学び、実践することを目指す「メディア・コミュニケーション論」のゼミです。メディアと社会との関わり、そして、メディアのメッセージについて研究していきます。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点
成績評価の方法

IIIabでは卒論または卒業制作に取り組みます。

後期は卒論計画書に基づき、調査の実施・分析そして卒論の執筆、または映像などの卒業制作を行います。

個人の自己管理をしっかり行うこと。

総合評価

履修コード	415401
科目名	演習Ⅲb
担当者名	絹川 ^{きぬがわ} 真哉 ^{しんや}

講義の到達目標(ねらい) 講義の内容/ 授業スケジュール	演習Ⅲaに引き続き、卒業研究論文を執筆し、完成させる。また、その内容について発表する。 第1回「論文フォーマットの確認とMS Wordの操作方法」 第2回「第2回中間報告：グループ1,2」 第3回「第2回中間報告：グループ3,4」 第4～7回「執筆個別指導」 第8回「初稿提出」 第9～12回「改訂個別指導」 第13回「最終校確認」 第14回「最終発表：グループ1,2」 第15回「最終発表：グループ3,4」 演習Ⅲaからの続き。
履修上の留意点	卒業論文の内容、および発表の内容。
成績評価の方法	なし。
教科書/テキスト	適宜指示する。
参 考 書	

履修コード	414701
科目名	演習Ⅲb
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)	This class deals with the emerging realm of media for cell phones and other mobile computers. Its focus is in creating and producing a media platform and associated program applications that will showcase Japan's youth culture.
講義の内容/ 授業スケジュール	Semester seminar 3ab will meet once a week during 3rd, 4th or 5th period. Students will divide into teams to complete the media program that they have been working on from Seminar 2ab. Students in teams will develop a presentation package for a final presentation. Students will also concentrate on writing their thesis based on the portfolio of work accomplished during the prior Seminar classes.
履修上の留意点	Students should have taken Professor Kubota's earlier Seminar classes. Students who are self motivated and who desire to direct their own learning will benefit most from this course.
成績評価の方法	Students will be graded based on participation, results of their final project, portfolio and thesis.
教科書/テキスト	There are no required textbooks.
参 考 書	Professor will provide materials from the following: Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004 Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997 Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Brian McKernan (Editor), John Rice (Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	414501
科目名	演習Ⅲb
担当者名	高 媛 <small>こう めん</small>

講義の到達目標(ねらい) 各自が研究テーマに取り組み、最終的に卒論を書き上げる。本演習は卒論の完成に向けた論文指導を中心に行う。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点
成績評価の方法

卒論の研究発表を中心に進める。各自の進捗状況に応じて、個人指導も行う。

積極的な参加を期待する。

出席状況、発表・討論への参加度、卒論の完成度によって総合的に評価します。卒論の提出が単位取得の必須条件となる。

教科書／テキスト
参 考 書

なし。

各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。

履修コード	415201
科目名	演習Ⅲb
担当者名	芝崎 厚士 <small>しばさき あつし</small>

講義の到達目標(ねらい) 基本的に演習Ⅲaと同様に、卒業論文指導とグローバル市民社会分析を中心とし、ゲスト講師のセッションも行い、4年間の大学生活の集大成とする。(1) 国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2) 各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3) 文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかる。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 文献の輪読・発表(2) 各自の研究テーマの発表と指導(3) さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1) 課題の提出(2) 文献発表(3) 研究発表(4) ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

1回目 ガイダンス

2回目 卒業研究1・グローバル市民社会分析1

3回目 卒業研究2・グローバル市民社会分析2

4回目 卒業研究3・グローバル市民社会分析3

5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション

6回目 卒業研究4・グローバル市民社会分析4

7回目 卒業研究5・グローバル市民社会分析5

8回目 卒業研究6・グローバル市民社会分析6

9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション

10回目 卒業研究7・グローバル市民社会分析7

11回目 卒業研究8・グローバル市民社会分析8

12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション

13回目 卒業研究9・グローバル市民社会分析9

14回目 卒業論文発表・討論会1

15回目 卒業論文発表・討論会2

履修上の留意点

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・卒業論文を期限内に必ず提出すること。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。

卒業論文を期限内に必ず提出すること。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。他学年のゼミ生も、参加可能な場合には参加すること。

履修コード	415501
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	しらみず しげのこ 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい) 卒業論文の作成
 講義の内容／授業スケジュール 1回～5回 調査の進捗状況発表、データ処理
 6回～10回 卒論内容草稿の発表
 11回～15回 卒論原稿完成
 履修上の留意点 調査や執筆の慎重な計画作成。その計画通りに進捗するよう努める。
 成績評価の方法 演習への貢献度と卒業論文の出来の両方で評価する。その割合は50対50である。
 教科書／テキスト とくになし。各自のテーマにかんする先行研究文献等。
 参 考 書 各自のテーマにかんする文献等。

履修コード	414901
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	テツカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい) 本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディースのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。

講義の内容／授業スケジュール 3abは主に卒業論文指導です。
 履修上の留意点 本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディースのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。

成績評価の方法 卒業論文・制作の進行具合、ゼミ共同作業への貢献度などで総合的に評価します。

履修コード	414801
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	にしおか ようこ 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい) 卒業論文執筆を通して課題発見から課題解決までの一連のプロセスを自ら構築できる能力を養う。
 講義の内容／授業スケジュール 4～5月：テーマ絞込み、6月：詳細研究計画の作成、7月：データ収集および分析、9、10月：ドラフト執筆、11、12月：完成
 履修上の留意点 事前に教員の許可が必要
 成績評価の方法 平常点および論文
 教科書／テキスト なし
 参 考 書 講義中に指示

履修コード	415301
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	ふけ ひでのり 福家 秀紀

講義の到達目標(ねらい) ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業に関して、各自が設定したテーマに基づいて研究を進め、卒業論文を書き上げることを目的とします。
 各自の研究の進捗に応じて、個人指導を中心に進めます。
 講義の内容／授業スケジュール 各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。
 準備学習
 履修上の留意点 原則として演習I、II、IIIを通して履修することが望ましい。また、卒業研究の提出を単位認定の条件とします。
 成績評価の方法 出席、発表、議論への参加状況、卒業論文を総合的に評価します。
 教科書／テキスト ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。
 参 考 書 ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。

履修コード	414201
科目名	演習Ⅲb
担当者名	みなみ まさき 南 政樹

講義の到達目標(ねらい)	インターネットの実践研究(Ⅱ) 演習Ⅲaに引き続き、インターネットに関する様々な実践研究を進める。 これまでの学習・研究活動の集大成として卒業論文にまとめることを最大かつ唯一の目的とする。 インターネットの技術、応用、社会へのインパクトなど、あらゆるテーマについて、履修者の関心と興味にしたがって学習・研究を行う。
講義の内容/ 授業スケジュール	1) 講義ガイダンス 2) 論文作成の方法(1) 3) 論文サーベイランス(1) 4) 論文サーベイランス(2) 5) 論文作成の方法(2) 6) 中間報告会(1) 7) 研究実践(1) 8) 研究実践(2) 9) 研究実践(3) 10) 中間報告会(2) 11) 研究実践(4) 12) 研究実践(5) 13) 研究実践(6) 14) 成果発表会 15) まとめ
準備学習 履修上の留意点	同一担当者による演習Ⅲaを履修済みであること。 演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修する学生は、インターネットを通じて提供されている様々なツールやサービスを積極的に利用し、学習および研究を行うことを求める。 本講義は時間割で割り当てられた時限だけの活動ではなく、あらゆる最先端の事例を日常的に触れ合うために、課外時間にも活動を行う。限られた時間での学習に満足することなく、各自の目的に向かった積極的な取り組みを期待する。
成績評価の方法 教科書/テキスト 参考書	日常の活動および卒業論文によって評価し、総合的に判定する。 指定しない。 学習および研究の内容に応じて、適宜指定する。

G
M
S

履修コード	415001
科目名	演習Ⅲb
担当者名	やまぐち ひろし 山口 浩

講義の到達目標(ねらい)	グループないし個人による卒業研究の完成へ向けた活動を行う。
講義の内容/ 授業スケジュール	卒業研究完成へ向けた作業を行う。 定期的に報告会を行う。
履修上の留意点	報告・連絡・相談を密にすること。
成績評価の方法	活動状況、卒業研究などを総合的に勘案して評価します。
教科書/テキスト	必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。
参考書	必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

履修コード	415101
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	<small>よしだ なおふみ</small> 吉田 尚史

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習3bでは、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って研究を完成させる。

講義の内容／
授業スケジュール

具体的には、次のような項目を卒業論文を完成させることを目的として、適宜順序を変更しながら実施する。

- 論文執筆指導
- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 研究プロジェクト紹介
- 計画発表会
- PowerPoint作成実習
- 日本語Academic Reading
- 日本語Academic Writing
- 日本語Academic Presentation
- 研究内容に関するディスカッション
- 最新技術に関するディスカッション
- ITの社会的影響に関するディスカッション
- プログラミングによるシステム試作
- 発表会

成績評価の方法
教科書／テキスト
関連リンク

このようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。積極的な参加（出席を含む）、発表会における発表、および、卒業研究により評価する。授業において指示する。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

履修コード	414601
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容／
授業スケジュール The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:
 1. Aspects of business history
 2. Innovation
 3. Entrepreneurship
 4. Venture businesses
 5. New technology-based firms
 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.
 Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:
 Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.
 Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.
 Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点 The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法 Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	414101
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	渡辺 彰規

講義の到達目標(ねらい) 卒業研究の完成。
 講義の内容／
 授業スケジュール 演習では、先において作成した卒業研究計画に基づき、具体的に、執筆の仕方、途中でのチェック、最終的な仕上げなどを、それぞれに応じて、個人別に指導をしていく。特に、10月11月においては、きわめて重要な時期であるので、きめの細かい指導をしていく予定である。最終的に、一定のレベル以上の卒業研究作成を目指す。

成績評価の方法 平常点。

履修コード	400101・400201・400301・400401・400501・400601・400701・400801・400901・401001・401101・401201・401211・401221・401231・401241
科目名	Oral Communication I
担当者名	エセックス、 J. ・スミス、 G. A. ・フアーロー、 D. ・ブーハー、 U. J. ・ドイル、 S. ・エラム、 J. R. ・ローズ、 S. ・オーラ、 B. ・モエ、 R. A.

講義の到達目標(ねらい) To teach students how to converse spontaneously in a natural manner and at the same time become aware of and correct errors that occur.

講義の内容／
授業スケジュール Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
Lesson 01 - Explanation of course
Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29

準備学習 Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies© Words Level completed from Words Level 1. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.

履修上の留意点 Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades.

成績評価の方法 Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Final Grade}$$

教科書／テキスト "TPP for Students", <http://www.study-suite.com/japanese/index/>, ¥2,100.
[TPP = Timed Paired Practice]

参 考 書 None.

そ の 他 If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401301・401401・401501・401601・401701・401801・401901・402001・402101・402201・402301・402401・402411・402421・402431・402441
科目名	Oral Communication II
担当者名	エセックス、 J. ・スミス、 G. A. ・ファアロー、 D. ・ブーハー、 U. J. ・ドイル、 S. ・エラム、 J. R. ・ローズ、 S. ・オーラ、 B. ・モエ、 R. A.

講義の到達目標(ねらい)

To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI.

講義の内容/
授業スケジュール

Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.

Lesson 01 – Explanation of course; selection of topic; practice of topic

Lesson 02 – TPP evaluation of selected topic

Lesson 03 – Selection and practice of topic

Lesson 04 – TPP evaluation of selected topic

Lesson 05 to Lesson 30 – Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic

準備学習

Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies© Words Level completed from Words Level 21. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.

履修上の留意点

Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important.

成績評価の方法

Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21}) = \text{Final Grade}$$

教科書/テキスト

"TPP for Students", <http://www.study-suite.com/japanese/index/>, ¥2,100.
[TPP = Timed Paired Practice]

参考書

None.

その他の

If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

G
M
S

履修コード	408701・408702・408801・408802・408901・408902・409001・409002・409101・409102・409201・409202・409301・409302・409401・409402・409501・409502・409601・409602・409701・409702・409801・409802・409811・409812・409821・409822・409831・409832・409841・409842
科目名	Oral Communication III Public Speaking
担当者名	エラム、 J. R. ・グレコ、 M. A. ・バーンハート、 J. L. ・スミス、 G. A. ・モハメツド、 G. ・クオック、 R. Y. F. ・スメザム、 M. ・ダーリン、 M. ・ゴールド、 F.

講義の到達目標(おらい) To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking.

講義の内容／授業スケジュール The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.

Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic
 Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic
 Lesson 03 - Assignment and practice of topic
 Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic
 Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic

準備学習 Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies© Words Level completed from Words Level 31. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.

履修上の留意点 Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important.

成績評価の方法 Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31}) = \text{Final Grade}$$

教科書／テキスト "TPP for Students", <http://www.study-suite.com/japanese/index/>, ¥2,100.
 [TPP = Timed Paired Practice]

参考書 None.

その他 If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	411101・411102・411201・411202・411301・411302・411401・411402・411501・411502・411601・411602・411611・411612・411701・411702・411801・411802・411901・411902・412001・412002・412101・412102・412201・412202・412211・412212・412221・412222・412231・412232
科目名	Oral Communication IV Strategic Presentation
担当者名	エラム、 J. R. ・グレコ、 M. A. ・バーンハート、 J. L. ・スミス、 G. A. ・モハメツド、 G. ・クオック、 R. Y. F. ・スメザム、 M. ・ダーリン、 M. ・ゴールド、 F.

講義の到達目標(ねらい) To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII.

講義の内容／授業スケジュール The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.

Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic

Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic

Lesson 03 - Assignment and practice of topic

Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic

Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic

準備学習 Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies© Words Level completed from Words Level 41. Students must also review and study their individual TPP data outside of class. Special attention must be paid to: number and types of errors, attendance record, overall averages, and especially with whom they have and have not had conversations as well as the number of conversations with each student, the time of the conversation, and the error that ended the conversation. This information should always be studied before each lesson.

履修上の留意点 Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important.

成績評価の方法 Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 41}) = \text{Final Grade}$$

教科書／テキスト "TPP for Students". <http://www.study-suite.com/japanese/index/>, ¥2,100.
 [TPP = Timed Paired Practice]

参考書 None.

その他 If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	442201
科目名	Honors English Seminar I
担当者名	モエ、 R. A.

講義の到達目標(わらい) To familiarize students with global issues and how the media report them.

講義の内容／
授業スケジュール The course will select and study various types of global issues and also take a look at the various types of media and how they report these issues. Students will be required to present an issue or issues of their interest to the class for further discussion and analysis.

準備学習 Students will be required to keep abreast of global events and issues by observing them daily using media resources of their choice. Understanding the background or history of these events is essential in gaining a deeper understanding, so research outside of class will be necessary in order to be able to participate in classroom discussions.

履修上の留意点 Students are expected to use English in all their work, whether it be in the classroom discussions or in preparation of presentations as well as any written assignments.

成績評価の方法 Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{ClassParticipation})) / 3) * 0.75) + (\text{Assignments} * 0.25) = \text{Final Grade}$$

教科書／テキスト None

参 考 書 None.

そ の 他 If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

G
M
S

履修コード	442301
科目名	Honors English Seminar II
担当者名	モエ、 R. A.

講義の到達目標(わらい) Greater in depth analysis and discussion of global issues and events both past and present.

講義の内容／
授業スケジュール This course will not only study new global issues and events, but continue to follow those issues previously discussed in HESI. Students will be required to give presentations either in groups or individually about issues of their choice. For issues where opinion is divided among the students, debates will be held and practiced for those issues.

準備学習 Students will be required to keep abreast of global events and issues by observing them daily using media resources of their choice. Understanding the background or history of these events is essential in gaining a deeper understanding, so research outside of class will be necessary in order to be able to participate in classroom discussions.

履修上の留意点 Students are expected to use English in all their work, whether it be in the classroom discussions or in preparation of presentations as well as any written assignments.

成績評価の方法 Evaluation is based on attendance, ability, effort, and homework assignments using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{ClassParticipation})) / 3) * 0.75) + (\text{Assignments} * 0.25) = \text{Final Grade}$$

教科書／テキスト None.

参 考 書 None.

そ の 他 If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	442401
科目名	Honors English Seminar III
担当者名	アシュウェル、 T.

講義の到達目標(ねらい) 'Honors English' is a 6-course, 3-year cycle of English instruction for advanced, motivated students of the language. In a class of peers with similarly high English language proficiency levels, the aim of the course is to encourage students to develop as effective users of English faster and further than they might otherwise do in regular classes. Students will be expected to take on the responsibility needed if they are to develop into life-long learners and users of the language. The expectation is that students who enter Honors English Seminar III will continue to take Honors English for the remainder of the three-year cycle.

講義の内容／授業スケジュール There are two main content components to the course. The first is a theme around which students can research, discuss and present issues of interest through English (HES Research). The second main content component is individualized, independent study aimed at improving students' basic English language skills. The latter component consists of vocabulary building, extensive reading and partner-taping. These components will be covered according to a weekly schedule which will be explained in the first class.

準備学習
履修上の留意点 None
Pre-requisites for this course:
●Successful completion of Honors English Seminar II

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a semester incurs a penalty in the final grade. More than six unexcused absences mean that you fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

成績評価の方法 Evaluation of students will be based on their performance on the activities outlined above. A detailed breakdown of the evaluation system will be presented to students in the first class.

教科書／テキスト Students have already bought a vocabulary textbook in Honors English Seminar II. They will continue to use this book in Honors English Seminar III.

参考書 A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.
その他の The Honors English Seminar III page on the GMS Course Management System (<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>)

履修コード	442501
科目名	Honors English Seminar IV
担当者名	アシュウェル、 T.

講義の到達目標(ねらい) 'Honors English' is a 6-course, 3-year cycle of English instruction for advanced, motivated students of the language.
The aims of Honors English Seminar IV are the same as those for Honors English Seminar III.

講義の内容／
授業スケジュール The content of Honors English Seminar IV will be organized as for Honors English Seminar III.
準備学習 None

履修上の留意点 Pre-requisites for this course:
●Successful completion of Honors English Seminar III

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a semester incurs a penalty in the final grade. More than six unexcused absences mean that you fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

成績評価の方法 The evaluation procedures will be the same as for Honors English Seminar III.

教科書／テキスト As for Honors English Seminar III.

参 考 書 A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

そ の 他 The Honors English Seminar IV page on the GMS Course Management System (<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>)

履修コード	435201
科目名	音楽メディア論
担当者名	増淵 ^{まさおち} 敏之 ^{としゆき}

講義の到達目標(ねらい) 音楽をメディアとして捉えていくためには音楽の持つ消費材としての側面と文化的財としての側面を見ていく必要があります。事例分析を通じて消費者受客の背景にある社会的変化や音楽そのものの変容について考察していきます。

講義の内容／
授業スケジュール メディアとしての音楽 (2～3)、音楽メディアの歴史 (4～6)、産業としての音楽メディア (7～8)、ヒットの事例分析 (9～11)、デジタル化による転換 (12)、まとめ (13)

履修上の留意点 ポピュラー音楽を中心に扱っていきます。自分の過去の音楽体験を整理しておいて下さい。

成績評価の方法 学期末レポートと出席状況により評価します。

教科書／テキスト 参考書『欲望の音楽—「趣味」の産業化プロセス』増淵敏之、法政大学出版局

参 考 書 授業内で適宜紹介します。

履修コード	437501
科目名	海外演習実践講座Ⅰ
担当者名	杉森 建太郎・各務 洋子・金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

この科目は、はじめて「海外演習実践講座」を履修する学生を対象としている。単位認定を目的としてははじめて海外研修を行う学生は、必ずこの講座の履修登録を行うこと。

この講座で扱う海外研修には、大きく分けて3つのタイプがある。

(1) 長期海外留学：半年以上一年未満の留学

「交換留学」(本学の協定校に留学)と「認定校留学」(自分で留学先を探し、その留学機関が日本の大学に相当する高等教育機関であると本学が認定した場合の留学)との2種類がある。留学中に現地研修機関で取得した単位については、この「海外演習実践講座Ⅰ」の2単位とは別に、そのまま他の卒業単位科目として認定される場合と「海外演習」の単位として認定される場合とがある(渡航前の早い段階から、「交換留学」・「認定校留学」を主管する国際センターに相談すること)。

(2) 短期留学：半年未満の留学。

なお、この中には国際センター主催の「短期語学セミナー」も含まれる。

(3) 留学以外の海外研修

インターンシップ・ボランティア・ワークショップ参加等。

履修者は自分自身の研修目的を踏まえ、担当教員と相談しつつ、目的に合致した研修タイプ・方法・研修箇所等を決定すること。

なお、平成21年度以前入学の学生については、場合によっては、これに当てはまらない場合もあるので、担当教員に相談すること。

渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に「海外演習実践講座Ⅰ報告書」を担当教員に提出する。渡航前、海外滞在中、渡航後に、指導教員による指導を受ける。

(1) 単位認定のために必要な研修期間・時間数

単位認定のための海外研修期間は3週間以上、合計45時間以上の研修時間数を原則とする。それらを下回るような研修の場合には、必ずスケジュールを確定する前に前広に担当教員(杉森)に連絡をとり、相談すること。

(2) 成績証明書類及び研修期間・時間数を証明する書類の提出

帰国後に、現地研修機関発行の成績証明書類、及び研修期間・時間数が証明できる書類を提出すること。なお、成績がつかない研修(例：インターンシップ、ボランティア等)参加者については、成績証明書類の代わりに、研修内容・評価について言及されている研修機関の公式な証明書を提出すること。

(3) 「海外演習実践講座Ⅰ報告書」(レポート)

留学(長期・短期)研修の場合には、帰国後提出する「海外演習実践講座Ⅰ報告書」(レポート)は原則として英語で執筆すること(英語圏以外の留学については、担当者(杉森)に事前に相談すること)。留学以外の海外研修(インターンシップやボランティア等)については、日本語で「海外演習実践講座Ⅰ報告書」(レポート)を執筆しても差し支えない。

(4) 年度をまたがって留学する場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある(事前に、担当教員に相談すること)。

成績評価は、帰国後提出する「海外演習実践講座Ⅰ報告書」(レポート)、研修先機関からの成績評価資料、及び事前・事後指導をもとに行う。

指定しない。

適宜資料を紹介する。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

成績評価の方法

教科書／テキスト
参考書

G
M
S

履修コード	437601
科目名	海外演習実践講座Ⅱ
担当者名	すぎもり けんたろう かがみ ようこ かなやま ともこ 杉森 建太郎・各務 洋子・金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

この科目は、「海外演習実践講座」を2回目に履修する学生を対象としている。2度目の「海外演習実践講座」履修者は、必ずこの講座に履修登録を行うこと。また、今年度「海外演習実践講座Ⅰ」を履修する学生の中で、今年度中に単位取得を目的とした海外研修を2回行う予定の学生は、「海外演習実践講座Ⅰ」に加えてこの「海外演習実践講座Ⅱ」にも履修登録すること。

この講座で扱う海外研修には、大きく分けて3つのタイプがある。

(1) 長期海外留学

半年以上一年未満の留学。「交換留学」(本学の協定校に留学)と「認定校留学」(自分で留学先を探し、その留学機関が日本の大学に相当する高等教育機関であると本学が認定した場合の留学)との2種類がある。留学中に現地研修機関で取得した単位については、この「海外演習実践講座Ⅱ」の2単位とは別に、そのまま他の卒業単位科目として認定される場合と「海外演習」の単位として認定される場合とがある(渡航前の早い段階から、「交換留学」・「認定校留学」を主管する国際センターに相談すること)。

(2) 短期留学：半年未満の留学

なお、この中には国際センター主催の「短期語学セミナー」も含まれる。

(3) 留学以外の海外研修

インターンシップ・ボランティア・ワークショップ参加等。

履修者は自分自身の研修目的を踏まえ、担当教員と相談しつつ、目的に合致した研修タイプ・方法・研修箇所等を決定すること。

なお、平成21年度以前入学の学生については、場合によっては、これに当てはまらない場合もあるので、担当教員に相談すること。

渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に「海外演習実践講座Ⅱ報告書」を担当教員に提出する。渡航前、海外滞在中、渡航後に、指導教員による指導を受ける。

(1) 単位認定のために必要な研修期間・時間数

単位認定のための海外研修期間は3週間以上、合計45時間以上の研修時間数を原則とする。それらを下回るような研修の場合には、必ずスケジュールを確定する前に前広に担当教員(杉森)に連絡をとり、相談すること。

(2) 成績証明書類及び研修期間・時間数を証明する書類の提出

帰国後に、現地研修機関発行の成績証明書類、及び研修期間・時間数が証明できる書類を提出すること。なお、成績がつかない研修(例：インターンシップ、ボランティア等)参加者については、成績証明書類の代わりに、研修内容・評価について言及されている研修機関の公式な証明書を提出すること。

(3) 「海外演習実践講座Ⅱ報告書」(レポート)

留学(長期・短期)研修の場合には、帰国後提出する「海外演習実践講座Ⅱ報告書」(レポート)は原則として英語で執筆すること(英語圏以外の留学については、担当者(杉森)に事前に相談すること)。留学以外の海外研修(インターンシップやボランティア等)については、日本語で「海外演習実践講座Ⅱ報告書」(レポート)を執筆しても差し支えない。

(4) 年度をまたがって留学する場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある(事前に、担当教員に相談すること)。

成績評価は、帰国後提出する「海外演習実践講座Ⅱ報告書」(レポート)、研修先機関からの成績評価資料、及び事前・事後指導をもとに行う。

指定しない。

適宜資料を紹介する。

G
M
S

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

成績評価の方法

教科書／テキスト
参考書

履修コード	437701
科目名	海外演習実践講座Ⅲ
担当者名	杉森 ^{すぎもり} 建太郎 ^{けんたろう} ・各務 ^{かぐみ} 洋子 ^{ようこ} ・金山 ^{かなやま} 智子 ^{ともこ}

講義の到達目標(わらい)

この科目は、「海外演習実践講座」を3回目に履修する学生を対象としている。3度目の「海外演習実践講座」履修者は、必ずこの講座に履修登録を行うこと。また、今年度「海外演習実践講座Ⅱ」を履修する学生の中で、今年度中に単位取得を目的とした海外研修を2回行う予定の学生は、「海外演習実践講座Ⅱ」に加えてこの「海外演習実践講座Ⅲ」にも履修登録すること。

この講座で扱う海外研修には、大きく分けて3つのタイプがある。

(1) 長期海外留学

半年以上一年未満の留学。「交換留学」(本学の協定校に留学)と「認定校留学」(自分で留学先を探し、その留学機関が日本の大学に相当する高等教育機関であると本学が認定した場合の留学)との2種類がある。留学中に現地研修機関で取得した単位については、この「海外演習実践講座Ⅲ」の2単位とは別に、そのまま他の卒業単位科目として認定される場合と「海外演習」の単位として認定される場合とがある(渡航前の早い段階から、「交換留学」・「認定校留学」を主管する国際センターに相談すること)。

(2) 短期留学：半年未満の留学

なお、この中には国際センター主催の「短期語学セミナー」も含まれる。

(3) 留学以外の海外研修

インターンシップ・ボランティア・ワークショップ参加等。

履修者は自分自身の研修目的を踏まえ、担当教員と相談しつつ、目的に合致した研修タイプ・方法・研修箇所等を決定すること。

なお、平成21年度以前入学の学生については、場合によっては、これに当てはまらない場合もあるので、担当教員に相談すること。

渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に「海外演習実践講座Ⅲ報告書」を担当教員に提出する。渡航前、海外滞在中、渡航後に、指導教員による指導を受ける。

(1) 単位認定のために必要な研修期間・時間数

単位認定のための海外研修期間は3週間以上、合計45時間以上の研修時間数を原則とする。それらを下回るような研修の場合には、必ずスケジュールを確定する前に前広に担当教員(杉森)に連絡をとり、相談すること。

(2) 成績証明書類及び研修期間・時間数を証明する書類の提出

帰国後に、現地研修機関発行の成績証明書類、及び研修期間・時間数が証明できる書類を提出すること。なお、成績がつかない研修(例：インターンシップ、ボランティア等)参加者については、成績証明書類の代わりに、研修内容・評価について言及されている研修機関の公式な証明書を提出すること。

(3) 「海外演習実践講座Ⅲ報告書」(レポート)

留学(長期・短期)研修の場合には、帰国後提出する「海外演習実践講座Ⅲ報告書」(レポート)は原則として英語で執筆すること(英語圏以外の留学については、担当者(杉森)に事前に相談すること)。留学以外の海外研修(インターンシップやボランティア等)については、日本語で「海外演習実践講座Ⅲ報告書」(レポート)を執筆しても差し支えない。

(4) 年度をまたがって留学する場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある(事前に、担当教員に相談すること)。

成績評価は、帰国後提出する「海外演習実践講座Ⅲ報告書」(レポート)、研修先機関からの成績評価資料、及び事前・事後指導をもとに行う。

指定しない。

適宜資料を紹介する。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

成績評価の方法

教科書/テキスト
参考書

G
M
S

履修コード	434731
科目名	韓国の文化と社会Ⅰ
担当者名	わたなべ きみよん 渡辺 吉銘

講義の到達目標(ねらい)

「遠くて近い国」韓国の文化と社会について基礎的な知識を習得するとともにみずから隣国間の文化の架け橋になるように、能動的な文化実践者としての視座を養うことが本講義のねらいです。

講義の内容／
授業スケジュール

講義内容は大きくつぎのようなラインアップを考えています。4部構成
からなります。

- ①紹介の部
現代文化事情、現代社会事情、名所めぐりと歴史、地域基本データ
- ②基底文化の部
ライフスタイルと冠婚葬祭、宗教、家族制度
- ③マスメディアの歴史とネット社会
- ④分断国家の文化・社会政策と価値変容
- ⑤日韓文化交流
- ⑥在日コリアン、在外コリアン

準備学習
履修上の留意点

についていっしょに学んでいきたいと思っています。
広くニュースなどの韓国に関する知識を蓄えること
①授業中毎回意見を求められるので積極的な履修者向きです。
②出席・課題などに厳しい授業です。

成績評価の方法

③私語禁止。
①授業中への参加、②出席チェックを兼ねた小課題 ③中間レポート ④期末テストによる総合評価です。

教科書／テキスト
参考書

特に指定しません。
担当者的の下記の著書を読むことをおすすめします。
『朝鮮語のすすめ』(講談社現代新書)

その他の

『韓国言語風景』(岩波新書)
ことばが分かれば社会や文化がぐっと近く感じられます。毎回少しずつ固有名詞などを中心に言語学習も手伝っていきたくと思っています。

履修コード	434741
科目名	韓国の文化と社会Ⅱ
担当者名	わたなべ きみよん 渡辺 吉銘

講義の到達目標(ねらい)

グローバル社会の中での韓国や朝鮮半島の諸問題とどのように向き合えばよいのでしょうか。日本からの情報の受信・発信はどのように行えばよいのでしょうか。このような問題解決の一方法は、韓国社会の成り立ちやその中で蓄積されてきた人々の考え方、価値観について学び、知識を獲得することによって自分の見解を多様化・多層化していくことだと思います。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義のねらいは韓国社会・文化の歴史的展開のうえに成りたっている「現在」を学びながら隣国人として多角的な視座を身につけることです。

各授業では毎回最低10人の人物・5つの出来事をピックアップ、具体的に学んでいきます。時系列に時代のうねりとなるようなトピックについて講義しますが、その時代を生きたまざまな人々の声を感じられ、今日的な意味合いについていっしょに考えることができればと願っています。一学期を貫くテーマは次の6つにまとめられます。

- ①道別基本知識と広域市の特色
- ②朴チョンヒ政権—高度経済成長と反体制運動
- ③金大中政権—グローバル社会と南北関係
- ④ノムヒョン政権—市民パワーと格差是正のうねり
- ⑤李明ノバク政権—多様な韓国ブランドの世界化
- ⑥日本統治の現代的解釈—東アジア共同体と日韓交流

準備学習
履修上の留意点

韓国に関する図書に関心を持ち、知識を蓄えて下さい。
①本講義は「韓国の文化と社会Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修が認められます。
②授業中毎回意見を求められるので積極的な履修者向きです。

成績評価の方法

③出席、課題提出にきびしい科目です。
①授業中への参加、②出席チェックを兼ねた小課題 ③中間レポート
④期末テストによる総合評価です。

教科書／テキスト
参考書

特に指定しません。
初回に紹介します。

履修コード	431701
科目名	企業会計の実務
担当者名	伊藤 克容 <small>いとう かつひろ</small>

講義の到達目標(ねらい)	<p>社会のなかで会計（経理あるいは簿記）関係の仕事は、ひじょうに重要な役割を担っています。会計についての知識を「英語」、「パソコン」とあわせて「ビジネスパーソンの3種の神器」と呼ぶ人もいるくらい、重視されている科目です。ビジネスの世界で活躍しようとするならば、会計・経理の知識をもっていた方が圧倒的に有利でしょう。この講義では、ビジネスで必須の会計・経理のセンスを身につけることを目標にします。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>企業会計の基本構造（2～3回） 財務諸表作成のための手続き（3～4回） 財務諸表分析：財務諸表から企業行動を読み取る（3～4回） マネジメントのための会計情報：管理会計へのアプローチ（3～4回） *いくつかの単元を終了後、区切りのよい時点で確認テストを実施する予定です。 *講義内容の確認のため、個別論点についての討論形式の講義（シンポジウム）を実施することがあります。</p>
履修上の留意点	<p>授業時間中のディスカッション、課題提出など、受講者の側からの積極的な取り組みを前提として考えています。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみることを。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かっていくことが、頻繁にあります。毎時間かならず自分用の電卓を持ってきてください。</p>
成績評価の方法	<p>各受講者の個人得点を基準に成績をつけます。個人得点は、以下のように計算し、必要に応じて開示します。自分の状況（順位など）が確認したい場合は、いつでも問い合わせてください。講義への積極的な参加は加点対象です。逆に、講義時間中の迷惑行為（理由のない遅刻、睡眠、携帯電話の使用、私語など）は、個人得点からそのつど差し引きます。</p> <p>各受講者の個人得点＝テスト（必修課題）の得点合計＋任意提出課題（講義プリント、発言など）の得点合計±受講態度</p> <p>*年度によっても若干の違いがありますが、概ね、講義中の任意提出課題の比率50%～60%、テストの比率50%～40%と考えてください。</p>
教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	<p>特に指定しません。</p> <p>必要に応じて、講義時間内に指示致します。</p> <p>毎時間プリントを配付します。</p>

履修コード	434601
科目名	教育環境とメディア
担当者名	みなみ まさき 南 政樹

講義の到達目標(ねらい)

教育の場では理解を促進するために様々なメディアを用いている。たとえば、教科書、ノート、黒板…のような古くから用いられている情報伝達と保存を目的としたもの他、教育の質に貢献するような音声やビデオなどの視聴覚ツールなどが例として挙げられる。
今日の教育環境では、これらに加えてコンピュータを利用したデジタルメディアを活用するケースが少なくない。古くはコンピュータが教育を支援するCAI (Computer Aided Instruction) から、最近ではインターネットを利用したe-ラーニングまで様々な事例が紹介されている。
本講義では、教育、学習という人間の本質に関わる活動を踏まえて、デジタルメディアがどう関連すると良いのか、時代や技術の進展を見ながら考察する。また、インターネットというデジタルメディアの流通基盤の存在が教育環境に与える影響、具体的な例示、現状と課題、標準化の課題、学習・教育への影響と効果、などについて学ぶ。そして、今後の教育環境のあり方を様々な方向から考察し、デジタルメディアの時代にふさわしい教育の環境と方法論についてその方向性を示す。

G
M
S

講義の内容/
授業スケジュール

- 1) 講義ガイダンス
- 2) 教育現場におけるメディア ~教育メディアとは~
- 3) 感覚による理解 ~言語中心の教育から感覚理解を取り入れた教育へ~
- 4) CAI (Computer-aided/assisted Instruction) による教育環境の変化
- 5) eラーニングの歴史 (1) CBT (Computer-based Training)
- 6) eラーニングの歴史 (2) WBT (Web-based Training)
- 7) eラーニングシステム ~LMS (Learning Management System) とコンテンツ (教材) ~
- 8) LMSの位置づけとその役割 ~moodleを例として~
- 9) コンテンツ制作のためのオーサリングツール ~eXeを例として~
- 10) コンテンツ制作の実際
 - 11) コンテンツ共有のための標準化 ~SCORMを例として~
 - 12) eラーニングの先端事例 (1) ~iTunes Uを事例として~
 - 13) eラーニングの先端事例 (2) ~School on the Internet (SOI) を事例として~
 - 14) 未来のeラーニング (議論)
- 15) 教育環境とメディア まとめ

履修上の留意点

PCを使った実習を行う。また随時課題を出題する。これらは連続した学習を進める上で各自のノートPCで行うことが望ましいと考える。

成績評価の方法

随時出題される課題レポートと小テスト、そして最終課題による総合的な評価によって判定する。定期試験は行わない。そのかわり予告なく抜き打ちの小テストを行うことがある。

教科書/テキスト
参 考 書

指定しない。
各回の講義に合わせて参考となる図書や情報源を公表する。

履修コード	434721
科目名	キリスト教文化
担当者名	とよかわ しん 豊川 慎

講義の到達目標(ねらい)

本講義では文化を形成する力のひとつとしてのキリスト教を論じる。キリスト教は2000年以上の歴史の中で政治、経済、芸術、教育など多様な文化諸領域に関連し、自由、平等、人権、寛容などの思想や制度の発展に寄与してきた。本講義ではキリスト教の歴史と思想を概観しつつ、キリスト教と文化をめぐる諸課題を論じる。

講義の内容/
授業スケジュール

<講義キーワード>

古代キリスト教文化思想 (アウグスティヌスのキリスト教思想)、中世キリスト教文化 (修道院制度、キリスト教芸術など)、宗教改革の文化思想、プロテスタンティズムと職業観、宗教改革と活版印刷術、日本におけるキリスト教文化、キリスト教思想から考える戦争と平和、赦しと和解、キリスト教思想と人権、キリスト教における「愛」の思想、クリスマスの起源など
授業参加を重視する。単位修得には三分の二以上の出席。

履修上の留意点

授業ごとに書くコメントシート (40点)、レポート試験 (60点)

成績評価の方法

教科書は使用しない、授業ごとに配布するレジュメに沿ってすすめる。

教科書/テキスト

『聖書 新共同訳』、日本聖書協会 その他の参考書は授業で指示する。

参 考 書

履修コード	415901
科目名	クリエイティブビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)

As the Industrial Economy gives way to the Creative Economy, this course will concentrate on creative businesses where ideas and talent are more important than physical capital. Various types of creative organizations will be examined: how they operate and how leadership and management are utilized. The major objectives for participants in this course are: to understand the significant issues concerning the theory and practice of creative organizations and the development of "great" or "hot groups" (groups that are able to achieve extraordinary results); and to gain an increased awareness of classical and emerging perspectives on the internal and external factors that give rise to new creative organizational forms.

講義の内容/
授業スケジュール

This Semester I course will meet on Mondays during 2nd period. The course will utilize multimedia and the Internet. The selection of case studies will be determined by the specific topical areas of focus.

履修上の留意点

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法

Evaluation will be based on quizzes and projects, final exam, and participation.

教科書/テキスト

There are no required textbooks as readings will be provided on the class website.

参 考 書

Professor will provide materials from the following:
 Richard Florida: Rise of the Creative Class, Basic Books, Cambridge, MA 2004
 Richard Florida: Cities and the Creative Class, Routledge, New York, NY, 2005
 John Howkins: The Creative Economy, Penguin Books, London, 2001
 Warren Bennis and Patricia Ward, Organizing Genius: The Secrets of Creative Collaboration, Addison-Wesley Publishing Co., Inc., Reading Mass., 1997.
 Peter Drucker, Managing for the Future, Truman Talley Books, 1992
 David B. Yoffie, Competing in the Age of Digital Convergence, Boston, MA, Harvard Business School Press, 1997.
 Jean Lipman-Blumen and Harold J. Leavitt, Hot Groups, New York, Oxford University Press, 1999.
 Shona L. Brown and Kathleen M. Eisenhardt, Competing on the Edge, Boston, MA Harvard Business School Press, 1998
 Geoffrey A. Moore, Crossing The Chasm, New York, HarperBusiness, 1995.
 Mihaly Csikszentmihalyi, Creativity, New York, HarperCollins Publishers, 1996
 Harold L. Vogel, Entertainment Industry Economics, Cambridge, United Kingdom, 1998.
 Peter F. Drucker, Innovation And Entrepreneurship: Practices and Principals, New York, Harper & Row Publishers, 1985.
 Michael Sorkin, Variations On A Theme Park, New York, Hill and Wang, 1992.
 William J. Mitchell, City of Bits, Cambridge, MA, MIT Press, 1995.

G
M
S

履修コード	416001
科目名	クリエイティブビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)

As the Industrial Economy gives way to the Creative Economy, this course will concentrate on creative businesses where ideas and talent are more important than physical capital. Various types of creative organizations will be examined: how they operate and how leadership and management are utilized. The major objectives for participants in this course are: to understand the significant issues concerning the theory and practice of creative organizations and the development of "great" or "hot groups" (groups that are able to achieve extraordinary results); and to gain an increased awareness of classical and emerging perspectives on the internal and external factors that give rise to new creative organizational forms.

G
M
S

講義の内容/
授業スケジュール

This Semester course will meet on once a week during the 1st or 2nd period. The course will utilize media and the Internet. The selection of case studies will be determined by the specific topical areas of focus

履修上の留意点

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法

Evaluation will be based on quizzes, projects, final exam, and participation.

教科書/
参考文献

There are no required textbooks, only readings provided on the class website.
Professor will provide materials from the following:
Richard Florida, Rise of the Creative Class, Basic Books, Cambridge, MA 2004
Richard Florida, Cities and the Creative Class, Routledge, New York, NY, 2005
John Hawkins: The Creative Economy, Penguin Books, London, 2001
Warren Bennis and Patricia Ward, Organizing Genius: The Secrets of Creative Collaboration, Addison-Wesley Publishing Co., Inc., Reading Mass., 1997.
Peter Drucker, Managing for the Future, Truman Talley Books, 1992
David B. Yoffie, Competing in the Age of Digital Convergence, Boston, MA, Harvard Business School Press, 1997.
Jean Lipman-Blumen and Harold J. Leavitt, Hot Groups, New York, Oxford University Press, 1999.
Shona L. Brown and Kathleen M. Eisenhardt, Competing on the Edge, Boston, MA Harvard Business School Press, 1998
Geoffrey A. Moore, Crossing The Chasm, New York, HarperBusiness, 1995.
Mihaly Csikszentmihalyi, Creativity, New York, HarperCollines Publishers, 1996
Harold L. Vogel, Entertainment Industry Economics, Cambridge, United Kingdom, 1998.
Peter F. Drucker, Innovation And Entrepreneurship: Practices and Principals, New York, Harper & Row Publishers, 1985.
Michael Sorkin, Variations On A Theme Park, New York, Hill and Wang, 1992.
William J. Mitchell, City of Bits, Cambridge, MA, MIT Press, 1995.

履修コード	432601
科目名	グローバルアート政策論
担当者名	ともがか くにゆき 友岡 邦之

講義の到達目標(ねらい)

現代文化システムの特徴・機能・可能性、について、文化政策、特に芸術文化政策をキーワードとして論じる。文化的グローバリゼーションにより、国家単位の文化システムが、越境的・グローバルな展開を遂げつつあると同時に、その中核的な機能を果たしている。その成立過程、展開・普及過程、そして将来の可能性を展望する。

講義の内容／
授業スケジュール

文化政策のオリジナルを、西欧諸国等（特にフランス、ドイツ、イギリス、アメリカ）に求め、その歴史と展開を概観する。その後1980年代以降のグローバリゼーションを念頭に置きつつ、日本を中心にアジア諸国の状況を、比較の観点から概説する。

〈スケジュール〉

1. イントロダクション
2. 文化政策とは何か？その起源と展開の概略
3. ファインアートカルチャーとポピュラーカルチャー
4. 文化階層と文化政策
5. 文化政策の諸類型：フランス型
6. 文化政策の諸類型：ドイツ型
7. 文化政策の諸類型：イギリス型
8. 文化政策の諸類型：アメリカ型
9. 日本における文化政策の歴史的問題
10. 日本における文化政策の近年の展開
11. その他の諸国の文化政策の事例
12. 文化政策と国際文化交流
13. 文化政策と文化産業のシナジー
14. 文化政策の限界と可能性
15. まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

私語・遅刻・欠席については厳正に対処する。
毎回のコメントペーパー（40%）と学期末の論述試験（60%）により決定する。

特に指定しない。

川崎賢一『トランスフォーマティブ・カルチャー』勁草書房、2006年
佐々木・川崎・河島（共編）『グローバル化する文化政策』勁草書房、2009年

履修コード	433101
科目名	グローバル英語概論
担当者名	町田 <small>まちだ</small> 尚子 <small>なおこ</small>

講義の到達目標(ねらい) さまざまな英語の紹介と「世界の共通語としての英語とは何か」がテーマです。母語としての英語、第二言語あるいは公用語としての英語、外国語としての英語が私たちの周りに存在します。さらに地域的・使用の場におけるバリエーションも無視できません。また、英語教員免許状取得を目指している学生の必修科目として、最低知っておくべき英語についての知識が講義の中心となります。英語の音声・音韻・形態・語彙・統語的特徴を歴史的变化も視野に考察します。

講義の内容 / 授業スケジュール

- Week 1
Introduction: What is English? (1)
(1) English as a Global Language
- Week 2
Introduction: What is English? (2)
International Varieties of English
- Week 3
Introduction: What is English? (3)
The three circles of English and A family tree representation
- Week 4
Historical background: The history of the English language is the history of invasions
- Week 5
American English vs British English
- Week 6
Other varieties and Registers
1. Style of speech
2. Standard and non-standard English
3. Spoken and written English
- Week 7
English and the Internet
- Week 8
Features of English (1)
Vocabulary: Borrowing; Synonyms; Word formation
- Week 9
Features of English (2)
Pronunciation: Modern English sounds: vowels and consonants
- Week 10:
Features of English (2)
Pronunciation: Old English and Middle English sounds; The Great Vowel Shift : Variations
- Week 11
Features of English (3)
Grammar
1. How were inflections simplified in English?
- Week 12
Features of English (3)
Grammar
2. New grammatical features: word order, prepositions and modal auxiliaries
- Week 13
Features of English (3)
Grammar
3. More about English Grammar
- Week 14
What should Japanese learners of English be careful about?
- Week 15
Future of English

履修上の留意点
成績評価の方法

英語教員免許の取得を考えている学生は2～3年次で履修しておく必要があります。
半期科目なので、講義が中心ですが、課題レポート提出が2回ないしは3回あります。特に、初回授業で第1回の提出課題を指示しますので、必ず出席してください。また、講義についての理解を確認する小テストをほぼ毎回行う予定です。課題レポート30%、小テスト15%、定期試験55%の目安で評価点を出します。

教科書/テキスト
参考文献

GMS授業支援サイトのページに使用教材・資料等を毎回事前に指示します。

- ・ Blake, N. F. (1996) A History of the English Language, London: Macmillan (ISBN 0333609840)
 - ・ Blommaert, Jan (2010) The Sociolinguistics of Globalization, Cambridge University Press. (ISBN 9780521710237)
 - ・ Bragg, Melvyn (2004) The Adventure of English: The Biography of a Language, Arcade Publishing. (ISBN 1559707100)
 - ・ Crystal, David (1997) English as a Global Language, Cambridge: Cambridge University Press. (ISBN 0521530326)
 - ・ Crystal, David (2001) Language and the Internet, Cambridge: Cambridge University Press.
 - ・ Crystal, David (2002) The English Language, 2nd edition, Penguin Books (ISBN 0141003960)
 - ・ Crystal, D. (2008) Txtng: The gr8 db8, paperback (2009), Oxford: Oxford University Press (ISBN 9780199571338)
 - ・ Crystal, David (2004) Rediscover Grammar, Pearson Longman (ISBN 0582848628)
 - ・ Trask, R.L. (1999/2001) Language: The Basics, 2nd edition, Routledge (ISBN 041520089-X)
 - ・ 寺澤 盾 (2008)『英語の歴史：過去から未来への物語』中公新書1971.
 - ・ 本名信行 編 (1990)『アジアの英語』くろしお出版 (ISBN 4874240488)
- (1) 欠席する場合はeメール等で連絡し、課題の指示を受けること。
(2) GMS学部授業支援サイト「グローバル英語概論」ページに毎回の講義概要、handout 資料等をuploadしてあります。必ず確認し、あらかじめ事前準備をして出席してください。

その他の

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	416501
科目名	グローバル企業行動論
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい)

This course provides students with an overview of the subject of international business and management. Students will be introduced to several themes, such as globalization, corporate strategy, and strategic alliances. The material draws on models and examples in management studies, organizational behaviour and industrial relations.

講義の内容/
授業スケジュール

The content of the course is introduced in a series of lecture materials and selected readings given by the teacher.

Where appropriate, certain themes may be explored further through the use of short case studies that are directly pertinent to the focal topic.

成績評価の方法

Students are evaluated by their class attendance, class participation and a final examination. Evaluation will be explained by the teacher at the start of the course.

参考文献

Suggested readings will be given by the teacher in course material or in class.

履修コード	427911
科目名	グローバル経営論
担当者名	かがみ しょうこ 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

グローバル経営論Iの講義をさらに深めることを目的とします。グローバル経営を追求する企業が、世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業行動を、事例研究を用いて理解することを目指します。グローバル経営はドメスティックな経営全般とは本質的に異なる属性をもち、単なる経営上のファンクション分野における国際化を越えたフレームワークを理解しなければなりません。世界に通じるグローバル経営の理論武装となるように、先行研究の成果を踏まえて、最新の理論動向まで修得します。

講義の内容／
授業スケジュール

グローバル経営は、政治、社会、文化など各国の様々な条件が考慮されているため、非常に複雑に見えますが、(1)どのような論理で組織が構築され、(2)どのような戦略が実行されているのかという2つの視点を念頭において理解してみると、わかりやすくなります。したがって、本講義は、組織論・戦略論をベースに体系的に解説します。

- I. グローバル経営の論理
 1. 企業活動の国際展開の論理
 2. グローバル経営の戦略論
 3. グローバル経営の組織論
 4. 海外子会社関係のマネジメント
 5. グローバル統合とローカル適応の論理
 6. トランスナショナル経営論
- II. グローバル経営の革新
 7. グローバル企業のイノベーション
 8. グローバル企業におけるナレッジ・マネジメント
 9. グローバルR&Dマネジメント
 10. グローバル戦略提携のマネジメント
- III. グローバル経営環境とマネジメント
 11. グローバルな人的資源戦略
 12. リージョナル・マネジメント
 13. グローバル経営における文化
 14. まとめ

準備学習

新聞や雑誌、TV、インターネットなど、様々なメディアを通して、企業のグローバル活動についての情報に興味関心を抱いて下さい。講義終了後には、講義で使用したパワーポイントの画像を、授業支援システムに掲載しますので、復習を要します。

履修上の留意点

グローバル経営論Iをすでに履修した学生に限ります。Iと同様、学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連のニュースを理解することを心がけて下さい。

成績評価の方法

各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。

教科書／テキスト

開講時に指示。

参 考 書

必要に応じて随時紹介。

履修コード	432801
科目名	グローバル交流論
担当者名	しばき かつし 厚士 芝崎

講義の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・国境を越えたトランスナショナル・グローバルな交流の諸相に関する基礎文献の検討をもとに、ヒト・モノ・カネ・情報など多種多様な分野における交流がもたらす問題を考える。 ・将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。
講義の内容／授業スケジュール	<p>講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文をもとに、小テストや関連するメディアの分析などを交えつつ、解説を施す。</p> <p>講義の形式：(1) 授業支援システムから、各回の課題文献を入手する。(2) 出席者は課題文献を、当日までに一通り読んでおく。(3) 当日は、・簡単な小テスト、・解説、・関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。</p> <p>授業スケジュール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 ガイダンス&イントロダクション 2回目 グローバル交流の枠組1 3回目 グローバル交流の枠組2 4回目 グローバルな交流の理論1 5回目 グローバルな交流の理論2 6回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会1 7回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会2 8回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会3 9回目 文化・思想の交流1 10回目 文化・思想の交流2 11回目 ヒト・モノ・カネの交流1 12回目 ヒト・モノ・カネの交流2 13回目 グローバルな交流とメディア1 14回目 グローバルな交流とメディア2 15回目 まとめ
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。 ・予習を前提として授業が進むので、予習(文献をひとつお読みしておくこと)を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。 ・文献は授業支援システムからダウンロード入手すること。 ・ダウンロード入手した文献は、自宅でプリントアウトすること。大学の情報センターでの印刷は、センターおよびセンター利用者の迷惑になるので禁止。
成績評価の方法	<p>(1) 出席点兼毎回回収される答案用紙による平常点(70%)とブック・レポート(30%)により評価。</p> <p>※必ず、事前に文献を読んでくること。文献を読んできていない答案はすぐに区別がつかますので、たとえ毎回出席していても文献を読んでいない学生は、不合格になります。</p>
教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	<p>開講時に指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。</p> <p>授業中に随時指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生以上を対象とするが、事前に予習が必要なので、2年生で時間的に余裕のない学生は3年次以降に履修することを推奨する。 ・3年生以上で、卒論やゼミ論のための読み・書き・考える力を本気でつけたい学生には、本講義への参加を推奨する。 ・前期「グローバル交流論」では学術論文の読み方を重点的に学び、後期「グローバル市民社会論」ではより実践的な文献をとりあげる。どちらから履修しても構わないが、両方履修するとより効果が高まる。

履修コード	433001
科目名	グローバルシティズンシップ
担当者名	<small>かなやま とよこ</small> 金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

グローバル社会が現実のものとなっていく一方で、国民国家間の境界がますます意識されるようになってきました。戦争やテロ、環境や開発問題、貧困や情報格差など、グローバルな解決が求められる社会的正義の問題が増加する中で、一国民ではなく、グローバルシティズンとしても意識や関わりが求められるようになってきています。本講義では、グローバルシティズンとしてどのようなアプローチをとるべきかについて、特にメディアとの関わりを意識しながら、日常的なコミュニティレベルから、地球市民レベルに向けた情報の受発信を考察し、そこから具体的なアクションへつなげていくために何が必要かを議論していきます。

講義の内容／
授業スケジュール

授業では、グローバルシティズンシップとは何かという基礎的な考えについて理解します。また、環境、貧困などグローバルなテーマを題材として、その問題がどのような形でグローバルにディスカッションされているのか、そして、課題解決にどのように取組まれているのかを考察します。ブログ、ツイッター、ネット新聞や放送、ウェブサイト上でのグローバルなディスカッションや対話について、その現状と問題などをみていきます。また、関心のあるテーマに関係するイベントや活動への参加し、報告してもらいます。

<授業スケジュール>

- *ガイダンス
- *グローバルシティズンシップとは
- *グローバルな視点と問題
- *グローバル化された世界におけるシティズンシップ
- *人権
- *環境と開発
- *平和と安全
- *グローバルガバナンス
- *社会企業家
- *社会の課題解決に向けて
- *新しい社会システムの構築へ〜グローバルシティズンシップのすすめ

履修上の留意点

グローバルな問題に関心がある学生、様々なイベントや活動への参加、関連映画や写真展の鑑賞、関連誌の購読など、積極的な姿勢のある学生を望みます。英語の文献やウェブサイトも使用します。

成績評価の方法

出席、小レポート、および最終課題による総合評価
(8割出席が単位習得の最低必要条件)

そ の 他

人権や環境などの問題に取り組んでいる現場関係者や社会企業家を招聘する予定です。

履修コード	433401
科目名	グローバル市民社会論
担当者名	しばさき あつし 芝崎 厚士

講義の到達目標(ねらい)

・いわゆるGCS（グローバル市民社会）、TCS（トランスナショナル市民社会）と言われる、NGO、グローバル企業、国際機関、国家などの多様な主体による、近年の国境を超えた諸活動に関する基礎文献をもとに、GCS/TCSとは何か、それが国際関係や世界全体においてどのような役割を果たしているか、といった点について理解を深める。
 ・グローバルな交流の中で主体的に活動する人々のさまざまな考え方や行動を知ることで、自分たち自身が世界の中でどう生きるか、どう行動するかを考え、実践していくためのヒントを得る。
 ・「グローバル交流論」と同様、将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文をもとに、小テストや関連するメディアの分析などを交えつつ、解説を施す。

講義の形式：(1) 授業支援システムから、各回の課題文献を入手する。(2) 出席者は課題文献を、当日までに一通り読んでおく。(3) 当日は、・簡単な小テスト、・解説、・関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 グローバル経済1 映像分析
- 3回目 グローバル経済2 グローバリザーたち
- 4回目 グローバル経済3 ネオ・リベラリズム批判
- 5回目 地球環境・資源1 映像分析
- 6回目 地球環境・資源2 地球環境問題の国際的取り組み
- 7回目 地球環境・資源3 水・食糧・生命
- 8回目 貧困と開発1 映像分析
- 9回目 貧困と開発2 貧困とは何か
- 10回目 貧困と開発3 開発の理論と実践
- 11回目 紛争と正義1 映像分析
- 12回目 紛争と正義2 民族紛争と難民
- 13回目 紛争と正義3 紛争の原因
- 14回目 グローバル市民社会1 映像分析
- 15回目 グローバル市民社会2 メディアと監視

※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。

履修上の留意点

・予習を前提として授業が進むので、予習（文献をひととおり読んでおくこと）を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。

・文献は授業支援システムからダウンロード入手すること。

・ダウンロード入手した文献は、自宅でプリントアウトすること。情報センターでの印刷は、センターおよびセンター利用者の多大な迷惑になるので、禁止。

成績評価の方法

(1) 出席点兼毎回回収される答案用紙による平常点(70%)とブック・レポート(30%)により評価。

※事前に必ず、課された文献を読んでくること。文献を読んできているかどうかは答案用紙によってすぐに区別がつかますので、毎回出席していても文献を読んできていない場合には、不合格になります。

教科書／テキスト

開講時に指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。

参 考 書
そ の 他

授業中に随時指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。

・2年生以上を対象とするが、事前に予習が必要なので、2年生で時間的に余裕のない学生は3年次以降に履修することを推奨する。

・3年生以上で、卒論やゼミ論のための読み・書き・考える力を本気でつけたい学生には、本講義への参加を推奨する。

・前期「グローバル交流論」では学術論文の読み方を重点的に学び、後期「グローバル市民社会論」ではより実践的な文献をとりあげる。どちらから履修しても構わないが、両方履修するとより効果が高まる。

履修コード	431111
科目名	グローバル戦略論
担当者名	各務 <small>かがみ</small> 洋子 <small>ようこ</small>

講義の到達目標(ならい)

モノづくりの企業に限らず、映画、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットといったあらゆる分野で企業は絶え間ない技術革新(知識の創造とイノベーション)を求められている。様々な特質をもつ業界において求められる知識創造を継続的に生み出す経営戦略に焦点をあてる。新規性の高いプロダクトやアイデアを創出するための経営資源セット、組織構造、システム、プロセスを解明し、企業価値を創造する経営戦略の論理を学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

グローバル経営を追求するあらゆる組織のなかで、組織の成長を促進するための経営戦略を学ぶ。毎回、実際の企業の事例と、理論的フレームワークを提示し、理論と現実との両面から知識を深める。

G
M
S

1. 戦略の本質と意義
2. 全社戦略①企業全体を方向づける方法
3. 全社戦略②企業全体のバランスと成長を図る方法
4. 事業戦略①戦略分析のための基本ツール
5. 事業戦略②競争のメカニズム
6. 事業戦略③戦略の基本パターン
7. 戦略的経営①戦略の策定と実行のプロセス
8. 戦略的経営②戦略と組織の変革
9. 戦略的経営③戦略と財務
10. 戦略的経営④企業価値のマネジメント
11. グローバル時代の戦略①日本企業の課題
12. グローバル時代の戦略②グローバル企業の課題
13. グローバル時代の戦略③産業構造の変化とビジネスモデル
14. グローバル時代の戦略④企業の社会的貢献と地球環境問題

準備学習

新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど、様々なメディアを通してグローバル企業の行動に興味関心を持ってください。授業終了後には、授業支援システムに授業内容のファイルに掲載しますので、復習を要します。

履修上の留意点

学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連の情報を集めるように心がけて下さい。

成績評価の方法

各期定期試験と、講義中に実施する理解度をはかるエッセーにより総合的に評価します。

教科書/テキスト

開講時に指示する。

参考書

開講時に指示する。

履修コード	432701
科目名	グローバル創造都市論
担当者名	ともおか くにゆき 友岡 邦之

講義の到達目標(ねらい)

文化的グローバリゼーションを推進する中核的なトレンドは、創造都市（Creative Cities）ないし創造産業（Creative Industries）である。本講義では、創造都市とは何か、どのように成立し、どのように発展しつつあるかを、具体的な例を挙げて紹介・説明する。

講義の内容／
授業スケジュール

授業は講義形式で、3つの内容からなる。まず、創造都市と創造産業の成立とその機能について、既存研究を紹介しながら解説を行う。つぎに文化的グローバリゼーションと関連付けて、創造都市がどのように発展したかを具体的な例を挙げて説明する。最後に、将来的な可能性と問題点について考察する。

〈授業スケジュール〉

1. イントロダクション：予備的考察とキー概念
2. 何のためのグローバル創造都市か？なぜ、グローバル創造都市が生まれたのか？：グローバリゼーションとグローバルシティ、創造都市
3. 誰がグローバル創造都市を造るのか？：文化階層、エスニシティと文化資本
4. 欧州における創造都市1
5. 欧州における創造都市2
6. 米国における創造都市
7. その他の創造都市の事例
8. 創造都市としての東京、京都
9. 日本のグローバル創造都市：金沢・横浜・大阪
10. 「創造都市」をめぐる日本の状況
11. ローカルとネイティブ：地方の戦略
12. トランスナショナルの重要性：超国家機関と創造都市
13. 新しいコスモポリタニズムと中間層
14. グローバル創造都市の限界と可能性
15. グローバル創造都市論：まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

私語・遅刻・欠席については厳正に対処する。

毎回のコメントペーパー（40%）と学期末の論述試験（60%）により決定する。

特に指定しない。

川崎賢一「トランスフォーマティブ・カルチャー」勁草書房、2006年

佐々木雅幸「創造都市への挑戦」岩波書店、2001年

J. Florida, The Rise of Creative Class. Basic Books, 2002

G
M
S

履修コード	435901
科目名	グローバルネットワーク論
担当者名	ふじ のり 福家 秀紀

講義の到達目標(ねらい)

ブロードバンドや携帯電話、地上デジタルテレビなどが国のネットワーク産業は高度に発展してきました。このわが国のネットワーク産業をグローバルな視点から国際比較を含めて分析することにより、その特徴と限界を明らかにすることを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

まず、世界の主要国のネットワークの発展状況と特徴を明らかにした後に、わが国のネットワーク産業の特徴と限界を学習する。具体的には、次のスケジュールに従って進めます。(1) 国際通信の仕組み、(2) グローバルネットワークとしてのインターネット、(3) ITUからWTOへ、(4) ～ (7) 米国の情報通信ネットワークの特徴、(8) EUの情報通信ネットワークの特徴、(9) 韓国の情報通信ネットワークの特徴、(10) 中国の情報通信ネットワークの特徴、(11) ～ (13) グローバリゼーションとネットワーク、(14) ～ (15) まとめ

準 備 学 習

レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。

履修上の留意点

ネットワーク産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などのネットワーク関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。なお、情報メディア産業論Ⅰ、Ⅱ、およびネットワーク経済論の履修済みを前提として授業を行います。

成績評価の方法

各授業時間終了時に作成する講義のまとめ、レポート、および定期試験を総合的に評価します。

教科書／テキスト

特に指定しません。

参 考 書

・志村一隆[2010]、『ネットテレビの衝撃』、東洋経済新報社、1,500円、978-4-492-76193-9

・海部美知、『パラダイス鎖国』、アスキー、724円、978-4-7561-5133-9

・その他講義の中で適宜紹介します。

そ の 他

レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	431601
科目名	グローバルビジネス人材マネジメント
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい) These lectures introduce students to ideas and concepts in human resource management, particularly the challenges related to working abroad or in an international organization. The nature of work is changing, and this course provides an insight into some of these challenges and changes.

講義の内容／
授業スケジュール This course is based on lecture material and suggested readings.

成績評価の方法 Student evaluation will be based on class attendance, class participation and a final examination.

G
M
S

履修コード	417501
科目名	グローバル文化論
担当者名	<small>しおほら よしかず</small> 塩原 良和

講義の到達目標(ねらい) 現代の社会や文化は、めまぐるしい勢いで変わっていきます。当たり前だと思っていた区別、確かだと思っていた理想があつという間に不確かなものになっていくこの世界のなかで、私たちは自分が社会に存在する意味、自分や周囲の人の将来、そしてこの世界の行く末に「不安」を感じがちになります。この不安を乗り越えていくためにはまず、「社会・文化がなぜ、どのように変化しているのか」を知らなければなりません。

この講義のねらいは、現代社会および文化の変容について学生のみなさんが社会学的理論や知識を活用して思考・分析する力を身につけるとともに、社会と自分自身との関わりについて深く省察し、より良い社会・文化のあり方を構想する想像力を養うことにあります。

講義の内容／
授業スケジュール 講義は「レクチャー」「グループワーク」「グループワークの発表と講評」の3つの要素から構成されています。学生のみなさんにはすべての授業に出席し、提示された課題に取り組むことが期待されています。

- 第1回 インTRODakション・ガイダンス
- 第2回 レクチャー①：マイノリティとポジショナリティ
- 第3回 レクチャー②：マジョリティ・白人性・日本人性
- 第4回 グループワーク①
- 第5回 グループワークの発表と講評①
- 第6回 レクチャー③：高度近代における自己・社会・文化
- 第7回 レクチャー④：グローバリゼーションと分断されるリアリティ
- 第8回 グループワーク②
- 第9回 グループワークの発表と講評②
- 第10回 レクチャー⑤：多文化主義と共生その1
- 第11回 レクチャー⑥：多文化主義と共生その2
- 第12回 グループワーク③
- 第13回 レクチャー⑦：コスモポリタニズム
- 第14回 グループワーク④
- 第15回 まとめと講評

準備学習 配布された資料や指示された文献を毎回の講義前までに読んでおくことが求められます。

履修上の留意点 そのほか、授業中に適宜指示します
グループワークを計4回、授業中に実施していただきます。またグループワークについての発表を計2回実施していただきます。授業計画については変更する可能性もありますので、第1回の授業には必ず出席してください。

成績評価の方法 グループワーク 5点満点×4回=20点満点
グループワークの発表と講評 10点満点×2回=20点満点
出欠 1点×15回=15点満点
定期試験 45点満点

教科書／テキスト 計 100点満点

参考書 特に指定しません。
授業中に適宜指示します。

履修コード	406901・406902
科目名	グローバルマネジメント グローバル経営論 I
担当者名	<small>かみかき ようこ</small> 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

グローバルマネジメントは、グローバルに展開する様々な組織に必須の概念です。多様な組織体
が世界規模で付加価値活動を展開し、持続的競争優位を築いていくための論理と、現実の企業などの
行動を提示し、毎回事例研究（ケーススタディ）を用いて理解しやすい講義を目指します。

講義の内容/
授業スケジュール

グローバル社会における組織の役割やマネジメントの基礎知識を体系的に理解できるように、1
～3回はイントロダクションとしてわかりやすい事例を用いて総論的な内容から始めます。

I. イントロダクション

1. グローバル社会における組織とメディアの役割
2. マネジメントの意義と目的
3. グローバル経営の論理

II. グローバルマネジメント

4. グローバルマネジメント
5. グローバル組織のマネジメント
6. グローバルマネジメントの戦略
7. グローバル・マーケティング

III. グローバルマネジメントの革新

8. グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント
9. グローバル組織の組織間関係
10. グローバルな人的資源戦略
11. グローバル組織における文化
12. グローバル組織のコーポレートガバナンス

IV. 13～15 まとめ

履修上の留意点

学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、様々な企業関
連のニュースを理解するように心がけて下さい。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。
開講時に指示。
必要に応じて随時紹介。

履修コード	406501
科目名	グローバルメディア概論
担当者名	わたなべ あきのり 渡辺 彰規

講義の到達目標(ねらい)

グローバル化が進行する中で、グローバルなメディア産業・企業、それらの文化などについて、ローカル・ナショナル・インターナショナル・トランスナショナル・グローバルなレベルについて、概略を学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

グローバルメディアを考えるにあたり、まずは、その前史でもある印刷術の歴史を振り返り、それとの比較を踏まえて、現代のメディアとグローバル化する社会の関係について考察する。

したがって、講義の内容は、下記の3つに分けられる。

(1) 印刷術の、起源、発展のプロセス、と近代社会の諸特性との関わりについて

(2) 文化産業としての出版と国民国家の様々な仕組みとの関わりについて

(3) 電子メディアの特性とポスト近代社会の諸特性との関わり、そして、グローバル化との関わりについて

以上3点を具体的事例を挙げながら、学習する。

〈スケジュール〉

1. イントロダクション
- (1) 印刷術と近代社会
2. 声の文化と文字の文化
3. 印刷術の発明と世界の変化(その1)
4. 印刷術の発明と世界の変化(その2)
5. 日本における木版印刷と活版印刷の事例
- (2) 出版と国民国家
6. 書籍出版の歴史
7. 新聞とジャーナリズムの歴史
8. 印刷術と国民国家形成の関係
9. 印刷術と公共圏形成の関係
10. 印刷術と近代的権力との関係
- (3) 電子メディアとグローバル化
11. 電子メディアの文化とポスト近代社会
12. ラジオ・テレビにおけるローカルとグローバル
13. インターネットにおけるローカルとグローバル
14. グローバルメディア時代の構造
15. まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

授業内で指示するので、それに従うこと。

授業の内容からして、前回の授業を受けて、蓄積的に内容が展開するので、毎回必ず出席すること。

学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。

授業の中で指示する。

授業の中で指示する。

履修コード	432301
科目名	グローバルメディアガバナンス論
担当者名	<small>にしおか ようこ</small> 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、インターネットを含む電気通信およびコンテンツ流通に関するグローバルなガバナンスの問題を扱う。中心的な役割を果たす国際組織の役割を把握したうえで、ガバナンス体制の変化の歴史をたどり、過去および現在の主要な論点および変化の要因を理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

1. イントロダクションおよび概念の整理
 - イントロダクション
 - グローバルガバナンスとプレイヤー
 - ITUと国際電気通信レジーム
 - 秩序変化をみる枠組み
2. 電気通信（インターネットを含む）のガバナンス
 - ITUの成立と成長
 - ITUの確立と役割の拡大
 - ITUをとりまく環境の変化
 - WTOの設立と市場の自由化
 - インターネット・ガバナンス
3. コンテンツ流通のガバナンス
 - 世界のコンテンツ流通
 - 各国のコンテンツ振興策
 - WIPOと著作権
 - UNESCOとNWICO論争
 - 文化多様性条約とグローバリゼーション
4. まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

メディア制度論または、同様の科目を履修していることが望ましい。
テスト、レポート、平常点などで総合的に判断する。
西岡洋子『国際電気通信市場における制度形成と変化』慶應義塾大学出版会、
2007年、4,725円、ISBN：978-4-7664-1425-7
講義中に指示する。

参 考 書

履修コード	406101
科目名	グローバルメディアスタディーズ概論
担当者名	福家 秀紀・クボタ、L.・テツカ ヨシハル・リンスキー、M.・各務 洋子・絹川 真哉・山口 浩・ 芝崎 厚士・杉森 建太郎・西岡 洋子・石橋 直樹・石川 憲洋・南 政樹・白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

本学部の名称を体現し、学部における学習のイントロダクションとして設置されている科目です。専任教員が個々の専門の立場から、「グローバル」と「メディア」と「コンテンツ」に関わるテーマに照準を合わせてオムニバス方式で講義をします。本学部の目指している教育目標、新しい学問体系構築へのアプローチ、基本的な方法論や手法について、理解できるように構成されています。

講義の内容／
授業スケジュール

インターネットと携帯電話という新しいメディアの普及に伴って、情報・コンテンツはグローバルに流通し、活用されています。テレビ・新聞などのマスメディアが伝える情報に加えて、普通の人々が、普通に情報を発信し、それを世界中の人が受信しています。またスマートフォンや電子書籍端末の登場によって、電子化した情報が当たり前のように利用されています。こうした新しい現象とその社会的な影響を、既存の学問の枠を超えた多様な視点から分析し、自らの力で選択・活用するリテラシーを身につけることが重要です。同時に、新しいメディアを使いこなし、グローバルな舞台で活躍するために、実践的な英語でのコミュニケーション能力を磨くことの意義を入学当初によく理解し、また、分野間の相互関係や相互作用を体験的に習得していくことが必要です。以下の項目は、上記の内容を具体化した講義のテーマの主な例です。

1. ブロードバンド・携帯電話の普及と情報メディア産業の構造変化
2. ネットの力、みんなのチカラ：社会、ビジネス、人はどう変わるか
3. グローバル・メディアとエコロジー
4. From Media to Transmedia to Transvergence: Stories and Cultural Change
5. 世界政治・国際関係とメディア入門 グローバル社会を生きるための思想と行動
6. Internet of Things: For ambient, tangible and translucent Media
7. 知的財産と経済学
8. イノベーション社会学「日本製品の海外普及」
9. New Media and the Exponential Growth of Information
10. What is use of Media and Cultural Studies? (メディア文化研究の使い方)
11. モバイルインターネットからユビキタスネットワークへ
12. 世界共通言語としての英語の多様性、電子メディアの英語情報に見られる地域差、文体差の考察
13. グローバル化とメディア産業
14. グローバル企業の活動からみたグローバルとメディアの考え方
15. まとめ

履修上の留意点

ここでは、専任教員が交替で講義を行っていきます。その中で、前期終了時には学部の教員の主な専門領域が分かる仕組みになっており、2年次以降に開講される演習の選択の参考にすることが望ましい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

講義ごとにレポートを課しますが、その全体の評価で成績を決めていきます。使用しません。必要に応じて随時紹介します。講義の担当者については、第一回目に発表します。

履修コード	435511
科目名	国際移動とメディア
担当者名	しらみず いげひこ 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)	国際移動の実態を移民の文化形成と観光という観点から学びます。 国際観光地として著名なハワイはどのようにして観光地になったのか。 そもそも観光地だったのかどうか。 ハワイ社会の起源、歴史、植民、移民、そして各エスニック集団の文化形成を学び、それらが観光とどう結びついているのか、社会学の目をおして検討します。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1週～第2週 イントロダクション この授業の概要説明 観光コミュニケーションの視点からハワイを捉える 第3週 ハワイ社会の起源 第4週 欧米白人の渡航とハワイ文化の変化 第5週 プランテーションの始まり：多民族社会へ 第6週 日系人の文化 第7週 ウチナンチュ (沖縄系) の文化 第8週 中国系の文化 第9週 コリアンの文化 第10週 越境者の光と影 アメラジアン、婦米二世 第11週～第12週 国際観光の実態 日本とアジア 第13週～第15週 移民・メディア・観光 まとめ
準備学習	GMSの授業支援システムに前もってパワーポイントの内容を掲示しますので、授業の前に読んでおき、現代史などの本でその時代を調べておくと理解が深まります。そうすれば、大学生としての「常識」も得られて一挙両得。
履修上の留意点	画像を用いたり、実例を提示するわかりやすい授業を心がけますが、毎回出席しないとわからなくなります。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思います。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思います。
成績評価の方法	授業時間中にしばしばエッセイを課す(5回前後の予定)。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイが3回以上提出されないと成績がつかないことがあるのでそのつもりで。
教科書／テキスト	白水繁彦編著『多文化社会ハワイのリアリティー』(御茶の水書房、2011年)、 及びパワーポイント
参考書	矢口祐人『ハワイの歴史と文化』中公新書 山中速人『ハワイ』岩波新書
その他	白水繁彦 1998『エスニック文化の社会学』日本評論社 能動的で積極的で、遅刻や欠席しない人の受講を望む。

履修コード	416801
科目名	国際関係とメディア
担当者名	しばき あつし 芝崎 厚士

講義の到達目標(わらい)

国際関係・国際関係論に関する基礎知識を、さまざまなメディアとのかかわりにおいて学習し、この世界の歴史と現状を考える出発点を作り上げる。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容：テスト形式。小テストと解説を行い、作成した答案用紙を回収し成績を決定する。
(1) ニュースウォッチ (新聞記事要約)、(2) リーディング (テーマ論文要約)、(3) メディアウォッチまたはワード・データウォッチ (音楽・映像、重要語の定義、重要な世界の現状に関するデータ、10秒クイズなど)、の3部構成で行う。

授業スケジュール：

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 国際関係の歴史その1
- 3 回目 国際関係の歴史その2
- 4 回目 映像分析その1
- 5 回目 主権国家と国民国家
- 6 回目 多国籍企業・NGO
- 7 回目 戦争・テロリズム・平和
- 8 回目 映像分析その2
- 9 回目 外交と対外政策
- 10 回目 貧困と開発
- 11 回目 環境問題
- 12 回目 映像分析その3
- 13 回目 ナショナリズムと民族紛争
- 14 回目 日米安保とは何か
- 15 回目 グローバル・ガバナンス

履修上の留意点

テスト方式なので、成績は、基本的に毎回回収する答案用紙の出来で判断する。ただ出席しているだけではなく、授業中に、与えられた課題にどれだけ主体的に取り組んだかによって評価する。予習の必要なし。

成績評価の方法

・毎回回収する答案用紙の出来(読んで・書いて・考えたことをどれだけ答案用紙に残せたか)が60%、学期末試験(答案用紙、配布教材の持ち込み可。答案用紙は試験前に返却)が30%、授業支援システムを経由して提出する課題が10%

・授業中の作業は最初はハードですが、慣れてくるとできてきます。答案用紙の完成度そのものよりも、努力した跡がどれだけ見られるかを重視して評価します。別の言い方をすると、出席していても努力の跡が見られない場合には、単位は取得できません。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

開講時に指示。

授業中に随時指示。

・教材は毎回プリントで配布。プリントの配布、回収には協力してください。

・前期科目「世界政治とメディア」と連動して開講するので、カリキュラム上可能であれば、「世界政治とメディア」を予め履修していることが望ましい。本科目を履修したあとで「世界政治とメディア」を履修することも薦める。

・2年次以降の演習で国際関係研究を履修したい場合には、「世界政治とメディア」または本科目を履修していることが望ましい。

履修コード	434761
科目名	国際協手法
担当者名	やまむら つねお 山村 恒雄

講義の到達目標(わらい)

今日では、国際関係が重要となっている。我々の日常生活で関係のある他国との協力関係を規律する基本的ルールについて学習することを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：ガイダンス、第2～7回：政府開発援助大綱について、第8回：国際緊急援助隊について、第9～10回：国際緊急援助隊の派遣に関する法律について、第11回：国連平和維持活動について、第12～13回：国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律について、第14～15回：資金援助に関わる組織について

履修上の留意点

配布するプリントの該当部分に、授業前に目を通し、疑問点を整理しておくこと。授業を受けても疑問点が解消しない場合は、授業後に質問すること。

成績評価の方法

学期末試験だけで評価します。

教科書／テキスト
参 考 書

とくに指定はしません。

授業中、必要に応じて指示します。

履修コード	437401
科目名	国際標準化論
担当者名	いしかわ のりひさ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

メディア情報の有効利用を促進するためには、情報の符号化、物理媒体への格納、ネットワーク上の通信と相互運用等に関する技術を相互に共通化する必要がある。また、情報の品質と安全性を確保するためには、関連組織における情報の取り扱いに関する管理手続き等の標準化を行うことが望ましい。グローバル・メディア環境では、これらの標準の開発と適用の推進を国際レベルで推進することが必要である。先進国の中で日本はこの面で立ち後れていたが、近年には顕著な進展を見せている。その意義と課題を明確化し、今後の方策について議論する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回 標準・規格の意義とその変化
- 第2回 情報通信分野における標準化の意義とその変化
- 第3回 国内および国際標準化組織の役割とその変遷
- 第4回 デファクト標準、フォーラム標準の増加の背景と動向
- 第5回 政府調達と国際標準化との関連
- 第6回 知的財産戦略における標準化の意義
- 第7回 標準に関わる知的財産権を巡る課題
- 第8回 マネジメントシステムに関する国際標準化
- 第9回 情報セキュリティに関する国際標準とガイドライン
- 第10回 情報セキュリティマネジメントシステムに関する国際標準化
- 第11回 情報セキュリティ評価基準に関する国際標準化
- 第12回 暗号アルゴリズムとデジタル署名の標準化
- 第13回 電子的権利管理(DRM)技術の現状と展望
- 第14回 プライバシー分野の国際標準とガイドライン
- 第15回 まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

特になし
【受講制限について】受講希望者が400名を超えた場合、受講制限をかける可能性があります。次の2項目を総合して評価する。

1. 出席回数
 2. 期末試験またはレポート課題の提出
- ただし、出席回数が不足すると単位が取得できないので、注意すること。
講義のプレゼンテーション資料を授業支援システムを利用して、公開、配布する。
授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

教科書／テキスト
参 考 書

履修コード	434751
科目名	国際法
担当者名	やまむら つねお 山村 恒雄

講義の到達目標(ねらい)

国際社会は、分権的な社会であり、統一政府などは存在しない。そのために、国際社会を規律するルールが複雑になっている。本講義では、その国際社会の基本的なルールの修得を目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回：ガイダンス、第2回：国際法の成立と発展の歴史について、第3回：国際法について、第4～5回：国際法の主体について、第6～8回：国家とその権利義務について、第9～11回：国家領域とそれに対する権限について、第12回：国家の権限が及ばない領域について、第13～15回：海の制度について

履修上の留意点

国際法は、理解が難しいといわれている教科のひとつです。そのため、授業に確実に出席し、理解しようとする心がかかるようにすること。

成績評価の方法

学期末の筆記試験のみによる。

教科書／テキスト

『国際法入門 第二版』横田洋三編 有斐閣 2000円+税 ISBN4-641-12248-2

参 考 書

出版社や年度は問わないが、『条約集』があれば便利である。

履修コード	431011
科目名	コミュニケーション社会史
担当者名	<small>しらみず しげのこ</small> 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

メディアのイメージ形成
～歴史を作ったメディア～
近代、現代の歴史とメディアはどうかかわってきたか。われわれのイメージする歴史がいかにメディアによって形作られているかを明らかにする。

講義の内容／
授業スケジュール

- 貴重な映像を多用して説明します。
- 第1回 イントロダクション この授業の全体像
 - 2 大衆新聞の誕生 メディア王 ピュリッツァーとハースト
 - 3, 4 イメージ形成の理論
擬似環境
メディアが作り出す「リアリティ」
 - 5 有名人、メディアセレブの誕生
20世紀型の有名人の誕生
マスメディア登場以前・以後の有名人の違い
 - 6 1927年から1933年 サイレント映画からトーキーへ
コンテンツの多様化
 - 7 メディアが作り出したヒーロー 1933-1940
ファシズムの時代
 - 8 プロパガンダの天才
ゲッベルスの戦略
 - 9 テレビ受像機が大衆のものに
テレビ的なヒーローの誕生
 - 10 1960年代 米ソの冷戦に代表される「政治の季節」
アメリカ ベトナム戦争を始め、泥沼化
 - 11 メディアと政治 メディアがつくる政治家
スピン・ドクター アメリカ編
 - 12 メディアと政治
スピンドクター ヨーロッパ編
 - 13 まとめ1
 - 14 まとめ2

準備学習

GMSの授業支援システムに前もってパワーポイントの内容を掲示しますので、授業の前に読んでおき、現代史などの本でその時代を調べておくと理解が深まります。そうすれば、大学生としての「常識」も得られて一挙両得。

履修上の留意点

画像を用いたり、実例を提示するわかりやすい授業を心がけますが、ビデオ資料を分析することが多いので毎回出席しないとわからなくなります。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思えます。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思えます。

成績評価の方法

授業時間中にしばしばエッセイを課す(5回前後の予定)。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイが3回以上提出されないと成績がつかないことがあるのでそのつもりで。なし。パワーポイントによる資料提示、およびビデオ資料を見ながら分析する。

教科書／テキスト
その他

能動的で積極的で、遅刻や欠席しない人の受講を望む。

履修コード	433811
科目名	コンテンツデザイン演習
担当者名	なかほし かつぞう 高橋 克三

講義の到達目標(ねらい)

誰にでも小説が書けるし、見やすいデザインを作ることができる。言葉に文法があるように、表現には法則がある。小説、映画、アニメ、視覚的広告などを創造する上で使われている法則を学ぶことは、小説や美術の制作活動をしたことのない人たちが短期間でその創造力を磨くためには一番良い方法である。

人間の想像や物語は意外と典型的である。ウラジミール・プロップは、物語の構造を31のプロトタイプで説明できるとしたし、C.G.ユングは、世界の神話や昔話が似ていることから元型という概念を提出した。この普遍性の力を的確に使って世界の人々を楽しませているのがハリウッド映画である。

しかし、コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル(辺境。今風に言うならエッジ)なものの方から生まれる。

ブルース、タンゴ、ジャズ、ロック、レゲエ、ヒップホップなど、町の一角、それもけて上品なところではなく、悪場所的なところで生まれた音楽が、なぜか世界性を獲得している。マージナルな力である。コンテンツの核心、表現と感動の関係を学ぶ。

自己を理解し、他者を認識するコミュニケーションの原則を演劇で体験して後、表現の普遍的な法則を学ぶ。創造性とマージナルな力との関係についても検証していく。

- ・演劇によるロールプレイング。
- ・物語の構造。
- ・ビジュアル・コミュニケーションの法則。
- ・学習障害者の作品の力。

講義の内容／
授業スケジュール

履修上の留意点
成績評価の方法

写真や物語、コラージュ作品を制作する。技術力は問わない。発想力を評価する。

出席 40%

質疑応答など演習への参加度 20%

課題作品提出 40%

教科書／テキスト

『神話の力』ジョーゼフ キャンベル、他

ハヤカワ・ノンフィクション文庫 ¥1,000(税別)

参 考 書

『ビジュアル・コミュニケーション』藤澤英昭 ダビッド社 1,600円(税別)

履修コード	434201
科目名	コンテンツデザイン概論
担当者名	おかだ ともひろ 岡田 智博

講義の到達目標(ねらい)

これからコンテンツに関わる諸君に向けて、社会やビジネスとコンテンツを扱う人との間の関係やそれを取り巻く環境について基本的な理解を自身で行うための材料を提供したい。本講座を通じて、諸君がこれから経験していくことになるであろうダイナミズムに富んだコンテンツを取り巻く生々しい現実の中での処し方の「デザイン」をこの講座を通じて自身の手で組み立ててもらいたい。

コンテンツを取り巻く現在進行中の事象やワークモデルの構造を論じてゆく。内容は諸君の理解度に応じて柔軟に変える。

講義の内容／
授業スケジュール

履修上の留意点

講義において出てきた事象などで分からなかったり、触れたことの無いものであったら、必要な限り自身で体験し、自身の力で理解するトレーニングをしてもらいたい。

成績評価の方法

試験において、授業において思考するために提供した材料をもとに課題を提供する。課題に対する理解と思考力を成績評価の主たる判断材料とする。授業では随時、試験に準じたロールプレイを行い、諸君の学びのベンチマークとして考慮する。

教科書／テキスト

プリント等で随時提供する。

参 考 書

参考書を求めなくとも学べるよう設計するが、授業中にでたURLやイベント、コンテンツや書籍に対し、関心を持ったらなるべく目を通したり体験するように。

そ の 他

本講座は覚えるものではなく、理解し考えることに主眼を置いている。授業中においては記録することよりも、自身の力で理解し、考えることに注意を払ってもらいたい。

履修コード	433711
科目名	コンテンツデザイン各論
担当者名	高橋 克三 <small>たかはし かつぞう</small>

講義の到達目標(ねらい)

世界は小さく、よりシンプルになったと考えるか、いや、より複雑になったと考えるかは、その個人や企業がどこまでの広がりをもって世界と関わろうとしているかによる。最初から世界全体と関わろうとしていた人や企業にとっては、現代の情報革命は、様々な障壁を取り除き、地球を小さく、シンプルにしてくれる魔法の杖の一振りであったろう。しかし、この一振りは、地域の自然や営みと深く関わり、穏やかに生きていこうとしていた人々にも否応無く大量な情報を伴った世界と直接対峙させることになった。

メディアを通して地球規模のサイズに拡張された人間と、田舎町の川のせせらぎや青空をよぎる白い雲の時空に生きる人間を比較すると、メディアが人間の想像力や価値観を規定していくことが十分に理解できるだろう。

しかし、世界は変わった、人間も変わるべきと単純には言えない。コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル(辺境。エッジ)なものの両方から生まれるからである。コンテンツの根本には、幸せや感動があることは言うまでも無い。

このフラット化された世界の秩序をメディアの側面から読み解くとともに、自らの感性に依拠したコンテンツを自由に発信するための基礎となる知識と考え方を整理する。

- ・メディアはメッセージである。
- ・フラット化する世界。
- ・宇宙船地球号。
- ・地域から考える。

美術館、博物館、ゲストなど大学外からの知恵を得る機会を持つ。

出席 40%

質疑応答など講義への参加度 20%

レポート提出 40%

G
M
S
講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書/テキスト
参 考 書

『宇宙船地球号 操縦マニュアル』バックミンスター・フラー ちくま学芸文庫 ￥900(税別)
『マクルーハン理論』マーシャル・マクルーハン、他 平凡社ライブラリー-461 ￥1,200(税別)

履修コード	416201
科目名	コンテンツビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)

Students who are interested in the emerging digital content business sector and how it is being created will benefit from this course. The movie industry will provide a model for how digital content is being utilized in various forms. People and companies must learn to form new content possibilities in a rapidly changing environment.

講義の内容/
授業スケジュール

This course will meet on during 1st or 2nd period. In this course, students will be provided with an overview of the content creation industry, and examine case studies of various content creating companies.

履修上の留意点

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法

Evaluation will be based on quizzes, final exam, and participation.

教科書/テキスト
参 考 書

There are no required textbooks as readings will be provided on the class website

Professor will provide materials from the following:

Forfa's report, A Strategy for the Digital Content Industry in Ireland, February 2005

Digital Content Industry Action Agenda, Austrian Government, Dept of Communications, Information, Technology and the Arts, November 2005

Japan's Digital Content Industry is Commanding Global Attention, Invest Japan, # 9, Summer 2005.

Report on Japan's Movie Industry

Harold L. Vogel, Entertainment Industry Economics, New York, Cambridge University Press, 2001

Jason E. Squire, The Movie Industry Book, 3rd Edition, Simon and Schuster, 2004

履修コード	416101
科目名	コンテンツビジネス論
担当者名	やまくち ひろし 山口 浩

講義の到達目標(ねらい)	アニメ、映画、ゲーム、音楽その他、日本のコンテンツは、国内外から注目を集めています。本科目では、これらのコンテンツを作る側、すなわち企業やその他の担い手たちに注目し、コンテンツを作り、伝える活動をビジネスの視点でとらえること、及び、コンテンツビジネスという題材を通して、経営学の基礎を身につけることを目的とします。コンテンツビジネスと関連のある法制度や政策、技術や文化などについても必要な範囲で取り上げ、影響力の裾野がきわめて広いこのビジネスを概括的に理解することをめざします。
講義の内容／ 授業スケジュール 準備学習	コンテンツビジネスの歴史と現状、さまざまなコンテンツ分野とその担い手たち、問題点と将来の展望、情報技術の発達とコンテンツビジネス、他。 テレビや雑誌、新聞などを見て、今どんなコンテンツに人気があるのか、どんな新しいことが起きているのかなど、意識して情報を取り入れるようにしてみてください。 自分が好きなコンテンツ、本でも映画でもゲームでもなんでもいいので、それらが誰によって作られているか、どのようなルートでいくらで売られているか、なぜそうなっているのかなどについて、考えてみてください。 その他必要があれば具体的に指示します。
履修上の留意点	授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、得点として成績にも反映します。逆に、授業を意図的に妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。 出席その他で携帯電話の機能を使うことがあります。必ず使える状況で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。 出席をとったときにいなかった人は、出席点の対象になりません。
成績評価の方法	配点は次の通り。 出席50%、小テスト(複数回合計、回数及び時期は未定)20%、定期試験30%、授業への参加最大20%(ただし合計で100%)
教科書/テキスト	長谷川文雄・福富忠和編『コンテンツ学』(世界思想社、2007年) ISBN: 978-4790712817
参考書	財団法人デジタルコンテンツ協会編「デジタルコンテンツ白書2010」 ISBN: 978-4944065196 その他必要に応じ適宜資料を配布します。

履修コード	428001
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	あけた しろまさ 明田 守正

講義の到達目標(ねらい)

コンピュータ上で特定の問題に対する一般的な解決策を、自らの考え方で論理的に実現する手法であるプログラミングの概念を習得する。情報機器が機能する根本的な仕組みを理解し体得することで、情報社会における現場対応力を高める。具体的には、基礎的なグラフィックス生成の仕組みを使いこなす能力を身につける。

講義の内容／
授業スケジュール

グラフィックス生成の記述が簡易なプログラミング言語、Processingを用いてプログラミングを学習していく。プログラムとは、プログラミング言語でコンピュータの動作手順を記述したものである。授業では、プレインテキストのプログラムを記述し、実際にプログラムを動かして動作や振る舞いの変化を観察し、身につけて行く。

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 ウィンドウに線を引く
- 【第3回】 変数
- 【第4回】 繰り返し
- 【第5回】 計算
- 【第6回】 条件分岐とサブルーチン
- 【第7回】 反応
- 【第8回】 色と乱数
- 【第9回】 資料の使い方
- 【第10回】 バウンス
- 【第11回】 ペイント
- 【第12回】 配列
- 【第13回】 クラスとインスタンス
- 【第14回】 最終課題制作
- 【第15回】 最終課題発表

準備学習
履修上の留意点

キーボード・マウス操作、プレインテキスト(メモ帳)の編集操作に不自由がないことを前提とする。
本講義は「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の履修を前提とする。各自のPCを毎時間持参する。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

講義内での実習課題、および次回授業までの課題を課す。なれていなければ課題を多いと感じる場合もある。毎回出席しなければついて行けなくなることを留意すること。

ワークショップであるため、毎回の講義における出席、課題および最終課題を評価材料とする。
ワークショップ内でハンドアウトを配布し、web上に設定する。

前川 峻志 & 田中 孝太郎 [2007] : "Built with Processing デザイン／アートのためのプログラミング入門", ビー・エヌ・エヌ新社

Fry, Ben [2007] : "Visualizing Data", Oreilly & Associates Inc.

(邦訳が2008年にオライリージャパンから出ている)

Ben, Fry & Reas, Casey [2007] : "Processing: A Programming Handbook for Visual Designers and Artists", The MIT Press

Maeda, John [2001] : "Design By Numbers", The MIT Press

(邦訳が2001年にソフトバンククリエイティブから出ている)

数学を苦手とする文系の学生を考慮した授業進行とする。

その他
関連リンク

<http://www.processing.org/>

履修コード	428201
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	いしかわ のりひろ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい) 社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、Java言語の実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

講義の内容／
授業スケジュール 授業は次のスケジュール（予定）で行い、Java言語によるプログラムの読み書き能力を身に付けることを目標とする。

- 第1回 主なプログラム言語とJavaの位置付け、JDKのインストール
- 第2回 Javaプログラムの作成、保存、コンパイル及び実行
- 第3回 Javaで扱うデータの種類、主な演算子（計算）
- 第4回 Javaで扱う変数の種類と使い方
- 第5回 第1回～第4回の復習、練習問題の実習
- 第6回 Javaの制御構造1/3：if文、if else文の概要
- 第7回 Javaの制御構造2/3：for文の概要
- 第8回 Javaの制御構造3/3：While文、do while文の概要
- 第9回 第6回～第8回の復習、練習問題の実習
- 第10回 クラスライブラリの利用方法、Javaの例外処理
- 第11回 Javaのクラスの概要1/2
- 第12回 Javaのクラスの概要2/2
- 第13回 第10回～第12回の復習、練習問題の実習
- 第14回 Javaプログラム作成課題の作成
- 第15回 まとめ

準備学習
履修上の留意点

特になし
情報リテラシー及び実習を履修済みであること。
GMS授業支援システム及びノートPCの利用ができること。
この科目では、Java環境を設定したノートPCを使用する。

成績評価の方法

- 次の2項目を総合して評価する。
1. 出席回数
 2. Javaプログラム作成課題の提出
(1 課題は自由課題の予定)
- ただし、出席回数、課題提出数が不足すると単位が取得できないので注意すること。

教科書／テキスト
参考書
その他

講義のプレゼンテーション資料を授業支援システムを利用して、公開、配布する。
授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。
講義と実習を併せた形式で行う。

履修コード	428301
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	<small>いしはし なおき</small> 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

講義の内容/
授業スケジュール

本講義は、プログラミング言語Perlの演習を通じ、WWW環境を対象としたソフトウェア開発の過程を学ぶことを目的として、次のスケジュール(予定)で行う。

1. 導入—Perlを用いたプログラミング、2. WWWにおけるサーバ・サイド・プログラミング—CGI、3. Perlの基本構造、4. CGI入門—Hello, World.、5. 変数を用いたProgramming、6. HTMLとの連携—GETとPOST、7. Perlにおけるif構文—分岐、8. Perlにおけるwhile構文、for構文—繰り返し、9. Perlにおける文字列処理—正規表現、10. ファイルの読み書き、11. Perlにおけるサブルーチン—部品化、12. 応用—チャット・システムの構築、13. まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法

情報リテラシー実習を履修済みであること。
毎回の講義におけるミニレポート、学期末に作成するプログラムに関するレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

Webにおいて電子教材を提供する。
講義中において教材を指定する。
本講義は、講義と実習をあわせた形式で行う。

G
M
S

履修コード	428101
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	まつばら だいご 松原 大悟

講義の到達目標(わらい)	この授業の目標は、現在用いられている情報システムがどのように動作しているか、どのように開発されているかを理解することである。コンピュータシステムの動作原理、ソフトウェアの開発手法、プログラミング技法について説明する。また、初学者がこの分野に必要な技能を体験的に理解し、専門選択の一助となることも目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	初めにコンピュータの動作原理とプログラミング言語の基礎的な文法を学び、次いでいくつかのプログラムを作成する。プログラミング言語には実用性と学習の容易さのバランスがとれているC#言語を採用し、現在のソフトウェア開発で一般的な統合開発環境を利用する。作成プログラムの題材は出来るだけ身近なものとする。 【第1回】コンピュータとプログラム実行の仕組み (1)：デジタル情報表現、コンピュータの構成と動作方式、ハードウェア構成について解説する。 【第2回】コンピュータとプログラム実行の仕組み (2)：コンピュータがプログラムを実行する実際について、数式をCASL言語で書かれたプログラムに変換し、シミュレータ上で実行することで学ぶ。 【第3回】プログラミング言語と開発モデル：プログラムの設計と開発について、そのプロセスを説明し、現在用いられているいくつかの手法を紹介する。また、主要なプログラミング言語を紹介する。 【第4回】C#言語入門 (1)：開発環境MonoDevelopの使用方法について説明し、最初のC#プログラムを作成する。式、変数、演算子の概念を説明し、簡単な計算を実行するコンソールプログラムを作成する。 【第5回】C#言語入門 (2)：繰り返し、条件分岐などの制御構造について説明し、金利計算プログラムを作成する。 【第6回】C#言語入門 (3)：メソッドによる機能分割と利用の方法を学ぶ。 【第7回】C#言語入門 (4)：データ構造理解の初歩として配列を学び、簡単な分岐式ゲームを作成する。 【第8回】ファイル操作と例外処理：ファイル操作の方法と例外の概念について学び、行数カウントプログラムを作成する。 【第9回】ネットワークの利用：インターネット上に存在するデータを取得し利用する方法を説明する。あらかじめ用意されたサーバが提供する機能を用いて、簡単なユーザー状況公開アプリケーションを作成する。 【第10回】GUIプログラミング (1)：GUIを用いるプログラムについて、コンソールプログラムとの違いを中心に説明し、最初のGUIプログラムを作成する。 【第11回】GUIプログラミング (2)：GUIを用いた操作を処理する際に必要となるイベント処理について説明し、簡単な画像ビューワーを作成する。 【第12回】GUIプログラミング (3)：電卓アプリケーションを作成する。 【第13回、14回】GUIプログラミング (4、5)：GUIプログラミングのまとめとして、GUIベースのユーザー状況公開アプリケーションを作成する。 【第15回】まとめ
準備学習	使用するソフトウェアのインストールなど、時間がかかる作業は事前に準備内容を指示するので、指定された授業回までに終えておくこと。プログラミングは知識の積み上げが必須な分野であるため、毎回の課題を期限までに確実に終えること。
履修上の留意点	授業時間外の作業が多くなるので特に留意すること。 「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済であること。プログラミングについての事前知識は必要としない。実習は各自のノートPCに開発環境を構築して行うため、初回授業までに必ずKOMAnetに接続して利用可能な状態で用意しておき、毎回必ず持参すること。OSはWindowsでもMacでもかまわない。
成績評価の方法	成績評価対象は各回の課題とする。原則としてすべての授業回で出題し、各回の点数配分は同等とする。課題の提出をもって出席とみなし、提出率が大学の基準に達しない場合は不可とする。
教科書／テキスト	教科書は使用せず、資料を毎回配布する。実習ではプログラムのテンプレートを用意することで難易度を不必要に上げる要素を排除するとともに、作業手順を詳しく示し、初学者でも課題を達成できるようにする。
参考書その他	授業内で必要に応じて紹介する。 授業終了後を中心に質問時間を設けるので、不明な点は積極的に質問してほしい。

履修コード	433901
科目名	実践メディアビジネス講座Ⅰ
担当者名	<small>かかみ ようこ やまぐち ひろし</small> 各務 洋子・山口 浩

講義の到達目標(ねらい)

メディアやコンテンツに関する企業に実際に携わる実務家を招き、担当教員と共同で実践講義を提供します。本年度は、前半にアニメ関連、後半には、大手広告代理店で映像、音楽、出版、インターネットなどの様々なメディアをミックスした、最も技術革新の激しい産業郡で実務を担う企業人を招き、担当教員との共同講義により、最先端のコンテンツビジネス、メディアビジネスを紐解く。

講義の内容／
授業スケジュール

前半は、主にコンテンツを生み出す産業に重視する企業の実務家を招く。今年度はアニメ産業に携わる様々なコンテンツメーカーにお話いただく。

後半は、主としてメディア産業に携わる実務家を招く。大手広告代理店で働く実務家を中心に、新聞、雑誌、テレビ、インターネット、ラジオなどの様々なメディアをクロスさせた分野で仕事を担う企業人をお招きする。

4/11、4/18 アニメ産業①②

4/25 (ロサンゼルスで企業したフリーペーパーを発行する起業家)

5/2、5/9、5/16、5/23、5/30 アニメ産業③④⑤⑥⑦

6/6、6/13、6/20、6/27、7/4、7/11 メディア産業(大手広告代理店)でメディアの技術革新に直面している実務家をお招きする。⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭

最終日は、お話を頂いて実務家から学んだことをまとめ、現代のコンテンツ産業、メディア産業の現在と、今後の課題を考察する。

準備学習

第1回目の講義で、全体の内容説明を実施します。

履修上の留意点

お招きいただく実務家の勤務する職場の業界や、企業の情報を事前に調べておくこと。

成績評価の方法

企業の方々をお招きしてお話を伺う貴重な機会を提供する授業です。

遅刻、私語は厳禁です。失礼な態度が明らかな場合、授業の途中でも、退出してもらいます。

教科書／テキスト

各授業で、レポートを書いてもらいます。

レポートの形式は、第1回授業で指示しますので、必ず出席してください。

参 考 書

実務家に関連するコンテンツや、メディア関連の情報は、あらゆるメディアから集めて、事前に読んでおくこと。

授業中に適宜指示します。

履修コード	434001
科目名	実践メディアビジネス講座Ⅱ
担当者名	しらみず しげのこ かなやま ともこ しほさき あつし 白水 繁彦・金山 智子・芝崎 厚士

講義の到達目標(ねらい)

今学期は「メディアと文化」というテーマで授業を展開します。授業には実際に社会で活躍されている著名なかたがたをお招きしてお話をさせていただきます。

われわれの社会は、具体的にはさまざまな顔を持っています。国内だけでも、職場や学校といった労働・しごとの場、地域や国といった自分や家族の居住の場、博物館や遊園地といった教養・娯楽の場などたくさんあります。そしてそれぞれの場が特有の文化を持っています。大きく日本の職場文化といってよい文化があり、そのなかのA社やB社の職場文化(社風など)がある。同様に日本の学校文化があり、C校やD校の学校文化(学風)などがある。また、日本の娯楽文化のなかの下位文化として若者の遊びの文化、高齢者の遊びの文化などがあります。

これらの文化は時間をかけてできあがったものですが、不変のものではありません。必要に応じて刺激を与えたり、リニューアルしていく必要もあります。

お話をしてくださるのは、いずれも、日本や外国で、自分の仕事を通してさまざまな文化に働きかけてこられたかたばかりです。文化を高めたり、文化を変えたりすることにはどのような意義があるのか、ゲストスピーカーの具体的な事例をおして学びます。

講義の内容/
授業スケジュール

この学期の授業は大きく3部構成になります。まず、最初に導入として、3つの部の概略や特徴を担当教員(白水、金山、芝崎)が解説します。

次の週からは第1部となります。主として社会起業家や社会貢献活動で著名なかたに具体的に日常活動(仕事)をととした文化とのかかわりを語っていただきます。

第2部は主として職場やコミュニティの文化に働きかけてこられたかたがたにお話を伺います。国際的に著名な仕事をして来られたかたのお話もあります。

第3部は主として国際関係の場で活動してこられたかたがたのお話をうかがいます。

いずれも、実際の経験や作品、芸などを示しながらの授業となります。

スケジュールは以下の予定です。

- 1回目 ガイダンス・イントロ
- 2回目 CSR企業を予定
- 3回目 社会起業家 NGOかものはし代表 村田早耶香さん
- 4回目 日本の大道芸プロデューサー 橋本隆雄さん
- 5回目 世界的フォト・ジャーナリスト DAY JAPAN 編集長 広河隆一さん
- 6回目 世界的インテリアアーキテクト 李 泰久さん
- 7回目 中国語メディア経営者 段躍中さん
- 8回目 映画プロデューサーと監督
- 9回目 テレビプロデューサー(ドキュメント番組制作)
- 10回目 アジアの平和構築イニシアチブ担当プログラム・オフィサーを予定
- 11回目 南タイ・ピース・メディア・ネットワークプログラム・オフィサーを予定
- 12回目 和食を通じた日本文化・芸術と地域振興を実践する日本料理人を予定
- 13回目 音楽を通じた世界平和・世界貢献を実践するアーティストを予定
- 14回目 まとめ

準備学習

事前学習はさほど多くありませんが、見ておかなければならない番組や作品がある場合があります。その折は前もって担当者からお知らせしますので必ず見ること。

履修上の留意点

このかたがたの駒澤大学に対する印象は大学の社会的評価にも大きく影響します。なにしろ社会のさまざまな側面の文化に働きかけているかたがたですから。したがって、遅刻や欠席をしないこと。もちろん私語はしないこと。質問されたら躊躇することなく発言すること。

成績評価の方法

積極的に授業に参加する諸君に来ていただきたいと思います。授業中か授業後にエッセイを書いてもらいます。それをもとに成績をつけます。

履修コード	436801
科目名	実践メディアビジネス講座Ⅲ
担当者名	いしかわ のりひろ よしだ なおふみ いしばし をおき みなみ まさき 石川 憲洋・吉田 尚史・石橋 直樹・南 政樹

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、メディアとインターネットの新しい時代のビジネスの本質を実践的な成功例と共に習得することを目的とする。特に、メディアを活用したビジネスを支える中核の技術としてメディア技術、システムソフトウェア、インターネット、セキュリティ、データベース、知的財産権などについてビジネスの視点から学び、同時に、グローバルなビジネスの創出・起業の基礎を技術的な視点から学習する。本講義では、ビジネスにおける成功者からのゲスト講演を交えて行う。また、実践的なビジネスについてケーススタディーにより習得する。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマと、半期15回、各回の内容は次のとおりである。順序については変更される場合がある。

●インターネットビジネス1、2&3

サーチエンジン、ソーシャルネットワークなどのインターネット上のビジネスを起業、運営する方々をお招きし、それらの体験について議論する。

●IT・通信系ビジネス1&2

IT・メディアには通信は必要不可欠であり、通信会社・インターネットプロバイダなどの企業の方々に講演頂き、そのビジネスモデル、運営などについて議論する。

●著作権ビジネス1、2&3

社会的に重要な著作権について、それを管理する立場、それを利用してビジネスする立場、様々な方に講演して頂き、多角的な視点から議論する。

●ゲームコンテンツ・ソフトウェアビジネス1&2

ゲームコンテンツや、ソフトウェアを扱うビジネスについて、実際に携わっておられる様々な方に講演して頂き、議論する。

●環境・メディア・金融系ビジネス1、2&3

環境問題を取り上げるメディアや公的組織の方々から講演を頂き、環境問題とビジネスの現状について議論する。また、ネットワーク時代の金融ビジネスの課題を知る。

●IT・メディア系研究とビジネス1&2

IT・メディア系の研究所の方々をお招きし、ビジネスと研究の接点、あるいは企業と大学の接点などについてお話し頂く。

以上、最大15人のゲストスピーカーの講義により、実践的なビジネスについて習得する。

ゲストスピーカーに関する最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修上の留意点

教場の座席に空きがある限り、すなわち履修者の妨げにならない限り、履修者以外の学生の聴講を可能とする場合がある。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

毎回の講義における出席、期末レポートにより評価する。

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定する。

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

履修コード	436901
科目名	実践メディアビジネス講座Ⅳ
担当者名	福家 ^{ふけ} 秀紀 ^{ひでのり} ・西岡 ^{にしおか} 洋子 ^{ようこ}

講義の到達目標(ねらい) ブロードバンドインターネットの普及と携帯電話の高度化に伴って急速に進展している通信放送の融合を踏まえて、電気通信事業者、放送事業者、ISP、およびコンテンツ事業者などがどのような事業展開を図っていかようとしているのかを、各業界の専門家を招聘して講義して頂き、現状と課題について説明することを主眼とします。

講義の内容／
授業スケジュール 以下のような内容を取り上げて、外部企業の幹部の方に講義していただきますが、講師の都合によっては、変更になる場合があります。

1. ガイダンス
2. 固定電気通信事業の現状と課題
- 3～5. 携帯電話事業の現状と課題
6. インターネット事業の現状と課題
7. インターネットと本人確認
8. 法人向け情報通信事業の動向
- 9～10. 放送事業の現状と課題
11. ケーブルテレビの現状と課題
12. 専門放送事業の現状と課題
13. ICTの市場環境とビジネス動向
- 14～15. まとめ

準備学習
履修上の留意点 授業に臨むに当たっては、事前に各業界の現状を把握しておいて下さい。
 毎回、テーマごとに異なる実務家が講義を担当します。半期の講座全体を通して一貫したメッセージを学び取るためには、毎回の出席を重視します。
 なお、授業の最後に、質疑応答の時間を取りますので、積極的に質問を用意して下さい。
 また、講師は一流企業の幹部なので、遅刻をしない、私語は慎むなどの基本的なマナーを遵守して下さい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他 毎回の講義のまとめと最後に全体総括として提出するレポートを総合的に評価します。
 特に指定しません。
 講義の中で、適宜指示します。
 講義内容は講師の都合で、変更される場合があります。

履修コード	443001
科目名	Journalism I
担当者名	<small>まえだ としつぐ</small> 前田 利継

講義の到達目標(ねらい) 講義の内容/ 授業スケジュール	<p>To introduce students to the key issues and methodology of modern journalism. Each lesson students will receive assignments based on current events and media coverage, progressing over the term towards their own reporting content and style.</p> <p>Lesson 01 – Explanation of course Lesson 02 to course conclusion. (See Tentative Schedule Below)</p> <p>TENTATIVE SCHEDULE:</p> <p>Week1 Introduction to Journalism -- Class Overview, Key Terms, Assignments</p> <p>Week2 Focus on Japanese Media -- Newspapers, Magazines, TV, Wire Services, Radio, Internet Look at Japanese Media Audience and Industry Revenues</p> <p>Week3 Focus on Japan-based International Media -- Newspapers, Magazines, TV, Wire Services Impact of Media Industry Economic Downturn on Japan Reporting</p> <p>Week4 Review; Golden Week Holiday</p> <p>Week5 Journalism Techniques -- Interviewing and Reporting for Text, TV and Radio; Photo-Journalism, Blogging; Developing a Style</p> <p>Week6 What Makes News? Journalism Beat Reporting -- General News, Business, Sports/Leisure, Column Writing</p> <p>Week7 Profile Report on Music, Arts or Sports</p> <p>Week8 Technology and Journalism: the Future of Media</p> <p>Week9 Local Reporting Assignment -- Komazawa University, Setagaya Ward, Tokyo News Coverage</p> <p>Week10 Feature on Local Personality</p> <p>Week11 Japanese Politics Update</p> <p>Week12 Reporting on Business and the Economy: Corporate Profile</p> <p>Week13 Multi-media Reporting Introduction</p> <p>Week14 Course Summary: Make Up Classes</p>
準備学習	Self-study of current events and daily review of Japanese and foreign media essential for class participation, which will be key to grading. School will vet students prior to enrollment to ensure level appropriate for class, which taught in English.
履修上の留意点	Students are expected to use English and be prepared to participate. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, and effort using the following formula: $(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Current Grade}$
教科書/テキスト	There are no assigned textbooks for this class, but English-language periodicals and web-based English media should be reviewed daily.
参考書 その他の	Key reading will be posted on Komazawa class Internet page weekly. If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

G
M
S

履修コード	443101
科目名	Journalism II
担当者名	^{まゐだ としつゆ} 前田 利継

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

Expanding on skillsets acquired in Journalism I, practical considerations for careers in journalism. Students will have completed Journalism I, with a steeper learning curve and expectations in Journalism II.

Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic

Lesson 02 - Course Conclusions (See Tentative Schedule Below)

TENTATIVE SCHEDULE:

Week1

Course Outline: Overview of Key Issues of Journalism; Making News

Week2

Holiday; Multi-Media Production -- Text, Video, Audio, Pictures; Citizen Journalism

Week3

Writing Profiles/Interviewing Techniques

Week4

Reporting on Japanese Current Events, Local News

Week5

Holiday; Non-text Story-telling

Week6

International Reporting - U.S.-Japan Ties, Japan-Korea, Japan-China

Week7

Focus on International Trade and Business; Corporate Profile

Week8

Reporting on Sports/Arts & Leisure

Week9

Reporting on Technology -- New Products and Gadgets

Week10

Using Technology to Report

Week11

Video Reporting; Holiday

Week12

Radio Reporting; Interview Techniques

Week13

Make Up Classes

準備学習

As with Journalism I, students will be expected to have read, watched and heard the top news of the day at class start, with participation and interaction key to grading.

履修上の留意点

Students are expected to use the skills acquired in Journalism I, elevating levels and working towards newsroom level competencies. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice and study outside of class is important and field reporting will be part of the semester assignments.

成績評価の方法

Evaluation is based on attendance, ability, and effort using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21} = \text{Current Grade}$$

教科書/テキスト

There are no assigned textbooks for this class, but handouts and reading assignments will be part of weekly workloads.

参考書
その他の

Weekly assignments and reading will also be posted on the Komazawa Internet class page. If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	434811
科目名	社会調査法入門
担当者名	ひろせ つよし 廣瀬 毅士

講義の到達目標(ねらい) 本授業は、社会調査の理論を概観するとともに、仮説の構築や質問紙の設計などの方法の理解に主眼をおく。特に、統計的な処理を目的とする量的な調査を中心に講義をする。

講義の内容／
授業スケジュール 科学的な社会調査の理論と方法について理解することで、自力で適切な調査のデザインが出来るようになることを目標とする。上級学年での研究活動の基礎となるデータ収集・整理の実施技術を身に付ける、「調査リテラシー」の科目である。

1. 社会調査とは何か：概説
2. 社会調査の歴史と目的
3. 社会調査の種類
4. 統計的調査の一般手順
5. 研究と調査課題：仮説の作り方
6. 質問紙の作り方：構成とフロー
7. 質問紙の作り方：質問のワーディング
8. 質問紙の作り方：選択肢の設け方
9. 標本設計：クオータ法、無作為抽出法
10. 標本抽出法
11. 実査の方法
12. 集計と統計的分析の基礎
13. まとめ

準備学習 総合情報センターのページ等を参考にして、学内ネットワーク (KOMAnet) やGMS学部のシステムに習熟しておくこと。履修者は、事前にGMS学部の「授業支援システム」にある資料を入手して授業に臨むこと。また、できれば各自のパソコンを持参するのが望ましい。

履修上の留意点 講義資料の提示・課題の提出などについては、GMS学部の「授業支援システム」を利用するので、「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書 出席、小レポート課題、期末試験等により総合的に評価する。
特に指定しないが、適宜参考文献などの購読を指示する。

- 森岡清志編『ガイドブック社会調査』（日本評論社，2009年）
大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ 第2版』（ミネルヴァ書房，2005年）
安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック 第3版』（有斐閣，1982年）

関連リンク <https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	430801
科目名	情報社会論
担当者名	このい いくお 五野井 郁夫

講義の到達目標(ねらい) 高度情報化が進む現代において、メディア技術の革新はコミュニケーションだけでなく、エンターテイメント、アート、ビジネスなどを通じてわれわれの日常生活や人間関係のありかたを大きく変えつつある。本講義は、メディアと社会との関係を多面的に捉え、歴史的文脈のなかで情報空間の変貌が身体感覚の変容に与える影響等について考察する。

講義の内容／
授業スケジュール 新聞、ラジオ、映画、テレビ、写真、インターネットなどのメディアの歴史を辿りながら、それらを誕生させた時代状況と、その誕生が人間社会にもたらした変化について解説する。

履修上の留意点 講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法
教科書／テキスト ①毎回の講義への参加と答案用紙の出来（出席・平常点も兼ねる） ②定期試験
Stephen Johnstone, The Everyday (Documents of Contemporary Art), MIT Press, 2008.

参 考 書 Paul Hirst, Space and Power: Politics, War and Architecture, Polity, 2005.

- ・吉見俊哉『メディア文化論』（有斐閣、2004年）
・ナオミ・クライン『ブランドなんか、いらない』（大月書店、2010年）

履修コード	434301
科目名	情報保護と社会
担当者名	いしかわ のりひろ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

社会活動の全般的な情報化が進展するのにしたがって、情報の価値が増大している。小説、映画、音楽、コンピュータプログラム、データベース、マルチメディア情報等のように経済的価値がありしかも公開された情報については、著作権法等の知的財産権法による保護に適している。企業秘密やプライバシー情報のように経済的価値がありしかも非公開の情報についてはセキュリティ上の対策が必要になる。また、危険な情報から子供を守るための対策も必要となる。この科目では、日本の知的財産戦略および情報セキュリティ政策との関連を含め、情報保護のニーズとこれに対応する種々の社会的方策について考察する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回 情報化社会における情報の価値とその保護の必要性
 第2回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (1. 知的財産戦略)
 第3回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (2. 著作権制度)
 第4回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (3. 著作権保護技術)
 第5回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (4. 産業財産権の保護と課題)
 第6回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (5. 営業秘密の保護と課題)
 第7回 情報セキュリティに関する政策と技術 (1. 個人情報保護政策)
 第8回 情報セキュリティに関する政策と技術 (2. 情報セキュリティ政策)
 第9回 情報セキュリティに関する政策と技術 (3. 情報セキュリティ・マネジメント)
 第10回 情報セキュリティに関する政策と技術 (4. 暗号技術)
 第11回 情報セキュリティに関する政策と技術 (5. 情報セキュリティ技術の高度化と応用)
 第12回 グローバル環境における情報保護の課題 (1. 国際機関の果たす役割)
 第13回 グローバル環境における情報保護の課題 (2. 有害情報からの児童の保護)
 第14回 グローバル環境における情報保護の課題 (3. 情報保護の新たな展望)
 第15回 まとめ

準備学習
成績評価の方法

- 特になし
 次の2項目を総合して評価する。
 1. 出席回数
 2. 期末試験またはレポート課題の提出
 出席回数が不足すると単位が取得できないので注意すること。
 講義のプレゼンテーション資料を授業支援システムを利用して、公開、配布する。
 授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

教科書／テキスト
参 考 書

履修コード	432001
科目名	情報メディア産業論 I
担当者名	ふけ ひでのり 福家 秀紀

講義の到達目標(ねらい)

インターネットをはじめとした様々なネットワークの特性を理解するとともに、ブロードバンド・インターネットの急速な普及により大きく変化している、日本の情報メディア産業の現状と課題を理解することを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 情報メディア産業とは、(2)～(3) 情報メディア産業を理解するためのキーワード、(4) 電気通信、(5) 携帯電話、(6)～(7) 放送、(8)～(9) インターネット、(10) 新聞、(11) 出版、(12) 広告、(13) 音楽・映像コンテンツ、(14)～(15) まとめ

準備学習

レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。情報メディア産業の変化のスピードは極めて速いので、口頭から新聞、雑誌などの情報メディア関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。

履修上の留意点
成績評価の方法

各授業時間終了時に作成する講義のまとめ、レポート、および定期試験を総合的に評価します。特に指定しません。

教科書／テキスト

参 考 書

- ・村井純[1995]、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4
- ・湯浅正敏他編著[2006]、『メディア産業論』、有斐閣、1,800円、4-641-17311-7
- ・総務省『各年版 情報通信白書』
- ・その他講義の中で適宜紹介します。

そ の 他

レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	432101
科目名	情報メディア産業論Ⅱ
担当者名	福家 ^{みけ} 秀紀 ^{ひでのり}

講義の到達目標(ならい)	インターネットのブロードバンド化・モバイル化に伴う情報メディア産業の新しい展開とそれが生み出した新たなビジネス、情報交流、社会的機能の現状分析、および評価を行うことを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)～(4) 情報メディア環境の変化、(5) 情報メディア産業の構造変化、(6) ピア・ツウ・ピア通信とCGM、(7) ロングテール現象と情報メディア、(8) グーグルと情報メディア産業 (9) iPhone・スマートフォンと情報メディア産業、(10) 電子書籍、(11) IPテレビと視聴形態の変化 (12) 情報メディア産業とプラットフォーム、(13) 情報メディア産業の課題、(14)～(15) まとめ
準備学習	レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。
履修上の留意点	情報メディア産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などの情報メディア関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。なお、情報メディア産業論Ⅰの履修済みを前提として授業を行います。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	各授業時間終了時に作成する講義のまとめ、レポート、および定期試験を総合的に評価します。特に指定しません。 ・Auletta, Ken [2009], 'Googled', Virgin Books, 土方奈美訳 [2010], 『グーグル秘録』、文藝春秋、1,900円、978-4-16-372500-0 ・Anderson, Chris, 'The Long Tail', Hyperion, 篠森ゆりこ訳『ロングテール』、早川書房、1,700円、4-15-208761-7 ・その他、授業中に適宜紹介します。
その他	レジュメを配布する他、政府の各種審議会の報告書や新聞記事なども適宜使用します。

G
M
S

履修コード	407101・407201・407301・407401・407501・407601・407701・407801
科目名	情報リテラシー
担当者名	吉田 尚史・石川 憲洋・石橋 直樹・南 政樹・松原 大悟・明田 守正・廣瀬 毅士

講義の到達目標(ねらい)

情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。
また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。
順序については変更される場合がある。

－ノートパソコンの利用

各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。

－メディアとコンピュータ・ネットワーク

近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。

－ファイルシステムとメディア

メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。

－メディア・データベースの基礎

多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。

－WWWとHTML

WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。

－メディアとセキュリティ

ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用

第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング

第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア

第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎

第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送

第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)

第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)

第8回：メディア・データベースの基礎

第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)

第10回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (1)

第11回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (2)

第12回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (3)

第13回：メディアとセキュリティ (1)

第14回：メディアとセキュリティ (2)

第15回：まとめ

準備学習

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。

各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における出席・課題、期末試験（またはレポート）により評価する。

教科書／テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	407901・408001・408101・408201・408301・408401・408501・408601
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	吉田 尚史・石川 憲洋・石橋 直樹・南 政樹・松原 大悟・明田 守正・廣瀬 毅士

講義の到達目標(ねらい)

情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。

講義の内容／
授業スケジュール

この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (1)
- 第11回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (2)
- 第12回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language) (3)
- 第13回：メディアとセキュリティ (1)
- 第14回：メディアとセキュリティ (2)
- 第15回：まとめ

順序については変更される場合がある。

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

準備学習

総合情報センターにより発行されるKOMAnetのIDおよび各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。

各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における出席・課題、期末試験（またはレポート）により評価する。

教科書／テキスト

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	416701
科目名	世界政治とメディア
担当者名	<small>このい いくお</small> 五野井 郁夫

講義の到達目標(ねらい) 1. 本講義では、世界政治を読み解く基礎体力を養い、自身の日常生活と世界政治を結びつける回路をつくることを目的とする。 2. 具体的には、世界政治の現在と学問としての政治学、国際関係論の基礎を学ぶことを通じて、社会で通用する読む力、理解する力、書く力のトレーニングを行う。
3. これによって、テレビやラジオ、新聞、雑誌、ネット上のニュースはもちろん、文化、芸術まで、広く世界政治とメディアに関連する事象について自分で考え、解釈するための手がかりをつかみ発信することが、本講義のねらいである。

講義の内容／
授業スケジュール

1. ガイダンス：政治とは何か？
世界の捉え方、世界政治とメディア
2. 世界政治のしくみ
世界政治の形成と変容：メディアの変遷と統治形態の変容、グローバル化
安全保障：核抑止、知識人と権力、人間の安全保障 *映像鑑賞
国際組織：国連、国際政治経済、地域統合、多国籍企業、NGO
3. 世界政治の諸相
・人権と民主化、ポピュリズム、エコロジー、宇宙開発
・貧困と飢餓、植民地主義、南北問題 *映像鑑賞
4. 世界政治のなかの日本：外部より講師招聘予定
5. 世界政治への参加：フェス、グローバル・ストリート・パーティ

履修上の留意点

*本講義では、他大学や国際機関よりその分野の専門家による招聘講義も予定している
本講義は双方向的な演習形式をとるため、講義内容の変更もある。積極的な出席と講義への参加を重視する。

成績評価の方法
教科書／テキスト

1. 毎回の講義への参加と答案用紙の出来(出席・平常点も兼ねる)
2. 定期試験
小田川大典、高橋良輔、五野井郁夫 編『国際政治哲学』(ナカニシヤ出版、2011年)
佐藤幸男、前田幸男 編『世界政治を思想する I・II』(国際書院 2009年)

参 考 書

John Baylis and Steve Smith, eds. The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations (4th ed), Oxford University Press.

そ の 他

本講義は後期科目「国際関係とメディア」とあわせて通年で完結する内容である。したがって、「国際関係とメディア」を継続して受講することが望ましい。

G
M
S

履修コード	431201
科目名	知識経営論
担当者名	リンスキー、 M.

講義の到達目標(ねらい)

This course is an introduction to the subject of innovation and knowledge management from both managerial and theoretical points of view. Students will be introduced to practical issues related to the processes of managing and creating knowledge in teams and organizations, as well as to theories and research on innovation and organizational learning. Theoretical frameworks are derived from economics, philosophy, and organizational behaviour.

講義の内容／
授業スケジュール

This course is based on lectures and short reading assignments provided by the teacher.

成績評価の方法
参 考 書

Student evaluation will be based on class attendance, class participation and a final examination. Materials will be provided by the teacher.

履修コード	417301
科目名	知的財産権と経済
担当者名	絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい)

特許や著作権など知的財産権の経済における役割、および知的財産の生産や流通にかかわる企業の行動を理解する上で、経済学の基礎的知識は欠かせない。本講義では主にミクロ経済学の基礎を学び、知的財産権制度への理解を深める。または、現実の経済の動きを理解するために必要となるマクロ経済学の初歩的知識についても学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回「イントロダクション」経済学と知的財産権の関係
 第2回「需要と供給(1)」中学数学の復習、需要・供給分析
 第3回「需要と供給(2)」需要・供給分析の応用
 第4回「需要曲線と消費者行動(1)」需要曲線とは
 第5回「需要曲線と消費者行動(2)」需要曲線と消費者余剰
 第6回「費用の構造と供給行動(1)」供給曲線とは、費用の構造
 第7回「費用の構造と供給行動(2)」平均費用と限界費用
 第8回「費用の構造と供給行動(3)」利潤最大化と供給行動
 第9回「市場取引と資源配分」市場と価格メカニズム、余剰分析
 第10回「市場の失敗」外部効果、公共財
 第11回「独占と競争の理論(1)」独占の理論
 第12回「独占と競争の理論(2)」完全競争と独占的競争
 第13回「経済をマクロからとらえる(1)」マクロ経済学とGDP
 第14回「経済をマクロからとらえる(2)」マクロ経済学における需要と供給
 第15回「授業内容の総復習」

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

数式はほとんど使わないが、中学数学の関数とグラフの知識は必要。
 期末試験
 伊藤元重『入門経済学 第3版』、日本評論社、3000円＋税、ISBN978-4-535-55585-3

G
M
S

履修コード	417401
科目名	知的財産権と統計
担当者名	絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい)

知的財産権をめぐる経済活動の実態を把握し、マーケティング等の実務に生かすためには、その量やデータを記述して分析することが必要となる。そのような分析を行うための重要なツールが、統計学にもとづく分析手法である。本講義では、統計分析の初歩として、主に、平均値の区間推定および仮説検定の方法について学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回「イントロダクション」統計学で何ができるか？
 第2回「標本データの記述(1)」平均の計算、分散と標準偏差の概念
 第3回「標本データの記述(2)」分散と標準偏差の計算
 第4回「確率および確率分布(1)」確率と確率変数
 第5回「確率および確率分布(2)」確率分布の概念
 第6回「主要な確率分布」正規分布
 第7回「標本抽出」中心極限定理の理解
 第8回「推定(1)」大標本にもとづく区間推定
 第9回「推定(2)」小標本にもとづく区間推定
 第10回「仮説の検定(1)」統計的検定の考え方
 第11回「仮説の検定(2)」平均値の検定
 第12回「仮説の検定(3)」2つの平均値の差の検定
 第13回「仮説の検定(4)」小標本にもとづく検定
 第14回「相関と回帰」相関係数と回帰分析
 第15回「授業内容の総復習」

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

高校数学I・Aの知識が必要。
 期末試験
 P.G. ホーエル(浅井晃・村上正康共訳)『初等統計学』、培風館 1750円＋税、ISBN4-563-00839-7

履修コード	436201
科目名	知的財産法／個人情報保護法
担当者名	新保 史生

講義の到達目標(ねらい)

ネットワーク社会の発達により、個人が情報発信の主体となる機会が増えるのと同時に、様々なコンテンツを利用することもできるようになっています。また、利便性の高いサービスの利用のために自分の個人情報を提供しなければならない場面も多くなっています。このように、ネットワーク社会はダイナミックに情報のやりとりが行われる社会であるため、そこで利用される情報の保護が重要な問題となっています。本講義では、ネットワーク社会における知的財産の保護と個人情報保護の問題を通して、情報の適正な取扱と保護に必要な知識について講義します。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 知的財産制度の概要, 2. 著作権法, 3. 特許法, 4. 商標法、意匠法、実用新案法, 5. 不正競争防止法, 6. 個人情報保護制度の概要, 7. 諸外国の個人情報保護制度, 8. 個人情報保護とプライバシー保護の違い, 9. 個人情報保護法(総論), 10. 個人情報保護法(個人情報取扱事業者の義務), 11. 行政機関等個人情報保護法(総論), 12. 行政機関等個人情報保護法(行政機関、独立行政法人等の義務), 13. 地方自治体の個人情報保護条例, 14. 個人情報保護マネジメントシステム(JIS Q 15001), 15. 個人情報保護のための情報セキュリティ対策

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

期末試験の成績によって評価します。
角田政芳、辰巳直彦 『知的財産法』 有斐閣 (2010)
岡村久道 『著作権法』 商事法務 (2010)
講義用資料は、グローバル・メディア・スタディーズ学部の授業支援システムにアップします。各自、アクセスをして確認してください。

G
M
S

履修コード	436001
科目名	著作権の経済分析
担当者名	絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい)

日本政府の「知的財産立国」を目指した政策推進に見られるように、音楽・映画・アニメ等コンテンツは、今後の日本にとって極めて重要な産業である。それら産業のビジネスを支えているのが著作権制度である。本講義では、著作権制度の理論的背景、現状と展望、およびコンテンツ産業との関係について、「法と経済学」の視点から理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回「イントロダクション」知的財産権、著作権の特質など
第2回「著作権法概説(1)」著作物
第3回「著作権法概説(2)」著作権
第4回「著作権法概説(3)」著作隣接権
第5回「著作権の経済学(1)」ミクロ経済学の復習
第6回「著作権の経済学(2)」著作権法の経済学的根拠
第7回「著作権の権利制限」日本の「自由利用」と米国の「フェアユース」
第8回「著作権の保護期間(1)」保護期間延長に関する諸議論
第9回「著作権の保護期間(2)」保護期間延長の経済モデル：延長反対の立場から
第10回「著作権の保護期間(3)」保護期間延長の経済モデル：延長賛成の立場から
第11回「著作権ビジネス(1)」民法入門
第12回「著作権ビジネス(2)」著作権にもとづくビジネスについて
第13回「デジタル社会と著作権(1)」デジタル著作物とその問題点
第14回「デジタル社会と著作権(2)」デジタル著作物の経済分析
第15回「著作物の無償開放」日本の同人誌、クリエイティブ・コモンズ
『知的財産権と経済』の履修、または、同等の経済学の知識を要件とする。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

期末試験
角田政芳、辰巳直彦『知的財産法 第5版(有斐閣アルマ)』、有斐閣、2700円＋税、ISBN4-641-12294-6
適宜指示する。

履修コード	437001
科目名	テクノロジーマネジメント
担当者名	いしばし 直樹 石橋 直樹

講義の到達目標(わらい)

国際的な産業技術の発展史を示すことで、新しい社会の創出を目指すプロジェクト推進の過程を学ぶ。ビジネス、政治など分野にかかわらず、我々の生活/社会は多様な技術を前提として成り立っている。本講義では、社会と技術の接点、具体的には、多様なケーススタディを通じ、問題の設定、問題の解決を含む社会のニーズに基づいた技術開発プロジェクトの推進過程や、技術が社会に与える影響を明らかにする。

講義の内容/
授業スケジュール

本講義のスケジュールは以下のケーススタディを予定している。なお、講義の進捗に応じて、関連するゲストを外部から招聘する予定である。

1. 導入—テクノロジーと国家の隆盛
2. 重工業—高度経済成長と日本の自動車産業
3. コンピュータ産業—IT革命の萌芽期
4. ITビジネス—Webビジネスの今日
5. エンターテインメントビジネス—ソフトウェア産業の動向
6. インフラ事業における技術—エネルギー安全保障
7. エコ産業に見る技術開発—持続可能な社会に向けて
8. まとめ—技術と社会の行く末

成績評価の方法

毎回の講義におけるミニレポート、学期のレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

教科書/テキスト

Webにおいて電子教材を提供する。

参 考 書

講義中において教材を指定する。

G
M
S

履修コード	431511
科目名	デジタルコンテンツビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(わらい)

In the era of digital convergence, with its rapid and chaotic change, how can companies formulate strategy? The objective of this course is to familiarize the students with the concept of digital convergence and the strategies that companies are undertaking to cope with these challenges.

講義の内容/
授業スケジュール

This course will meet during the 1st or 2nd period. In this course, various views of digital convergence will be examined, as well as comparative studies of company strategies. Restructuring of these industries involves strategic implications suggesting that there are winners and losers. Analysis of key factors in this chaotic industrial environment and corporate responses will be studied.

履修上の留意点

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法

Evaluation will be based class participation, quizzes, and the final exam.

教科書/テキスト

David B. Yoffie, Competing in the Age of Digital Convergence, Harvard Business School Press, Boston, MA, 1997

参 考 書

Professor will provide materials from the following:

Digital Convergence and Market Structure

Milton L. Mueller, June 1999

Gerard, Damien & Luff, David (editors) (2004) - The WTO and Global Convergence in Telecommunications and Audio-Visual Services Cambridge U. Press

Gershon, R. A. and Kanayama, T. (2002) The SONY Corporation: A Case Study in Transnational Media Management, International Journal of Media Management 4(2).

By Stephen Baker and Heather Green With Bruce Einhorn in Hong Kong, Moon Ihlwan in Seoul, Andy Reinhardt in Paris, Jay Greene in Seattle, and Cliff Edwards in San Mateo, Calif., Big Bang, Business Week OnLine, June 21, 2004

Andy Covell, Digital Convergence Phase II, Campaign, Illinois, Stipes Publishing, L.L.C., 2004

The ANNALS of the American Academy of Political and Social Science, Vol.597, No. 1, 32-47 (2005)

Pablo J. Boczkowski, Multiple Media, Convergent Processes, and Divergent Products:

Organizational Innovation in Digital Media Production at a European Firm

履修コード	442901
科目名	TOEIC(R) prep
担当者名	杉森 建太郎

講義の到達目標(ねらい)

この授業は、TOEICのスコアを伸ばすことを希望している履修者を対象としており、以下の3点を主な目標としています。

- 1、TOEICテストの2セクション(リスニング及びリーディング)の出題形式を知ること。
- 2、TOEICの様々な問題に慣れていくこと。
- 3、語彙を増やすこと。

講義の内容/
授業スケジュール

授業回数 内容

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 | 導入、TOEIC TESTの解説、勉強方法 |
| 2-5 | Part 1 (写真描写問題)の解き方 |
| 6-9 | Part 2 (応答問題)の解き方 |
| 10-13 | Part 3 (会話問題)の解き方 |
| 14-17 | Part 4 (説明文問題)の解き方 |
| 18-21 | Part 5 (短文穴埋め問題)の解き方 |
| 22-23 | Part 6 (長文穴埋め問題)の解き方 |
| 24-27 | Part 7 (読解問題)の解き方 |
| 28-30 | レビュー・エキストラポイント課題のチェック |
- *ただし上記は予定であり、履修者の理解度、希望等により臨機応変に対応します。

GMS

履修上の留意点

(1) 履修者のレベル制限

以下のa. ~ d. のいずれかに該当する方が履修できます。

- a. TOEIC試験(IP試験を含む)において450点以上取得済みの方。
- b. 本学実施のTOEFL試験(ペーパーベース)において、400点以上取得済みの方。
- c. TOEFL試験(iBT)において、45点以上取得済みの方。
- d. 英語検定準2級以上(1級、準1級、2級、準2級)取得済みの方。

(2) 座席について

私が皆さんの名前を覚えるために、座席は指定制とさせていただきます。

(3) この授業は、真剣にTOEICスコアを伸ばしたいと考えていて、そのための努力を厭わない方向けです。授業への真剣な取り組みは勿論のこと、自分で主体的に勉強を進めていくモチベーションの高さが求められます。

成績評価の方法

(1) 成績評価

しばしば行う小テストを中心に評価しますが、授業への取り組みも考慮します。

なお、すでにTOEICテスト(IPテストを含む)を受験している履修者は、もし学期中に自身でTOEIC試験を受験して大幅なスコアアップを達成したならば、その証明書を提出することにより(スコアシートコピー)、それを成績に反映させることができます。

(2) 欠席について

授業の最初に出欠をとります。5回以上の欠席で、単位は認められなくなります(特定感染症への感染、入院等、やむを得ない事情であったと私が判断する場合は(要証明書)、例外とします。しかしその場合は、欠席日数に応じ、埋め合わせのための課題を授業復帰後に課します)。なお3・4年生の就職活動については、特に公欠とするような措置はとりませんので、注意してください。

(3) 遅刻について

もし授業に遅刻してきたら、教員の話のきりのいいところで、すみやかに教員に遅刻を申し出てください。授業開始10分以内なら「遅刻」扱いとなります。教員が気付かないままだと、そのまま「欠席」扱いになってしまいますので注意してください。2回の遅刻で1回の欠席としてカウントします。

教科書/テキスト

●新TOEICテストが簡単になる本 リーディング編 (2,310円) キム・ジョン著
アルク ISBN-13: 978-4757411821

●新TOEICテストが簡単になる本 リスニング編 (2,940円) キム・スヒョン著
アルク ISBN-13: 978-4757411814

その他の他

授業で扱う教材とは別に、自分自身でTOEIC参考書(ポキャブラリー本、問題集、等)を1冊個人個人で購入し、進めていってもらいます。その進歩の状況もエキストラポイントとして加味します。

履修コード	442801
科目名	TOEFL(R) prep
担当者名	すきもり けんたろう 杉森 建太郎

講義の到達目標(ねらい)

この授業は、英語圏の大学に長期留学を行うために必要なTOEFL iBT (internet-based Test)の受験を希望している履修者を対象としており、以下の3点を主な目標としています。

- 1、TOEFL iBTテストの4セクション（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の出題形式を知ること。
- 2、リスニング及びスピーキングセクションに的を絞り、様々な問題に慣れていくこと（*注1）。
- 3、語彙を増やすこと（*注2）。

*注1：

TOEFL iBTでは、リスニングは「リスニングセクション」においてのみならず、「スピーキングセクション」や「ライティングセクション」の多くの問題においても必要となっている、重要なスキルです。また「スピーキングセクション」は、日本人受験者が特に苦手としているセクションであると言われています（2005-2006年集計では、日本人受験者の「スピーキングセクション」の平均スコアは、世界147カ国中最下位）。

*注2：

TOEFLでは、高い語彙力を必要とします。例えば、日本の大学生の平均語彙サイズが3700語程度であるのに対し、TOEFLでは12,000語程度の語彙力が必要という説もあります（内宮慶一著「TOEFL テスト一発で合格スコアをとる勉強法」（中経出版）より）。このことは、私（杉森）がかつて留学に備えてTOEFLを受験していた時の経験からも、納得できます。ある程度の語彙力がないと、歯が立たない試験であるというのが正直な感想です。

講義の内容／
授業スケジュール

授業回数

内容

- | | |
|-------|---|
| 1 | 導入、TOEFL iBTの解説、勉強方法 |
| 2 | リーディングセクションの問題形式 |
| 3 | ライティングセクションの問題形式 |
| 4 | リスニングセクションの問題形式 |
| 5-8 | リスニングセクションのPart A（短い会話）問題練習 |
| 9-12 | リスニングセクションのPart B（長い会話）問題練習 |
| 13-16 | リスニングセクションのPart C（講義・アナウンスメント）問題練習 |
| 17 | スピーキングセクションの問題形式 |
| 18-20 | スピーキングセクションのタイプI（自分の経験から答える問題）練習 |
| 21-23 | スピーキングセクションのタイプII（パッセージを読んで、会話かレクチャーを聞いた後、質問に答える問題）練習 |
| 24-26 | スピーキングセクションのタイプIII（長い会話やレクチャーを聞いた後、質問に答える問題）練習 |
| 27-30 | レビュー及び学期末試験 |

履修上の留意点

*ただし上記は予定であり、履修者の理解度、希望等により臨機応変に対応します。

(1) 履修者のレベル制限

以下のa. ~ d.のいずれかに該当する方が履修できます。

- a. TOEFL 試験 (iBT)で、45点以上取得済みの方。
- b. GMS実施のTOEFL 試験（ペーパーベース）で、450点以上取得済みの方。
- c. TOEIC 試験（IP試験を含む）で、500点以上取得済みの方。
- d. 英検2級以上（1級、準1級、2級）を取得済みの方。

(2) 座席について

私が皆さんの名前を覚えるために、座席は指定制とさせていただきます。

(3) この授業は、真剣に英語圏への長期留学を考えている方向きの授業です。TOEFL iBT試験は難解な試験で、かなりの語彙力を要求されます。そのため、元々英語がある程度得意であり、かつ英語力を伸ばすためには努力を厭わない方でないこと、受験勉強を行っていくモチベーションを維持していくことは難しいでしょう。授業への真剣な取り組みは勿論のこと、自分で主体的に勉強を進めていく志の高さが求められます。

(4) PC使用

TOEFL iBT試験はパソコンを使用する試験であるため、最初の方の数回の授業は、問題に慣れるためCD-ROMが使用可能なラップトップを持参していただきます。

成績評価の方法

(1) 成績評価

出席、授業への取り組み（小テストも含む）、期末テストなどを総合的に評価します。

(2) 欠席について

授業の最初に出欠をとります。5回以上の欠席で、単位は認められなくなります（特定感染症への感染、入院等、やむを得ない事情であったと私が判断する場合は（要証明書）、例外とします。しかしその場合は、欠席日数に応じ、埋め合わせのための課題を授業復帰後に課します）。なお3、4年生の就職活動について、特に公欠の措置は取りませんのでご注意ください。

(3) 遅刻について

もし授業に遅刻してきたら、教員の話のさりのいいところで、すみやかに教員に遅刻を申し出てください。授業開始10分以内なら「遅刻」扱いとなります。教員が気付かないままだと、そのまま「欠席」扱いになってしまいますの注意してください。2回の遅刻で1回の欠席としてカウントします。Longman Introductory Course for the TOEFL (R) Test: iBT (Student Book with CD-ROM and Answer Key)

教科書/テキスト

Deborah Phillips (著) 5,684円

ISBN-13: 978-0137135783

その他の

初回の授業には、テキスト（CD-ROM含む）とCD-ROMが使用可能なラップトップを持参してきてください（お持ちのラップトップがCD-ROM使用可能でなければ、後付けするか、CD-ROMがついたPCを借りてきてください。）。

実際にPCを操作してみて、TOEFLの問題形式について慣れていきます。

履修コード	435701
科目名	統合リスクマネジメント論
担当者名	山口 浩 <small>やまぐち ひろし</small>

講義の到達目標(ねらい)

この科目は、企業が直面するリスクとそれへの対処の手法について学ぶことを目的とします。リスクマネジメントにはさまざまなアプローチがあり、この科目ではそれらを広く浅く概観していきます。

講義の内容/
授業スケジュール
準備学習

企業とリスク、リスクマネジメントの基礎、リスクマネジメントのさまざまな手法、VaR、失敗学、モンテカルロシミュレーション、リアルオプション、リスクコミュニケーション、他
履修の前提として、「ファイナンスと経営学Ⅰ」、及び「ファイナンスと経営学Ⅱ」を履修し単位を取得していることを原則とします。

履修上の留意点

中学校までの数学に不安がある人は復習をしておいてください。

その他必要があれば具体的に指示します。

授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、得点として成績にも反映します。逆に、授業を意図的に妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。

この科目では数学的な考え方や計算が重要な要素となります。それらがどうしても不得意な方は履修をお勧めしません。

電卓ないしその他計算（最低限、平方根の計算ができるレベルのもの）のできる機器を持参してください。PCの持参を指示することもあります。

出席その他で携帯電話の機能を使うことがあります。必ず使える状態で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。

成績評価の方法

配点は次の通り。

小テスト（複数回合計、回数、時期は未定）100%、授業への参加最大20%（ただし合計で100%）

教科書/テキスト

仁木一彦著「図解 ひとめでわかるリスクマネジメント」（日本経済新聞社、2009年）

ISBN:978-4492092811

参考書

必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

履修コード	436511
科目名	ドキュメンタリー制作演習
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)	ドキュメンタリー映画制作の演習です。多くの学生にとって、ビデオ・カメラはすでに身近なものだと思いますが、初めての人も歓迎します。学生各自の生活圏において、身近なテーマと撮影対象を見つけ、映像作品を制作します。
講義の内容／ 授業スケジュール	カメラを持つこと、撮影対象に関わることによって、「私」がいかに他者、そして社会との接点を見つけていくのか？「私」そして「他者」を記録し映像作品をつくるとはどういうことなのかを各自考察し、社会的実践としての私的映像制作を目指します。 初歩的な映像の文法を学んだあと、学生は各自のプロジェクトを考案し、3-10分程度のドキュメンタリー作品を制作します。 授業は経過報告と教員からアドバイスを受けるための時間で、主な制作作業は授業時間外に各自学生が行うことになります。
準備学習 履修上の留意点 成績評価の方法	前期の「ドキュメンタリーの視線と実践」を必ず履修してください。 履修人数に制限がありますので、希望者は担当教員テヅカヨシハルまで連絡をお願いします。 制作への取り組みと、作品によって総合的に評価します。

履修コード	436411
科目名	ドキュメンタリーの視線と実践
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)	映像発展の歴史を振り返り、ドキュメンタリー映画におけるCinema Verite(映画的真実)とは何かを検証します。フランスとアメリカの異なる文脈で発展してきたドキュメンタリー映画の客観性と主観性に関する議論、見るものと見られるもの間に成立する力学関係、カメラを他者に向けたことの倫理的問題、撮影するものの自己再帰性等について考察し、ディスカッションを行います。
講義の内容／ 授業スケジュール	ドキュメンタリー映画における「真実」とは何か？ ドキュメンタリーとフィクションの違いとは？ ドキュメンタリーに客観性はどの程度必要か？ さまざまなドキュメンタリー映画を鑑賞して、ディスカッションを行います。
履修上の留意点	上映作品例： Don't Look Back-ボブ・ディラン(1967) ベネバーガー カート&コートニー：カート・コバーン (1998) ブルームフィールド ゆきゆきて神軍 (1985) 原一男 新しい神様 (1999) 土屋豊 第一週 コース紹介 第二週 映像のモード：リアリスティックとファンタスティック 第三週 ストーリーとは？ 第四週 映像の語り口 第五週 ドキュメンタリーの原点と最前線 第六週 開示するドキュメンタリー 第七週 観察するドキュメンタリー 第八週 リーディング・ウィーク 第九週 相互作用するドキュメンタリー 第一〇週 反省するドキュメンタリー 第十一週 演技するドキュメンタリー 第十二週 ドキュメンタリーは嘘をつく 第十三週 日本のドキュメンタリー1 第十四回 日本のドキュメンタリー2 第十五回 まとめ この講座は、後期の「ドキュメンタリー制作演習」のための準備講座ですので、継続しての履修を推奨します。
成績評価の方法 教科書／テキスト	単独での履修も可能です。 授業への貢献度とレポートにより総合的に評価します。 フィルムスタディーズ入門 映画を学ぶ楽しみ：ウォーレン・バックランド／著 前田茂／訳 要真理子／訳 晃洋書房

履修コード	432501
科目名	都市とメディア
担当者名	五野井 郁夫

講義の到達目標(ねらい) 現代の都市は、さまざまなメディアに媒介された関係の空間であると同時に、メディアを通じて生産・流通・消費される様々なイメージや表象を構成要素とする空間でもある。本講義は、アニメ、マンガ、文学、ガイドブック、映画、テレビドラマに登場する多様な都市像を具体的に検討しながら、「生きた都市」、「書かれた都市」、「演じられた都市」といった諸テーマについて思考を深めることを目指す。

講義の内容／授業スケジュール さまざまな事例を手がかりに、都市とメディアの関係を欲望、資本、国家、権力、ジェンダーなどの視点から読み解いていく。

履修上の留意点 講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。本講義は双方向的な演習形式をとるため、講義内容の変更もある。

成績評価の方法 1. 毎回の講義への参加と答案用紙の出来(出席・平常点も兼ねる)
2. 定期試験(受講者数による)

教科書／テキスト Ernesto Laclau, On Populist Reason, Verso, 2005
Claire Bishop, Participation (Documents of Contemporary Art), MIT Press, 2006.

参 考 書
・ W. ベンヤミン『バサージュ論』(岩波書店、2003年)
・ M. デイヴィス『スラムの惑星—都市貧困のグローバル化—』(明石書店、2010年)
・ R. コールハース『錯乱のニューヨーク』(ちくま学芸文庫、1999年)
・ 一柳廣孝・久米依子 編著『ライトノベル研究序説』(青弓社、2009)

G
M
S

履修コード	436101
科目名	特許権の経済分析
担当者名	絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい) インターネットビジネスの発展により、コンテンツの制作および流通におけるコンピューターや情報通信技術(ICT)の役割は非常に大きくなった。それら技術や知識を財産として取引可能にするのが特許権である。本講義では、特許制度の理論的背景、ソフトウェアやビジネス・メソッド特許などの特質、特許のライセンス、そして、オープン・ソースなど特許に依存しない技術開発の動向などについて、「法と経済学」の視点から理解する。

講義の内容／授業スケジュール 第1回「イントロダクション」特許の理解がビジネスにおいて重要な理由
第2回「特許法概説」(1) 特許法とは?
第3回「特許法概説」(2) 特許権の取得手続
第4回「特許法概説」(3) 特許権の効力
第5回「ソフトウェア・ビジネスモデル」(1) ソフトウェア・ビジネスモデル特許とは?
第6回「ソフトウェア・ビジネスモデル」(2) ケーススタディ
第7回「日本の特許制度の変遷」日本の特許制度の歴史について
第8回「特許の経済学」(1) イノベーションの経済学
第9回「特許の経済学」(2) 特許制度と賞金制度との比較
第10回「特許の経済学」(3) 最適な賞金制度の設計
第11回「特許の経済学」(4) 最適な特許制度の設計
第12回「特許ライセンス」特許ライセンスの経済モデル、特許流通の現状・課題
第13回「オープンイノベーション」(1) オープンイノベーションの概念
第14回「オープンイノベーション」(2) 企業の技術公開戦略
第15回「オープンイノベーション」(3) オープンソース
『知的財産権と経済』の履修、または、同等の経済学の知識を要件とする。

履修上の留意点 期末試験
成績評価の方法 角田政芳、辰巳直彦『知的財産法 第5版(有斐閣アルマ)』、有斐閣、2700円+税、ISBN4-641-12294-6
教科書／テキスト 適宜指示する。
参 考 書

履修コード	435801
科目名	ネットワーク経済論
担当者名	福家 ^{ふけ} 秀紀 ^{ひでのり}

講義の到達目標(ねらい)

情報通信を含むネットワーク産業は、公益事業として政府によって規制されてきたが、1980以降規制緩和・自由化の中で、新しい発展を遂げてきている。この講義では、ネットワークを理解するための基礎的な概念を取り上げて解説し、こうした発展の要因を理解することを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

わが国の情報通信産業の発展動向に即して、具体的に解説し、身近な変化を解明するツールとしての理論の重要性を示します。具体的なスケジュールは次の通りとします。

(1) ネットワークとは、(2) ネットワークの特性、(3) ネットワークの外部性とデファクトスタンダード、(4) 民営化と競争導入、(5) 料金規制、(6) 相互接続規制、(7) 「希少資源」電波周波数の割り当て、(8) ユニバーサル・サービスとデジタルディバイド、(9) 垂直統合とレイヤー別分離 (10) コンテンツビジネスとプラットフォーム、(11) インターネットとコモンズの悲劇、(12) ～ (13) デジタル化とフリー経済、(14) ～ (15) まとめ

準備学習

レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。ネットワーク産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などのネットワーク関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。なお、情報メディア産業論Ⅰ、Ⅱの履修済みを前提として授業を行います。

履修上の留意点

各授業時間終了時に作成する講義のまとめ、レポート、および定期試験を総合的に評価します。

成績評価の方法

特に指定しません。

教科書／テキスト

・福家秀紀、『ブロードバンド時代の情報通信政策』、NTT出版、3,600円、978-4-7571-0203-3
・Anderson, Chris [2009], 'Freee', Hyperion, 小林則明監修[2009]、『フリー』、NHK出版、1,800円、978-4-14-081404-8

参考書

・その他講義の中で適宜紹介します。

その他

レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	432201
科目名	ネットワークコミュニケーション論
担当者名	菅谷 ^{すがや} ^{みのる} 実

講義の到達目標(ねらい)

社会のコミュニケーション活動を支える情報ネットワークの基礎的知識の修得とネットワークの進化が社会のコミュニケーション活動にどのような影響を及ぼしてきたかを明らかにすることを目的としている。具体的には、人的組織、物理的ネットワーク、情報ネットワークの歴史、仕組み、機能、運営等を明らかにする。

前半は、「ネットワークとコミュニケーション」というテーマで、社会的コミュニケーション活動とネットワークの関係を明らかにする。具体的には、組織とネットワーク、組織コミュニケーション、ネットワーク産業の特質などを論じる。

後半は、「情報ネットワーク発展の歴史」を、各ネットワーク産業ごとに明らかにする。具体的には、郵便、交通、通信、放送、インターネットなどのネットワークの発展過程を論じる。まとめの部分においては、今後、ますます進化が期待されている「ネットワークの融合と社会的コミュニケーション」を取り上げる。具体的には、融合化したネットワーク環境のなかで社会的コミュニケーション活動がどのような影響を受け、変容していくかを展望する。

講義の内容/
授業スケジュール

第1部 ネットワークとコミュニケーション

1. ネットワークと経営
 - 企業経営とは
 - 企業活動にとっての情報基盤の重要性
 - クローズネットワークとオープンネットワーク
2. 企業組織とネットワーク
 - 企業組織
 - 組織コミュニケーション
3. ネットワーク産業の特質
 - ネットワーク産業の構造
 - ネットワーク産業の変容

第2部 情報ネットワーク発展の歴史

4. 郵便制度
 - 物流と情報流を支える流通ネットワーク
 - 郵便サービス
 - 郵便局
 - 民営化
 - 情報ネットワークとしての郵便ネットワーク
5. 交通ネットワーク
 - 貨物輸送
 - 国内旅客輸送
 - 国際輸送
6. 放送ネットワーク
 - 放送ネットワーク種別
 - 放送規制
 - テレビ放送ネットワークの発展
7. 通信ネットワーク
 - 通信事業者の種別
 - 通信ネットワークの構造
 - 制度の変容
8. インターネット
 - 発展の歴史
 - ブロードバンドネットワーク
 - ネットワーク機能

第3部 ネットワークの融合

9. ネットワークの融合
10. ネットワークの高度化と経営環境の変化
 - 講義には毎回出席してください
 - 平常点(20%)と期末テスト(80%)を基準とする
 - 特に指定しない。
 - 初回講義時に紹介する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

G
M
S

履修コード	437201
科目名	ネットワーク進化論
担当者名	みなみ まさき 南 政樹

GMS

講義の到達目標(ねらい)

インターネットは、地球上のあらゆる場所を瞬時に繋ぐデジタル情報の流通基盤として発展してきた。メールをはじめ、Web、インスタントメッセージ、twitterなど、様々なコミュニケーションがインターネットによって実現できている。その一方で、私たちがその存在を意識することはほとんどない。

本講義では、インターネットに対する「なぜ私たちが存在を意識することが少ないのか?」「たった一つの基盤なのにテレビや電話と違って複数のサービスを並行して利用できるのか?」といった素朴な疑問を各回のテーマとして、今日に至る歴史や経緯を振り返りつつ、インターネットを構成している技術・運用方法などを深く理解することを目的とする。

また、学んだことを自身の言葉・考え・表現手法を駆使して、理解していない人に理解させることが自身の理解を深める手法であると位置づけている。そこで課題として「中学・高校生向けインターネットの仕組みを理解する教材」の作成を実施する。

課題に先立って、各単元ではインターネットを構成する技術・運用方法などを取り上げる。抽象的な概念だけではなく、WindowsやMacOSで利用可能なツールを利用した実験・解析・考察なども積極的に取り組み、課題の素材となることを目指す。

講義の内容/
授業スケジュール

- 1) デジタルとアナログの違い ～デジタルコミュニケーションとは?～
- 2) 通信モデル、階層モデル、プロトコル ～コンピュータネットワークとは何か?～
- 3) TCP/IP 概論 ～インターネットとはどのようなシステムなのか?～ ※
- 4) DNS (ドメイン名システム) (1) ～URLからコミュニケーションが始まるまで～
- 5) DNS (ドメイン名システム) (2) ～分散データベースの構造～
- 6) TCP/IP アプリケーション層、サーバ・クライアントモデル ～なぜブラウザでホームページが表示できるのか?～
- 7) TCP/IP ネットワーク層 ～なぜコンピュータ同士で通信できるのか?～
- 8) TCP/IP トランスポート層 ～なぜコンピュータ上のアプリケーションへ正確にデータが届くのか?～ ※
- 9) 自律分散協調モデル、経路制御 ～インターネット全体が安定して動作できるのは?～
- 10) TCP/IP 通信を観察する ～パケット解析ツール Wireshark を使った通信の観察と解析～
- 11) TCP/IP 物理層・データリンク層 ～なぜ電線や光ファイバー、電波を組み合わせて通信できるのか?～
- 12) インターネットアプリケーション ～DNSを利用したアプリケーション:電子メールの仕組み～
- 13) インターネットアプリケーション ～P2P技術:Skype、ファイル共有ソフトの仕組み～
- 14) インターネットアプリケーション ～Webアプリケーション:twitter、facebook、mixiが大人気に耐えられる訳～
- 15) インターネットの未来 ※

注) ※が付いた回には課題を課す

履修上の留意点

PCを使った実習を行う。また随時課題を出題する。これらは連続した学習を進める上で各自のノートPCで行うことが望ましいと考える。

成績評価の方法

随時出題される課題レポートと小テスト、そして最終課題による総合的な評価によって判定する。定期試験は行わない。そのかわり予告なく抜き打ちの小テストを行うことがある。

教科書/テキスト
参 考 書

指定しない。
各回の講義に合わせて参考となる図書や情報源を公表する。

履修コード	432401
科目名	比較メディア制度論
担当者名	<small>にしおか ようこ</small> 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

放送の世界的な競争の歴史および、日本、米国、EU主要国、アジア主要国の放送制度とその変化の方向性について、特徴および制度形成の背景を学ぶ。これにより、各国の制度が互いに独自性を保ちながらも影響し合いグローバルなレベルで進化していくことを理解する。なお、ここで言う制度には、市場の状況および法制度を含む。

各国の間の差を知ることで、単純な海外の模倣が無意味であること、海外の情報の収集の仕方などについても学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 本講義のアプローチ
- (2) 放送の歴史と国際競争
- (3) 日本の放送制度(1)
- (4) 日本の放送制度(2)
- (5) 米国の放送制度(1)
- (6) 米国の放送制度(2)
- (7) EUの放送制度
- (8) 英国の放送制度(1)
- (9) 英国の放送制度(2)
- (10) フランスの放送制度
- (11) ドイツの放送制度
- (12) 韓国の放送制度
- (13) 中国の放送制度
- (14) 世界の放送制度
- (15) まとめ

準備学習

「メディア制度論」または、同様の科目の履修によって日本の放送制度について整理しておくことが望ましい。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

メディア制度論または同様の講義を受講していることが望ましい。
テスト、レポート、平常点などで総合的に判断する。
講義中に指示する。
講義中に指示する。

O履修コード	434911
科目名	表象メディア論
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)

カルチュラル・スタディーズの入門講座です。メディア文化の現在を理解し、使いこなすための基本的な理論を紹介します。

この講座では、メディアによっていかにある事象の「意味」が構築され社会的に承認されるのかを、ソシュールの「差異」の理論、ロラン・バルトの「記号論」、アルチュセールの「イデオロギー論」、グラムシの「ヘゲモニー論」、フーコーの「力・知識・言説論」により説明します。

「文化」とは何か、我々の「文化」は我々といったいどういう関係にあるのか？メディア文化産業が生産する表象 (representation) を分析し、より多様で豊かな文化状況を創り出すために必要な批判的態度を身につけます。

「文化」とは何か？「我々」と我々の「文化」の関係は？言葉の「意味」はいかにして伝わるのか？「意味」はいかにして共有されるのか？「文化」は誰が創り出すのか？「我々」は何によって出来ているのか？

メディア&カルチュラル・スタディーズ(メディア文化研究)の基本的な文献を紹介し、テキスト分析の方法を紹介します。

- 第1週 コース紹介
- 第2週 表象 (representation) とは？
- 第3週 英国のカルチュラル・スタディーズとその歴史的背景
- 第4週 言語論的・文化論的回転と文化研究
- 第5週 文化の回路
- 第6週 表象とアイデンティティ
- 第7週 リーディング・ウィーク
- 第8週 表象と文化生産
- 第9週 表象と文化の消費、そして統制
- 第10週 構造主義と意味論 (ソシュール/バルト)
- 第11週 イデオロギー理論 (アルチュセール)
- 第12週 ヘゲモニー理論 (グラムシ)
- 第13週 コード化・脱コード化理論 (ホール)
- 第14週 知識・権力・言説 (フーコー)
- 第15週 まとめ

履修上の留意点

現代思想や、文化・社会理論に興味があり、社会科学の基礎をある程度すでに学んでいることが望ましい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

授業貢献度、毎週の小課題、中間および期末のレポートによって総合的に評価する。教科書として指定はしませんが、この講義は、Stuart Hall (ed) (1997) Representation: Cultural Representation and Signifying Practices, London: Sage Publicationsを下敷きにしています。

参 考 書

グレアム・ターナー著、金智子他訳、『カルチュラル・スタディーズ入門ー理論と英国での発展』(1999) 作品社

G
M
S

履修コード	431811
科目名	ファイナンスと経営学Ⅰ
担当者名	山口 浩

講義の到達目標(ねらい)	この科目は、後期の「ファイナンスと経営学Ⅱ」と合わせて、企業をめぐるお金の流れやそのしくみ、及び、企業や事業、株式などをどのように評価するのかについての基礎を理解することを目的とします。題材として、コンテンツ企業、メディア企業の事例を積極的に用います。
講義の内容／ 授業スケジュール 準備学習	ファイナンスの基礎、企業のなりたちと資金調達、現在価値、株式と債券、他 原則として、後期の「ファイナンスと経営学Ⅱ」とセットで受講してください。 履修の前提として、「グローバル経営論Ⅰ」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることが必要です。 中学校までの数学に不安がある人は復習しておいてください。 その他必要があれば具体的に指示します。
履修上の留意点	授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、得点として成績にも反映します。逆に、授業を意図的に妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。 この科目では数学的な考え方や計算が重要な要素となります。それらがどうしても不得意な方は履修をお勧めしません。 電卓ないしその他計算（最低限、平方根の計算ができるレベルのもの）のできる機器を持参してください。 出席その他で携帯電話の機能を使うことがあります。必ず使える状態で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。
成績評価の方法	進み具合により、内容を後期の「ファイナンスと経営学Ⅱ」との間でやりくりすることがあります。配点は次の通り。
教科書／テキスト	小テスト（複数回合計、回数、時期は未定）100%、授業への参加最大20%（ただし合計で100%） 井出章介・高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門（第4版）」（日本経済新聞社、2009年） ISBN: 978-4532133689
参 考 書	必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

履修コード	431911
科目名	ファイナンスと経営学Ⅱ
担当者名	山口 浩

講義の到達目標(ねらい)	この科目は、前期の「ファイナンスと経営学Ⅰ」と合わせて、企業をめぐるお金の流れやそのしくみ、及び、企業や事業、株式などをどのように評価するのかについての基礎を理解することを目的とします。題材として、コンテンツ企業、メディア企業の事例を積極的に用います。
講義の内容／ 授業スケジュール 準備学習	ポートフォリオ理論、資本政策、ファンド、他 原則として、「ファイナンスと経営学Ⅱ」とセットで受講してください。 履修の前提として、「グローバル経営論Ⅰ」を履修し単位を取得していること、及び、「コンテンツビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していることが必要です。 中学校までの数学に不安がある人は復習しておいてください。 その他必要があれば具体的に指示します。
履修上の留意点	授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、得点として成績にも反映します。逆に、授業を意図的に妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。 この科目では数学的な考え方や計算が重要な要素となります。それらがどうしても不得意な方は履修をお勧めしません。 電卓ないしその他計算（最低限、平方根の計算ができるレベルのもの）のできる機器を持参してください。 出席その他で携帯電話の機能を使うことがあります。必ず使える状態で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。
成績評価の方法	進み具合により、内容を前期の「ファイナンスと経営学Ⅰ」との間でやりくりすることがあります。配点は次の通り。
教科書／テキスト	小テスト（複数回合計、回数、時期は未定）100%、授業への参加最大20%（ただし合計で100%） 井出章介・高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門（第4版）」（日本経済新聞社、2009年） ISBN: 978-4532133689
参 考 書	必要に応じ指示、または適宜資料を配布します。

履修コード	434501
科目名	複合ドキュメント概論
担当者名	よしだ なおみ 吉田 尚史

講義の到達目標(ねらい)

多種多様なメディアをコンピュータ上で実際に実現可能な状況となり、今後、それらを組み合わせた複合ドキュメントを制作・編集・検索することが重要な技術となる。この講義では、それらを制作・編集・検索を行う要素技術として、XMLを作成および編集を行う方法論、XML対象とした検索の方法論、全文検索技術、ベクトル空間モデルなどについて実習を伴って学習する。また、複合ドキュメントを対象とした分析および可視化を行うためのデータマイニングの技術についても学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

第1週～第4週: 複合ドキュメントに関する基礎的な技術

第1回: 複合ドキュメントの導入, SIML: Synchronized Multimedia Integration Language
第2回: 複合ドキュメントの分類, XML: eXtensible Markup Language
第3回: SGML(Standard Generalized Markup Language)とXML
第4回: デジタル放送における複合ドキュメント, 集合論, 線形代数
(第4回が終了する時期に、第1回レポートを課す。)

第5週～第8週: 複合ドキュメントを対象とした検索技術・ベクトル空間モデルの技術

第5回: 全文検索
第6回: マルチメディアデータの検索
第7回: メタデータ, MPEG-7
第8回: Question Answering, メタ検索エンジン
(第8回が終了する時期に、第2回レポートを課す。)

第9週～第13週: 複合ドキュメントを対象とした分析および可視化によるデータマイニング技術

第9回: データマイニングの基礎, 相関ルール抽出
第10回: 時系列分析
第11回: 可視化: Visualization
第12回: クラスタリングとクラシフィケーション
第13回: データマイニングの応用
第14回: まとめ・最終レポート出題
第15回: まとめ・解説

履修上の留意点

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。
「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであること。
「インターネットとメディア」を履修済みであることが望ましい。
留学など履修計画に困難な場合を除き、なるべく3年次以降に履修する方が効率的である。
毎回の講義における出席、および、合計3回のレポートにより評価する。
(期末試験は行わない。)

成績評価の方法

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。
講義中あるいは教材中に適宜指示する。
本講義は、講義と各自のノートパソコンを用いた実習を併せた形式で行う。
各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。
https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

関 連 リ ン ク

履修コード	435101
科目名	放送メディア論
担当者名	まさゆかり としゆき 増淵 敏之

講義の到達目標(ねらい)

放送メディアが誕生して以来、その影響力が大きなものになると共に、様々な形で社会システムにも変化を与えてきました。放送メディアの現在までを経年的に追いつながりながら、デジタル化、コミュニティメディアを含めた今後のあり方についても考察していきます。

講義の内容／
授業スケジュール

ガイダンス (1)、メディアとしての放送の特性 (2～3)、放送メディアの歴史 (4～6)、産業としての放送メディア (7～8)、ラジオメディア (9)、テレビメディア (10～11)、放送と通信の融合 (12)、まとめ (13)

履修上の留意点

放送メディアと社会の関わりは密接なものになっています。日常で放送メディアを客観的に捉える習慣を身につけて下さい。

成績評価の方法

学期末テストと出席状況により評価します。

教科書／テキスト
参 考 書

特にありません。レジュメ配布。
授業内で適宜紹介します。

履修コード	436771
科目名	マルチメディアコンテンツデザイン演習
担当者名	石橋 ^{いしばし} 直樹 ^{なおき}

講義の到達目標(ねらい)	最も一般性の高いデジタルコンテンツであるWebコンテンツをデザイン、作成する過程を実習する。実際には、多様なマルチメディア作成ソフトウェアを利用し、Webサイトの構築を行う。また、携帯電話その他の機器におけるコンテンツに関しても実習を行う。
講義の内容／授業スケジュール	本講義は、Webコンテンツのデザインに関する技法の習得を目的として、履修者各自に対して製作を課す。なお、スケジュールは以下のものを予定している。 1. 導入 - マルチメディアデータとWebデザイン 2. 演習1 - HTML, CSSを用いたデザイン技法 3. 演習2 - ラスター画像処理とWebデザイン 4. 演習3 - ベクター画像処理とWebデザイン 5. 演習4 - 音声処理とWebデザイン 6. 演習5 - アニメーション作成とWebデザイン 7. 演習6 - サーバサイドスクリプトとWebデザイン
履修上の留意点	コンピュータワークショップが履修済みであることが望ましい。また、マルチメディアコンテンツデザイン各論と同時履修であること。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	期末までに構築する作品、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。 Webにおいて電子教材を提供する。 講義中において教材を指定する。

履修コード	436611
科目名	マルチメディアコンテンツデザイン各論
担当者名	石橋 ^{いしばし} 直樹 ^{なおき}

講義の到達目標(ねらい)	最も一般性の高いデジタルコンテンツであるWebコンテンツをデザイン、作成するための基本的な概念、原理について学ぶ。実際には、マルチメディアデータのデザイン技法として、画像処理、イラスト描画、音楽データ作成法、アニメーション作成法等を概観する。また、携帯電話その他の機器におけるコンテンツのデザイン手法についても学ぶ。
講義の内容／授業スケジュール	本講義は、Webコンテンツのデザインにおける基礎を学ぶことを目的として、次のスケジュール(予定)で行う。 1. 導入 - マルチメディアデータの基礎 2. ラスター画像における標本化、量子化 3. Adobe Photoshopを用いた画像の加工 4. Adobe Illustratorを用いたベクター画像の作成 5. 事例紹介: ロゴ・デザインに見る記号論 6. 音声の標本化、量子化 7. Digidesign ProToolsを用いた音楽データ作成と圧縮 8. Adobe Flashを用いたベクターアニメーション 9. HTML, CSS, メタデータとマルチメディア 10. まとめ - デザインという行為とコンピュータ
履修上の留意点	コンピュータワークショップが履修済みであることが望ましい。また、マルチメディアコンテンツデザイン演習と同時履修であること。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	レポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。 Webにおいて電子教材を提供する。 講義中において教材を指定する。

履修コード	431401
科目名	マルチメディアビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)

The purpose of this course is to prepare students to become "managers" of corporations that will increasingly face the challenges of a digital, multimedia world.

講義の内容/
授業スケジュール

This course will meet during 1st or 2nd period. A highly important facet of the course will be lab work, in which students will explore various forms of multimedia. The course will be geared toward creating a dynamic interactive learning process in which emphasis will be placed on "real-world" managerial and program challenges. The key to acquiring useful knowledge here is active participation and involvement in the form of class discussions, lab work, and analysis of programs and case studies, as well as formulating corporate strategies for the developing field of multimedia, i.e., the digital content industry.

履修上の留意点

Students will gain most from the work that they put into this course. Learning is not always accurately reflected in grades. Strong interest in media, creativity and the desire to learn is more important than English language skills. Team project learning will be used when possible. Reading assignments are required and essential.

成績評価の方法

Evaluation will be based on quizzes, final exam and case study participation.

教科書/テキスト
参 考 書

There are no required textbook as readings will be provided on the class website. Professor will provide materials from the following:

Blueprint to the Digital Economy, Alex Lowy and David Tocoll, New York: McGraw-Hill, 1998.
 City of Bits, William J. Mitchell, Cambridge, MA: The MIT Press, 1995.
 Competing in the Age of Digital Convergence, David B. Yoffie, Boston, Harvard Business School Press, 1997.
 Entertainment Industry Economics, Harold L. Vogel, New York: Cambridge University Press, 1999.
 Hollywood Unstrung: The Emerging Digital Challenge--D Cinema and Beyond, Iarta, Los Angeles: Iarta Publications, 2001.
 Hot Groups, Jean Lipman-Blumen & Harold J. Leavitt, New York: Oxford University Press, 1999.
 Media Trends 2001, Paul kagan Associates, Carmel, CA: Paul kagan Associates, September 2000
 Multimedia, Tay Vaughen and Scott Rogers Osborne, New York: McGraw-Hill, 1998.
 Organizing Genius Warren Bennis and Patricia Ward Biederman, Reading, MA: Addison-Wesley Publishing Company, Inc., 1997.
 The Highwaymen: Warriors of the Information Superhighway, Ken Auletta, New York: Random House, 1997.

履修コード	427501
科目名	メディア・コミュニケーション概論
担当者名	西岡 ^{にしおか} 洋子 ^{ようこ}

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、コミュニケーションの基本機能およびコミュニケーションにおいて活用されるメディアの基本的特性を理解することを目的とする。まずは、コミュニケーションの基本的構造モデルを紹介したのちに、コミュニケーション主体の違いによって展開される異なるレベルのコミュニケーション(個人、グループ、マスのレベル)があることを理解する。さらには、それぞれのコミュニケーションにおいてどのようなメディアが活用されているか、さらには、それがどのように使い分けられ、また、変化しようとしている大きな傾向を理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

1. イントロダクション
ガイダンス
コミュニケーション・モデル
2. パーソナル・コミュニケーション
人と人とのコミュニケーション
電話コミュニケーション(1) — 電話の進化
電話コミュニケーション(2) — 携帯電話
3. グループ・コミュニケーション
集団・組織のコミュニケーション — 企業の例を中心にして
コミュニティのコミュニケーション
集団行動のコミュニケーション — 噂とクチコミ
4. マス・コミュニケーション
マス・メディアの変貌
マス・コミュニケーション研究
マーケティング・コミュニケーション(1) — 広告
マーケティング・コミュニケーション(2) — PR
5. グローバル・コミュニケーション
6. まとめ

履修上の留意点

社会における様々なコミュニケーション行為とメディア、その使い分けについて意識を持つように心がけて欲しい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

テスト、レポート、平常点などで総合的に評価する。
船津 衛 『コミュニケーション・入門 改訂版』有斐閣アルマ、2010年、1,890円、ISBN 978-4-641-12396-0

参考文献

講義中に指示する。

履修コード	435401
科目名	メディアイベント論
担当者名	高 ^{たか} 媛 ^{えん}

講義の到達目標(ねらい)

芸能人の結婚会見からスポーツの祭典まで、現代社会には、メディアによって報道あるいは創出されるイベントが数多く存在する。本講義では、メディア・イベントの歴史、類型とメカニズムを、国家の権力と消費社会の構造の中で解析していく。

講義の内容/
授業スケジュール

基本的な理論について解説したうえで、政治・スポーツ・芸能などの分野におけるメディア・イベントの具体例を挙げながら進める。

履修上の留意点

講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらおうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視(8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする)

教科書/テキスト

特に指定しない

参考文献

・ダニエル・ダヤーン、エリユ・カツ著、浅見克彦訳『メディア・イベント——歴史をつくるメディア・セレモニー』(青弓社、1996年)、4,200円、ISBN: 4787231154
・有山輝雄『甲子園野球と日本人——メディアのつくったイベント』(吉川弘文館、1997年)、1,785円、ISBN: 4642054146

その他の他

講義形式

履修コード	427811
科目名	メディア制度論
担当者名	西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

放送および通信事業者は、ネットワーク産業であり公益事業であるということから、様々な規制を受けながら事業を展開している。本講義では、放送および通信産業がネットワーク産業として持つ産業の特徴および政策の基本的内容、さらに産業の概況を、全体としてひとつの制度として理解することを目的とする。また、政府資料などを参照するなど情報通信産業に関する情報収集に役立つ基礎知識を身につけられるように配慮する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. イントロダクション
2. メディア産業の概要
 - ネットワーク産業としての特徴と規制
 - 政策決定
 - メディア産業の市場での位置づけ
3. 放送
 - 日本の放送産業の概要
 - 放送における各種規制
 - 地上放送とデジタル化
 - 衛星放送、ケーブルテレビ
4. 通信
 - 情報通信産業の概要
 - 通信における各種規制
 - 日本の通信政策の流れ
 - 携帯電話市場の成長と競争促進
5. 通信と放送の融合
 - 通信と放送の融合
 - 日本のIT戦略
6. まとめ

履修上の留意点

メディア産業は、非常に速いテンポで変化を遂げている。日常的に、関連ニュースに注意を払うこと。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

テスト、レポート、平常点などで総合的に評価する。
講義中に指示する。

毎年発行の総務省『情報通信白書』（総務省サイトより取得可能）ほか 講義中に指示する。

履修コード	416301
科目名	メディアと企業
担当者名	やまぐち ひろし 山口 浩

講義の到達目標(ねらい)	この科目では、テレビ、新聞、インターネット等の「メディア」と企業とのかかわりをおおまかにとらえることを目的とします。企業はその事業目的を達成するため、メディアを通して情報やコンテンツを取り入れたり、メディアに対して情報やコンテンツを発信したり、また自らがメディアとなって情報やコンテンツの流通を媒介したりします。こうしたメディアをめぐる企業の活動の概況やその意義、社会の変化や新技術の開発などに伴う新たな動きを概括的に把握することにより、企業という視点からメディアを理解し、また逆にメディアという視点から企業を理解することをめざします。さまざまなメディアビジネスの現状と課題、メディアとコンテンツ、情報技術の発達とメディアビジネス、他。
講義の内容／ 授業スケジュール 準備学習	テレビや雑誌、新聞、電話、インターネットなど、今どんなメディアがあってどんなサービスが提供され、それを誰が利用しているのか、どんな新しいことが起きているのかなど、意識して情報を取り入れるようにしてみてください。
履修上の留意点	その他必要があれば具体的に指示します。 授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗を恐れず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。積極的な参加は授業への貢献であり、得点として成績にも反映します。逆に、授業を意図的に妨害すると認められる行為は、マイナスの得点として成績に反映します。
成績評価の方法	出席その他で携帯電話の機能を使うことがあります。必ず使える状態で持ってきてください。忘れた場合の不利益は自己責任です。 出席をとったときにいなかった人は、出席点の対象になりません。 配点は次の通り。 出席50%、小テスト(複数回合計、回数及び時期は未定)20%、定期試験30%、授業への参加最大20%(ただし合計で100%)
教科書/テキスト 参考図書	なし。 加納寛子編著「情報社会論—超効率主義社会の構図」(北大路書房、2007年) ISBN-13: 978-4762021114 電通総研編「情報メディア白書2011」 ISBN: 978-4478015360 その他必要に応じ適宜資料を配布します。

履修コード	417201
科目名	メディアと情報
担当者名	みなみ まさき 南 政樹

講義の到達目標(ねらい)

「情報」とは、古くから「事象、事物、過程、事実などの対象について知り得たこと」や「知らせ」などとして理解されてきた。一方、「メディア」とは、情報の「記録」「伝達」「保存」などに用いる物や装置である。日本語では「媒体」と訳されることが多い。
 情報が社会に流通するためにはメディアは欠くことの出来ない存在である。特にコンピュータが世界中に広まっている今日においては、その基盤となるデジタルメディアが、社会のあらゆる活動に密接な関係を持っている。
 本講義ではまず「情報」と「メディア」について古くから展開されてきた議論に基づいて定義する。そして、デジタル化の概念や具体例、それによるメリット・デメリットについて簡単な演習を通じて体験的に理解していく。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1) 講義ガイダンス
- 2) メディアの歴史、情報の歴史
- 3) メディアとは
- 4) 情報とは
- 5) アナログとデジタル
- 6) 文字のデジタル表現 符号化とは
- 7) 音声のデジタル表現 量子化と標本化
- 8) 画像・映像のデジタル表現
- 9) 情報の量
- 10) 数学とデジタル技術 ～暗号・圧縮・ハッシュ～
- 11) デジタルメディアによる社会の変化 (1)
- 12) デジタルメディアによる社会の変化 (2)
- 13) メディアと情報の新しい関係 (1)
- 14) メディアと情報の新しい関係 (2)
- 15) メディアと情報 まとめ

準備学習
履修上の留意点

情報リテラシー、情報リテラシー実習 の内容を元に授業を進めます。
 PCを使った実習を行う。また随時課題を出題する。これらは連続した学習を進める上で各自のノートPCで行うことが望ましいと考える。

成績評価の方法

随時出題される課題レポートと小テスト、そして最終課題による総合的な評価によって判定する。定期試験は行わない。そのかわり予告なく抜き打ちの小テストを行うことがある。

教科書／テキスト
参考書

指定しない。
 各回の講義に合わせて参考となる図書や情報源を公表する。

履修コード	437301
科目名	メディアとセキュリティ
担当者名	いしかわ のりひろ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

コンピュータネットワークは、電子政府、電子商取引、遠隔教育等を含む社会全般を支える重要な社会基盤となった。その適用分野と機能範囲が拡大する一方で、その安全性は確保されているとは言い難い。犯罪行為、意図的攻撃等によるメディア情報の漏洩・改ざん、システム停止等の被害を最小化するため、情報セキュリティの技術、法律、規格、倫理、組織、教育等の多面的な対策が必要となる。この科目では、情報システムの安全性を確保するための基本的な対策に重点を置いて学習し、その現状と課題について検討する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回 リスクと対策
- 第2回 情報セキュリティのガイドラインと法制度
- 第3回 暗号の技術と制度
- 第4回 共通鍵暗号技術 (1/2)
- 第5回 共通鍵暗号技術 (2/2)
- 第6回 公開鍵暗号技術 (1/2)
- 第7回 公開鍵暗号技術 (2/2)
- 第8回 認証の技術 (1/2)
- 第9回 認証の技術 (2/2)
- 第10回 認証に関わる法制度
- 第11回 不正アクセス対策の技術と法制度
- 第12回 情報セキュリティの応用 (1/2)
- 第13回 情報セキュリティの応用 (2/2)
- 第14回 情報セキュリティを巡る新たな展開
- 第15回 まとめ

準備学習
履修上の留意点

特になし

「情報リテラシー及び実習」を履修済みであること。選択科目「情報保護と社会」を履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

次の2項目を総合して評価する。

1. 出席回数
 2. 期末試験またはレポート課題の提出
- 出席回数が不足すると単位を取得できないので注意すること。

教科書／テキスト
参考書

講義のプレゼンテーション資料を授業支援システムを利用して、公開、配布する。
授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

履修コード	437101
科目名	メディアと知識論
担当者名	みなみ まさき 南 政樹

講義の到達目標(ねらい)

知識は様々な情報を体系的に理解し、様々な論理的考察や類推によって体现される。そして、その知識こそが人間の知的活動における根源となる。そのため、知識の形式化と伝搬は人類全体の普遍的行為として古くから行われている。

今日、インターネットにより世界中の様々な情報が容易に生み出され、利用できるようになった。我々はそれ活用し、知識として利用することでより発展的かつ効率的な活動を行うことが可能である。

本講義では、「知識処理」という概念に基づき、知識の表現、操作、管理の手法を学ぶと共に、具体的なデータを用いた新たな知識の獲得や表現を処理する基本的な手法を学習する。そして、知識処理の具体例としてセマンティックWEBを取り上げ、メタデータを利用したインテリジェントなWEBの操作を体験する。更に、メタデータの作成、その操作、基本的な辞書構築(オントロジー)、自然言語処理機能の利用など知識表現やその処理に関連する課題について理解し考えていく。メタデータが、高度なコミュニケーション環境や社会システムの実現に寄与し、今後のWEB利用における種々のイノベーションに発展していく可能性を探る。

講義の内容/
授業スケジュール

- 1) この講義の目的
- 2) 知識の表現
- 3) 知識の利用
- 4) 知識の管理
- 5) 論理と推論 (1) ~命題論理と述語論理~
- 6) 論理と推論 (2) ~推論の基礎~
- 7) セマンティックWEB (1) ~基本機能、構造~
- 8) セマンティックWEB (2) ~メタデータと知識~
- 9) セマンティックWEB (3) ~記述言語RDF(Resource Description Framework)~
- 10) オントロジーとその記述言語OWL (1)
- 11) オントロジーとその記述言語OWL (2)
- 12) 検索言語SPARCL (1)
- 13) 検索言語SPARCL (2)
- 14) Open DataとセマンティックWEB
- 15) まとめ

履修上の留意点

PCを使った実習を随時行う。また原則として各回課題を出題する。連続した学習を進める上で各自のノートPCで行うことが望ましいと考える。

成績評価の方法

各回出題される課題と最終課題による総合的な評価によって判定する。

なお、定期試験は行わない。

教科書/テキスト

履修者の理解度に応じて、予告なく抜き打ちの小テストを行うことがある。

参 考 書

指定しない。

各回の講義に合わせて参考となる図書や情報源を公表する。

履修コード	434101
科目名	メディアとデータベース
担当者名	石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

データベースは、コンピュータの記憶空間に散在する膨大なデータから情報検索者が適切なデータを容易に検索する機能を提供する。近年、インターネット、Webの目覚ましい発展により、広域ネットワークに多種多様なデジタルコンテンツが提供されるようになってきた。本講義では、データベースの基礎的な概念、構成を学ぶと同時に、広域ネットワーク上に散在するデジタルコンテンツをコンテキストや感性などを用いて検索可能とする将来のデータベース像についても言及する。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義は、プログラミング言語Perlの演習を通じ、WWW環境を対象としたソフトウェア開発の過程を学ぶことを目的として、次のスケジュール（予定）で行う。

1. 導入・データベースとは何か
2. リレーショナルデータベースの構造
3. リレーショナルデータベースの応用
4. リレーショナルデータベース実習
5. オブジェクト指向データベースの構造
6. マルチメディアデータベースと感性情報処理
7. データベース設計・構築実習
8. Web Database事例1 - 掲示板の構築
9. Web Database事例2 - サーチエンジンの構築
10. まとめ

履修上の留意点

情報リテラシー実習を履修済みであることに加え、コンピュータワークショップを履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

毎回の講義におけるミニレポート、学期末に作成するプログラムに関するレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

教科書／テキスト

Webにおいて電子教材を提供する。

参 考 書

講義中において教材を指定する。

そ の 他

本講義は、講義と実習をあわせた形式で行う。

履修コード	417601
科目名	メディア文化論
担当者名	高 媛

講義の到達目標(ねらい)

私たちが普段なにげなく暮らしている社会において、メディアはどのような「位置」を占めているのだろうか。本講義では、メディアに媒介された文化現象を手がかりに、メディアと文化が、どのような関係性を持ちながら変容してきたかについて考えていく。

講義の内容／
授業スケジュール

政治、家族、ジェンダー、人種、民族、戦争など多様なテーマを取り上げ、多言語・多ジャンルの映像資料を活用しながら進めることにする。

履修上の留意点

講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらったコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

教科書／テキスト

特に指定しない

参 考 書

- ・吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』（新曜社、1994年）、2,800円、ISBN: 4788505061
- ・阿部潔、難波功士編『メディア文化を読み解く技法』（世界思想社、2004年）、1,800円、ISBN: 4790710599

そ の 他

講義形式

履修コード	436301
科目名	メディア法
担当者名	^{しんぼ ふみお} 新保 史生

講義の到達目標(ねらい)

情報メディアに関する法体系と法的諸問題を総合的に学びます。社会の情報化とネットワーク化の進行は、電子商取引の普及をはじめとして産業構造のみならず社会生活に多大な変化をもたらしています。その一方で、ネットワーク社会では新たな問題が生じており、それらに対応するために様々な法整備が行われています。本講義では、情報メディアに関する法整備の現状から個別の法律について解説し、ネットワーク社会における法的諸問題への対応を具体例を踏まえて講義します。

講義の内容／
授業スケジュール

1. ネットワーク社会における法的諸問題の種類, 2. IT関連の法整備の状況, 3. 違法情報・権利侵害情報・有害情報の実状と法的対応の現状, 4. 権利侵害情報への対応, 5. ネットワーク社会における知的財産権の侵害, 6. ネットワーク社会における名誉毀損・プライバシー侵害, 7. 違法情報への対応, 8. サイバー犯罪の実状と対策(ネットワーク関連型犯罪), 9. サイバー犯罪の実状と対策(ネットワーク利用型犯罪), 10. ネットワーク社会の安全性確保のための法制度, 11. 電子商取引の推進と規制のための法制度, 12. ネットワーク社会における個人情報の保護, 13. 情報セキュリティと法, 14. 行政の情報化及び公共分野における情報通信技術の活用への推進, 15. 講義期間中に新たに制定されたIT関連の新法解説
期末試験の成績によって評価します。

成績評価の方法
その他の

講義用資料は、グローバル・メディア・スタディーズ学部の授業支援システムにアップします。各自、アクセスをして確認してください。

G
M
S

履修コード	406701・406801
科目名	メディアリテラシー
担当者名	^{かなやま ともこ} 金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

朝起きてから寝るまでメディアに関わらずに生活することは不可能なほど、私たちの生活環境はメディアに依存しています。人々の日常の出来事から国家間の戦争といった有事まで、あらゆることにメディアが関わっています。私たちの世界観はメディアによってつくられていると言えるほど、メディアが強力、かつ不可欠なものになっているということです。

講義の内容／
授業スケジュール

「メディアとは一体どういうものなのか」を理解することが、日常生活、社会活動、経済活動、政治活動、国内外を問わず、全ての場面で求められているのです。本講義ではメディアが個人や社会に及ぼす影響や関係について理論を用いながら考えていきます。講義全体を通じて、クリティカルにメディア・メッセージを読み、メディア機関の社会的機能を洞察する、いわゆるメディアリテラシーの力を身につけてもらうことを目指します。

- ① コース概要の説明／メディア、そしてメディア・メッセージとは
- ② メディアリテラシーはなぜ必要か
- ③ 「みんな同じことを考える」
- ④ 「イメージは作られる」
- ⑤ 「この人の言うことなら信じられる」
- ⑥ 「ニュースは作られる」
- ⑦ 「違う意見が言えなくなるわけ」
- ⑧ 「知らぬ間に浸透しているもの」
- ⑨ 「メディアを操っているのは誰？」
- ⑩ 新しいメディアリテラシー

履修上の留意点

授業では、視聴覚教材を多く使用しますので欠席はしないように。また、日頃から時事問題やメディアの動向について興味を持ち、それらに対する自分の考えを自分の言葉で表現する習慣を身につけるよう心がけて下さい。授業中の携帯電話の使用は認めません。私語厳禁。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席、レポート、学期末試験の総合評価。
特になし

履修コード	403701・403801・403901・404001・404101・404201・404301・404401・404501・404601・404701・404801・404821・404831・404841・404851
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	バーンハート、 J. L. ・杉森 ^{すぎもり} 建太郎 ^{けんたろう} ・ブラック、 A. ・スミス、 G. A. ・ドイル、 S. ・ギャリソン、 E. ・ギャリソン、 J. G. ・レオーネ、 J. V.

講義の到達目標(ならい) This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.

講義の内容／授業スケジュール Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.

G
M
S

履修上の留意点 Attendance is mandatory.
Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.

成績評価の方法 The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書／テキスト None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on the GMS server for student access.

参 考 書 An up-to-date English-English learner's dictionary is recommended.
そ の 他 Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	402501・402502・402601・402602・402801・402802・402901・402902・403001・403002・403101・403102・403201・403202・403301・403302・403401・403402・403501・403502・403601・403602・403611・403612・403631・403632・403641・403642・403651・403652・403661・403662・405011・405012・405021・405022
科目名	Written Communication I Critical Reading
担当者名	エラム、 J. R. ・杉森 建太郎・ボシュエ、 E. ・パイプ、 J. ・レオーネ、 J. V. ・ローズ、 S. ・ブーハー、 U. J. ・オーラ、 B. ・フアーロー、 D. ・町田 尚子・ブラック、 A. ・エセックス、 J.

講義の到達目標(おらい)

Written Communication I is an integrated-reading and writing course intended to provide a general introduction to essay writing and essay research. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication I, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.

講義の内容／
授業スケジュール

In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.

In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics will also be set.

For the extensive reading component of the course, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習

No specific preparation is required.

履修上の留意点

Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. If you miss three or fewer classes in a semester, there is no problem, but if you miss four or more classes, you will incur a penalty in your final grade. Specifically, 4 absences incur a 5% penalty; 5 absences a 10% penalty and 6 absences a 20% penalty. More than 6 absences mean that you will fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

成績評価の方法

The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.

1 essay 30%
7 mini tests on reading texts 35%
Vocabulary notebook 5%
Reading test gain 5%

Journal/blog 10%
Extensive reading (reading graded material) 15%
250 ~ 300 pages = 5%
350 ~ 400 pages = 10%
450 pages or over = 15%

教科書/テキスト

None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.

参 考 書

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

そ の 他

When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.

関 連 リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

G
M
S

履修コード	404901・404902・405001・405002・405101・405102・405201・405202・405301・405302・405401・405402・405501・405502・405601・405602・405701・405702・405801・405802・405901・405902・406001・406002・406011・406012・406031・406032・406041・406042・406051・406052・406081・406082・406091・406092
科目名	Written Communication II Introduction to Writing
担当者名	エラム、 J. R. ・杉森 ^{すぎもり} 建太郎 ^{けんたろう} ・パイプ、 J. ・ギヤリソン、 E. ・ボシュエ、 E. ・ローズ、 S. ・レオーネ、 J. V. ・ブーハー、 U. J. ・フアーロー、 D. ・オーラ、 B. ・ブラック、 A. ・町田 ^{まちだ} 尚子 ^{なおこ}

講義の到達目標(ねらい)

This course is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims of the course are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.

G
M
S

講義の内容／
授業スケジュール

In the first three weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 4, you will be required to produce the third draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 8. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will also be revised and edited through peer response and teacher feedback.

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Some of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics will also be set.

As with Written Communication 1, students will read graded material which is tailored to their reading proficiency level for the extensive reading component of the course. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

準備学習

Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course.

履修上の留意点

Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. If you miss three or fewer classes in a semester, there is no problem, but if you miss four or more classes, you will incur a penalty in your final grade. Specifically, 4 absences incur a 5% penalty, 5 absences a 10% penalty and 6 absences a 20% penalty. More than 6 absences mean that you will fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

成績評価の方法

The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between your initial reading level and your level according to a final reading test will count for 5%.

2 essays 30% x 2 = 60%

3 mini tests on IR texts 15%

Reading test gain 5%

Journal/blog 5%

Extensive reading 15%

250 ~ 300 pages = 5%

350 ~ 400 pages = 10%

450 pages or over = 15%

教科書/テキスト

None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.

参 考 書

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

そ の 他

When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.

関 連 リ ン ク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

